静岡県三島市

YAMANAKAJOU

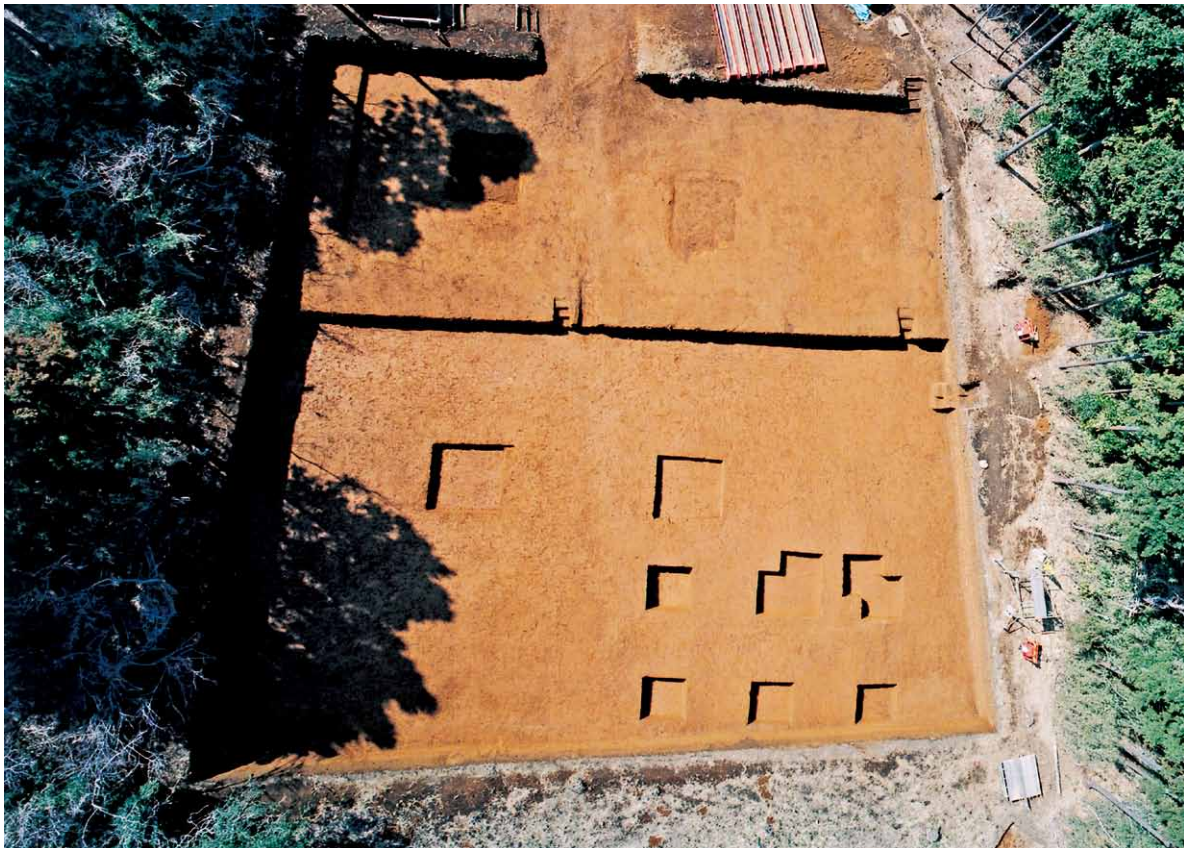
# 山中城遺跡

笹原山中バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（その２）

２０１４

三島市教育委員会

１．山中城遺跡第28次調査遠景



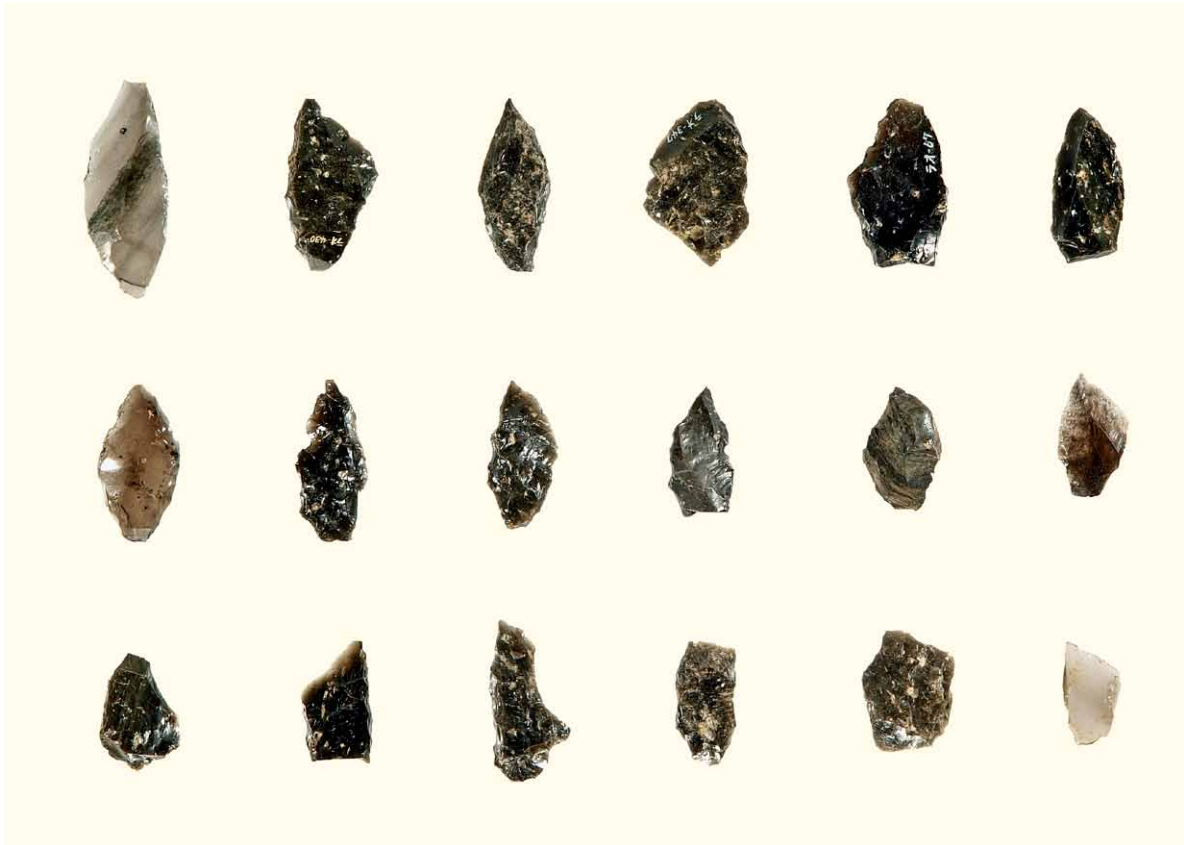
２．山中城遺跡第28次調査全景

巻頭図版２

１．山中城遺跡第28次調査出土ナイフ形石器（１）

２．山中城遺跡第28次調査出土ナイフ形石器（２）

1．山中城遺跡第19次調査全景



2．山中城遺跡第19次調査第Ⅱ文化層出土ナイフ形石器

# 序　　文

三島市は、静岡県東部、伊豆半島の付け根に位置します。温暖な気候と豊富な湧き水に恵まれた市域は、古来より人々の生活の好適地であり、『三島市遺跡地図地名表』には487ヶ所の遺跡が登録されています。そしてこれらの遺跡は三島市の地形的な特質から、弥生時代以降の遺跡は市街地の南に拡がる肥沃な平野部に、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡は市域の約三分の二を占める箱根西麓の丘陵部に密集しています。

昭和63年度に事業化された一般国道１号笹原山中バイパスは、この箱根西麓の遺跡密集地を大きく蛇行しながら通過します。そこには旧石器時代や縄文時代の遺跡ばかりではなく、国の指定史跡として有名な山中城跡や、箱根旧街道石畳も存在するため、バイパスの線形を決定するまでには多くの困難がありました。当初の計画は山中城跡の一部を大きく開削したり、完成した道路が城跡からの景観を著しく損ねたりするものであり、加えて箱根旧街道を寸断してしまうものでした。しかし度重なる協議の結果、山中城跡ではトンネルの工事方法を変更する事によって遺跡を保護したり、植栽によって城跡から道路が見えなくなるように設計変更したりする事により、史跡への影響を最小限にとどめることができました。また箱根旧街道との交差部分は掘削範囲を最小限にして、さらに工事終了後にトンネルの上に石畳を復元することとなりました。

しかし遺跡の全てを保全することは不可能であり、どうしても開発が避けられない範囲は、工事着工前に発掘調査を実施しました。今回発掘調査報告書にまとめました山中城遺跡は、平成５年10月に着手して以来平成25年８月まで、断続的に発掘調査を実施して参りました。遺跡名は山中城でありますが、出土したのはそれよりもずっと古い旧石器時代の石器が大部分でした。こうした発掘調査の成果を詳細に記述した本書が、研究者のみならず多くの方々に活用され、学術研究の進展に、あるいは郷土史理解の一助として役立つことを願ってやみません。

最後になりましたが、山中城遺跡の発掘調査ならびに報告書作成にあたっては、国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所、静岡県教育委員会をはじめ多くの関係諸機関にご指導、ご協力を賜りました。また、夏季の厳しい暑さや冬季の降雪や凍結の労苦を厭わず調査に従事された発掘作業員の方々に対し、心よりお礼を申し上げまして刊行のご挨拶といたします。

平成26年３月

三島市教育委員会
教育長　西島　玉枝

# 例　　言

1　本書は、三島市山中新田字北條山他に位置する山中城遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本調査は、一般国道１号笹原山中バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、国土交通省中部地方整備局の委託を受け、三島市教育委員会が実施した。

3　発掘調査は辻真人が担当し、遺跡には次の者が常駐して発掘監理を行った。

平成５～６年度　渡辺浩之（社会教育課指導主事）

平成15～17年度　阿曽正彦（株式会社盤古堂）

平成23年度　長澤展生（株式会社シン技術コンサル）

4　出土遺物の整理は、平成20年度から平成24年度まで断続的に５箇年で実施し、報告書の編集・印刷は平成25年度事業として平成25年４月１日から平成26年３月25日まで実施した。

5　出土遺物・採取資料に関する分析・同定は、次の方に依頼し玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。

●黒曜石産地同定　国立沼津工業高等専門学校　望月昭彦

●ローム層花粉分析　パリノ・サーヴェイ株式会社

6　現地での測量業務、計測業務、航空写真の撮影は、株式会社シン技術コンサルに委託し、遺構遺物の測量は同社の「遺跡管理システム」を利用して計測し、さらに図化を行った。

7　本遺跡の遺物整理は、旧石器時代の石器について伊藤恒彦氏に依頼し、遺物分布図については辻真人が遺物整理員を指導して行い、他は麻生順司（株式会社玉川文化財研究所）と小池　聡（株式会社盤古堂）が実施した。整理作業・原稿執筆の分担は巻末掲載のとおりであり、事業計画・編集業務は辻真人が行った。

8　本報告における図面、写真、遺物等の調査資料は三島市教育委員会で保管している。

9　発掘調査事務局（平成５年度）

●三島市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育次長 | 原川　暢 | 社会教育課長 | 大湖　教男 |
| 文化係長 | 鈴木　義晴 | 文化係主任 | 水口　勇二 |
| 文化係副主任 | 古泉　勉 | 市川　保 | |
| 文化係主査 | 鈴木　昌幸 | | |
| 文化係指導主事 | 杉浦　幸男 | 渡辺　浩之 | |
| 文化係学芸員 | 鈴木　敏中 | 芦川　忠利 | 寺田光一郎　辻　真人 |

発掘調査事務局（平成６年度）

●三島市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育次長 | 大湖　教男 | 社会教育課長 | 禰宜田宏然 |
| 社会教育課長補佐 | 鈴木　義晴 | 文化係主任 | 水口　勇二 |
| 文化係副主任 | 古泉　勉 | 文化係主査 | 鈴木　昌幸 |
| 文化係主事 | 小坂　力也 | 文化係指導主事 | 渡辺　浩之 |
| 文化係学芸員 | 鈴木　敏中 | 芦川　忠利 | 寺田光一郎　辻　真人 |

発掘調査事務局（平成15年度）

●三島市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育部長 | 濱野　晃司 | | |
| 文化振興課長 | 平澤　竹志 | 文化振興課副参事 | 稲木　久男 |
| 文化振興係主任 | 大島ひろみ | 芦川　正俊 | |
| 文化振興係主事 | 松田　孝之 | 岩崎　淳子 | |
| 文化振興係主任学芸員 | 鈴木　敏中 | | |
| 文化振興係学芸員 | 芦川　忠利 | 寺田光一郎 | 辻　真人 |

発掘調査事務局（平成16年度）

●三島市教育委員会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教育部長 | 関野　　康 | | | |
| 文化振興課長 | 小松　繁生 | 文化振興課副参事 | 稲木　久男 | |
| 文化振興係主査 | 滝野　政美 | 松田　孝之 | 岩崎　淳子 | 大林　勲 |
| 文化振興係主任学芸員 | 鈴木　敏中 | | | |
| 文化振興係学芸員 | 芦川　忠利 | 寺田光一郎 | 辻　真人 | |

発掘調査事務局（平成17年度）

●三島市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育部長 | 有尾　克人 | | |
| 文化振興課長 | 佐野　隆一 | 文化振興課課長補佐 | 徳野　茂雄 |
| 文化振興係副主任 | 池田　智美 | 松田　孝之 | |
| 文化振興係主査 | 大林　勲 | 岩田　和史 | |
| 文化振興係主任学芸員 | 鈴木　敏中 | | |
| 文化振興係学芸員 | 芦川　忠利 | 寺田光一郎 | 辻　真人 |

発掘調査事務局（平成23年度）

●三島市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育部長 | 杉山　孝二 | 教育部参事 | 青木　良雄 |
| 文化振興係長 | 池田　健二 | 文化振興係副主任 | 畠　　和哉 |
| 文化振興係主査 | 石井　章代 | 文化振興係主事 | 井上　慎介 |
| 文化振興係主事補 | 鈴木和可子 | | |
| 文化振興係学芸員 | 芦川　忠利 | 寺田光一郎 | 辻　真人 |

10　遺物整理事務局（平成25年度）

●三島市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育部長 | 杉山　孝二 | 文化振興課長 | 宮澤　正敏 |
| 文化振興課副参事 | 池田　健二 | 文化振興係主任 | 橋本　泰浩 |
| 文化振興係主査 | 石井　章代 | 文化振興係主事 | 鈴木和可子 |
| 文化振興係主任学芸員 | 芦川　忠利 | 寺田光一郎 | 辻　真人 |

11　遺跡の調査、遺物整理では次の方々に御教示いただいた。厚く感謝申し上げる次第である。

相田薫　池谷信之　小菅将夫　保坂康夫　前島秀張

# 凡　　例

1．遺構挿図の縮尺

●旧石器時代　・遺物分布図（1/50・1/60）　・礫群実測図（1/50）

●縄文時代　　・遺物分布図（1/300）　・遺構実測図（1/40）

2．遺物挿図の縮尺

●旧石器時代　・石器（1/1・4/5）　・接合資料（4/5・2/3）

●縄文時代　　・土器（1/3・1/4）　・石器（1/1・2/3・1/3）

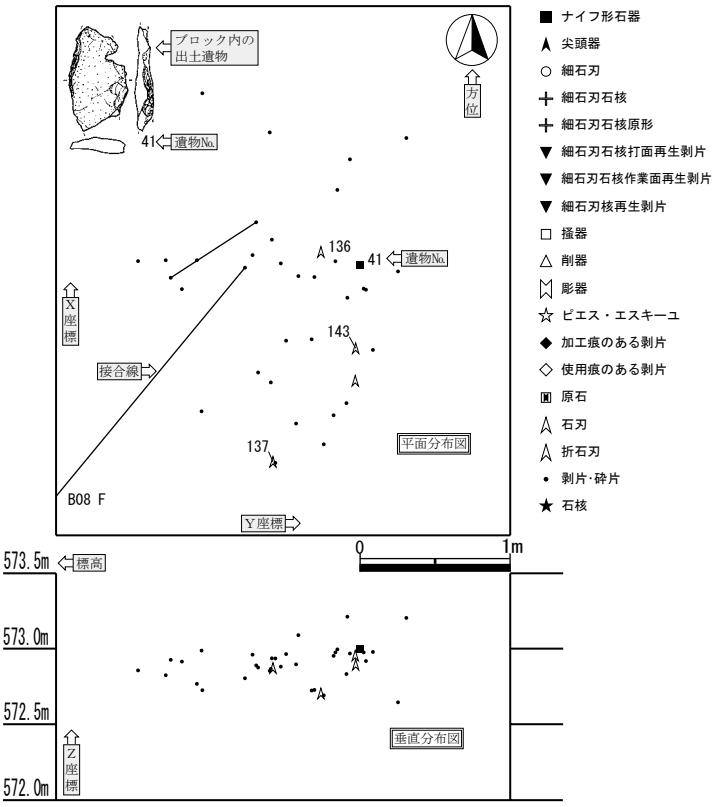
●近世以降　　・陶磁器（1/3）　・金属製品（1/2）　・銭貨（2/3）

3．旧石器時代の遺物

・遺物番号は各文化層ごとの通し番号で、本文・挿図・表・写真図版とも一致する。

4．旧石器時代の遺物分布図

・外－ブロック外出土石器、礫単－単独出土礫




5．遺物観察表

・器種　RF－加工痕のある剥片

UF－使用痕のある剥片

F－剥片

・石材　Ob－黒曜石、An－安山岩

Ry－流紋岩

Ja－ジャスパー

Ho－ホルンフェルス

・産地　WDTY－和田鷹山

WDTK－和田土屋橋北

WDHY－和田芙蓉ライト

SWHD－諏訪星ヶ台

TSTY－蓼科冷山

HNHJ－箱根畑宿

AGKT－天城柏峠

KZOB－神津恩馳島

・礫の遺存　A－完形、B－1/4の破損、

C－1/3の破損、D－1/2の破損、

E－2/3の破損、F－3/4の破損

・計測値はcm・ｇであり、－は計測不可能なものを示す。

# 目　　次


巻頭図版
序　　文
例　　言

第１章　調査と環境 …… 1
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　遺跡の立地と歴史的環境 …… 3
　　１．遺跡の立地 …… 3
　　２．歴史的環境 …… 3
　第３節　発掘調査の経過と概要 …… 7
　　１．山中城遺跡第22・25・26・27・28次調査 …… 7
　　２．山中城遺跡第29・30・31・34・36次調査 …… 8
　　３．山中城遺跡第19次調査 …… 9
　第４節　遺跡の層序 …… 10

第２章　山中城遺跡第28次調査（笹原山中バイパス第11-4地点） …… 14
　第１節　遺跡の位置と調査の概要 …… 14
　第２節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 15
　　１．検出された遺構 …… 15
　　（１）ブロック …… 16
　　（２）礫　　群 …… 28
　　２．出土遺物 …… 32
　　３．個体別資料の分布について …… 78
　　４．位置付けと問題点 …… 90
　第３節　縄文時代の遺構と遺物 …… 94
　　１．検出された遺構 …… 94
　　２．出土遺物 …… 96

第３章　山中城遺跡第30次調査（笹原山中バイパス第12-1地点） …… 106
　第１節　遺跡の位置と調査の概要 …… 106
　第２節　縄文時代の遺構と遺物 …… 107
　　１．検出された遺構 …… 107
　　２．出土遺物 …… 108
　第３節　江戸時代以降の出土遺物 …… 108
　　１．出土遺物 …… 108

第４章　山中城遺跡第19次調査（笹原山中バイパス第13地点） …… 111
　第１節　遺跡の位置と調査の概要 …… 111
　第２節　旧石器時代の遺構と遺物 …… 112
　　１．第Ⅰ文化層 …… 112
　　（１）検出された遺構 …… 112
　　（２）出土遺物 …… 114
　　（３）位置付けと問題点 …… 115
　　２．第Ⅱ文化層 …… 116
　　（１）検出された遺構 …… 116
　　（２）出土遺物 …… 128
　　（３）個体別資料の分布について …… 157

（4）位置付けと問題点 …… 171
第3節　縄文時代の出土遺物 …… 175
1．出土遺物 …… 176
第4節　江戸時代以降の遺構と遺物 …… 177
1．検出された遺構 …… 177
2．出土遺物 …… 180

第5章　調査の成果と課題 …… 181

第6章　自然科学調査 …… 187
第1節　自然科学分析 …… 187
第2節　黒曜石の産地推定 …… 189

主要参考文献
報告書執筆分担一覧
付表
写真図版
報告書抄録

# 挿　図　目　次

第1図　笹原山中バイパス関連遺跡全体配置図 …… 2
第2図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 4
第3図　遺跡の範囲と調査地点の位置 …… 9
第4図　第28次調査の層序 …… 11
第5図　第30次調査の層序 …… 12
第6図　第19次調査の層序 …… 13
第7図　第22・25～28次調査の調査範囲と
周辺の地形 …… 14
第8図　第28次調査のブロックと礫群の分布 …… 15
第9図　第28次調査のブロックと
ブロック外出土石器の分布 …… 16
第10図　第28次調査第1ブロック石器分布図 …… 17
第11図　第28次調査第2ブロック石器分布図 …… 18
第12図　第28次調査第3ブロック石器分布図 …… 19
第13図　第28次調査第4ブロック石器分布図 …… 20
第14図　第28次調査第5ブロック石器分布図 …… 23
第15図　第28次調査第6ブロック石器分布図 …… 24
第16図　第28次調査第7ブロック石器分布図 …… 25
第17図　第28次調査第8ブロック石器分布図 …… 26
第18図　第28次調査第9ブロック石器分布図 …… 26
第19図　第28次調査第10ブロック石器分布図 …… 27
第20図　第28次調査の礫群と単独礫の分布 …… 28
第21図　第28次調査第1号礫群分布図 …… 29
第22図　第28次調査第2号礫群分布図 …… 30
第23図　第28次調査第3～6号礫群分布図 …… 31
第24図　第28次調査出土石器（1）…… 33
第25図　第28次調査出土石器（2）…… 35
第26図　第28次調査出土石器（3）…… 39
第27図　第28次調査出土石器（4）…… 41
第28図　第28次調査出土石器（5）…… 43
第29図　第28次調査出土石器（6）…… 45
第30図　第28次調査出土石器（7）…… 47
第31図　第28次調査出土石器（8）…… 49
第32図　第28次調査出土石器（9）…… 51
第33図　第28次調査出土石器（10）…… 53
第34図　第28次調査出土石器（11）…… 57
第35図　第28次調査出土石器（12）…… 58
第36図　第28次調査出土石器（13）…… 59
第37図　第28次調査出土石器（14）…… 60
第38図　第28次調査出土石器（15）…… 61
第39図　第28次調査出土石器（16）…… 62
第40図　第28次調査出土石器（17）…… 63
第41図　第28次調査出土石器（18）…… 64
第42図　第28次調査出土石器（19）…… 66
第43図　第28次調査出土石器（20）…… 68
第44図　第28次調査出土石器（21）…… 70
第45図　第28次調査出土石器（22）…… 71
第46図　第28次調査出土石器（23）…… 74
第47図　第28次調査出土石器（24）…… 75
第48図　第28次調査出土石器（25）…… 76
第49図　第28次調査出土石器（26）…… 77
第50図　第28次調査個体別資料の分布とブロック群　89
第51図　第28次調査縄文時代遺構配置図 …… 94
第52図　第28次調査第1～3号集石 …… 95

第53図　第28次調査縄文時代土器分布図 …… 97
第54図　第28次調査縄文時代出土土器（1）…… 98
第55図　第28次調査縄文時代出土土器（2）…… 99
第56図　第28次調査縄文時代石器分布図 …… 101
第57図　第28次調査縄文時代出土石器（1）…… 102
第58図　第28次調査縄文時代出土石器（2）…… 103
第59図　第28次調査縄文時代出土石器（3）…… 104
第60図　第28次調査縄文時代出土石器（4）…… 105
第61図　第29～31・34・36次調査の調査範囲と
　　周辺の地形 …… 106
第62図　第30次調査縄文時代遺構配置図 …… 107
第63図　第30次調査江戸時代以降出土遺物 …… 108
第64図　第30次調査縄文時代第1号土坑 …… 109
第65図　第30次調査縄文時代第1号集石 …… 109
第66図　第30次調査縄文時代出土遺物 …… 110
第67図　第19次調査の調査範囲と周辺の地形 …… 111
第68図　第19次調査第Ⅰ文化層のブロックと
　　ブロック外出土石器の分布 …… 112
第69図　第19次調査第Ⅰ文化層第1ブロック
　　石器分布図 …… 113
第70図　第19次調査第Ⅰ文化層第2ブロック
　　石器分布図 …… 114
第71図　第19次調査第Ⅰ文化層出土石器 …… 115
第72図　第19次調査第Ⅱ文化層のブロックと
　　ブロック外出土石器の分布 …… 116
第73図　第19次調査第Ⅱ文化層第1・第2
　　ブロック石器分布図 …… 117
第74図　第19次調査第Ⅱ文化層第3ブロック
　　石器分布図 …… 118
第75図　第19次調査第Ⅱ文化層第4ブロック
　　石器分布図 …… 119
第76図　第19次調査第Ⅱ文化層第5ブロック
　　石器分布図 …… 120
第77図　第19次調査第Ⅱ文化層第7ブロック
　　石器分布図 …… 121
第78図　第19次調査第Ⅱ文化層第6ブロック
　　石器分布図 …… 122
第79図　第19次調査第Ⅱ文化層第8ブロック
　　石器分布図 …… 124
第80図　第19次調査第Ⅱ文化層第9ブロック
　　石器分布図 …… 125
第81図　第19次調査第Ⅱ文化層第10ブロック
　　石器分布図 …… 126
第82図　第19次調査第Ⅱ文化層第11ブロック
　　石器分布図 …… 127
第83図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（1）…… 131
第84図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（2）…… 133
第85図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（3）…… 135
第86図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（4）…… 139
第87図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（5）…… 141
第88図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（6）…… 143
第89図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（7）…… 144
第90図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（8）…… 145
第91図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（9）…… 146
第92図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（10）…… 147
第93図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（11）…… 148
第94図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（12）…… 149
第95図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（13）…… 150
第96図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（14）…… 152
第97図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（15）…… 155
第98図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（16）…… 156
第99図　第19次調査個体別資料の分布と
　　ブロック群 …… 169
第100図　第19次調査縄文時代遺物分布図 …… 175
第101図　第19次調査縄文時代出土土器 …… 176
第102図　第19次調査縄文時代出土石器 …… 176
第103図　第19次調査江戸時代以降の遺構配置図
　　及び遺物分布図 …… 177
第104図　第19次調査江戸時代以降第1号土坑
　　及び1号柱穴 …… 178
第105図　第19次調査江戸時代以降第1号盛土状遺構 … 179
第106図　第19次調査江戸時代以降出土遺物 …… 180

# 表　目　次

第1表　箱根山西南麓旧石器時代調査遺跡一覧表 …… 5
第2表　発掘調査一覧表 …… 7
第3表　第29次調査個体別資料の
　　ブロック内外別分類表 …… 80
第4表　第29次調査ブロック内外別石器組成表 …… 91
第5表　第19次調査個体別資料の
　　ブロック内外別分類表 …… 160
第6表　第19次調査ブロック内外別石器組成表 …… 172
第7表　放射性炭素年代測定結果 …… 188
第8表　樹種同定結果 …… 188
第9表　地点別黒曜石産地組成表 …… 189
第10表　黒曜石産地分析結果表 …… 190

# 図　版　目　次


図版１　１．第22次調査遠景　２．第22次調査全景
図版２　１．第22次調査調査前全景　２．第22次調査完掘全景
図版３　１．第22次調査調査区入り口部東側全景　２．第22次調査中央部第３トレンチ
　３．第22次調査西側第１トレンチ
図版４　１．第22次調査調査区全景　２．第22次調査中央部から
　３．第22次調査作業風景
図版５　１．第25次調査遠景　２．第25次調査調査状況
図版６　１．第25次調査調査区全景　２．第25次調査調査区全景
図版７　１．第25次調査４・５トレンチ　２．第25次調査土層断面
　３．第25次調査No.３グリッド北壁土層断面
図版８　１．第26次調査遠景　２．第26次調査調査前全景
図版９　１．第26次調査中央トレンチ全景　２．第26次調査１－Ｎトレンチ全景
　３．第26次調査トレンチ西側全景
図版10　１．第27・28次調査遠景　２．第28次調査本格調査区全景
図版11　１．第28次調査本格調査区全景　２．第28次調査本格調査区完掘全景
図版12　１．第27次調査１・２トレンチ　２．第27次調査３トレンチ遺物出土状態
　３．第27次調査No.２グリッド遺物出土状態
図版13　１．第27次調査Ｎ－１グリッド東壁土層断面　２．第28次調査本格調査区南壁土層断面
　３．第28次調査本格調査区東壁土層断面
図版14　１．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（１）　２．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（２）
　３．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（３）
図版15　１．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（４）　２．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（５）
　３．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（６）
図版16　１．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（７）　２．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（８）
　３．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（９）
図版17　１．第28次調査旧石器時代遺物出土状態（10）　２．第28次調査旧石器時代礫群出土状態（１）
　３．第28次調査旧石器時代礫群出土状態（２）
図版18　１．第29～31次調査遠景　２．第30次調査本格調査区遺物出土状態
図版19　１．第29次調査２トレンチ　２．第29次調査３トレンチ遺物出土状態
　３．第30次調査本格調査区東壁土層断面
図版20　１．第30次調査遺物出土状態（１）　２．第30次調査遺物出土状態（２）
　３．第30次調査第１号集石
図版21　１．第30次調査第１号土坑　２．第30次調査第１号土坑土層断面
　３．第30次調査本格調査区完掘全景
図版22　１．第31次調査全景　２．第31次調査１トレンチ
　３．第31次調査２トレンチ
図版23　１．第34次調査トレンチ全景　２．第34次調査トレンチ北壁土層断面
　３．第36次調査トレンチ全景
図版24　１．第19次調査調査前全景　２．第19次調査完掘全景
図版25　１．第19次調査試掘トレンチ全景　２．第19次調査試掘トレンチ（１）
　３．第19次調査試掘トレンチ（２）
図版26　１．第19次調査北壁土層断面　２．第19次調査旧石器時代遺物出土状態（１）
　３．第19次調査旧石器時代遺物出土状態（２）
図版27　１．第19次調査旧石器時代遺物出土状態（３）　２．第19次調査旧石器時代遺物出土状態（４）
　３．第19次調査完掘全景
　第28次調査出土遺物
図版28　１．No.１～20（ナイフ形石器）　２．No.21～45（ナイフ形石器）

図版29　1．No.46～68（ナイフ形石器・未製品）　2．No.69～79（尖頭器・掻器・削器・彫器ほか）
図版30　1．No.80～103（加工痕・使用痕のある剥片）　2．No.104～124（使用痕のある剥片）
図版31　1．No.125～147（使用痕のある剥片）　3．No.148～168（石刃・折石刃・石核ほか）
図版32　1．No.169～172（石核）　2．No.173～183（接合資料）
図版33　1．縄文土器No.１～23　2．縄文土器No.24～32
図版34　1．縄文石器No.１～11（石鏃・石匙）　2．縄文石器No.12～22（スクレイパー・加工痕のある剥片・石核ほか）
図版35　1．縄文石器No.23～26（磨石）　2．縄文石器No.27（石皿）
第30次調査出土遺物
図版36　1．縄文土器No.１～７　2．縄文石器No.１・２（使用痕のある剥片・磨石）
3．江戸時代以降No.１（銭貨）
第19次調査出土遺物
図版37　1．第Ⅰ文化層No.１～６（細石刃・使用痕のある剥片・剥片）
2．第Ⅱ文化層No.１～26（ナイフ形石器）
図版38　1．第Ⅱ文化層No.27～50（ナイフ形石器・掻器・削器・加工痕のある剥片ほか）
2．第Ⅱ文化層No.51～61（加工痕・使用痕のある剥片）
図版39　1．第Ⅱ文化層No.62～82（使用痕のある剥片）　2．第Ⅱ文化層No.83～94（石刃）
図版40　1．第Ⅱ文化層No.95～115（折石刃・石核）　2．第Ⅱ文化層No.116～121（接合資料）
図版41　1．縄文土器No.１～５　2．縄文石器No.１（石鏃）
3．江戸時代以降No.１～７

# 第１章　調査と環境

## 第１節　発掘調査に至る経緯

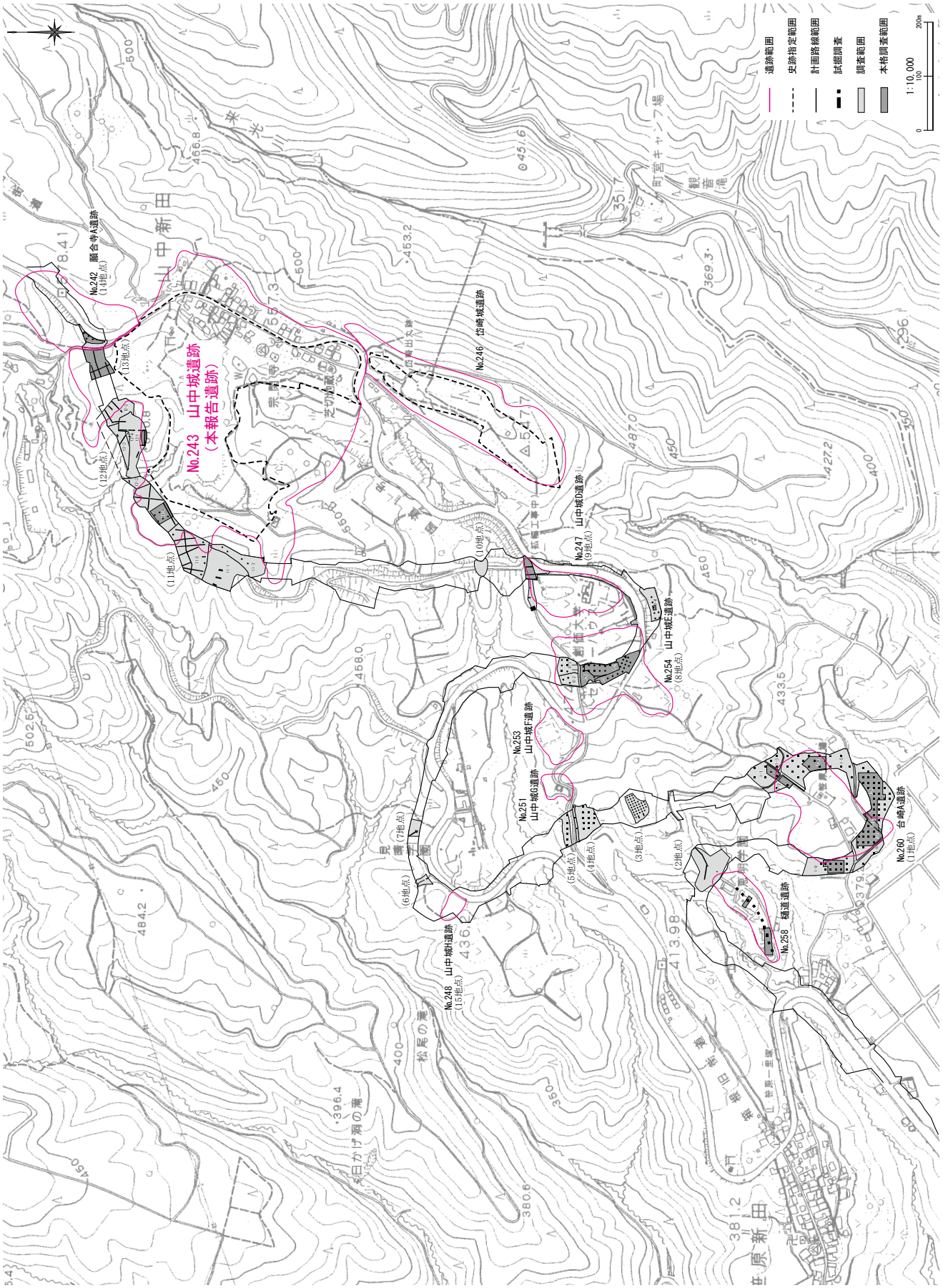
昭和61年12月19日、静岡県教育委員会と三島市教育委員会は建設省沼津工事事務所（当時）より、一般国道１号山中道路路線計画ルート内の文化財について照会を受けた。この計画は国道１号のうち神奈川・静岡県境の箱根峠より三島市街地に至る区間は幅員が狭小で平面線形が悪く急勾配のうえに、沿道にはいくつかの集落が拡がっているため、交通安全等の面から局部改良の一環として道路整備を計画するものであった。これに対して市教育委員会は、昭和62年１月12日付で当該路線区域内には国指定史跡山中城跡、国指定史跡候補地箱根旧街道が存在している旨の報告を行い、さらに昭和62年６月３日付で「計画道路の通過が許されない文化財とその範囲」と「発掘調査が必要な文化財とその範囲」の報告を行った。そして昭和63年１月の打合せでは、建設省から道路と山中城ラオシバ曲輪との交差部分はトンネル、箱根旧街道の交差部分は歩道橋という案が示され、これに対して市教育委員会は複数回に及ぶ文化庁との協議と指導に基づいて、道路と箱根旧街道が交差する３箇所は立体交差化するよう改善要望を提出した。

ところが平成元年になると建設省から、山中城ラオシバ曲輪との交差部分はトンネル構造からオープン掘削構造に、箱根旧街道との交差部分２箇所はボックス構造、残る１箇所は平面交差とする変更要請が出された。しかし、こうした変更はラオシバ曲輪の消滅を意味し、また箱根旧街道が道路によって分断されることは計画している史跡指定が困難になるため、文化財保護の立場からは決して容認できる内容ではなかった。そのため市教育委員会と県教育委員会は文化庁との協議を度々行い、平成２年７月27日にラオシバは重要な曲輪でありルート変更されたい、箱根旧街道との交差部分２箇所はボックス構造として旧街道の復元をされたい、平面交差となる箇所についてはルート変更されたい、との要求を行った。

これに対して建設省からは、すでに地権者との用地立合も完了しているのでルートの変更は計画の白紙撤回と同じであり無理であること、構造上トンネル化はできない、箱根旧街道との平面交差部分は横断歩道橋で検討する、との回答であった。ルート変更を求める教育委員会と、現ルートの中で構造対応を主張する建設省、両者の主張は平行線をたどり交渉は長期化した。

しかし平成３年１月19日の建設省、市教育委員会と県教育委員会の協議で建設省より、ラオシバ曲輪と西ノ丸西側はパイプルーフ構造のトンネルにして遺跡を保護する、西ノ丸北側は植栽により景観に配慮する等の、構造対応による新提案が出された事により交渉は一気に前進する。そして平成３年３月25日の建設省、県教育委員会の協議において、山中城についてはラオシバ曲輪と西ノ丸西側の尾根はパイプルーフ工法によりトンネルとする、トンネル出入り口部分は城跡との景観に調和したものにする、両トンネル間は植栽を施して山中城からバイパスが見えないように景観に配慮する。箱根旧街道については、浅間平地区東側は景観に調和した横断歩道橋（後に横断歩道に変更）を設置する、浅間平地区西側と上長坂地区は消滅範囲を最小限にしてボックスカルバート工法で施工後に旧街道の姿を復元する、という工事内容について合意して文化庁に報告、今後は市教育委員会を窓口として協議、発掘を進めていくことになった。

発掘調査は平成５年度に着手したが、建設省の予算措置の都合により平成７年度から13年度まで中断し、平成14年度に再開して25年度に計画範囲の発掘調査を終了、現在は資料の整理作業を継続中である。本報告書掲載の山中城遺跡は、平成５・６・15～18・23・25年度に断続的に発掘調査を実施した。




第１図　笹原山中バイパス関連遺跡全体配置図

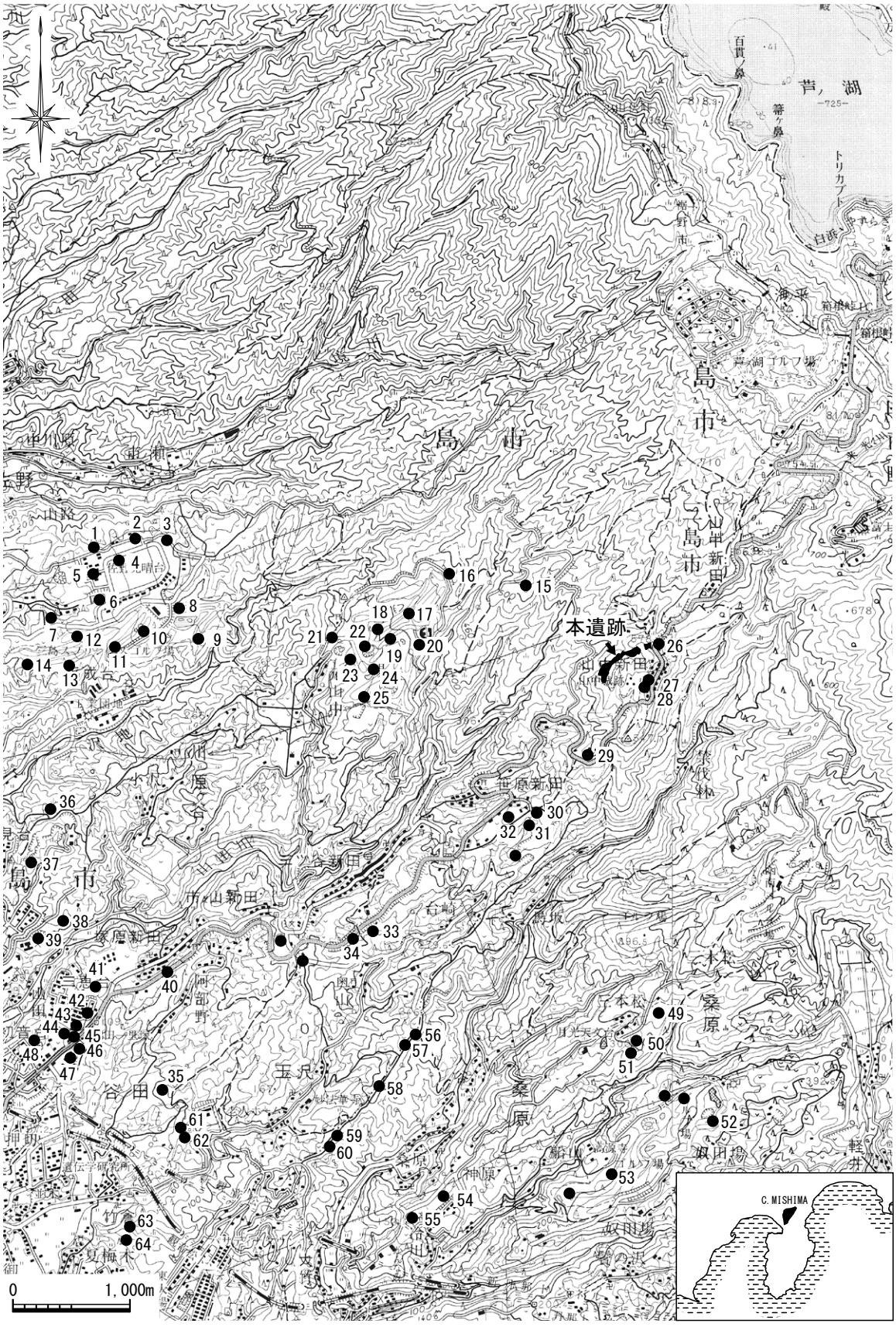
# 第２節　遺跡の立地と歴史的環境

## １．遺跡の立地

今回、発掘調査が行われた山中城遺跡は、静岡県東部の三島市に所在する。三島市は太平洋に向かって南側に延びる伊豆半島の付け根部分に位置し、北側を裾野市、南を函南町、西側を長泉町と清水町、東側を神奈川県箱根町と境を接し、東西11.107km、南北13.242km、面積が62.199㎢の規模を有する都市である。地形的には、北西に富士山と愛鷹山が位置し、東は標高1,384mの箱根山、南側には多賀火山から天城山が連なり、西では静浦山塊が鎮座する中で、これらの山々の間に沼津、三島平野と田方平野が開けた場所の北東側に位置している。三島市の地勢的特徴は、その地形と地質的特質により二つ、ないし三つの地域に区分される。一箇所目は市域の西側を構成する愛鷹山と箱根山の裾間谷に形成された扇状地で、今から14,000年ほど前に噴火した新富士火山の溶岩によって形成されたもので、三島扇状地、あるいは黄瀬川扇状地とも呼ばれている地域である。この扇状地は裾野市の平松付近を扇頂部とし、函南町間宮から清水町柿田付近を末端部とする広大なもので、現市街地の位置する北側は溶岩性、南側は堆積の薄い砂礫性、そして中郷地域を中心とする末端部では20mもの層厚が形成された砂礫性の扇状地となっている。二箇所目は前述した市域の南側を占める中郷地域で、本地域は縄文時代における海進によって形成された「古狩野湾」と呼ばれる浅海性内湾に黄瀬川、大場川といった河川によって運ばれた堆積物によって形成された沖積地が相当する。ただ、本地域は扇状地の中に形成された沖積地であり、基盤は三島扇状地であることは論を待たないことから、表面的には区別されるものの基盤としては同一の地勢に立地する地域である。三箇所目は本遺跡が位置する、市域の約２／３を占有する箱根山の西山麓地域が該当する。箱根山は約40万年前に活動が開始された火山で、当初形成されていた箱根山は標高2,700mにも及ぶ成層火山であったが、その後における噴火の繰り返しによるカルデラの形成によって、現在の複雑な山容が形作られてきたことが知られている。そして、その緩やかな斜面が形成されている西山麓は、今から約７～５万年前に発生したと考えられる箱根山第３期の活動によって生じた古期カルデラ形成後の楯状火山の成立と、それに伴う噴火や火砕流の流下によって形成されたものである。さらに６万年前頃から活動を開始した古富士火山は、伊豆北部から関東地域にかけて多量のスコリアや火山灰を降下させ、噴火の休止期に形成された黒色帯と共に厚いローム層が形成されている。そして、この西山麓は箱根山の外輪山に相当し、なだらかな緩傾斜地が形成されているが、これを山田川や沢地川を始めとする多くの中小河川によって開析され、小さな尾根を幾つも派生させた八つ手状の丘陵地形が形作られている。本遺跡群の位置していた丘陵も、こうした丘陵のひとつで、箱根山中腹の南西方向に延びる尾根幅約300mの丘陵の北西斜面で、標高約553～580mから検出されたものである。

## ２．歴史的環境

本遺跡群の位置していた箱根山中腹は広範な森林地帯であり、発掘調査が実施された遺跡も少ないこともあって、古の人々が居住していた痕跡の存在が知られるようになったのは最近のことであった。箱根山麓で最も早く旧石器時代の遺跡が調査されたのは昭和36年の神奈川県箱根町朝日遺跡（坂詰　1962・1967）を嚆矢とするが、三島市域で初めて本格的な旧石器時代の遺跡が発掘調査されたのは昭和49年の塚原初音原遺跡（40）の調査を待たねばならなかった。しかしながら、昭和30～40年代には沼津商業高校や大仁高校、日大三島高校等の郷土研究部による遺跡調査が行われており、当該地域における旧石器時代の遺跡の濃密な存在が推察される状況にあり、その集大成として昭和43年に秋本真澄氏による『伊豆の後期旧石器文化図録』が刊行されている（秋本　1968）。このような中で、近年のバイパス建設や畑地帯総合事業、ゴルフ場建設等




第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1/50,000）

第１表　箱根山西南麓旧石器時代調査遺跡一覧表

| 番号 | 遺　跡　名 | YLU | YLM | YLL | BB0 | BBⅠ | NL | BBⅡ | BBⅢ | SⅢb1 | BBⅣ | K | P | M | ブロック | 礫群 | 配石 | 土坑 | 炉 | 遺物点数 | 調査者 | 調査年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 陣笠山Ａ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | 加藤学園 | 1989 |
| 2 | 佐野片平山Ｇ遺跡 | ● | ● | | | | | | | ● | ● | ◎ | | | | | | | | | 加藤学園 | 1989 |
| 3 | 佐野片平山Ｆ遺跡 | ● | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | 加藤学園 | 1989 |
| 4 | 佐野片平山Ｈ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | 加藤学園 | 1989 |
| 5 | 陣笠山Ｈ遺跡 | ● | ● | | | | | | | ● | | ◎ | | | | | | | | | 加藤学園 | 1989 |
| 6 | 佐野片平山Ｓ遺跡 | ● | ● | | | | | | | ● | | ◎ | | | | | | | | | 加藤学園 | 1989 |
| 7 | 佐野片平山Ｔ遺跡 | ● | ● | | | | | | | ● | | ◎ | | | | | | | | | 加藤学園 | 1989 |
| 8 | 徳倉片平山Ｂ遺跡 | ● | ● | | ● | ● | | | | | | ◎ | ◎ | | 11 | 14 | | | | 401 | 三島市教委 | 1986 |
| 9 | 徳倉片平山Ⅰ遺跡 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 三島市教委 | 1986 |
| 10 | 中村Ｃ遺跡 | ● | ● | | | ● | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 13 | 7 | | | | 1,167 | 三島市教委 | 1986 |
| 11 | 片平山遺跡 | ● | ● | | | ● | | | | | | ◎ | ◎ | | 16 | 14 | | | | 1,037 | 三島市教委 | 1986 |
| 12 | ソノエンサレＢ遺跡 | ● | ● | | | | | ● | ● | ● | | ◎ | ◎ | | 2 | 1 | | | | 107 | 三島市教委 | 1986 |
| 13 | 徳倉片平山Ｋ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | | | 4 | | 2 | | | 32 | 三島市教委 | 1986 |
| 14 | 徳倉片平山Ｌ遺跡 | ● | | | | | | | | | | ◎ | | | 2 | 2 | | | | 10 | 三島市教委 | 1986 |
| 15 | 北原菅遺跡Ａ地点 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | 40 | ○ | ○ | | | 1,937 | 三島市教委 | 1985 |
| 16 | 五輪遺跡 | ● | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | 4 | 三島市教委 | 1989 |
| 17 | 観音洞Ｇ遺跡 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | ◎ | ◎ | ◎ | 134 | ○ | | | | 4,630 | 三島市教委 | 1989 |
| 18 | 元山中Ｃ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | | | 129 | ○ | | | | 875 | 三島市教委 | 1989 |
| 19 | 陰洞Ａ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | | | 2 | ○ | | | | 236 | 三島市教委 | 1989 |
| 20 | 観音洞Ｂ遺跡 | ● | ● | ● | | ● | | | | | | ◎ | | | 300 | ○ | | 1 | 2 | 29,005 | 三島市教委 | 1989 |
| 21 | 元山中遺跡 | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | ◎ | | | | | | | | 28 | 加藤学園 | 1990 |
| 22 | 陰洞Ｂ遺跡 | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | ◎ | ◎ | | 20 | ○ | | | | 391 | 三島市教委 | 1989 |
| 23 | 陰洞Ｃ遺跡 | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | ◎ | | | 34 | ○ | | | | 689 | 三島市教委 | 1989 |
| 24 | 陰洞Ｅ遺跡 | ● | ● | ● | | ● | | | | | | ◎ | ◎ | | 126 | ○ | | | | 19,055 | 三島市教委 | 1989 |
| 25 | 観音洞Ｈ遺跡 | ● | ● | ● | | ● | | | | | | ◎ | ◎ | | 10 | ○ | | | | 156 | 三島市教委 | 1989 |
| 26 | 願合寺Ａ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 18 | 11 | | | | 1,667 | 三島市教委 | 2014 |
| 27 | 山中城跡三ノ丸第1地点 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 12 | 17 | | | | 7,263 | 三島市教委 | 1989 |
| 28 | 山中城跡三ノ丸第2地点 | | | ● | | | | | | | | ◎ | | | 4 | 2 | | | | 41 | 三島市教委 | 1993 |
| 29 | 山中城Ｅ遺跡 | ● | ● | ● | ● | | | | | | | ◎ | ◎ | | 12 | 9 | | | | 1,051 | 三島市教委 | 1994 |
| 30 | 天台Ｂ遺跡 | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | ◎ | ◎ | | 29 | | | | | 13,977 | 三島市教委 | 1993 |
| 31 | 中村分遺跡 | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 10 | 4 | | | | 1,080 | 三島市教委 | 1991 |
| 32 | 台崎C遺跡 | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | 167 | 三島市教委 | 1996 |
| 33 | 笠原Ｆ遺跡 | | | ● | | | | | | | | ◎ | | | 1 | | | | | 52 | 三島市教委 | 1983 |
| 35 | 生茨沢遺跡 | | | | | | | | | | ● | ◎ | | | 1 | | ○ | | | 210 | 県埋文研 | 1999 |
| 34 | 奥山遺跡 | | ● | | | | | | | | | ◎ | | | 2 | 1 | | | | 16 | 三島市教委 | 1983 |
| 36 | 加茂ノ洞Ｂ遺跡 | ● | ● | | | ● | | ● | ● | | | ◎ | ◎ | | 3 | 1 | | 17 | | 300 | 県埋文研 | 1994 |
| 37 | 加茂向山遺跡 | ● | | | | ● | | ● | | | | | | | 1 | 2 | | | | 24 | 三島市教委 | 1991 |
| 38 | 焼場遺跡 | ● | | | | ● | | ● | | ● | | ◎ | ◎ | | 1 | 1 | | 2 | | 18 | 県埋文研 | 1992 |
| 39 | 十石洞遺跡 | ● | ● | ● | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | 73 | 三島市教委 | 1989 |
| 40 | 塚原初音原遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | 1,517 | 調査団 | 1974 |
| 41 | 下原遺跡 | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ◎ | ◎ | | 19 | 16 | 4 | 7 | | 1,000 | 県埋文研 | 1994 |
| 42 | 初音ケ原Ａ遺跡第1地点 | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ◎ | ◎ | | 74 | ○ | | | | 4,547 | 三島市教委 | 1986 |
| 43 | 初音ケ原Ａ遺跡第2地点 | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | | ◎ | | | 35 | 26 | | 9 | | 791 | 三島市教委 | 1988 |
| 44 | 初音ケ原Ａ遺跡第5地点 | ● | ● | ● | | ● | | ● | | | ● | ◎ | | | 8 | 6 | | 3 | | 485 | 三島市教委 | 1993 |
| 45 | 初音ケ原Ａ遺跡第3地点 | | | | | | | ● | ● | | | ◎ | | | 6 | 7 | 2 | | | 179 | 三島市教委 | 1991 |
| 46 | 初音ケ原Ｂ遺跡第3地点 | ● | ● | ● | | | | | ● | | | ◎ | | | 10 | | | 13 | | 230 | 三島市教委 | 1994 |
| 47 | 初音ケ原Ｂ遺跡第1地点 | ● | ● | | | | | | ● | | | ◎ | | | 10 | 2 | | 4 | | 138 | 三島市教委 | 1987 |
| 48 | 初音ケ原Ａ遺跡第4地点 | | | | | | | ● | | | | | | | | | | | | 6 | 三島市教委 | 1993 |
| 49 | 柳沢Ｂ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | 92 | 函南町教委 | 1985 |
| 50 | 柳沢Ｃ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 17 | 3 | 2 | | | 417 | 函南町教委 | 1985 |
| 51 | 柳沢Ｄ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | 4 | 函南町教委 | 1985 |
| 52 | 大奴田場Ａ遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | 22 | 1 | 2 | | | 1,684 | 函南町教委 | 1985 |
| 53 | 上黒岩遺跡 | | ● | ● | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | 35 | 函南町教委 | 1985 |
| 54 | 上原遺跡 | ● | ● | ● | | | | ● | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 14 | 8 | | | | 5,800 | 函南町教委 | 1993 |
| 55 | 中原遺跡 | ● | ● | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | 10 | | | | | 270 | 函南町教委 | 1980 |
| 56 | 奥山遺跡 | ● | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 6 | | | | | 82 | 三島市教委 | 2004 |
| 57 | 香音Ⅱ-D遺跡 | ● | | | | | | | | | | ◎ | | | 2 | | | | | 14 | 三島市教委 | 2004 |
| 58 | 東山遺跡 | ● | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 20 | | 6 | | | 314 | 三島市教委 | 2004 |
| 59 | 南山D遺跡第2地点 | ● | ● | ● | | | | | | | | ◎ | ◎ | | 11 | 1 | 1 | | | 600 | 三島市教委 | 2004 |
| 60 | 南山D遺跡第1地点 | ● | ● | ● | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 7 | 2 | 5 | | | 561 | 三島市教委 | 2004 |
| 61 | 小平Ｃ遺跡 | ● | ● | ● | ● | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 5 | 2 | | | | 201 | 三島市教委 | 1991 |
| 62 | 小平Ｂ遺跡 | ● | ● | | ● | ● | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | 5 | | | | | 533 | 三島市教委 | 1994 |
| 63 | 源平山遺跡 | ● | | | ● | | | | | | | ◎ | | | | | | | | 6 | 三島市教委 | 1990 |
| 64 | 猪追面遺跡 | ● | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | 3 | 三島市教委 | 1990 |

※凡例　YLU 休場上層　YLM 休場中層　YLL 休場下層　BB0 第０黒色帯　BBⅠ 第Ⅰ黒色帯　NL ニセローム　BBⅡ 第Ⅱ黒色帯
BBⅢ 第Ⅲ黒色帯　SCⅢb1 第Ⅲスコリア帯第１黒色帯　BBⅣ～ 第Ⅳ～第Ⅶ黒色帯　K ナイフ形石器　P 尖頭器　M 細石器

の開発が進み、多くの旧石器時代遺跡の調査が実施されてきた。そして、前述したようにローム層の堆積が顕著な箱根山西麓や愛鷹山東南麓では、旧石器時代遺跡間の同時期の確認や関連性を追及するには格好の地域として認識されており、旧石器時代を研究するフィールドとして重要な地域となっている。

本市域を含めた箱根山西麓で確認された最古の遺跡は、箱根西麓ローム層の第Ⅳ～Ⅶ黒色帯で確認された初音ヶ原遺Ａ跡第１地点（42）、初音ヶ原Ａ遺跡第２地点第Ⅴ文化層（43）、佐野片平山Ｇ遺跡（２）、生茨沢遺跡（35）があり、石器類の出土量は少ないものの、ナイフ形石器のひとつの形態である台形石器や掻器、ピエス・エスキーユ、局部磨製石斧等が確認されている。石器類以外では構築時期は広域火山灰である所謂ＡＴ層以前の所産と思われる陥し穴と考えられている土坑と土坑列の存在がある。これらは初音ヶ原遺跡群の中で広範囲に確認されており、総数60基を数える。初音ヶ原遺跡調査後、近隣の遺跡である下原遺跡

(41）や、市内の焼場遺跡Ａ地点（38)、加茂ノ洞Ｂ遺跡（36)、八田原遺跡等でも同様の土坑が相次いで検出されており、当地方ではＡＴ層降灰以前の時代に大規模な掘削作業が組織的に行われていたことが窺えるものである。ＡＴ層降灰以前では第Ⅱ黒色帯から初音ヶ原Ａ遺跡第２地点第Ⅲ文化層（43）や、函南町上原遺跡第Ⅲ文化層（54）から、石刃技法を技術基盤とした良好なナイフ形石器石器群が確認されている。ＡＴ層降灰後の第Ⅱ黒色帯からは加茂ノ洞Ｂ遺跡､中村Ｃ遺跡（10)､観音洞Ｇ遺跡（17）等から出土しているが、小規模な遺跡が多く、まとまった資料は上ノ山遺跡から出土しているだけである。箱根西麓のローム層の最上層である所謂「休場層」で確認された遺跡は多く、休場層の下部からはナイフ形石器石器群の最盛期と称されている所謂「砂川型式期」の石器群に対比されている南山Ｄ遺跡第１地点第Ⅱ文化層（60)、函南町の上原遺跡第Ⅱ文化層（54)、大奴田場Ａ遺跡第Ⅱ文化層（52)、上黒岩遺跡（53）等が調査され、少量の尖頭器を持つナイフ形石器石器群が確認されている。これらは長野県産と思われる黒曜石が原材となっているものが多いが、ガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス、凝灰岩、赤玉石、チャート、玉髄等の多くの石材が利用されることが特徴の一つとなっている。これに対して休場層の中部から出土するナイフ形石器石器群の最終末期の石器群では、箱根の畑宿産の黒曜石を原材とするものが殆どで、本遺跡の２調査地点や、塚原初音原遺跡、北原菅遺跡第Ⅰ文化層（15）等がある。

ただ、本地域では、今まで見てきたナイフ形石器石器群に後続すると思われる尖頭器石器群の存在は稀薄で、僅かに東山遺跡第Ⅱ文化層（58)、山中城跡三ノ丸第１地点第Ⅱ文化層（27）で確認されているだけであり、今後の調査による資料の蓄積に期待したい時期である。これに対し、後続する細石刃石器群の検出例は豊富で、多くの細石刃を保有する大規模な遺跡が形成されている大奴田場Ａ遺跡第Ⅰ文化層、上原遺跡第Ⅰ文化層、山中城跡三ノ丸第１地点第Ⅰ文化層、今回のバイパス建設に伴って調査された本遺跡群に隣接する願合寺Ａ遺跡第Ⅰ文化層（26）等がある。ただ、これらの遺跡群の他に、小規模な遺跡とブロックが形成された柳沢Ｃ遺跡第Ⅱ文化層（50)、南山Ｄ遺跡第１地点第Ⅰ文化層、東山遺跡第Ⅰ文化層（58)、奥山遺跡第Ⅰ文化層（56)、本遺跡第19次調査第Ⅰ文化層があり、細石刃石器群の遺跡の形成には多様性があることが推察される状況にある。

箱根山西麓の縄文時代の遺跡は調査例が乏しく､しかも地勢的な要因からか小規模な遺跡が多いことから、特徴的な遺跡だけをあげていくことにしたい。当地方で草創期に相当する遺跡は少ないが、初音ヶ原Ａ遺跡から平底で無文の小形土器が出土している。早期は断片的な資料が多いが、条痕文系土器を出土する遺跡は豊富で、その中の上黒岩遺跡では押型文の高山式や人海式、打越式のまとまった資料が出土している。前期では、上黒岩遺跡から諸磯期の住居址２軒が検出され、前期末の十三菩提式とこれに伴うと思われる関西地方の大歳山式土器が出土している。柳沢Ｄ遺跡（51）では中期の住居址が６軒検出され、勝坂式末から曽利式の比較的まとまった資料が検出されているとともに、少量の加曽利Ｅ式が伴って出土している。天台Ｂ遺跡（30）では勝坂期の住居址が４軒、観音洞Ｂ遺跡（20）でも曽利期と加曽利Ｅ式期の住居址が５軒検出されており、住居の構築が定住化の促進であるならば、箱根山西麓にも遺跡の規模は大きくはないものの集落が形成されていることが理解されるものである。そして、北山遺跡では、後期の堀之内式～加曽利Ｂ式期の住居址が確認されているが、当該地方では加曽利Ｂ式期以降の縄文時代遺跡の検出は殆ど認められず、今後の調査に期待すること大である。

弥生時代以降も遺跡の存在は稀薄で、大奴田場Ａ遺跡で土坑から弥生後期の土器が数個体出土していたりと、断片的な状態で弥生式土器や土師器が検出されることはあるが、住居址や集落址の発見は殆ど認められない状態である。その後も戦国時代に作られた山中城の出現まで、当地方での人々の痕跡は極めて稀薄であり、居住地としては選択される事なく現代に至った可能性が高いものと思われる。

# 第３節　発掘調査の経過と概要

建設省沼津工事事務所（現国土交通省沼津河川国道事務所）によって計画された笹原山中バイパス建設工事は、笹原大曲から山中新田までの総延長約４kmに及び、その間に存在する７遺跡11地点で遺跡を分断するほかに、遺跡の存在が推定される３地点を通過する計画となっていた。これらの遺跡の中には、国指定史跡の山中城をはじめとして、旧石器時代の有望な遺跡が含まれていることから、この14地点（総面積42,130㎡）を対象とした発掘調査を、道路建設工事にさきがけて順次行うことになった。

本報告では上記の14地点の内、山中城遺跡として登録されている３地点についての報告をまとめることとした。以下、地点毎に発掘調査の経過を述べる。

第２表　発掘調査一覧表

| 地点名 | 三島市調査名 | 調査方法 | 調査期間 | 対象面積 | 調査面積 | 遺跡の時代 | 調査の成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11-1地点 | 第22次調査 | 本調査 | H7.01.27～<br>H7.03.20 | 2,360㎡ | 2,360㎡ | 旧石器時代<br>戦国時代 | 急峻な谷地形を意識して山中城の縄張りが決定されたことが判明した |
| 11-2地点 | 第25次調査 | 本調査 | H15.06.12～<br>H15.08.19 | 1,960 | 1,960 | 旧石器時代<br>戦国時代 | 急峻な谷地形を意識して山中城の縄張りが決定されたことが判明した |
| 11-3地点 | 第26次調査 | トレンチ | H15.11.12～<br>H16.01.27 | 2,650 | 586 | 旧石器時代<br>戦国時代 | 急峻な谷地形を意識して山中城の縄張りが決定されたことが判明した |
| 11-4地点 | 第27次調査 | トレンチ | H16.09.21～<br>H16.11.14 | 2,610 | 379 | 旧石器時代<br>～縄文時代 | 縄文時代前期の土器・石器類<br>旧石器時代の石器 |
| 11-4地点 | 第28次調査 | 本調査 | H16.11.16～<br>H17.03.07 | | 960 | 旧石器時代<br>～縄文時代 | 縄文時代前期の土器・石器類<br>旧石器時代の石器 |
| 12-1地点 | 第29次調査 | トレンチ | H17.10.13～<br>H17.10.27 | 3,300 | 207 | 縄文時代 | 縄文時代前期の土器・石器類 |
| 12-1地点 | 第30次調査 | 本調査 | H17.10.28～<br>H17.11.22 | | 225 | 縄文時代 | 縄文時代前期の土器・石器類<br>集石３基、陥穴状土抗１基 |
| 12-2地点 | 第31次調査 | トレンチ | H18.02.28～<br>H18.03.13 | 1,990 | 159 | 縄文時代 | 遺構・遺物なし |
| 12-3地点 | 第34次調査 | トレンチ | H23.10.12～<br>H23.10.29 | 1,910 | 65 | 縄文時代 | 遺構・遺物なし |
| 12-4地点 | 第36次調査 | トレンチ | H25.08.07～<br>H25.08.13 | 127 | 6 | 縄文時代 | 遺構・遺物なし |
| 13地点 | 第19次調査 | 本調査 | H5.10.12～<br>H6.03.25 | 1,885 | 1,885 | 旧石器時代<br>～戦国時代 | 旧石器時代の石器、縄文時代早期の土器、陶磁器類、山中城の曲輪 |
| 13地点 | 第19次調査 | 本調査 | H6.12.6～<br>H7.02.8 | | 459 | 旧石器時代 | 旧石器時代の追加調査、石器類 |

### １．山中城遺跡第22・25・26・27・28次調査（笹原山中バイパス11地点）

笹原山中バイパス11－１～４地点は山中城西櫓の西から北側に位置しており、山中城遺跡22・25・26・27・28次調査として５次に分けて調査を実施した。

第22次調査（11－１地点）は、平成７年１月27日～３月20日まで山中城西櫓西側の谷部分2,360㎡について発掘調査を実施した。事前踏査により険しい谷地形であることが判明し、山中城の竪堀の存在が推測されたため、谷底の変化が著しい３箇所にトレンチを設定して掘り下げを開始した。トレンチ内で堀止め状の段差が確認された事から全面調査を実施したが、谷底はＵ字型で人為的な改変の痕跡も無いことから、竪堀の可能性は低い事が判明した。しかし谷の両壁面は急傾斜で簡単に登れるような角度ではなく、山中城はこうした急峻な谷地形を天然の防御施設として意識して縄張りを決定していたことが推定できる。

第25次調査（11－２地点）は、平成15年６月12日～８月19日まで11－１地点東側の斜面に相当する1,960㎡を対象に発掘調査を実施した。残念ながら山中城に関係する遺構を検出することができず、また下層の調

査でも遺構や遺物を発見することができなかった。

第26次調査（11－３地点）は、平成15年11月12日～平成16年１月27日まで2,650㎡を対象に発掘調査を実施した。11－１地点とは尾根を一つ挟んだ北側の谷部分に相当し、山中城の竪堀の存在が推測されたため、地形に合わせて谷底と谷に直交する方向にトレンチを設定して掘り下げを行ったが、山中城の竪堀と認定できる遺構を明確に検出することはできなかった。しかし山中城の西櫓・西ノ丸から放射状に伸びる急峻な谷地形を利用した城の縄張りが行われていた状況が看取された。調査地点は東から西に向かって標高を下げる狭い谷地形であり、最高地点の標高489.40mと谷底との比高差は約21mにも及ぶものであった。

第27次調査（11－４地点）は、平成16年９月21日～平成16年11月14日まで山中城西ノ丸北側の2,610㎡を対象に発掘調査を実施した。調査前の状況は、150m程の尾根と小さな谷が入り組んだ地形であったことから、谷を縦断する第１トレンチとそれに直行する第２トレンチ、尾根の南端を横断する第３トレンチとその北側の尾根頂部にグリッド５箇所を設定して調査を行った。その結果、トレンチ調査を行った谷部分からは遺跡は確認されなかったが、グリッド調査を行った尾根上の緩斜面から縄文時代と旧石器時代の遺構と遺物を検出した。

第28次調査（11－４地点）は、27次調査で遺構と遺物を検出した尾根上の960㎡を対象に平成16年11月16日～平成17年３月７日まで発掘調査を実施した。その結果、縄文時代の集石が３基検出され、それに伴う縄文時代前期の土器と石器が出土した。旧石器時代ではYLM層中位から計1,523点の遺物が出土し、10箇所の石器ブロックと６基の礫群として確認した。

本書では、明確な遺構と遺物群を検出した第27・28次調査（11－４地点）の縄文時代と旧石器時代について報告する。

### ２．山中城遺跡第29・30・31・34・36次調査（笹原山中バイパス12地点）

笹原山中バイパス12地点は山中城西ノ丸跡の北側に位置しており、笹原山中バイパス11地点の東北東に連続する。山中城遺跡第29・30・31・34・36次調査として５次に分けて調査を実施した。

第29次調査（12－１地点）は、平成17年10月13日～10月27日に対象となる3,300㎡の斜面に並行あるいは直交する方向にトレンチを５本設定して発掘調査を実施した。その結果、南側の狭い尾根上から縄文時代の遺物が出土した。

第30次調査（12－１地点）は、第29次調査で縄文時代の遺物が出土した尾根上の225㎡を対象として、平成17年10月28日～11月22日に発掘調査を実施した。その結果、縄文時代の土坑１基と集石１基を確認し、それに伴う縄文時代前期の土器と石器が出土した。

第31次調査（12－２地点）は、平成18年２月28日～３月13日に対象となる1,990㎡の斜面に並行あるいは直交する方向にトレンチ４本を設定して調査を実施したが、遺構と遺物は確認されなかった。

第34次調査（12－３地点）は、12－１地点北側の谷戸部分1,910㎡を対象に、平成23年10月12日～10月29日に任意の位置にトレンチ３本を設定して調査を行ったが、遺構と遺物は確認されなかった。

第36次調査（12－４地点）は、12－１地点と12－３地点に挟まれる127㎡で、平成25年８月７日～８月13日に任意の位置にトレンチ１本を設定して調査を行ったが、遺構と遺物は確認されなかった。

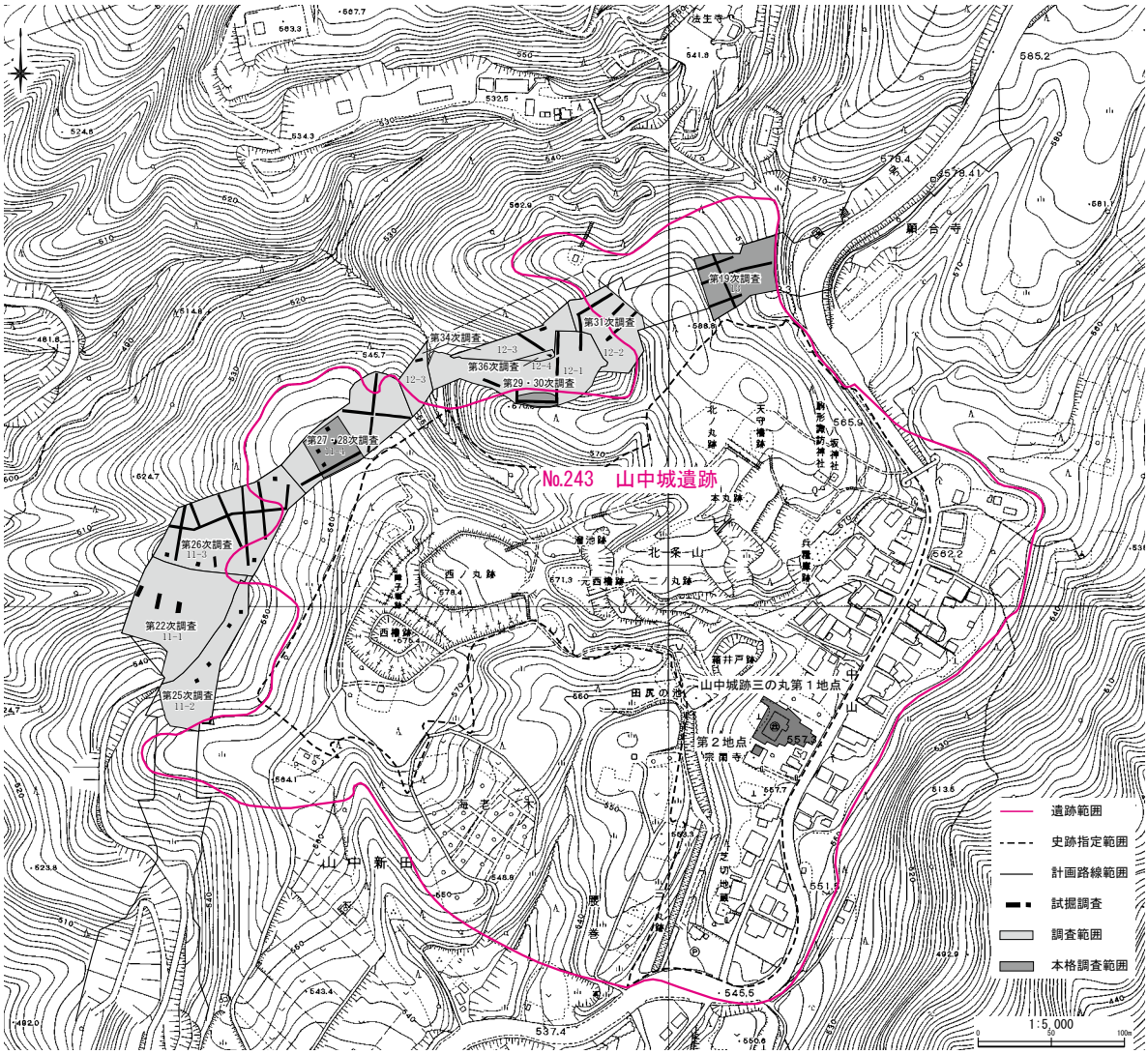
本書では、明確な遺構と遺物群を検出した第30次調査（12－１地点）の縄文時代時代について報告する。一方で今回の調査の結果からは、当初予想していた中近世の遺構・遺物等は全く確認されなかったことから、本地点には山中城に関連する曲輪等は存在していなかったことが確認された。

### ３．山中城遺跡第19次調査（笹原山中バイパス13地点）

第19次調査（13地点）は山中城北ノ丸跡の北側、通称ラオシバから北東側の谷へ向かう緩斜面と自然湧水による谷部分にかけての1,885㎡を対象に、平成５年10月12日～平成６年３月25日と平成６年12月６日～平成17年２月８日の２回に分けて断続的に調査を実施した。

平成５年度は、山中城との位置関係から曲輪や堀に関連する遺構の存在が予想されたことから、斜面に並行あるいは直交する方向に４本のトレンチを設定して調査を開始した。その結果、北の丸に近いトレンチから曲輪拡張時と考えられるローム質の盛土を検出し、更に中央のトレンチからは土坑１基を確認した。このことから調査区をラオシバ側の緩斜面と急斜面から谷部分の２回に分けて全面調査を実施することとしたが、トレンチ調査で確認された以外の遺構は検出されなかった。その後、緩斜面部分を中心に３×３ｍのグリッドを設定してローム層中の試掘調査を行った。その結果、５箇所のグリッドから旧石器時代の遺物が検出されたことから、これらのグリッドを中心として297㎡の調査区について旧石器時代の調査を実施した。

さらに平成６年度には459㎡の追加調査を実施して、YLU層とYLM層に計２枚の文化層を確認した。第Ⅰ文化層からは計９点の遺物が出土し、２箇所の石器ブロックとして確認され、第Ⅱ文化層からは計732点の遺物が出土し、11箇所の石器ブロックとして確認された。




第３図　遺跡の範囲と調査地点の位置

# 第４節　遺跡の層序

遺跡のある箱根山西麓には箱根西麓ローム層と呼称されるローム層が発達している。その層相は下位（Ｌローム）・中位（Ｍローム）・上位（Ｕローム）に３分され、上位ローム層を２分（Ｕ２ローム・Ｕ１ローム）して、大きく４層位に区分（高橋　1997）されている。本遺跡で今回調査を実施したローム層はＵ１ローム層で、富士火山を主要供給源として発達したローム層であり、関東ローム層の立川ローム層、愛鷹ローム層の上部ローム層に対比できる。その堆積はスコリア層と黒色帯の互層堆積を特徴とする。第Ⅰ黒色帯と第Ⅱ黒色帯間に堆積するニセローム層中に姶良・丹沢パミス（ＡＴ）のパッチが明瞭に認められる。ローム層の上部には、新期富士火山活動起源の腐食土層が形成されるが、傾斜の強い斜面地が多く、流失等により上部層位の残存を良好ではない。

以下では、第28次調査・第30次調査・第19次調査の順で土層堆積状況を述べる。

**１．第28次調査**（第４図）

第28次調査は史跡山中城跡西ノ丸跡、西櫓跡の西方から北西にあたり、北西から西に張り出す３つの丘陵と２つの谷部である。丘陵平坦面の標高は約580ｍで、谷部の標高は約516ｍ前後である。北東に第34次調査が隣接する。

第１層　黒褐色土層　表土層で粘性・締まり無い腐食土層。

第２層　暗褐色土層　粘性・締まり有り。スコリアの帯状堆積層である。

第３層　淡褐色土層　粘性強く、締まり有り。上層と類似するスコリアを少量含む。

第４層　暗褐色土層　粘性有り、締まり弱い。粒径１～２mm大の黒色スコリアを少量含む。ローム漸移層（ZN層）である。ローム漸移層は混入スコリアと粘性・締まりの差で２層に分層される。

第５層　暗褐色土層　粘性に富み、上層より締まりが有る。ローム漸移層下部（ZN層）で、粒径１～２mm大の黒色・赤色スコリアを少量含む。

第６層　黄褐色土層　粘性有り、締まりやや弱い。粒径１～２mm大の赤色スコリア、粒径１～３mm大の黒色スコリアを少量混入する。ソフトローム層で休場上層（YLU層）である。

第７層　暗赤褐色土層　粘性弱く、締まり有り。粒径３～５mm大の赤色スコリアの団塊層で休場第１スコリア層（YL－Ｓ１層）である。

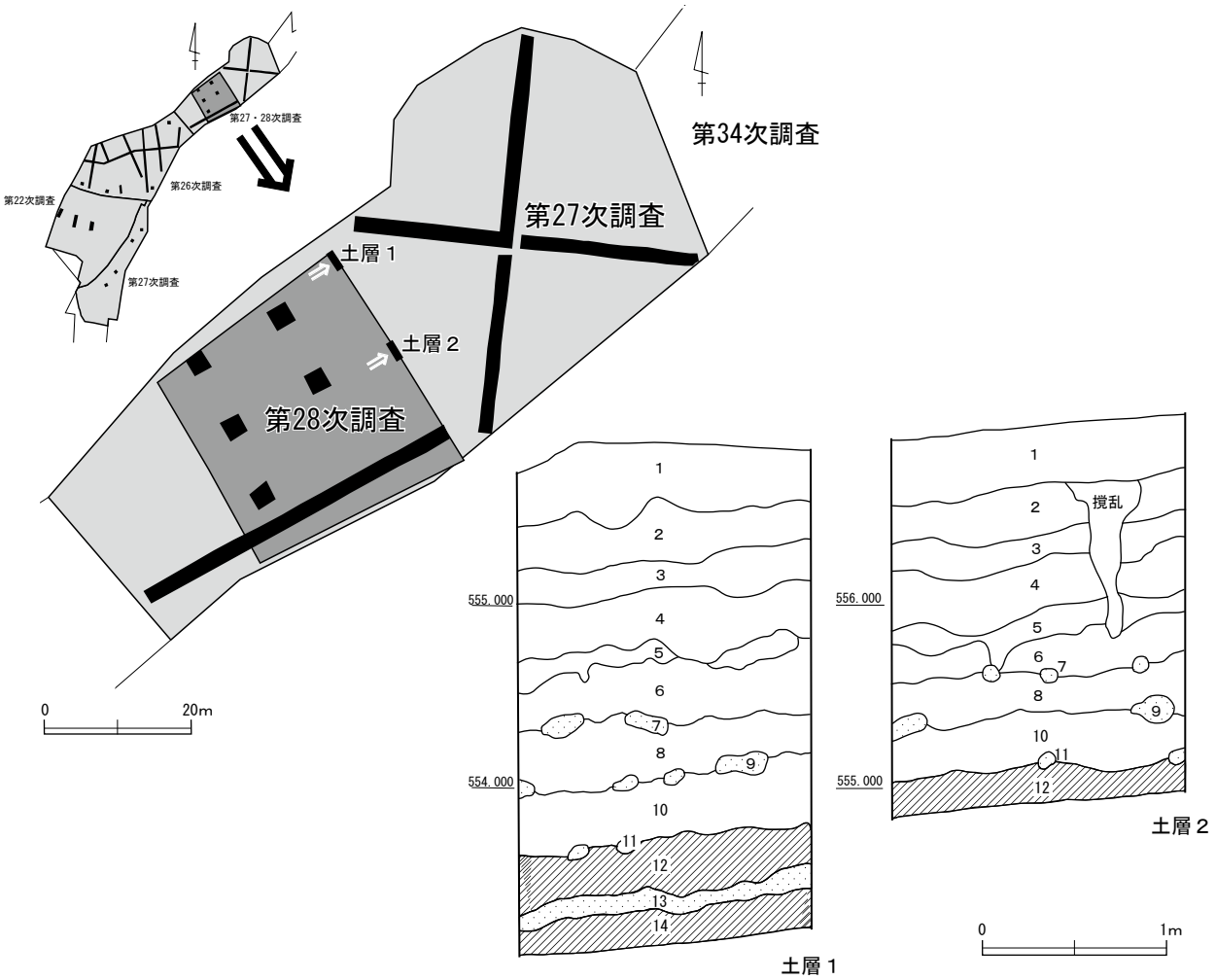
第８層　黄褐色土層　粘性やや有り、締まりやや強く、ややハードである。粒径３～10mm大の赤・黒色スコリアを多く含む。休場中層（YLM層）である。

第９層　暗赤褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径70mm大の赤・黒・黄色スコリアの団塊層で、黄・赤色スコリアが多い。休場第２スコリア層（YL－Ｓ２層）である。

第10層　黄褐色土層　粘性有り、締まり強い。ハードローム層である。粒径１～５mm大の赤・黒色スコリアを多く含む。休場中層（YLM層）よりスコリアの粒径小さい。休場下層（YLL層）である。

第11層　暗赤褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径50mm大の赤・黒・黄色スコリアの団塊層で、黄・黒色スコリアが多い。休場第３スコリア層（YL－Ｓ３層）である。

第12層　暗黄褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径３～５mm大の黄・黒色スコリアを多く含む。発泡した黄色スコリアを多く含む。第０黒色帯（BB０層）である。




第４図　第28次調査の層序

第13層　赤褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径５～10mm大黄・黒色スコリア団塊層で、第Ⅰスコリア層（ScⅠ層）である。

第14層　暗褐色土層　粘性有り､締まり強い。粒径５mm黒色スコリアを多く含む。第Ⅰ黒色帯（BBⅠ層）である。

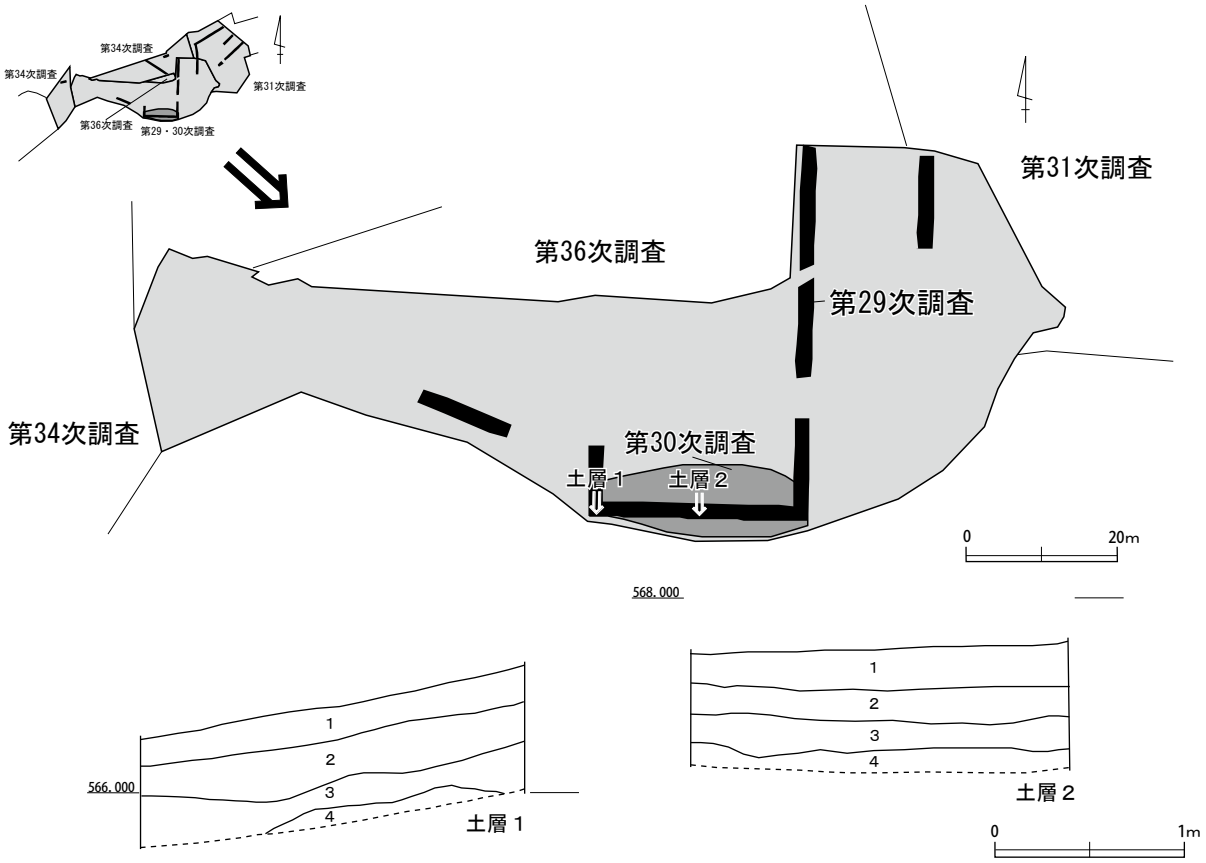
**２．第30次調査**（第５図）

第30次調査は史跡山中城跡西ノ丸跡・二ノ丸跡、溜池跡の北方、北ノ丸の西方にあたり、西から北西に開く深い谷部と、その谷に解析された丘陵斜面である。丘陵部の標高は約567m、谷部の標高は約540mである。南西に谷を挟んで第28次調査、北東方向同一丘陵北東斜面上部に第19次調査が隣接する。本地点の層序は、第28次調査第１～４層に対応する。

**３．第19次調査**（第６図）

第19次調査は、史跡山中城跡北ノ丸跡、天守櫓跡の北方にあり、北ノ丸跡、天守櫓跡の構築された丘陵東側斜面と対岸願合寺Ａ遺跡のある狭い尾根間に発達した北西に開く谷部である。丘陵部標高は約580mで、谷部は標高約562mである。

本地点は北東斜面にあり、層全体が北東に傾斜している。




第５図　第30次調査の層序

第１層　暗褐色土層　粘性有り、締まり無し。粒径５～10mm大のラピリを多く含む。

第２層　暗褐色土層　粘性有り、締まり無し。全体に粒径５～10mm大のラピリを含む。粒子が粗くパサパサしている。ローム漸移層（ZN）で、下層と２層に分層される。

第３層　暗褐色土層　粘性やや有り、締まり無し。赤・黒色スコリアを含む。ローム漸移層（ZN）である。

第４層　黄褐色土層　粘性、締まり有り。粒径３mm大の赤・黒色スコリアを混入する。赤色スコリア多い。ソフトローム層で休場上層（YLU層）で、２層に分層される。

第５層　黄褐色土層　粘性、締まり有り。ソフトローム層で休場上層（YLU層）の下部である。

第６層　暗赤褐色土層　粘性弱く、締まり有り。粒径２～５mm大の赤色スコリアの団塊層で、休場第１スコリア層（YL－S１層）である。

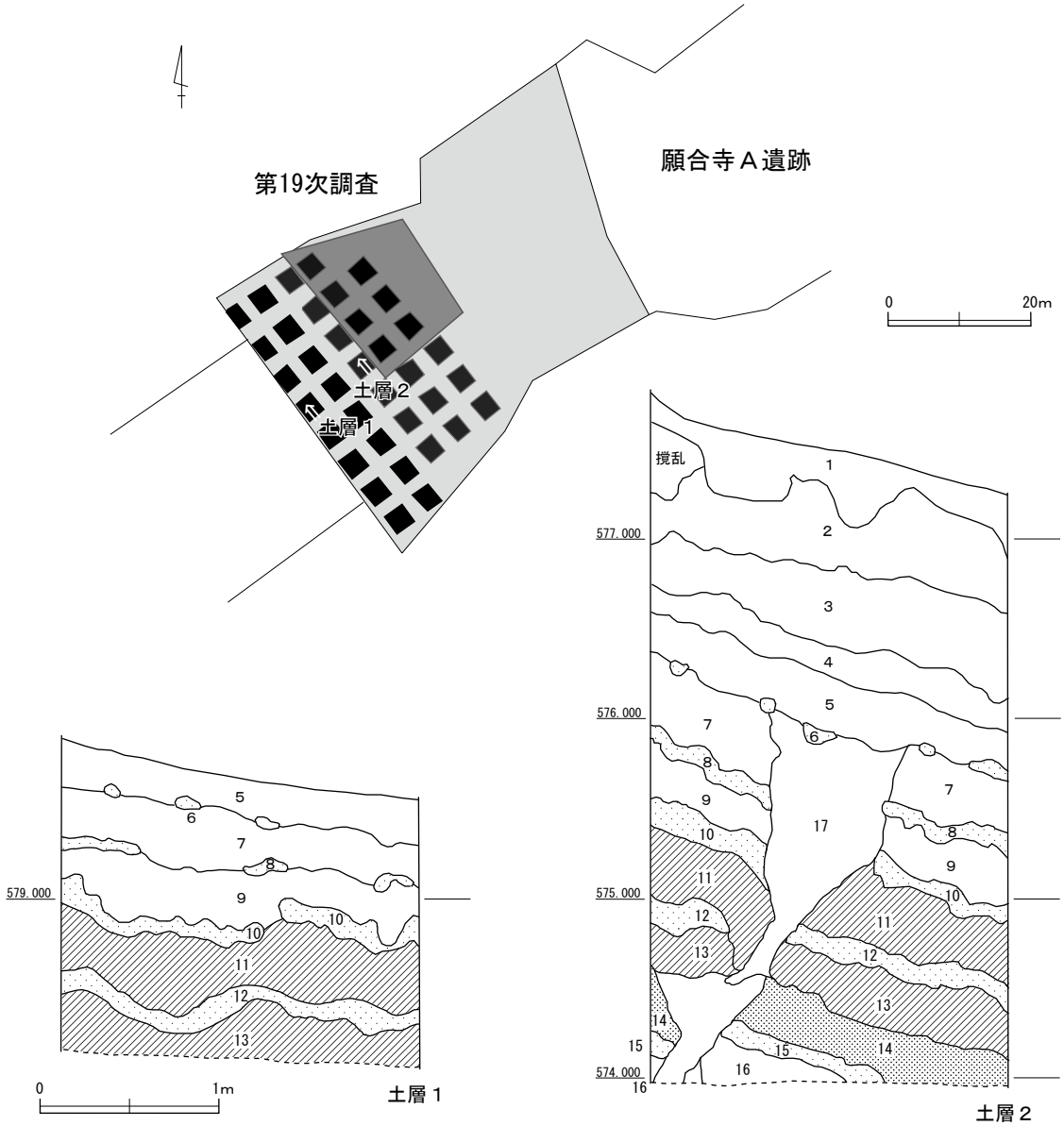
第７層　黄褐色土層　粘性やや有り、締まりやや強く、ややハードである。粒径３～10mm大の赤・黒色スコリアを多く含む。休場中層（YLM層）である。

第８層　暗赤褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径70mm大橙色スコリアの団塊層で、粒径１～２mm大の黒・赤色スコリアが密集する。休場第２スコリア層（YL－S２層）である。

第９層　黄褐色土層　粘性有り、締まり強い。ハードローム層である。粒径１～５mm大の赤・黒色スコリアを多く含む。休場中層（YLM層）よりスコリアの粒径小さい。休場下層（YLL層）である。

第10層　暗赤褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径50mm大の赤・黒・黄色スコリアの団塊層で、黄・黒色スコリアが多い。休場第３スコリア層（YL－S３層）である。

第11層　暗黄褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径３～５mm大の黄・黒色スコリアを多く含む。発泡し




第６図　第19次調査の層序

た黄色スコリアを多く含む。第０黒色帯（BB０層）である。

第12層　暗赤褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径５～10mm大の黄・黒色スコリア団塊層で、第Ⅰスコリア層（ScⅠ層）である。

第13層　暗褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径５mm大の黒色スコリアを多く含む。第Ⅰ黒色帯（BBⅠ層）である。

第14層　暗黄褐色土層　粘性有り、締まり非常に強い。粒径５mm大の赤・黒・黄色スコリアを混入する。ニセローム層（NL層）である。姶良・丹沢パミス（A・T）がある。

第15層　暗褐色土層　粘性有り、締まり強い。粒径５mm大の黒色スコリアを多く含む。第Ⅱ黒色帯（BBのSc大Ⅱ層）である。

第16層　暗赤褐色土層　粘性有り、締まり非常に強い。粒径５mm大の赤色スコリアを混入する。第Ⅱスコリア層（ScⅡ層）である。

第17層　暗褐色土層　粘性有り、締まり強い。YLM～YLLが不規則に入る撹乱層である。

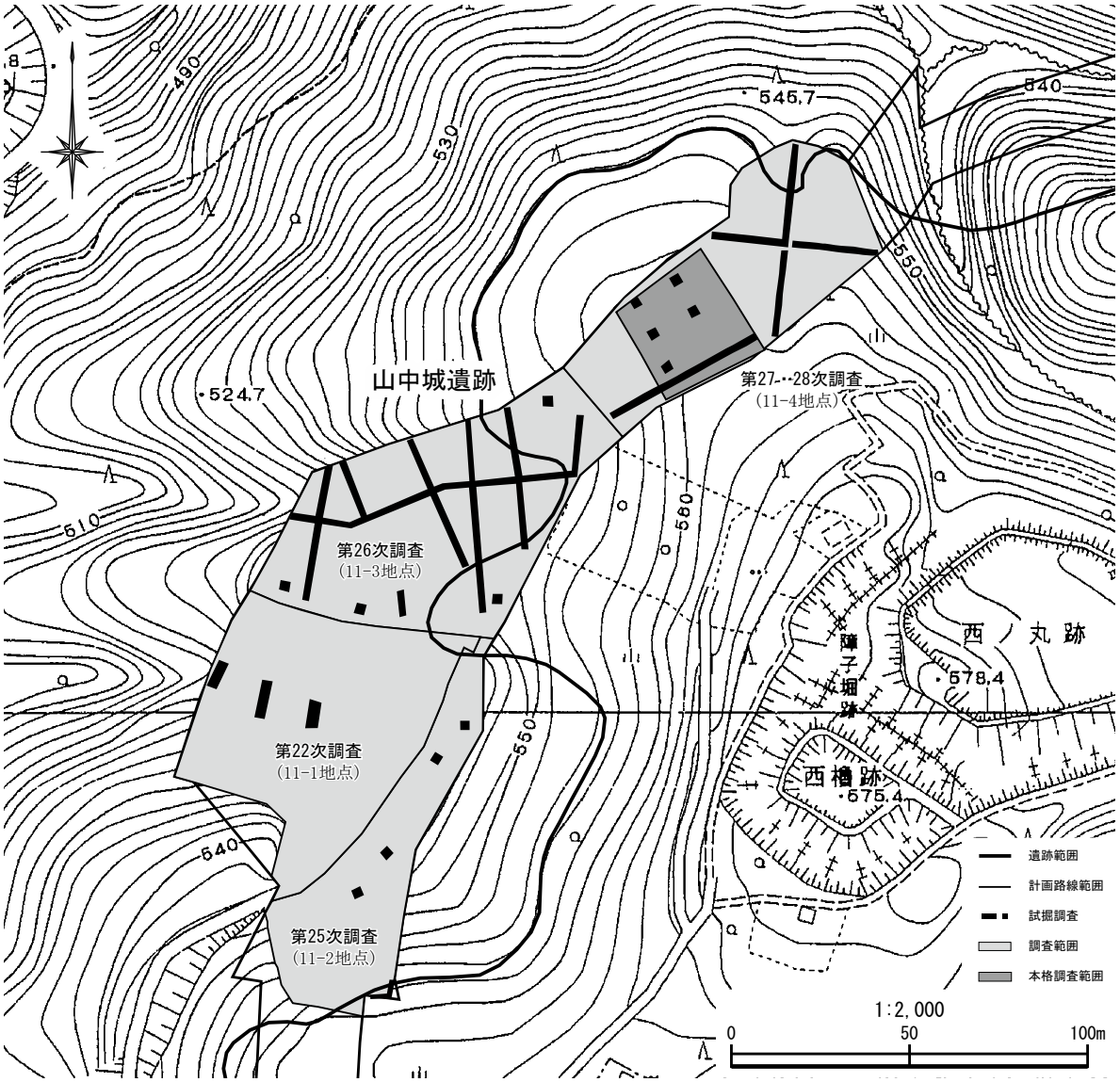
# 第２章　山中城遺跡第28次調査

（笹原山中バイパス第11－４地点）

## 第１節　遺跡の位置と調査の概要

本遺跡は、箱根山西麓の丘陵部に位置し、北西側を山田川、南東側を来光川に解析された幅200m程の狭い尾根上にあたり、山中城西ノ丸から北西方向に延びる丘陵部分に立地する（第７図）。

調査は、トレンチ調査とグリッド調査を併用して行い、トレンチ調査を行った谷部分には遺跡は確認されなかったが、グリッド調査を行った尾根上の緩斜面から縄文時代と旧石器時代の遺構と遺物が検出された。このため、尾根上の960㎡を対象に本格調査を行い、その結果、縄文時代では集石が３基とそれに伴う縄文時代前期の土器と石器が出土した。続いて旧石器時代ではYLM層中位から計1,523点の遺物が検出され、10箇所の石器ブロックと６基の礫群として確認された。

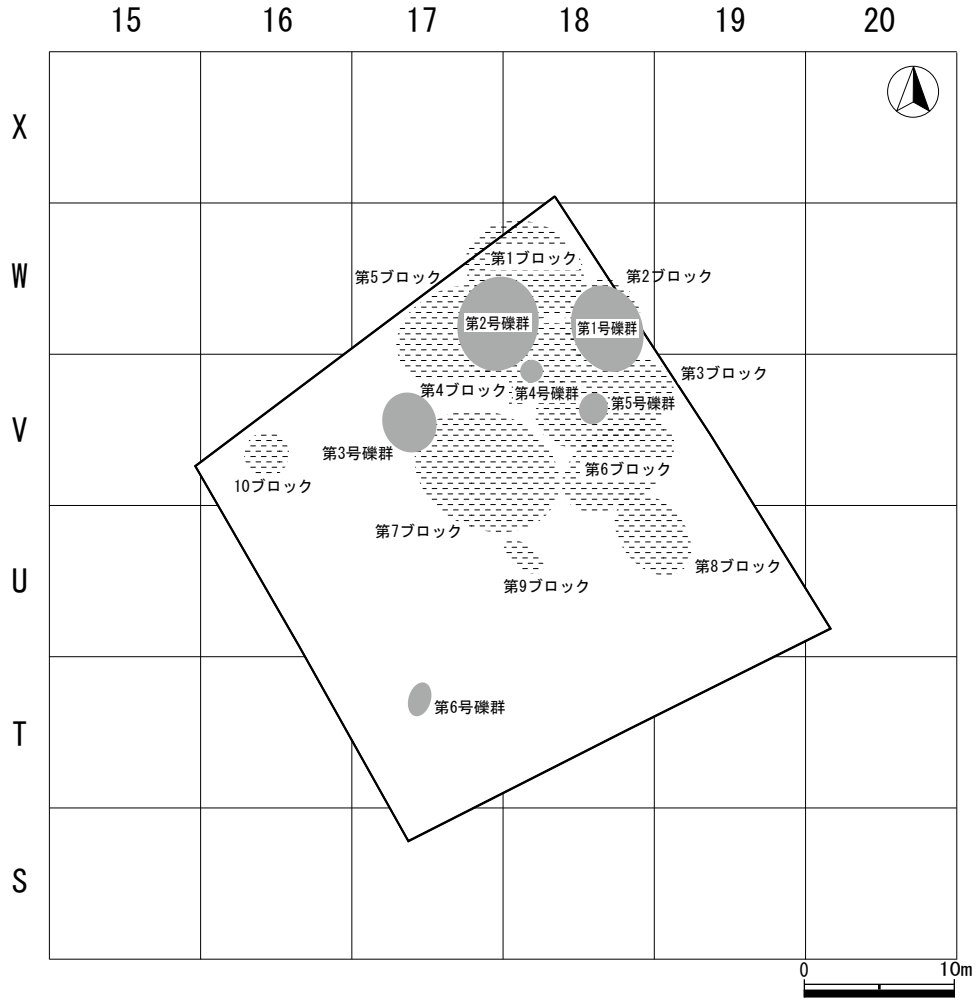



第７図　第22・25～28次調査の調査範囲と周辺の地形

# 第２節　旧石器時代の遺構と遺物

## １．検出された遺構

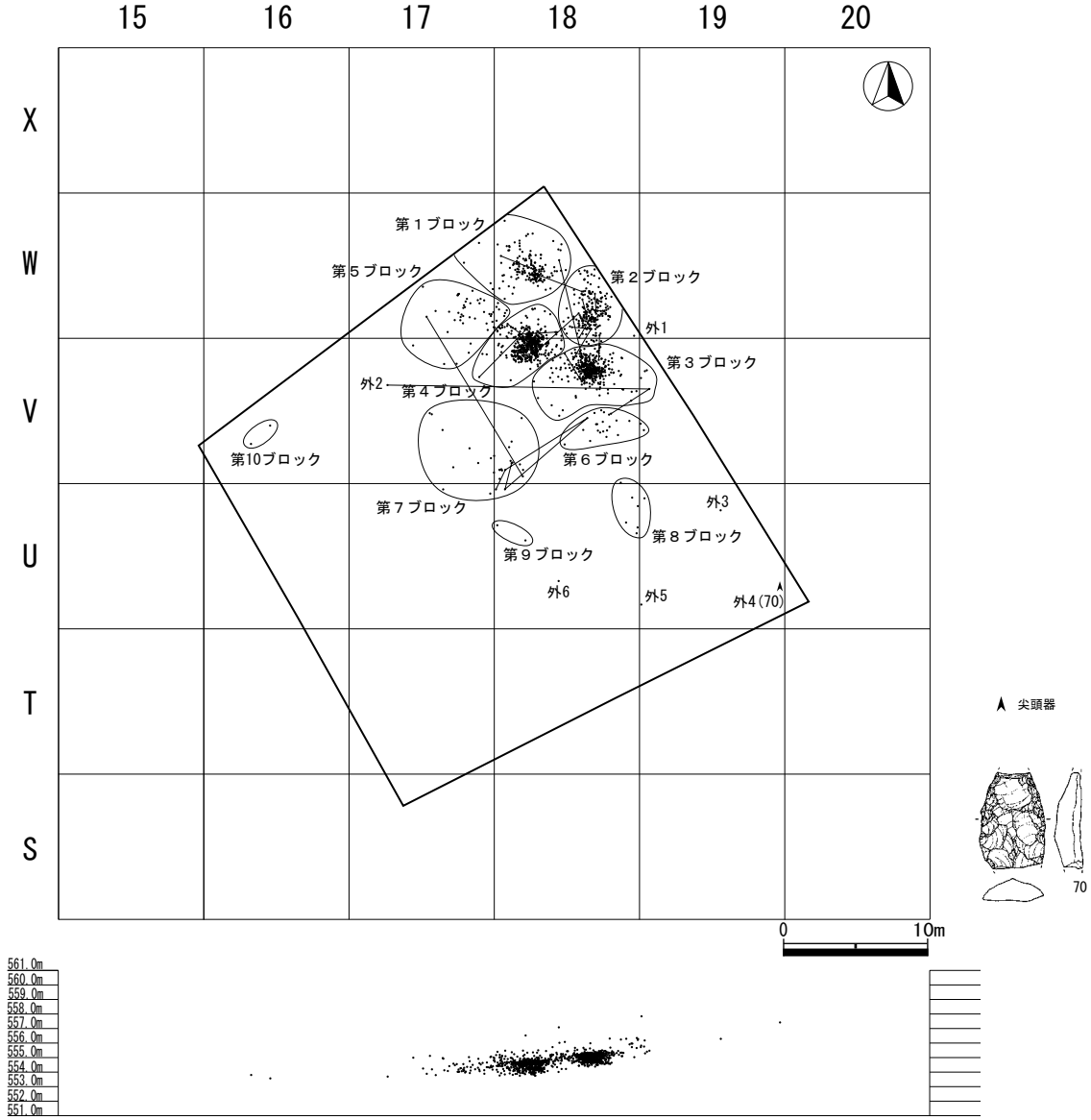
本地点からは、山中城西ノ丸跡から北西方向に延びる丘陵頂部付近に旧石器時代の遺物群が検出され、石器1,484点、礫39点の計1,523点の遺物が出土した。これらの遺物群は、その出土状況から10箇所の石器ブロックと６基の礫群として認識された。




第８図　第28次調査のブロックと礫群の分布

### （1）ブロック

ブロックは、本格調査区の北側コーナー部分に第１～第９の９箇所のブロックが集中して検出され、第10ブロックはやや西方向に離れて確認された（第９図）。

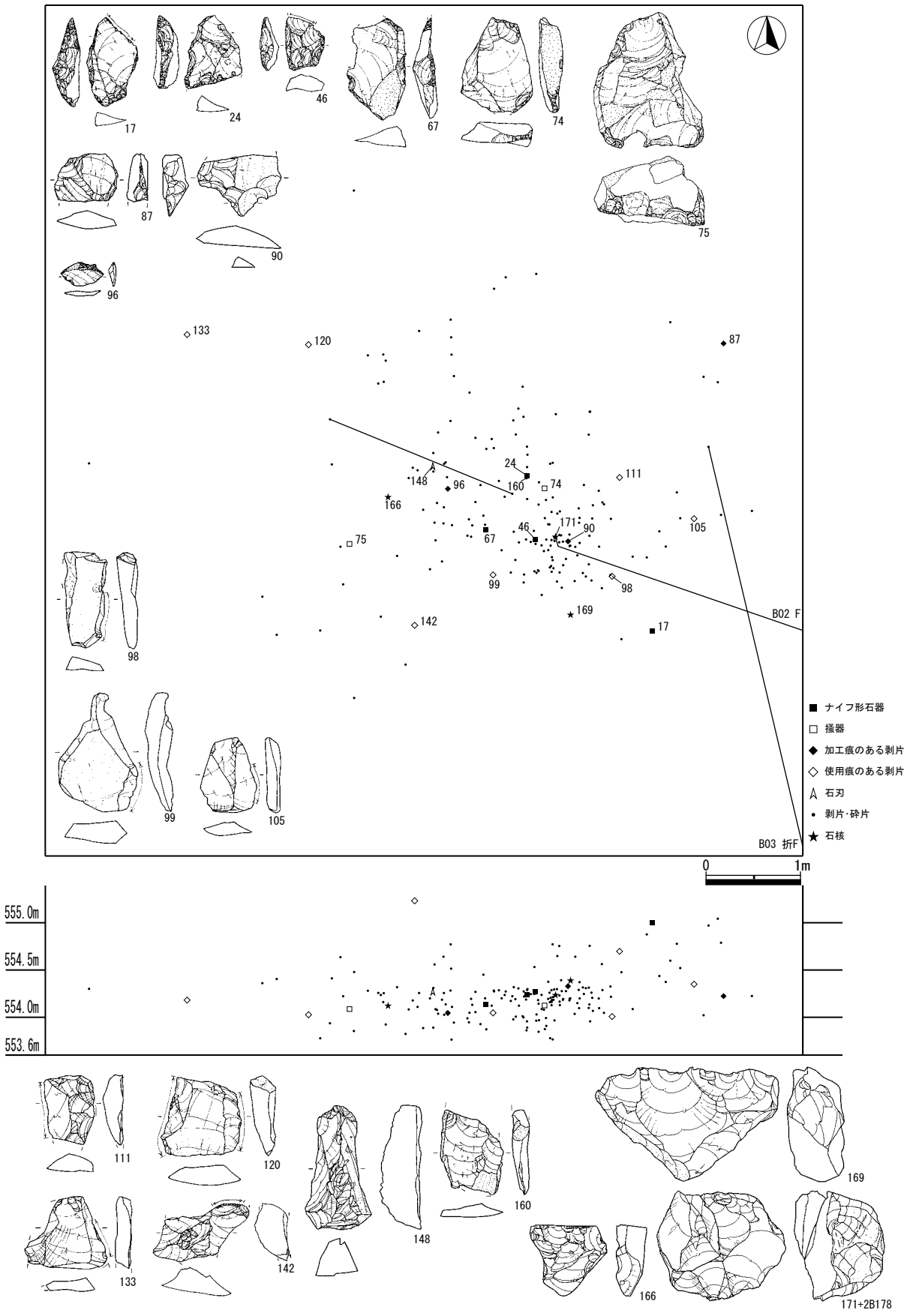



第９図　第28次調査のブロックとブロック外出土石器の分布

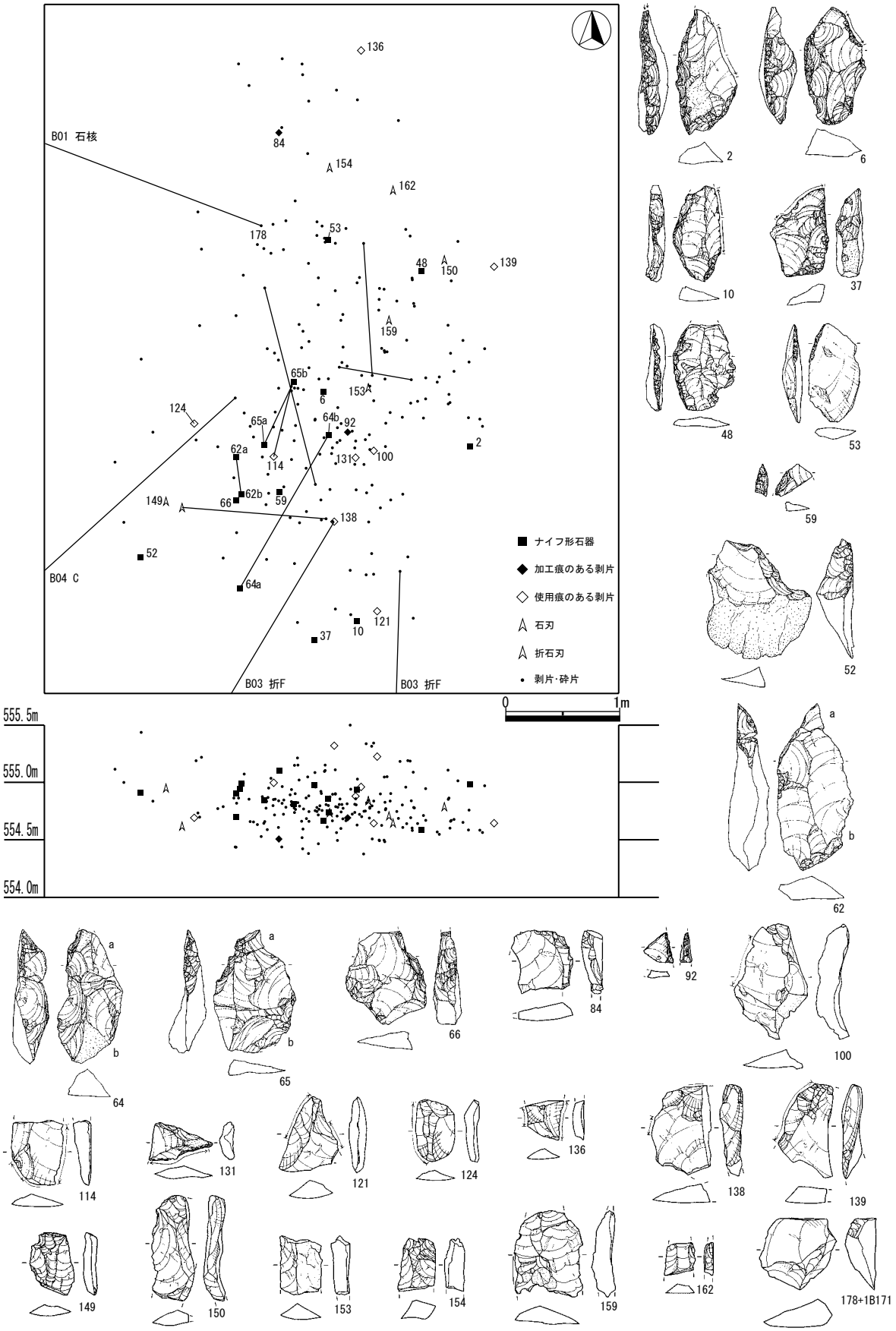
**第１ブロック**（第10図）

本ブロックはW－17・18グリッドで確認され、調査範囲の北西端部に位置している。このため石器分布の北西部分は調査範囲外にある可能性がある。南東に第２ブロック、南に第４ブロック、南西に第５ブロックが隣接している。南側に第２号礫群が重複する。石器分布範囲の規模は、長径3.5m、短径2.7mで、東西に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲の南東に集中している。垂直分布は、標高553.751mから554.234mであり、高低差は148.3cmである。層位はZN－１～BB０層である。

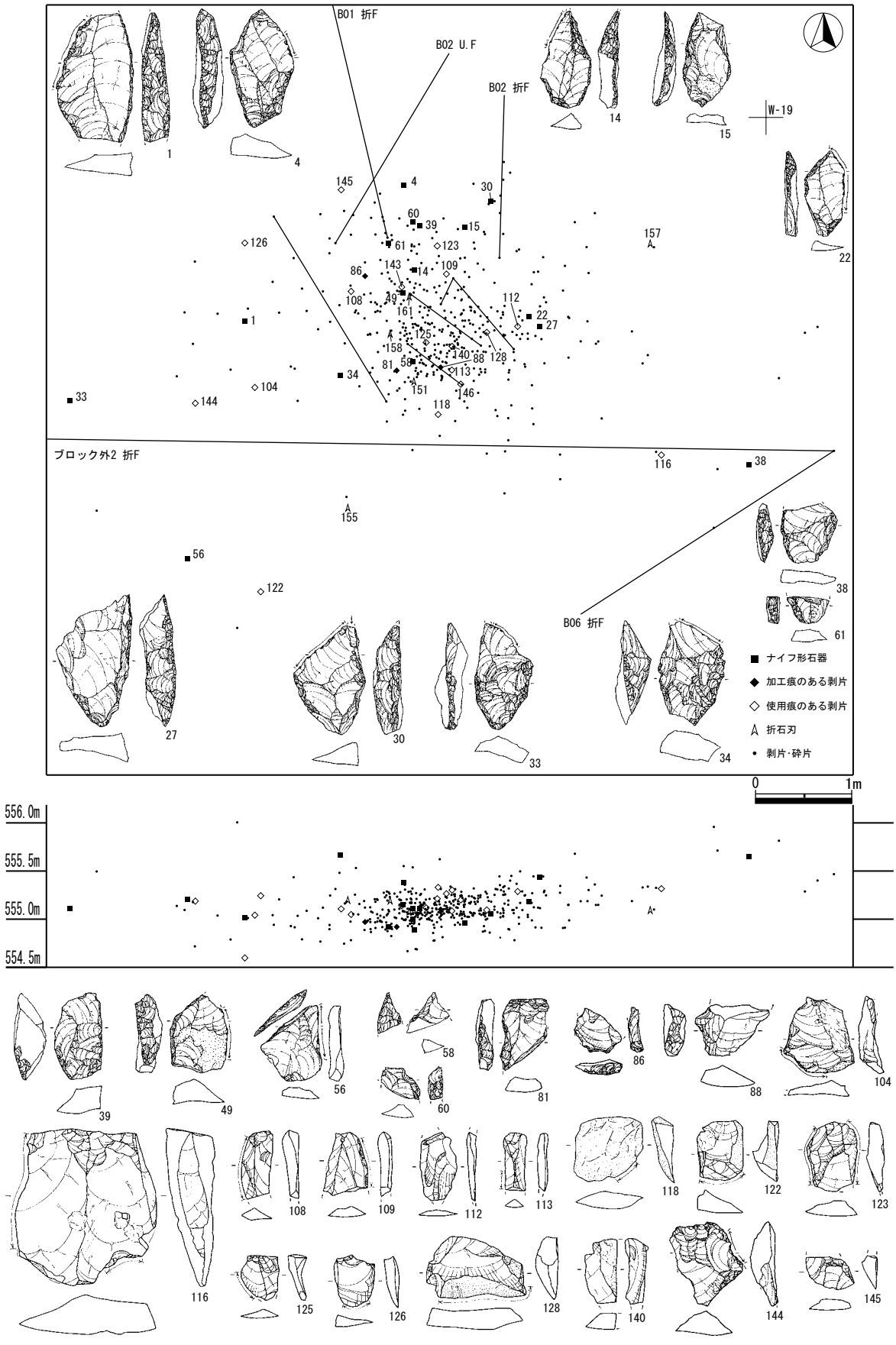
出土石器は、ナイフ形石器４点、掻器２点、加工痕のある剥片３点、使用痕のある剥片７点、剥片93点（内折剥片33点）、石刃１点、石核３点、砕片72点で合計184点である。接合資料は３例認められ、他ブロックとの接合関係は、第２・３ブロックである。個体別資料は18個体あり、安山岩１個体、黒曜石17個体である。



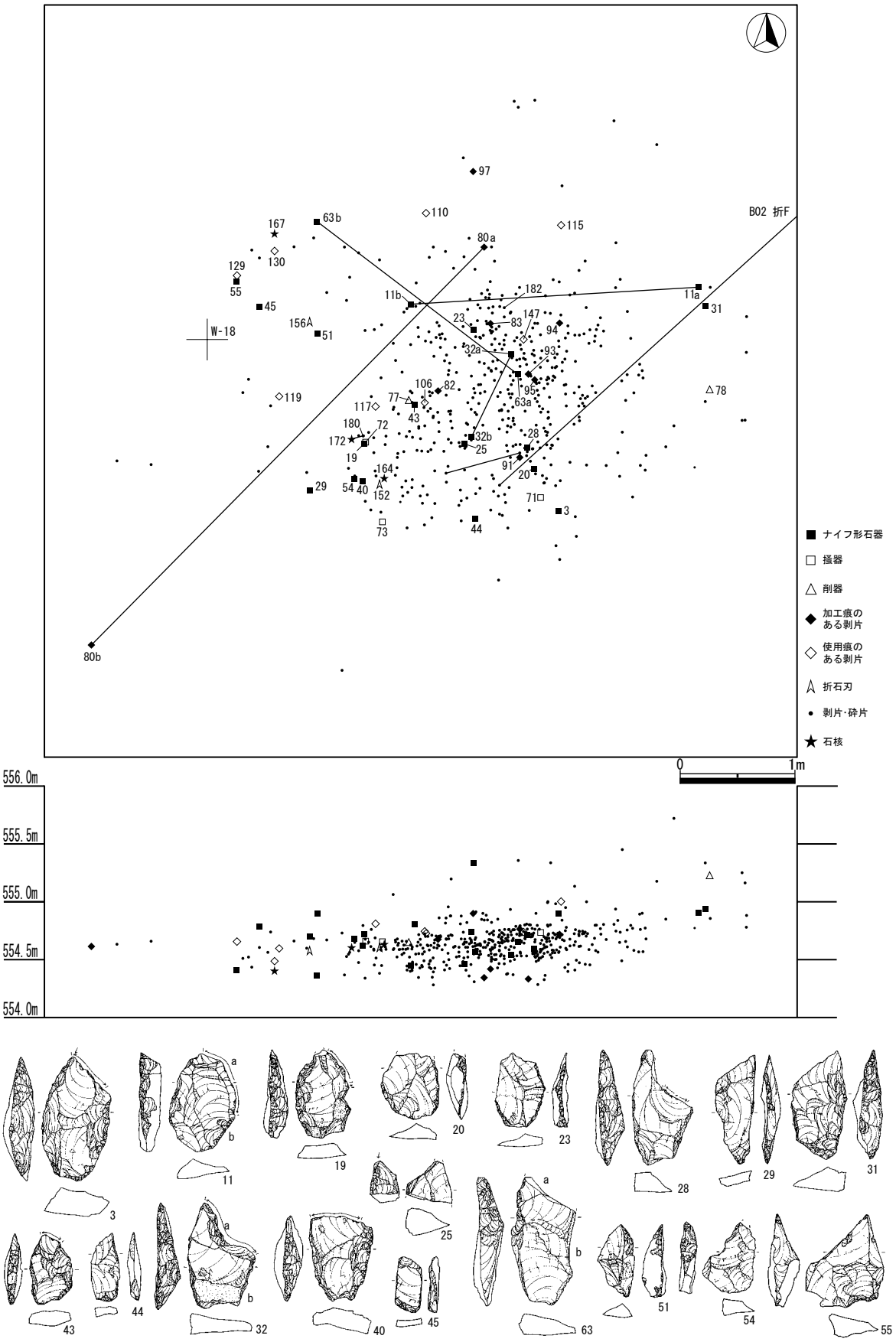

第10図　第28次調査第１ブロック石器分布図




第11図　第28次調査第２ブロック石器分布図




第12図　第28次調査第３ブロック石器分布図




第13図　第28次調査第４ブロック石器分布図

第４ブロック石器分布図

**第２ブロック**（第11図）

本ブロックはＶ・Ｗ－18グリッドで確認され、調査範囲の北東端部に位置している。このため、北側に石器分布範囲が延びている可能性がある。西に第１ブロック、南西に第４ブロック、南に第３ブロックが隣接している。第１号礫群が重複する。石器分布範囲の規模は、長径5.6m、短径3.9mで、南北に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲の中央部に集中している。垂直分布は、標高554.378mから555.500mであり、高低差は112.2cmである。層位はZN－１～YLL層である。

出土石器は、ナイフ形石器15点、加工痕のある剥片２点、使用痕のある剥片８点、剥片106点（内折剥片41点）、石刃７点（内折石刃６点）、砕片78点で合計216点である。接合資料は12例認められ、他ブロックとの接合は、第１・３・４ブロックと接合関係がある。個体別資料は19個体あり、全て黒曜石である。

**第３ブロック**（第12図）

本ブロックはＶ－18・19グリッドで確認され、調査範囲の中央部北寄りに位置している。南に第６ブロック、西に第７ブロック、北に第２・４ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径8.2m、短径5.4mで、東西に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲の中心部に集中している。垂直分布は、標高554.594mから556.016mであり、高低差は142.2cmである。層位はZN－１～YLL層である。

出土石器は、ナイフ形石器16点、加工痕のある剥片３点、使用痕のある剥片17点、剥片195点（内折剥片95点）、折石刃５点、砕片217点で合計453点である。接合資料は８例認められ、他ブロックとの接合は、本ブロックと第１ブロック１例、第２ブロック２例、本ブロックと第６ブロック・ブロック外出土石器２の接合１例、本ブロック内接合４例である。個体別資料は25個体あり、全て黒曜石個体である。

**第４ブロック**（第13図）

本ブロックはＶ・Ｗ－17・18グリッドで確認され、調査範囲の北側中央部に位置している。北に第１・５ブロック、東に第２ブロック、南に第３ブロック、南西に第７ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径6.6m、短径5.3mで、北東から南西に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲の中央部に集中している。垂直分布は、標高554.282mから555.721mであり、高低差は143.9cmである。層位はZN－１～BB０層である。

出土石器は、ナイフ形石器21点（未製品２点）、掻器３点、削器２点、加工痕のある剥片９点、使用痕のある剥片８点、剥片146点（内折剥片52点）、折石刃２点、石核３点、砕片317点で合計511点である。接合資料は７例認められ、他ブロックとの接合は、本ブロックと第２ブロック１例である。ブロック内は６例認められる。個体別資料は28個体あり、ホルンフェルス２個体、黒曜石26個体である。

**第５ブロック**（第14図）

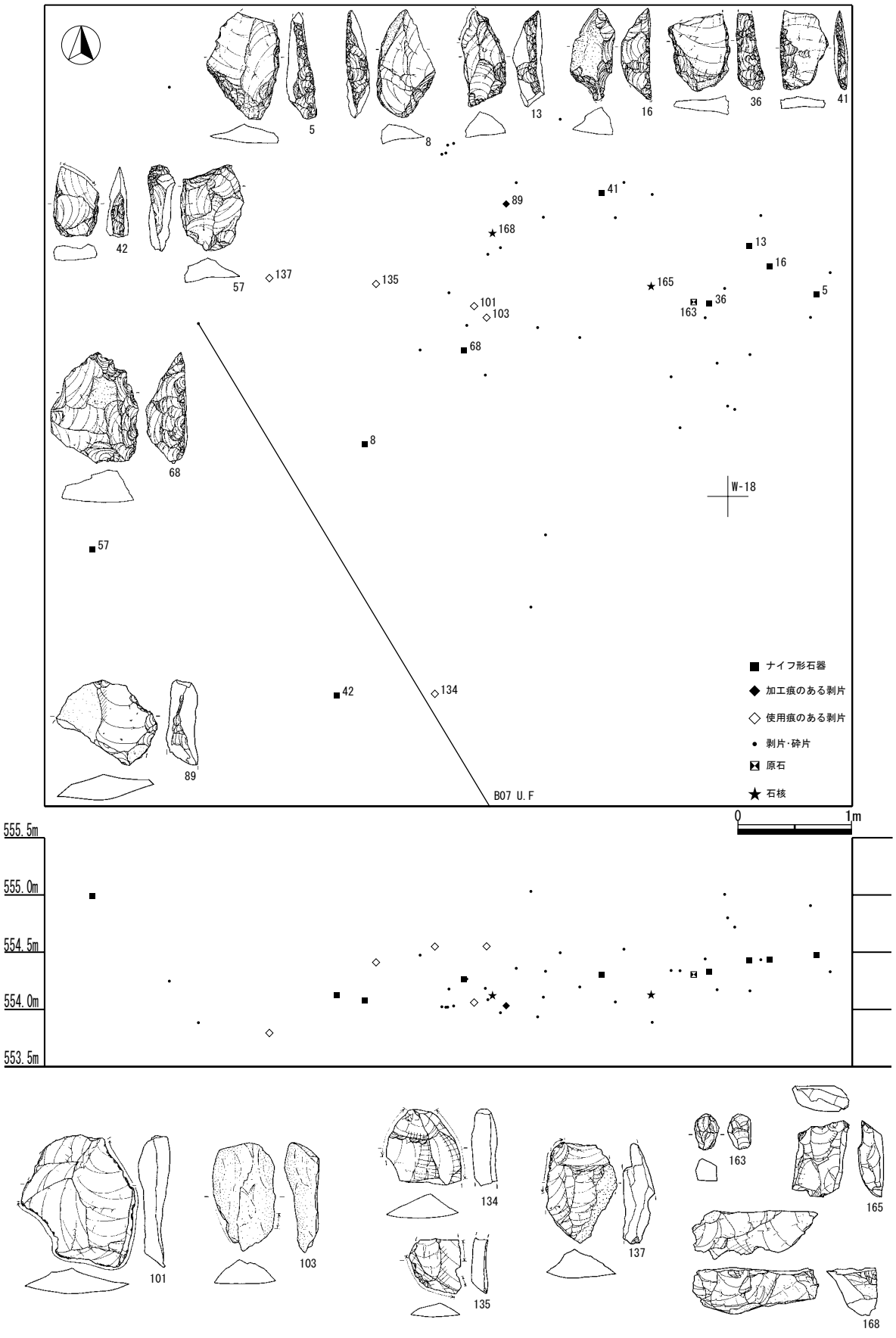
本ブロックはＶ・Ｗ－17・18グリッドで確認され、調査範囲の北端部に位置している。このため石器分布の北西部分は調査範囲外にある可能性がある。東に第１ブロック、南に第４・７ブロック、西に第３号礫群が隣接し、第10ブロックが約13m隔てて位置している。第２号礫群が重複する。石器分布範囲の規模は、長径6.9m、短径6.0mで、幅広な楕円形を呈している。石器は分布範囲の北東に集中しているが、集中度は低い。垂直分布は、標高553.794mから555.031mであり、高低差は123.7cmである。層位はZN－１～YLL層である。

出土石器は、ナイフ形石器９点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片５点、剥片25点（内折剥片10点）、原石１点、石核２点、砕片８点で合計51点である。接合資料は１例認められ、本ブロックと第７ブロックである。個体別資料は21個体あり、頁岩１個体、流紋岩１個体、ホルンフェルス３個体、黒曜石16個体である。

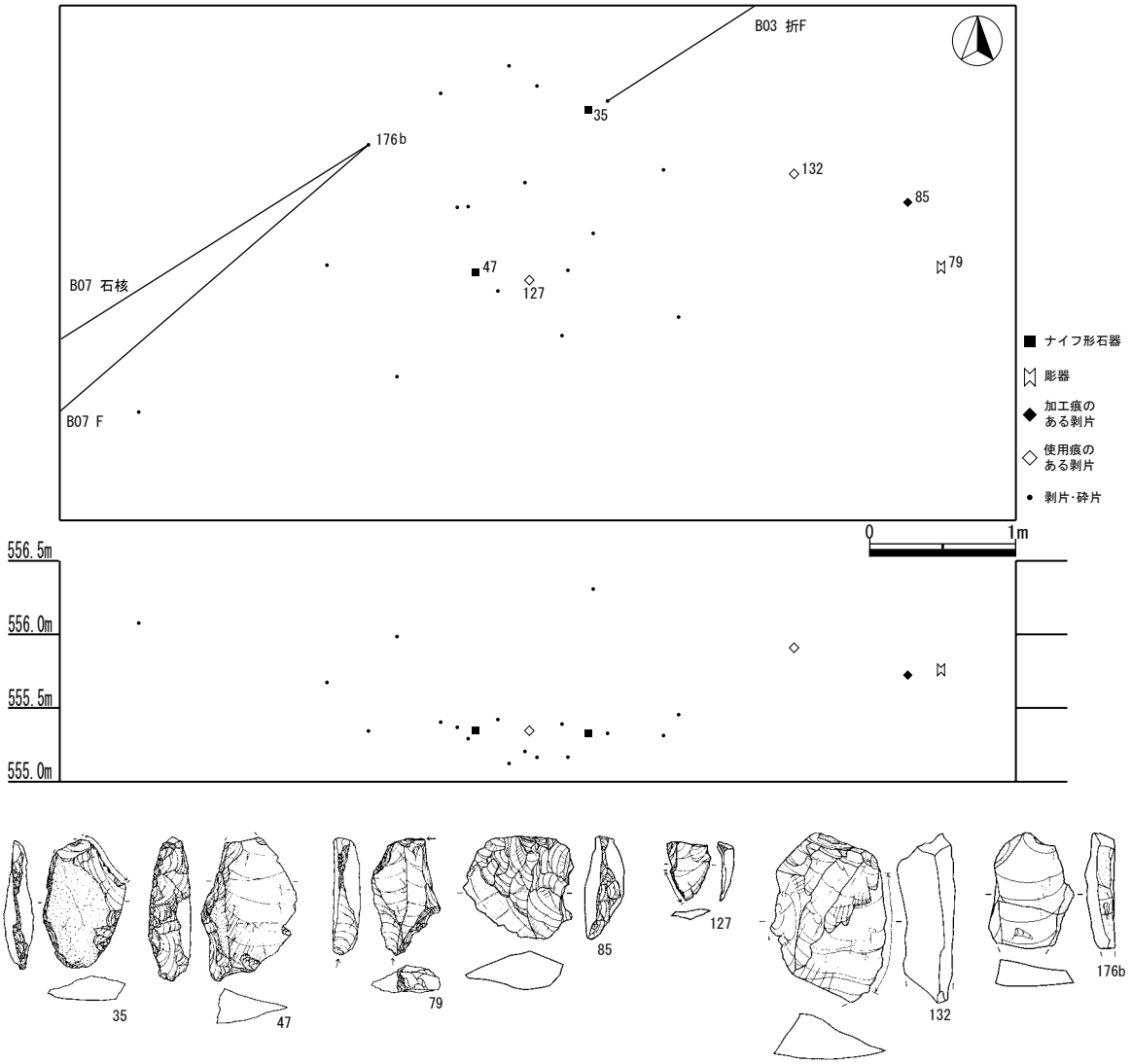
**第６ブロック**（第15図）

本ブロックはＵ・Ｖ－18・19グリッドで確認され、調査範囲の中央東寄りに位置している。北に第３ブロック、南に第８ブロック、西に第４・９ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径5.6m、短径2.1mで、東西に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲の中央部に散在している。垂直分布は、標高555.122mから556.308mであり、高低差は118.6cmである。層位はZN－１～YLL層である。

出土石器は、ナイフ形石器２点、彫器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片２点、剥片15点（内折剥片７点）、砕片２点で合計23点である。接合資料は２例認められ、他ブロックとの接合は、本ブロック剥片と第７ブロック剥片・折剥片・石核、本ブロック折剥片と第３ブロック折剥片とブロック外出土石器２の折剥片の接合例である。個体別は８個体あり、全て黒曜石個体である。




第14図　第28次調査第５ブロック石器分布図




第15図　第28次調査第６ブロック石器分布図

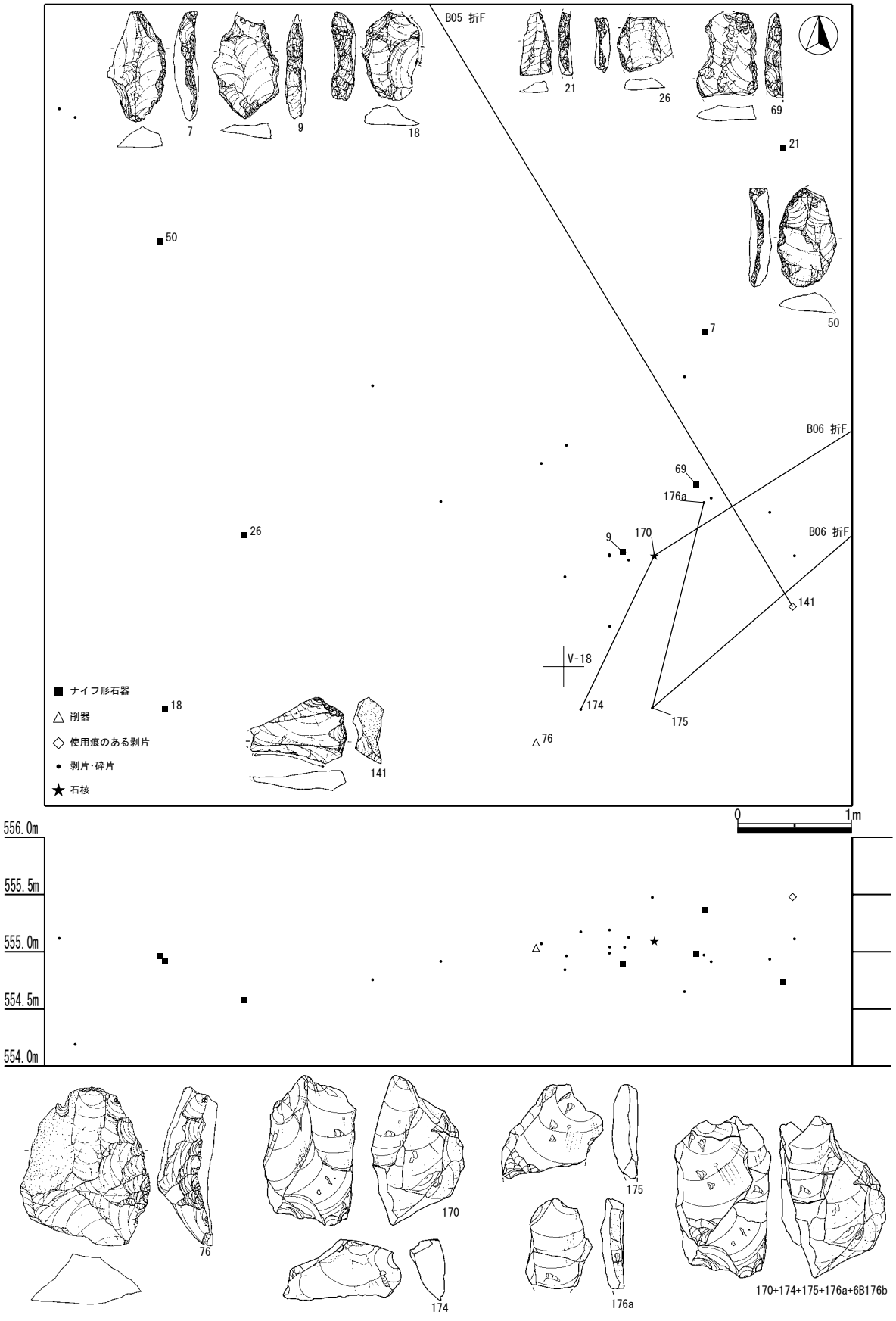
**第７ブロック**（第16図）

本ブロックはU・V－17・18グリッドで確認され、調査範囲の中央部北寄りに位置している。東に第３・４・６ブロック、南に第９ブロック、北東に第５ブロックが隣接し、北西に第10ブロックが約10m隔てて存在している。石器分布範囲の規模は、長径7.8m、短径7.1mで、幅広の楕円形を呈している。石器は分布範囲の南東に多いが散漫な分布である。垂直分布は、標高554.191mから555.479mであり、高低差は128.8cmである。層位はZN－１～YLL層である。

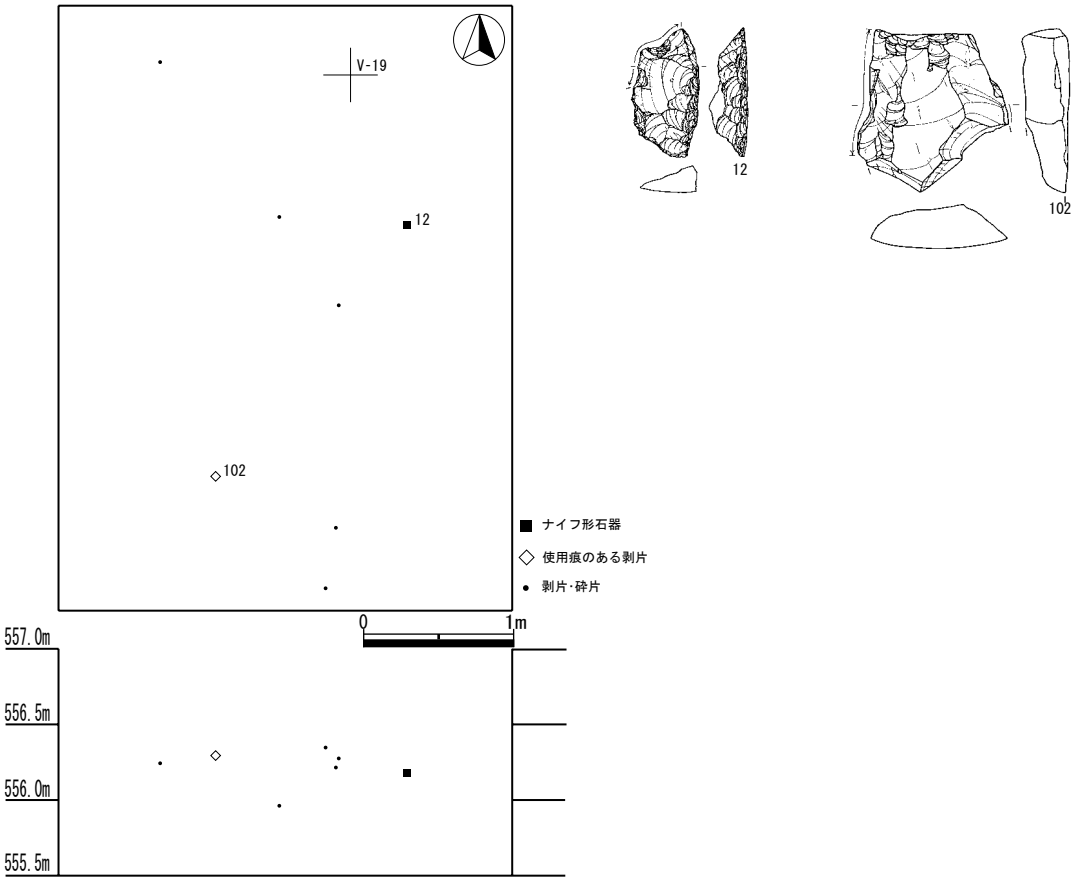
出土石器は、ナイフ形石器７点、削器１点、使用痕のある剥片１点、剥片17点（内折剥片８点）、石核１点、砕片２点で合計29点である。接合資料は２例認められ、他ブロックとの接合は、本ブロック折剥片・石核と第６ブロック折剥片、本ブロック使用痕のある剥片と第５ブロック折剥片の２例である。個体別資料は14個体あり、全て黒曜石個体である。

**第８ブロック**（第17図）

本ブロックはU・V－18･19グリッドで確認され、調査範囲の南に位置している。北３mに第６ブロック、北西５mに第７ブロック、西５mに第９ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径3.6m、短径2.1mで、南北に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲全体に散在している。垂直分布は、標高



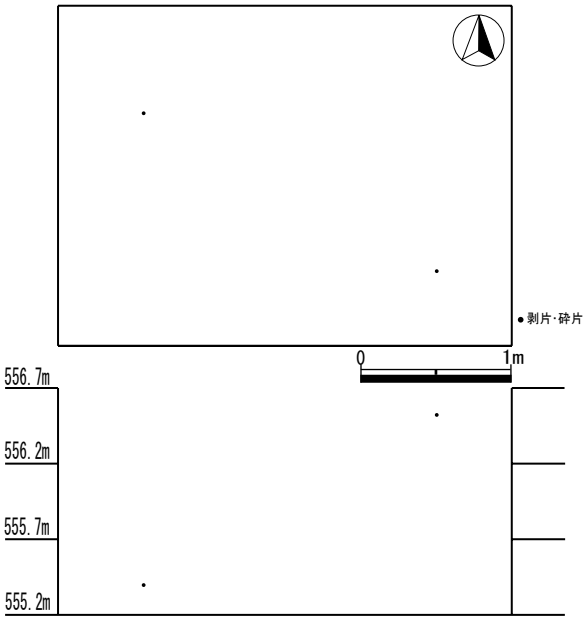

第16図　第28次調査第７ブロック石器分布図




第17図　第28次調査第８ブロック石器分布図

555.962mから556.347mであり、高低差は28.1cmである。層位はYLU～YLM層である。

出土石器は、ナイフ形石器１点、使用痕のある剥片１点、剥片５点（内折剥片３点）で合計７点である。接合資料は認められない。個体別資料は６個体あり、全て黒曜石個体である。




第18図　第28次調査第９ブロック石器分布図

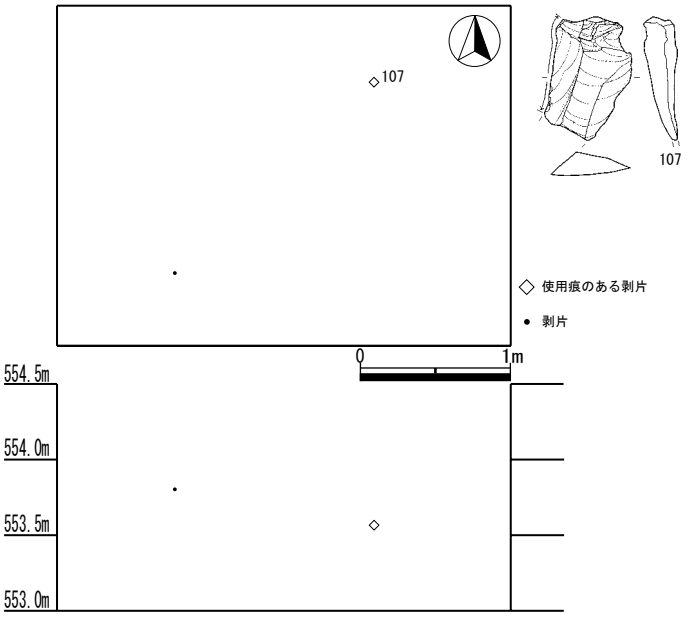
**第９ブロック**（第18図）

本ブロックはU－18グリッドで確認され、調査範囲の中央部西寄りに位置している。東5.2mに第８ブロック、北に第７ブロックが隣接している。本ブロックは２点の石器が4.3m隔てて出土している。垂直分布は、標高555.397mから556.522mであり、高低差は112.5cmである。層位はZN－１～YLM層である。

出土石器は剥片１点、砕片１点で合計２点である。接合資料は認められない。個体は２個体で、全て黒曜石個体である。

**第10ブロック**（第19図）

本ブロックはV－16グリッドで確認され、調査範囲の北西端部に位置している。南東約９mに第７ブロック、東約10mに第５ブロックがある。調査範囲北東側に本文化層ブロックは集中するが、本ブロックのみそ




第19図　第28次調査第10ブロック石器分布図

の集中から離れている。個体別資料は他のブロックと共有しており同一文化層を形成していると判断する。

石器分布は、２点の石器が約1.7m隔てて出土した。垂直分布は、標高553.567mから553.803mであり、高低差は23.6cmである。層位はZN－１層である。

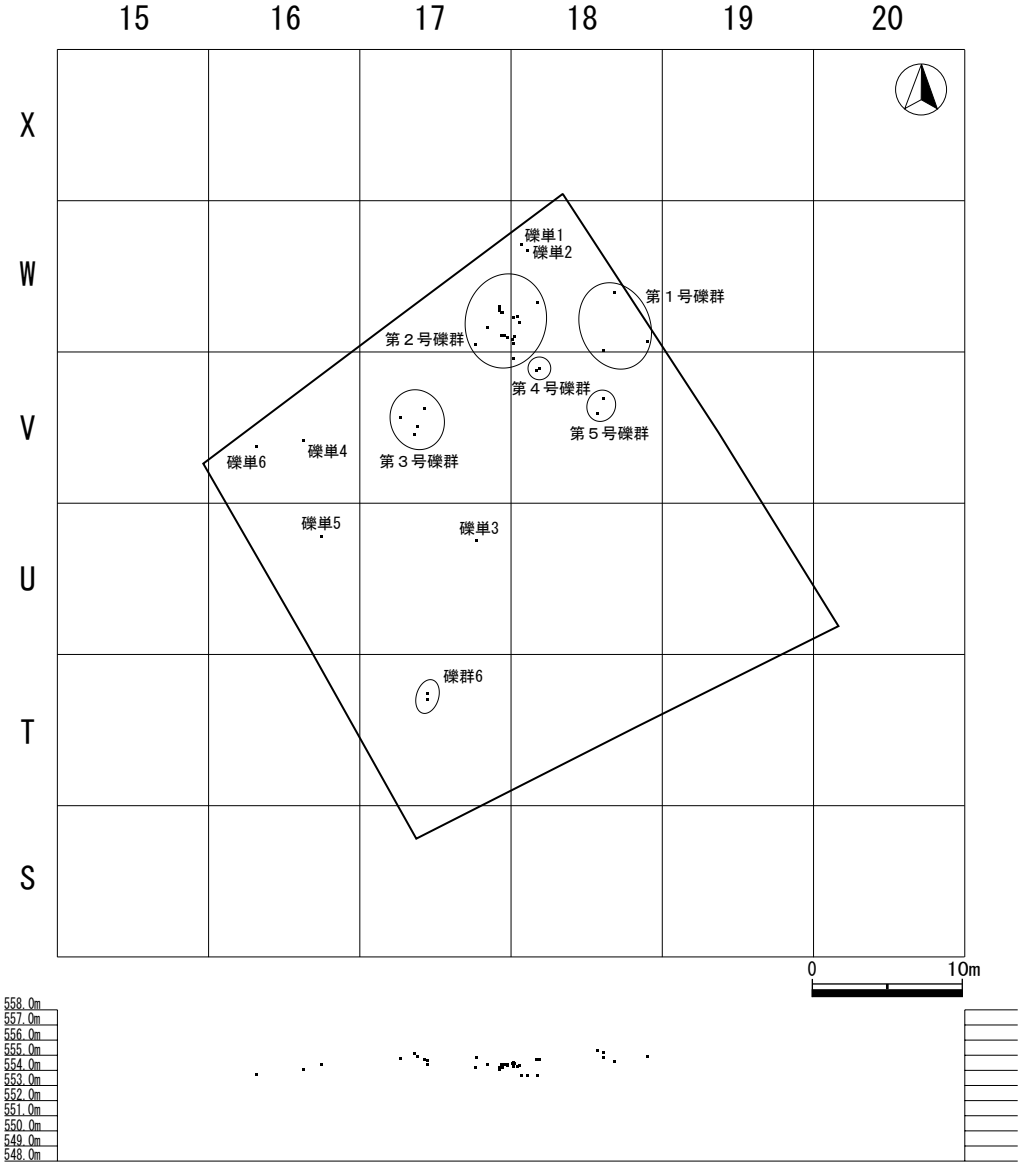
出土石器は、使用痕のある剥片１点、折剥片１点の合計２点である。接合資料は認められない。個体別資料は２個体あり、全て黒曜石個体である。

**ブロック外の石器**（第９図）

前述した10ヶ所の石器ブロックのほかに、６点のブロック外出土石器がある。ブロック外出土石器１は調査範囲北東部分W－18グリッド南東端にあり、第２・３ブロックに隣接する。黒曜石製折剥片である。ブロック外出土石器２は調査範囲の北端部Ⅴ－17グリッドにあり、東に第５ブロック、南に第７ブロックがある。黒曜石製折剥片である。ブロック外出土石器３は調査範囲南東端部U－19グリッドにあり、西に第８ブロックがある。黒曜石製剥片である。ブロック外出土石器４は，調査範囲南東端部U－19グリッドにあり、西に第８ブロックがある。黒曜石製尖頭器である。ブロック外出土石器５は、調査範囲南東端部U－19グリッドにあり、西に第８ブロックがある。黒曜石製剥片である。ブロック外出土石器６は、調査範囲南東端部U－18グリッドにあり、西に第８ブロックがある。黒曜石製剥片である。

### （２）礫　群

礫群は計６基検出された。分布状況としては、第１号礫群から第５号礫群の５基が調査区の北側にまとまって検出され、第６号礫群の１基が南側にやや離れて単独で確認された（第20図）。




第20図　第28次調査の礫群と単独礫の分布

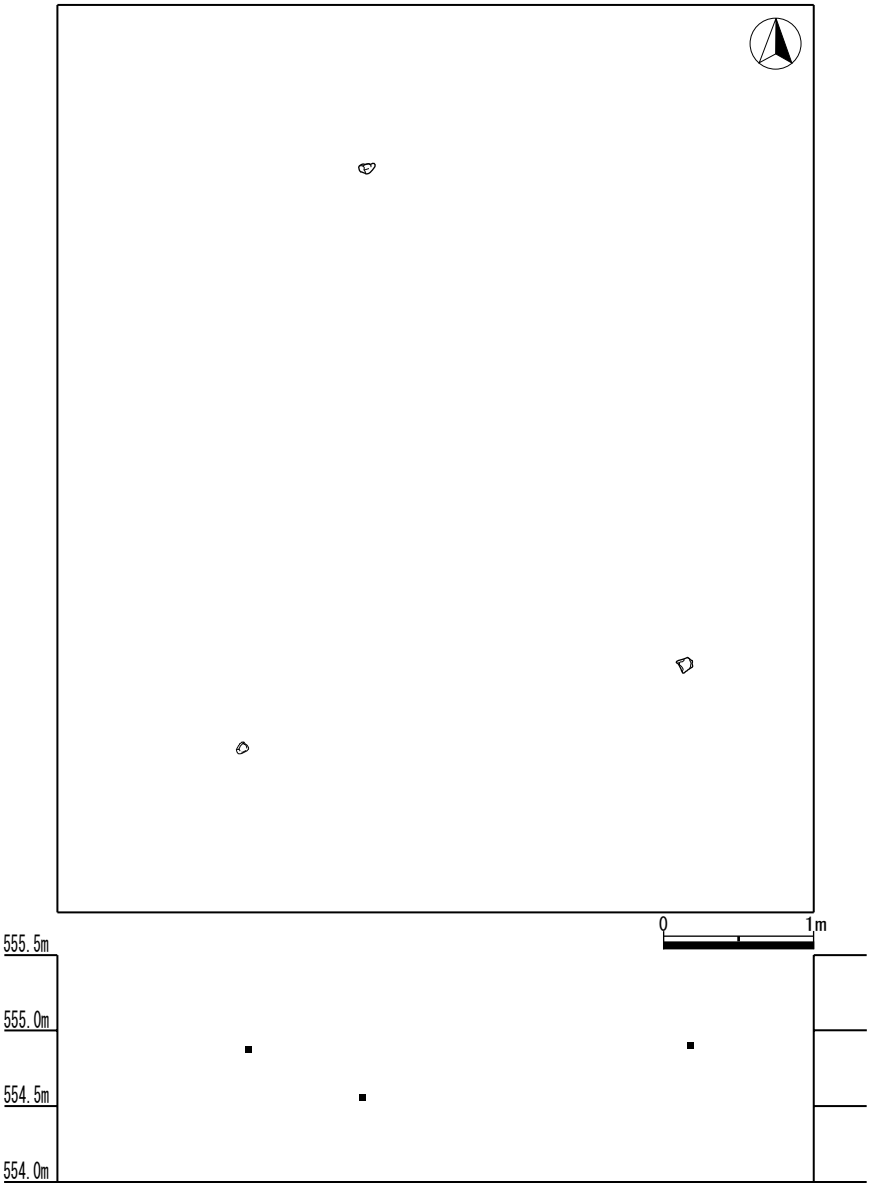
**第１号礫群**（第21図）

本礫群はW－18グリッドで確認され、調査範囲の北端部付近に位置している。第２ブロックと重複している。南に第３ブロック・第４号礫群、西に第４ブロック・第６号礫群、北西に第１ブロックが隣接している。礫分布範囲の規模は、長径4.7m、短径3.0mで、二等辺三角形を呈している。構成する礫は３点で、散漫な分布である。垂直分布は、標高554.556mから554.902mであり、高低差は30.6cmである。層位はYLM層である。

出土礫の石材はいずれも安山岩である。礫の状態は２点が完形礫である。欠損礫は赤化している。接合資料はない。

**第２号礫群**（第22図）

本礫群はＶ・W－17・18グリッドで確認され、調査範囲の北端部付近に位置している。第１・４・５ブロ




第21図　第28次調査第１号礫群分布図

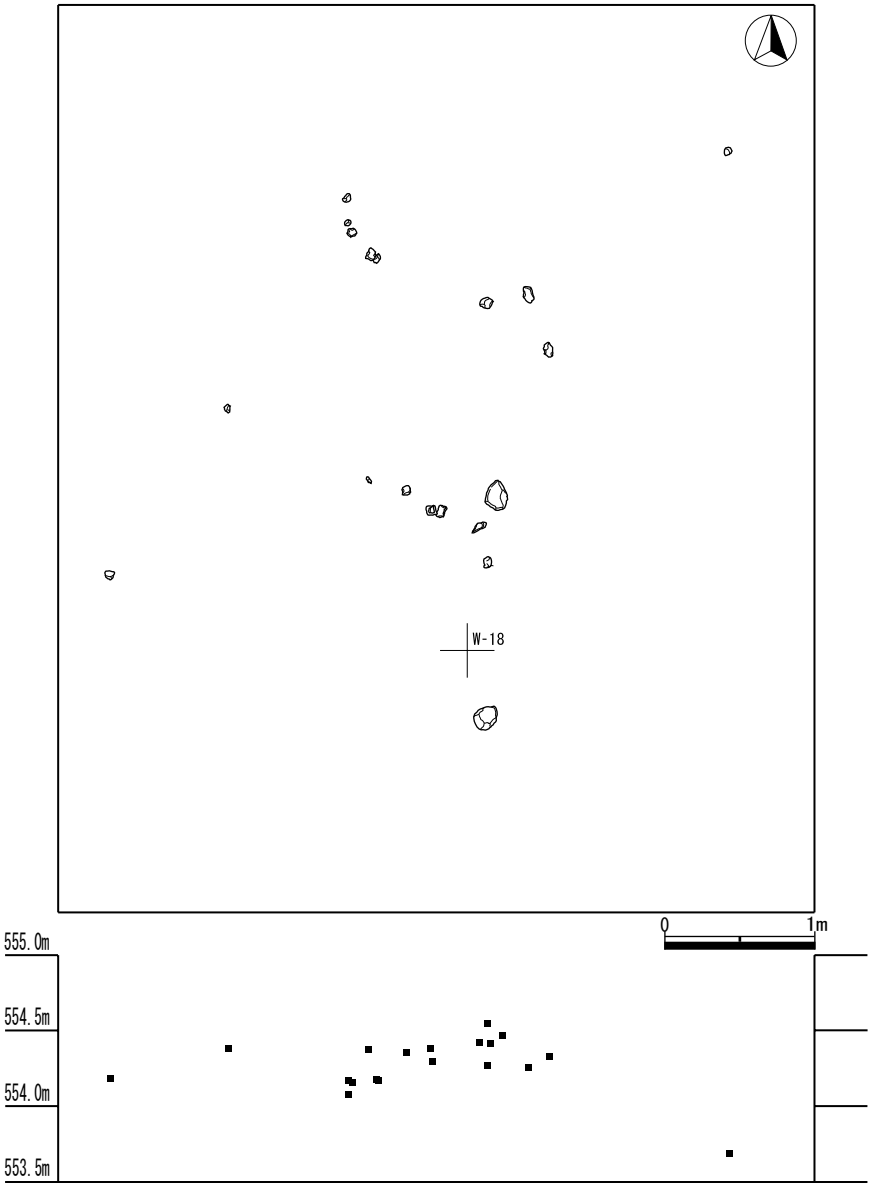
ックと重複している。南に第４ブロック・第４号礫群、南東に第２ブロック・第１号礫群が隣接している。礫分布範囲の規模は、長径3.9m、短径3.1mで、不整楕円形を呈している。構成する礫は19点で、散漫な分布である。垂直分布は、標高553.691mから554.546mであり、高低差は85.5cmである。層位はYLM～BB０層である。

出土礫の石材は全て安山岩である。10点が完形礫である。赤化礫は15点である。煤が付着する礫はいずれも赤化礫で２点認められる。接合資料はない。

**第３号礫群**（第23図）

本礫群はＶ－17グリッドで確認され、調査範囲の北側中央部に位置している。南東に第７ブロック、北東に第５ブロック・第２号礫群が隣接している。礫分布範囲の規模は、長軸1.7m、短軸1.4mで、直角三角形を呈している。構成する礫は４点で、散漫な分布である。垂直分布は、標高554.752mから555.113mであり、高低差は36.1cmである。層位はZN－１層である。

出土礫の石材は安山岩２点、ホルンフェルス２点である。いずれも赤化した欠損礫であるが、接合資料は




第22図　第28次調査第２号礫群分布図

ない。

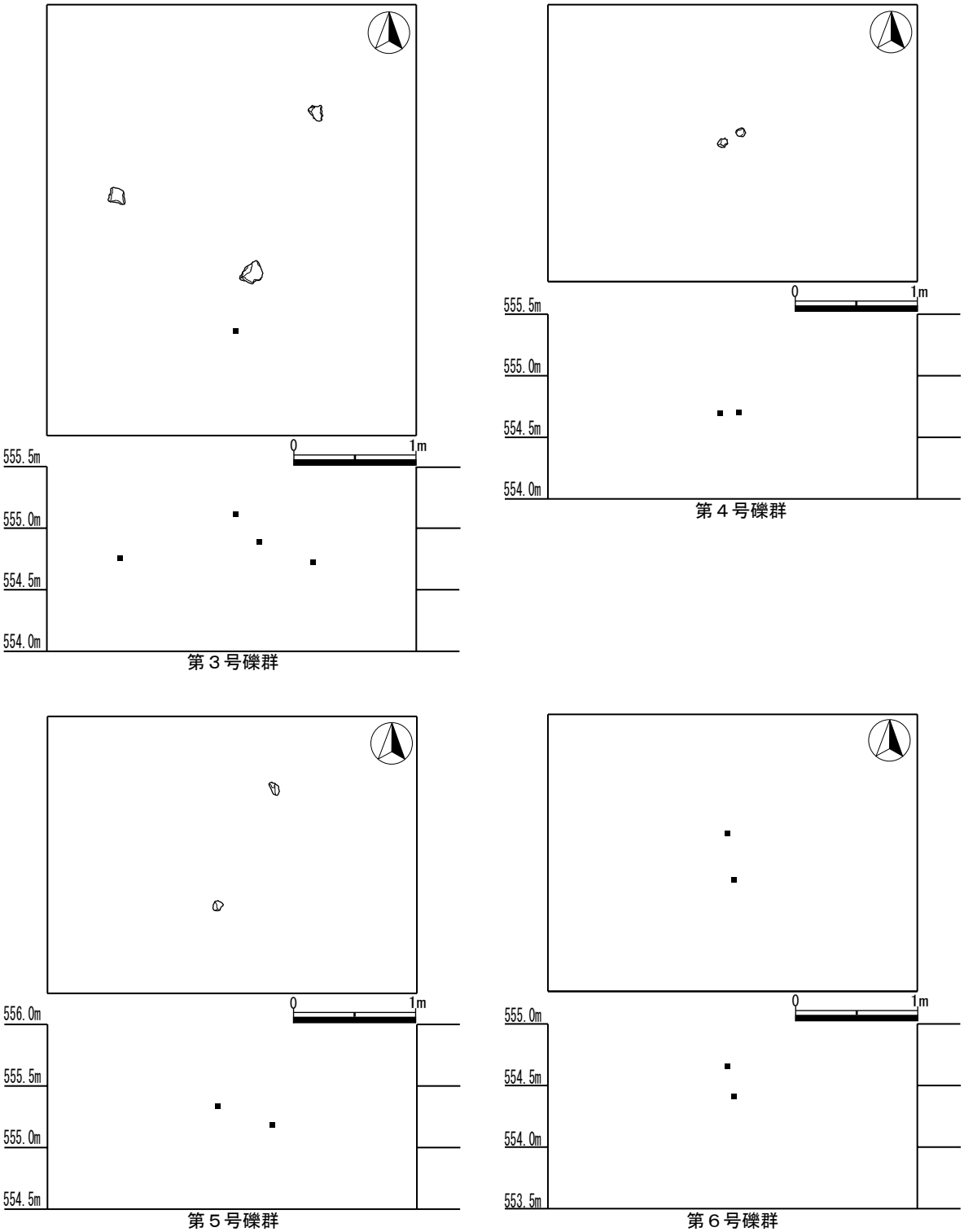
**第４号礫群**（第23図）

本礫群はＶ－18グリッドで確認され、調査範囲の北側中央部に位置している。第４ブロックと重複している。南に第３ブロック、西に第４ブロック、北に第１・５ブロック・第２号礫群、東に第２ブロック・第１号礫群が隣接している。構成する礫は２点で、約20cm離れて出土した。垂直分布は、標高554.694mから554.704mであり、高低差は10.0cmである。層位はYLM層である。

出土礫は、完形礫で１点が赤化している。石材は安山岩１点、ホルンフェルス１点である。接合資料はない。

**第５号礫群**（第23図）

本礫群はＶ－18グリッドで確認され、調査範囲の中央部東寄りに位置している。第３ブロックと重複している。南に第６ブロック、北に第２ブロック・第１号礫群、西に第４ブロック・第４号礫群が隣接している。構成する礫は２点で、約10cm離れて出土した。垂直分布は、標高555.185mから555.336mであり、高低差




第23図　第28次調査第３～６号礫群分布図

は15.1cmである。層位はYLM層である。

出土礫は、２点が完形礫で石材は安山岩である。接合資料はない。

**第６号礫群**（第23図）

本礫群はＴ－17グリッドで確認され、調査範囲の南西端部付近に位置している。北東約11mに第９ブロック、北西約17mに第10ブロックがある。構成する礫は２点で、約50cm離れて出土した。垂直分布は、標高

554.411ｍから554.657ｍであり、高低差は24.6cmである。層位はYLM～YLL層である。

出土礫は、２点は欠損礫で石材は安山岩である。接合資料はない。

**単独出土礫**（第20図）

本文化層では､前述した礫群以外に単独で出土している礫が６点認められた。これらの石材は安山岩４点、ホルンフェルス２点である。いずれも赤化した欠損礫で、煤が付着する例が１点認められる。

## ２．出土遺物

### （１）石　器

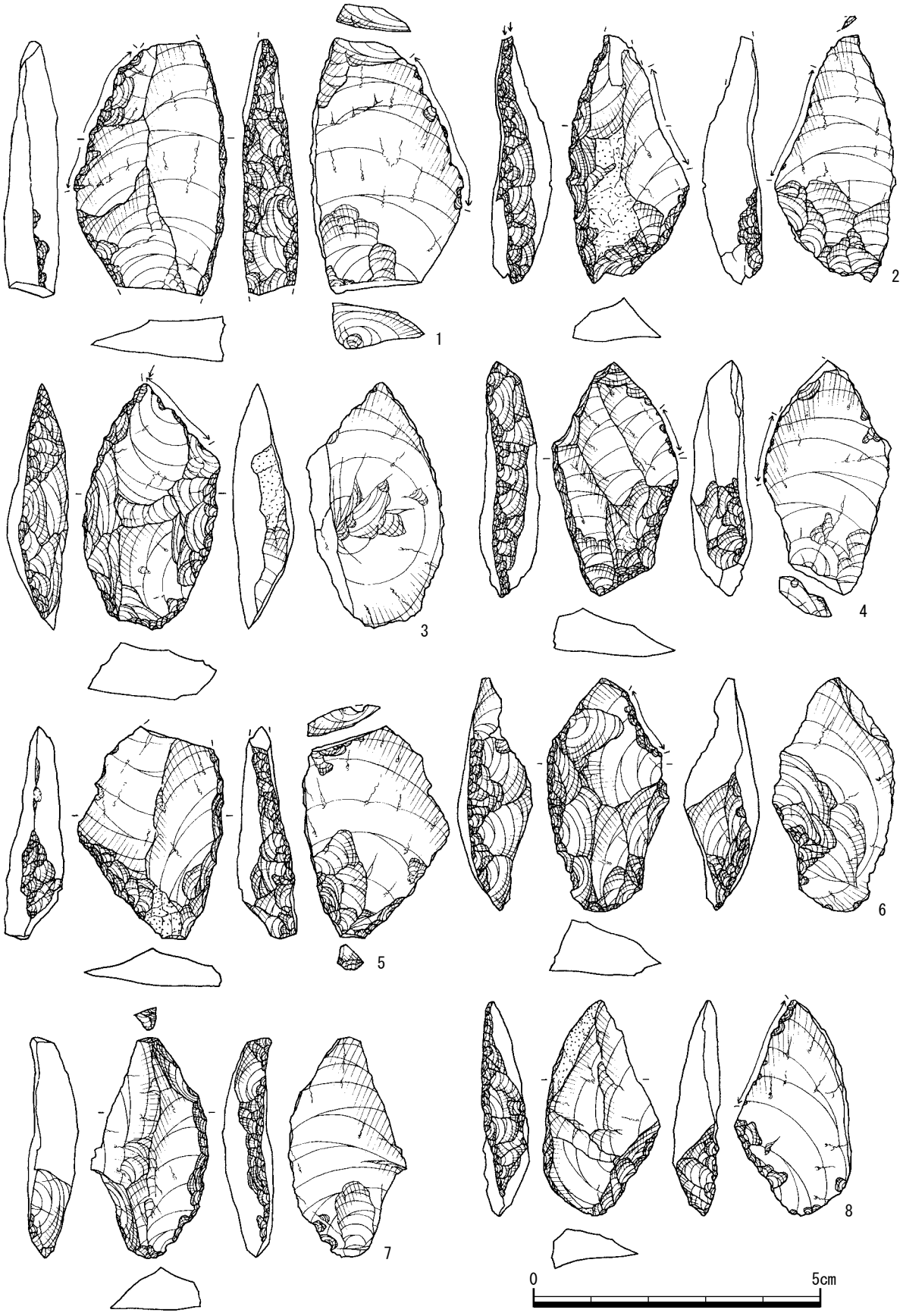
第28次調査で出土した旧石器時代の石器群は１枚の文化層として捉えられ、10箇所のブロックと６点のブロック外から検出された合計1,484点の石器類によって構成されていた。ただ、調査範囲は約960㎡と狭く、ブロック群が調査範囲外の北側や東側に広がる可能性もあることから、今回の調査では第28次調査の旧石器時代遺跡や石器群の全体像が捉えられているかは明らかにはできないものの、ナイフ形石器を主体とし、少量の尖頭器を伴うナイフ形石器石器群を確認することができた。確認された石器群は、ナイフ形石器と同未製品が69点（欠損部で接合するものが12点あり、資料数では75点)、尖頭器が１点、掻器が５点、削器３点、彫器１点、加工痕のある剥片18点（欠損部で接合するものが２点あり、資料数では19点)、使用痕のある剥片50点、石刃・折石刃15点、原石１点、石核９点、剥片・砕片1,305点の合計1,484点である。前述したように少量の尖頭器を保有するナイフ形石器石器群であったが、特徴的なナイフ形石器が多いことや、通常のナイフ形石器石器群に比べると石刃・折石刃の出土量が極端に少ないこと、石材に畑宿産の黒曜石を多用すること等の特徴があり、極めて特色のあるナイフ形石器石器群が確認されている。

以下では各器種の特徴を確認しながら、石器群全体の内容を見ていくことにしたい。

**ナイフ形石器**（第24図１～第29図61）

今回の調査によって出土したナイフ形石器は61点であったが、前述したように未製品と考えられるものが８点あり、合計では69点を数える。これらナイフ形石器に関連する石器類は、出土した石器群全体の中では約0.05％を示しているにすぎないが、器種として製作されている石器類に限れば約90.8％を占めており、本石器群がナイフ形石器に大きく依存している石器群であったことが理解できる内容を示していた。そして、未製品の存在からも、ナイフ形石器を遺跡内（ブロック内）で製作している可能性があり、器種としての需要も高かったことが窺えるものであった。さらに、ナイフ形石器はそれほど多量に出土している訳ではないものの、多様な形態のものが確認されており、多くのバラエティが存在していることが推察される状況にある。これらは、第Ⅰ群：二側縁加工のもの、第Ⅱ群：一側縁加工のもの、第Ⅲ群：欠損のため形状の不明のもの、に大別し、さらに、この中で大きさや形状によって細分することによって、それぞれの類別の特徴を捉えていくことにしたい。

なお、第Ⅰ群のナイフ形石器の中には、折断面や素材の打面、あるいは主要剥離面に対して直角に近い状態で形成されていた剥離面を残置し、調整面に代えて側縁を構成している例が多く認められている。この様な側縁は厳密に分類すれば調整面ではないことから、これらの例は第Ⅱ群の一側縁加工のものに含まれるべきものと考えられるが、形態的には一側縁加工のものより二側縁加工のものに多くの類似点を認めることができることから、これらの面は二側縁加工のナイフ形石器の製作に利用されていることが推定される状況にある。したがって、このような各面は、ナイフ形石器の製作に際して意図的に調整面の替わりとして機能させていることが推定されるとともに、この様な面を側縁として意識しながらナイフ形石器を整形しているこ




第24図　第28次調査出土石器（１）

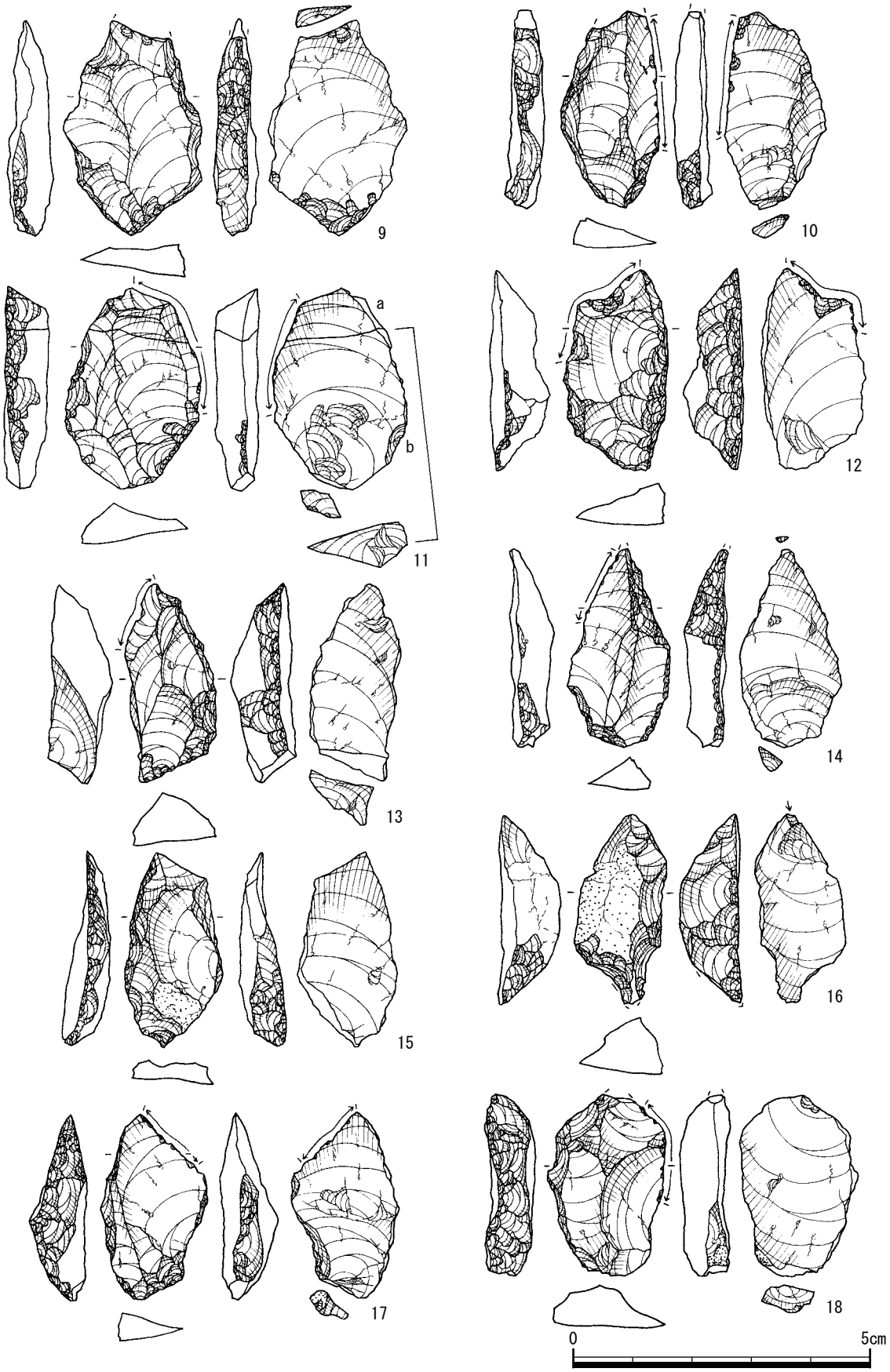
とが窺えることから、これらの面は調整面として代用されたもので、調整面の一種として分類していくことにした。

**第Ⅰ群ａ類**（第24図１）

木葉形を呈する二側縁加工のナイフ形石器で､大きさが５cm以上の大形のものである。１点が確認された。ただ１は両端を欠損しており、５cm以上の大きさであったことは推定されるものの、その大きさは不明である。素材には幅広で厚手の石刃を利用し、両側縁に調整を施して器体が整形されているが、両側縁では調整状態が大きく相違している。それは、背に相当する右側縁には直角に近い急斜な調整が丁寧に加えられ、素材の縁辺を大きく改変していることが推定される状態であったが、これに対して左側縁では素材の縁辺を整えるような細かな調整が施されているだけで、しかも急斜な状態には調整されておらず、両側縁の調整の意味合いが異なっていることが推定されるものであった。そして、左側縁に施された調整は前述したように素材の縁辺を整えるような剥離であり、ナイフ形石器の加工技術であるブランティング加工とは言えないものであったが、右側縁には剥離面、主要剥離面の両方向から丁寧なブランティング調整が加えられており、部位によって入念な調整を施す部分や、簡単な調整で済ます箇所が存在していることが推察されるものであった。この様に調整は両側縁に限定されており、表面や裏面の主要剥離面は未調整であった。先端部を欠損するため明確ではないが、幅広な器体が製作されていることから、余り鋭い先端部は作製されていなかったことが推察できる。素材を構成する剥離面は、表面の一部に石核形成時の剥離と思われる先端部方向からの剥離が認められるものの、それ以外の剥離は主要剥離面と同一方向の剥離で占められていることから、同一方向の連続して施された剥片剥離の中から剥離された石刃が素材に利用されていることが推定される。刃部の表裏面には刃こぼれと思われる剥離が観察され、中でも表面側では現存する刃部の殆どに剥離が認められており、素材の縁辺は一部に残っているだけであった。

**第Ⅰ群ｂ類**（第24図２～第26図21）

木葉形を呈する二側縁加工のナイフ形石器で、大きさが５cm以下、３cm以上の中形のものである。ただ、この中には欠損のため３cm以下のもの（19～21）も存在しているが、欠損部を復元すれば３cm以上の大きさを示すと考えられることから、本類に含めたものもある。これらの中で、21は例外的に比較的細身の器体が作製されているが、これ以外の殆どのものは厚手で幅広の器体が整形されており、鋭い先端部が形成されていたと思われるもの（14・21）は僅かに認められるだけであった。この様な先端部の状態はａ類とも共通しており、本遺跡で確認された二側縁加工のナイフ形石器は、鈍角な先端部が形成されることが一般的であったようである。ナイフ形石器の製作は、素材の一方の側縁に調整を施して先端部を作製し、もう一方の側縁の下半分に調整を加えて基部を形成しているのが一般的なものであるが、本類の中には前述したように素材の打面を残して右側面を構成しているもの（３）がある他、基部の左側面を素材の縁辺を折り取るような剥離で形成しているもの（13）や､縁辺が弾けたような剥離痕をそのまま基部の右側面としているもの（18）、先端部が主要剥離面より古い剥離で、主要剥離面に対して直角に近い状態で形成されていた剥離面を利用しているもの（６）等、側縁の製作を調整剥離以外で構成しているものが散見されている。これら以外のものは、全てブランティング加工によって側縁が製作されていたが、多くのものが極めて粗い剥離で調整し、鋭い縁辺を除去するような細かな剥離を加えて側縁が整えられているもので、側縁は凹凸が著しく、直線的に滑らかに調整されているものは僅か（21）に認められるだけであった。中でも７の左側縁のように一枚の大きな剥離を施し、これに細かな剥離で縁辺を調整して整形しているものや、先端部と基部には細かな調整を




第25図　第28次調査出土石器（２）

加えているが、器体の中央部には大きな調整剥離をそのまま残し、縁辺の調整を行っていないもの（３）、素材の鋭い縁辺を除去するような簡単な調整で器体が作製され、素材剥片の形状を大きく改変してはしないもの（11・20）等があり、調整状態はバラエティが著しい。調整剥離もブランティング加工と考えられるような急斜な調整を施しているものは少なく（４・８・12・13・17・21)、多くのものが前述したように大きな粗い剥離で調整され、これを残したまま整形を行っていることから、急斜な調整面が形成されているようなものは少数派であることが理解されよう。しかも急斜なブランティング加工が施されているものの中でも、粗い大きな剥離を施す調整方法と併用されているものが殆どであり、調整面の全てに急斜なブランティング加工が施されていたものは21だけであった。これらの調整の殆どは主要剥離面側を打面として施されていたが、８・９・11・14・15・17・21には剥離面側を打面とした剥離が施されており、打面を限定せずにブランティングを行っていることから、部位によっては急斜な側縁を必要とする箇所があったようである。この７点では、先端部（９・14・21)、中央部（８)、基部（11・15・17）に表裏両面を打面とした調整が施されており、これらを見る限りにおいては機能部である先端部や、固定や保持される場所である基部が、より入念な調整を必要としていたことが窺えるものと思われる。ただ、先端部の調整に比べると基部の調整は簡単に施されているものが大部分で、中には基端に素材の打面が残置されているもの（４・５・11・17・19）や、折断面が残っているもの（９・10・13・15)、素材の縁辺をそのまま残しているもの（３・８・20)、素材の主要剥離面より古い剥離面が残っているもの（18）等があり、基端に調整を施して整形されているもの（６・７・12・16）は極めて少なく、しかも基端を整える程度の簡単な調整を加えたものが殆どであった。ただ例外的なものとして、基部の両側から抉るような調整が施され、尖った基部が形成されているもの（16）があり、基部の中には何らかの用途によって入念な調整を施されるものが存在していることが推察されるものである。基部の主要剥離面側には、素材打瘤部の除去を目的とした調整剥離が施されているもの（２・５・６・８・９・20）が少量認められるが、未調整のものが大半を占めている。この他に、あまりナイフ形石器の調整としては類例の知られていない調整が施されているものが、数例認められている。この内の12と13は肥厚した基部を薄くするために調整を加えた例で、12では右側面のブランティング面から調整を加えて表面下部を剥離しており、結果として素材の打面が除去されている。13は基端の折断面を打面とした剥離を表面下部に数回施しているもので、厚い縦長剥片を素材に利用していたことが推定される例である。これらに対して16は、素材の打面方向から表面上部の右側縁側に数回の剥離を加えているもので、薄い先端部の作製を意図したものと思われる例である。なお、16の素材打面は素材剥片の剥離時に弾け、欠損した可能性が高く、その欠損面の一部が左側縁の上部に残っている。この様に、一般的なナイフ形石器にはあまり認められない調整が施されているものが存在しており、今まで以上に素材を改変していく方法が駆使されていることが窺える状態である。なお、７には鋭い先端部が作製されておらず、しかも先端には数枚の剥離が観察されている。この剥離は調整であるか欠損であるか判断がつかなかったが、もし仮にこの剥離が調整であるとしたら、鋭い先端を必要としない使用法が行われていたことが推定されるものと思われる。これらのナイフ形石器には縦長の素材が利用されているものが多いものの、石刃と呼べるような表裏を同一方向の剥離痕で構成されているもの（２・４・10・14・21）は稀で、多くのものが主要剥離面と剥離方向が90度異なる剥離や斜めからの剥離痕が認められる縦長剥片（５・７・９・11～13・15・17～20）であり、これ以外には表面の殆どを礫面で構成されていた縦長剥片（16）と、横長剥片（３・６・８）製のものが存在していた。この様な素材が多様化しているあり方は、限定した素材とナイフ形石器の結び付きが著しく弱くなっていることが推察されることから、素材としての石刃の存在意義が低下していることが窺える。

２～４・６・８・10～14・17～20の刃部には、使用によって生じたと考えられる細かな剥離が認められて

おり、先端から刃部にかけてが機能面であったことが推察できるものである。そして、２・３・16には、使用によると思われる衝撃剥離が左側縁のブランティング面（２）や、表面（３）、主要剥離面側（16）に認められている。

**第Ⅰ群ｃ類**（第26図22・23）

３cm以下の大きさの、小形のナイフ形石器を本類とした。２点が確認され、これらもａ・ｂ類と同様に幅広な器体を持ち、あまり鋭い先端部が形成されているとは言えないもので、23のように素材の尖った縁辺をそのまま残し、調整による先端部を作製していないものも存在している。これらの製作は、素材の一方の側縁に調整を施して先端部を作製し、もう一方の側縁の下半に調整を加えて基部が作り出されている。ただ、22の基部の左側縁には素材の縁辺を除くような折断が成されており、これが素材剥離時の弾けでなければ調整剥離の一種として、素材の縁辺を折り取るような方法で側縁の整形が行われていたことが推察できるものであり、側縁の整形には調整剥離以外の方法も取り入れられていることが推定できる。調整は全て主要剥離面を打面として施されていたが、これらの調整は細かな剥離で占められており、基部の整形を除けば素材を大きく改変しているような状態は認められなかった。調整状態も基部付近を除けば、それほど急斜には調整されておらず、ブランティングと言うよりも素材の鋭い縁辺を取り除くような調整であり、比較的簡単な作りのものである。主要剥離面は未調整で、調整は両側縁に限られているが、23の基端は折断面で構成されており、素材を意図的に折断したのか、あるいは欠損したものを利用したことが推察される例である。そして、前者のような推定が可能であるならば、ナイフ形石器の製作技術の中には素材を意図的に折断し、大きさを調整するような工程が存在していたことが理解されるものである。22の基端には素材の打面が一部残っており、ほぼ現在の大きさの石刃が素材に利用されていることが判り、本類のような小形なナイフ形石器の需要も少なからずあったことが想像される。

22の素材は前述したように石刃であったが、23は多方向から剥離痕を残す縦長剥片であり、本類も石刃に素材を限定することなくナイフ形石器が製作されていることが理解され、素材としての石刃の有効性が低下していることが窺えるものである。22の刃部の表裏には、使用痕と思われる微細な剥離が認められている。

**第Ⅰ群ｄ類**（第26図24～26）

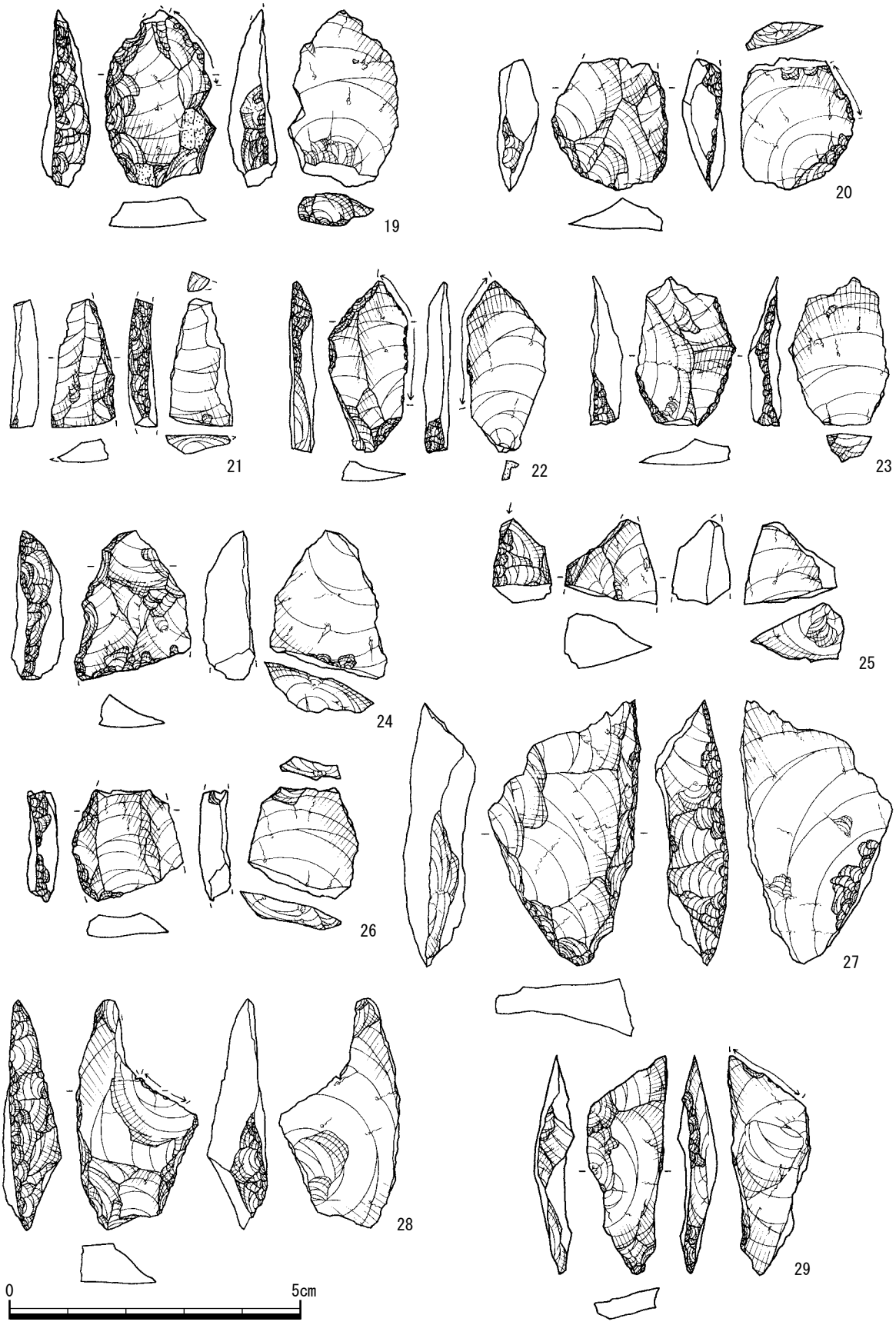
欠損品で、ａ～ｃ類のいずれかに含まれるものを一括した。24・25は先端部片、26は両端を欠く中央部片である。この３点も幅広の素材が利用されており、先端を欠損する26も含めても鋭い先端部が形成されていた可能性は低いもので、中でも25は極めて鈍角な先端が製作されており、先端部の状況はａ～ｃ類と共通する。調整は全て主要剥離面側から加えられていたが、粗い調整が施されているもの（24）や、細かな剥離で整形し、素材を大きくは改変していないもの（26）、素材を折り取るような大きな剥離に細かな調整を施して急斜な側縁を作製しているもの（25）があり、それぞれが相違のある調整状態を示していることから、素材の形状や大きさ、厚さなどによって調整の仕方を変えていることが推察されるものである。現存する主要剥離面には、調整は認められなかった。

素材は、石刃が利用されていると思われるもの（25・26）と、縦長剥片（24）と考えられるものがあり、縦長の素材に限定されていることが推察されるが、24・25のように比較的厚手のものが使われている傾向が認められる。25の先端は、使用による衝撃によって欠損しており、その剥離が左側面に生じている。

**第Ⅰ群ｅ類**（第26図27～第27図37・第28図39）

所謂「切出形石器」や「台形石器」に類似する形態のもので、３cm以上の大きさのものである。基本的には本類においても素材の一方の縁辺に調整を施して先端部を作製し、もう一方の縁辺の下半分に調整を加えて基部を形成しているものであるが、前述したように一方の側縁を折断面で構成させているもの（27・39）や、素材の打面をそのまま残して調整面に替えているもの（29・33～35）、階段状剥離になった縁辺に細かな調整剥離を加えて右側縁が形成されているもの（29）等が確認されており、これらの面はブランティング加工等の調整面に替わって機能されているものである。両側縁の調整は、先端部を形成している縁辺を急斜な状態に調整されているもの（27・28・30～32・36・37）が多く認められており、機能部である先端部を入念に整形してることが窺えるが、中には簡単な調整と素材の主要剥離面より古い剥離面で調整面が構成されているもの（33）や、粗く大きな剥離を施し、細かな調整を加えて縁辺を整形しているもの（30・34・37）、細かな調整だけで側縁が形成されているもの（35）等が確認されており、多様な調整状態が窺えるものである。基部を構成しているもう一方の側縁は、素材の鋭い縁辺を除去するような簡単な調整が施されているもの（31・39）や、粗い調整で整形されているもの（30・36・37）があり、丁寧に調整されているもの（28・32）は比較的少なく、前述したように素材の打面などを代用する例が認められることから、先端部を形成している側縁に比べると簡略化した調整が施されていたことが推定できる。調整の多くはブランティング加工で、大部分の調整は主要剥離面を打面として施されていたが、中には先端部を形成している側縁の全てを剥離面側を打面として整形しているもの（31・37）があったり、主要剥離面側からと剥離面側からの調整を併用しているもの（28・30・32・36）が確認されており、調整方向は限定されていなかったことが理解されるとともに、表裏方向からの調整でより急斜な側縁を形成することが意図されていたことが推定されるものと思われる。これらの中には素材を大きく改変していると考えられるもの（28・30～32・34・36・39）が比較的多く認められているが、中には素材の形状を利用し、簡単な調整で器体が整形されているもの（27・29・33・35）もあり、調整の度合いも多様であったことが窺える。調整の多くは両側縁の整形に費やされているが、27・30・36・37には主要剥離面側にも調整が加えられており、それらは基部の調整（30・36）や、素材打瘤部の除去（27・37）に施されていたものと考えられるものの、調整は極めて簡単なものであり、それほど重要な整形ではなかったことが想像されるものである。これら以外では、あまり類例を知らないが剥離面側に平坦剥離を施しているもの（31・37・39）があり、それらは側縁調整であるブランティング面を打面として正面中央部に向かって調整剥離を施しているもの（31・37）と、側縁を形成している折断面を打面として調整が加えられているもの（39）が存在している。これらの調整は器体を薄く整形するために行われたと推定されるが、技術的には尖頭器の調整技術である面的調整をナイフ形石器の整形技術の中に取り入れていることに他ならず、一般的なナイフ形石器に比べると素材を大きく改変しているとともに、ナイフ形石器と側縁の調整技術であるブランティングの結び付きが弱くなってきたことが窺える内容となっている。

形態的に刃部が上端に存在する器体のためか、素材の多くは横長剥片（28・29・32～39）が利用されており、縦長の素材のもの（27・30・31）は極めて少ない傾向にあった。しかも縦長剥片を素材としたものは、幅広厚手の素材を大きく改変しているものが多く（30・31）、この形態のナイフ形石器の製作には縦長剥片は不向きで、横長剥片の方が適していたことが推定されるとともに、素材に石刃を利用する必要は著しく低下していることは明らかであった。28～30・32～35・37の刃部には、使用痕と考えられる微細な剥離が認められている。なお、30の先端には、衝撃剥離と考えられる剥離が右側縁のブランティング面を切って表面に生じており、この剥離痕が器体の完成後に剥離されたものであることが推定されるものである。




第26図　第28次調査出土石器（３）

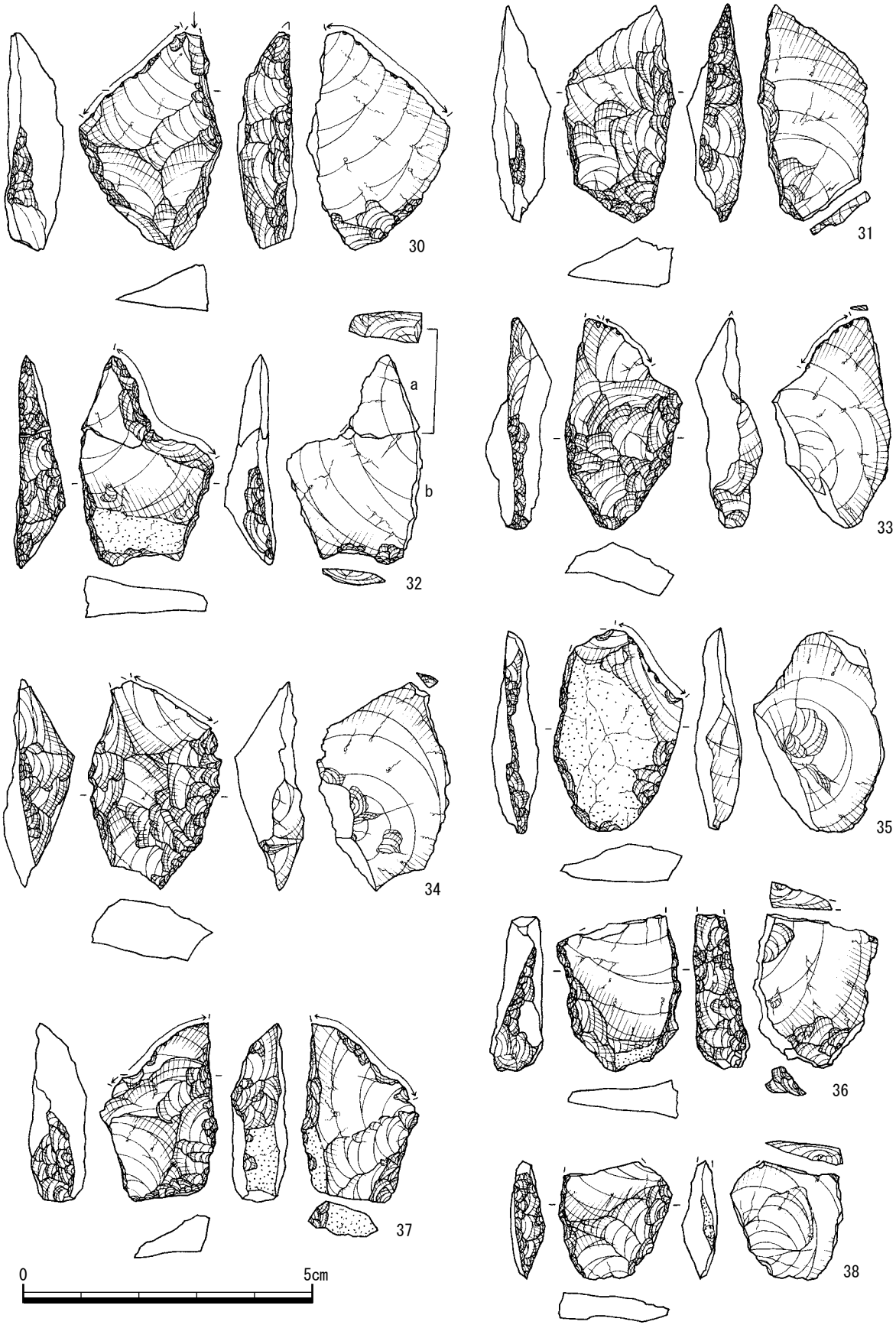
**第Ⅰ群ｆ類**（第27図38・第28図40～46）

ｅ類と同様に「切出形石器」や「台形石器」に類似する形態で、３cm以下の大きさのものである。８点が確認されたが、これらもｅ類と同様に側縁に素材の打面を残置して調整面に替えているもの（38・40・43・46）や、折断面で側縁が形成されているもの（41・42・44・45）と、自然面と主要剥離面より古い剥離面で構成されるもの（44）があり、両側縁に調整を施しているものは42の１点だけであった。このように両側縁を調整だけで整形されているものは認められておらず、殆どの側縁が調整面以外の面で代用されていることが理解されるものである。先端部も折断面で形成されているもの（40～45）が多く存在しており、器体の整形に素材の縁辺を折り取るような剥離が行われていることが理解されるとともに、これに細かな調整を加えて側縁を形成しているもの（40・42・43）も確認されており、縁辺を折り取るような調整方法もナイフ形石器の製作技術体系に組み込まれていることが理解されよう。これらの中で比較的丁寧に急斜な側縁を形成しているのは38だけで、他のものは凸凹のある側縁が形成されているもの（40・41・43）や、大雑把な調整で側縁が形成されているもの（42・46）等があり、比較的粗い調整で器体を整えているものが多く認められている。そして、これらの中には一応ナイフ形石器として捉えたが、両側縁を折断面や自然面、主要剥離面より古い剥離面で構成し、基端を簡単な調整で整形しているもの（44・45）が存在している。この様な形態のナイフ形石器は管見にあがったものはなく、ナイフ形石器に含めるには抵抗がある存在であったが、前述してきたように本石器群のナイフ形石器の中には、折断面や素材の打面をブランティング面に代用しているものが認められていることと、基端に調整を施して素材の鋭い縁辺を除いている整形のあり方から、ナイフ形石器として理解したものである。しかしながら、一般的なナイフ形石器とは大きく相違することは明らかであることから、これがナイフ形石器のひとつの形態として認められるかどうかは、今後の資料の蓄積を待って判断したい。調整の多くはブランティングであったが、粗いものや細かな調整によって整形されているものが殆どで、前述したように急斜な側縁を作製しているもの（38）は少なかった。大多数のものは主要剥離面を打面として調整されていたが、中には剥離面側からの調整が認められるもの（38・41・42）があり、調整方向は限定されていなかったことが窺える。調整は、多くのものは両側縁の製作に集中して施されていたが、中には簡単な調整を主要剥離面に加えているもの（41・42）があり、器体を整形する中で基部を薄く加工するような意図があったことが推定される。また、41には左側縁の折断面を打面とした細かな調整を表面中央部に施しており、平坦剥離がナイフ形石器の製作に用いられていることが理解されよう。

これらの素材には、１点（45）を除き横長剥片が利用されており、上端に刃部を形成している形態的特徴からは妥当な素材の選択であった。唯一縦長剥片素材の45には上端に素材の打面を残しているが、両側縁を折断面と細かな剥離で整形しているもので、意図的に両側縁に形成されていたと思われる素材の鋭い縁辺を折り取っていることが推定される例である。したがって、形態的に類似しているｅ・ｆ類では、素材に横長剥片を利用するものが殆どで、従来のナイフ形石器の製作では素材に縦長の石刃が利用されることが通例であったことから、両者では素材の選択の過程に大きな相違があることが明らかであり、横長剥片を多用する素材の選択のあり方は、本石器群の大きな特徴として理解されるものと思われる。40～43の刃部には、使用痕と思われる細かな剥離が認められている。

**第Ⅱ群ａ類**（第28図47～50）

所謂「一側縁加工」のナイフ形石器で、一方の側縁の全縁に調整を施して先端部が形成されているものである。４点が確認されているが、全て先端を欠損しているため先端部の形状は明らかではないものの、本類でも幅広の素材が利用されていることから、鋭い先端部が製作されていた可能性は低いことが推定される状



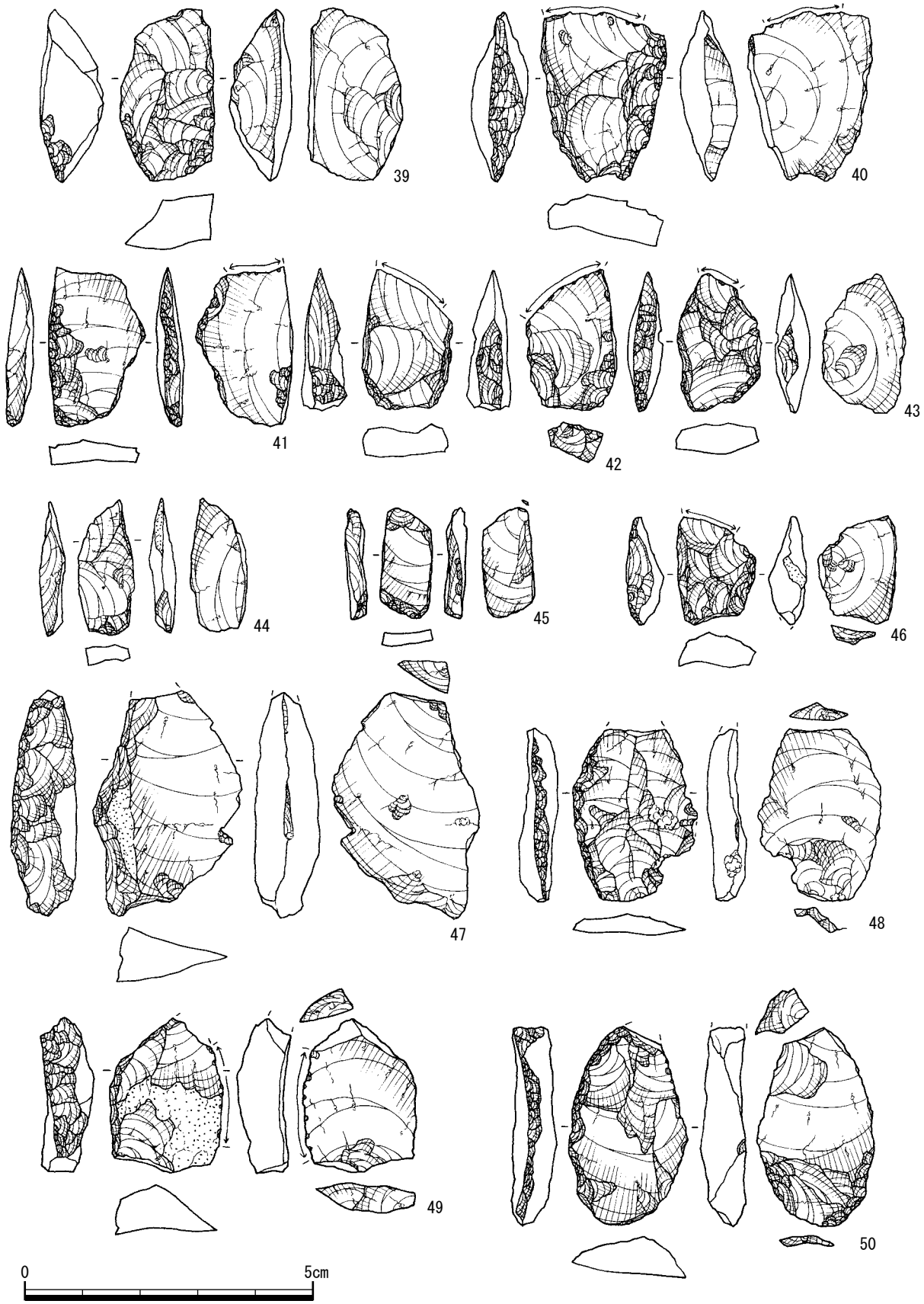

第27図　第28次調査出土石器（４）

況にある。４点とも左側縁側に調整を施しており、共通した整形が行われていることが判るが、側縁の形状には先端に向かって直線的な側縁が形成されているもの（47）、弧状の側縁が形成されているもの（48・50）、湾曲した側縁を作製しているもの（49）等があり、器体の形状には多様性があることが理解されよう。これらの調整には、素材を抉るような大きな剥離に細かな調整を加えて側縁を整形しているもの（47）や、粗い急斜な剥離と細かな調整が施されているもの（49・50）、全体的に細かな剥離で調整しているもの（48）があり、素材形状の状態によって調整方法を変えていることが窺える。47・49・50の一部などには急斜な側縁が形成されており、調製にブランティング加工が用いられていることが判るが、48や50の中央部から基部にかけてなどは角度のない細かな剥離で整形されており、ブランティング加工とは言えない調整もナイフ形石器の製作に行われていることが判断されるものである。これらの調整は、肥厚した50の先端部に剥離面側からの調整が認められる他は、全て主要剥離面側からの剥離で占められており、両方向から入念な調整を施すようなものは稀で、殆どのものは粗い調整によって整形されているような状態であった。側縁以外の調整は50の主要剥離面側に認められるが、この中で刃部に施されている剥離は主要剥離面を抉るように加えられており、類例の知られていないものであった。刃部に存在することから調整と考えるのも抵抗があるが、剥離の大きさからは使用痕とは考えられないことから器体の整形に関する調整と判断したものである。また、基部にも主要剥離面を抉るような調整が施されると共に、両側縁から細かな剥離を施して基部の整形が行われており、刃部を含めた先端部と基部の肥厚した部分の除去を目的とした調整であったことが推定されるものである。なお、表面の左側上縁に認められる剥離も、肥厚した先端部を薄くする為に加えられた調整の可能性があるものであるが、その後の側縁加工の過程で素材の主要剥離面との新旧関係を捉えることが不可能になったため、断定することが難しくなった剥離である。もし仮に、この剥離も肥厚した素材を薄くする目的で加えられた調整であったならば、表裏面や部位に関係なく器体の整形に平坦剥離が施されることがあった事が判断されるものと思われる。そして、第Ⅱ群の一側縁加工のナイフ形石器では、50のように基部調整が行われること事態稀なことであり、通常では第Ⅰ群の二側縁加工のナイフ形石器に施される加工が加えられていることが理解されるものである。したがって、両群のナイフ形石器に存在していた調整方法の違いが混乱していることに他ならず、従来とは違った加工が試みられていることが判断されるものである。

これらの素材になったものは幅広厚手の石刃（47・48・50）と縦長剥片（49）で、縦長の一側縁加工のナイフ形石器を作製するには適した素材であったことが判る。素材末端側に先端部を形成していた48～49には、基端に素材の打面を残しており、それらは複剥離打面（49）や調整打面（48）が形成されていた。したがって、これらの素材を剥離した石核では、剥片剥離工程の中で打面調整が行われていたか、或いは打面と剥片剥離作業面を入れ替えながら剥片剥離が進められていたことが理解されるものと思われる。49の刃部には、使用痕と思われる微細な剥離が認められている。

**第Ⅱ群ｂ類**（第29図51～56）

素材に対して斜めに調整剥離（51～54）や、折断を施して（55・56）先端部を形成をしているもので、６点が確認された。施されている調整は、細かい剥離であったり（51・53）、素材を抉るような大きな剥離と細かな調整で側縁を整形しているもの（52）や、粗い剥離を剥離面と主要剥離面の双方から施しているもの（54）等があり、個々で調整状態が違っており、多様な様相を示していた。51は、素材の縁辺に沿うような調整を右側縁上部に施して先端を形成し、基部の右側縁にも細かな剥離が観察されているものの、器体の中央部には素材の縁辺がそのまま残っており、調整によって素材の形状を殆ど改変していないものである。これとは逆に、52は幅広な素材の打面部を抉り取るような調整によって削除すると同時に、あまり鋭くない先




第28図　第28次調査出土石器（５）

端が作製されているもので、調整面は器体の内側に湾曲するように形成されていた。調整は、素材を挟るような数回の剥離を施して、この縁辺に細かな調整を加えて整形しているが、幅広な素材の形状を改変して細身の器体を作製するような意図は認められないことから、幅広の器体でも使用が可能であったことが推定できるものである。53は第Ⅰ群ｅ類に含まれる可能性のあるものであるが、調整が先端の形成だけに限られている状態から本類に含めたものである。素材に横長剥片を利用し、階段状剥離となった素材末端に接続するように細かな調整を左側縁上端に施して、先端部を形成しているものである。必然的に右側縁に素材の打面が位置しているが、その大部分を調査時に欠損しているため大きさなどが不明確なため、第Ⅰ群ｅ類に含めるのを躊躇したものである。54は素材の末端に斜めに調整を加え、先端部を形成しているものであるが、この剥離の一部は素材の剥片剥離時に弾けて生じた剥離である可能性のあるものであり、そのような形状の素材に簡単な調整を両方向から施して器体を作製しているものである。55は素材の打面側を折断して先端部を作製し、この折断面を打面として主剥離面側に調整を加えているもので、調整による背の形成が行われていない例である。この様な調整の他に、末端から器体の中央部に向かって平坦剥離が表裏両面に施されており、これらは素材を薄くするための調整と考えられるものの、第Ⅱ群の一側縁加工のナイフ形石器の加工には、あまり認められない調整であることから、極めて珍しい例である。なお、先端部の主剥離面に施された調整に切られた剥離が刃部に認められているが、これは素材剥片を剥離した時に弾けた剥離と思われるもので、調整剥離とは考えられないものである。56は素材末端を折断して先端部が作製されているもので、調整は先端と折断面上に細かな剥離が認められるだけであり、ほぼ素材の折断だけで器体が作製されているものである。これらに施されている調整は粗い剥離や細かな剥離で構成されているものが殆どで、ブランティング加工と言えるような丁寧な調整が施されているものは認められない状況であり、ナイフ形石器とその加工技術であるブランティング加工との結び付きが、本類においては極めて曖昧な状態であることが明らかであることから、ブランティング加工の存在が著しく低下していることが推察されるものである。

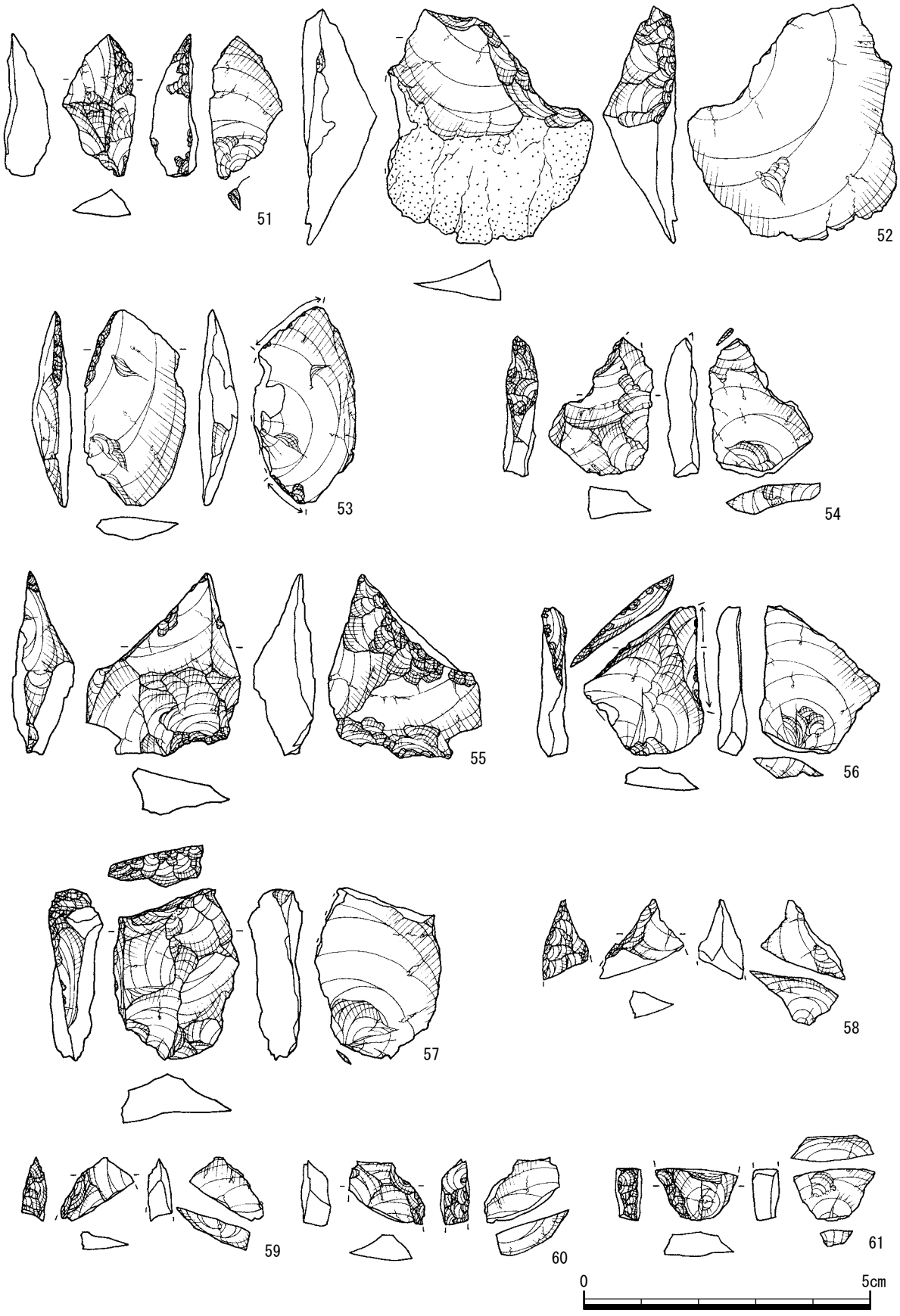
これらに利用された素材は、小形の縦長剥片の51と横長剥片の53を除くと、殆どのものは幅広な縦長剥片（54・56）か、或いは縦横の長さに大きな違いのない剥片（52・55）で、本類においても限定した素材を使用して製作しているような状況は認められておらず、素材に定形的な形態を要求していなかったことが窺えると共に、そのような目的的剥片を生産する剥片剥離技術を駆使しているとは考えられない状況を示していた。53と56の刃部には、使用痕と考えられる微細な刃こぼれが認められる。

**第Ⅱ群ｃ類**（第29図57）

素材を横切るような調整を施して先端部が形成されているもので、１点が確認された。調整は上縁から左側縁にかけて施されていたが、この調整の前に左側縁には素材の鋭い縁辺を取り除くような折断が行われており、加工方法は異なるが左側縁から上縁にかけて調整が施されているものである。上縁は、数回の粗い剥離を施した後に細かな調整を所々に行って急斜な状態に整形されているが、先端には厚さがあり鋭い先端が形成されていない状態であり、あまり類例の知られていない形態のものである。調整は全て主要剥離面から施されており、打面を替えることなく一気に製作されたことが窺える。素材は厚手幅広の縦長剥片で、基端には素材打面が残っている。

**第Ⅲ群ａ類**（第29図58～60）

ナイフ形石器の使用時か、或いは製作時に欠損したと思われる先端部片で、３点が確認されている。58・59は鈍角ではあるものの鋭い先端が形成されていたが、60では調整がもう一方の縁辺まで到達しておらず、




第29図　第28次調査出土石器（６）

先端には素材末端の縁辺がそのまま残っている状態であり、未製品として理解できるものである。58は肥厚した素材に対して急斜な側縁が形成されているもので、調整も丁寧に施されている。59の先端は折断面で形成され、これに調整を加えて整形されていたが、この調整は鋭角な剥離で急斜な調整面は作製されていないものである。60には素材を抉るような剥離と細かな調整が加えられていたが、素材の形状を改変する作業の途中で欠損した先端と思われるものであり、調整状態からも未製品として理解できる例である。これらに施された調整は殆どが主要剥離面側から施されていたが、肥厚する先端部を持つ58では剥離面側からの調整も加えられており、より丁寧な調整が行われていたことが窺える例である。したがって、58に施されていた調整はブランティングと考えられる加工であったが、59・60に行われている調整は角度が鋭角であり、急斜な側縁を形成するような剥離とは考えられないものであった。このことから59・60では、素材の縁辺を削除するような簡単な調整で器体が整形されていることが推定されることから、これらは未製品か、或いはブランティング加工とは言えないような調整によって、ナイフ形石器が製作されていたことが推察されるものである。

**第Ⅲ群ｂ類**（第29図61）

ナイフ形石器の基部片で、１点が確認された。施されている調整は、左側縁にはやや鋭角な剥離ではあるものの丁寧に調整が施されていたが、右側縁側は剥片剥離時の弾けで生じた剥離によって形成されていた。この右側縁は、素材の主要剥離面とは角度のある縁辺となっていることから、調整面として代用していることが理解されるものである。以上のことから、61は二側縁加工のナイフ形石器の基部として理解したものである。基端には素材の打面が残っており、主要剥離面ともに未調整であった。

**ナイフ形石器未製品**（第30図62～第31図69）

ナイフ形石器の製作途中と考えられるもので、８点（接合するものが８点あり、資料数では12点である）が出土している。これらの中には素材を加工する初期段階のもの（62～65・67）と、素材の形状を大きく改変している中段階と考えられるもの（66・68・69）があり、それぞれで多様な調整状態を見せている。

前者の中でも素材に石刃（62）や縦長剥片（64・65・67）を利用したものと、横長剥片（63）のものがあり、素材の形状は限定されていなかったことが窺える。62は素材の末端に先端部が作製されているもので、その調整は剥離面と主要剥離面双方からの剥離で急斜な状態で整形されていたが、この調整面に続く左側縁では表裏両面に平坦剥離を施して器体の整形が計られており、部位に於いて調整方法を替えていることが推察できる例である。両者の前後関係は先端部の調整の方が遅い可能性が高く、先端部はほぼ完成状態にあった。したがって、幅広厚手の石刃に対して器幅と厚さを減じるような調整を両面に加えながら、先端部の作製が行われたことが推定されるが、この調整時に先端が欠損したため放棄されたものと思われる例である。この様な調整の状態からは、素材の形状の改変には平坦剥離の技術が用いられていることと、この技術によって器体の整形が成されていたことが理解されるとともに、この後に急斜なブランティング加工を行って側縁が形成されていたことが窺える。

63は横長剥片を素材としたもので、上縁に存在していたと考えられる刃部を欠く例である。調整は素材の末端である左側縁に認められ、右側縁を構成している素材の打面と平行するように粗い剥離が施されているものである。剥離は粗く、凹凸が著しいが、素材の末端を折り取るような剥離と調整を主要剥離面側から下半分に施し、上半分には素材を抉るような粗い剥離を剥離面側から加えている。この調整剥離の過程で、刃部と上端の一部が欠損したために放棄されたものと思われるが、本例も素材の形状と打面（自然面）を側縁

第30図　第28次調査出土石器（７）

として有効に利用しているとともに、素材の形状を大きく改変していることが理解されるものである。したがって、本遺跡ではナイフ形石器の製作に際しては手頃な大きさと形態の剥片を選択し、これの形状を大きく改変しながら器体を整形していることが推察されるとともに、素材には定形化した形状を求めていなかったことが判断されるものである。

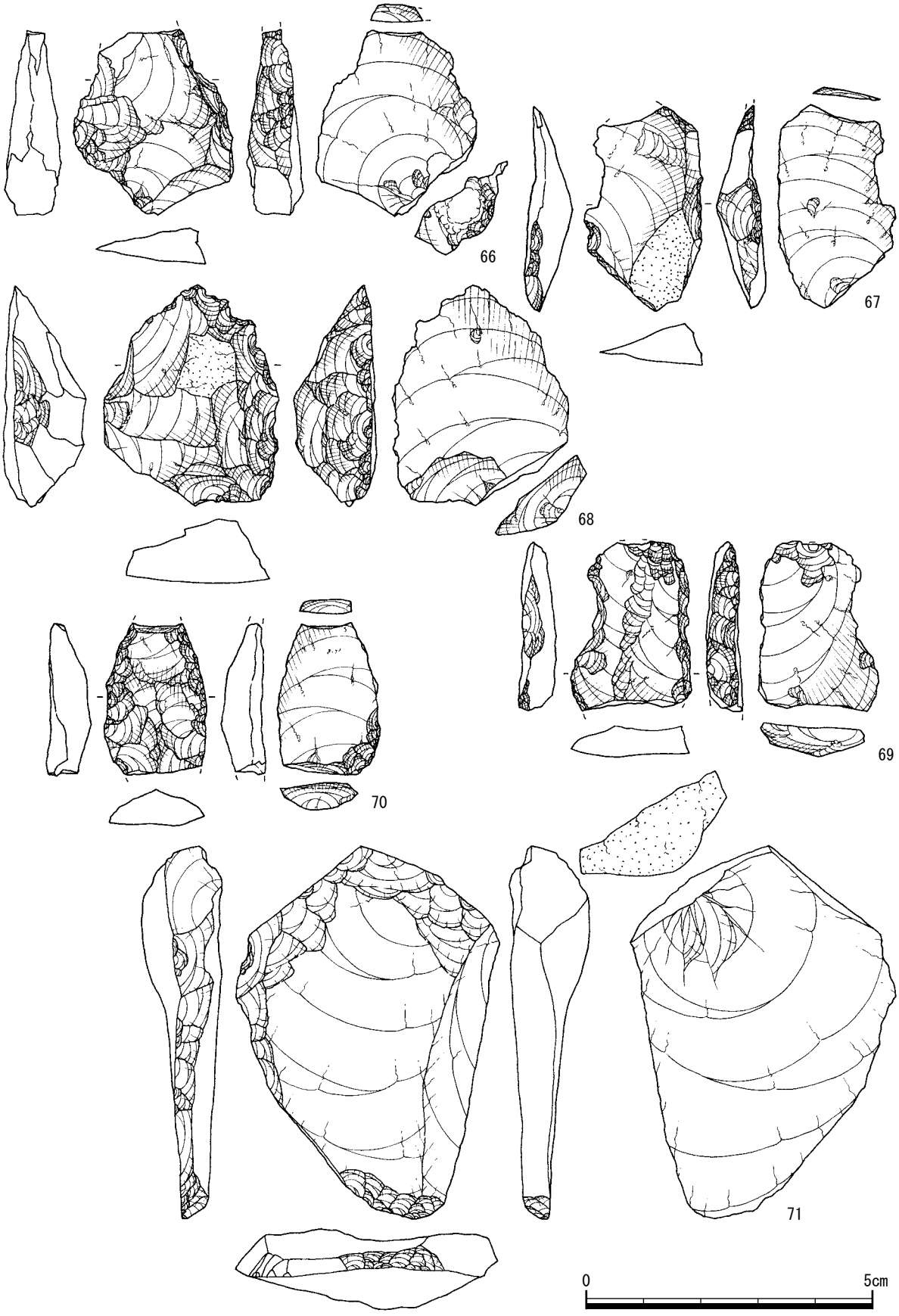
64は縦長剥片の末端側を先端として調整剥離が加えられているが、この調整時に二分割されてしまったものである。調整は両側縁に施されているが、主体的な方はナイフ形石器の背に相当する左側縁で、素材を抉るような大きな剥離を数回行っていることが観察できる。この剥離の後に、細かな調整で先端を作製しようとしているものの先端にも欠損が発生しており、より素材の形状を改変する必要が生じてしまったものである。右側縁に施されている調整は数回程度であり、素材の形状を改変するというよりも素材の鋭い縁辺を取り除くような剥離で、まだ入念に調整するような段階の剥離ではないものである。これらの調整は全て主要剥離面を打面として施されており、調整方向は一定していることが判断されるとともに、調整状態や箇所ははナイフ形石器の製作状態と共通していることが理解されると思われるが、調整に使用されている剥離はブランティング加工とは言えないものであった。したがって、ナイフ形石器製作の初期段階ではブランティングを用いることなく、大雑把な剥離で素材の改変とともに器体の整形が行われていることが判断されるものと思われる。

65は縦長剥片の末端に先端部を形成しているもので、背に相当する左側縁に粗い調整が施されている例である。調整はやや鋭角で、細かな剥離も認められるものの、素材の縁辺を取り除くように大雑把に施されたもので、調整された側縁の縁辺は凹凸が著しい。右側縁には主要剥離面より古い剥離面が大きく残っており、第Ⅰ群ｅ・ｆ類のナイフ形石器の製作を目指していたことが推定されるが、調整段階で先端が欠損したため放棄されたと考えられるものである。なお、65の先端の欠損面には、折断面の他に細かな剥離が認められている。この剥離は再び先端の製作を意図した調整か、或いは欠損時に一緒に弾けた剥離と考えられるものであるが、判断はつかなかった。

67は縦長剥片の両側縁と、右側縁の上端に調整を施しているものである。左側縁の調整は、素材の打面を取り除くように折断した面に細かな調整を加えているもので、ほぼ直線に近い縁辺が作製されているとともに、比較的急斜な状態に整形されている。これに対して右側縁の調整は両端に分離して施されており、この中で先端の形成に加えられたものは素材の縁辺を潰しているような簡単な調整で、細かな剥離を鋭角な状態で加えているものであった。そして、右側縁の下半分では数回の粗い大きな剥離と細かな剥離が施されており、素材を改変しようとしている段階と思われる調整であり、急斜に作製されている左側縁の形状に合わせて右側縁の改変を試みていることが推察される状態である。しかし、先端部の調整時に先端が欠損してしまい、右側縁の調整を継続することなく放棄されたと思われるものである。

66は方形に近い剥片を素材としているもので、先端を欠損している。調整は背に相当する右側縁に急斜な粗い調整が加えられ、素材の打面と平行するような側縁を形成しようとしているもので、これも第Ⅰ群のｅ・ｆ類の製作を試みていると思われる例である。加えられている調整は極めて粗く、素材を抉り取るような剥離を連続して施しており、細かな調整剥離は中央部に僅かに認められるだけであった。調整は全て主要剥離面側から行われているが、この調整の中で先端が欠損したため、放棄されたものと考えられる例である。

68は幅広の極めて厚手の素材を利用したもので、素材の末端左側縁に調整を加えて先端部を形成しているものである。調整は極めて粗く、肥厚した素材のために形状を改変するのにてこずっているようで、縁辺の調整を行うような細かな剥離は殆ど行われていない状況である。左側縁にも粗い剥離が数回施されているものの、これも肥厚した素材のためか抉るような剥離とはならずに、横方向に広がった剥離となったものも見




第31図　第28次調査出土石器（８）

受けられている。そして、主要剥離面にも一枚の剥離が施されいるが、この剥離は基端に形成されている折断面を打面として施されており、主要剥離面の剥離とともに折断面もナイフ形石器の調整技術であったことが推定される状態を示していた。したがって、折断面は素材の打瘤部の除去と器体の大きさの決定のために、主要剥離面の剥離は器体を薄く調整する目的で施されていたものと考えられるが、いまだ木葉形を呈する形態までは多くの調整を必要とする段階であり、幅広厚手の素材に手を焼き、製作途中で放棄したものと思われるものである。

69は基部を欠損するが、両側縁に調整を施しているものである。背に相当する右側縁は、直線的で急斜な状態に整形されており完成度の高い側縁となっているが、一部が残っている左側縁は潰れた細かな剥離が確認されるだけであり、全体的な調整状態は不明である。ただ、良好な状態で右側縁は製作されているものの、作製されるはずの先端部の形成は行われておらず、素材を大きく改変する途中の状態であることが推定される例である。この様な推定が正しいものであるならば、素材を大きく改変する技術として、急斜な調整を行うブランティングを利用することもあったことが判断されるものと思われる。なお、右側縁の調整には剥離面、主要剥離面双方からの剥離が認められており、より急斜な側縁を形成する意図があったことが窺える。また、基部の他にも刃部に欠損が生じており、ナイフ形石器の製作には不向きな状態となってしまっており、放棄されたと思われるものである。

**尖頭器**（第31図70）

両端を欠損する半両面加工の尖頭器である。素材は石刃で、表面の左右両側縁に調整剥離を施して器体の整形が行われているが、先端部に行くに従い素材の鋭い縁辺を取り除くような細かい調整で整形されており、素材をそれ程大きくは改変していないものである。先端付近に比べると、基部付近では素材の中央部に届くような調整が加えられており、木葉形に器体を整形するために素材幅を減じるような調整が行われていたことが窺える。したがって、上半分には素材の主要剥離面より古い剥離が残っており、この剥離痕は主要剥離面と同一方向の剥離と180度剥離方向の違う剥離痕で構成されており、この素材が上下両端に打面を設置した両設打面石核より剥離されていることが推定されるものである。主要剥離面の右側縁基部よりには、細かな剥離で調整が施されているが、これは素材の打瘤部の除去か、或いは素材の捩じれの修正と考えられるが、基部の状態が不明のため判断することはできなかった。

**掻　器**（第31図71～第32図75）

５点が確認された。５点とも不定形な剥片の一端に簡単な刃部を作製しているもので、入念な調整で丁寧に作られているものは僅かに認められるだけであり、器種としても定形的な形状を呈しておらず、多様な形態を示していた。

71は台形状を呈する縦長剥片の右端に、弧状の刃部が作製されているものであるが、この刃部の調整以前に素材の縁辺を折り取るような折断面と、刃部との前後関係は不明であるが粗い剥離を左側縁に施している。このような調整は、器体の幅を減少させようとしたか、或いは刃部幅を狭い状態に整形しようとしたものと思われるが、全体的に大雑把な剥離で中途半端な調整状態であり、目的を完遂しているとは考えられない調整であった。刃部の調整は主要剥離面側から施されていたが、比較的簡単な剥離でやや鋭角な状態で作製されており、強靭な刃部は形成されていなかった。なお、石材がホルンフェルスで風化が著しいため、刃部の潰れ等は確認できなかった。

72は小形の横長剥片を素材とした掻器で、比較的整った刃部が形成されているものである。素材の左側縁

第32図　第28次調査出土石器（９）

は、剥片剥離時に内在していた気泡から弾けた剥離によって形成されたもので、刃部はこの面とほぼ平行する右側縁に挟まれた末端部に作製されており、刃部幅が限定されている手頃な横長剥片を素材に利用したことが窺える例である。刃部の調整は主要剥離面側から比較的丁寧に施されており、舌状を呈する強靭な刃部が作製されていた。刃部の縁辺には、使用によると思われる潰れが認められている。

73・74は、極めて簡単な調整で刃部が作製されているもので、この内の74は刃部の一部を欠損している例である。73は長方形に近い横長剥片を素材とし、その中で最も薄い縁辺（素材の左側縁）に簡単な調整を加えて刃部を作製しているものであり、本例も刃部幅に相当する縁辺を持った素材が選択されていることが窺える例である。刃部の調整は、素材の縁辺を折り取ったか、或いは剥片剥離時に弾けた折断面に加えて細かな剥離を施したもので、この剥離は右側縁（素材の末端に相当）にかけて行われており、コーナー部の作製が意図されているようである。なお、図の上面（素材の右側面）にも数回の剥離が認められており、両端に刃部の作製を意図していたのかも知れない。

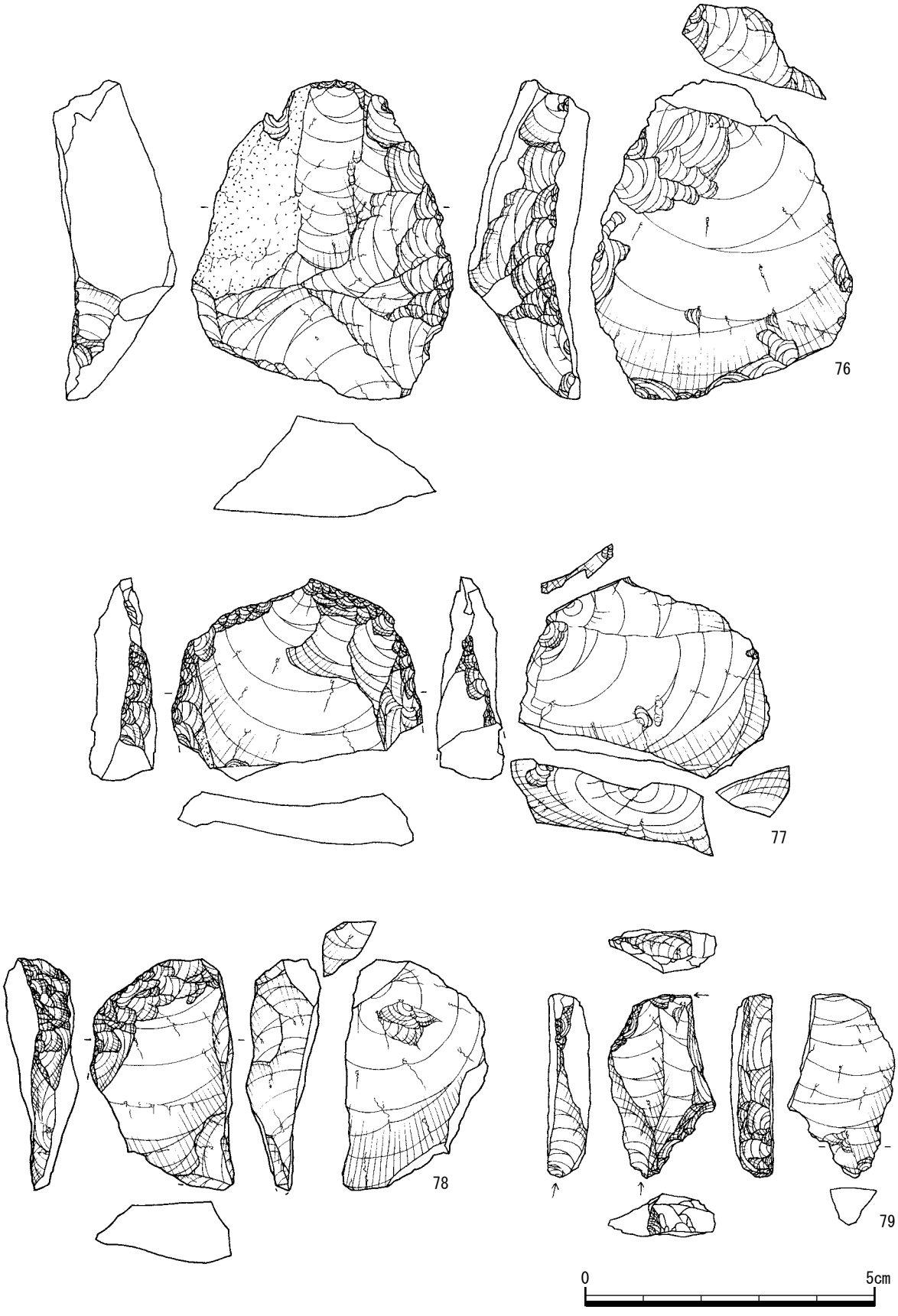
74は縦長剥片を素材とし、その末端に簡単な調整を施して刃部を作製しているものであるが、刃部の半分程を欠損している例である。調整の状態からは、細かな剥離で右コーナー部が作製されているものの、それほど強靭な刃部が形成されてはいないことから、刃部の製作途中で欠損してしまった可能性もあると思われるものである。

75は、厚手の縦長剥片の末端に刃部が形成されているものであるが、刃部の調整は極めて粗く大雑把なものであり、掻器として捉えるのに躊躇した例である。調整は全て主要剥離面側から施されていたが、調整の集中するのは刃部の左右コーナー部であり、中央部では急斜な粗い調整が数回認められるだけであった。刃部は、肥厚した縦長剥片の末端に加工を施しているためか、急斜で、極めて強靭な作りとなっており、しかも素材の形状を大きく改変しているとは思われない状態で作製されており、71・72で認められた刃部の状態とは大きく相違していた。したがって、未製品の可能性もあると思われたが、左右コーナー部の縁辺には潰れが観察されることから、使用されている可能性の方が高いことが推定される状況にあった。このようなあり方から、75は必要に応じて遺跡内で作製されたもので、継続的に使用するような意図で作られたものではなく、何回かの使用を経て使い捨てられたものであることが推察されるものである。

**削　器**（第33図76～78）

３点が確認されたが、それぞれで状態が違っており、多様な様相を呈していた。76は幅広厚手の縦長剥片を素材とし、これの右側縁に粗い調整を施して刃部としたものであるが、刃部の縁辺は凹凸が著しく調整度合いは低いものである。したがって、削器の刃部として良好な状態とは言えないが、弧状を呈する刃部の中で突出している部分には細かな調整が集中的に施されており、使用する機能部分が偏っていたのかも知れない例である。刃部の調整の中には素材の中央部まで届くものがあり、素材の形状を改変していることが推定されることから、刃部に認められた突出部は意図的に作製された可能性があり、直線的な刃部を形成している一般的な削器の刃部とは大きく相違するものであった。なお、右側縁と末端の主要剥離面に数回の剥離が施されているが、その剥離目的を推定することはできなかったが、右側縁の剥離は刃部の縁辺を壊すように施されていることから、想像を逞しくすれば刃部の再生に関する調整であったのかも知れない。

77は、幅広な横長剥片の両側縁に刃部が形成されているもので、下半部を欠損する。左側縁の調整は粗く大雑把な剥離で施されているのに対し、右側縁では細かな剥離で調整されており、調整状態に若干の違いが存在していたが、双方とも直線的な刃部は形成されておらず、凹凸のある縁辺が作製されていた。下半分が欠損しているので明確ではないものの、素材が横長剥片であることが推定されていることから、77の両側縁




第33図　第28次調査出土石器（10）

にはそれほど広範囲な刃部が形成されていたとは考えられない状況にある。したがって、本遺跡では刃長の短い削器が作製されていた可能性があることと、横長剥片を素材として利用していることから、多様な形態の素材が利用されていることが推定できるものと思われる。刃部の調整は、全て主要剥離面側から行われていた。

78は縦長剥片を素材とし、その左側縁の打面寄りの部分に刃部を作製している例で、末端から左側縁の下半分を欠損するものである。刃部の整形は比較的鋭角であるが、割合と丁寧に調整されており、縁辺には細かな剥離が連続して施されていた。ただ、76・77と共通するように直線的な刃部は作製されておらず、さらに欠損があるため明確ではないものの、これも広範囲の刃部を形成していたかは不明であり、刃長の短い刃部が形成されていた可能性があるものと思われる。78の刃部にも突出した箇所があり、縁辺には使用によると思われる潰れが認められていることから、突出部のある刃部が作製され、そのままの状態で使用されていることが推定される例である。なお、下半分の欠損は、刃部の調整後に欠損したものである。刃部の調整は全て主要剥離面側から施されており、主要剥離面は未調整であった。

**彫　器**（第33図79）

幅広厚手の石刃を素材とし、両端に彫器の彫刀面が作出されているものである。上端に作製されたのは所謂「上ゲ屋型」彫器（樋口・森島・小林　1962）の刃部で、右側縁には素材の縁辺を折り取るような折断面と粗い調整剥離を施し、左側縁では細かな調整で上端の幅を狭めるように斜めに調整を行って器体が整えられている。このような素材に対し、右側縁の折断面を打面として上面に彫刀面が作出されているが、上面は彫刀面の作製前には折断面で構成されていたことが残存する剥離面から明らかであった。したがって、このような状態からは、彫刀面の作製に際して素材の打瘤部を折り取って素材としたのか、或いは彫刀面の再生が行われた可能性があることが推定されるものである。下端に作製された彫刀面は、素材末端の右側縁に斜めに粗い剥離を施して調整面を形成し、この調整面を打面として左側縁に沿って斜刃の彫刀面を作製しているもので、所謂「細原型」彫器（舘野　1982）の範疇に含まれる形態のものである。右側縁の調整は粗い、縁辺は凹凸が著しい状態であり、側縁を整形すると言うよりも彫刀面作製のための準備段階の調整と考えられる剥離であった。したがって、結果として彫器の彫刀面が作製できる程度の粗い調整で器体が整形されていることに他ならず、換言すれば彫刀面以外の調整は全て彫刀面を作製するために用意された調整であったことが想像されるものと思われる。そして、形態の違う彫刀面をひとつの器体に作出されることがあり、これらが同時に利用されたのか、或いは別々に時間差をもって使用されたのか、彫器を何等かに固定していた可能性もあることから興味深いものである。なお、調整は全て主要剥離面を打面として施されており、主要剥離面は未調整であった。

**加工痕のある剥片**（第34図80～第35図97）

何等かの加工が施されているもので、この中には削器の刃部のような調整が行われたもの（80）や、ブランティング加工が施されているもの（81・82・86・92・94・96・97）、粗い調整が施されているもの（83～85・87～91・93）、細かな調整が加えられているもの（95）等があり、調整の施された状態は一定していない。さらにこの中には、継続する調整加工の中で剥離されてしまったと思われる調整剥片（82・94）や、欠損しているものが多く認められており、調整の目的を推定することが難しいものが過半数を占めていた。中でも前者の例は厳密に分類すれば剥片であり、加工痕のある剥片に含めるのは不適当なものであった。しかし、これらは全体的な加工の状態は不明なものの、施されていた調整の一部が確認できるものであり、それを図

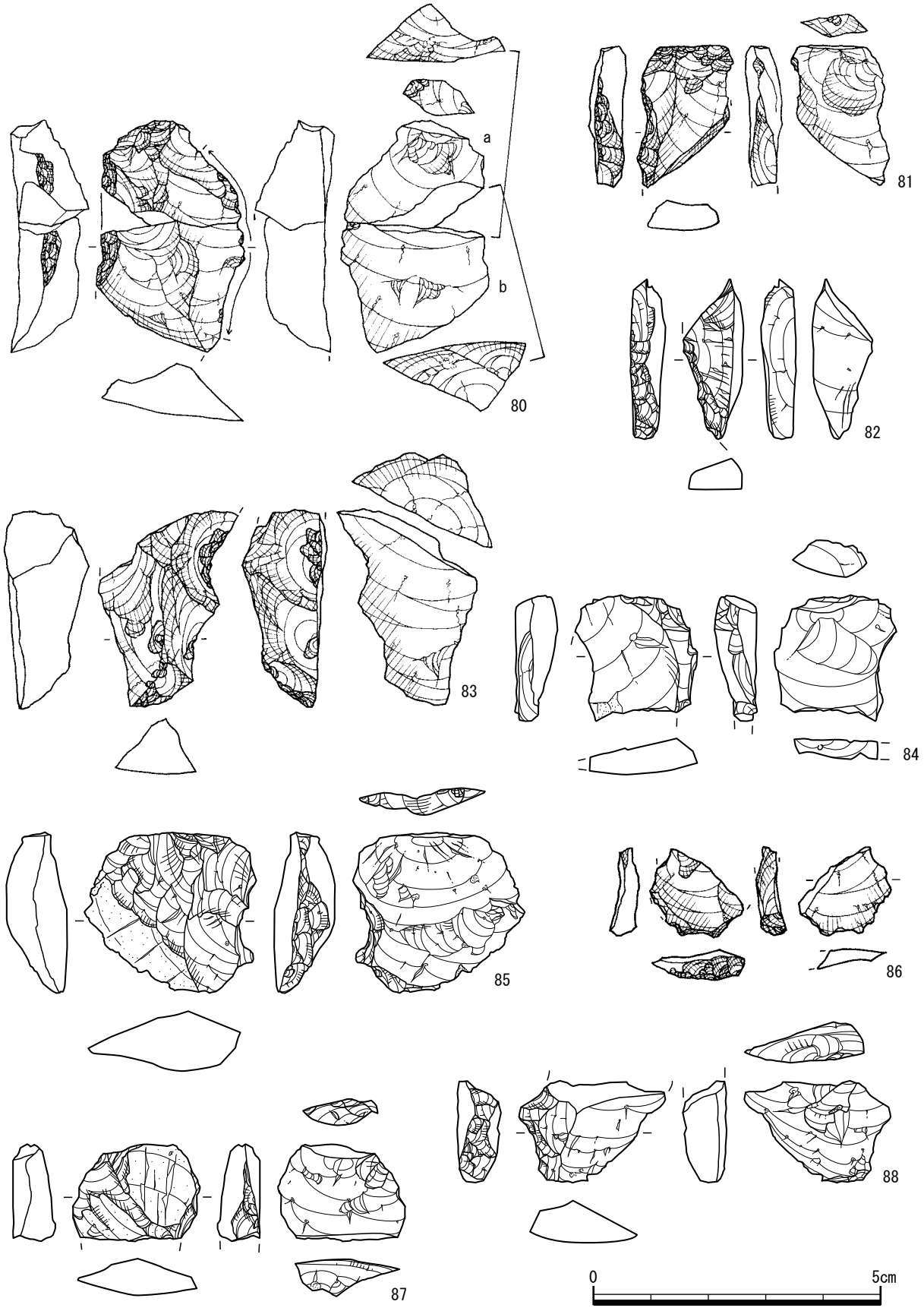
化し記述することは調整技術を理解する上で有益と思われることから、あえて加工痕のある剥片に含めておいたものである。

80は幅広の縦長剥片の左側縁に、削器の刃部のような調整が施されているものであるが、欠損によって中央部が確認されていないため、加工痕のある剥片に含めたものである。左側縁に認められる調整は、細かな剥離を用いて丁寧に主要剥離面側から施されており、削器とすれば強靭で良好な刃部が作製されていた。この調整時か使用時かは明らかではないが中央部から欠損しており、欠損した両者には折断面に剥離が施されているもの（80a）と、折断面を打面として表面に剥離が加えられているもの（80b）があり、中でも80bでは左側縁に施されている調整の上端を切っており、何等かの再加工が試みられている可能性があるものである。そして、この剥離によって80bの末端が剥離されてしまったため、素材の大きさが明確に捉えられない状態にある。81は縦長剥片の左側縁に、やや鋭角なブランティング加工が施されているものである。ブランティングは粗いものの主要剥離面側から連続して施されており、素材の形状を改変しようとしていることが窺える例である。そして、ブランティング加工の利用状態からナイフ形石器に関連する調整が試みられていたと推定されるが、調整時に素材の中央部で欠損が生じてしまったことから、放棄されたようである。82は図の左側縁にブランティングが施されているものであるが、この調整の延長で欠損してしまった可能性の高いものである。調整はやや粗いものの急斜な状態に施され、直線状の側縁が形成されていることから、状況からはナイフ形石器の調整段階で欠損した断片と思われる例である。83は稜付の縦長剥片で、主要剥離面を打面として右側縁に素材の縁辺を抉るような剥離を数回施しているものである。調整は極めて粗いもので、素材中央の稜まで届いており素材の形状を大きく改変していることが推定されるとともに、素材末端部の幅を狭めているような状態が窺えるものである。末端部では稜線の左側から右側に加えた剥離で構成された先端が形成されているが、この剥離は主要剥離面より古い剥離であるため調整によって作製された先端ではないものである。ただ、このような先端を持つ形状を認識しながら、右側縁に調整を施して素材を狭めている状況から、本例もナイフ形石器の製作を意図した調整であった可能性が高いものである。そして、83のような肥厚した素材に対してはブランティングを施す前に、大きな剥離で素材の形状を改変していることが推察されるものと思われる。また、この調整の後に素材の打面部を欠損したことにより、調整を続けることなく放棄されている。84は右側縁の一部に調整が施されている例で、この調整を切って素材下半分が欠損しており、調整の全体像は不明のものである。残っている調整は数回程度で、やや鋭角な削器の刃部のような角度の剥離で、主要剥離面側から施されていた。そして、末端以外に左側縁も欠損しており、調整を続けることなく放棄されていたものである。85は方形に近い素材の右側縁に、粗い調整が施されているものである。これらの調整の多くは剥離面側から施されていたが、主要剥離面側からの剥離も観察できることから、両方向から調整を加えていたことが理解される例である。しかし縁辺には凹凸があり、何等かの形状に整形しようとしている意図は見受けられないことから､素材を大きく改変しようとしている初期段階のものと思われる。86は、打面部を欠損する小剥片の末端に粗く急斜な調整を施しているもので、調整は素材の縁辺に沿って加えられている様子であった。したがって、素材を改変して形状を整えるような意図は感じられないものであり、調整はブランティングに類似しているものの素材を生かす整形を行っていることから、掻器等の製作に関する断片であることが推定されるものである。87は末端を欠損する剥片で、右側縁に数回の調整剥離が施されているものである。剥離はそれほど大きなものではないが、明瞭なネガティブ・バルブが観察されており、力強い調整が行われていることが窺えた。末端の欠損は、内在していた気泡より生じたものであり、この調整の衝撃によって欠損した可能性のあるものである。また、調整は僅かに残っているだけのため、調整目的を推定することはできなかった。88は、打面部を欠損する剥片の末端の左側縁に、粗い調整が施されて

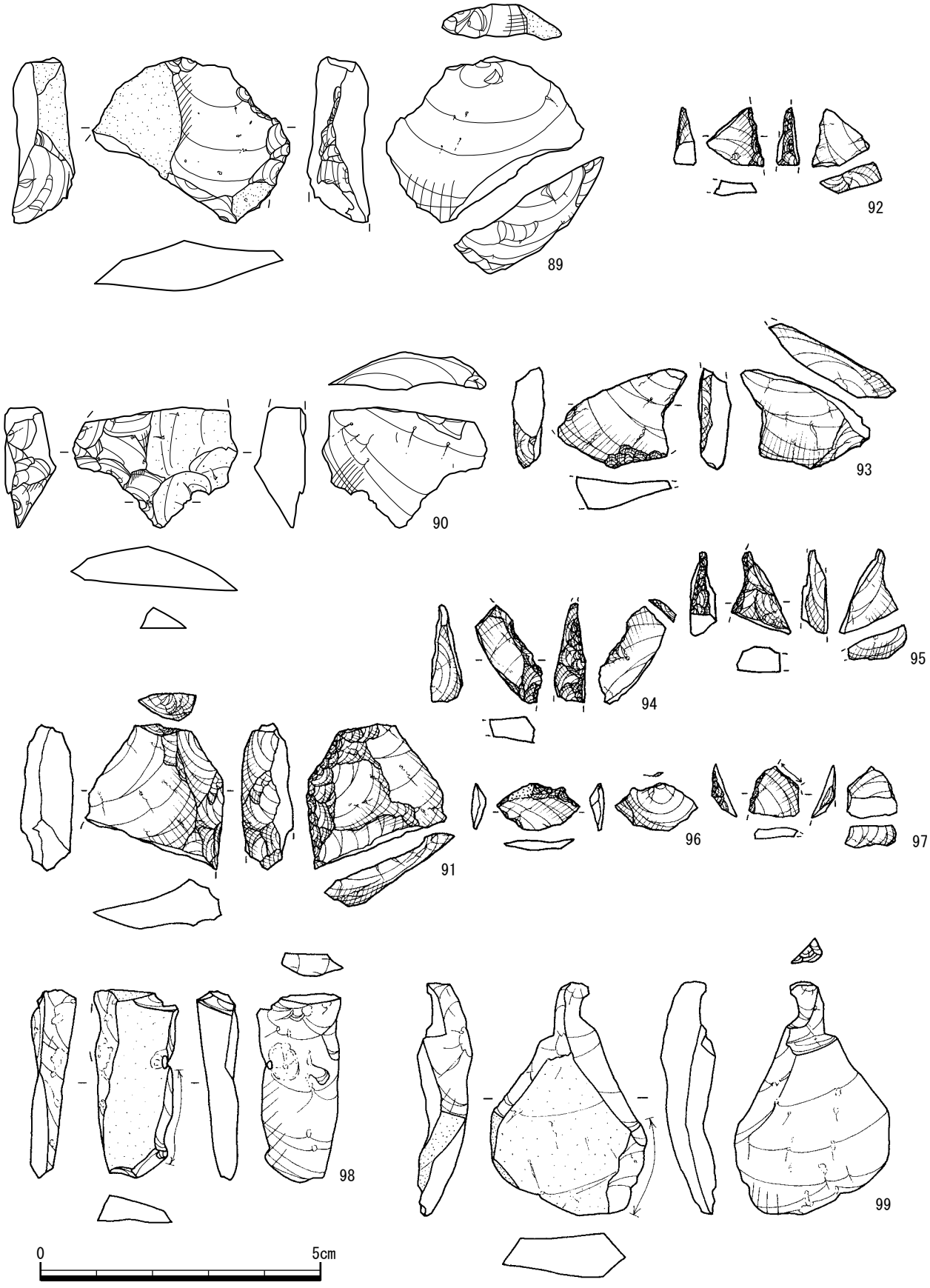
いるものである。調整は素材の中央に向かって抉るように加えられており、素材の形状を大きく改変している途中であることが、凹凸の著しい左側縁の縁辺から想像されるものである。したがって、何等かの器種の製作途中と思われるが、調整に器種の特徴がいまだ反映されておらず、目的とした器種が明確には捉えられないものである。89は剥片の右側縁に粗い調整が加えられているもので、下半分を欠損している。調整は素材の縁辺に沿った状態で施されており、素材を大きくは改変していない段階のものであり、調整の初期段階であることが推察できるものである。そして、欠損のため調整を継続することなく、放棄されたことが推定される例である。90は素材末端の左側縁に抉るような調整が施されているもので、打面部を欠損している。調整によって素材を大きく改変しようとしていることから、素材の形状を改変して製作する器種の初期段階の調整であることが推定できるものである。91は縦長剥片の打面部片で、下半分を欠損する。表面には素材の打面部から右側縁にかけてやや急斜な調整を施し、この調整面を打面として主要剥離面側に粗い面的剥離を行っているもので、状況的には両面調整が施されているものであった。このような調整の特徴からは尖頭器の未製品と想像されたが、しかしながら、調整としては初期段階であることと、左側縁には調整は加えられておらず素材の鋭い縁辺がそのまま残っている状態から、91はナイフ形石器の先端部片であることが推定できるものであった。このような推定が可能であるならば、ナイフ形石器の背の製作には素材を大きく改変しているものが存在していたことと、その調整には粗い面的調整も併用されていたことが推察されるものである。92と95は大きく欠損している断片の縁辺に、急斜な調整が加えられているものである。調整は素材の縁辺に沿って施されているもの（92）と、素材を抉るように施されているもの（95）の違いがあるが、ともにブランティングに類似する調整であることからナイフ形石器の製作に関する欠損品と考えられるものである。93は打面部を欠損する剥片の末端に調整が施されているもので、表面では細かな剥離を連続して加えていたが、この調整の一部を切って主要剥離側には素材の縁辺を折り取るような剥離が行われているものである。調整の状態からは素材の形状を改変しようとしていることが推定できるものの、欠損のため全体的な調整状態は不明であり、施されていた調整の目的は明確に捉えることはできなかった。94は調整剥片と思われるもので、94の剥離前にも同一方向の調整剥離が主要剥離面から施されている例である。調整は粗いブランティングであり、剥片の一端も欠損するため明確ではないものの、ナイフ形石器の先端部片である可能性の高いものである。97もナイフ形石器の先端部片と思われるものであるが、調整によって先端が形成されていないことから加工痕のある剥片に含めたものである。左側縁に細かな調整を施して背の製作と先端の形成が行われていたと思われるが、この調整時に先端が剥離してしまったようである。ただ、欠損面である主要剥離面を見てみると、剥離は右側縁の縁辺から生じており、調整ミスで右側縁側を打撃してしまったのかも知れないものである。96は小形の横長剥片の打面部に細かな剥離が認められるもので、この剥離によって打面の殆どが剥離されてしまっているものである。ただ、調整は加えられているものの、極めて小形の素材であり、調整の目的が理解できる状態ではないことから、96の剥離後に偶発的に生じた剥離で、意図的な調整ではない可能性もあるものである。

**使用痕のある剥片**（第35図98～第41図147）

剥片の鋭い縁辺に使用によって生じたと思われる微細な剥離が観察されるもので、50点が確認された。それらは縦長剥片に認められるもの（98～106）、縦長剥片の折れたもの（107～115・134～136）、縦横の長さに殆ど違いの認められない剥片（116～127）、横長剥片（128～131）、打点から縦に二分割してしまった剥片（138～140）、断片に認められるもの（141～147）等があり、素材の形状は多様であることが理解される。そして、全体的には縦長の素材が利用されている割合が高いことから、縦長の方が利便性が高かったことが窺

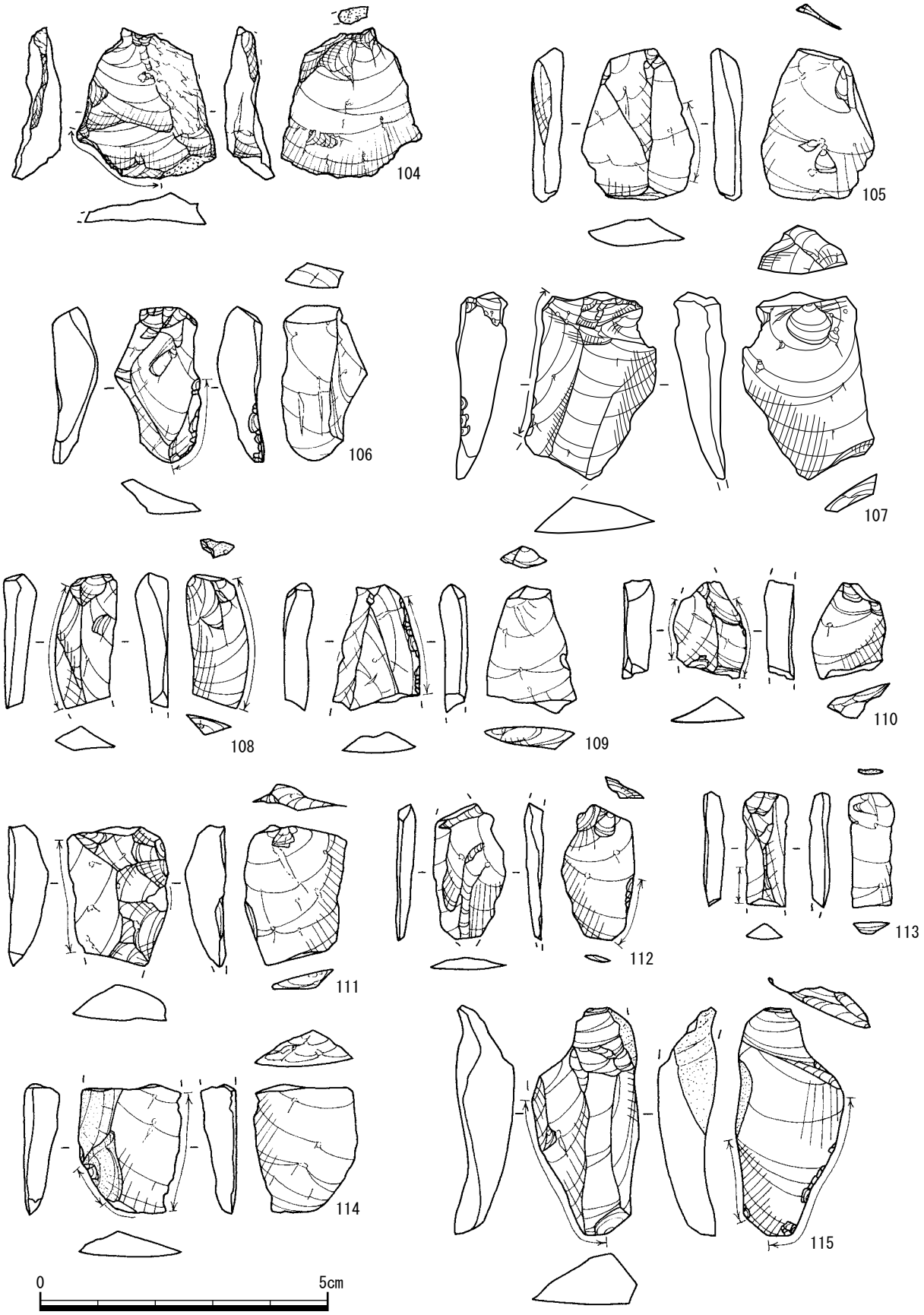



第34図　第28次調査出土石器（11）

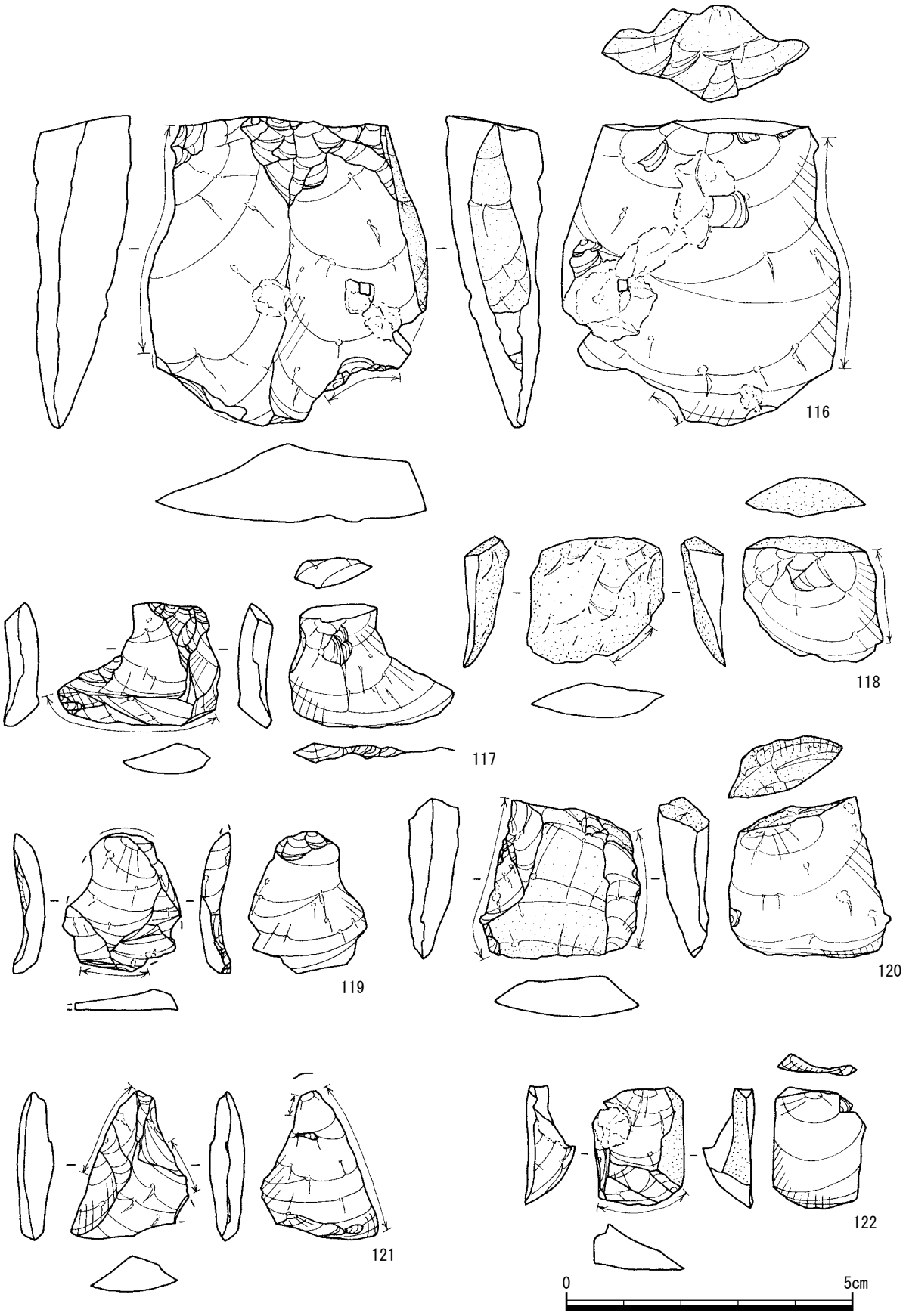



第35図　第28次調査出土石器（12）

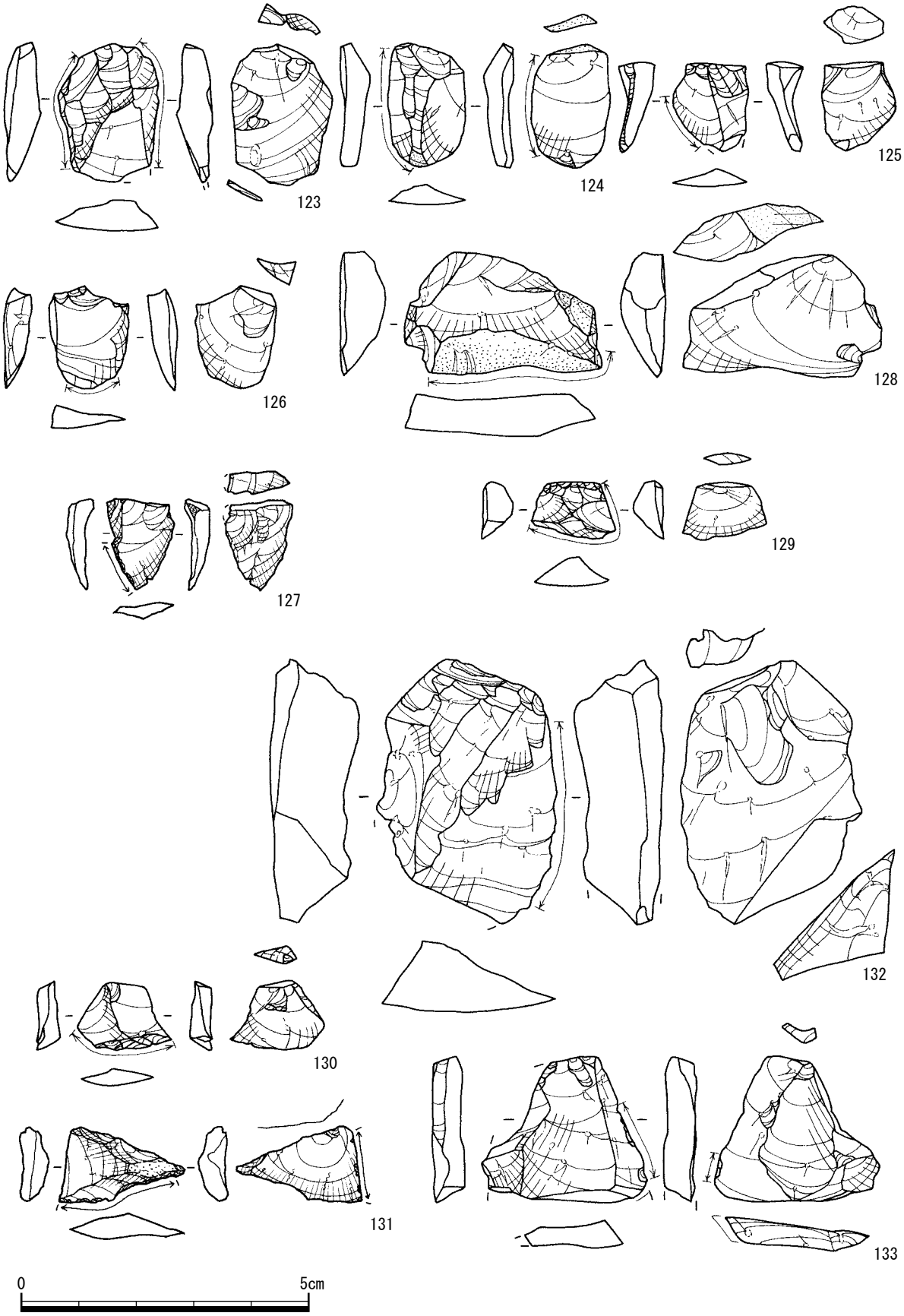
第36図　第28次調査出土石器（13）



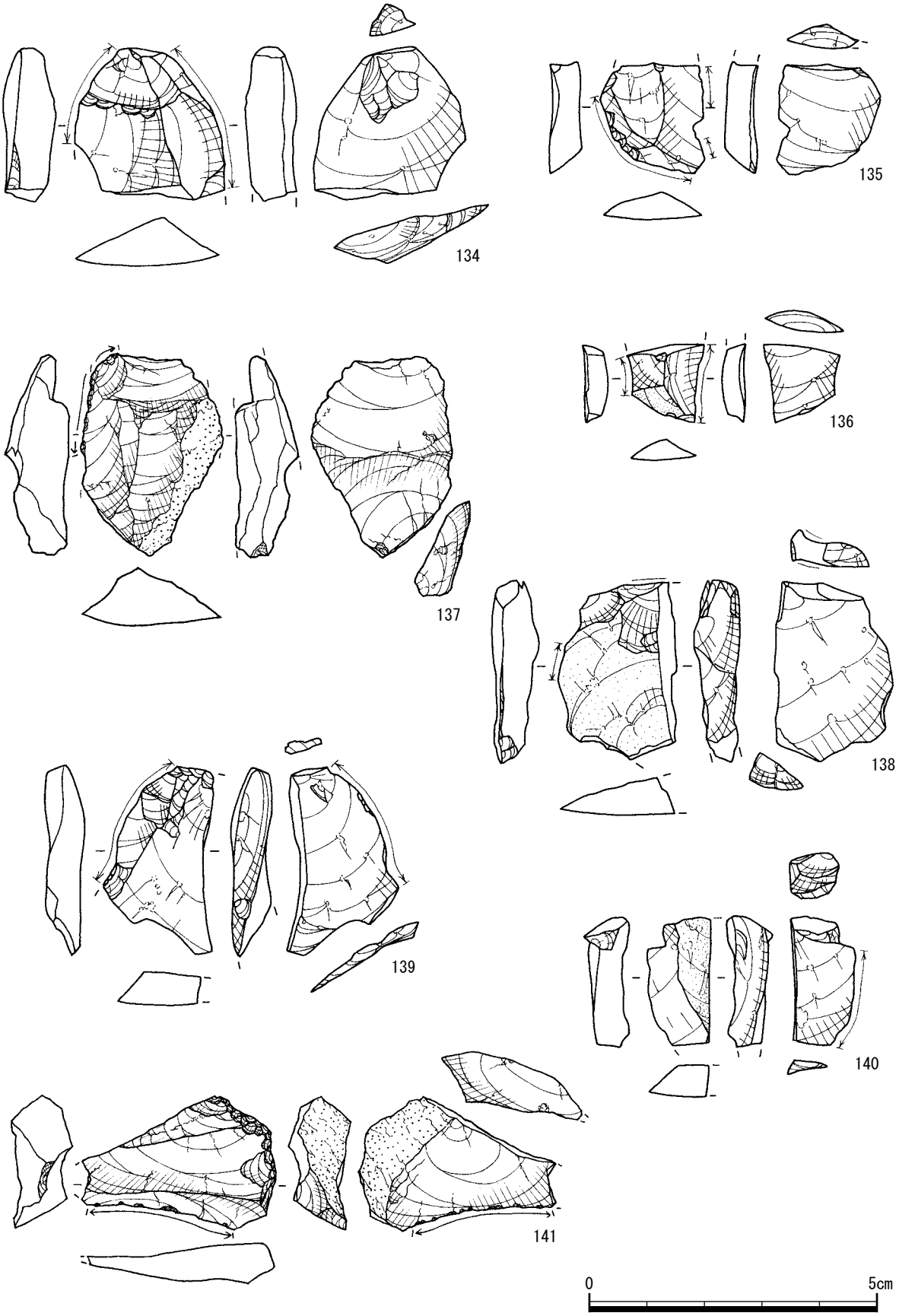

第37図　第28次調査出土石器（14）



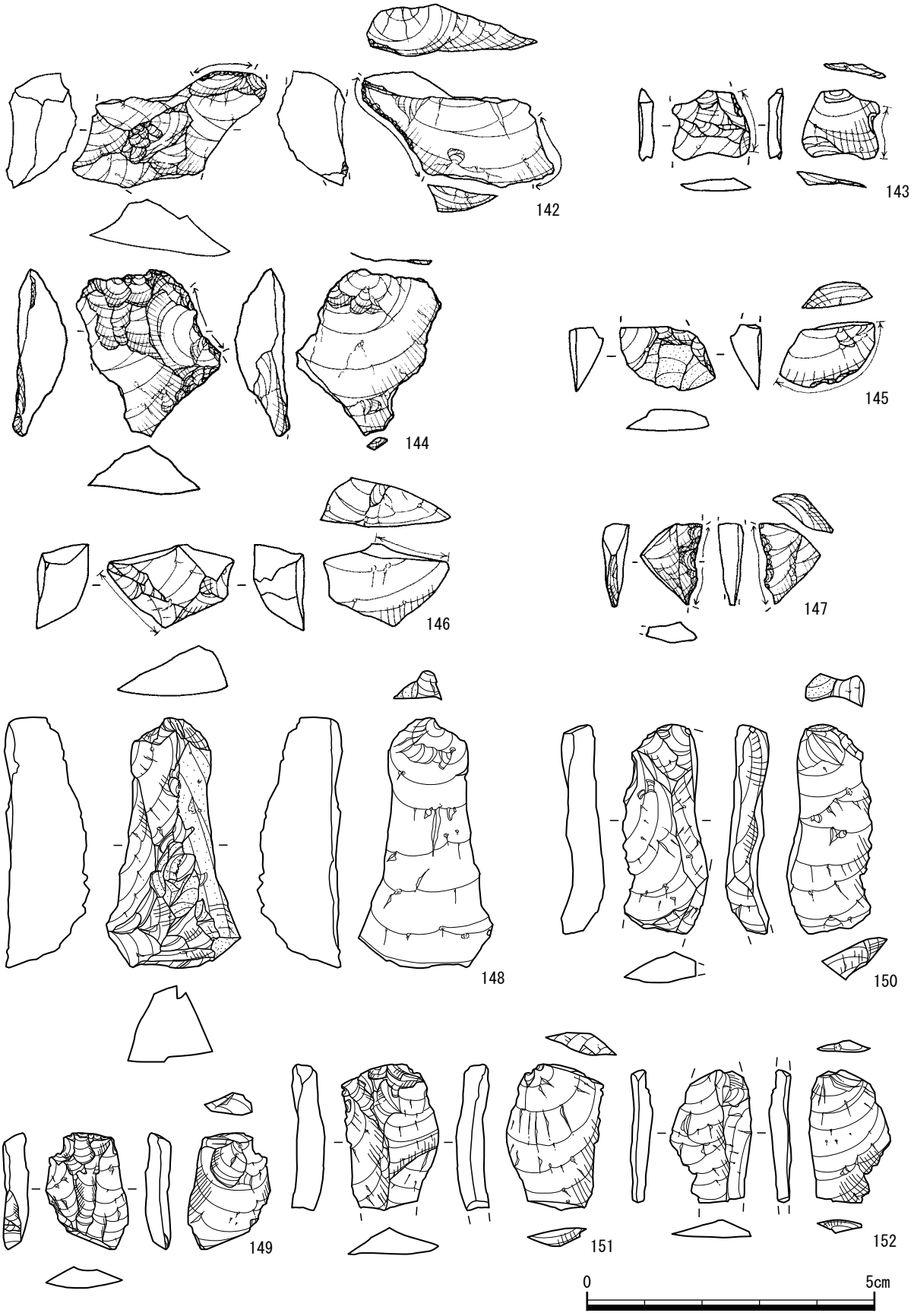

第38図　第28次調査出土石器（15）




第39図　第28次調査出土石器（16）




第40図　第28次調査出土石器（17）



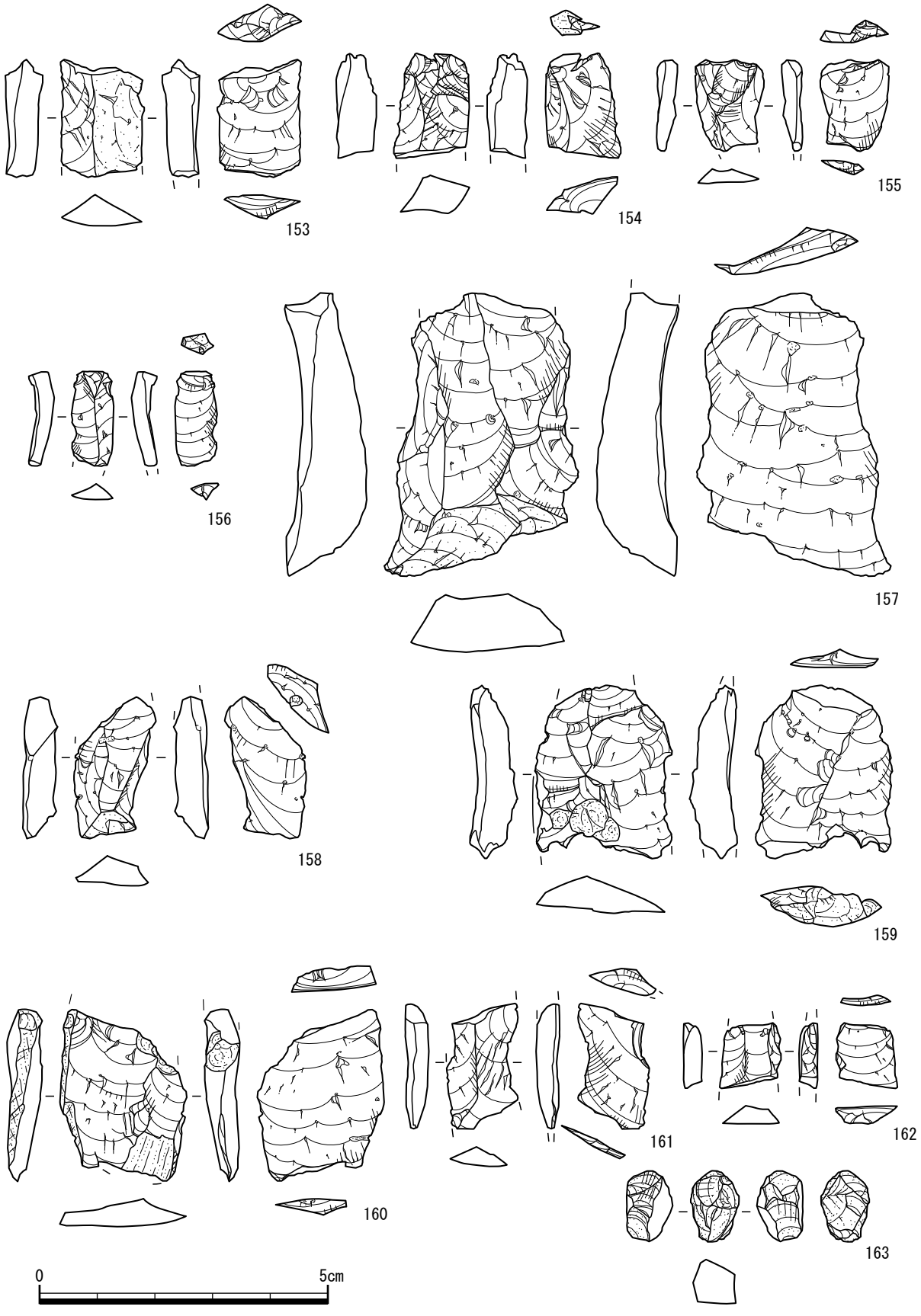

第41図　第28次調査出土石器（18）

えるものである。使用痕と考えられる微細な剥離は、縦長の素材の一方の側縁にだけ観察されるもの（98～100・102・104～109・111～113・116・124・125・127・132・133・137～140・146・147）や、双方の側縁に認められるもの（101・103・110・114・115・118・120・121・123・124・134～136・142）と、素材の末端に確認できるもの（101・117・119・122・126・128～131・145）等の相違があるものの、全体的には素材の持つ最も長い縁辺が利用されているようであり、鋭い刃部として長い縁辺が必要であったことが推察されるものである。このような使用痕のある剥片に認められる微細な剥離は、一方の面だけに確認されるものが多かったが、中には同じ縁辺の表裏に認められるもの（103・108・115・116・121・139・147）があり、縁辺の使用状態は多様で一定したものでなかったことが理解されるものである。

**石刃・折石刃**（第41図148～第42図162）

15点が確認されているが、殆どのものが欠損し折石刃となっており、完成体の石刃は２点（148・149）が認められただけであった。石刃は、前述してきたようにナイフ形石器等の素材として利用されることがあるが、本遺跡では石器類の素材となっている石刃は数少なく、その依存度は極めて低いことが判断されており、石器群の素材のあり方と石刃の出土量の少なさとは比例する状態にあった。15点の中にも石刃とするには疑問のあるものも数多く存在しており、剥離面に形成されている剥離痕や大きさ等、多様な様相を呈していた。ただ、本石器群の器種の殆どは剥片石器であり、これらの石器類の素材となった剥片の形状を理解することは、組織的な剥片剥離技術の有無や、保有している剥片剥離の確認等に検討を加えることを可能にすることから、あながち不必要な事ではないと思われるので、これらの内容を捉えて行くことにしたい。

石刃は表面の剥離面を構成している剥離痕と、裏面の主要剥離面の剥離方向が同じものと、これに180度剥離方向の違う剥離痕が加わるものがあり、剥片剥離方向が限定されているものが大多数を占めている。確認された15点の中で、一定した剥離方向で構成されていたものは148～151・153～156・159～162の12点で、この内の159を除く11点は剥離面と主要剥離面が上設打面からの剥離によって形成されているもので、所謂単設打面石核より剥離されたものであることが判断される例であった。これに対して159は、剥離面に主要剥離面の剥離方向と180度違う剥離痕の認められるもので、両端に打面を設置した両設打面石核より剥離されたことが推定されるものであった。これら以外では、上設打面からの剥離以外に90度剥離方向の違う剥離痕が形成されているもの（152・157・158）があり、石刃として理解したものの中にも剥離方向を限定しないで作出されたものが存在していた。ただ、剥離方向が90度違う剥離が存在した152と158のこの剥離は、石核の形成剥離と思われるもので剥片剥離とは考えられないものであったが、唯一157の左側に施されている剥離は剥片剥離の可能性があることから、157では90度の打面転位を行いながら剥片剥離作業が行われていたことが推定できるものであった。そして、148・153・160では表面の一部が角礫面で構成されており、石核調整を施して角礫面を削除するような作業は行っていなかった可能性が高いことが推定できる。さらに、これらに残っている打面を見てみると、平坦打面のもの（149・151・153）と、自然面（角礫面）を打面としているもの（154・156）、複剥離打面のもの（148・150）、調整打面のもの（152・155）等が認められていたが、打面を細かな剥離で調整しているようなものは確認されておらず、殆どのものは平坦打面か、或いは数枚の剥離が施された複剥離打面より作出されたものであることが判断された。以上のような石刃・折石刃の様子から、原石を手頃な大きさに分割し、この分割面の一面を打面として設定し、簡単な調整を施すか、分割面をそのまま打面として剥片剥離作業が行われたようである。さらに、手頃な大きさの原石では、いずれかのより平坦な面を打面として設定し、その面から直接剥片剥離作業を加えているものがあったようであり、積極的に石核調整や打面形成ををを行っているような様子の認められない例も存在していた。剥片剥離方




第42図　第28次調査出土石器（19）

向は上設打面からの一方向にほぼ限定されており、下設打面からの剥片剥離は殆ど認められない傾向にある。そして、石核の中には90度の打面転位を行いながら剥片剥離を進めているものが存在していた可能性があり、打面を固定せず複数の打面から剥片剥離が行われる工程では、必然的に石核は立方体のサイコロ状となり、剥離された剥片は寸づまりの形状となってしまうことは明らかで、このような技術は縦長の石刃は生産できない剥片剥離技術であることは明白であった。したがって、本遺跡で確認された剥片剥離技術の特徴は、極めて簡略化した縦長剥片剥離技術を持つものの、これ以外に90度の打面転位を行いながら剥片剥離を進める技術も保有していた可能性が高く、剥片剥離技術も生産される剥片もひとつに限定されることなく、多様な様相を示していた。前述してきたように、ナイフ形石器の中には横長剥片を素材としたものが数多く認められていることからも、総体的に縦長剥片剥離技術への依存度が低下していることが窺えるとともに、縦長剥片剥離技術である石刃技法が衰退していることが理解できるものであった。このような推定は、石器類の素材として利用された石刃や、遺跡内に残っていた石刃の量の少なさからも想像することが可能であり、石器群の技術基盤としての石刃技法は殆ど存在意義を失っている状況であることが推定できるものであった。

**原　石**（第42図163）

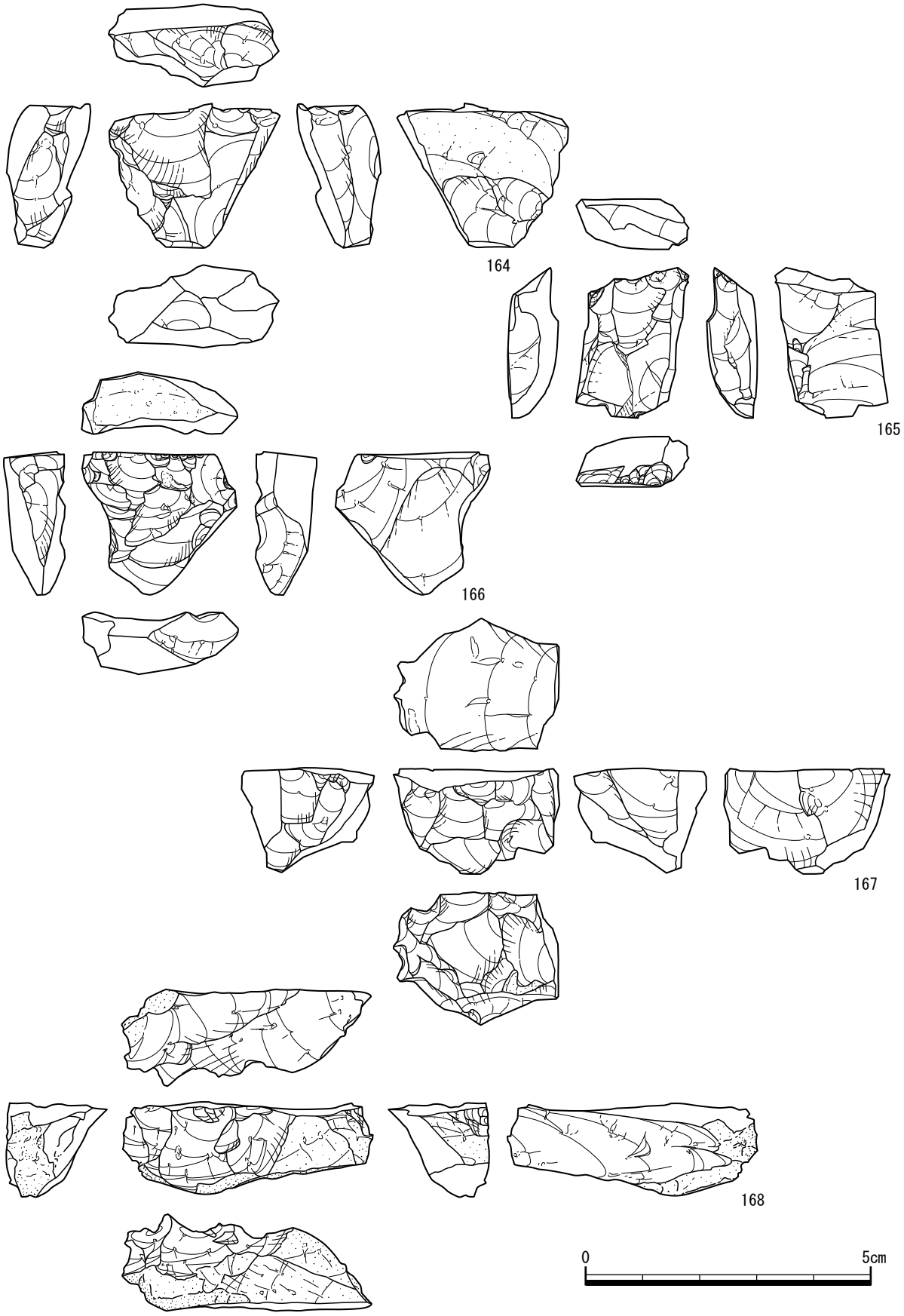
重量１ｇの黒曜石の小礫である。石器製作に利用することは不可能な大きさであり、しかも表面には著しい風化が認められない状態であることから、大きな気泡の中に種のように内在していたものである可能性があるものである。したがって、原石を剥片剥離した時に気泡の中から飛び出したものであることが想像されることから、個体別資料としては原石と同一個体に分類されるべきものである。しかしながら、表面には著しい風化が認められないと言っても剥離が行われている訳ではないので、表皮下の黒曜石の特徴を把握することは不可能なため、単独個体の原石として捉えておいたものである。

**石　核**（第43図164～第45図172）

９点が確認されたが、それぞれに特徴があり、ａ類：剥片や断片を素材とした小形の石核、ｂ類：剥片剥離作業面が正面に限定されているもの、ｃ類：剥片剥離作業面や打面が限定されてなく、90度や180度の打面転位を行っているもの、ｄ類：両面調整のように打面を形成せずに剥片剥離が行われているもの、の４類に分類された。この中でｄ類としたものは、何等かの未製品である可能性が高いものであるが、その器種を特定できないため石核に含めたものであり、本質的には石核から除外されるべきものであることを明らかにしておきたい。

**ａ類**（第43図164～168）

５点が確認されたが、全て剥片や断片を素材とした小形の石核であり、良好な剥片を量産することは難しいものである。164は厚手の断片を素材としたもので、折断面の上面を打面とした剥離を正面と右側面に加えているものである。裏面にも左側面を打面とした剥離が数回施されているが、これらから作出された剥片は極めて小形で、しかも定形的な剥片を剥離していたとは言えないものであった。さらに正面や右側面には現在の剥片剥離に伴った剥離でないもの（表面右側の剥離で、ネガティヴ面である）があり、剥片剥離方向を変えたり、石核の一部を折断（右側面）しながら打面を変更したりして、剥片剥離を進めていたことが想像されるものである。165は厚手の剥片を素材とした石核で、正面の下半分には主要剥離面が大きく残っている。したがって、右側面はこの石核の素材となった剥片の打面であり、施された剥片剥離は上面の打面から行われた数枚の小剥離だけであった。左側面と裏面に認められる剥離も正面の剥片剥離以前の剥離であり、




第43図　第28次調査出土石器（20）

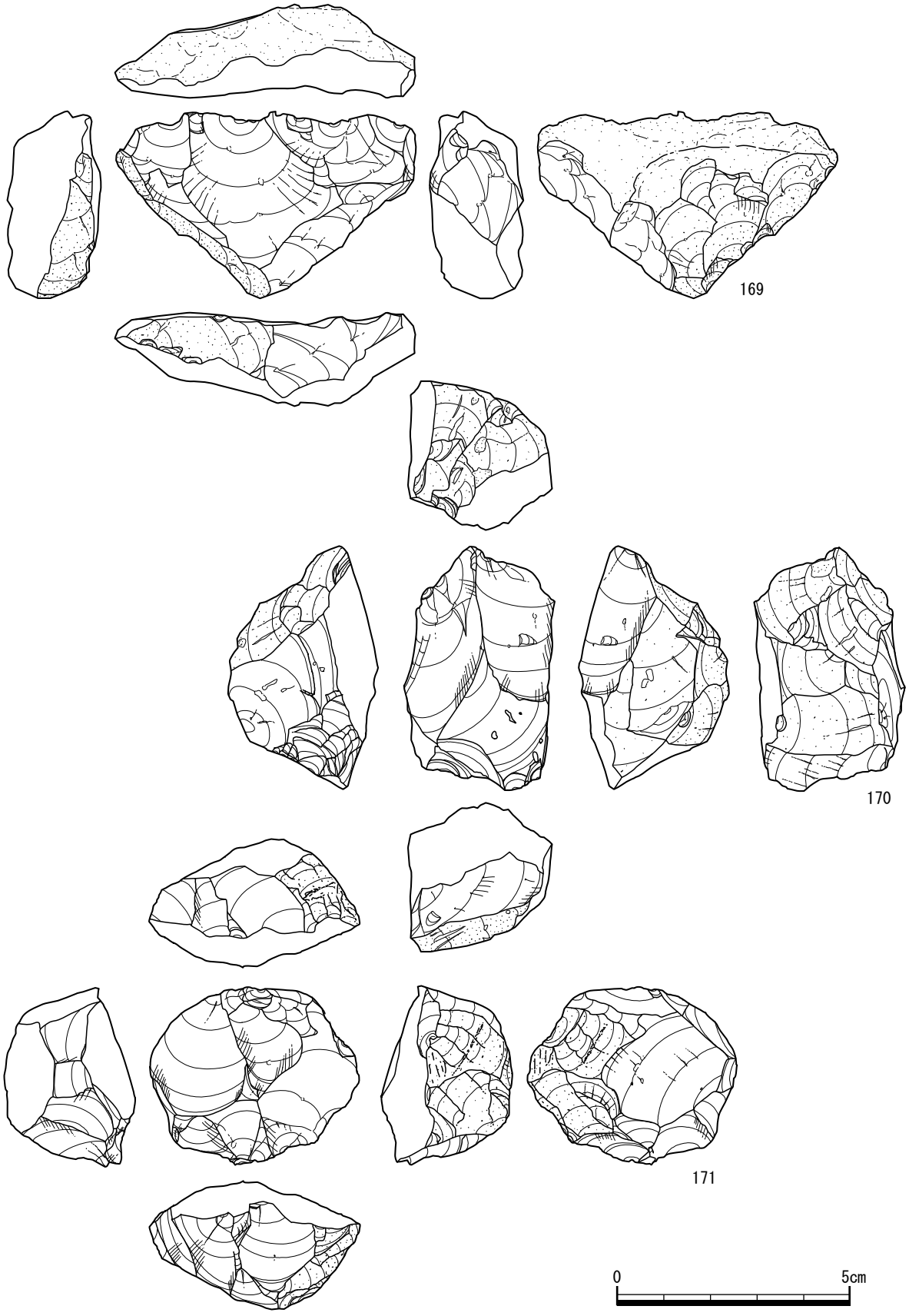
打面もその可能性が高いものであることから、打面の形成や石核調整を行うことなく剥片剥離を加えていることが明らかであり、極めて即物的な石核であったことが窺えるものである。なお、石核の末端に粗い調整が施されており、掻器等に再生しようとしていたようであるが、調整は粗いままで終わっており、刃部の形成には至っていないものである。したがって､厳密的には加工痕のある剥片に含めるべきものと思われたが、石核としての特徴を優先したため、石核の中で触れることにしたものである。166も厚手小形の剥片を石核としたもので､剥片剥離のため明確ではないが正面が素材剥片の主要剥離面である可能性の高いものである。剥片剥離は上面の自然面や裏面を打面として正面に施されているが、全て小剥片が剥離されているだけで良好な剥片を生産しているとは考えられないものである。そして、打面として利用するためか左右両面に折り取るような折断面が形成されていたが、積極的に剥片剥離を行った形跡は認められず、このまま放棄された例である。167は厚手の剥片の末端部を利用した石核で、素材の主要剥離面を打面としたものである。剥片剥離はほぼ全縁から行われており、素材剥片の欠損部である折断面が右側面の一部に残っているだけであった。素材のほぼ全縁に剥離が施されている状況から、円形掻器の未製品の可能性もあると考えたが、他の掻器の刃部は極めて簡単な作りのものが多勢を占めており、製作状態には大きな違いが存在していることが判断された。さらに円形掻器の刃部とすると、極めて厚手であり（75の掻器の刃部も厚いが)、このまま調整を進めて刃部を整えていくと、いま以上に鈍角な刃部となってしまうことから、調整剥離を途中で断念したものと想像されるものである。したがって、掻器の刃部としての調整は行われておらず、ほぼ全縁から粗い剥離が施されているだけであり、掻器の未製品の可能性もあるものの、取り敢えず石核として理解したものである。168も断片を素材とした石核で、正面に数枚の剥片剥離が行われているものである。これも剥離の大きさから調整剥離の可能性が高いものと考えられるが、想定できる器種が想像できないため石核として分類したものである。打面は左右両面からの剥離で構成された複剥離打面であるが、これも剥片剥離であった可能性があるが、裏面の折断面によって切られていた。したがって、打面に認められる剥離を行った後に、裏面部分の折断と正面の剥片剥離が行われていることが理解されることから、本例も剥片剥離作業面を限定することなく、複数の面で剥片剥離を加えていることと、石核の一部を折断して打面や剥離面を再生しながら剥片剥離が進められていたことが推定されるものである。そして、このような推定が妥当なものであるならば、このような剥片剥離技術からは定形的な剥片を生産することは不可能であり、剥離された剥片は多様な形状と大きさを示していたことが推定されるものである。

**ｂ類**（第44図169）

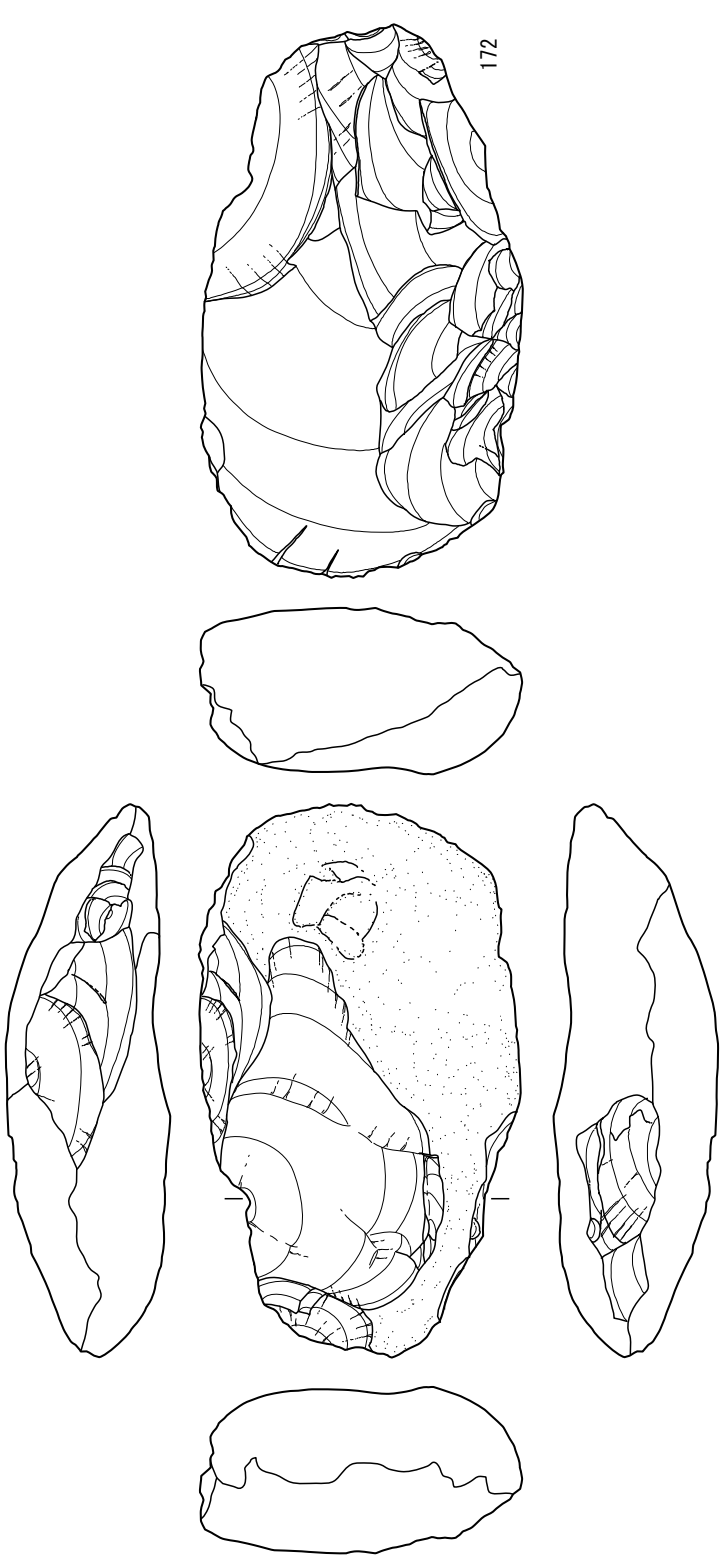
剥片剥離作業面を正面だけに形成した石核で、１点が確認された。剥片剥離作業面を横長に設定し、上面の自然面を打面として正面に数枚の剥片剥離が認められるものであるが、必然的に剥離された剥片は横長剥片であることが推定されるものである。したがって、169からは縦長の剥片を作出することは不可能であり、剥離された剥片を素材として利用したと仮定すると、横長剥片か或いは縦横の長さに大きな差のない剥片が求められていたことが想定されるものであり、石刃技法のような定形剥片を生産する技術とは大きな差があることが理解できるものである。

**ｃ類**（第44図170・171）

90度や180度の打面転位を行いながら剥片剥離を行っているもので、２点が確認されている。170では正面に剥片剥離作業面を設定し､上面の傾斜打面である角礫面を打面とした剥片剥離が数回施されているもので、これらの上設打面からの剥離以前には下設打面からの剥離が加えられていた。しかし、この下設打面からの




第44図　第28次調査出土石器（21）




第45図　第28次調査出土石器（22）

剥離の殆どは階段状剥離となってしまっており、下設打面から剥離作業を進めることは困難な状況になっている。この結果、打面を転位して上設打面からの剥離が行われているが、これも前述したように数回の剥片剥離で終了されており、打面を転位しながら剥片剥離を行っているものの、それほど継続性がある剥片剥離工程ではないことが推察できるものである。そして、正面の剥離が行われる前には裏面の角礫面を打面とした剥離が左側面に施されているが、この剥離は下設打面を切って行われていることから、これらの剥離の順序は下設打面が一番古く、その次が左側面の剥離で、次が下設打面からの剥離、そして最も新しい上設打面からの剥離の順であったことが判断できる。ただ、下設打面や左側面の剥離を打面形成や石核調整などの限定した剥離として捉えることができるかは明確ではないので、これらも剥片剥離として理解した場合には、３回の90度の打面転位と１回の180度の打面転位が行われていることになり、頻繁に打面を移動しながら剥片剥離が行われていたことが判断されるものである。171も正面を剥片剥離作業面とした石核で、傾斜打面である上下両打面から剥片剥離が施されているものである。ただ、打面は各面で調整を施している状態ではなく、正面を打面として上面から下面にかけて半円形に調整を行っているあり方から、剥片剥離を上下両端に限定することなく、半円形の縁辺から求心的な剥片剥離が行われていた可能性もあるものである。したがって、171から剥離された剥片は縦横の長さに差のない剥片か、或いは横長剥片であり、縦長の定形剥片を生産することは不可能な剥片剥離技術であることが理解されるものと思われる。そして、石核の中央部は上下方向の剥片剥離の結果として突出した状態になってしまっており、剥片剥離の継続が難しい状況が発生していることが判断されるものである。なお、石核の周辺に調整を行う前に裏面に剥離が施されており、石核の形成に関する剥離を行っていた可能性があるものであった。

**ｄ類**（第45図172）

前述したように、何等かの両面加工石器の未製品と考えられるものであるが、その器種を決定することが難しいので、石核として分類したものである。素材は厚手の横長剥片で、裏面の下端中央付近が打面と思われるが、調整によって打瘤部の殆どが除去されており、明確には捉えられない状態であった。剥片剥離の殆どは裏面の下端から施されていたが、下端には打面として利用された剥離面も存在するものの、過半数の剥離は正面の自然面を打面として行われており、これらの剥離によって素材の厚さを減少させようとしているようであった。ただ、剥離は素材の中央部にまで届いているものは稀で、しかも階段状剥離となってしまっているものが殆どであり、全体的に粗い調整剥離を施しているような状態であった。裏面に施された上面からの剥離は一枚と少ないが、この剥離面を打面として正面に剥離を加えており、この箇所では交互剥離が行われていたことが理解される。したがって、正面中央の剥離は素材剥離後に加えられた剥離であり、素材剥片の正面は殆ど礫面であったことが判断されることから、大形厚手の礫から剥離された厚手の剥片を素材として利用していることが理解されるものである。

### （２）接合資料

本遺跡で確認された接合資料は僅かであったが、この中から剥片剥離に関するものと、石器製作に関するものの幾つかを図示し、記述をしていくことにした。

**個体別資料番号№10の接合**（第46図170・173～176）

石核（170）と剥片３点（２点が接合するため資料数では４点）の接合で、173はこれらの接合状態である。剥片３点は同一打面から175、174、176の順に連続的に剥片剥離されていたが、その剥離が行われた打面は

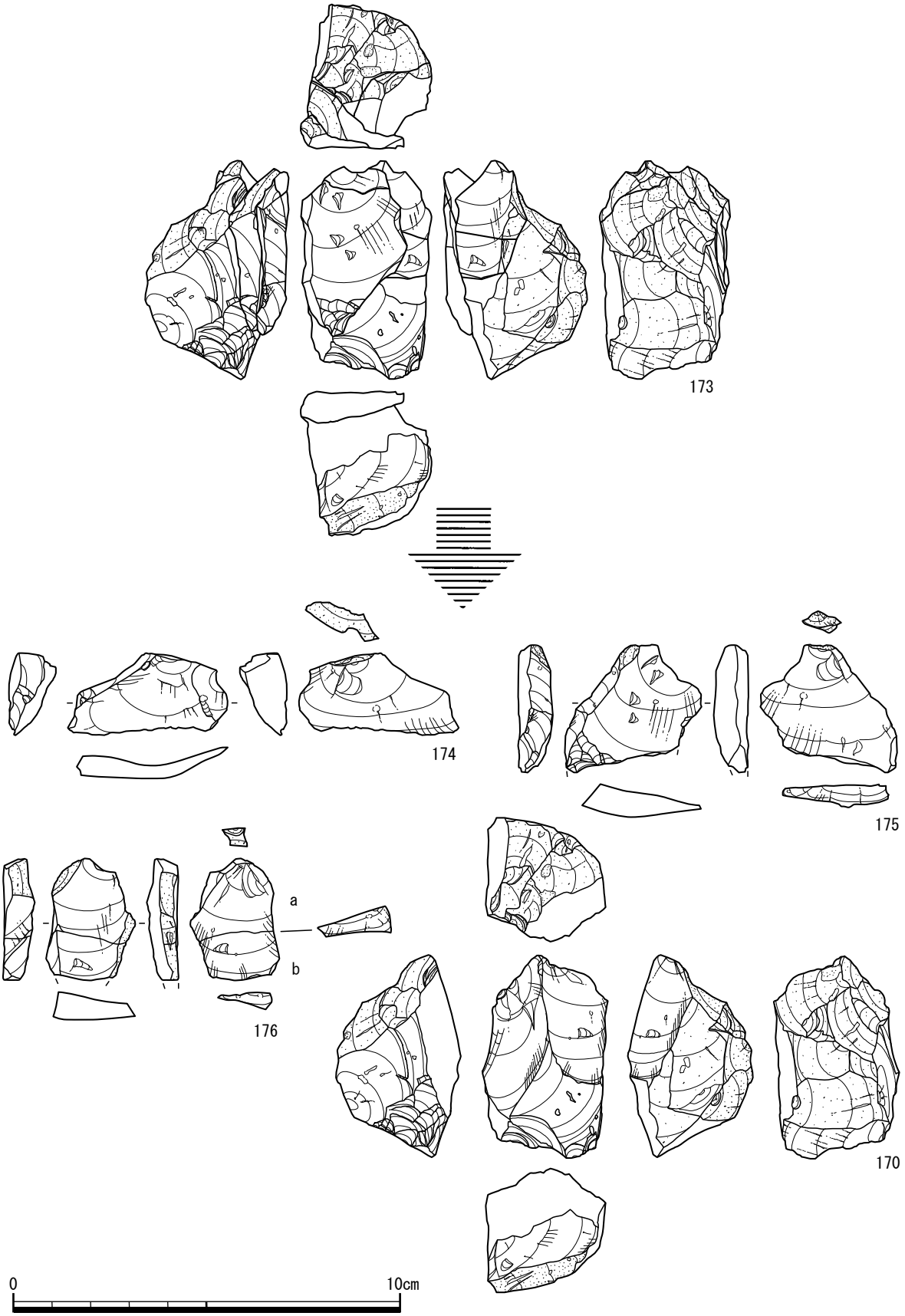
凹凸の著しい角礫面である事から、打面の形成や調整を行う事なく直接剥片剥離を施したことが明らかであり、剥片剥離を行う準備作業が殆ど行われていないことが理解できるものであった。そして接合状態173を見てみると、175の剥離以前と176の剥離前にもこれらと同様に上面を打面とした剥離が加えられていることが判断できることから、最低でも５枚の剥片が剥離されていることが判る。しかし、それらの剥片は縦長剥片として作出されていたもの（176）も存在していたが、これ以外のものは不定形な剥片として剥離されており、均一的で定形化した大きさの剥片を生産することは不可能な剥片剥離の状態であった。換言すれば、本石器群では均一的で定形化した剥片の生産を望んでいなかった可能性が高く、それは石器群の技術基盤である剥片剥離技術が衰退していることに他ならないものと思われる。なお、正面で剥片剥離作業を行う前には左側面で剥片剥離を行っており、剥片剥離作業面と打面を90度転位していることが理解される。したがって、剥片剥離作業面や打面を変更しながら剥片剥離が進められており、必然的に剥離される剥片の大きさや形態が不揃いであったことが推定されるものであり、ここでも均一的で定形化した剥片の生産を望んでいなかったことを窺うことができる。

**個体別資料番号№４の接合**（第47図171・177・178）

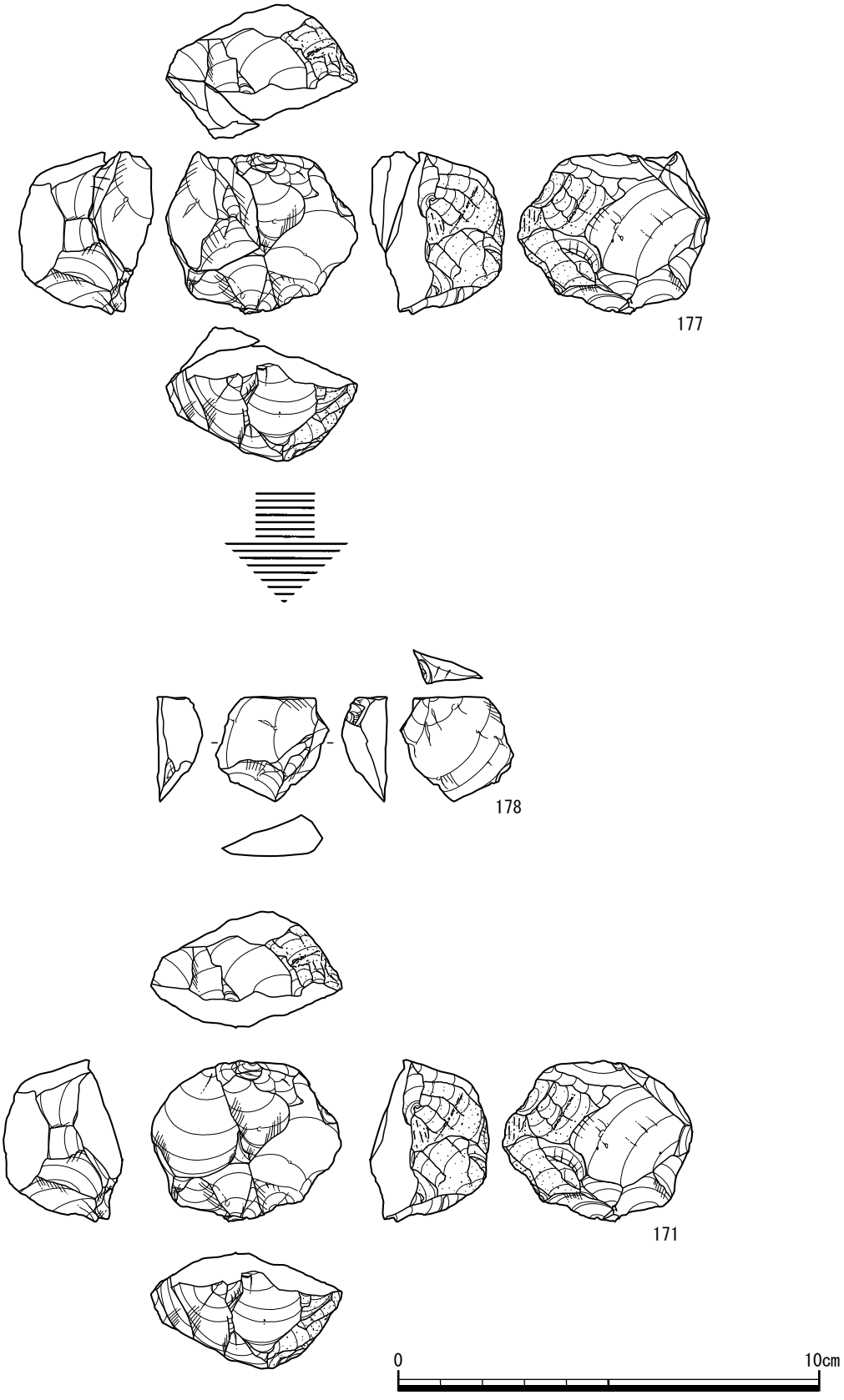
石核（171）と剥片１点（178）の接合で、177はこれらの接合状態である。178剥離後にも数回の剥片剥離が加えられているが、接合例は確認されていない。剥片剥離は180度の打面転位を行いながら、上下両打面から施されており、178を含む５回程度の剥離の前には下設打面から４回ほどの剥離が行われている。ただ、これらの剥片剥離に関連して打面調整を施している形跡が認められず、打面を作製した後は調整を行って打面を整えるような作業は行わなかったことが推察できるものである。そして、剥片剥離を上下両打面より行っていることから、もう一方の打面に到達しなかった剥離が剥片剥離作業面の中央に突出した部分を出現させてしまっていた。このような剥片剥離作業面の状態と円形に近い剥片剥離作業面の形状からは、縦長の剥片を生産することは不可能な状態であることが推定されるものである。したがって、本接合資料も、縦長の定形剥片を生産する剥片剥離技術ではなく、不定形の剥片を剥離する工程であったことが理解できるものと思われる。

**個体別資料番号№43の接合**（第48図172・179・180）

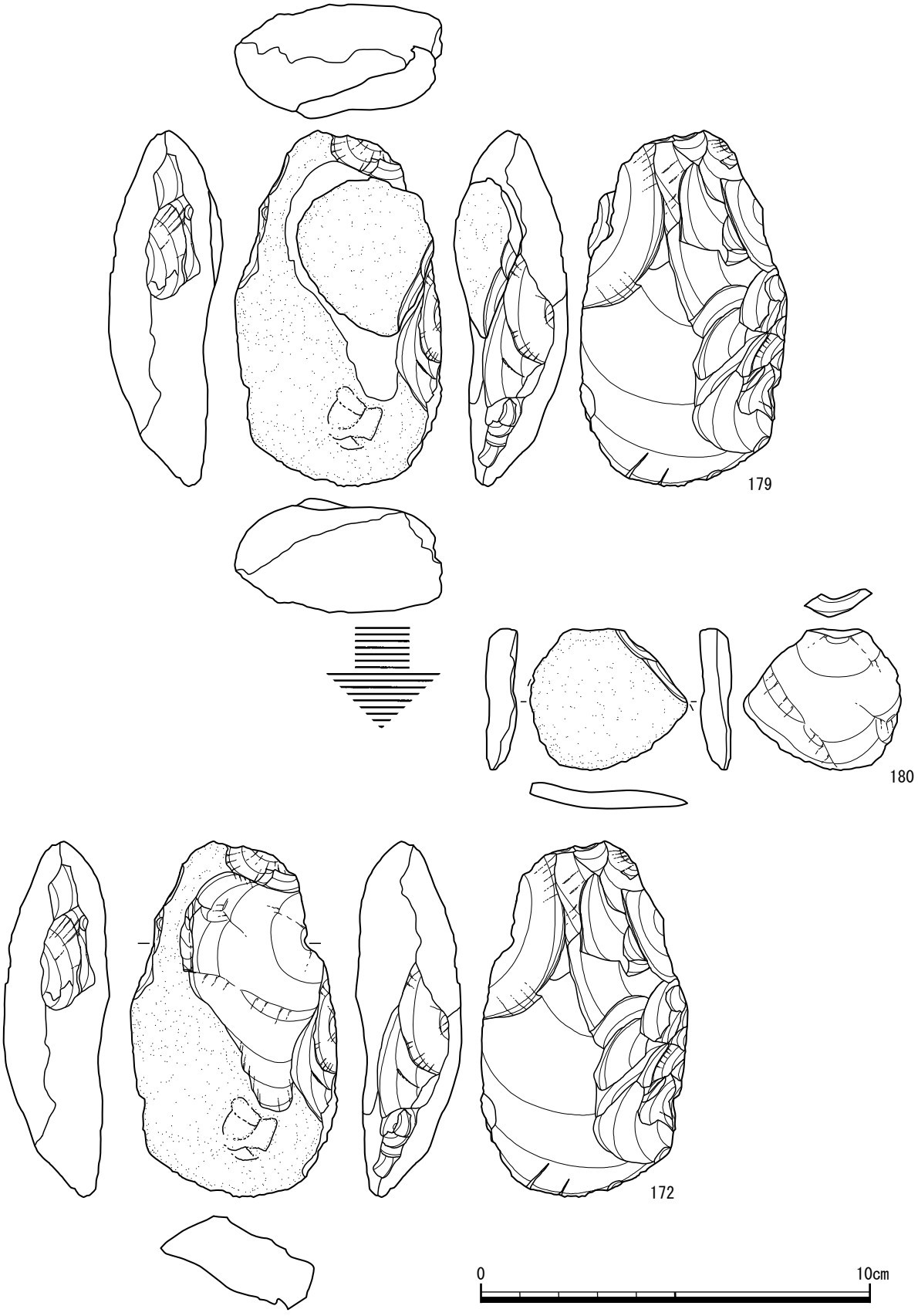
厚手の横長剥片を素材とした石核（172）と剥片１点（180）の接合で、179はこれらの接合状態である。前述したように石核とした172は何等かの両面加工石器の未製品と考えられるもので、180はこれの調整剥片である。調整剥離は極めて粗く、主要剥離面側に施された多くの剥離が階段状剥離となってしまっており、素材中央部の打瘤の厚みを減少させることに苦労しているようであった。調整は裏面に集中的に施されており、正面には数回の剥離が施されているだけで、この内の一回が180の剥離であった。180は、裏面の左側縁に加えられていた剥離を打面として剥離されており、172に対して交互剥離が行われていたことが判断されるものである。以上のような状況から、器体に面的な調整を施す両面調整の石器で、調整方法に交互剥離が用いられているものであることが理解されることから、172は尖頭器か、或いは打製石斧の未製品であることが推定できるものである。ただ、尖頭器を保有する本遺跡のようなナイフ形石器石器群に打製石斧を組成する遺跡は管見にあがったものがなく、172のようなホルンフェルス製の尖頭器は散見されることから、より尖頭器の未製品の可能性が高いことが判断できるものと思われる。



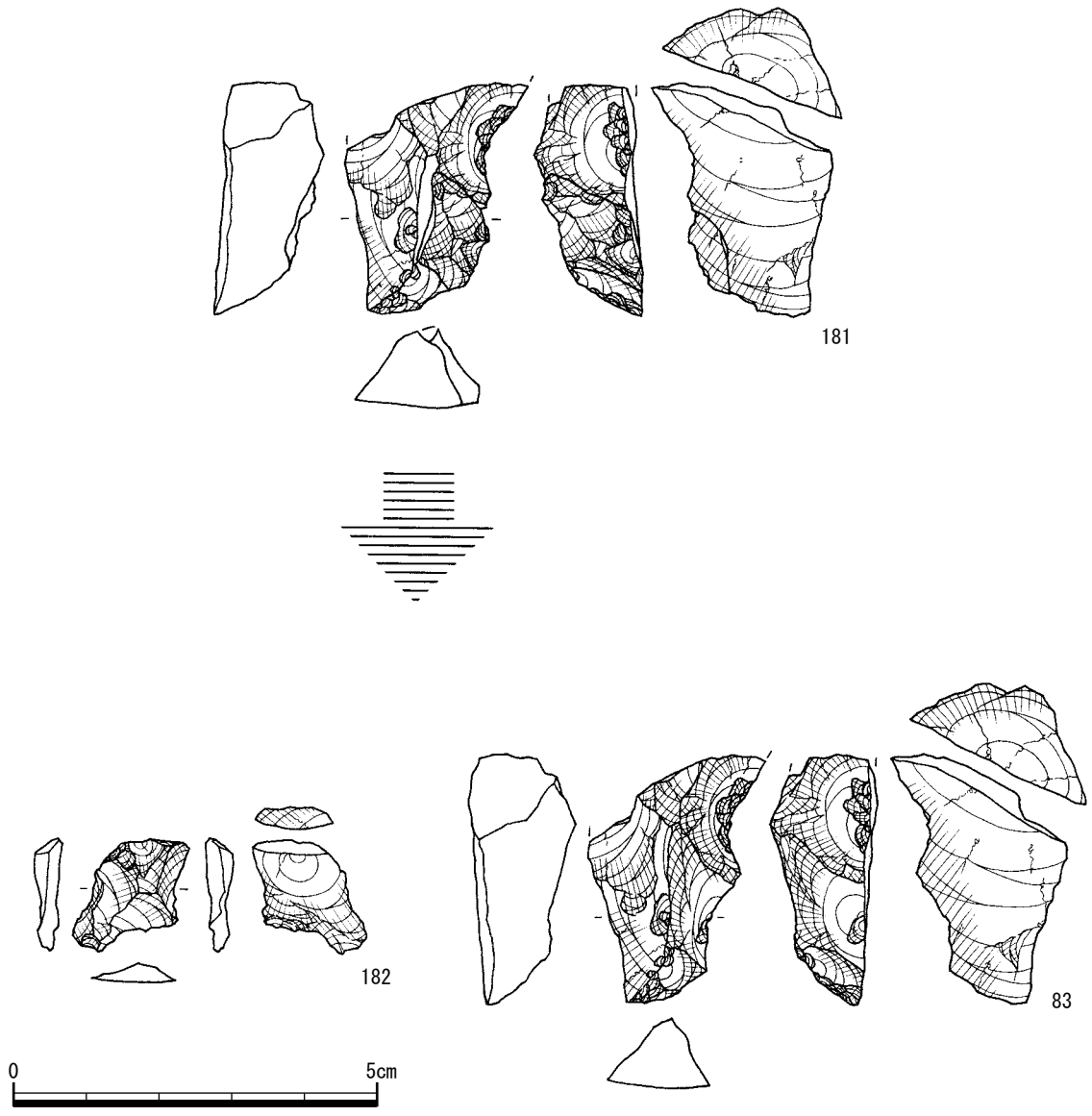

第46図　第28次調査出土石器（23）




第47図　第28次調査出土石器（24）




第48図　第28次調査出土石器（25）




第49図　第28次調査出土石器（26）

**個体別資料番号No.15の接合**（第49図83・181・182）

加工痕のある剥片（83）と調整剥片（182）の接合で、181はこれらの接合状態である。182の調整剥離は、幅広厚手の縦長剥片の右側縁を調整して剥離されたもので、同様に剥離された数枚の中の一枚である。このような調整状態から、これらは素材の幅を減じるための調整と考えられ、この剥離によって素材の形状を改変しようとしているものであり、83は何等かの器種の未製品である可能性の高いものであった。調整が一方の側縁に限られていることや、素材の幅を狭めて先端部の形成を目指していることが想像されることから、ナイフ形石器の製作を試みたものと推定することができそうである。そして、このような推定が可能であるならば、ナイフ形石器の初期段階ではブランティングを用いないで調整が行われる場合があったことと、ブランティングは整形の最終段階で行われていたことが推察されるものである。

### ３．個体別資料の分布について

本遺跡で確認された旧石器時代の石器群は、ブロック内外合わせて1,484点で構成されていた。これらは個体別資料の分類によって複数の石器点数で構成されていた29種類の個体と、同じ個体が確認されなかった29点の単独個体別資料に分類され、合わせて58個体の個体別資料として認識することができた。ブロック内外での内訳は、ブロック内が1,478点、ブロック外が６点で、ブロック外の内４点はブロック内に同一個体別資料を分布させており、合計1,482点の石器類が本石器群を構成している可能性の高い資料であった。ただ、残る２点（単独個体別資料）も本遺跡では文化層の重複が認められなかったことから、本石器群に含めておいても大過ないものと考えられるものであり、1,484点の殆ど（後で触れるが１点だけ本石器群とは異質な石器が確認されており、これは石器群の構成石器から除外される可能性がある）が本遺跡を構成していた石器類として認識できるものであった。そして、ブロック内で確認された27点（個体）の単独個体別資料もブロックを構成している石器群として認識できることから、これらの石器類はいずれかの場所（遺跡・ブロック・河原）で剥片剥離や石器加工作業を終了させた状態（本遺跡での形状）で、本遺跡に持ち込まれたものであることが推定できるものである。したがって、ブロック外で確認された単独個体別資料の２点も、このような状態で遺跡内に持ち込まれていた可能性があり、このような単独個体別資料のあり方からも本遺跡を構成する石器類として理解できるものと思われる。そして、この単独個体別資料以外の複数（２点以上）の資料数で構成されている個体別資料を利用して、個々の個体別資料の分布状態を見ていくことにするが、個々の個体別資料の組成内容からそれぞれを類型化して記述していくことにしたい。なお、類型の内容は栗原中丸遺跡第Ⅴ文化層の分析（鈴木　1984）に準拠したものである。

#### （１）個体別資料の分布

個体別資料を構成している石器類や剥片等は、検出されたすべての資料が同じブロックで集中的に分布していることは稀で、多くの個体別資料が複数のブロックにかけて分散して分布していることか一般的である。このような個体別資料の分布状態を利用して、ブロック間の関係や同時性の確認に始まって、剥片剥離技術（工程）の復元やブロック間の人間行動の復元まで、多くの課題を検討する資料として運用されており、個体別資料の分類、分析は遺跡やブロックを理解するためには不可欠な整理方法である。以下では本遺跡で確認された複数の資料数を持つ29個体に関して、これらの分布状態を見ていくことにするが、前述したようにそれぞれの個体別資料の内容をブロック別に次のように類型化し、これを通して各ブロックに残っていた個体別資料の内容を捉えていくことにしたい。

１．石器類Ⅰ：調整が施されている各種の石器、及び叩石、磨石等の礫石器と原石が該当する。
２．石器類Ⅱ：加工痕のある剥片や使用痕のある剥片、及び石刃等と、同一ブロック内に複数（２点以上）の同一個体別資料が確認されなかった剥片が該当する。
３．剥片類　：同じブロックに、同一の個体別資料に分類された複数（２点以上）の剥片が認められているもの。
４．石　核　：石核が該当する。

各個体別資料の数量はそれぞれによって違いがあるが、10点以上の資料数を持つ個体別資料は16個体が確認され、これらは複数以上の資料数で構成されていた個体の約55.2％を占めており、比較的資料数の多い個体が検出されていることが窺える。これらの中で最も多量の資料数が確認されたのは個体別資料番号No.19の336点で、この個体を含めて100点を超える資料数を持っていた個体が４個体あり、100点以下で50点以上の個体も６個体が確認されており、16個体の中では50点以上の資料数を持つ個体が過半数を占めている状況

であった。したがって、これらの個体に対して頻繁に剥片剥離や石器加工作業が行われていたことか推定されると共に、集中的にこれらの作業の対象となっているのは、全個体別資料の中の一部の個体であったことが推察できるものである。しかし、これらとは逆に資料数の最も少ない２点で構成されている個体は６個体別資料あり、これらを含めた資料数が２点以上で10点以下の個体は12個体を数えるが、それほど資料数の多くないこれらの個体は､あまり剥片剥離等の対象にはなっていなかったことが推定される個体別資料である。そして、これに単独個体別資料の29個体を加えた41個体は頻繁に剥片剥離等の作業を施しているとは考えられない個体であることから、遺跡内で集中的に剥片剥離等が行われていた個体は比較的少ないもので、全個体別資料の中の約27.6％（16個体）を占めているにすぎなかった。したがって、本遺跡で確認された全てのブロックで剥片剥離や石器加工作業を頻繁に行っていた訳ではなく、中にはこれらの作業を行っていた痕跡の認められないブロックも存在していることが推察される状況にあった。このような個体別資料のあり方から、遺跡内やブロックでは常に石器製作や剥片剥離作業が行われている訳ではなく、簡単な作業だけしか行わなかった遺跡やブロックも存在していることが理解できるものと思われる。

これらの個体別資料の中で資料数の多い個体の分布を見てみると、一箇所のブロックだけに集中的に確認されている個体別資料はほとんど認められずに、大多数の個体がいくつかの複数のブロックにかけて分布が認められており、１個体の個体別資料が一箇所のブロックで収束するものではないことが理解されるとともに、資料数の多少に関わらず複数のブロックに分布している個体別資料が多く確認される状態にある。以下では、このような個体別資料のブロックごとの分布の内容を前述した石器類Ⅰや石器類Ⅱで構成されるものや、剥片類で構成される個体に分け、さらに石核の有無によって下記のように個体別資料を類別し、記述していくことにする。

類型Ａ：同一母岩の剥片類と石核が認められた個体別資料である。両者の存在から､その場所（ブロック）において剥片剥離や石器製作等の作業が行われていたことが推定されるとともに、石核がそのブロックにそのまま残されていることから、そのブロックでこれらの作業を終了させた個体別資料であることが想定されるものである。

類型Ｂ：剥片類は確認されたが、石核が認められなかった個体別資料である。類型Ａと同じように、その場所（ブロック）で剥片剥離や石器製作等の作業が行われていたことが理解されるが、その場所での作業を終了させてから石核を他の場所（ブロックや遺跡）に持ち出していることが推定される個体別資料。

類型Ｃ：剥片類は殆ど認められず、個体別資料が石器類Ⅰと石器類Ⅱで構成されている個体別資料。この類型Ｃは類型Ａ・類型Ｂとは剥片類の有無による大きな違いがあり、その場所（ブロック）では石器製作や剥片剥離作業は行われずに、他のブロックや遺跡から持ち込まれたと考えられる石器類Ⅰと石器類Ⅱが残されていたものと推察されるものである。

類型Ｄ：類型Ｃに該当する石器類に石核が加わって構成される個体別資料。

以上のような類別によって、単独個体別資料を除く29個体の個体別資料のブロックにおける分布状態を見たのが第50図と第３表で、類型Ａは□印、類型Ｂは△印、類型Ｃが●印、類型Ｄを○印で図示したものである｡この図からは多くの個体別資料が複数のブロックにまたがって分布していることが理解されるとともに、中には類型Ｂを単独のブロックに分布させている個体（個体別資料No.37）も存在していたが、これらは資料数２点の最小点数で構成されているものであり、個体別資料の中には単独のブロックで何等かの簡単な作業を行ったものが存在していたことが推定できる。そして、前述したように、この類別は石核を保有していないことから、そのブロックに持ち込んだ石核に対して数回以上の剥片剥離を行った後に、石核を他の場所

## 第３表　第28次調査個体別資料のブロック内外別分類表

| 個体別資料No. | 原　石 | ブロック | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ピエス | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合　計 | 石器類Ⅰ | 石器類Ⅱ | 剥片類 | 石核 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 安山岩 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 2 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （蓼科冷山群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | |
| 3 | 黒曜石 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | 4 | | 5 | 1 | | 4 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | C |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | | | | | | 5 | | 7 | 2 | 1 | 4 | | |
| 4 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | 7 | 1 | 11 | | 3 | 7 | 1 | A |
| | （箱根畑宿群） | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | 1 | 3 | | | | 12 | 1 | 17 | | 7 | 9 | 1 | |
| 5 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 23 | 1 | 24 | | | 23 | 1 | A |
| | （箱根畑宿群） | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 30 | 1 | 31 | | 2 | 28 | 1 | |
| 6 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | 53 | | 54 | | 1 | 53 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 6 | | 9 | 1 | 2 | 6 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 6 | | 6 | | | 6 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 67 | | 71 | 1 | 5 | 65 | | |
| 7 | 黒曜石 | 1 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | 40 | | 43 | 2 | 1 | 40 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 12 | | 14 | 1 | 1 | 12 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | 25 | | 26 | | 1 | 25 | | B |
| | | 4 | 2 | | | | | | | | | | | | | 7 | | 9 | 2 | | 7 | | B |
| | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 4 | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 85 | | 93 | 5 | 4 | 84 | | |
| 8 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 7 | 1 | 8 | | | 7 | 1 | A |
| | （箱根畑宿群） | 2 | | | | | | | | | | | | | | 9 | | 9 | | | 9 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | 4 | | | 1 | 42 | | 47 | | 5 | 42 | | B |
| | | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | 4 | | 5 | 1 | | 4 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 7 | | | | | | | | | | 1 | | | | 3 | | 4 | | 1 | 3 | | B |
| | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | 5 | | | 1 | 70 | 1 | 78 | 1 | 7 | 69 | 1 | |
| 9 | 黒曜石 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 10 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 7 | | 9 | | 2 | 7 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 17 | | 19 | | 2 | 17 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 41 | | 43 | | 2 | 41 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 11 | | 11 | | | 11 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | 1 | | | | 5 | | 6 | | 1 | 5 | | B |
| | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 6 | 1 | 7 | | | 6 | 1 | A |
| | | 外1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | 2 | 3 | | | 2 | 89 | 1 | 97 | | 9 | 87 | 1 | |
| 11 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | 3 | | 4 | | 1 | 3 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | 1 | | | | | | | | | 2 | | | | 9 | | 12 | 1 | 2 | 9 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | | | | 2 | 51 | | 53 | | 2 | 51 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 5 | | 5 | | | 5 | | B |
| | | 6 | | | | | | | | | | 1 | | | | 2 | | 3 | | 1 | 2 | | B |
| | | 8 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 外2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | | 4 | | | 2 | 71 | | 79 | 2 | 7 | 70 | | |

| 個体別資料No. | 原　石 | ブロック | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ピエス | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合計 | 石器類Ⅰ | 石器類Ⅱ | 剥片類 | 石核 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 2 | | | | | | | | | | | | | | 11 | | 11 | | | 11 | | B |
| | | 3 | 5 | | | | | | | | 1 | 4 | | | 2 | 123 | | 135 | 5 | 7 | 123 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 11 | | 11 | | | 11 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 6 | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | 3 | | 1 | 2 | | B |
| | | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 3 | 1 | | 2 | | B |
| | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 9 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 6 | | | | | | | | 2 | 5 | | | 2 | 153 | | 168 | 6 | 11 | 151 | | |
| 13 | 黒曜石 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 14 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | 2 | | | |
| 15 | 黒曜石 | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | 1 | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 3 | 1 | | 2 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | | 4 | 7 | | 2 | 1 | | | | | 5 | 2 | | | | 105 | 2 | 124 | 10 | 7 | 105 | 2 | A |
| | | 5 | 5 | | | | | | | | | | | | | 7 | 1 | 13 | 5 | | 7 | 1 | A |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 14 | | 2 | 1 | | | | | 5 | 4 | | | | 116 | 3 | 145 | 17 | 11 | 114 | 3 | |
| 16 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | 4 | | | | | | | | | 2 | | | 2 | 32 | | 40 | 4 | 4 | 32 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | | 4 | | 2 | 2 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 計 | 4 | | | | | | | | | 4 | | | 2 | 38 | | 48 | 4 | 6 | 38 | | |
| 17 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | 2 | | 3 | | 1 | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | 8 | | 9 | | 1 | 8 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 15 | | 17 | | 4 | 13 | | |
| 18 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 8 | | 8 | | | 8 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | 2 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 53 | | 57 | 2 | 2 | 53 | | B |
| | | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 4 | | | | 1 | | | | | | | | | | 3 | | 4 | 1 | | 3 | | B |
| | | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 計 | 5 | | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | 64 | | 72 | 6 | 2 | 64 | | |
| 19 | 黒曜石 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 4 | | 4 | | | 4 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | | 1 | 2 | | B |
| | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | | 4 | 6 | | | | | | | | 4 | 4 | | | 2 | 293 | | 309 | 6 | 10 | 293 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | 2 | | | | 13 | | 15 | | 2 | 13 | | B |
| | | 7 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | C |
| | | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 8 | | | | | | | | 4 | 7 | | | 3 | 314 | | 336 | 8 | 16 | 312 | | |
| 20 | 黒曜石 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | （蓼科冷山群） | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 10 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | | | 3 | 2 | 1 | | | |
| 21 | 黒曜石 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （蓼科冷山群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 22 | 黒曜石 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |

| 個体別資料No. | 原　石 | ブロック | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ピエス | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合計 | 石器類Ⅰ | 石器類Ⅱ | 剥片類 | 石核 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | 黒曜石 | 2 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | 17 | | 20 | 2 | 1 | 17 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 3 | 1 | | | | | | | | 1 | 2 | | | | 83 | | 87 | 1 | 3 | 83 | | B |
| | | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | 7 | | 8 | 1 | | 7 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | | 4 | | 5 | 1 | | 4 | | B |
| | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 外6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 5 | | | | | | | | 1 | 3 | | | | 116 | | 125 | 5 | 6 | 114 | | |
| 24 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | 11 | | 12 | 1 | | 11 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 13 | | 15 | 1 | 1 | 13 | | |
| 25 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 3 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 6 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 計 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 6 | | 8 | 1 | 2 | 5 | | |
| 26 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 3 | 1 | | 2 | | B |
| | （蓼科冷山群） | 7 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | 3 | | 4 | 1 | 1 | 2 | | |
| 27 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （蓼科冷山群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 28 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | 15 | | 16 | | 1 | 15 | | B |
| | （蓼科冷山群） | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | 18 | | 19 | | 2 | 17 | | |
| 29 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 30 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | |
| 31 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 32 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | |
| 33 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根黒岩橋群） | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | 2 | | | |
| 34 | 黒曜石 | 4 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （和田鷹山群） | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 35 | 黒曜石 | 4 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | 1 | 1 | | | C |
| | （蓼科冷山群） | 計 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | 1 | 1 | | | |
| 36 | 黒曜石 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 37 | 黒曜石 | 4 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | |
| 38 | 黒曜石 | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 39 | 黒曜石 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 40 | 黒曜石 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 41 | 黒曜石 | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 42 | ホルンフェルス | 4 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | | 計 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 43 | ホルンフェルス | 4 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 3 | | | 2 | 1 | A |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 外3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 4 | 1 | 5 | | 2 | 2 | 1 | |

| 個体別資料No. | 原　石 | ブロック | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ピエス | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合計 | 石器類Ⅰ | 石器類Ⅱ | 剥片類 | 石核 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44 | 黒曜石 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （諏訪星ヶ台群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 45 | 黒曜石 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 46 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 47 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （推定不可） | 計 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | |
| 48 | 頁岩 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 | |
| 49 | ホルンフェルス | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 50 | ホルンフェルス | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 51 | 流紋岩 | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 52 | 黒曜石 | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 9 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 3 | 1 | 2 | | | |
| 53 | 黒曜石 | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （諏訪星ヶ台群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 54 | 黒曜石 | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （未同定） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 55 | 黒曜石 | 7 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 56 | 黒曜石 | 8 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 57 | 黒曜石 | 外4 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 58 | 黒曜石 | 外5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （未同定） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 単独個体別資料合計 | | | 13 | 1 | 2 | 1 | | | | | 1 | 3 | | 1 | | 6 | 1 | 29 | 18 | 10 | | 1 | |
| 複数個体別資料合計 | | | 62 | | 3 | 2 | 1 | | | | 18 | 47 | | | 15 | 1299 | 8 | 1455 | 68 | 114 | 1265 | 8 | |
| 総合計 | | | 75 | 1 | 5 | 3 | 1 | | | | 19 | 50 | | 1 | 15 | 1305 | 9 | 1484 | 86 | 124 | 1265 | 9 | |

＊黒曜石の産地同定は蛍光X線分析法（EDX）によるものである。
＊なお、未同定のNo.54，No.58、同定不可のNo.47は視覚上では箱根畑宿群と思われる。

（ブロック・遺跡）に持ち去ったものなのか、或いは数点で構成される個体別資料では、いずれかのブロックか遺跡で剥片剥離されたものが複数で持ち込まれ、そしてそのブロックに残されたものであることが推定できるものである。ひとつのブロックに類型Ｂを残していたこれらの個体別資料以外では、全ての個体が複数のブロックに各類型を分布させており、それらは資料数の少ない個体別資料であっても同様に複数のブロックにかけて分布が認められていた。そして、このような分布は近接したブロック間に認められることが多く､ブロック間の関係が密接であったことが窺えるものである。このような分布状態を具体的に見てみると、資料数の少ない個体別資料は必然的に類型Ｃを複数のブロックに分布させているものが多かったが、これらは他のブロックや遺跡外から持ち込まれた可能性もあるもので、出土したブロックで作出されたものとは断定できないものであった。これに対して類型Ａや類型Ｂを持つ資料数の比較的多い個体別資料は、剥片剥離や石器製作作業等の対象となった可能性の高い個体であり、これらは類型Ａや類型Ｂを持つブロックの周辺のブロックに類型Ｃを分布させているものが15個体認められており、その個体に対して剥片剥離や石器製作作業等を行っているブロックから、行っていないブロックにその一部を持ち出していることが想定されるものである。勿論、これらの個体別資料を構成している資料数の中には、他の遺跡で製作されたものが持ち込まれている可能性はあるものの、大部分のものは遺跡内の類型Ａや類型Ｂが確認されたブロックで製作された可能性が高いことが推察されるものである。そして、これら個体別資料には類型Ａと類型Ｂが確認された

ブロックに残されていたものと、類型Ｃが分布していたブロックに何等かの目的で持ち出され、そのブロックに残されていたものが存在していることが理解されるとともに、同じ類型を複数のブロックに分布させている個体別資料が数多く存在していることが判る。そして、このような分布状態が多くの個体別資料に認められることから、個体別資料はブロック間を移動しながら先々のブロックで剥片剥離等の作業を行っていたことが推定されるとともに、剥片剥離されたものの一部をそれら以外のブロックへ持ち込んでいることが推察される状況にあった。したがって、このような広範な個体別資料の分布の認められた複数のブロックは、関連性の高いブロックとして認識することが可能と思われる。しかしながら、個々の個体別資料がどのような集団によって消費されたのかは明確に捉えることはできないが、少なくともこのような広範な個体別資料の分布を形成したのは、同一集団によるものであることを想定することは可能と思われる。そして、複数のブロックで構成されているこのような個体別資料の分布範囲は、同一集団による生活空間や居住空間等の何等かの単位（範囲）であることが想定できることから、このような範囲は遺跡を構成するひとつの単位として認識できるものと思われる。

個体別資料の中には、今まで見てきた類型Ａ・類型Ｂと類型Ｃを複数のブロックに分布させているものの他に、類型Ａ・類型Ｂが認められずに類型Ｃ・類型Ｄ（本遺跡では類型Ｄは確認されていない）によって構成さている個体別資料が７個体存在していた。そして、この中でも単一のブロックだけに分布が認められたのは１個体と少なく、これ以外の６個体は資料数の少ない個体であっても複数のブロックに分布しており、極めて特徴的な分布を示していることが窺えるものであった。これら類型Ｃや類型Ｄによって構成されている個体別資料の７個体と、前述した単独個体別資料の29個体の合計36個体は、遺跡内（調査範囲内）において剥片剥離や石器加工作業の対象になった痕跡の認められない個体であり、遺跡外（調査範囲外）で製作、剥離されたものが遺跡内やブロックに持ち込まれた個体であることが判断できるものであった。

以上のように、個体別資料の中には剥片剥離や石器製作の対象になっている個体と、完成された石器や剥離された剥片の状態で持ち込まれ､そして残されていた個体に二分されることが理解されるものと思われる。その中で、前者の多少に関わらず剥片剥離の対象になった可能性のある個体は22個体で、これらは全個体別資料の内の約37.9％を占めているにすぎなかった。この他の約62.1％を占める36個体の個体別資料は、前述したように遺跡外から石器や剥片として完成された状態で、単体の形で遺跡内に持ち込まれたものであることが判断されたが、このような両者の個体別資料の状態を見てみると、確認された個体別資料の全てが遺跡内で生産、製作されたものではなく、四割弱の個体別資料に対して、いくらかの剥片剥離や石器加工作業が行われていただけであり、遺跡内で何等かの作業の対象になっている個体は、それほど多くはなかったことが理解されるものと思われる。このように、本遺跡では確認された全てのブロックで石器製作作業が行われていなかったことが判断されるとともに、類型Ｃや類型Ｄだけで構成されているブロックでは石器類が充足していたのか、或いは石器製作に用いるような母岩を持ち込んでいなかったことが推定されるものである。そして、個体別資料の６割強は遺跡外から持ち込まれた類型Ｃや類型Ｄに分類されたものであることから、出土した石器群の大多数は遺跡外から持ち込まれた石器類であることは明らかであり、遺跡内で製作されて残された石器類は割合と少なかったことが推察されるとともに、このような状況が遺跡を構成する個体別資料のあり方としては、一般的であったことが想像できるものである。そして、ブロックには類型Ａ・類型Ｂを持つものと、類型Ｃや類型Ｄだけで構成されるブロックがあることから、本遺跡で確認されたブロックの全てで石器製作作業等が行われている訳ではなく、ブロックの中には石器製作作業と関係の極めて薄いブロックが存在していることが明らかであり、このようなブロックは石器製作作業を行う空間ではなかった可能性があるとともに、このような空間が遺跡内で担保されていたことが推定できるのかもしれない。

### （２）個々の個体別資料の分布

今までは、個体別資料の分布状態を類別を通して概観してきたが、以下では複数のブロックにかけて分布が認められた個体別資料個々の分布を見ていくことにしたい。

#### １．類型Ｃ、類型Ｄで構成されている個体別資料

個体別資料番号No.14：第１、第４ブロックに、合計２点の石器類が分布していた個体別資料である。両ブロックは隣接して位置し、約11ｍの分布範囲に収まっていた。

個体別資料番号No.20：第２、第３、第10ブロックに分布が確認された個体別資料で、資料数は３点である。この内の第２、第３ブロックは隣接して確認され、約10ｍの範囲に分布が確認されているが、もう一箇所の第10ブロックとは約17ｍの距離を隔てて位置していたことから、２箇所に離れて分布していた個体別資料である。

個体別資料番号No.30：第３、第７ブロックで、合計２点の石器類が確認された個体別資料である。第３ブロックと第７ブロックは約１ｍの距離を隔てて分布していたブロックではあるが、隣接した状態で位置しており、約16ｍの範囲の中に分布が認められていた。

個体別資料番号No.32：第３と第５ブロックに分布が認められた個体別資料で、合計２点の石器類が分布していた。第３と第５ブロックの間には第４ブロックが位置しており、約４ｍほど距離を隔てて分布していたが、両ブロックでは約15ｍの分布範囲に収まっている状態であった。

個体別資料番号No.33：第３、第４ブロックに、合計２点の石器類が分布していた個体別資料である。両ブロックは分布範囲を接するように位置しており、約11ｍの範囲の中に分布している状況にあった。

個体別資料番号No.52：第６ブロックと第９ブロックに分布していた個体別資料で、合計３点が確認されている。両ブロックは約６ｍの距離を隔てて位置していたが、約12ｍの範囲の中に分布が形成されており、他の複数のブロックに分布していた個体別資料の分布範囲と大きな違いは認められなかった。

以上のように類型Ｃと類型Ｄで構成されている個体別資料の中で、複数のブロックに分布する個体の状況を簡単に見てきたが、これらの個体別資料の分布にはいくつかの共通点があることが推定されるとともに、それらは個体別資料の一般的なあり方として認識することができるものと思われる。まず一点目は、これらの個体の中で最も資料数の多かったのは個体別資料No.20とNo.52の３点であったが、殆どのものは２点の最小点数で構成されており、数点以上の類型Ｃと類型Ｄで構成されるような個体別資料は認められなかった。これらの分布状態を見てみると、隣接したブロック間に分布が認められることが一般的で、しかもそれらの分布範囲が約10～16ｍの大きさに集中しており、分布の大きさが限られていたようで、ブロックの範囲を超えた状態で、個体別資料の散漫な分布のまとまりが形成されているような状況が認められている。そして、個体別資料の中には個体別資料No.20のように隣接した複数のブロックで構成されたまとまりの他に、約17ｍの距離を隔てて位置していたブロックにも個体別資料を分布させている個体があり、これらの中には複数の個体別資料のまとまりを形成するものがあり、しかもこの分布のまとまりは単数の資料で構成される場合があることが推定されるものである。以上のように個体別資料の分布状態には、それぞれの個体別資料の資料数によって構成内容に多少の違いあるものの、共通した分布状態を示していたことが理解されるものと思われる。

#### ２．類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成されている個体別資料

個体別資料番号No.３：２ブロックに分布が確認された個体別資料で、各ブロックに分布していた類別は、

第１ブロックに資料数５点の類型Ｂを、第３ブロックに資料数２点の類型Ｃが確認されたものである。両ブロックの間には第２ブロックが分布しており、約５ｍの距離を隔てていたが、両ブロックの分布は約15ｍの範囲に収まっており、前述してきた類型Ｃと類型Ｄで構成されている個体別資料の分布範囲と共通する大きさであることが理解されるものである。

個体別資料番号No.４：５ブロックで確認された個体別資料である。それぞれのブロックに分布していた類別は、第１ブロックには資料数11点の類型Ａを、第３ブロックには資料数２点の類型Ｂが、第２ブロックと第４ブロックには資料数各１点の類型Ｃを、第５ブロックでは資料数２点の類型Ｃが確認されている。これらの５ブロックはそれぞれで分布範囲を接するように位置しており、約17ｍの範囲の中に収まる状態にあった。

個体別資料番号No.６：５ブロックに分布していた個体別資料で、それぞれのブロックに分布していた類別は、第１ブロック（資料数54点）、第２ブロック（資料数６点）、第３ブロック（資料数６点）には類型Ｂが、第４ブロックと第７ブロックに資料数各１点の類型Ｃの分布が確認されている。第１ブロック～第４ブロックは分布範囲を接するように位置し、残りの第７ブロックもこれらのブロックとは約３ｍほど距離を隔てていたが、隣接した分布状態にあった。そして、これらの５ブロックは約19ｍの範囲に分布が形成されており、個体別資料のブロック範囲を超えたひとつのまとまりとして、捉えることができそうである。

個体別資料番号No.７：５ブロックで確認された個体別資料である。各ブロックに分布が認められた類別は、第１ブロック（資料数43点）と、第２ブロック（資料数12点）と、第３ブロック（資料数26点）、第４ブロック（資料数９点）には類型Ｂを、第８ブロックでは資料数１点の類型Ｃの分布が確認されている。類型Ｂを持つ第１～第４ブロックは分布範囲を接して位置していたが、残る第８ブロックはこれらと約５ｍの距離を隔てて分布し、しかも両者の間には第６ブロックが分布している位置関係にあるものである。これらの分布範囲は、第１～第４ブロックに限ると約16ｍの大きさであったが、第８ブロックを含めると約23ｍの規模となっており、個体別資料の分布のまとまりが複数で形成されている可能性のある例である。

個体別資料番号No.８：８ブロックで確認された個体別資料で、各ブロックで確認された個体別資料の類別は、第１ブロックには資料数８点の類型Ａが、第２ブロック（資料数９点）と、第３ブロック（資料数47点）と、第４ブロック（資料数５点）、第６ブロック（資料数２点）、第７ブロック（資料数４点）と第８ブロック（資料数２点）には類型Ｂが確認され、第５ブロックでは資料数１点の類型Ｃが分布していた。これら８ブロックは分布範囲を接していたり、隣接する分布を示しながら連なるように位置しており、約23ｍの大きさの範囲に収まるものであった。

個体別資料番号No.12：９ブロックに分布していた個体別資料である。各ブロックで確認された類別は、第２ブロック（資料数11点）と、第３ブロック（資料数135点）と、第４ブロック（資料数11点）、第５ブロック（資料数２点）、第６ブロック（資料数３点）と第７ブロック（資料数３点）では類型Ｂが、第１ブロック、第８ブロック、第９ブロックが資料数各１点の類型Ｃの分布が確認されている。これらも前述した個体別資料No.８と同じように、各ブロックは分布範囲を接していたり、隣接する分布を示しながら連なるように位置しており、約23ｍの範囲に収まる状態であった。

個体別資料番号No.23：６ブロックとブロック外の１箇所（外６）の７箇所で確認された個体別資料である。各ブロック内外で確認された類別は、第２ブロック（資料数20点）と、第３ブロック（資料数87点）と、第４ブロック（資料数８点）、第６ブロック（資料数５点）、第７ブロック（資料数３点）には類型Ｂが、第５ブロックとブロック外６から資料数各１点の類型Ｃの分布が確認されている。これらのブロックも分布範囲を接して位置する第２～第５ブロックと、これらの南側で隣接する状態で分布する第６、第７ブロックが南

北方向に連なるように展開しており、約18mの分布範囲が形成されている状態であった。ただ、ブロック外６で確認されたものは、第７ブロックの南東約５ｍに分布していたもので、これを含めると約22mの規模の個体別資料のまとまりが形成されていたことになる。

個体別資料番号No.28：３ブロックで確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第３ブロック（資料数16点）と、第７ブロック（資料数２点）に類型Ｂを、第４ブロックに資料数１点の類型Ｃが確認されている。これらも第３ブロックと第４ブロックはブロック範囲を接して位置し、第７ブロックはこれらと隣接して分布しているもので、３ブロックは約16mの範囲を形成していた。

以上のように、類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成される個体別資料が、複数のブロックにかけて分布する状態を概観してきたが、これらも前述した類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料と同じように、一定した分布状態を示していることが窺えたことから、これらを個体別資料の分布状態の共通点として認識することができるものと思われる。

具体的な点を列挙していくと、各個体別資料の資料数は個々の個体で違いはあるものの、単一のブロックに集中的に分布していたものはなく、殆どのものは複数のブロックにかけて分布が認められていた。それらのあり方は資料数の多寡に関わらず、隣接した複数のブロックに分布する状況が認められていることから、ブロックの範囲を超えた広範な個体別資料の散漫な分布が、一定した範囲（数ブロック）でまとまりを形成している状況を確認することができた。このような分布のあり方は各個体別資料で相違するものではなく、個体別資料それぞれで構成するブロックはまちまちであったが、中には同一範囲に分布するブロック間でまとまりを形成している個体別資料が、複数で存在（例えば個体別資料番号No.５とNo.６、個体別資料番号No.18とNo.19）していることも確認できることから、このような個体別資料の分布のあり方は普遍的な状態として認識できるものと思われる。そして、このような隣接するブロック間に同一の個体別資料が分布するというあり方は、前述してきた類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料も同様であり、構成している類型が違っても個体別資料は同じような分布状態を示していることが理解されるものと思われる。ただ、このような個体別資料の分布のまとまりは、類型の構成が多様であるとともに、分布するブロックの数や状態等の相違があり、共通部分の確認は容易ではないのが実情である。しかし、このような状況にあっても、類型Ａや類型Ｂを持つブロックに隣接して類型Ｃや類型Ｄを持つブロックを単数や複数で分布させているものや、前者を複数の類型Ｂを持つブロックで構成しているもの、或いは隣接した複数のブロックに類型Ｃや類型Ｄを分布するだけで、そのまとまりの中には類型Ａや類型Ｂを持つブロックが確認されないもの等があり、まとまりの構成は数種類に集約することができそうである。これ以外にもブロックが集中していた範囲に個体別資料の類型Ｃのまとまりを持ち、これと離れて確認された単一のブロックに類型Ｃを分布させているもの（個体別資料番号No.20）が確認されている。これは、個体別資料のまとまりが２箇所に分布しているもので、しかも一方のまとまりは単一のブロックで構成されていたものであることから、個体別資料のまとまりには離れた位置で複数が形成されることがあることと、まとまりには単一のブロックで構成されることもあることが推察されるものである。これらの中で、複数のブロックに分布が確認された分布のまとまりの大きさはまちまちであったが、大部分のものが15～17mの規模で、これを越えるものでも23m以下の規模であり、ほぼ一定した大きさに分布していたことが窺える状況にあった。このように、個体別資料の分布のまとまりにはいくつかの共通点が認められることから、これらのまとまりの範囲は遺跡内に形成されている何等かの有意な範囲として認識できるものと思われる。

そして、類型Ａや類型Ｂを持つブロックを中心的存在として、その周囲に衛星的な存在として類型Ｃや類型Ｄを分布していた個体別資料からは、その個体別資料に対してその場所（類型Ａや類型Ｂを持つブロック）

で剥片剥離や石器加工作業が行われ、その場所から類型Ｃや類型Ｄを持つブロックに石器類を持ち出している状況を想定することが可能であった。また、個体別資料の中には隣接したブロック間に類型Ａや類型Ｂを持つものがあることから、個体別資料がそれらのブロックを移動しながら剥片剥離され、消費されていることが理解されるものと思われる。これ以外の類型Ｃや類型Ｄで構成される個体別資料と単独個体別資料に分類された36個体は、剥片剥離作業等の対象にはなっていないことが判断される個体であることから、個体別資料は類型Ａや類型Ｂの存在によって剥片剥離等が行われている個体と、行っていない個体に大別されることが理解できるものと思われる。さらに、第50図を見ると、類型Ａや類型Ｂを多く持つブロックは何箇所かのブロックに偏る傾向があることが看取されるが、それらは構成数の多いブロックが相当する傾向にあるものの、構成数の比較的少ないブロックでも類型Ｂをを持つものがあり、単純にブロックの構成数だけで剥片剥離等の有無を決定することはできないことが判断されるものである。

### （３）ブロック群について

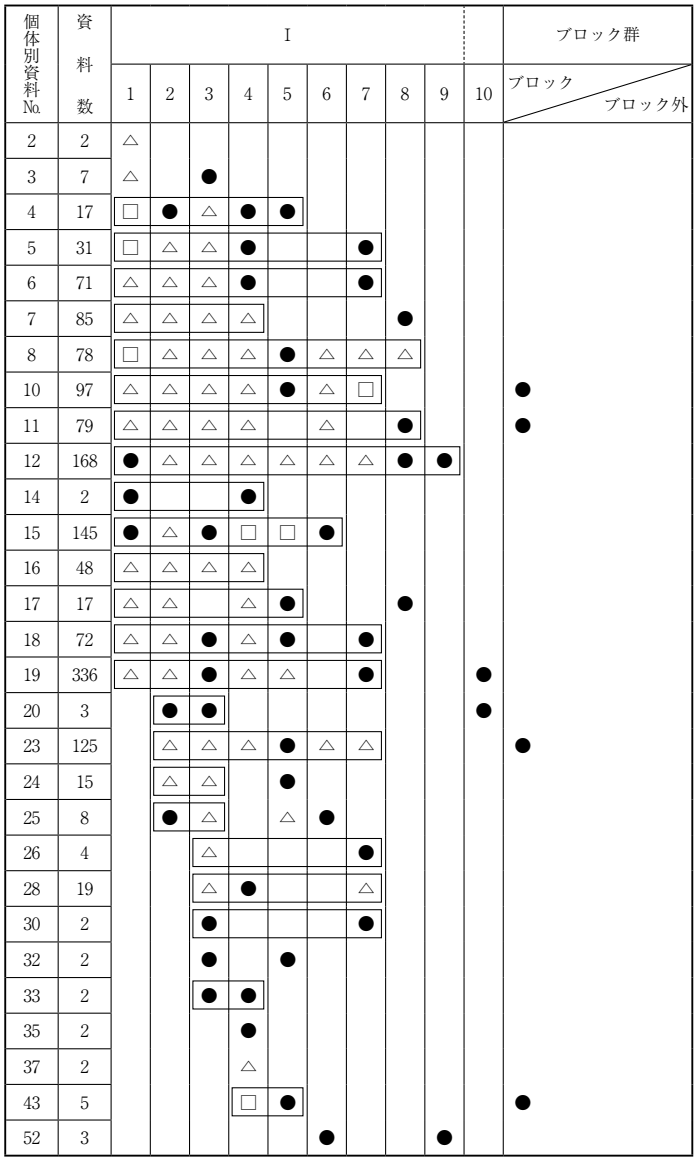
今まで、本遺跡で確認された旧石器時代の石器類1,484点を個体別資料に分類し、その個体別資料を通して分布状態を概観してきたが、この中で10箇所のブロックの殆どが相互に関連しながら形成されていることが、複数のブロックにかけて分布している個体別資料の状態から窺うことができた。そして、本石器群を構成していた10ブロックは、それぞれのブロックで共通する個体別資料に相違はあるものの、同一集団によって残されたブロック群であることは推定される状況にあったが、確認された10ブロックの全てが同時に形成されたものであると言う確証は得られていないのが実情であった。ただ、個体別資料の分布状態は一様ではないため、個々の個体別資料の分布のまとまりを構成するブロック間や範囲は相違があったが、最も広範なまとまりの中にこれ以外のまとまりは全て含まれてしまっており、関連性の高いブロック群であることが推定されるものであった。もし仮に出土した10ブロックの中に、同時に形成されたものではないブロックが存在していたとすれば、時間の経過の中で何個体かの個体別資料を入手していることが想定されるとともに、これらが何ブロックかで個体別資料のまとまりを形成していることが予想されるものと思われる。しかしながら、今回の調査で確認された10ブロックの個体別資料の中には、これらを分離できるような個体別資料の分布は認められておらず、これら10ブロックはひとつの個体別資料のまとまりとして認識できそうな状況であった。ただ、密集して検出された第１～第９ブロックより離れて分布していた第10ブロックは、いずれの個体別資料のまとまりにも含まれていないものであったが、構成石器の全て（２点）は第１～第９ブロックに同一個体別資料のまとまりが形成されており、離れた位置に単一のブロックと類型Ｃで構成された個体別資料のまとまりを複数で分布していた可能性のあるものであった。しかしながら、第10ブロックの周辺では他のブロックは確認されておらず、しかもブロックが存在していたとしても調査範囲外に広がる可能性があるため、個体別資料のまとまりを第10ブロック以外で確認することはできない状態にあった。そして、第10ブロック単一で構成されたまとまりが、第１～第９ブロックで構成されている個体別資料のまとまりに対応するような規模のものに広がるかどうかは明らかではないことから、第１～第９ブロックで構成されている個体別資料のまとまりとは別のまとまりとして認識することは、避けておくことにしたものである。

このようにブロック間に認められた個々の個体別資料の分布から、ブロック群の中に個体別資料による分布のまとまりが存在することが理解されたが、この範囲はブロックの大きさを超えた何等かの単位として認識することができると思われることから、以下では第50図を利用してこの範囲の内容を捉えていくことにしたい。図中では、各ブロックに分布する個体別資料の中で、隣接する複数のブロックに各類型を分布して個体別資料の分布のまとまりを形成しているブロック間を□で囲って図示してある。一般的に多くのブ

ロックで構成される遺跡では、このような個体別資料のまとまりが複数で確認され、これらの分布状態によって出土したブロックがいくつかのブロック群に分割できることが明らかになっており、さらに接合資料の有無や個体別資料の消費状態から、ブロック群には前後関係が存在していたことが推定されるとともに、個々のブロック群は同一集団による回帰的な集落地であったことが想定されている。このような理解を念頭に置きながら本遺跡の10ブロックを見てみると、個体別資料の分布のまとまりによって形成されている範囲と内容は以下のようにまとめることが可能であり、これをブロック群として認識することにしたい。

ブロック群Ⅰ　第１～第９ブロックで構成されるブロック群である。これらは調査範囲の北側に集中して分布し、約15m×23mの範囲を形成していたものである。類型Ａ・類型Ｂを多く持つ第１～第４ブロックが北側に固まって位置し、その西側から南側にかけて隣接した状態で資料数の少ないブロックを分布させているブロック群である。構成するブロック数は９である。

以上のような１ブロック群にまとめることができたが、前述したようにブロック群Ⅰとは離れて位置していた第10ブロックの帰属が問題となるものである。第10ブロックは構成点数が２点と少なく、しかも２点とも同一個体別資料をブロック群Ⅰのブロックに分布させており、ブロック群Ⅰと密接な関連性があることが推察できるとともに、他のブロック群の存在を推定させるような個体別資料は皆無の状態であった。そして周囲に他のブロックが出土していない状態からは、ブロック群Ⅰと対応するようなブロック群として把握するのは抵抗のあるものであることから、第10ブロックはブロック群Ⅰに含まれる可能性があるものとして理解しておくことにしたい。このように本遺跡で確認された10ブロックに分布する個体別資料の分布状態から、これらはひとつのブロック群として捉えることができた。ただ、調査範囲外の北側や西側にブロックが確認される可能性もあり、それらの方向に他のブロック群が形成されている可能性を排除できない状態である。しかしながら、現実的には確認された殆どのブロックが、ひとつのブロック群にまとめられる状態にあったことから、これらのブロックが同時に形成されたもので、相互に関連するブロックであることが推定されるものであった。そして、形成されていたブロック群は、規模が20数mの大きさで、９ブロック以上（第10ブロックと調査範囲外の北側




第50図　第26地点個体別資料の分布とブロック群

にブロックが形成されている可能性から）の構成数を持ち、その中心には多くの類型Ａと類型Ｂを持つ幾つかのブロックを分布させ、この周囲に殆どが類型Ｃで構成されるブロックを複数で分布させている状況が確認されており、このようなブロックの分布状態がブロック群のひとつの様相として理解できるのかも知れない。これらは類型Ａと類型Ｂの多寡によって区別されたものであり、これは剥片剥離や石器製作等の作業の有無に起因するものであることは明らかであることから、ブロックの中には石器製作等の作業を行うことを避けるブロックがあったことが推定されるとともに、両者には作業的にも空間的にも区別されるべきブロックであったことが想像されるものである。また、現状では確認されたブロック群数は１にとどまっていることから、本遺跡では回帰的な集落が形成されていなかった可能性が高く、移動を繰り返していたと考えられる集落形態では、度々訪れる場所と、たまたま移動してきた場所で、再訪する事なく一度だけ集落を構えた場所があったことが想定されることから、残されている旧石器時代の遺跡の全てが回帰的な集落ではないことと、遺跡の形態はそれぞれ多様であることが推察されるものである。したがって、このような遺跡やブロック群の状態を理解するためには、個体別資料への分類とそれらの分布状態の確認が不可欠であることから、多くの遺跡で個体別資料の分析が進むことに期待されるものである。

以上のように、本遺跡から確認された10箇所のブロックは、同時に形成されたひとつのブロック群として認識することができたとともに、ブロックの中には剥片剥離や石器加工作業を集中的に行っていたブロックと、これらの作業を行った痕跡のあまり認められないブロックに大別することが可能であった。出土した石器類を見てみると、ナイフ形石器の未製品として理解したものや、加工痕のある剥片としたがナイフ形石器の先端部と考えられるものは、殆どが類型Ａと類型Ｂを多く保有していた第１～第５ブロックで確認されており、石器の器種としての完成度と個体別資料の分布状況に矛盾は生じていなかった。このことからも多くの資料数の多い個体別資料が分布していたブロックでは、剥片剥離や石器加工作業が行われていたことが追認されると思われることから、これらの要件を利用して遺跡内やブロック群の作業空間を特定することが可能になるものと思われる。このような理解からブロック群Ⅰを想像すれば、第１～第５ブロックは作業空間で、第６～第８ブロックは居住空間であったことが想定できると思われるが、後者のブロックを居住空間と決定するには、例えば柱穴の存在の確認や、厨房器具としての器種の存在等の、何等かの追加条件を満たす必要があると思われることから、今後の課題として調査、分析に期待するところが大きいものである。

## ４．位置付けと問題点

本遺跡から確認された旧石器時代の石器群は、ナイフ形石器を主体とし、少量の尖頭器を保有するナイフ形石器石器群として捉えられた。それぞれの石器類に関しては前述していることから、ここでは各器種や剥片剥離技術等の石器群の特徴を見ていくことにしたい。

**ナイフ形石器について：**未製品を含めて69点（資料数では75点）が確認された。形状の不明な欠損品を除けば、全て二側縁加工と一側縁加工の形態のもので占められていたが、一側縁加工のナイフ形石器の出土量の割合は少なく、しかも形態の整っているものは殆ど認められておらず、石器としての独自性が崩れかけていることが窺えた。そして、二側縁加工のナイフ形石器の中で特徴的であったのは、所謂「切出形石器」や「台形石器」に類似する第Ⅰ群ｅ・ｆ類とした形態のものが多量に確認されたことである。これらの第Ⅰ群ｅ・ｆ類は刃部を上縁に設定すると言う形態的特徴から、素材に横長剥片を利用するものが大部分を占めており、素材剥片に求められていた形状が変化している可能性が高いことが想定されるものであった。このことは相対的にナイフ形石器の素材としての石刃の必要性が低下しており、石刃素材のナイフ形石器は二側縁加工の中に数点が認められる程度であり、必然的に剥片剥離技術である石刃技法の存在が著しく稀薄になっている

第４表　第28次調査ブロック内外別石器組成表

| | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 細石刃 | 細石刃核 | 角錐状石器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ドリル | ピエス・エスキーユ | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １ブロック | 4 | | | | | 2 | | | | | | | 3 | 7 | | | 1 | 164 | 3 | 184 |
| ２ブロック | 15 | | | | | | | | | | | | 2 | 8 | | | 7 | 184 | | 216 |
| ３ブロック | 16 | | | | | | | | | | | | 3 | 17 | | | 5 | 412 | | 453 |
| ４ブロック | 21 | | | | | 3 | 2 | | | | | | 9 | 8 | | | 2 | 463 | 3 | 511 |
| ５ブロック | 9 | | | | | | | | | | | | 1 | 5 | | 1 | | 33 | 2 | 51 |
| ６ブロック | 2 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 2 | | | | 17 | | 23 |
| ７ブロック | 7 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 19 | 1 | 29 |
| ８ブロック | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 5 | | 7 |
| ９ブロック | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 |
| 10ブロック | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 |
| ブロック外１ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ブロック外２ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ブロック外３ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ブロック外４ | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ブロック外５ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ブロック外６ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 合　計 | 75 | 1 | | | | 5 | 3 | 1 | | | | | 19 | 50 | | 1 | 15 | 1,305 | 9 | 1,484 |

状況が認められている。さらに、第Ⅰ群ｅ・ｆ類の中には素材の打面や、主要剥離面より古い剥離面で主要剥離面に対して直交する剥離面、或いは折断面をブランティング面の替わりに残置し、これを一方の側縁として器体の整形を行っているものが散見されており、ナイフ形石器の製作を全て調整によって行うのではなく、折断技法や素材の形態的特徴を利用して整形されていることが理解されるものである。また、これらの中には側縁として施された折断面やブランティング面を打面として、正面に面的な調整剥離を行っているもの（31・39・41）や、一側縁加工の中にも表裏に面的な調整剥離を施しているもの（55）があり、これらは一般的なナイフ形石器に比べると、特異な調整方法によって製作されているものであることが理解されることから、調整方法自体も多様な様相を呈していることが窺える内容となっている。なお、ナイフ形石器の中には、欠損品ではあるが石刃素材のもの（21）が確認されている。これは長野県の諏訪星ヶ台群産の黒曜石製であることが分析されており、他のナイフ形石器の殆どが箱根の畑宿産の黒曜石を素材とし、石刃以外の剥片を素材としている中にあって異質な状態を見せているものである。さらに、他にも数個体ではあるが長野県の蓼科冷山群産、和田鷹山群産、諏訪星ヶ台群産の黒曜石が確認されているが、これらに加えられた剥片剥離技術も畑宿産の黒曜石に行われた技術と変わりなく、21の素材のような整った石刃が生産できるような剥片剥離は行われていない状態であった。したがって、21以外の石器群は剥片剥離技術や石器類の状態が共通していることが判断されることから、21は異質さが際立っている存在であった。このような状態から、21は他の時期のナイフ形石器が混在していた可能性が高いものと思われることから、本石器群の構成石器からは除外することが妥当なものかもしれない。

**その他の石器類：**尖頭器、掻器、削器、彫器の他、少量の石刃が出土している。尖頭器は石刃を素材とした半両面加工のもので、両端を欠損する例である。そして接合資料の中で触れたが、ホルンフェルス製の両面加工の石核としたものは、尖頭器の未製品の可能性があることを指摘した。したがって、出土量は僅かであるが確実に尖頭器を組成していたナイフ形石器石器群であることが判断されるものである。掻器と削器は整った形態のものは少なく、手頃な剥片に簡単な調整で刃部を作製しているものが殆どを占めており、丁寧な刃部が形成されているものは僅かに認められるだけであった。したがって､遺跡内で間に合わせで作製し、

使い捨てるような利用が行われていたことが想像されるものである。そして、掻器と削器は共に、刃部幅や刃長の短いものが作製されているようであり、大きさが限定されていた可能性があることが窺えた。彫器は１点しか確認されなかったが、定型的な「上ゲ屋型」の刃部を上端に、「細原型」の刃部を下端に作製しているもので、極めて特徴的な形態のものであった。そして当地方では「上ゲ屋型」彫器は散見されるものの、「細原型」彫器は管見にあがったものはないことから、「細原型」彫器の分布を見る上で貴重な発見となるものであった。この彫器は畑宿産の黒曜石で製作されていたが、当地方においては畑宿産の黒曜石で彫器が作られていることも稀少であり、今後は留意しながら石器群を見ていく必要があるものと思われる。前述したように石刃の出土量は少なく、しかも整った形状のものは殆ど認められない状態であり、石刃を計画的に量産しているような様子は認めることができなかった。このようなことは、ナイフ形石器等の素材に利用されている石刃の量が極めて少ないことからも推定され、石器群全体の石刃への依存度が著しく低下していることが判断されるものである。したがって、石器群の中で石刃を量産するような状況は認められておらず、しかも確認された石刃の多くが大きさや厚さが一定しておらず、定形剥片剥離技術である石刃技法によって作出された可能性は著しく低いものであった。それは、確認された石刃の多くが多様な剥片剥離の中で、複数の同一方向の剥離が行われたことにより偶発的に剥離されたもので、このような形態の剥片を意図的に生産したものでないことが推察されるものであった。

**剥片剥離技術について：**基本的に、本遺跡で確認されたようなナイフ形石器石器群は殆どが剥片石器で構成されていることが通例である。そして、石器の製作には目的となる石器に近い状態の剥片が必要不可欠であり、このことが剥片剥離技術が発達する要因であったことが想像されるものである。しかし、本遺跡では前述したように石刃を目的的剥片として生産している様子は認められず、これ以外の多様な剥片剥離が行われていたことが推定される状況にあった。出土した石核には上下両端から剥片剥離が施されているものや、90度の打面転位を行いながら剥片剥離を施しているものが存在していたが、これらには打面形成を行わないで凹凸の激しい角礫面を打面として直接剥片剥離を行ったり、打面は形成するものの、剥片剥離に関連して細かな打面調整を施すことなく剥片剥離が行われており、極めて大雑把な剥片剥離工程が主体的であった。さらに、180度や90度の打面転位を繰り返していることは、剥片剥離作業面の形状が縦長や横長に変化することが明らかで、剥片剥離される剥片も同様に縦長や横長の形状のものが生産されることになり、定形剥片の作出は難しい剥片剥離技術であったことが判る。そして前述したように打面形成や調整を殆ど行わないような工程では、剥片を目的的な形状で生産することは極めて難しいことは明らかで、必然的に剥離された剥片は不定形で多様な形態のものに成らざるを得ない状態にあった。

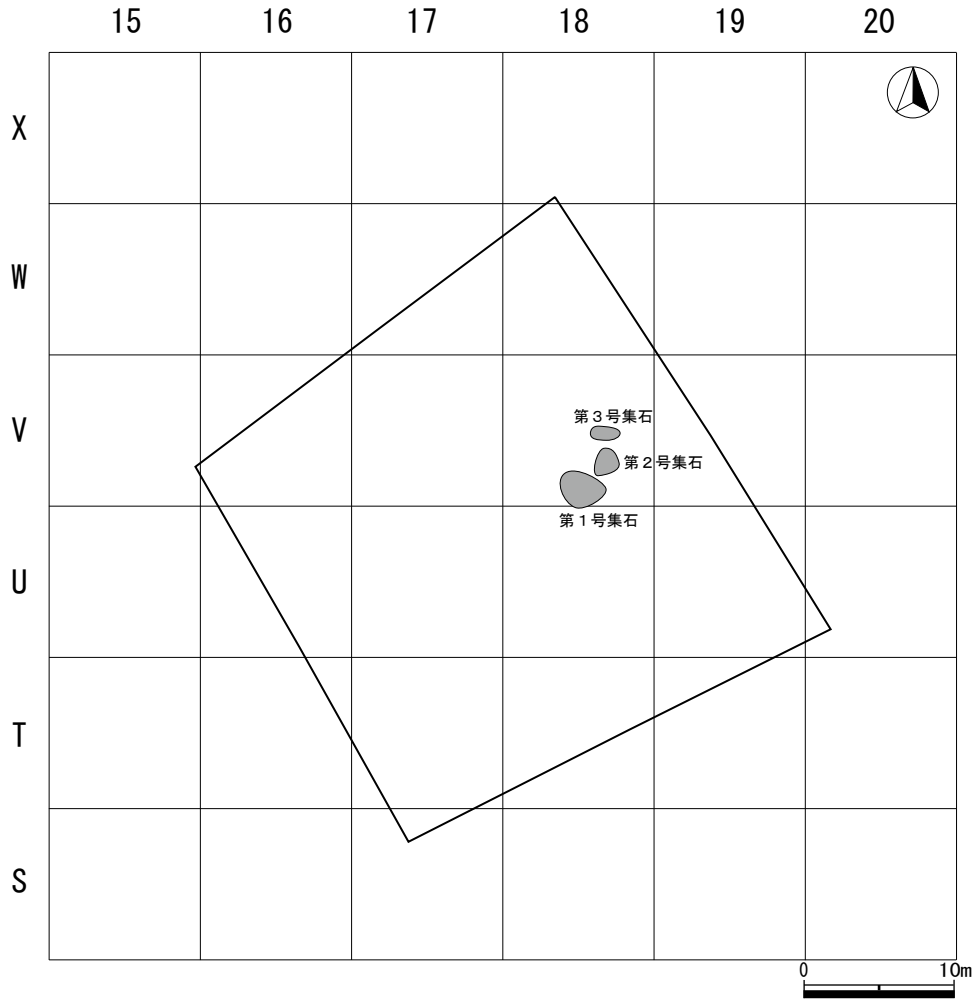
**位置付けと問題点：**本遺跡で出土した旧石器時代の石器群は、前述したように少量の尖頭器を組成するナイフ形石器石器群であった。そして、当地方のローム層の最上層である「休場層」の中層から上層にかけて包含されている状態からは、これらはナイフ形石器石器群の終末段階の石器群であることが予想できるものであった。当地方の旧石器時代編年は、1995年に『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』（静岡県考古学会　1995）としてまとめられ、石器群の整理作業が行われている。この中で尖頭器が石器群の組成に加わるのは第４期ａ段階からであり、当該期はナイフ形石器石器群の最盛期と評価されている所謂「砂川期」（田中　1979）、「砂川型式期」（田中　1984）に対比されている時期であった。この「砂川型式期」は多くの形態のナイフ形石器を持ち、少量の尖頭器、掻器、削器、彫器、ノッチ等を組成し、これらの素材剥片を作製する技術基盤として石刃技法が駆使されており、多量の石刃が生産されていることが通例である。このような「砂川型式期」の特徴は、前述してきた本石器群の特徴とは大きく相違しており、本石器群が「砂川型式期」とは異なる時期の石器群であることが判断されるものであった。当地方で本石器群に類似している石器

群を探すと、三島市の塚原初音原遺跡（鈴木　2009）や北原管遺跡（鈴木・前嶋　1987）等の遺跡で確認することが可能であり、これらも石器類の多くを箱根畑宿産の黒曜石で作製しているものであった。このような特徴の石器群は近接する相模野台地の石器群でも確認されており、相模原市中村遺跡第Ⅳ文化層（伊藤他1987）や大和市深見諏訪山遺跡第Ⅲ文化層（樫田　1983）等（視覚による）があげられるものの、これらの中にはある程度の縦長剥片を生産している遺跡もあるようであり、本遺跡とは幾分相違が認められるが、これらは遺跡毎のバラエティに収束してしまうものかも知れないものである。そして、相模野台地のこれらの遺跡群は「砂川型式期」に比定される石器群の上層より出土しており、より新しい時期でナイフ石器石器群の最終末期の石器群として位置付けられており、本遺跡も当地方のナイフ石器石器群の最終末期である第４期ｃ段階に比定して大過ないものと思われる。ただ、第４期ｃ段階に比定されている石器群には、本遺跡や塚原初音原遺跡のようにナイフ形石器が主体を占め、少量の尖頭器を保有する石器群と、ナイフ形石器と尖頭器の保有量が拮抗している三島市山中城Ｅ遺跡第Ⅱ文化層（未報告）や長泉町八分平遺跡（平川・袴田1981）が確認されている。両群の遺跡では尖頭器の保有量が大きく相違することと、八分平遺跡では畑宿産以外の黒曜石（視覚的には長野県産と思われる）も多量に利用されていること等、幾つかの相違点があり、同一の石器群としてまとめるには抵抗のある組成と内容を示していた。したがって、第４期ｃ段階に比定される石器群には様相の異なる２種類の石器群が存在していることが推定されるものの、両者の関連性は明らかにはなっておらず、今後に残された大きな課題として認識する必要があるものと思われる。そして、第４期ｃ段階に後続すると思われる尖頭器石器群も断片的ではあるが確認されており、これらとナイフ形石器石器群の最終末期である本遺跡などの第４期ｃ段階との関連と継続性の有無も明らかにする必要があると思われるが、いまだ当地方では両石器群の資料的蓄積が進んでいないことが現状であり、これらに検討を加えることが難しい状況にあった。しかし今回の調査によって本遺跡から良好な第４期ｃ段階に比定される石器群が検出されたことにより、第４期ｃ段階の内容を、より明確に捉えることが可能になったことにより、今後の検討と研究に期待すること大である。

# 第３節　縄文時代の遺構と遺物

## １．検出された遺構

本地点からは、山中城西ノ丸跡から北西方向に延びる丘陵頂部付近に縄文時代の遺構として集石３基が検出され、遺物としては縄文時代前期の土器と石器が出土した（第51図）。




第51図　第28次調査縄文時代遺構配置図

### （１）集　石

集石は、本格調査区の中央部からやや北東側に３基がまとまって検出された。

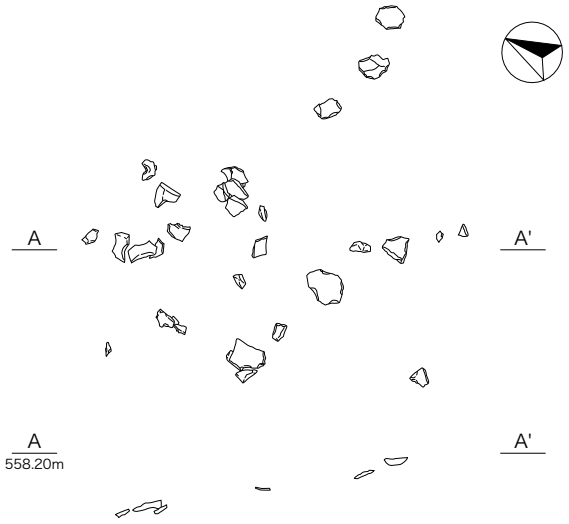
**第１号集石**（第52図）

本集石はⅤ－18グリッドに位置し、調査範囲中央部のやや北東側に立地している。礫27点が長径235m、短径192cmの範囲に集中している。礫の分布は全体に散在しているようである。規則的な配列などは認められない。構成礫の石材は安山岩22点、ホルンフェルス５点である。礫の状態は、完形礫１点、欠損礫26点で、大きいものは小児頭大であるが、拳大以下の礫が多い。いずれも被熱して赤化している。表面に煤が付着するものが14例認められる。タールが付着している資料が１例ある。

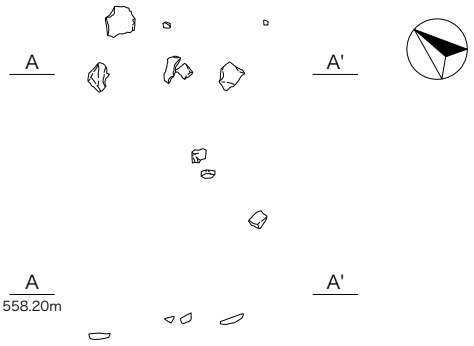
**第２号集石**（第52図）

本集石はⅤ－18グリッドに位置し、第１号集石の北東に立地している。礫９点が長径140m、短径58cmの範囲に集中している。楕円形範囲で礫の分布は全体に散在しているようである。規則的な配列などは認めら

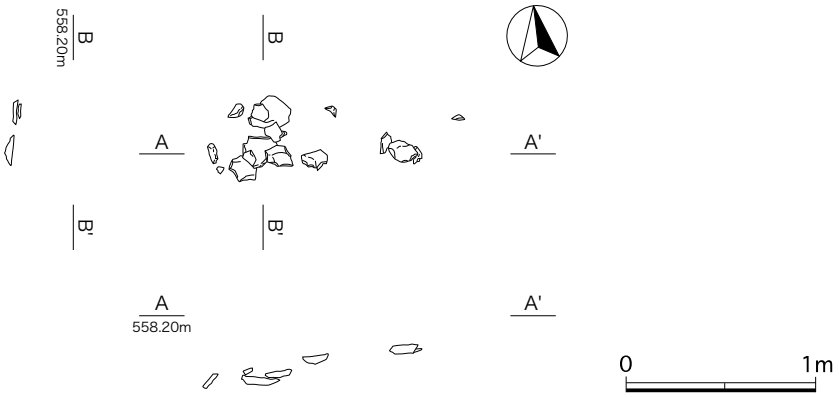
**第１号集石**




**第２号集石**




**第３号集石**




第52図　第28次調査第１～３号集石

れない。構成礫の石材は安山岩４点、ホルンフェルス５点である。礫の状態は、完形礫１点、欠損礫８点で、大きいものは小児頭大であるが、拳大以下の礫が多い。いずれも被熱して赤化している。表面に煤が付着するものが９例認められる。タールが付着している資料が３例ある。

**第３号集石**（第52図）

本集石はＶ－18グリッドに位置し、第２号集石の北側に立地している。礫16点が長径270cm、短径44cmの範囲に集中している。礫の分布は西側に集中しているようである。規則的な配列などは認められない。構成礫の石材は安山岩14点、ホルンフェルス２点である。礫の状態は、完形礫４点、欠損礫12点で、大きいものは人頭大である。いずれも被熱して赤化している。表面に煤が付着するものが10例認められる。タールが付着している資料が３例ある。

## ２．出土遺物

本地点の縄文時代の出土遺物は調査区のほぼ全面に遺物の分布が認められ、調査区の中央部に遺物が集中し、周囲に向かって散漫になる分布状況が観察された。これらの遺物は土器152点、石器54点、礫７点の総数213点である。

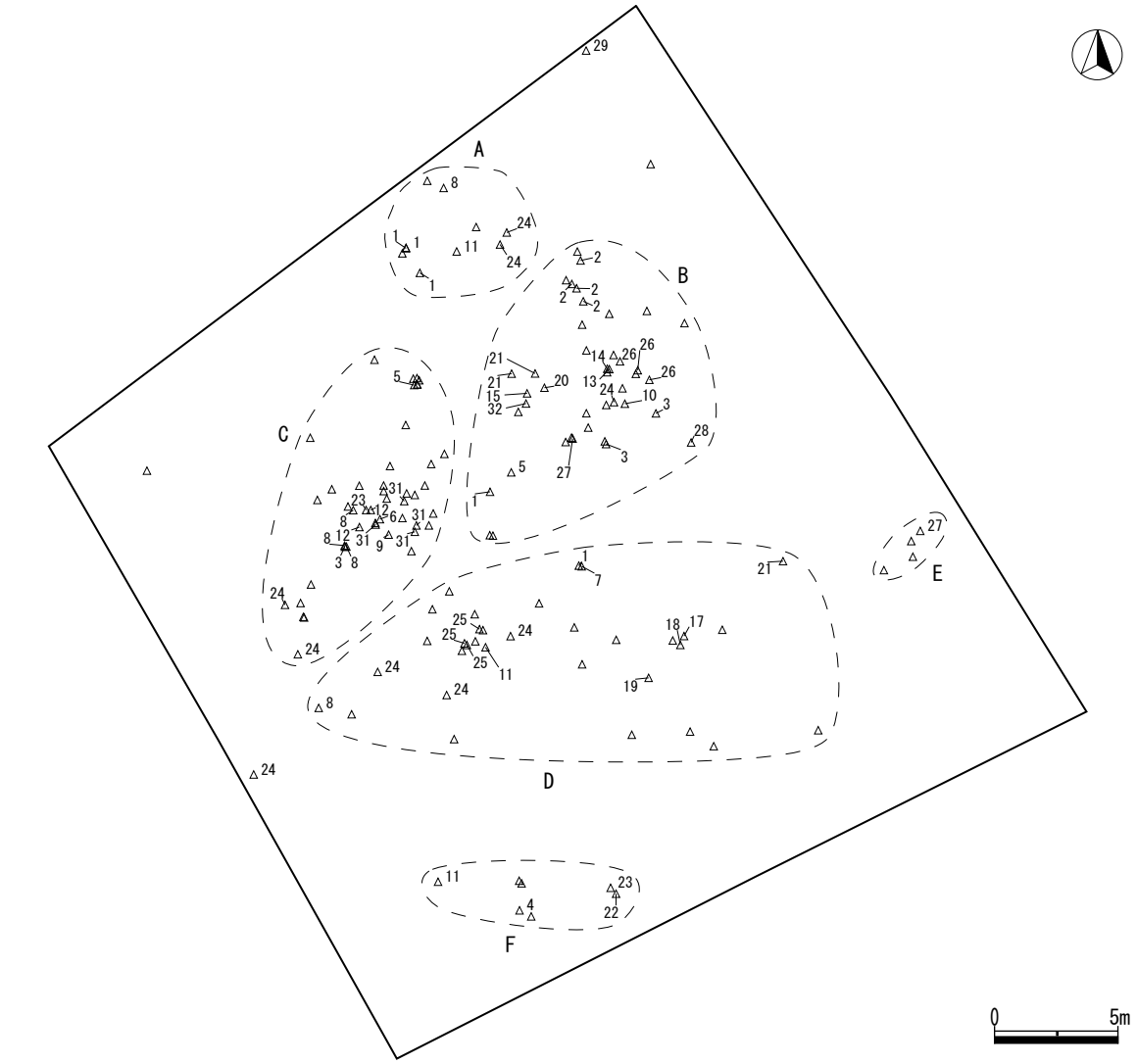
### （１）土　器（第53図～第55図）

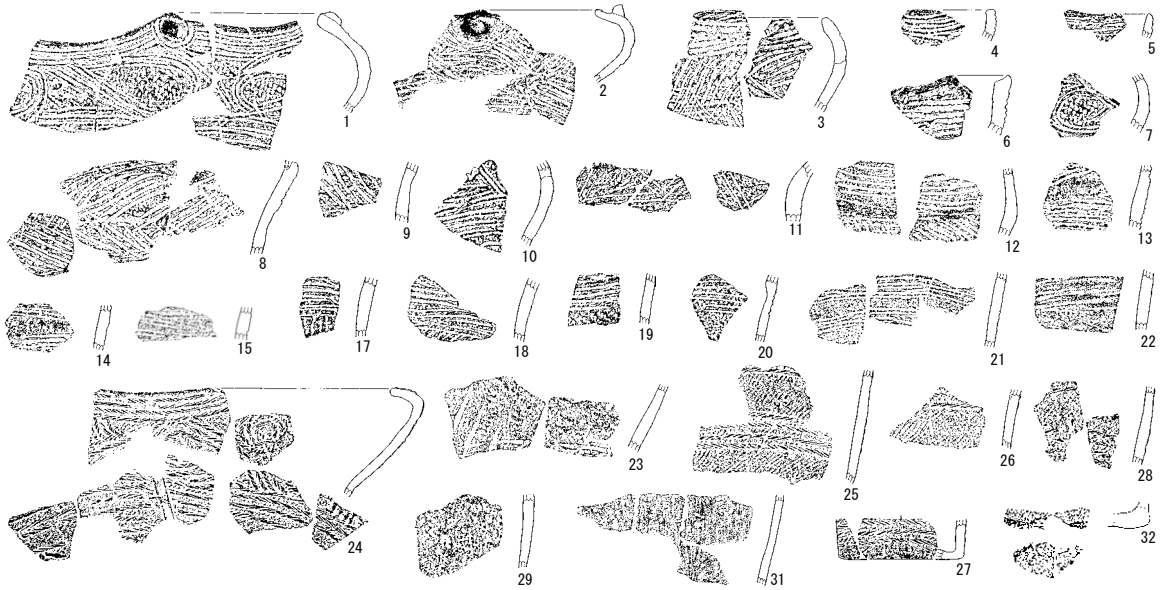
本地点から出土した縄文時代の土器は、前期後半に属する土器152点であり、当該期が本地点の遺跡形成時期を示しているものと考えられる。これらの土器の分布状態としては大きく６箇所のブロックの集合体と捉えられ、北からＡ～Ｆブロックとした（第53図）。

第54図１～第55図28は前期後半諸磯ｂ式に比定される土器群で、中～新段階に位置付けられる。

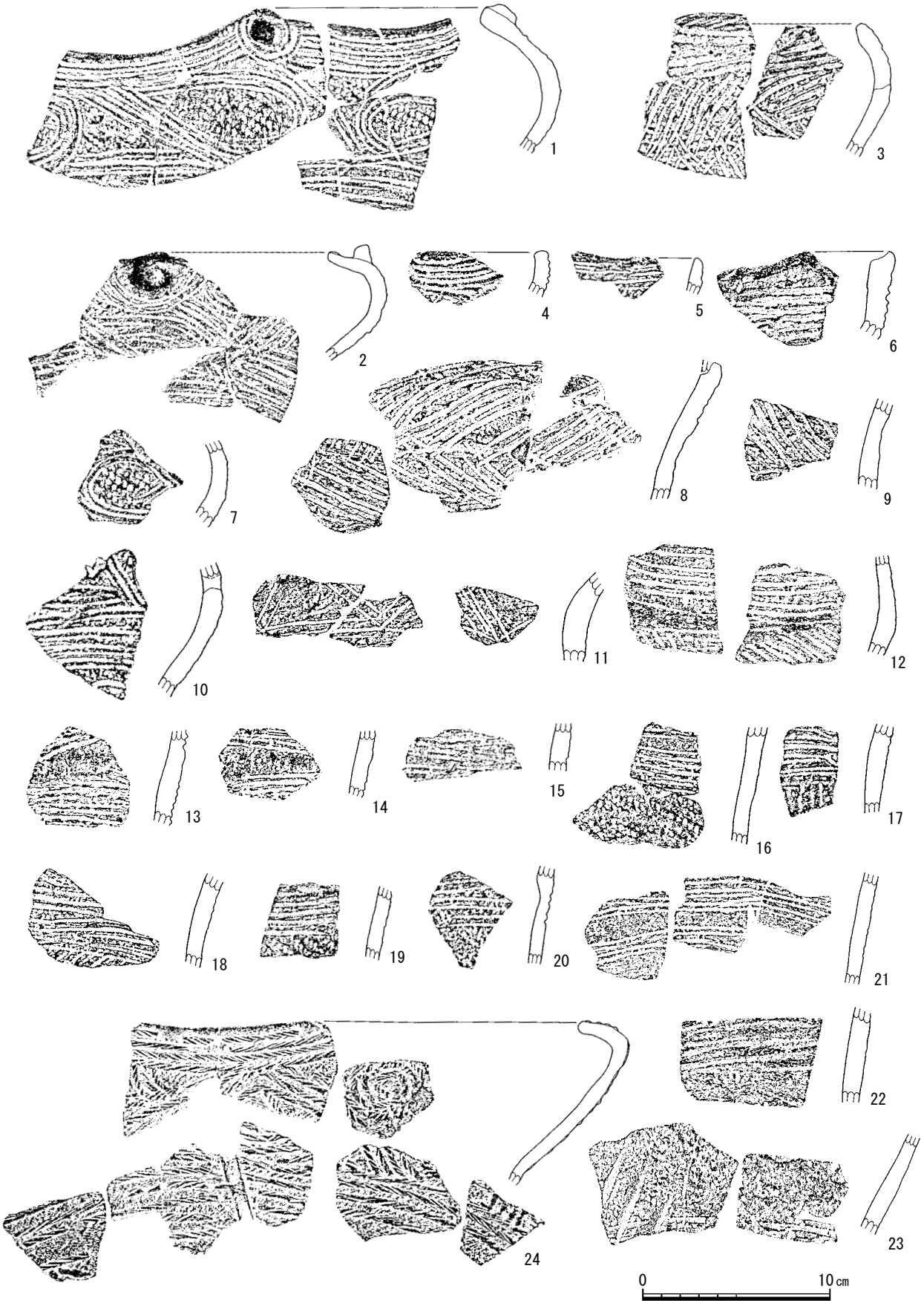
１～23は沈線文系土器で、１～６が口縁部、７～23が胴部破片である。１は口縁部が内湾するキャリパー形の深鉢で、緩やかな波状口縁形態となる。波頂部に円形の貼付文が施され、それを起点として沈線による弧状文が施文される。口縁部文様帯には渦巻状文あるいは蕨手状文が描かれ、文様帯の上下端を横位の沈線文によって区画する。単節縄文ＲＬを地文とし、胎土に多量の金雲母が含まれる。２も１と同様に口縁部が内湾する形態を呈するキャリパー形の深鉢で、口縁部に「の」字状の貼付文が施され集合沈線による弧状文が施文される。３もキャリパー形の内湾する口縁部で、胎土から８・９と同一個体と推定される。口唇部には斜位の刻みが連続的に加えられ、口縁部文様は横位矢羽根状の沈線文と見られるがモチーフの詳細は不明である。４はわずかに内湾する口縁部片で、口縁に沿って平行沈線が施される。６は小突起をもち外反する口縁部で、幅広の集合沈線が施文される。７は小片のため文様は不明であるが曲線的なモチーフを描く。８～10は横位矢羽根状沈線文が描かれた胴部破片である。８は単節縄文ＲＬ、10は単節縄文ＬＲを地文とする。11は鋸歯状文を施した厚手の胴部破片で、地文は単節縄文ＬＲである。12～23は横位沈線が施される土器である。12・18は横位沈線と交差する斜位の沈線が施される。13～15は胎土から同一個体と推定される資料で、横位ないしは斜位の沈線文が施される。19・20は単節縄文ＲＬを地文とし、横位沈線文が施文され、22は幅広の横位沈線が施される。23は単節縄文ＲＬを地文とし、破片下端に３条の横位沈線が見られる。

24～28は浮線文系土器である。24～27は同一個体と考えられる資料で、口縁部が強く内湾するキャリパー形の深鉢である。単節縄文ＬＲを地文とし、口縁部には上面に鋭い刻みを有する浮線文による蕨手状渦巻文が描かれる。胴部には４条一組の横位浮線文が施される。27は推定底径9.8cmを測る。図示した破片以外に接合しない多数の同一個体破片が出土している。28は単節縄文ＬＲを地文とし、５条の浮線文が横位に巡る。器面の剥落が著しく、遺存状態は不良である。

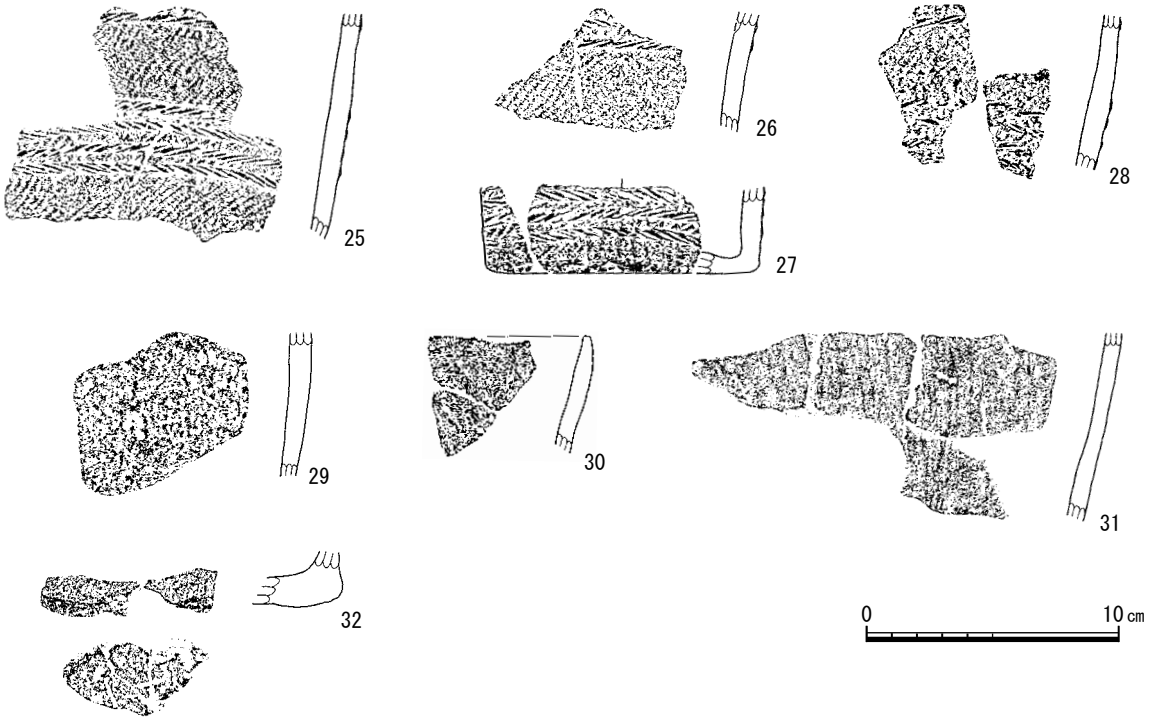


第53図　第28次調査縄文時代土器分布図




第54図　第28次調査縄文時代出土土器（１）




第55図　第28次調査縄文時代出土土器（２）

第55図29～32は諸磯ｂ式に伴うと推定される土器群である。29は単節縄文ＲＬをもつ土器で、器面の磨滅が著しい。30・31は無文の土器で、精製された緻密な胎土を用い非常に薄手かつ堅緻であることを特徴とする。口縁部は波状を呈し、口唇部は平滑に整形される。外面全体に丁寧な調整が施され、赤彩された痕跡が認められる。32は無文の底部小片で、詳細な時期は不明である。

なお、主な同一個体土器のブロック別の分布状況としては、24～27の土器と３・８・９の２個体の土器片がＦブロックを除く５箇所のブロックに分散して検出され、13～15はＢブロック、31の無文土器の破片はＣブロックにまとまって検出されている。

**（２）石　器**（第56図～第60図）

計54点出土した石器の器種別の内訳は、石鏃７点、石匙４点、スクレイパー２点、加工痕のある剥片２点、使用痕のある剥片１点、石核４点、剥片17点、砕片８点、磨石５点、石皿１点、原石３点である。石器の分布状態としては調査区の中央よりやや東側に北西方向から南東方向に向かう帯状の分布が認められ、さらに調査区中央部分と南東側にやや集中した部分も観察される。定形石器の分布では特に偏った分布は認められないが、黒曜石の原石が中央部分に近接して出土している（第56図）。

**石　鏃**（第57図１～７）

いずれも黒曜石を素材とした凹基無茎鏃である。平面の形状は１・２は長身であり、３は正三角形に近い形状を呈する。基部の抉りは湾曲状に施される。４は基部の抉りが浅く、三角鏃に近い形状を呈し、先端部からの衝撃剥離痕と左側縁には脚部からの剥離が観察される。５は基部の抉りがＵ字状を呈し、脚部が内湾するものである。６は未製品、７は欠損品である。黒曜石の原産地は１・２・５・７が天城柏峠、３は神津島恩馳島、４・６は諏訪星ヶ台産である。

**石　匙**（第57図８～11）

８はつまみ部を欠損するが、左側縁に剥離面を持つ剥片を素材とし、器体の下端部を中心に刃部の作出が認められる横型の石匙である。９は刃部を大きく欠損するが、両側縁に顕著な抉り加工が見られることから石匙のつまみ部とした。10・11は横型の石匙の完形品である。いずれも裏面に素材となった剥片の主要剥離面を大きく残すもので、刃部は器体の下端部にほぼ直線状に作出される。石質は８・９が安山岩、10は凝灰岩、11はホルンフェルスである。

**スクレイパー**（第58図12・13）

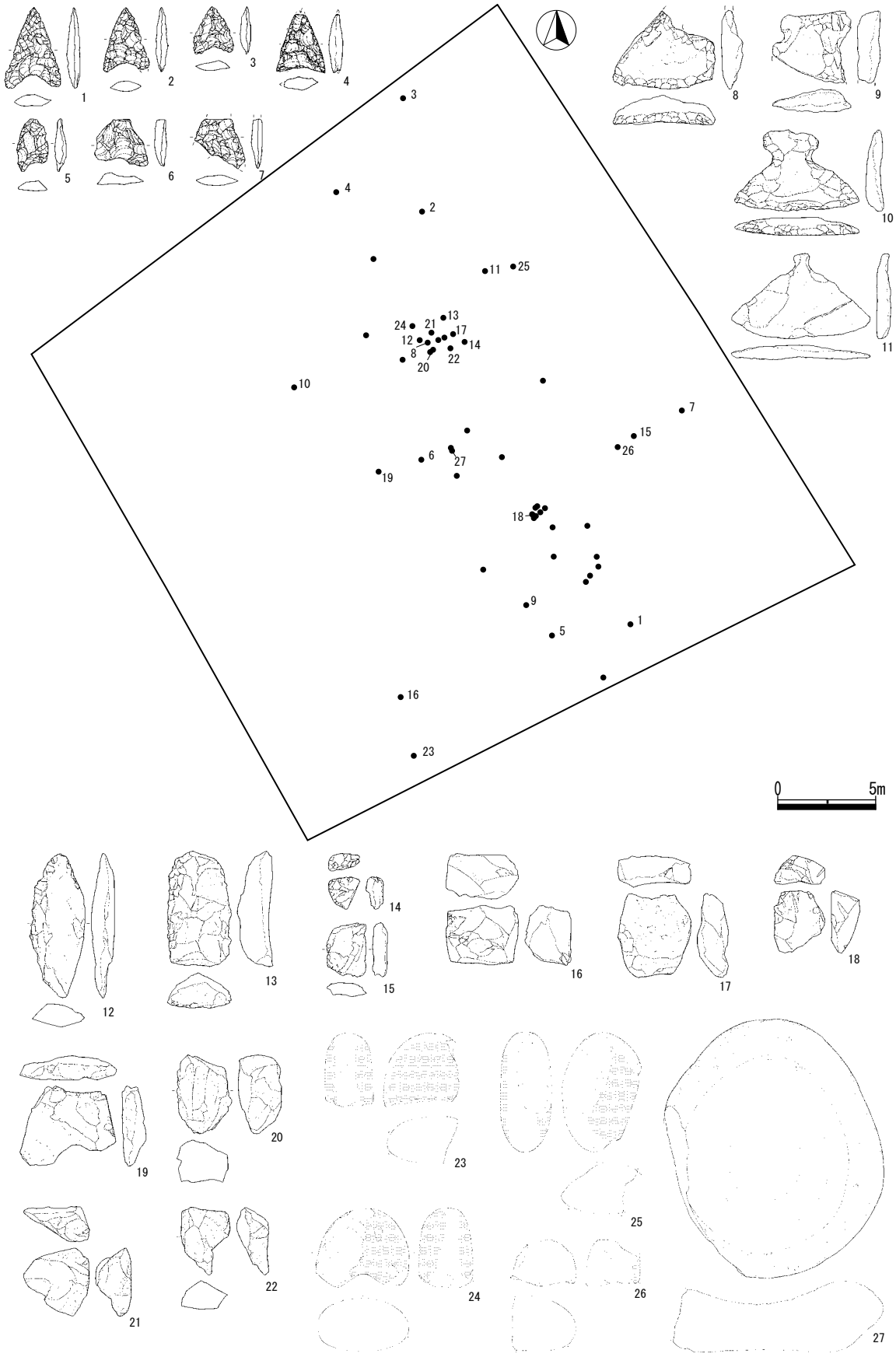
12は横長剥片を素材とし、器体長軸の左側縁に粗い二次加工を施して刃部を作出しているものである。13は末端に自然面を持つ厚手の縦長剥片を素材とし、表面に両側縁から丁寧な二次加工を施して刃部が作出されているものである。石質は12が安山岩、13は凝灰岩である。

**加工痕のある剥片**（第58図14・15）

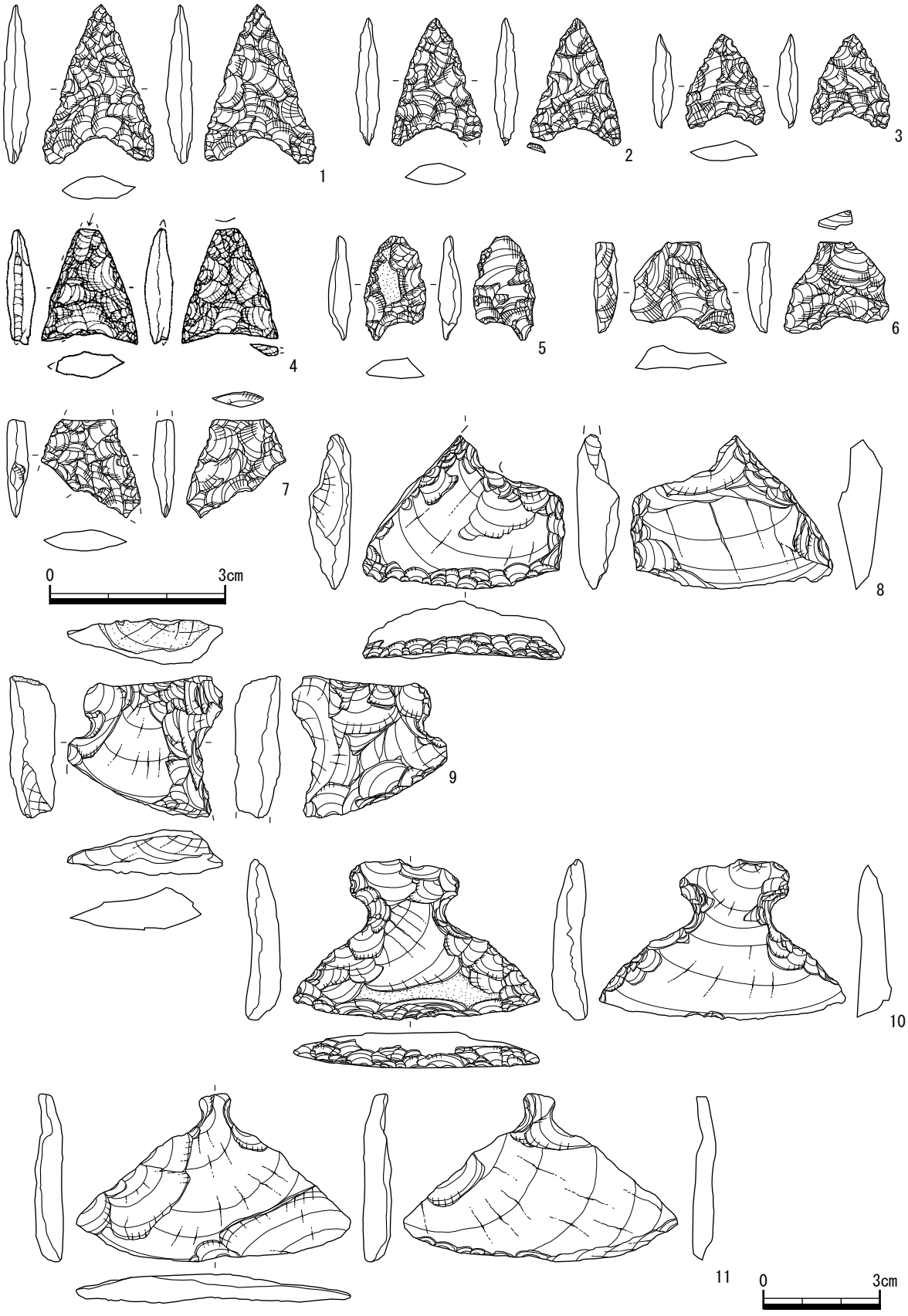
14・15は剥片の一部に調整加工が施されたものであるが、欠損等により器種認定が不可能なものである。14は右側縁を欠損するが、器体の縁辺部からの二次加工が観察されるものであり、クサビ形石器の可能性がある。15は表裏に自然面を持つ扁平な原石を素材とし、器体の上面と左側縁からの二次加工が観察されるものである。石質はいずれも天城柏峠産の黒曜石である。

**石　核**（第58図16～19）

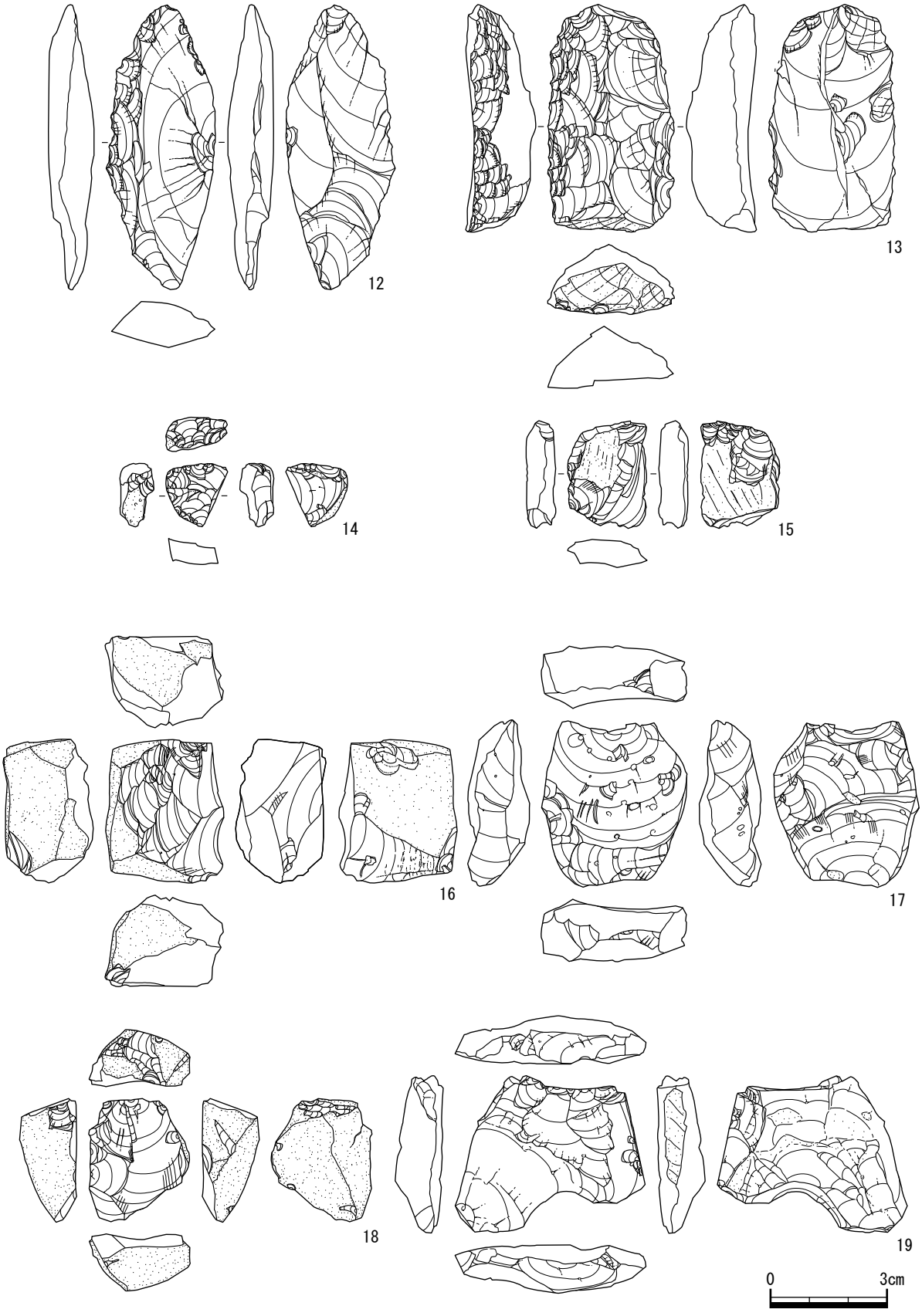
16は黒曜石の角礫を素材とした石核である。器体の右方向からの剥片剥離を行った後、右側縁の打面を欠損したために上面からの剥離作業を行っているものである。打面は古い剥離面を打面としている剥離と自然面打面が認められる。17は左側縁に自然面を持つが、剥片剥離作業は古い剥離面を打面として90度の打面転移を繰り返しながら剥片を剥離しているものである。18は黒曜石の小形角礫を素材とし、上面の自然面を打面として剥片剥離を行っているものである。19は表面に自然面を持つ不定形な剥片を素材とし、側面に残された自然面を打面として剥片剥離作業が行われているものである。石質は16・18が天城柏峠産の黒曜石、17



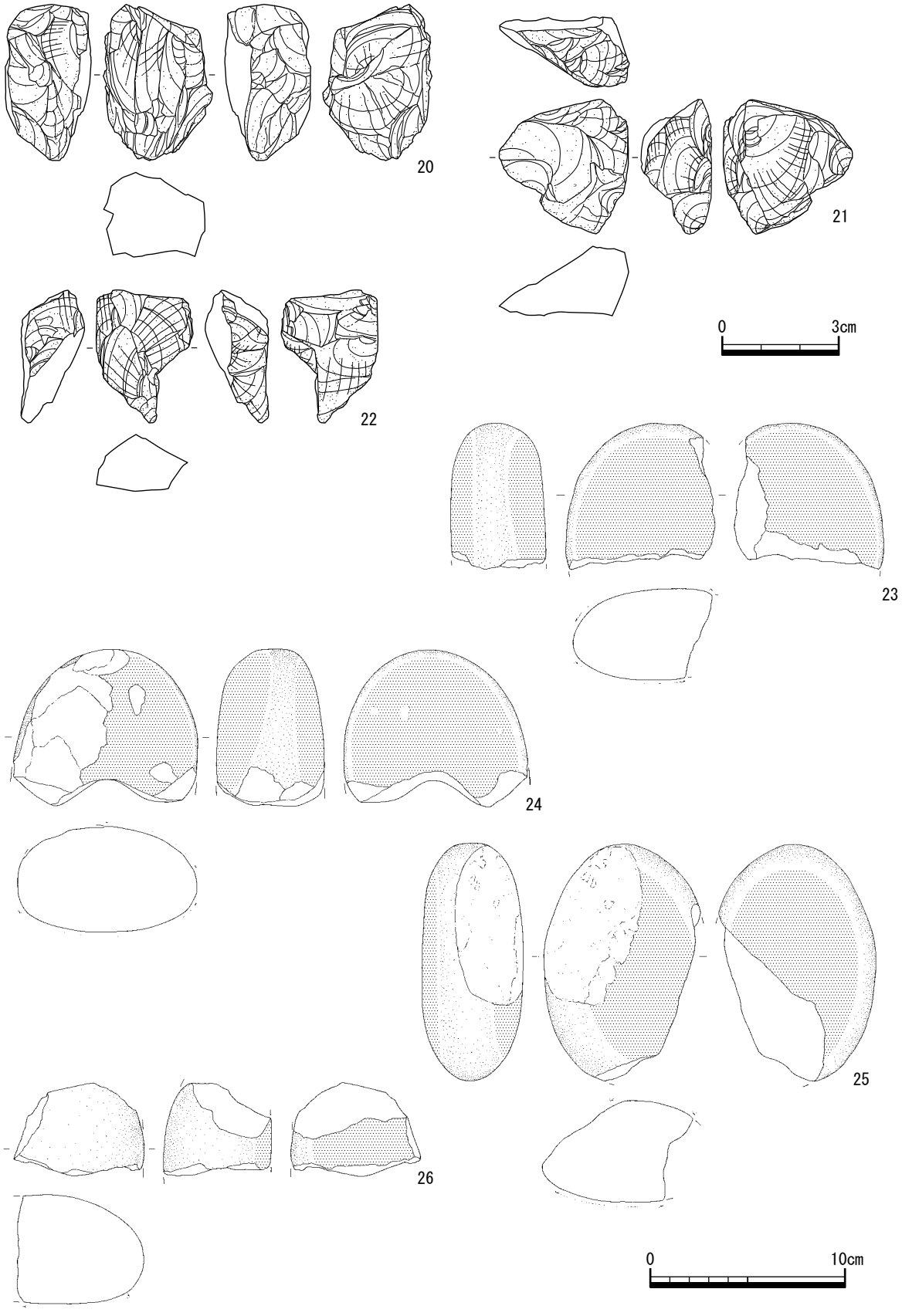

第56図　第28次調査縄文時代石器分布図



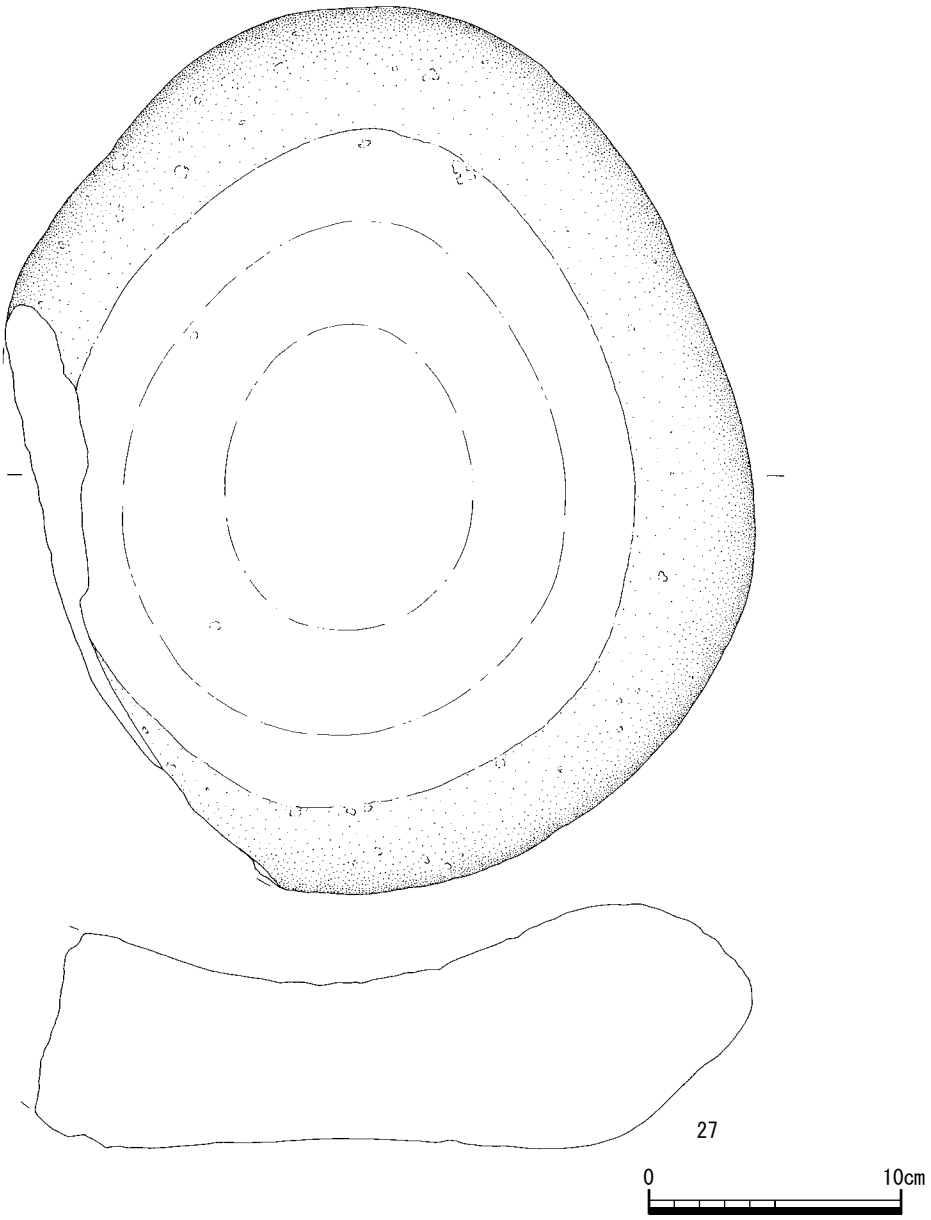

第57図　第28次調査縄文時代出土石器（１）




第58図　第28次調査縄文時代出土石器（２）




第59図　第28次調査縄文時代出土石器（３）




第60図　第28次調査縄文時代出土石器（４）

は箱根畑宿産の黒曜石、19は安山岩である。

**黒曜石原石**（第59図20～22）

図示した３点はいずれも諏訪星ヶ台産の黒曜石の原石である。大きさは長さ４cm前後、重さ30g未満の小角礫である。

**磨　石**（第59図23～26）

いずれも欠損品であるが、安山岩の楕円扁平礫を素材としたものであり、その平坦面に研磨痕が観察されるものである。

**石　皿**（第60図27）

石器分布範囲の中央部に検出された。多孔質の安山岩を素材とした石皿で、使用面は表裏に認められるが、表面に大きな窪みが観察されるものである。

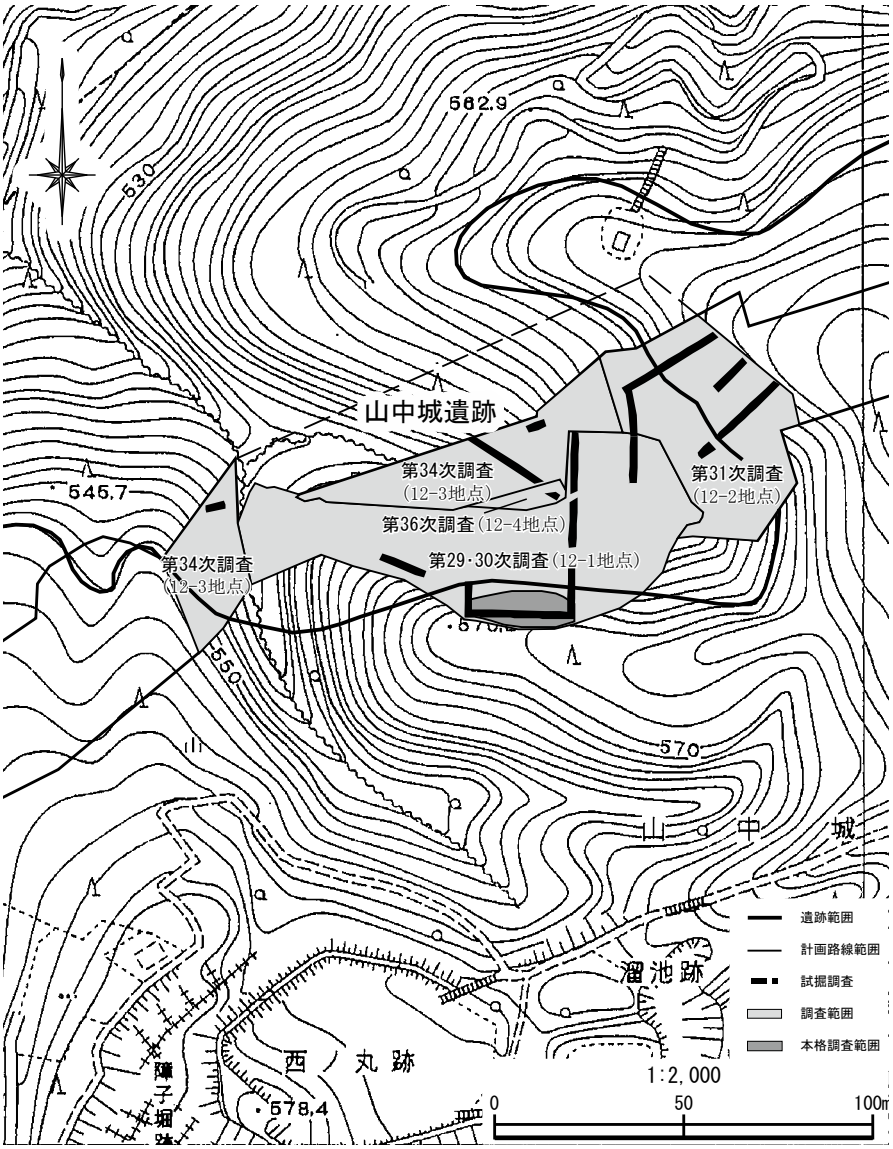
# 第３章　山中城遺跡第30次調査

（笹原山中バイパス第12－１地点）

## 第１節　遺跡の位置と調査の概要

本遺跡は、箱根山西麓の丘陵部に位置し、北西側を山田川、南東側を来光川に解析された幅200m程の狭い尾根上にあたり、第28次調査（笹原山中バイパス第11地点）から北東方向に連続する調査地点である（第61図）。

調査は、各地点ごとにトレンチを設定して調査を行ったところ、第30次調査南側に設定したトレンチから縄文時代の遺物が検出された。このため、第30次調査全体のほぼ中央部の南側にあたる尾根上の225㎡を対象に本格調査を行ったところ、縄文時代の集石が１基、土坑１基が確認され、縄文時代前期の土器と石器が出土した（第62図）。

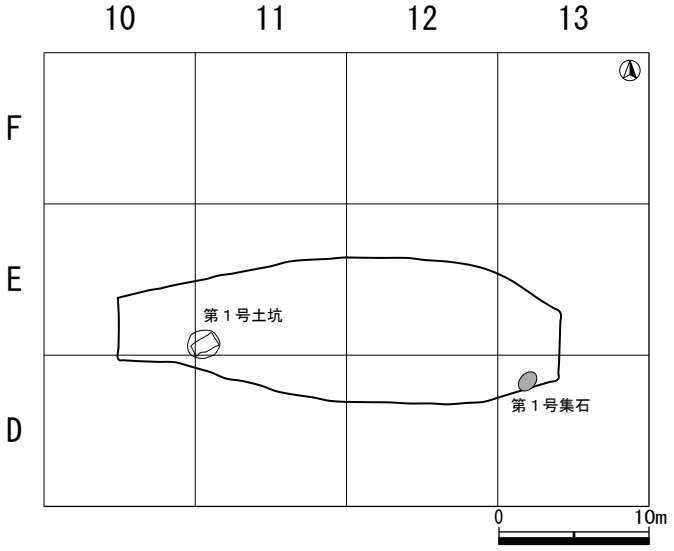



第61図　第29～31・34・36次調査の調査範囲と周辺の地形

# 第２節　縄文時代の遺構と遺物

## １．検出された遺構

本地点からは、山中城北ノ丸から西方向に延びる丘陵北側緩斜面部分に縄文時代の土坑１基、集石１基が検出された。




第62図　第30次調査縄文時代遺構配置図

### （１）土　坑

**第１号土坑**（第62・64図）

本土坑はＤ・Ｅ－10・11グリッドに位置し、調査範囲の中央部からやや西寄りに立地している。縄文時代遺構には後述する集石があり、22mを隔てている。土坑の確認面は標高約566m付近である。規模は長径106cm、短径91cm、深さ65cmを測る。平面形は確認面では整った楕円形を呈している。主軸方位はＮ－64°－Ｅである。本土坑の上面形は楕円形を呈するが、下場形は長方形を呈している。覆土はロームブロックを含む暗黄褐色土で７層に分層される。

本土坑は形態的に観て所謂「陥し穴」とされる狩猟用土坑である。

### （２）集　石

**第１号集石**（第62・65図）

本集石はＤ－13グリッドに位置し、調査範囲の南東端に立地している。礫33点が長径107cm、短径101cmの範囲に集中している。礫の分布は中心部に大型礫が集中しているようであるが、規則的な配列などは認められない。構成礫の石材は安山岩16点、ホルンフェルス７点である。礫の状態は、完形礫10点、欠損礫23点で、大きいものは人頭大であるが、拳大以下の礫が多い。いずれも被熱して赤化している。表面に煤が付着するものが１例認められる。接合資料は１例で３点の礫が接合する。

### ２．出土遺物

本地点の調査では、縄文時代前期を中心とする土器とそれに伴うと考えられる石器13点が出土した。

#### （1）土　器（第66図）

１・２は早期後半鵜ヶ島台式土器で、同一個体と推定される。１は口縁部近くの屈曲部にあたると考えられ、屈曲部の上方に沈線による幾何学状文が描かれ文様の交点に円形刺突が施される。内面には多方向に施された貝殻による条痕文が認められ、器壁は厚手で胎土に繊維が含まれる。

３～７は前期後半諸磯ｂ式土器で、新段階に位置付けられる。３は口縁部が強く内屈する器形を呈し、波状を呈するものと推定される。文様は横位沈線文を密接して施文している。４は浮線文土器の口縁部小破片で、上面に斜位の刻みを有する浮線文と円形の貼付文が見られる。５・６は同一個体と考えられる縄文施文のみの胴部破片で、節の細かな単節縄文ＲＬを施文原体とする。胎土に白色砂粒を多く含み、器壁の薄い堅緻な土器である。７は緩やかな波状口縁をもつ深鉢で、口縁部が内屈する器形を呈する。波頂部には円形の貼付文が見られ、口縁部から胴部にかけて横位の平行沈線文が間隔をあけて施文される。無節縄文Ｌを地文とする。

#### （2）石　器（第66図）

計13点出土した石器の器種別の内訳は、使用痕のある剥片１点、剥片・折剥片10点、磨石１点、敲石１点であり、そのうちの２点を図示した。

**使用痕のある剥片**

８は安山岩を素材とした不定型な剥片の端部に刃こぼれ状の微細な剥離が観察されるものである。素材となった剥片は自然面を打面としている。

**磨　石**

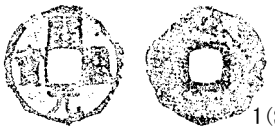
９は安山岩の楕円扁平礫を素材としたものであり、その平坦面に研磨痕が観察されるものである。

## 第３節　江戸時代以降の出土遺物

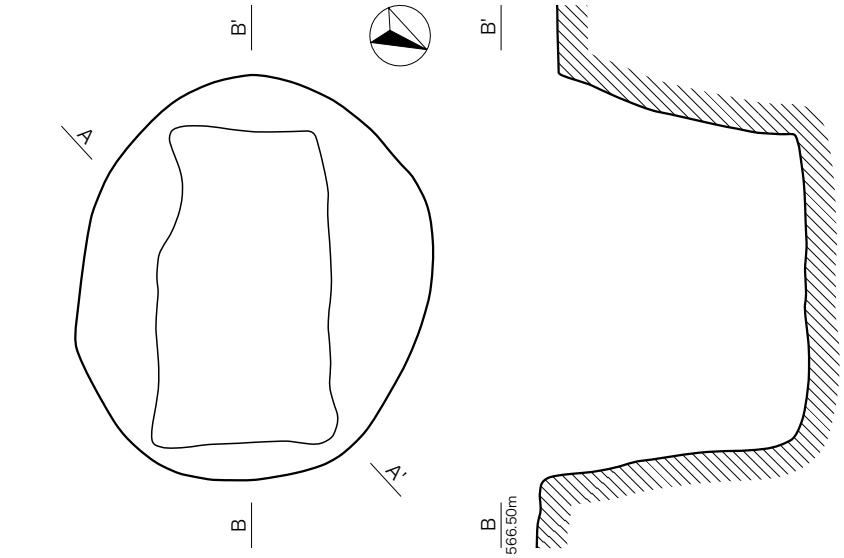
### １．出土遺物

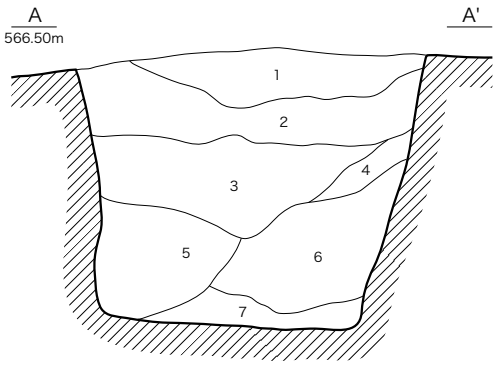
本地点からは、江戸時代以降の出土遺物として銭貨が１点出土している。

第63図１は渡来銭貨（中国）である。銭名は開元通寶で、初鋳年代は唐代621年である。混入の可能性がある。




第63図　第30次調査江戸時代以降出土遺物

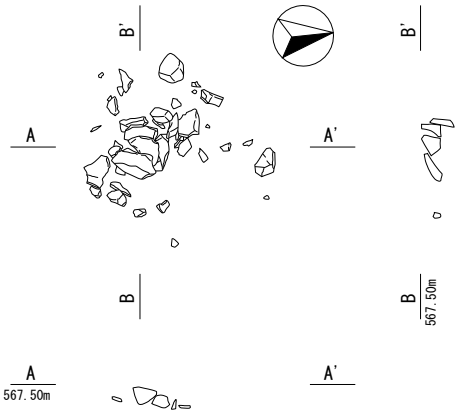


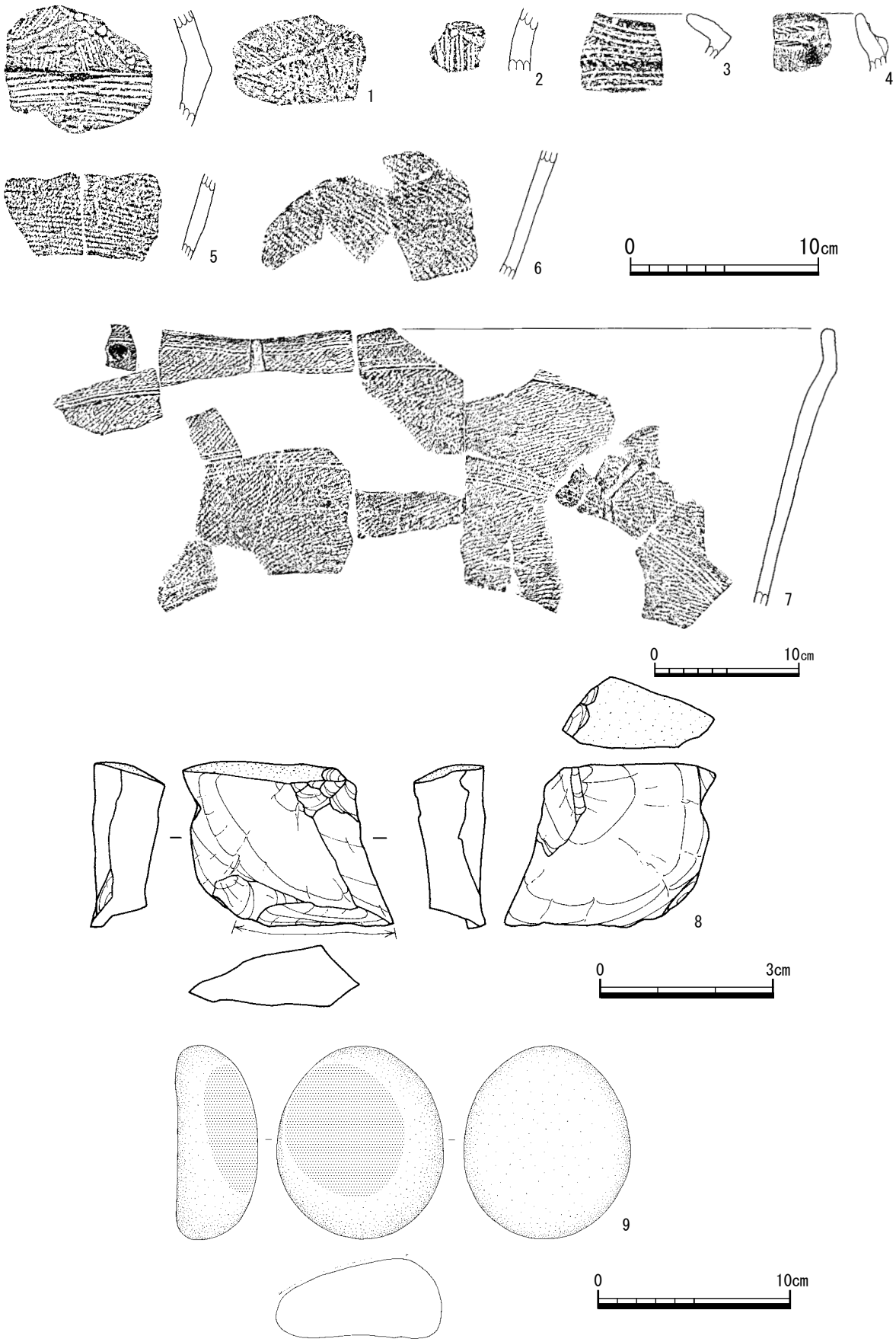

第１号土坑土層説明

| | | しまり | 粘性 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 暗黄褐色土層 | 弱 | 有 | 径２～10㎜の小石を含む。 |
| 2 | 暗黄褐色土層 | 強 | 有 | 径２～10㎜の小石を多く含む。径１～３㎜の橙色スコリアを少量含む。 |
| 3 | 暗黄褐色土層 | 弱 | 強 | 径５㎜の小石、径１～３㎜の赤・黒色スコリア、径３㎜のロームブロック含む。 |
| 4 | 暗黄褐色土層 | 弱 | やや有 | ローム粒子含む。径２㎜の赤色スコリア微量含む。 |
| 5 | 暗黄褐色土層 | 弱 | 強 | 径橙１～３㎜の黒色スコリア少量、径３㎜のロームブロック少量含む。 |
| 6 | 暗黄褐色土層 | 強 | 強 | 径10～20㎜のロームブロック多く含む。 |
| 7 | 暗黄褐色土層 | 非常に強 | 有 | 径10～30㎜のロームブロック多く含む。径１～３㎜の黒・橙色スコリア少量含む。 |

第64図　第30次調査第１号土坑



第65図　第30次調査第１号集石




第66図　第30次調査縄文時代出土遺物

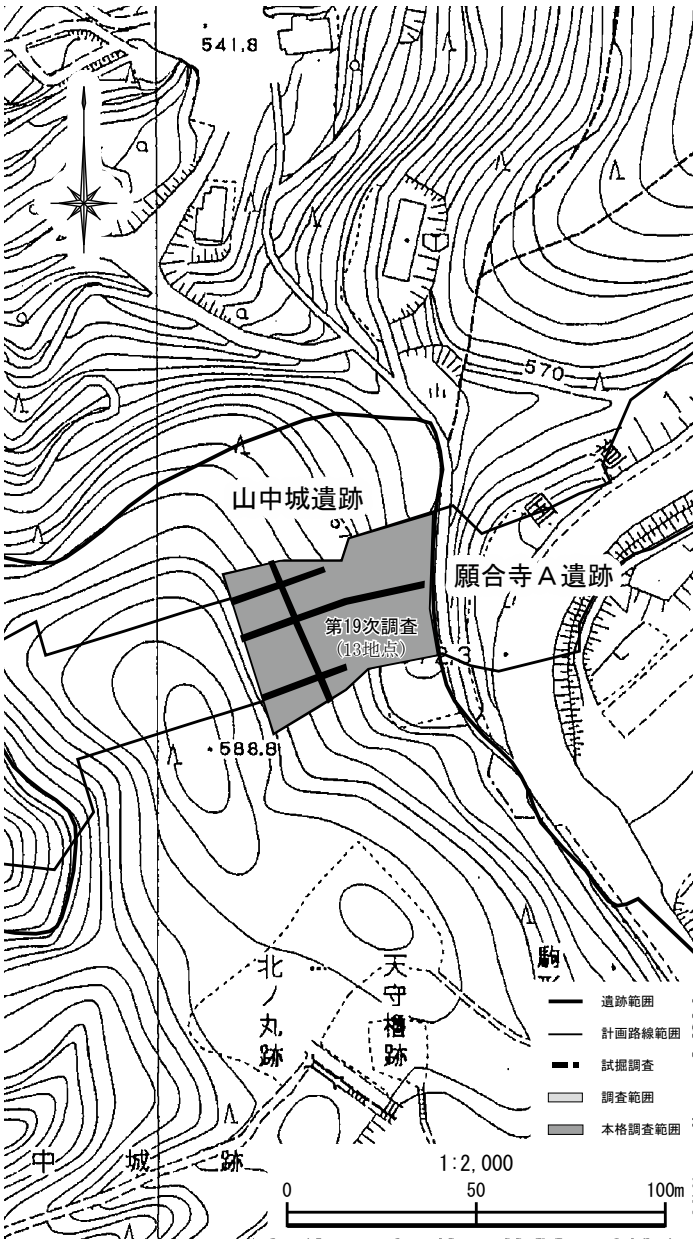
# 第４章　山中城遺跡第19次調査

（笹原山中バイパス第13地点）

## 第１節　遺跡の位置と調査の概要

本遺跡は、箱根山西麓の丘陵部に位置し、北西側を山田川、南東側を来光川に解析された幅200m程の狭い尾根上にあたり、山中城天守櫓跡を乗せる丘陵頂部北側の東側斜面に位置する（第67図）。なお、第30次調査（笹原山中バイパス第12地点）との位置関係としては、東北東方向に連続する調査地点である。

調査は平成５年度と平成６年度の２年次に分けて行われた。まず平成５年度の調査では、工事計画地区内において山中城との位置関係から曲輪や堀に関連する遺構の存在が予想されたことから、任意に４本のトレンチを設定して調査を開始した。その結果、北の丸に近いトレンチから曲輪拡張時と考えられるローム質の盛土が検出され、中央のトレンチからは土坑が１基確認された。このことから調査区をラオシバ側の緩斜面と谷への急斜面から谷部分の２回に分けて1,885㎡の全面調査を実施することとしたが、トレンチ調査で確認された以外の遺構は検出されなかった。その後、緩斜面部分を中心に３×３ｍのグリッドを設定してローム層中の試掘調査を行った。その結果、５箇所のグリッドから旧石器時代の遺物が検出されたことから、これらのグリッドを中心とした297㎡の調査区について旧石器時代の本格調査を行った。




第67図　第19次調査の調査範囲と周辺の地形

平成６年度の調査は、旧石器時代の第２次調査として459㎡の調査区について本格調査を行った。

２年次に渡る調査の結果、旧石器時代ではYLU層とYLM層に計２枚の文化層が確認された。第Ⅰ文化層からは計９点の遺物が検出され、２箇所の石器ブロックとして確認され、第Ⅱ文化層からは計732点の遺物が検出され、11箇所の石器ブロックとして確認された。なお、縄文時代については、遺構は確認されなかったが、少量の土器・石器が検出されている。

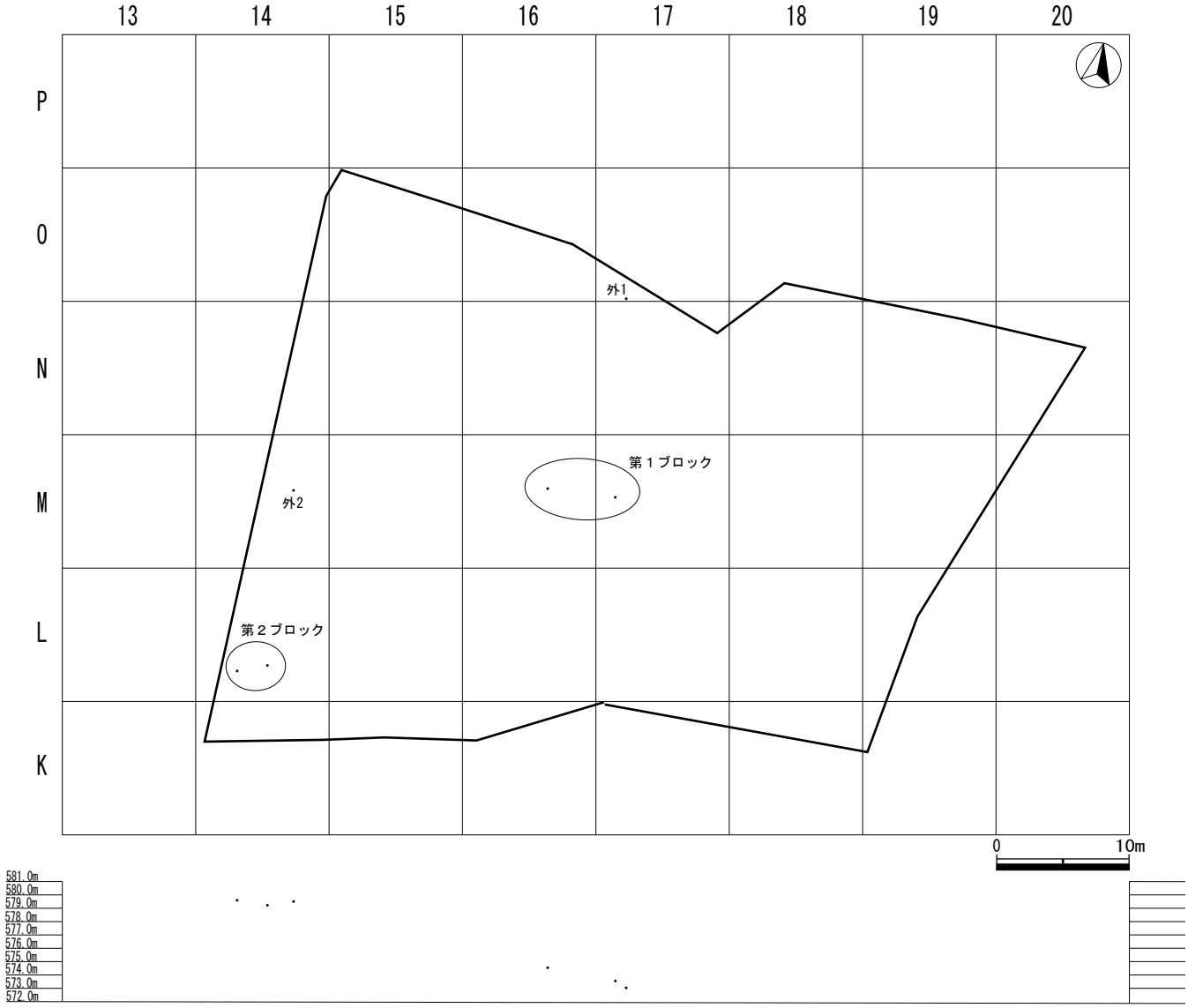
# 第２節　旧石器時代の遺構と遺物

本地点からは､山中城天守櫓跡を乗せる丘陵頂部北側の東側斜面に旧石器時代の文化層が２枚確認された。第Ⅰ文化層はYLU層から石器９点が出土し、その出土状況から２箇所の石器ブロックとして認識された。第Ⅱ文化層はYLM層から石器725点、礫７点の計732点の遺物が出土し、その出土状況から11箇所の石器ブロックとして認識された。

## １．第Ⅰ文化層

### （１）検出された遺構

本文化層からは上述のように計９点の遺物が出土し、２箇所の石器ブロックとして確認された。この石器ブロックは調査区の中央部に第１ブロックが検出され、第２ブロックは第１ブロックの南西25mの調査区南西角部分に確認された（第68図)。




第68図　第19次調査第Ⅰ文化層のブロックとブロック外出土石器の分布

第69図　第19次調査第Ⅰ文化層第１ブロック石器分布図

**第１ブロック**（第69図）

本ブロックはM－16・17グリッドで確認され、調査範囲の中央部に位置している。南西約22mに第２ブロック、北約13mにブロック外出土石器１、西約18mにブロック外出土石器２がある。本ブロックは２点の石器が約５ｍ離れて出土した。垂直分布は、標高573.542mから574.532mであり、高低差は99cmである。層位はYLU層である。

出土石器は、剥片２点（内折剥片１点）である。接合資料は認められない。第２ブロックとの接合関係、個体別資料の共有関係はない。個体別資料は２個体あり全て黒曜石個体である。

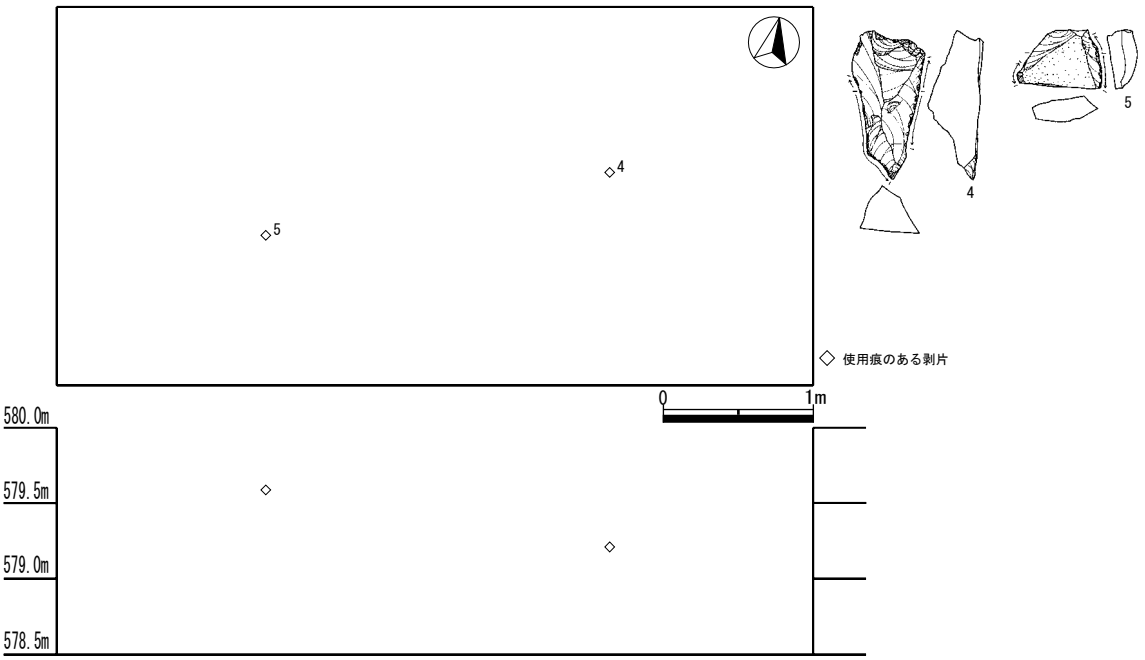
**第２ブロック**（第70図）

本ブロックはＬ－14グリッドで確認され、調査範囲の南西端部に位置している。北西約22mに第１ブロック、更に約北西約22mにブロック外出土石器１、北約11mにブロック外出土石器２がある。本ブロックは２点の石器が約２ｍ離れて出土した。垂直分布は、標高579.214mから579.590mであり、高低差は38cmである。層位はYLU層である。

出土石器は、使用痕のある剥片２点（内折剥片１点）である。接合資料は認められない。第１ブロックとの接合関係、個体別資料の共有関係はない。個体別資料は２個体あり全て黒曜石個体である。

**ブロック外の石器**（第68図）

前述した２箇所の石器ブロックのほかに、２点のブロック外出土石器がある。ブロック外出土石器１は調査範囲北部分Ｏ－17グリッドにあり、南約14mに第１ブロックがある。黒曜石製使用痕のある剥片である。ブロック外出土石器２は調査範囲の中央部東端部M－14グリッドにあり、南約13mに第２ブロック、東約18mに第１ブロックがある。黒曜石製細石刃である。ブロック外出土石器１・２は同一個体別資料である。第１・２ブロックとは個体別資料の共有関係はない。




第70図　第19次調査第Ⅰ文化層第２ブロック石器分布図

**（２）出土遺物**

本文化層の石器組成は、細石刃２点、使用痕のある剥片３点、剥片４点（内折剥片２点）の合計９点である。これらの石器石材はいずれも黒曜石である。接合資料は認められない。

**細石刃**（第69図１・２）

１はブロック外出土石器２である。左右両側縁部が平行で均整の取れた細石刃である。下端部を欠損する。２は出土位置不明である。左側縁が直線的でない。また、側面観も反りが強い。下端部を欠損する。使用痕と考えられる微細剥離痕が右側縁部に認められる。１と２は、後述する使用痕のある剥片３、剥片５と同一個体別資料である。

**使用痕のある剥片**（第71図３～５）

３はブロック外出土石器１である。調整打面から剥離された厚い縦長剥片の左右両側縁部・下端部に使用痕と考えられる微細剥離痕が顕著に認められる。背面には角礫面が大きく残っている。背面の剥片剥離痕から180°打面転位して剥片剥離を行っている。前述したように細石刃１・２と同一個体別資料である。

４は第２ブロック出土。調整打面から剥離された厚い縦長剥片の左右両側縁部に使用痕と考えられる微細剥離痕が顕著に認められる。背面の剥片剥離痕から180°打面転位して剥片剥離を行っている。

５は第２ブロックより出土した。調整打面から剥離された短い横長剥片の左右両側縁部に使用痕と考えられる微細剥離痕が認められる。背面には角礫面が大きく残っている。前述した使用痕のある剥片４と同一個体別資料である。

**剥　片**（第71図６）

出土位置不明の縦長剥片である。調整打面から剥離されている。器体の下端部が捩れている。右側面に打点部を残す剥片剥離痕が認められ、背面の剥片剥離痕とあわせ頻繁に打面を転位しながら剥片剥離を行って

いる。細石刃１・２、使用痕のある剥片３と同一個体別資料である。

**個体別資料**

本文化層の９点の石器はいずれも黒曜石である。個体別資料分類の結果、４個体に分類できた。

個体１：細石刃２点、使用痕のある剥片１点、剥片１点である。

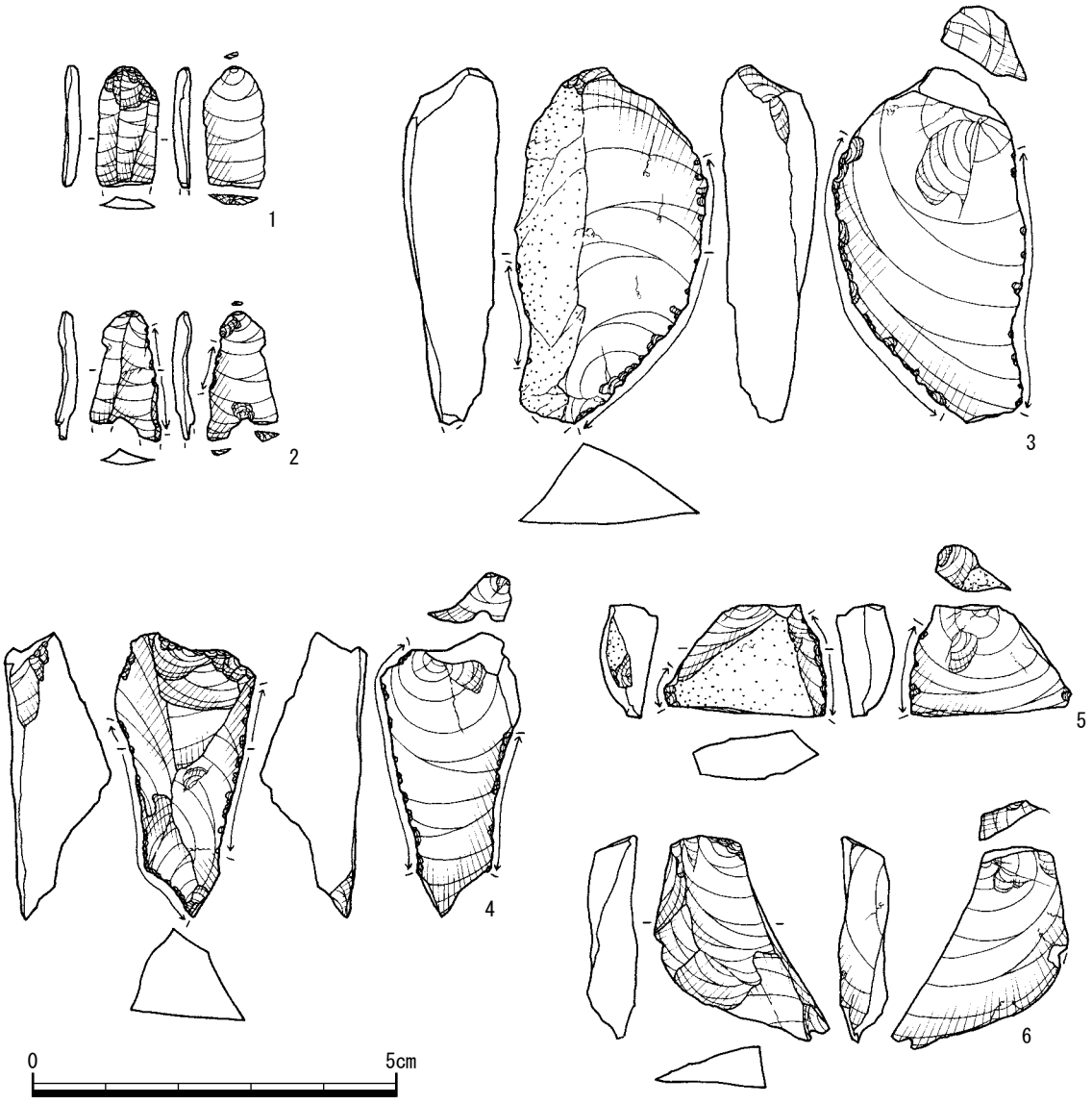
個体２：使用痕のある剥片２点で、第２ブロックを構成している。

個体３：折断剥片２点である。第１ブロックの１点と出土位置不明の１点である。

個体４：剥片１点である。第１ブロックに含まれている。単独個体である。

### （３）位置付けと問題点

第19次調査第Ⅰ文化層の石器群は、その出土石器内容は貧弱なものであったが、細石刃が含まれることからから愛鷹・箱根山麓の旧石器編年第５期に比定して大過ないものと思われる。

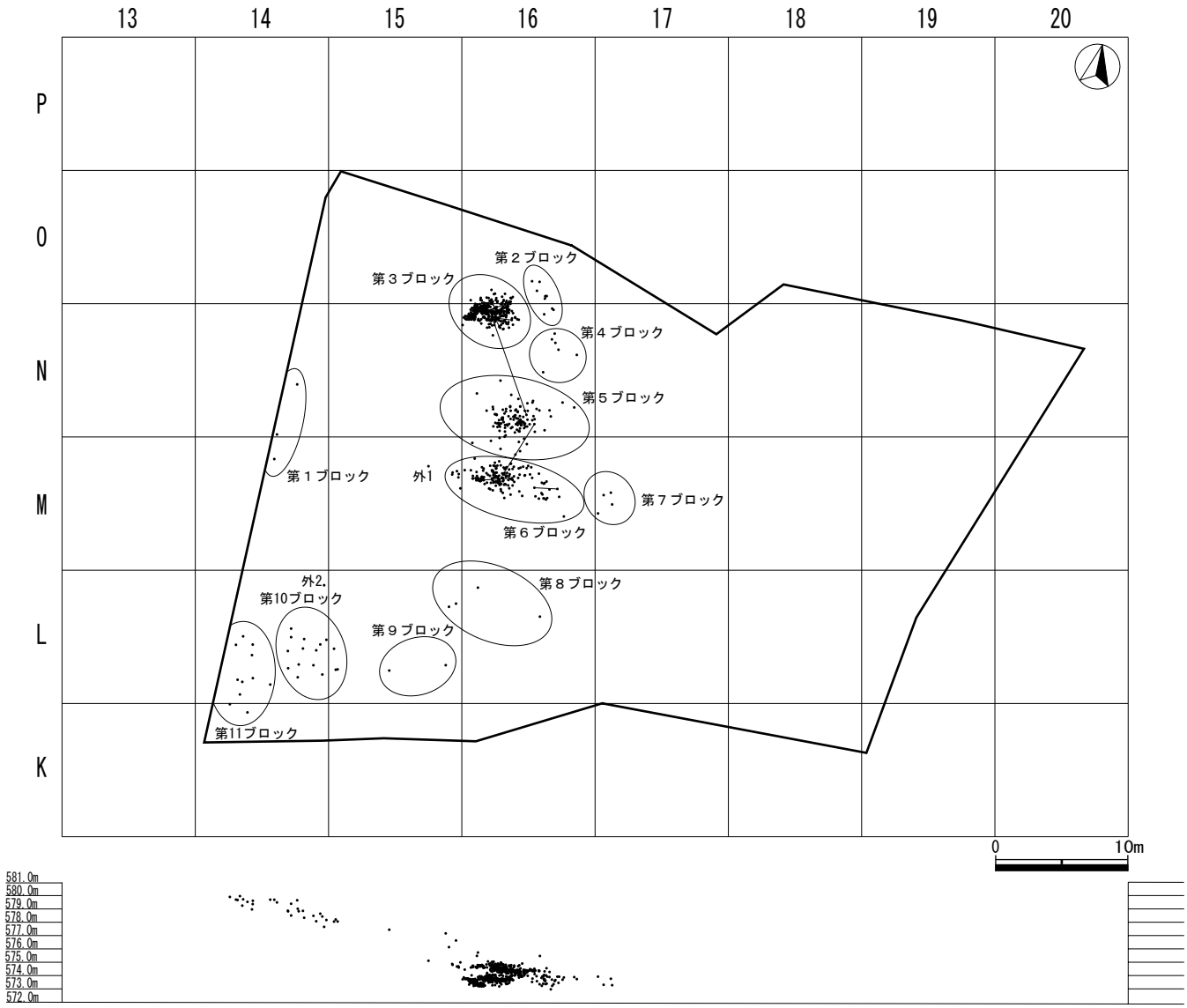



第71図　第19次調査第Ⅰ文化層出土石器

## ２．第Ⅱ文化層

### （１）検出された遺構

本文化層からは前述のように計725点の石器が出土し、11箇所の石器ブロックとして確認された。これらの石器ブロックは調査区の西側に半円を描くように確認された（第72図）。

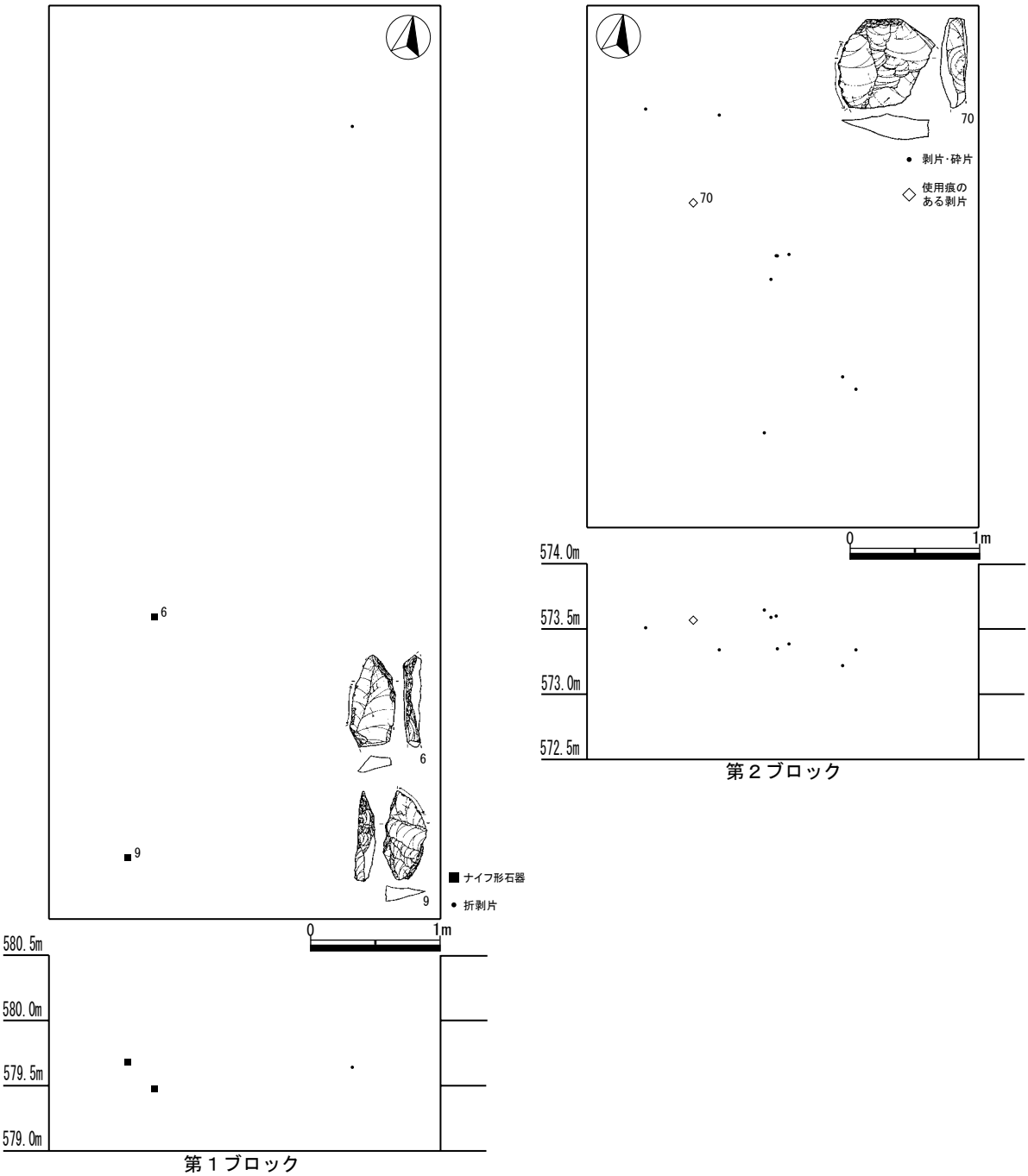



第72図　第19次調査第Ⅱ文化層のブロックとブロック外出土石器の分布

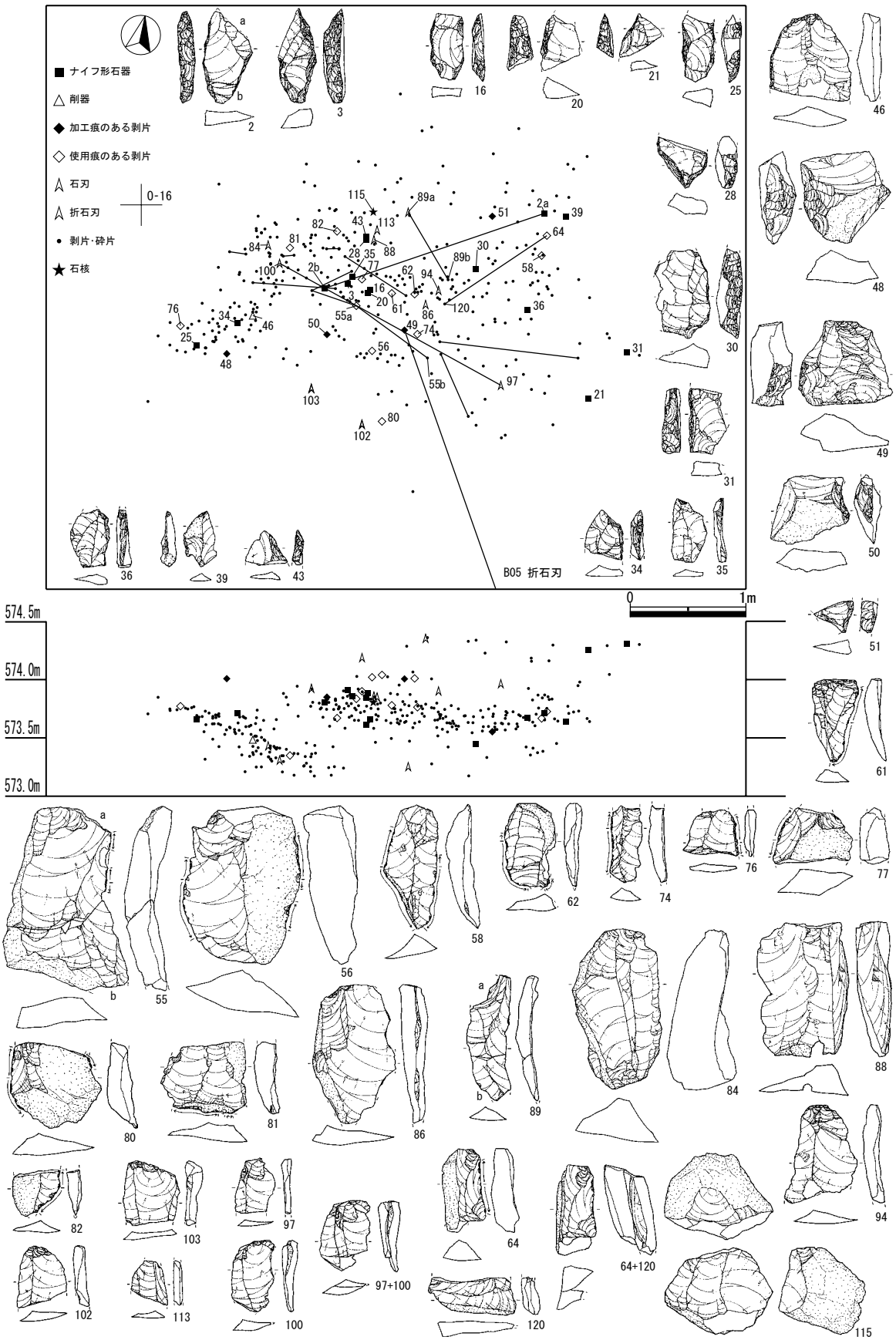
**第１ブロック**（第73図）

本ブロックはM・N－14グリッドで確認され、調査範囲の中央西端部に位置している。このため石器分布の西部分は調査範囲外にある可能性がある。東約10mに第２～７ブロックとブロック外出土石器１が、南約10mに第10・11ブロックとブロック外出土石器２が隣接している。石器分布は、３点の石器が南北約７m間に列状に出土した。垂直分布は、標高579.479mから579.678mであり、高低差は19.9mである。層位はYLM層である。

出土石器は、ナイフ形石器２点、折剥片１点で合計３点である。接合資料は認められない。個体別資料は３個体あり、黒曜石２個体、瑪瑙１個体である。その他ブロック、ブロック外出土石器との個体別資料の共




第73図　第19次調査第Ⅱ文化層第１・第２ブロック石器分布図




第74図　第19次調査第Ⅱ文化層第３ブロック石器分布図

有関係はない。

**第２ブロック**（第73図）

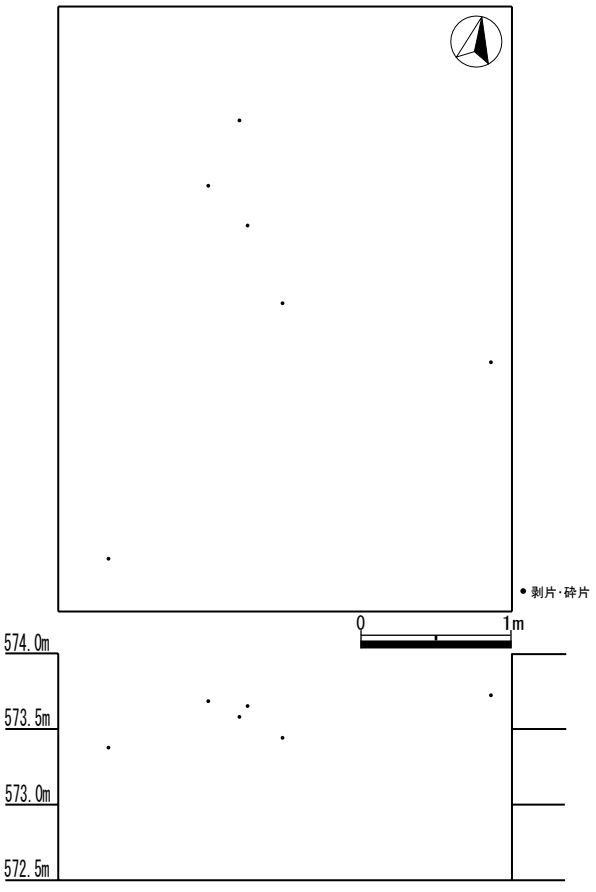
本ブロックはＮ・Ｏ－16グリッドで確認され、調査範囲の中央部北端部に位置している。西に第３ブロック、南に第４ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径2.7m、短径90cmで、楕円形を呈している。石器は分布範囲内に散漫に分布する。垂直分布は、標高573.219mから573.646mであり、高低差は42.7cmである。層位はYLM層である。

出土石器は、使用痕のある剥片１点、剥片８点（内折剥片６点）、砕片１点で合計10点である。接合資料は認められない。個体別資料は８個体あり、全て黒曜石である。

**第３ブロック**（第74図）

本ブロックはＮ・Ｏ－16グリッドで確認され、調査範囲の中央部北寄りに位置している。東に第２・４ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径4.2m、短径3.1mで、東西に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲の中心部に集中している。垂直分布は、標高573.174mから574.361mであり、高低差は118.7cmである。層位はYLU～YLM層である。

出土石器は、ナイフ形石器15点（接合資料が１例あり個体数は14点）、削器１点、加工痕のある剥片４点、使用痕のある剥片12点、剥片207点（内折剥片140点）、石刃10点（内折石刃６点）、石核１点、砕片120点で合計370点である。接合資料は13例認められ、他ブロックとの接合は、本ブロック加工痕のある剥片と第５ブロック折石刃の１例である。その他12例はブロック内接合である。個体別資料は20個体あり、全て黒曜石個体である。




第75図　第19次調査第Ⅱ文化層第４ブロック石器分布図

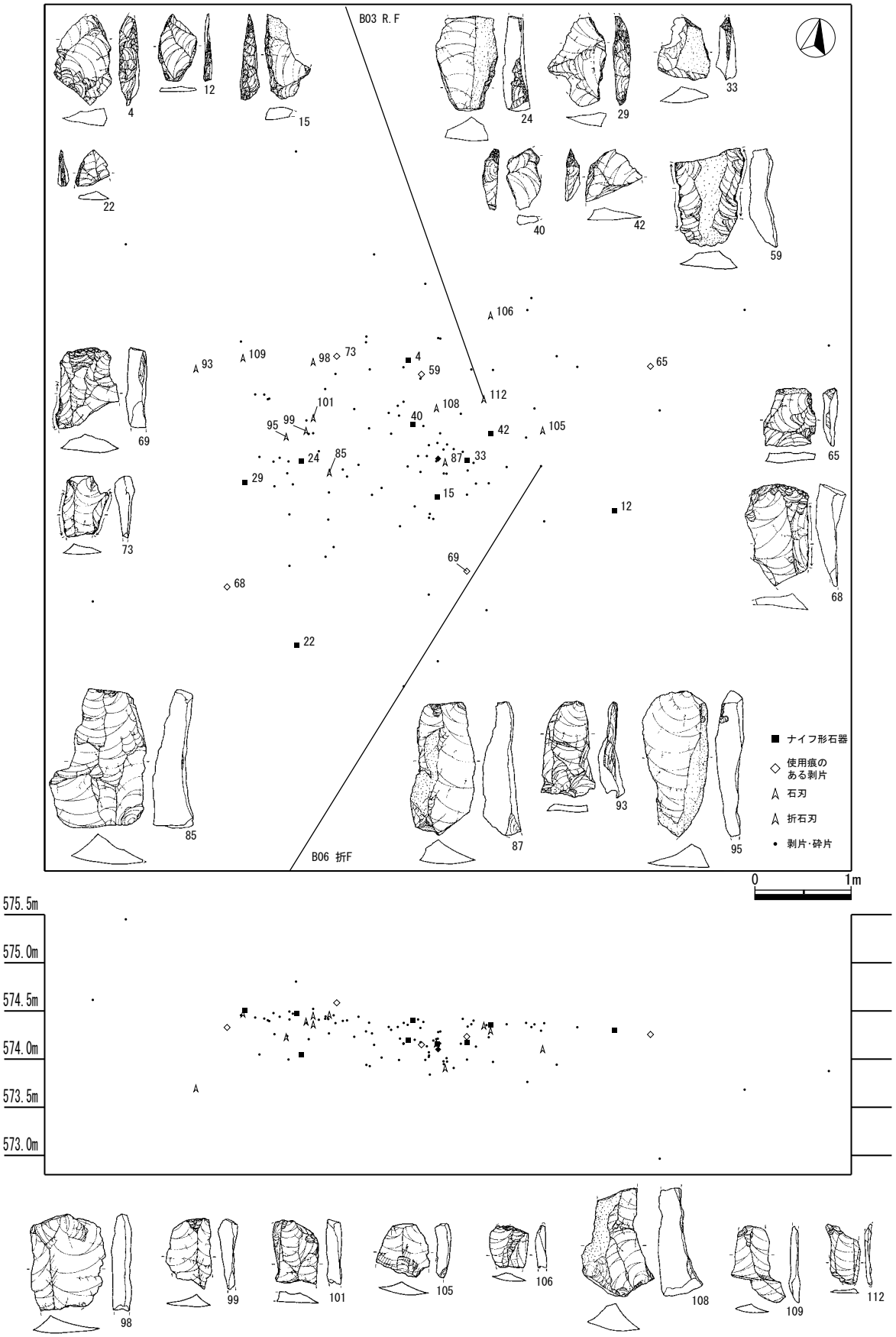
**第４ブロック**（第75図）

本ブロックはＮ－16グリッドで確認され、調査範囲の中央部北端に位置している。北に第２・３ブロック、南に第５ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径3.1m、短径2.5mで、北東部分が広い楕円形を呈している。石器は散漫である。垂直分布は、標高573.378mから573.723mであり、高低差は34.5cmである。層位はYLU～YLM層である。

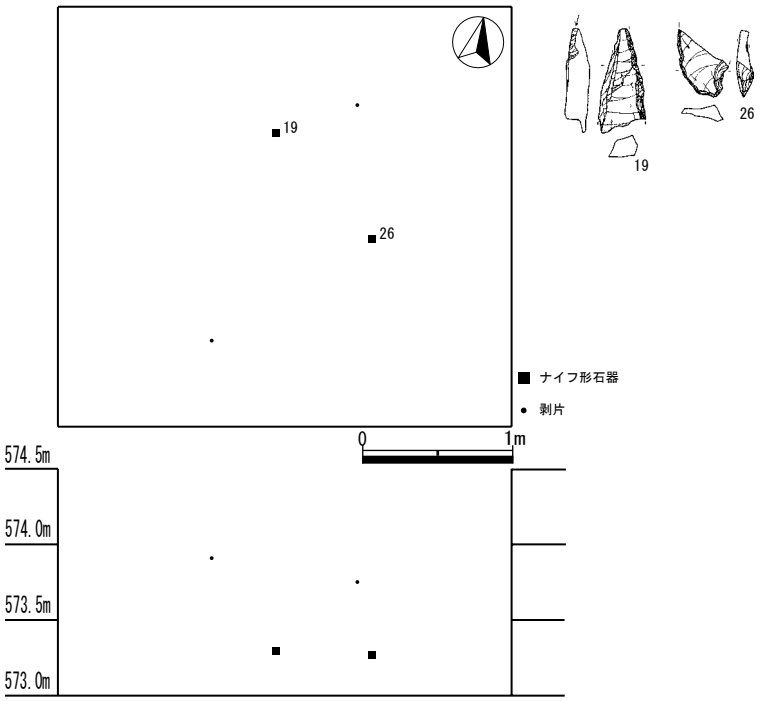
出土石器は、剥片６点（内折剥片５点）である。接合資料は認められない。個体別資料は５個体あり、全て黒曜石個体である。

**第５ブロック**（第76図）

本ブロックはＭ・Ｎ－16グリッドで確認され、調査範囲の中央部西寄りに位置している。北に第２・３・４ブロック、南に第６・７ブロックとブロック外出土石器１が隣接している。石器分布範囲の規模は、長径8.2m、短径5.7mで、幅広な楕円形を呈している。石器は分布範囲の西側に集中しているが、集中度は高い。垂直分布は、標高572.956mから575.468mであり、高低差は248.2cmである。層位はZN～YLM層である。




第76図　第19次調査第Ⅱ文化層第５ブロック石器分布図




第77図　第19次調査第Ⅱ文化層第７ブロック石器分布図

出土石器は、ナイフ形石器９点、使用痕のある剥片５点、剥片66点（内折剥片46点）、石刃12点（内折石刃７点）、砕片28点で合計120点である。接合資料は２例認められ、本ブロック折石刃と第３ブロック加工痕のある剥片、本ブロックと第６ブロック折剥片の接合資料である。個体別資料は23個体あり、全て黒曜石個体である。

**第６ブロック**（第78図）

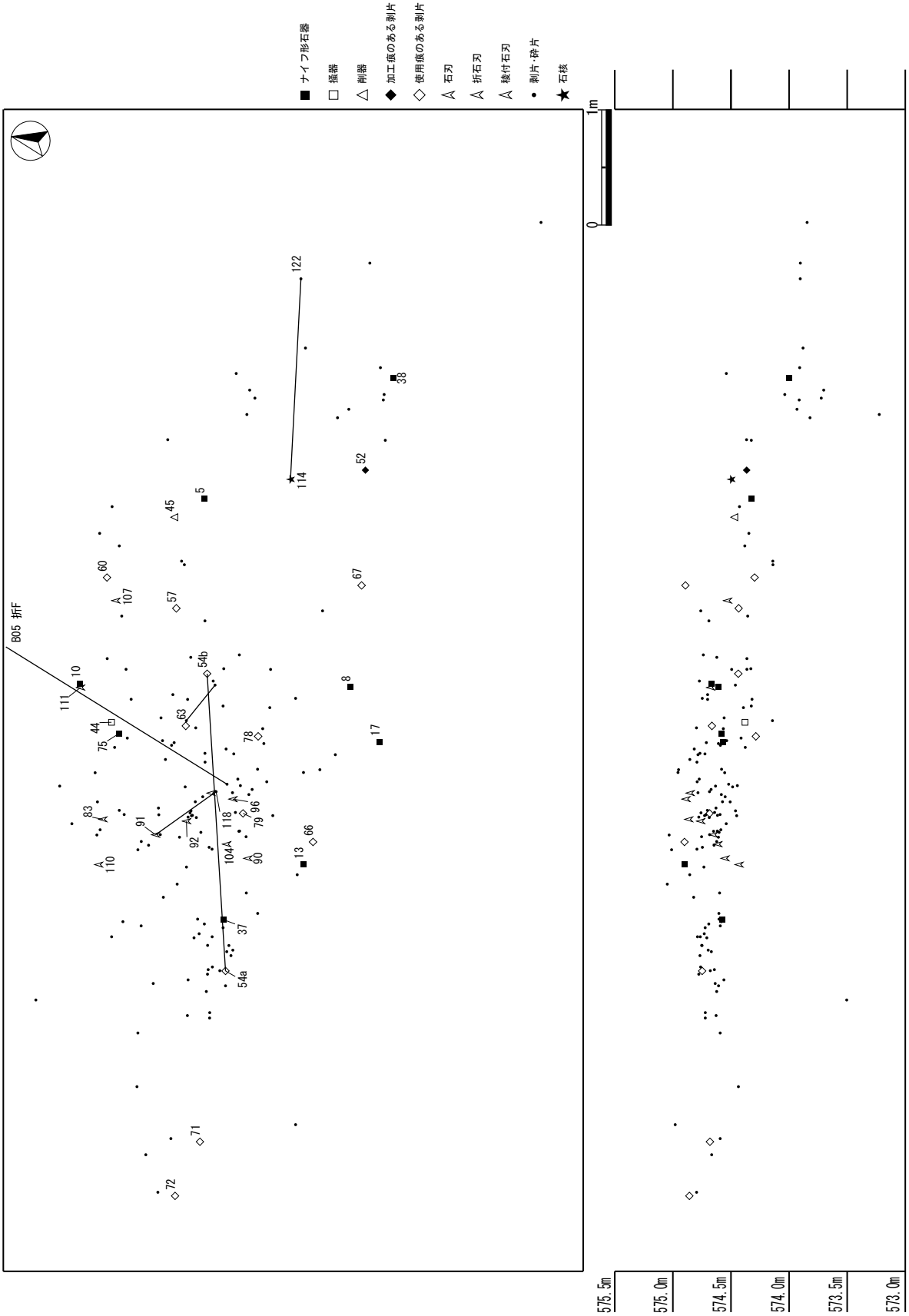
本ブロックはM－15・16グリッドで確認され、調査範囲の中央部に位置している。北に第２・３・４・５ブロック、東に第７ブロック、西にブロック外出土石器１、南に第８ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径9.1m、短径3.3mで、東西に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲の西寄りにやや集中している。垂直分布は、標高573.225mから575.049mであり、高低差は182.4cmである。層位はZN－１～YLL層である。

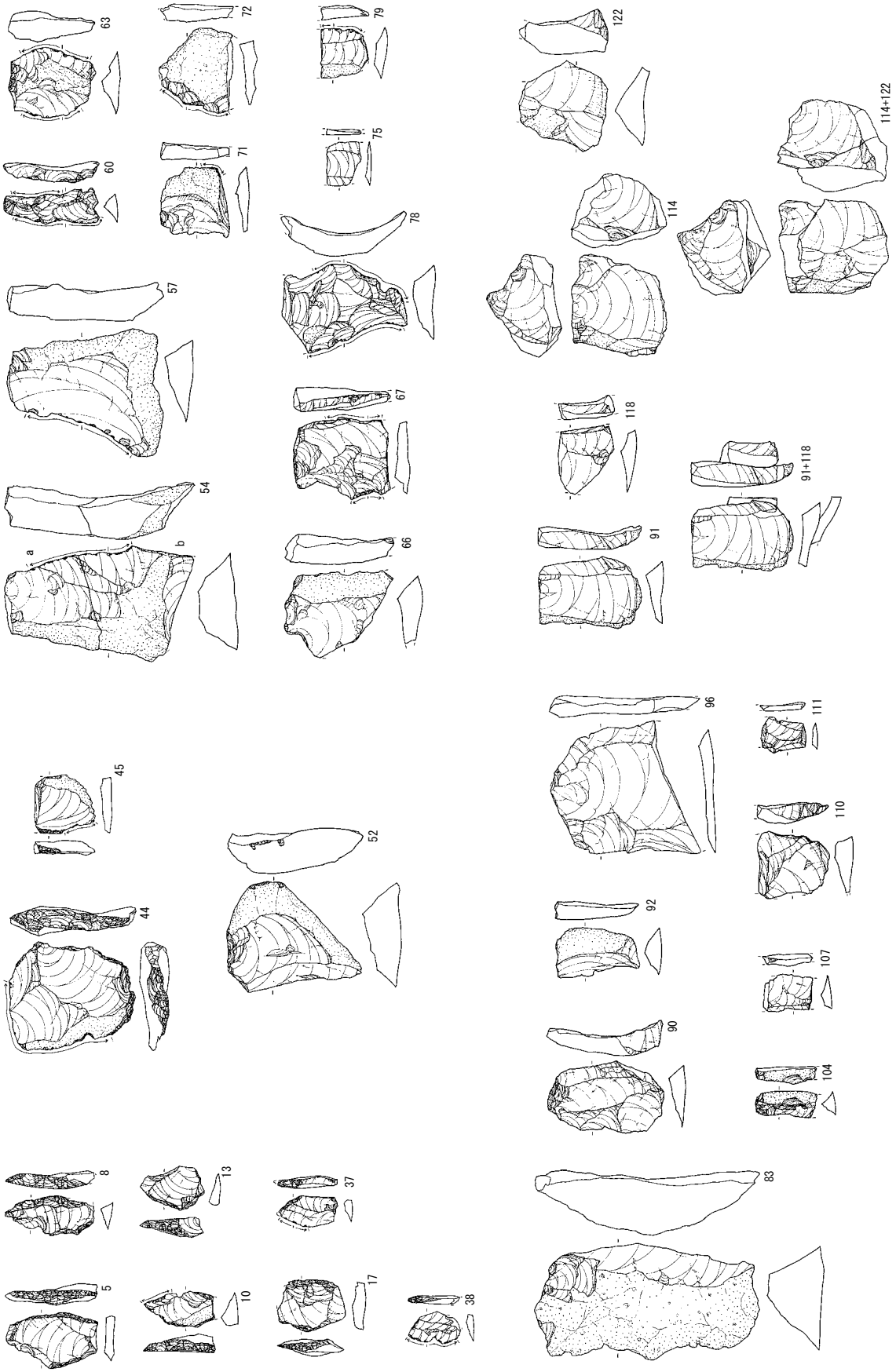
出土石器は、ナイフ形石器７点、掻器１点、削器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片12点、剥片100点（内折剥片67点）、石刃９点（内折石刃４点、稜付石刃１点）、石核１点、砕片37点で合計169点である。接合資料は５例認められ、他ブロックとの接合は第５ブロック折剥片の接合資料である。その他４例は本ブロック内の接合資料で、折剥片の接合資料２例、使用痕のある剥片１例、石核と剥片との接合例である。個体別は31個体あり、安山岩２個体、黒曜石29個体である。

**第７ブロック**（第77図）

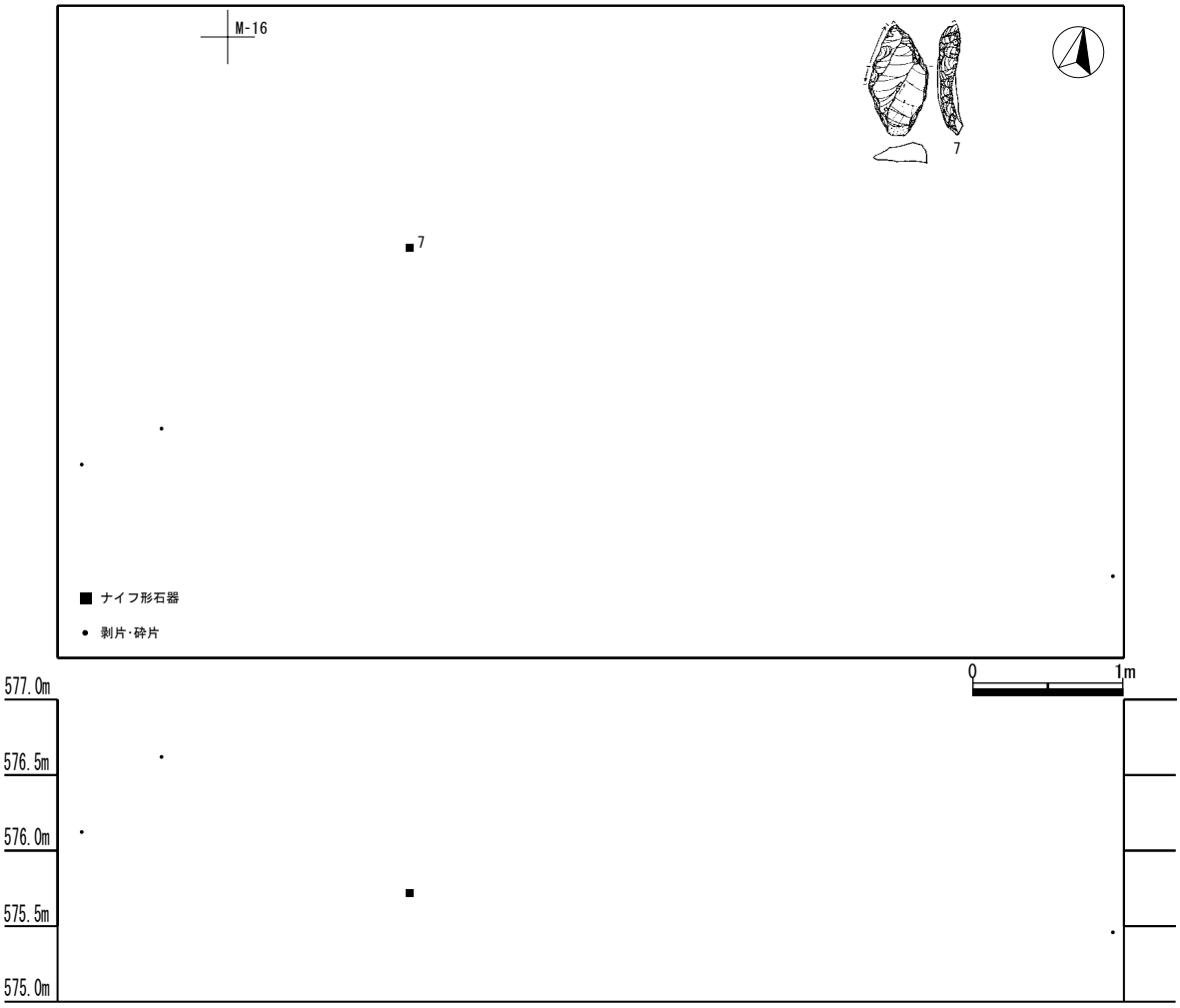
本ブロックはM－17グリッドで確認され、調査範囲のほぼ中央部に位置している。北に第２・３・４・５ブロック、西に第６ブロック、南に第８ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径1.9m、短径1.0mで、平面形は楕円形を呈している。石器の分布状況は散漫である。垂直分布は、標高573.268mから573.909mであり、高低差は64.1cmである。層位はZN～YLU層である。

出土石器は、ナイフ形石器２点、剥片２点で合計４点である。接合資料は認められない。個体別資料は４


■ ナイフ形石器
□ 掻器
△ 削器
◆ 加工痕のある剥片
◇ 使用痕のある剥片
人 石刃
人 折石刃
人 穂付石刃
• 剥片・砕片
★ 石核
1m
0
B05 折F
575.5m
575.0m
574.5m
574.0m
573.5m
573.0m




第78図　第19次調査第Ⅱ文化層第６ブロック石器分布図




第79図　第19次調査第Ⅱ文化層第８ブロック石器分布図

個体あり、全て黒曜石個体である。

**第８ブロック**（第79図）

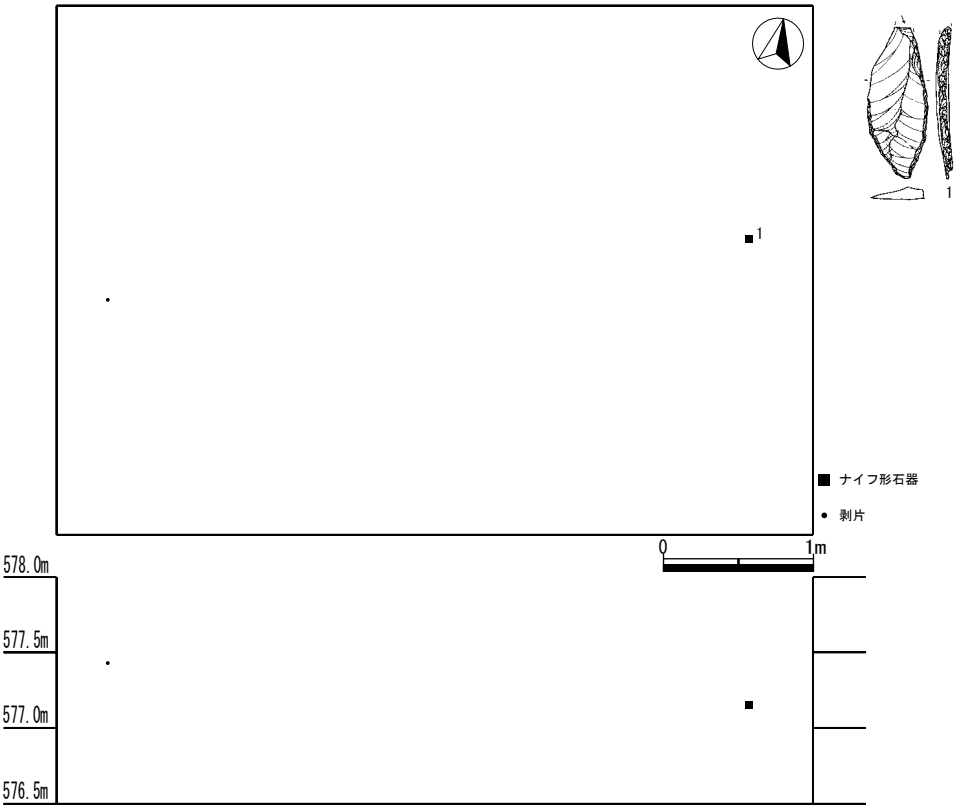
本ブロックはＬ－15・16グリッドで確認され、調査範囲の中央部の南寄りに位置している。北に第６・７ブロックとブロック外出土石器１、西に第10・11ブロックとブロック外出土石器２、南に第９ブロックが隣接している。石器分布範囲の規模は、長径6.8m、短径2.2mで、東西に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲全体に散在している。垂直分布は、標高575.460mから576.260mであり、高低差は80.0cmである。層位はZN～YLM層である。

出土石器は、ナイフ形石器１点、剥片３点（内折剥片１点）で合計４点である。接合資料は認められない。個体別資料は４個体あり、全て黒曜石個体である。

**第９ブロック**（第80図）

本ブロックはＬ－15グリッドで確認され、調査範囲の中央部南端部に位置している。北に第８ブロック、西に第10・11ブロック、ブロック外出土石器２が隣接している。本ブロックは２点の石器が4.2m隔てて出土している。垂直分布は、標高577.156mから577.432mであり、高低差は27.3cmである。層位はZN層である。

出土石器はナイフ形石器１点、折剥片１点で合計２点である。個体は２個体で、全て黒曜石個体である。接合資料は認められない。




第80図　第19次調査第Ⅱ文化層第９ブロック石器分布図

**第10ブロック**（第81図）

本ブロックはＬ－14・15グリッドで確認され、調査範囲の南西端部に位置している。北にブロック外出土石器２、東に第８・９ブロック、西に第10ブロックがある。石器分布範囲の規模は、長径4.9m、短径3.8mで、平面形は楕円形を呈している。石器は分布範囲全体に散在している。垂直分布は、標高578.042mから579.379mであり、高低差は133.7cmである。層位はYLM層である。

出土石器は、ナイフ形石器２点、加工痕のある剥片１点、剥片10点（内折剥片３点）、砕片３点の合計16点である。接合資料は認められない。個体別資料は11個体あり、全て黒曜石個体である。

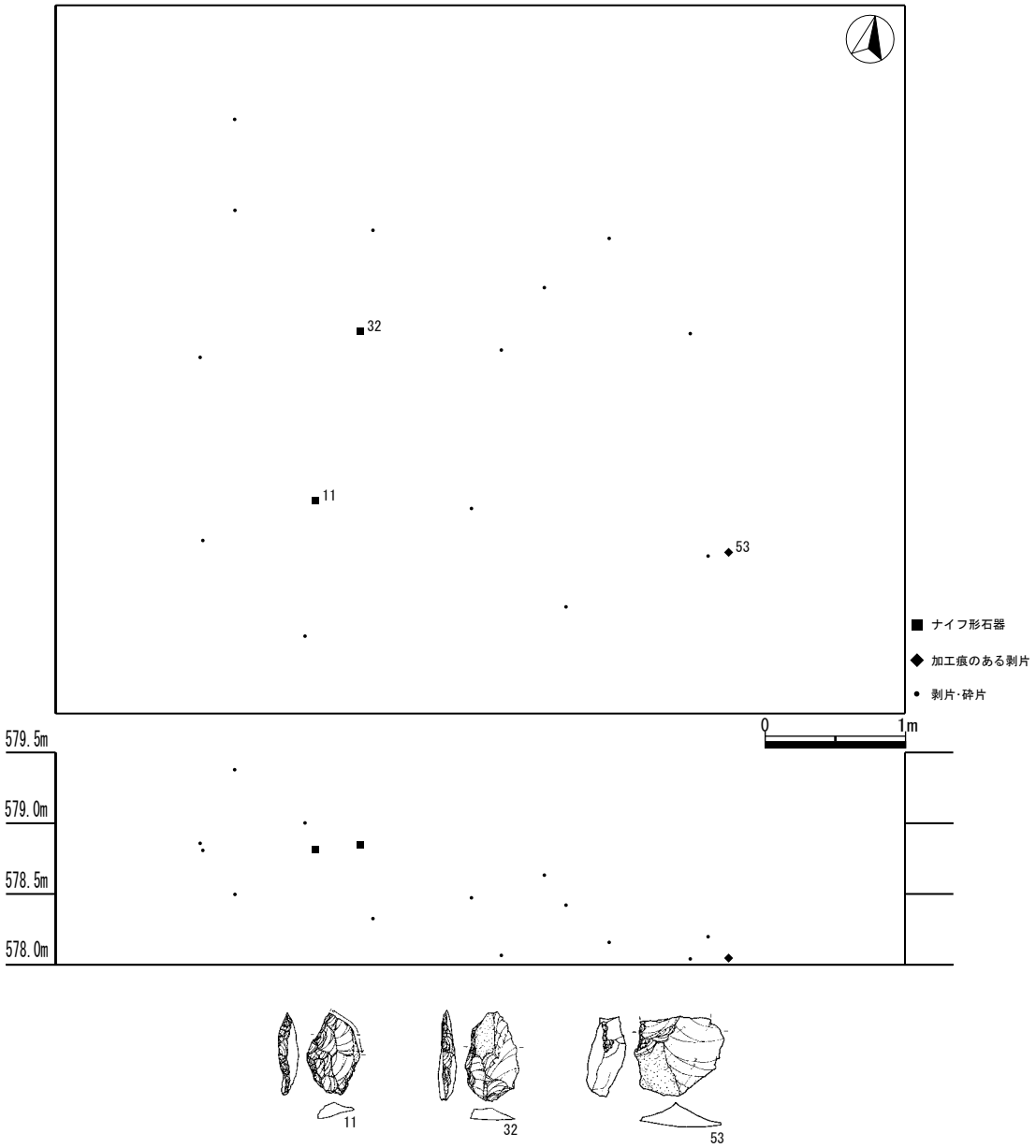
**第11ブロック**（第82図）

本ブロックはＫ・Ｌ－14グリッドで確認され、調査範囲の南西端部に位置している。東に第10ブロック、北にブロック外出土石器２が隣接する。石器分布範囲の規模は、長径5.8m、短径3.4mで、南北に長い楕円形を呈している。石器は分布範囲全体に散在している。垂直分布は、標高578.956mから579.952mであり、高低差は99.6cmである。層位はZN～YLM層である。

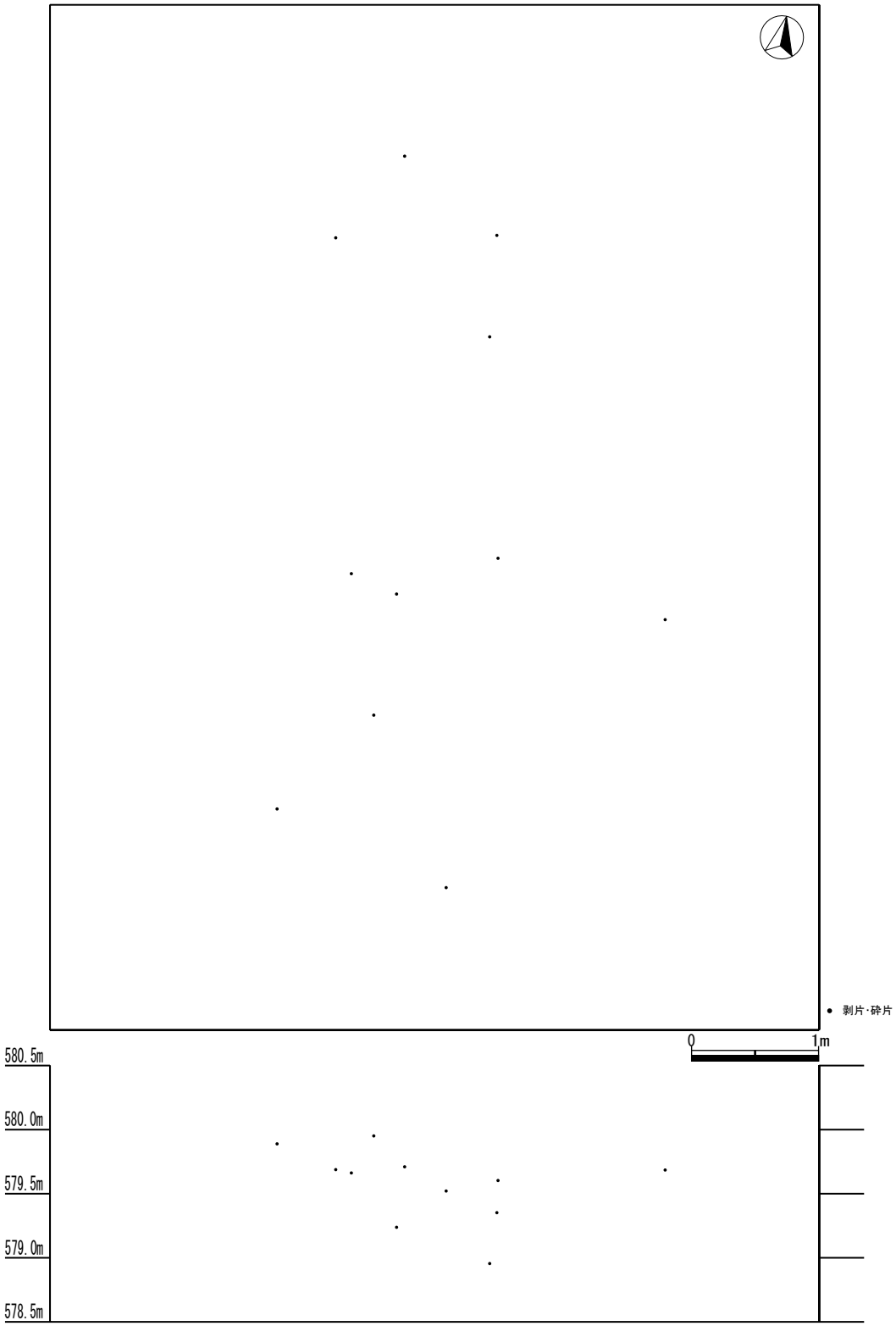
出土石器は、剥片11点、（内折剥片３）である。接合資料は認められない。個体別資料は８個体あり、ホルンフェルス１個体、黒曜石７個体である。

**ブロック外の石器**（第72図）

前述した11箇所の石器ブロックのほかに、２点のブロック外出土石器がある。ブロック外出土石器１は調査範囲中央部西寄りＭ－15グリッドにあり、東に第５・６ブロックが隣接する。黒曜石製ナイフ形石器である。第３・５・６・11ブロックと個体別資料を共有する。ブロック外出土石器２は調査範囲の南西部Ｌ－14グリッドにあり、南に第10・11ブロックが隣接し、北約10mに第１ブロックがある。黒曜石製折剥片である。第２・３・６・７・10ブロックと個体別資料を共有する。




第81図　第19次調査第Ⅱ文化層第10ブロック石器分布図




第82図　第19次調査第Ⅱ文化層第11ブロック石器分布図

## （２）出土遺物

### １）石　器

第19次調査で確認された第Ⅱ文化層は、11箇所のブロックと２点のブロック外から出土した石器類と、試掘調査で出土した３点の石器の合計725点の石器類で構成されていた。ただ、ブロックの中には調査範囲外に広がる可能性のあるブロック（第１、第11ブロック）があり、さらに今回の調査された範囲外にもブロック群が展開していることも推察される状況にあることから、出土した石器類が全ての石器群を表しているとは断定できないものである。したがって､石器群の全ての組成が確認された訳ではないことは明らかであり、出土した石器類は当該期の石器群の内容の一部であることを念頭において記述していくことにしたい。確認された石器類は、ナイフ形石器（未製品を含む）が44点（欠損面で接合するものがあり、図化は43点)、掻器１点、削器２点、削器＋ノッチ１点、加工痕のある剥片６点、使用痕のある剥片30点（但し、折断面で接合するものがあり、図では29点)、石刃・折石刃31点、石核２点、剥片・砕片608点であり、以上の様な組成から主体的な器種はナイフ形石器であることが理解されるとともに、出土した石器群はナイフ形石器石器群であることが判断されるものである。ただ、これらの石器群が出土した層位は当地方のローム層の最上層である所謂「休場層」の中位から上部であることから、ナイフ形石器石器群の終末期段階の石器群と考えられるものの、当該期に組成されることが一般的な尖頭器の出土が認められなかったことや、３cm前後以下の比較的小形なナイフ形石器が主体的である等の特徴があり、当該期に比定される石器群は個々の遺跡でバラエティが著しいことが推察される状況にある。そして、当遺跡で出土した黒曜石も蛍光Ｘ線による産地同定が行われ、その結果として殆どの黒曜石が箱根の畑宿産であることが同定されている。これも当地方のナイフ形石器石器群の終末期段階の石器群の様相と共通しており、極めて特徴的な石器群が形成されていた。

以下では各器種の特徴を捉えながら、石器群全体の内容を把握していくことにしたい。

**ナイフ形石器**（第83図１～第85図41）

今回の調査によって出土が確認されたナイフ形石器は41点（資料数は42点）であったが、前述したように欠損していた２点が接合したもの（２）や、未製品として理解した２点を含めると資料数は44点を数える。これらのナイフ形石器は、出土した石器群全体の中では約6.08％を示しているにすぎないが、器種として製作されている石器類に限定すれば約91.7％を占めており、本石器群がナイフ形石器の製作、使用に大きく関連した石器群であることが理解されるものである。そして、未製品と考えられる資料の存在からは、ナイフ形石器を遺跡内（ブロック内）で製作していることが推定されることから、ナイフ形石器の器種としての需要が著しく高い石器群であることが推定される状況にあった。そして、ナイフ形石器はそれほど多量に出土している訳ではないものの、多様な形態のものが確認されており、多くのバラエティが存在することが窺えるものであった。したがって、これらのナイフ形石器を第Ⅰ群：二側縁加工のもの、第Ⅱ群：一側縁加工のもの、第Ⅲ：欠損のため形状の不明なもの、に大別し、さらに、これらの中で大きさや形状、あるいは調整状態によって細分していくことにしたい。

なお、第Ⅰ群の二側縁加工のナイフ形石器には、素材の打面や主要剥離面に対して直角に近い状態で形成されていた剥離面を残置し、調整面に代えて側縁を構成しているものが散見されている。この様なあり方は厳密に分類すれば調整面ではないことから、一側縁加工のナイフ形石器の中で分類すべきものかも知れないが、形態的には一側縁加工のナイフ形石器よりも、これらの面を調整面と考えると二側縁加工のものに多くの類似点が認められる形状を示していた。したがって、これらの面は二側縁加工のナイフ形石器の製作に際して意図的に残置し、調整面に見立てて形態が整えられていることが推察されるものであり、これらの面を

調整面に準じるものとして捉え、調整面の代用として理解して、分類の対象に含めたものである。

**第Ⅰ群ｂ類**（第83図１～７）

木葉形を呈する二側縁加工のナイフ形石器で、大きさが５cm以下、３cm以上の中形のものである。なお、大きさが５cm以上の第Ⅰ群ａ類は出土しておらず、１の先端部を欠損する39.8mmが最大のものであった。そして、欠損品については復元値で分類を行っていることを明らかにしておきたい。形態的には幅の狭い柳葉形のものは少なく（３）、幅広の木葉形を呈する例（２・４・５・７）が主体的であった。必然的に鋭い先端部が作製されているもの（３）は少量で、殆どのものは鈍角な先端部が形成されていたが、中には先端部そのものが作製されておらず、素材の末端がそのまま残っているもの（５）も存在していた。これらの素材には石刃（１～３・６・７）や、縦長剥片（４・５）が用いられており、縦長の素材を選択し利用していることが理解される。器体の整形は、素材の一方の縁辺に調整を施しながら形状を改変し、素材の打面側（１・２・７）や、素材の末端側（３～６）に先端部を作製するとともに、もう一方の縁辺の下半分にも調整を加えて基部を作り出している。ただ、この中には前述したように基部の調整面を構成する部位に素材の打面を残置しているもの（４）があり、器体の整形には調整剥離以外の要素も取り入れて行われていることが窺える。調整は、素材の鋭い縁辺を取り除きながら急斜な側縁が形成されており、ブランティング技術が駆使されていることが窺えるが、それぞれの器体では調整状態に相違があり、精粗の差が顕著に認められている。中でも１～３・７は急斜な側縁が形成され比較的丁寧に製作されているが、これらにはブランティング調整を主要剥離面側を打面として施しているもの（１）と、剥離面と主要剥離面の二方向から施しているもの（２・３・７）の別がある。後者のブランティング調整を二方向から施しているものは、器体が比較的厚い例であることや、剥離面側からの調整は頻繁に行われている訳ではなく、全体的には少量が認められているにすぎない等の特徴があり、これらは厚い素材に対して急斜な側縁を作製することに有効であったことと、整形の最終段階で器体を整える時には主要剥離面側を打面として調整することが、一般的であったことが推定されるものである。これらに比べると４～６は粗い調整で器体が作製されているもので、４等は縁辺の凹凸が著しく、未製品の可能性もあるものである。これらも素材の形状を改変し器体が作製されているもの（４・５）が多いが、中には６のように素材の鋭い縁辺を取り除く様な比較的簡単な調整で、先端部と側縁を作製しているものもあり、調整状態はそれぞれで相違が認められる状況である。これらもブランティングによって整形されていたが、全ての調整を主要剥離面側から施されていたもの（５）と、剥離面、主要剥離面の双方から施されているもの（４・６）が認められている。中でも４では粗い調整が双方から施されている例で、その後に凹凸の著しい縁辺を取り除くように細かな剥離を加えて整形されているが、全体的に粗い加工で製作されているものである。６の右側縁では、先端部を主要剥離面からの剥離で形成されていたが、基部では剥離面側からの調整が施されているもので、しかもその一部には素材の縁辺を抉り取るような大きな剥離が施されており、基部の幅を狭めようとしていることが推察されるものである。この右側縁に比べると左側縁の調整は簡単なもので、素材の縁辺を除くような細かな剥離で整形されていた。このように基部作製のために両側縁に調整が施されているものが多いが、その調整が基端に及んでいるものは認められず、素材の打面が残置されているもの（３～５）や、素材の縁辺が残っているもの（１・２・７）があり、基端の形状を一定にしたり、整えるようなことは必要ではなかったことが窺えるものである。但し、あまり丁寧とは言えない調整ではあるが基部の主要剥離面側に面的剥離が行われているもの（７）があり、器体の湾曲や反りの修正のためか、あるいは基部の厚さを減じるために調整を施すことがあったことを推察することができる。

なお、１・４～７の刃部には、使用によって生じたと思われる細かな剥離が認められており、先端から刃

部にかけてが機能部であったことが推定できるものである。そしてこの中には、刃部の表裏面に著しい剥離が生じているもの（７）があり、使用頻度が高いものか、或いは激しい使用法で利用されたものが存在していたことが推察されるものである。

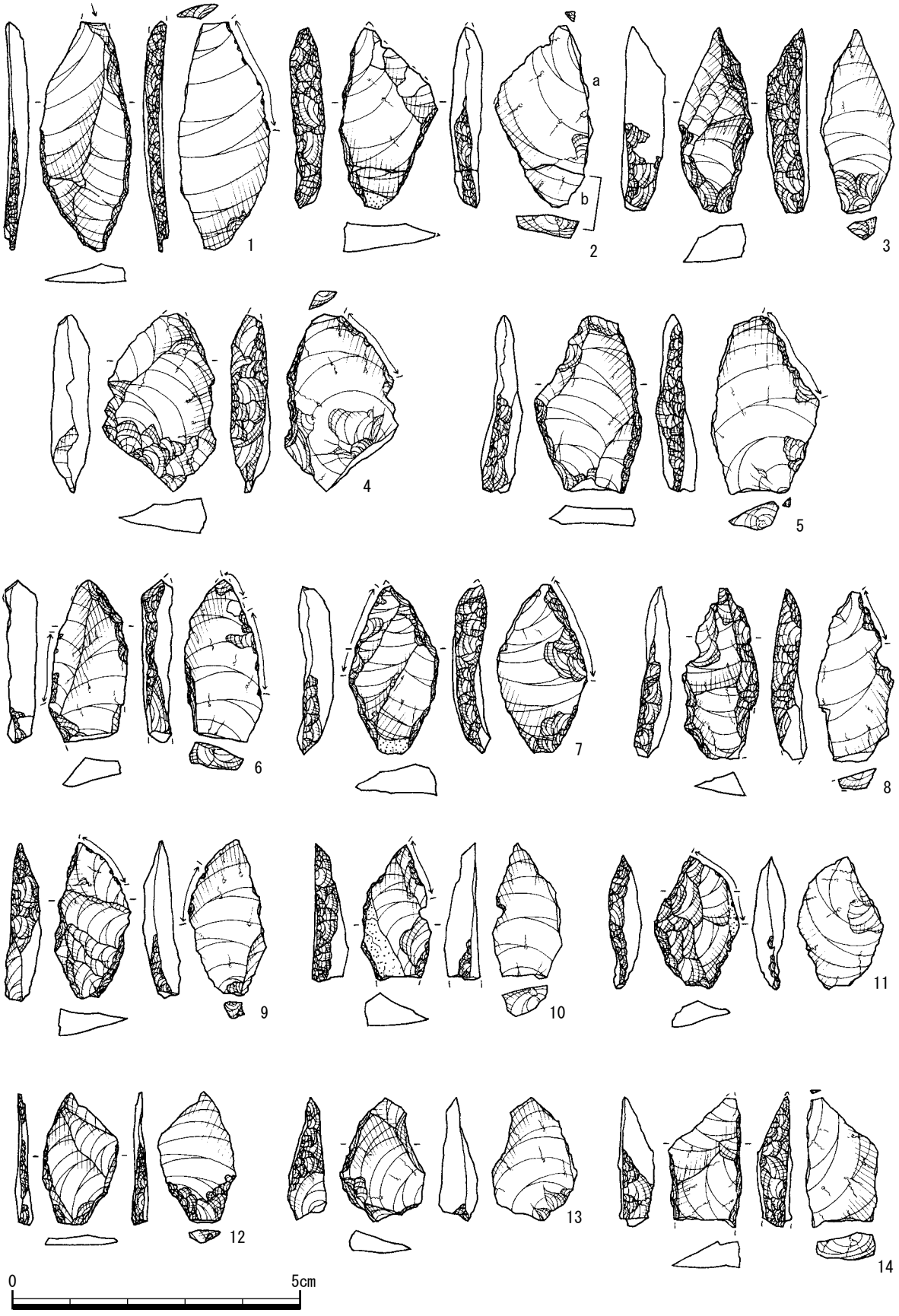
**第Ⅰ群ｃ類**（第83図８～13）

３cm以下の大きさの、小形の二側縁加工のナイフ形石器を本類とした。６点が確認されたが、これらもｂ類と同様に幅広の器体が製作されているものが多く、必然的に鋭い先端部が形成されているもの（10）は少ない状況にある。これも素材の打面側に先端部を作製しているもの（８・11）と、末端側に先端部を作製しているもの（９・10・12・13）があり、素材の利用方法は限定されていなかったことが窺える。素材は石刃と思われるもの（10）は僅かで、縦長剥片のもの（８・９・12・13）が殆どであったが、中には横長剥片製のもの（11）も確認されている。第Ⅰ群ｂ類と同じように、両側縁の一方の側縁に調整を施して先端部が形成されるとともに、もう一方の側縁の下半分ほどにも調整を加えて基部が作製されている。これらに施されていた調整の多くはブランティング調整で、急斜な側縁が形成されているものが殆どであったが、中にはブランティング調整より角度の小さい調整で､削器の刃部のような角度の粗い調整が施されているもの（８・11）や、側縁の調整が飛び飛びで、一部に素材の縁辺が残っているもの（12）等があり、調整状態はそれぞれの器体で相違のあるものとなっている。ブランティングは、多くの剥離が主要剥離面を打面として施されていたが、８・９・13の一部には剥離面側からの調整も加えられており、調整方向を限定することなく器体の製作が行われていることと、第Ⅰ群ｂ類と同様に比較的厚手のものに施されている傾向があることから、厚手の部分を急斜に調整しようとする意図は第Ⅰ群ｂ類と共通していることが推察できる。ただ、総じて基部を構成する調整は、素材の鋭い縁辺を取り除くような細かな剥離が加えられているものが多く、基部の整形はそれほど入念に行われていなかったことが窺える。中でも先端部を形成する側縁の反対側の側縁が顕著で、９～11・13などは素材の縁辺に沿って細かな剥離を加えている程度で、素材の形状を改変するような調整は施されていない可能性の高い例である。しかし、これらに反して先端部を形成する側縁の方に簡単な調整を施し、もう一方の側縁には入念な調整を加えているもの（12）があり、素材や器体の状態によって調整方法を変えていることが推察できる例である。これらも基端に調整を施しているものは無く、素材の打面が残っているもの（９・12）、折断面で構成されているもの（８）、素材の縁辺が残っているもの（11）、弾けた打面部の縁辺がそのまま残っているもの（13）等があり、基端は未調整であることが通例なようである。このように器体の調整は殆ど両側縁に限られていたが、唯一12の基部には両側縁から粗い面的剥離を主要剥離面側に施しており、素材の打瘤部の除去か、或いは基部の厚さを減らすような調整が行われているものも存在していた。

前述したように素材に石刃を利用しているもの（10）は僅かで、剥片剥離方向が一定しない縦長剥片や横長剥片を素材としているものが大多数を占めている状況にあった。このことは、石刃以外の形状の素材でもナイフ形石器の製作が推進されていることに他ならず、相対的に石刃の素材としての必要性が著しく低下している可能性が高いことが推察されるものであった。なお、８～11の刃部には、使用痕と思われる微細な刃こぼれが観察されている。

**第Ⅰ群ｄ類**（第83図14・第84図15）

所謂「切出形石器」や「台形石器」に類似する形態のもので、３cm以上の大きさの例である。本類においても、基本的に素材の一方の縁辺に調整を施すことによって先端部が作製され、もう一方の縁辺の下半分




第83図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（１）

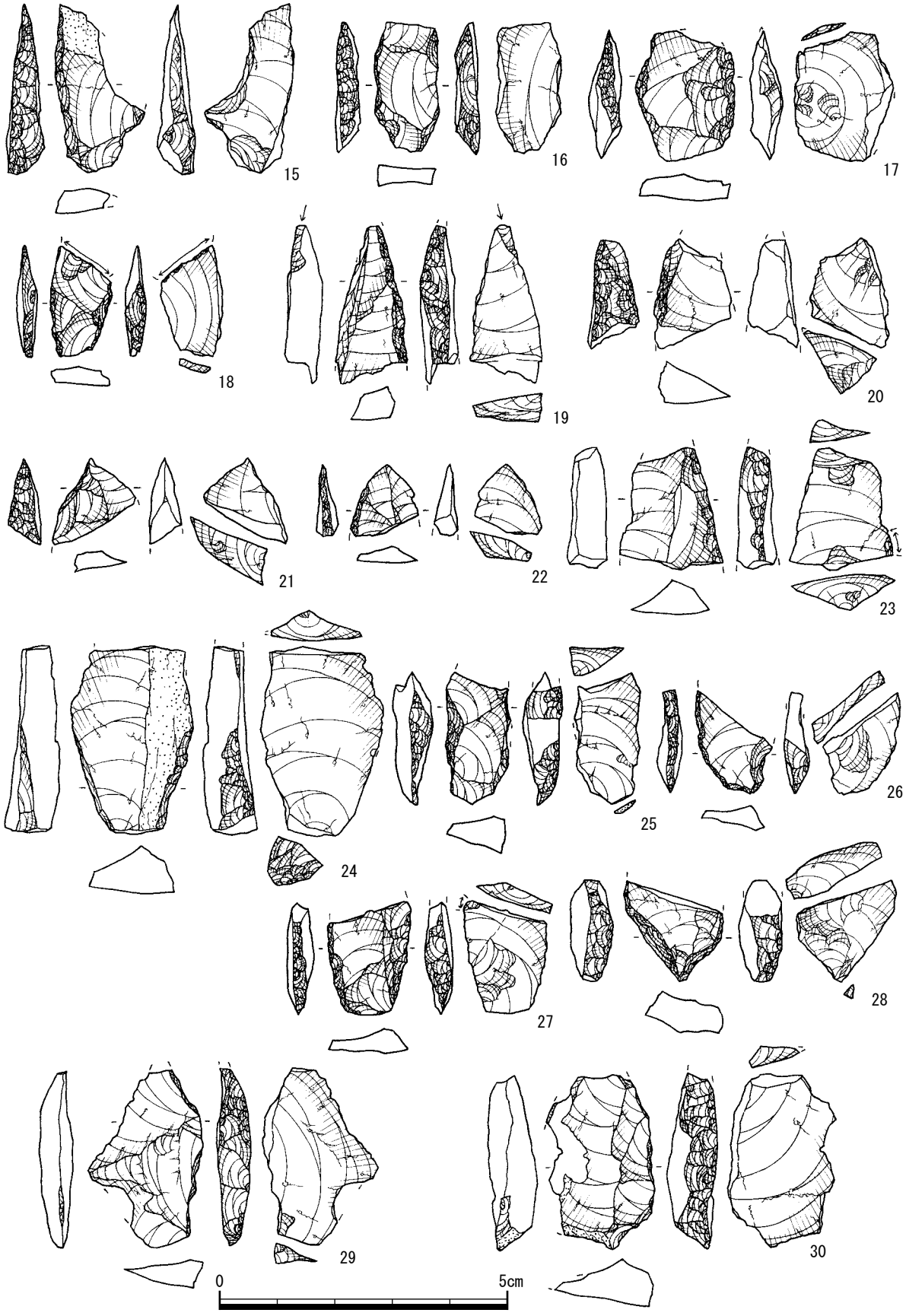
に調整を加えて基部が形成されているが、形態的特徴の必然から素材には横長剥片が用いられており、縦長の石刃や縦長剥片が主体的であった第Ⅰ群ｂ・ｃ類とは、素材形状の選択に大きな相違があることが理解されよう。調整はブランティングで、急斜な側縁が形成されているもの（14）と、やや粗い鋭角な側縁が作製されているもの（15）があり、個々で調整状態に相違のあるものであった。ブランティングの多くは主要剥離面側から施されていたが、14の右側縁では先端部を剥離面側から、基部を主要剥離面側から調整しており、部位によって剥離方向が違っていた。これに対し、15では先端部を構成している左側縁は全ての調整を主要剥離面から施していたが、右側縁では主要剥離面と剥離面の二方向からの調整が認められており、調整状態や部位は多様で、一定した様相を示していないことが窺えるものであった。そして、この様なブランティング調整によって器体が製作されているが、14のようにほぼ平行するような両側縁が形成されていたり、15の主要剥離面を見ると素材の末端から右側縁にかけて欠落していることが推察されることから、本類の製作には素材を大きく改変することが通例であったことが理解されるものである。15の基部の主要剥離面には面的剥離が認められるが、剥離は一枚だけであり、その調整目的は不明である。

**第Ⅰ群ｅ類**（第84図16～18）

所謂「切出形石器」や「台形石器」に類似する形状のもので、３cm以下の大きさの例である。３点が確認されているが、この内の17では前述したように素材の打面を残して右側縁を構成させており、調整によって側縁を作製していないものが存在していることが理解される。これに対して他の２点は、両側縁を調整によって形成されていたが、中には左側縁の先端部側に素材の末端を折り取ったような折断面で構成されているもの（18）や、素材の縁辺を大きな剥離で抉るように調整し、側縁が作製されているもの（16の右側縁）があり、それぞれの調整状態は多様であることが窺えるものであった。これら以外の調整は、主要剥離面側から細かなブランティングを急斜な状態で施していたが、17は他の２点に比べると粗い調整で、側縁も整った形状には整形されていなかった。そして、18の基部の左側縁側では剥離面からのブランティング調整が認められており、器体の大小に関わりなく主要剥離面、剥離面双方からの調整が行われていることが判断されることから、素材の大きさや厚さに関係なく二方向からの調整が加えられていたことが理解されるものである。本類は、上端に刃部が形成される形態的特徴から、必然的に素材の打面側と末端側にナイフ形石器の両側縁が形成されるここととなり、素材としては横長剥片や方形に近い形状の剥片等が利用されていることが予想されるものである。調整は両側縁に限られ、主要剥離面は未調整である。18の刃部には、使用の痕跡と思われる微細な刃こぼれが認められている。

**第Ⅰ群ｆ類**（第84図19～28）

第Ⅰ群に分類される二側縁加工のナイフ形石器の欠損品と思われるものを一括した。これらは先端部（19～22）、中央部（23）、基部（24～28）に別れるが、これらの中には簡単な調整で作製されているもの（22）もあり、未製品の可能性があるものも含まれている。これらの中にも、素材の主要剥離面に対して急斜な状態で形成されていた剥離面を残し、調整面に替えて機能させていると考えられるもの（24・28）が存在しており、この様な面の利用方法は当該期の石器群では通例であることが理解されよう。先端部の19～22の中で、比較的鋭い先端が作製されている19を除くと鈍角な先端を持つもの（20～22）が主体的であったが、この様な状況は第Ⅰ群ｂ・ｃ類の状態と類似しており、形態的な特徴の矛盾は感じられない。施されている調整はブランティングであったが、中には急斜な粗いブランティングが施されているもの（19・20）、細かい簡単なブランティングが加えられているもの（22）、急斜で丁寧なブランティングが施されているもの（21）が




第84図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（２）

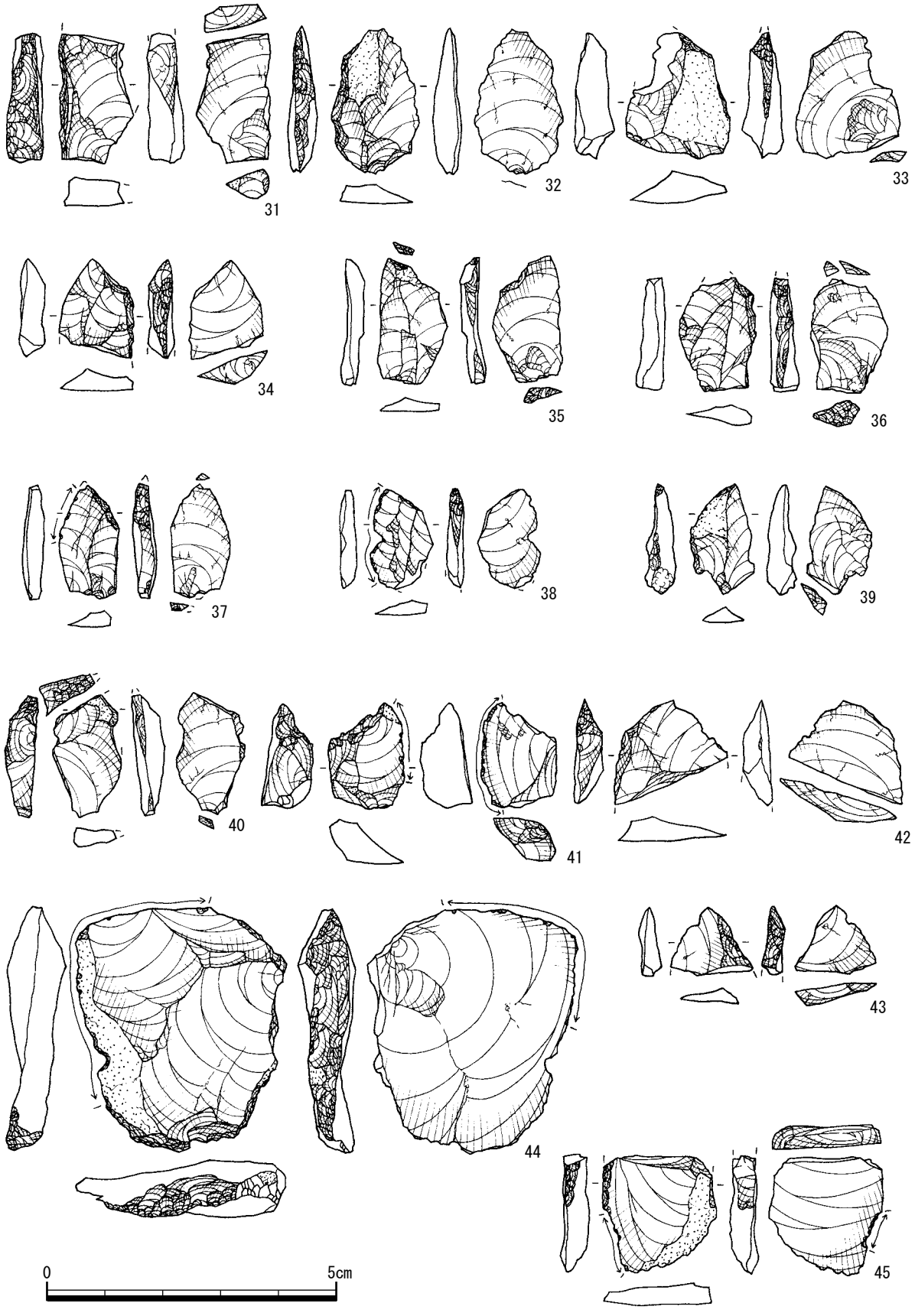
あり、多様な調整状態を示していた。21・22では、全てのブランティングは主要剥離面側から施されていたが、19・20では主要剥離面と剥離面の両方向から施されており、調整方向は限定されていなかったことが判断されよう。素材には石刃（19）や縦長剥片（20・22）が利用されていると思われるが、欠損品のため、明確には推定できない。なお、19の先端部から左側縁の刃部にかけて衝撃剥離と考えられる剥離が生じており、刺突具として利用された可能性があるものである。主要剥離面は未調整であった。

23はナイフ形石器の中央部片である。石刃か縦長剥片を素材として、右側縁に調整を施しているが、調整は粗く、やや鋭角な側縁となっており、急斜な状態には整形されていない例である。調整は全て主要剥離面側から施されていた。刃部の主要剥離面側には使用痕と思われる刃こぼれが認められており、ナイフ形石器として使用された後に欠損した可能性の高いものである。

24～28は基部片で、過半数のものは両側縁に調整を施して整形されていたが、前述したように左側縁側に主要剥離面に対して直角に近い角度の剥離痕が存在しており、これを調整面として代用して器体が整えられていたと考えられるもの（24・28）がある。調整は素材の鋭い縁辺を除くような簡単な剥離で行われているものが多く、入念に急斜な側縁が作製されているのは24・25・28の右側縁に認められる程度であった。25の左側縁や27の両側縁では、素材の縁辺を取り去るような比較的簡単な調整が施されており、やや鋭角な側縁が形成されていた。26も素材の縁辺に沿って簡単な調整を施して左側縁が形成されていたが、素材の打面部にあたる右側縁では抉るような剥離で調整されており、肥厚する打瘤部の形状を改変するのは難しかったことが窺えるものである。この様に、調整の中にはブランティングとは言えないような簡単な剥離が施されているものも存在していたが、全ての調整は主要剥離面側から行われており、先端部では主要剥離面、剥離面双方から調整されているものが散見される状態とは相違するものであった。この様な相違は、機能部である先端部をより丁寧に作製する意図があり、その過程で調整方向を移動することによってより急斜な側縁が製作されていたことが推定される状態とは異なり、基部では器体を整える程度の比較的簡単な調整で加工作業を終了していたことが推察できることから、部位によっては調整状態に精粗の違いがあったことが窺えるものと思われる。24・28の基端には素材の打面の一部が残り、25・27では素材の縁辺が残っており、基端に調整を施しているものは26だけであった。したがって基端の整形も、前述した基部の両側縁の調整と同様に、基部を整形する程度の簡単な調整で終了していることが推察されることから、基部の調整は簡略化される傾向にあることが予想されるものである。これらの素材に利用されているものは、石刃（24）や、縦長剥片（27・28）等の縦長素材の他に、横長剥片と思われるもの（25・26）もあり、素材の形状が限定されていなかったことが理解されよう。５点とも、主要剥離面に調整は施されていない。

**第Ⅱ群ａ類**（第84図29～第85図31）

３cm以上の大きさの所謂「一側縁加工」のナイフ形石器で、一側縁のほぼ全縁に調整を施しているものである。３点が確認されたが、ともに欠損箇所が存在するため全体的な形状は明確ではないものである。29は横長剥片を素材とし、素材打面に調整を施して右側縁としたもので、先端を調査時に欠損する。調整は粗いブランティングで、基部では主要剥離面側から、先端部は主要剥離面と剥離面の両方向から施されており、粗い調整にも関わらず急斜な側縁が形成されていた。そして、基部側、先端部側ともに直線的に調整され、逆くの字状の側縁が製作されていたが、この様な状態からは先端部の製作は意図されていたと思われるが、基部の整形が行われていたかは明確には捉えられないものであった。なお、基端には右側縁からの剥離が認められているが、これが調整なのか、欠損なのかは判断がつかなかった。30は先端部と刃部の大部分（調査時）を欠損するもので、右側縁のほぼ全縁に調整を加えて製作されているものである。素材は厚手幅広の石




第85図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（３）

刃で、これの右側縁に主要剥離面側から調整を施して整形されており、素材を大きく改変している可能性の高い例である。ただ調整は丁寧なブランティングで、素材に対して斜めに加工して急斜な側縁が作製されていたが、先端部を欠損するため、この側縁の延長で鋭い先端が作製されていたのか、側縁を湾曲させて鈍角な先端が作出されていたかは明確ではない。本例も基部を意識して作製している可能性は低く、右側縁の末端をやや内湾させた調整が認められるものの、基端には素材の鋭い縁辺が残されている状態であった。31も先端部と刃部を欠損しており、全体的な形状は不明のものである。調整は、左側縁側に直線的に施されており、素材を大きく改変している可能性の高い例である。これらの剥離の大きさはまちまちで、それほど丁寧に施されてはいなかったが、急斜な側縁が全て主要剥離面側からの調整で作製されていた。基端には素材の打面の一部が残っており、基端を調整する意図はなかったことが窺える。29～31の３点には、主要剥離面に調整は施されていなかった。

**第Ⅱ群ｂ類**（第85図32・36・37）

３cm以下の大きさの所謂「一側縁加工」のナイフ形石器で、一側縁のほぼ全縁に調整を施しているものであるが、この中には素材に形成された剥離面（主要剥離面に対して直角に近い角度を持つ）を調整面として代用していると考えられるもの（37）がある。３点が確認されたが、共に調整は粗い簡単なもので占められており、入念に調整を行っている様子は認められない例であった。それらは素材の縁辺に沿って施されているようで、一部には素材の形状を大きく改変している可能性のあるもの（36）もあるが、素材の形状を利用して器体が整えられているのが通例の様であった。調整は全て主要剥離面側から施され、素材の鋭い縁辺を抉り取るような大きな剥離（32・36）に細かい調整を加えて行われており、素材を大きく改変して思い通りの形状に作製するような大掛かりな調整は行っていないようである。したがって、目的となるナイフ形石器の大きさに近い素材を選択し、これに簡単な調整を施して製作されていることが推定されることから、ナイフ形石器の製作作業は形態によって違い、多様なことが理解されるものである。36・37は先端を欠損しているが、この内の36には鈍角な先端が作製されていたことが推定されるものであったが、これら以外の32には明確な先端が作出されておらず、素材の縁辺がそのまま残っている例であった。この様な例は未製品の可能性もあるものの、ナイフ形石器の中には先端が絶対的に必要でないものも存在していたことが推定されることから、ナイフ形石器の形態も多様な様相を呈していることが窺えよう。３点とも素材末端側を先端部として加工しており、必然的に基部側に素材打面が位置し、そのままの状態で残っており、基部の調整は行われなかったことが明らかであった。そして、主要剥離面にも調整は施されておらず、調整は一方の側縁だけに限られて器体が製作されていることが理解されるものであった。37の刃部には、使用痕と考えられる微細な剥離が認められている。

**第Ⅱ群ｃ類**（第85図33～35・38・39）

３cm以下の大きさの所謂「一側縁加工」のナイフ形石器で、一側縁の半分程に調整を加えるとともに、素材を斜めに調整して先端部が作製されているものである。これらも簡単な調整で製作されているもの（33・35・39）が過半数を占めていたが、中には素材の打面を取り除いて先端部を作製しているもの（34・38）もあり、調整範囲は広くないものの比較的丁寧に製作されているものも存在していた。ただ、前者の中には素材の末端部に数回程度の調整を施しただけで先端部を作製し、側縁は素材の縁辺を折り取るような折断面で構成しているもの（35）や、先端部と同様に数回の細かな調整が施されているもの（39）があり、これらのナイフ形石器の中には、素材の形状を生かした調整が行われているものが存在していることが理解されよう。

33は刃部を欠損するが、縦横の長さが同程度の剥片の末端に先端部を作製し、左側（図では右側縁）の縁辺に調整を加えて製作されているもので、細かい簡単な調整ではあるが急斜な状態に作出されている。これらの調整の中で、35に認められた折断面以外の調整は全て主要剥離面から施されており、ナイフ形石器の調整技術であるブランティングの作業状態と共通するあり方ではあるが、33の先端部以外はブランティングと考えるのは躊躇するような細かな剥離で調整されており、ブランティング以外の簡略化された技術が用いられることもあったことが推察できる。34は素材の打面部を抉り取るような調整に細かなブランティングを施して先端部が作製されているもので、基部を欠損する。一応側縁の調整範囲から本類に含めてあるが、３cm以上の大きさである可能性もあるものである。前述したように調整の大きさは多様であるが、比較的丁寧に主要剥離面から施されており、急斜な側縁と鈍角な先端が作製されていた。38は基端の一部を欠損するが、本遺跡で確認された中では最も小形の一側縁加工のナイフ形石器である。調整は右側縁に素材の縁辺を折り取るような調整を施し、これに斜めに接続するように主要剥離面、剥離面双方より細かなブランティングを加えて、鈍角な先端部が作製されている。ブランティングは急斜な状態に施されており、小形と言えども丁寧に作製されていることが窺える例である。これら５点とも、主要剥離面には調整は施されていなかった。そして、素材末端側を先端部に加工している33と35、及び気泡部によって打面が弾け飛んでいる39では、基端は未調整で素材の打面や縁辺がそのまま残っていた。この様な状態は素材打面側を先端部とした38も同様で、素材の縁辺がそのまま残った状態で加工されていた。したがって、本類も第Ⅱ群ａ・ｂ類と同様に、基部の作製や調整を行った形跡を認めることができない状態であり、基本的には第Ⅱ群の基部は未調整であることが通例のようである。

なお、これらの素材になっていたのは小形の石刃（34・35・38）や縦長剥片（39）、及び方形に近い剥片（33）で、総じて縦長の素材が選択されていることか窺えることから、一側縁加工のナイフ形石器には縦長の器体が求められていたことが推察できるものと思われる。また38の刃部には、刃こぼれと思われる微細な剥離が観察されており、何らかの使用の痕跡と推察されるものである。

**第Ⅱ群ｄ類**（第85図40・41）

素材の一部を横切るような調整を施して先端部を作製している「一側縁加工」のナイフ形石器で、２点が確認されている。40は縦長剥片の末端と右側縁に調整を加えて製作されているが、先端と刃部の一部を欠損するものである。調整の大部分は剥離面側から行われ、主要剥離面からの剥離は僅かに認められるだけであったが、総じて急斜な状態に整形されており、丁寧な調整が施されていた。41は横長剥片を素材とし、その右側縁（図では上端）と素材打面に粗い剥離が施されているもので、ナイフ形石器と認識するのに躊躇したものである。ただ、調整箇所や使用痕の位置等、ナイフ形石器に類似する点のあることから、一応ナイフ形石器に含めておいたものである。調整は粗く、大きな剥離を主要剥離面と剥離面から加えて、素材打面を除去しただけで、左側縁の調整は終了しており、これに細かい剥離を加えて整形するような調整は認められなかった。この剥離に連続するように、粗い剥離を剥離面側から施して先端部が形成されているが、調整面は凹凸が著しく、側縁を形成すると言うよりも先端部の作出に限定されるような調整であった。なお、基端にも主要剥離面側からの調整が認められるが、これが左側縁の調整に連続するものなのかは明らかではなく、しかも基部調整とも考えづらい剥離のため、調整意図の不明のものである。41の刃部には、使用痕と考えられる細かな剥離が観察される。

**ナイフ形石器未製品**（第85図42・43）

２点が確認され、ともに先端部片である。施されている調整は総じて粗く、ナイフ形石器の製作段階で欠損した先端部と考えられるものであり、全体的な形状は明らかではないが、２点とも比較的鈍角な先端部の製作途中であったことが窺える例である。42では左側縁に大きな剥離を施し、これに連続するように細かな調整を加えて先端部が作製されているもので、先端は急斜な状態に丁寧に整えられていた。ただ、丁寧に調整されていたのは先端だけであり、前述したように左側縁では素材の縁辺を取り除くような大きな剥離が認められるだけであることから、先端部の調整から連続するように剥離を施して素材の幅を絞る過程であったことが推定されるものであった。したがって、全体的な調整の中では初期段階であることが理解されることから、目的となる器体は明らかではないものの、今より細身で鋭角な先端であった可能性が高いものと想像することができよう。調整は全て主要剥離面側から施されており、調整部位や打面を移動することなく連続して作業が進められていたことが窺える。43は素材の打面側に先端部が作製されているもので、打面部を折断したと思われる折断面が先端上部に残っている。この折断面を取り除きながら右側縁の調整が施されているが、この調整は粗く、しかも面的調整に近い剥離であることから、先端の折断面の除去とともに鋭角な先端部を作製しようとしていた意図が推察されることから、器体が整えられる前にはブランティング以外の調整方法も駆使されていたことが理解できるものと思われる。なお、この調整は全て主要剥離面側から施されていたが、折断面は剥離面側からの作業であった。

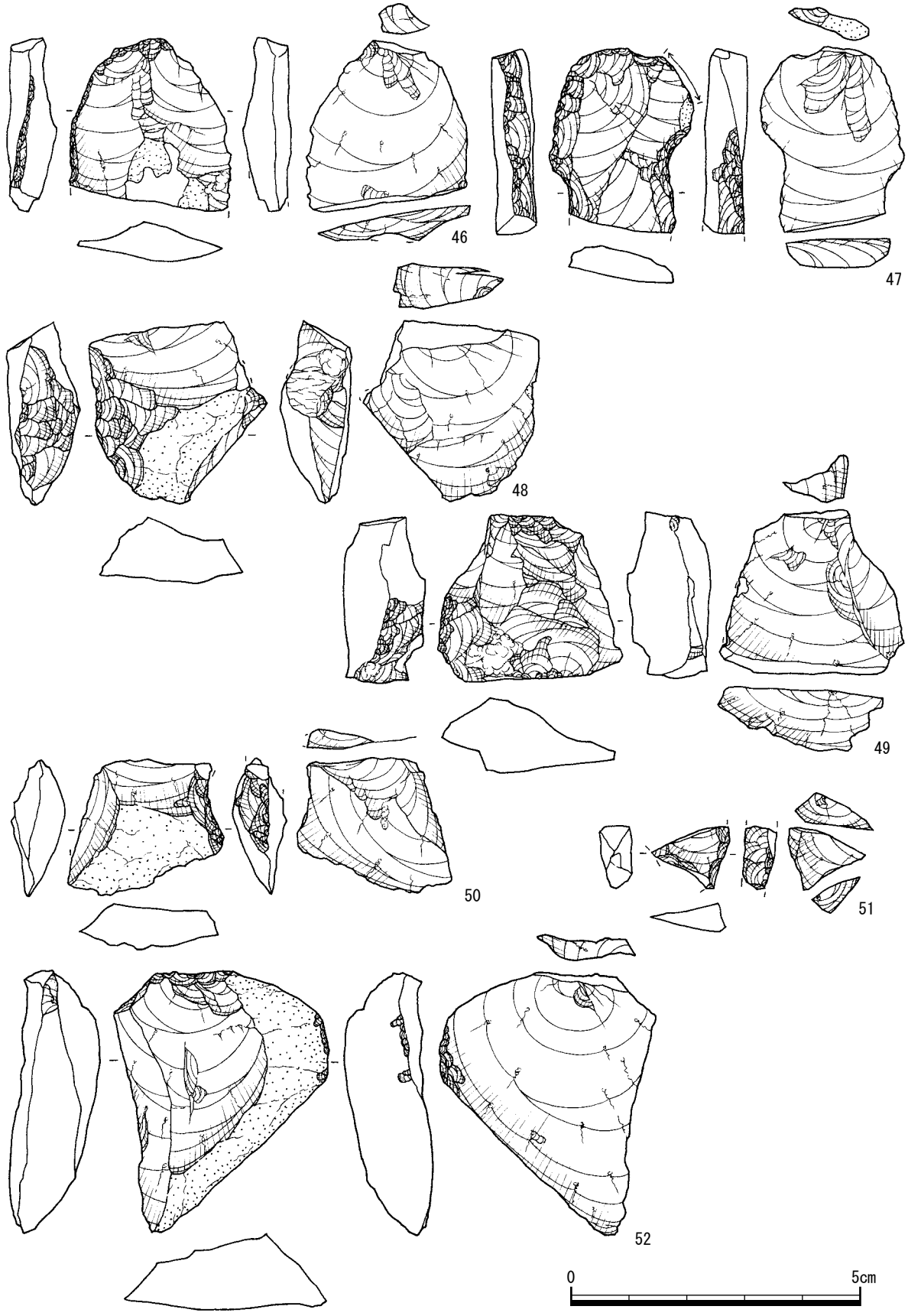
**掻　器**（第85図44）

１点が確認された。素材は打面再生剥片と考えられる横長剥片で、これの長軸の一端に掻器の刃部が作製されていたものである。刃部は図の下端から両側縁にかけて形成されていたが、調整は総じて粗く、下端の右側では抉るような剥離が行われており、刃部に段差が生じてしまっている状態であった。この部分以外の下端の左側から左側縁にかけては弧状に調整されており、刃部として機能していたことが縁辺の潰れの観察から推察されるものの､刃部の作出は数回の大きめの剥離に細かな剥離を施して整えられている程度であり、比較的簡単な調整で作製されていた。右側縁にも調整が認められるが、細かな剥離で急斜な状態に整形されており、掻器の刃部とは形状が相違するものであった。したがって、右側縁の調整は掻器の刃部の幅を狭めるような意図で施された可能性があり、刃部の作出とは違う器体の調整剥離であったのかも知れないものである。なお、これらの調整は、全て主要剥離面側から施されていた。左側縁から上縁にかけて、使用痕と思われる微細な刃こぼれが認められており、使用痕のある剥片としても利用されていることが理解されるものである。

**削　器**（第85図45・第86図46）

２点が確認されたが、ともに細かな調整で刃部が作製されているもので、削器とするのは若干抵抗のある石器であった。ただ、刃部の縁辺は潰れが著しく、使用頻度は高いことが推定されることから、削器として理解したものである。45は縦長剥片を素材とし、左側縁の中央部から上部にかけて刃部が作製されていたと思われるもので、上半を欠損している。刃部は細かな剥離を重層的に施して、やや急斜な状態の強靭な刃部が製作されており、前述したように刃部の縁辺には使用によると思われる潰れが顕著に認められている。刃部の調整は、全て主要剥離面から行われていた。なお、左側縁の下縁には使用によって生じたと思われる刃こぼれが観察できることから、削器の使用時に同時にできた使用痕かも知れない。

46も幅広の石刃か縦長剥片を素材とした削器で、下半を欠損する。刃部は左側縁に作製されているが、前




第86図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（４）

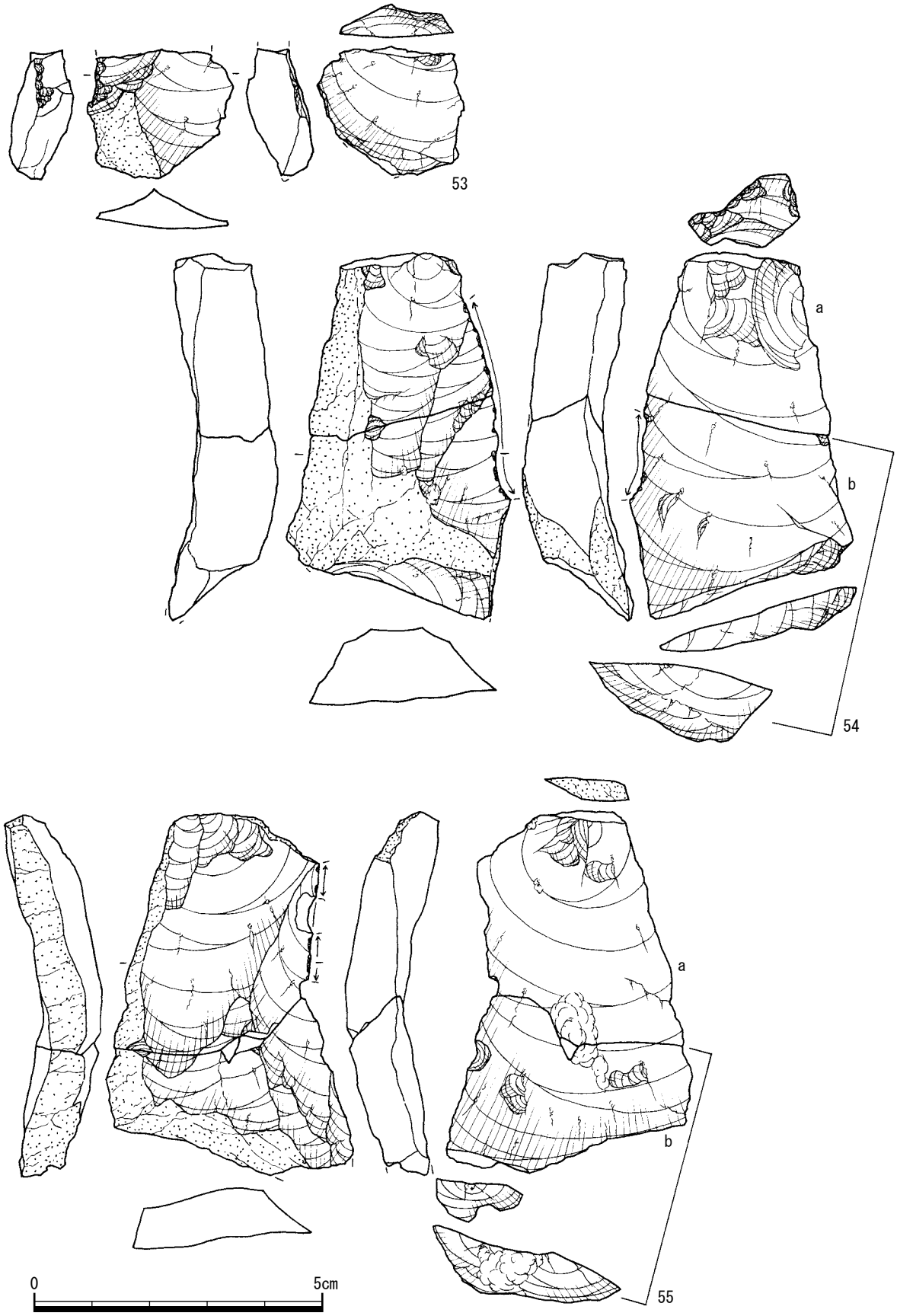
述したように削器の刃部と認識するには極めて小規模な剥離で形成されており、厚手で強靭な刃部を持つ一般的な削器とは大きく異なるものである。ただ、刃部の縁辺の潰れは著しく、頻繁に使用されていたことが推定されることから、削器として理解したものである。刃部の調整は全て主要剥離面側から施され、弧状を呈する刃部が作出されていた。

**削器＋ノッチ**（第86図47）

下半を欠損するが、左側縁の上部を削器に、左右両側縁の中央部をノッチとし、凹刃が作製されているものである。素材に幅広厚手の縦長剥片を利用し、左側縁の上部に位置している削器の刃部は、素材の中央部から打面にかかる範囲で弧状の状態で形成されており、厚手の強靭な刃部が作製されていた。刃部は比較的大きな剥離を加えた後に、細かな調整を施して縁辺が整えられており、使用によると思われる潰れも認められている。この削器の刃部に連続するような状態で、左側縁の中央部にノッチが形成されていたが下半を欠いているため、全体的な形状は不明である。調整は素材の縁辺を抉るような大きな剥離を数回施し、この縁辺を潰すように細かな剥離を急斜な状態で加えており、極めて鈍角な凹刃が作製されていた。右側縁に形成されたノッチはほぼ全体が残っており、浅い弧状の凹刃が作製されていた。刃部の調整は、大きな剥離も認められていたが比較的細かな剥離で素材の縁辺を抉っており､左側縁のノッチとは調整方法が異なっていた。しかし、刃部の状態は左側縁のノッチと同様で、急斜で強靭な凹刃が形成されていた。これら両側縁に施されていた調整は、全て主要剥離面側から施されており、限定された調整方法が存在していたことが窺えるものである。

**加工痕のある剥片**（第86図48～第87図53）

剥片の一部に調整が施されているもので、その調整意図の不明なもの（48～50・52・53）と、何らかの未製品で欠損しているもの（51）の別がある。48～50は、同程度の縦横の長さを持つ厚手の剥片の一部に調整が加えられているもので、48・49は削器の刃部に、50はノッチに形状が類似しているものである。ただ、48・49の調整剥離は極めて粗く、複数回の大雑把な剥離が主要剥離面から施されているだけで、整形に施されるような縁辺の細かな調整は殆ど認められていない。そして、調整の施された縁辺には、使用によると思われる潰れは認めらていないことから、何らかの用途に使用された痕跡を推察することはできなかった。このような状況から、調整剥離は認められるものの、使用実績が確認できないことから加工痕のある剥片として理解したものである。50は右側縁の一部に凹部が形成されているが、素材の打面部は弾け飛んだか、あるいは折断されて半欠品となったものである。凹部には、主要剥離面から素材を抉るような粗い剥離が施されており、縁辺は凹凸が著しく整った形状を示していない。この剥離の一部が、素材打面部の欠損によって切られており、凹部の製作時に打面部分が欠損した可能性が高いものである。したがって、ノッチか或いは削器等の刃部の作製途中で欠損したものであることが推定されることから、50はこれらの未製品である可能性が高いものである。51は、欠損した断片の右側縁に急斜な調整の認められるもので、両端を欠損している。施されていた調整は、数枚の大きな剥離を加えてから細かな調整を縁辺に行っており、調整の状態からはナイフ形石器の調整状態に類似するものであった。したがって、断片のため断定することは難しいが、本例はナイフ形石器未製品で、これが製作時に欠損してしまった可能性があるものである。52は幅広厚手の三角形に近い形状の剥片で、これの右側縁の突出部に粗く細かい両面調整が施されているものである。調整は主要剥離面側の方が顕著で、剥離の多くは重複し、階段状剥離になったものが認められている。これに対して剥離面側の剥離は細かく、連続するような状態では認められておらず、縁辺に潰れも確認できることから、使




第87図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（５）

用による刃こぼれである可能性も持たれるものである。しかし、主要剥離面側の階段状になった剥離状態から、加工痕のある剥片として理解したものである。53は打面部を欠損する折剥片の左側縁に、細かな剥離が集中的に施されているもので、剥離の存在する縁辺には潰れが顕著に認められている。このような状態からは、意識的に調整を施したものなのか、集中的な使用による使用痕であるのか判断が難しいものであったが、縁辺の限定された部分に剥離の認められるような状況から、加工痕のある剥片に含めたものである。

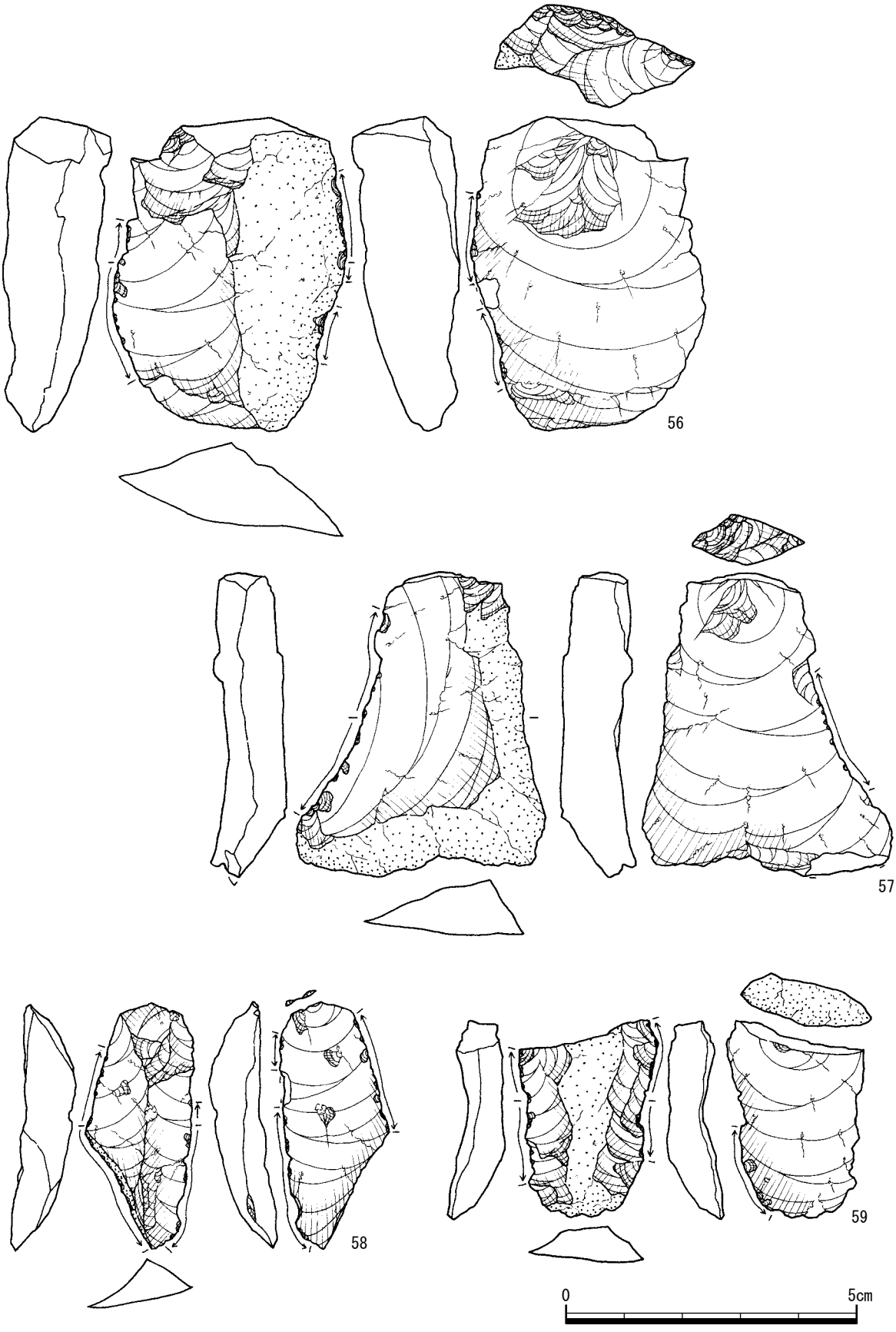
**使用痕のある剥片**（第87図54～第91図82）

30点が確認されたが、その内の２点が接合するため、図は29点である。これらは剥片の鋭い縁辺に使用によって生じたと考えられる細かな剥離が観察されるもので、それらは石刃や縦長剥片（54～62）、縦横の長さに大差のない方形に近い剥片（63～65）、縦長剥片の折れたもの（66～82）等に認められており、概ね縦長の剥片が利用されていることが推察されるものである。使用痕と考えられる細かな剥離は、縦長の素材の一方の側縁にだけ観察されるもの（54・55・57・61・62・64・66・68～72・74・76・77・79・82）と、左右両側縁に認められるもの（56・58～60・63・67・71・73・75・78・80）と、素材の末端の縁辺に確認されるもの（65・81）等の違いがあるものの、全体的には素材の持つ最も長く直線的な縁辺が利用されているようであり、使用には鋭く長い縁辺が必要不可欠であったことが想像されるものである。このような使用痕と思われる細かな剥離は、各側縁の一方の面だけに認められることが一般的であったが、中には同じ側縁の表裏面に観察できるもの（54・56～61・63・68・69・72・73・77～79・81）も半数程度確認されており、縁辺の使用方法や状態は多様で一定した方法で利用されたのではないことが推定されるものであった。

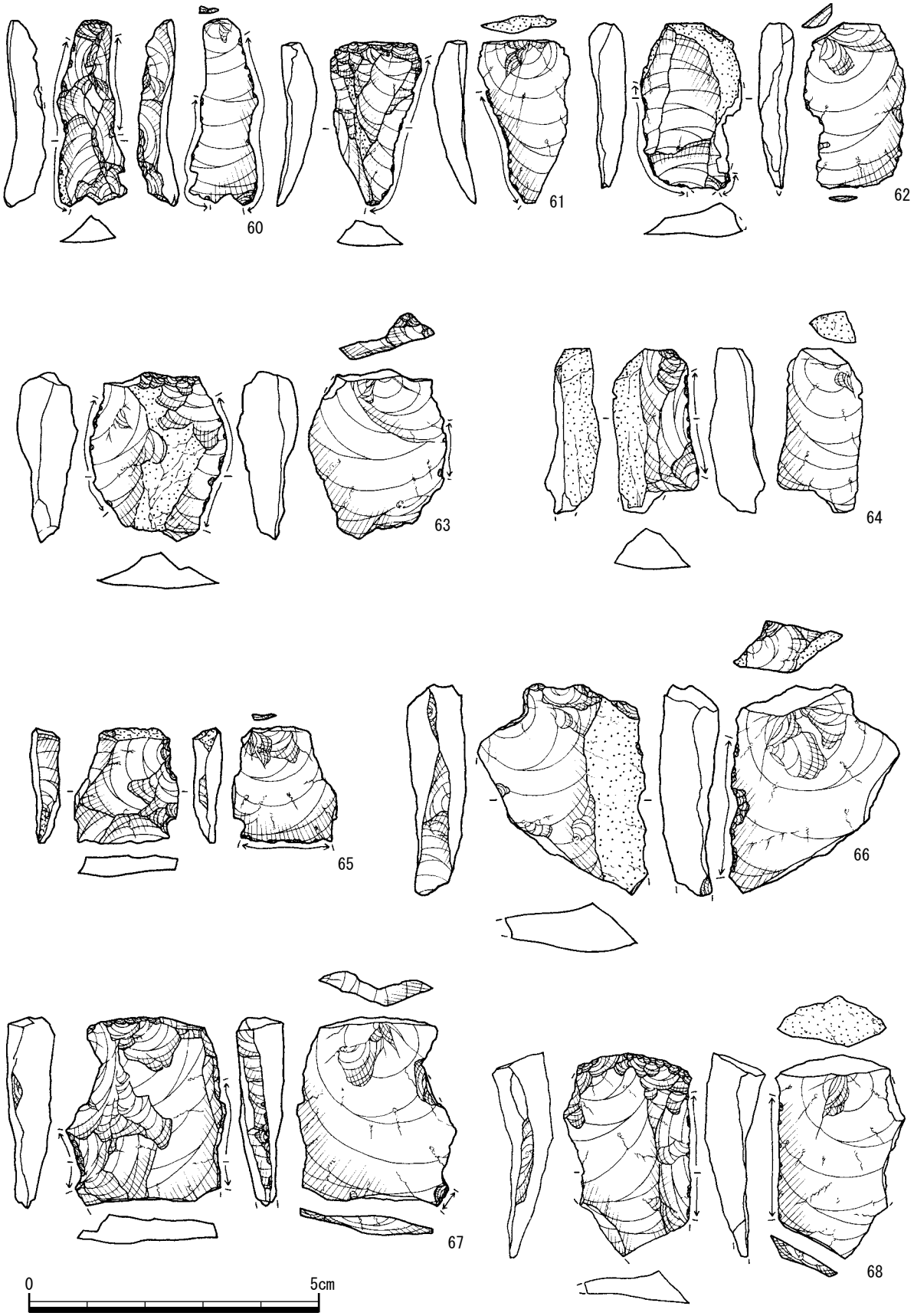
**石刃・折石刃**（第91図83～第95図113）

縦長の剥片で、一定の方向で連続する剥片剥離工程の中から剥離されたと考えられるものである。31点が確認されたが、完形かほぼ完全体のもの（83～88・90～93）は10点が確認されただけで、他は欠損品で、打面部から中央部にかけてのもの（89・94～106）と、中央部（107）、中央部から末端部（108～112）にかけてのものの別があり、これ以外には末端を調査時に欠損するため分類が不可能のもの（113）があり、総じて完形品は少ないことが推察されるものである。石刃は、本文化層のようなナイフ形石器石器群の中にあっては、ナイフ形石器等の素材として利用されることが一般的であったが、前述してきたように本遺跡においては石器類の素材となっているのは半数以下で、その依存度は極めて低かったことが推察される状況にあった。そして、このような石器群の素材のあり方と、石刃の出土量の少なさは比例しており、石器群の中の石刃の必要性が著しく低下していることが理解されることから、従来のナイフ形石器石器群とは異質なナイフ形石器石器群が出現していることが推定できるものである。このような中で、確認された石刃・折石刃を見てみると、31点の中には石刃とするのに躊躇するものも存在していたり、その形状や、打面や剥離面に形成された剥離痕の状態等、多様な様相を示していた。ただ、本石器群で確認された器種の全ては剥片石器であり、これら石器類の素材となっている剥片の状態を理解することは、組織的な剥片剥離技術の有無や、保有している剥片剥離技術の確認などに検討を加えることを可能にすることから、石刃に残された剥離痕から剥片剥離技術の内容を捉えていくことにしたい。

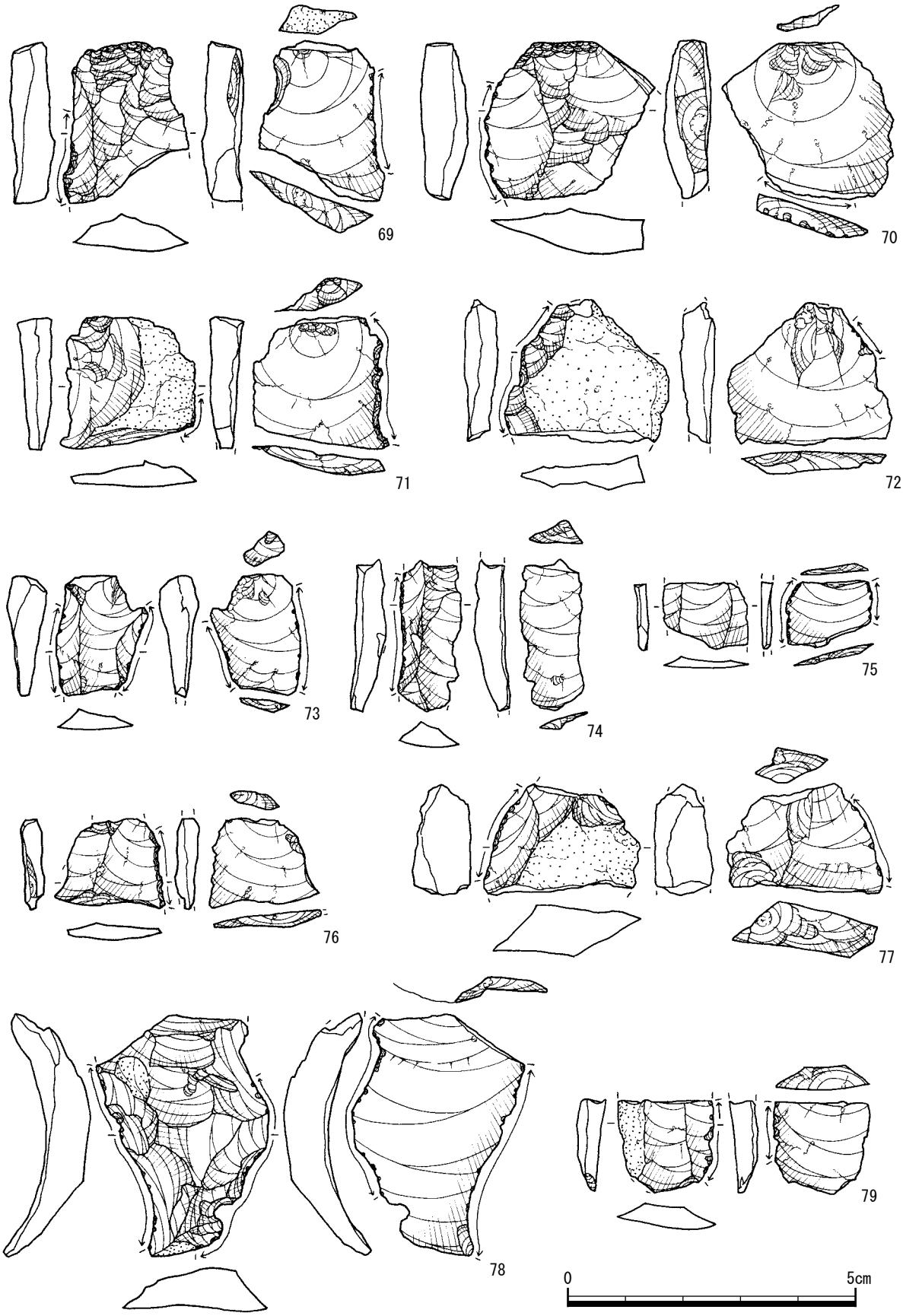
石刃は表面の剥離面を構成している剥離痕と、裏面の主要剥離面の剥離方向が同じものと、これに180度剥離方向の違う剥離痕が加わるものがあり、剥片剥離方向が限定されているものが大多数を占めている。確認された31点の中で、一定した剥離方向で構成されていたものは83～87・89・91・93～95・97～100・102・103・105・107～109・111～113の23点で、この内の84・85・93・108の４点を除く19点は剥離面と主要剥離



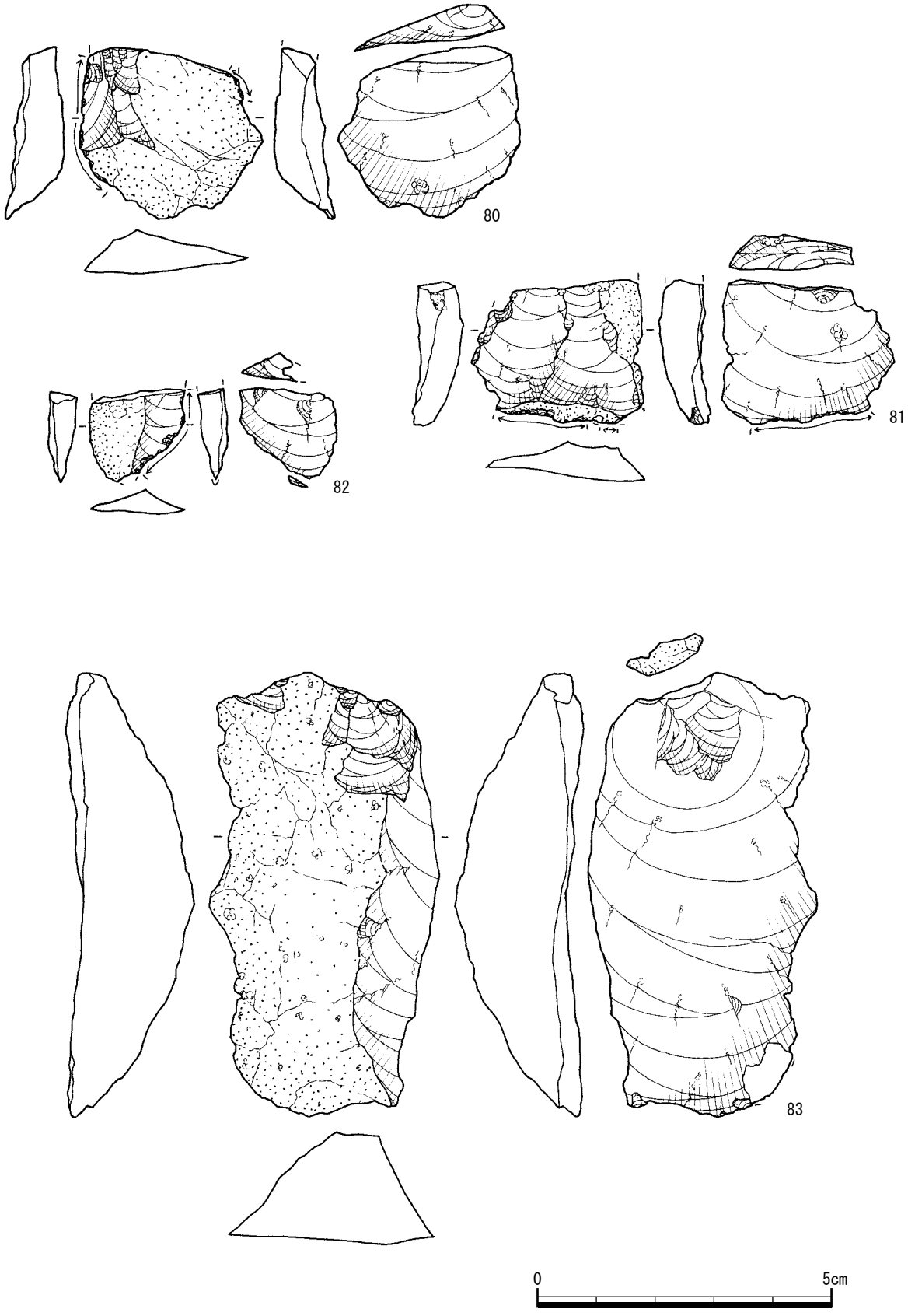

第88図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（６）



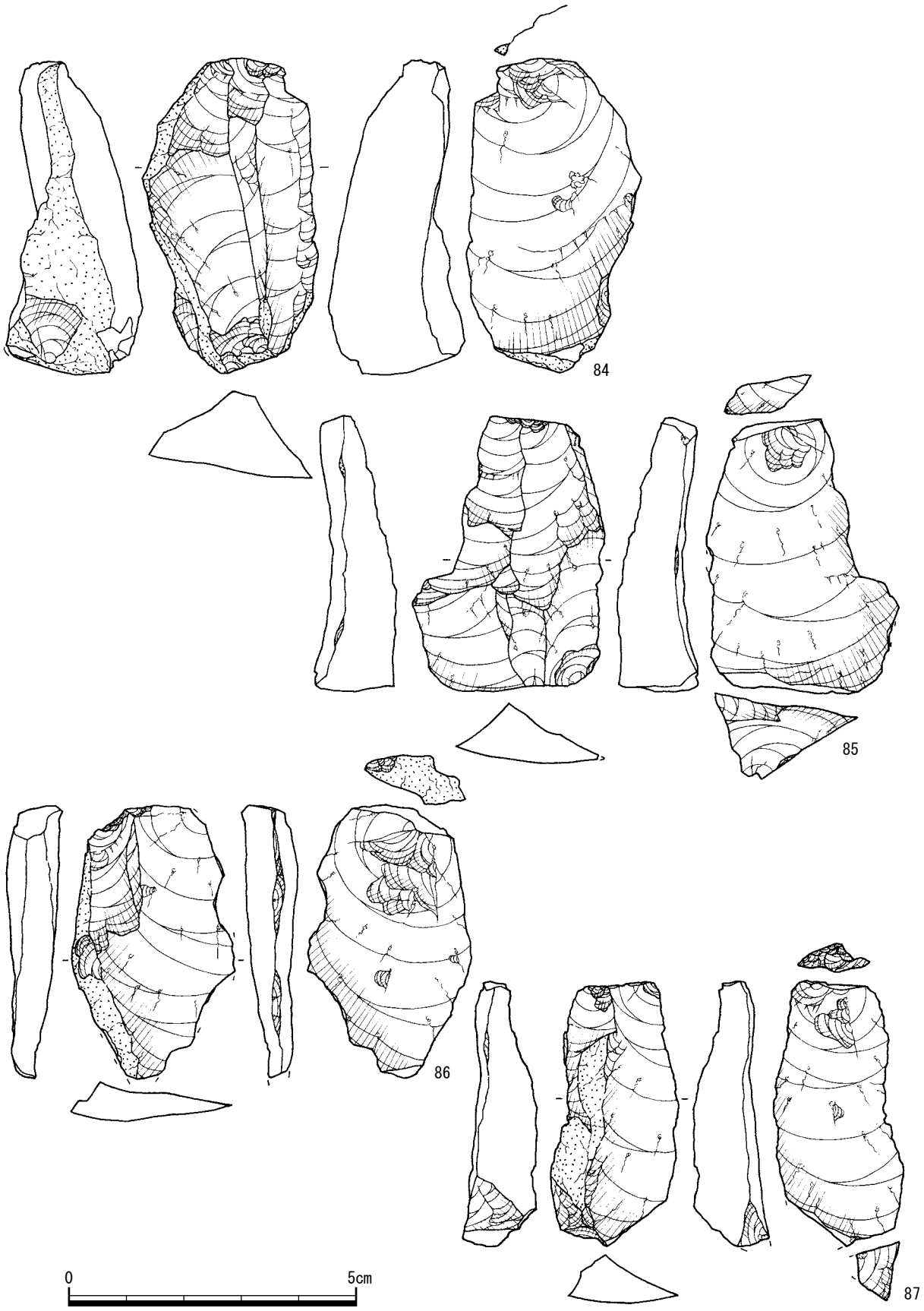

第89図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（７）



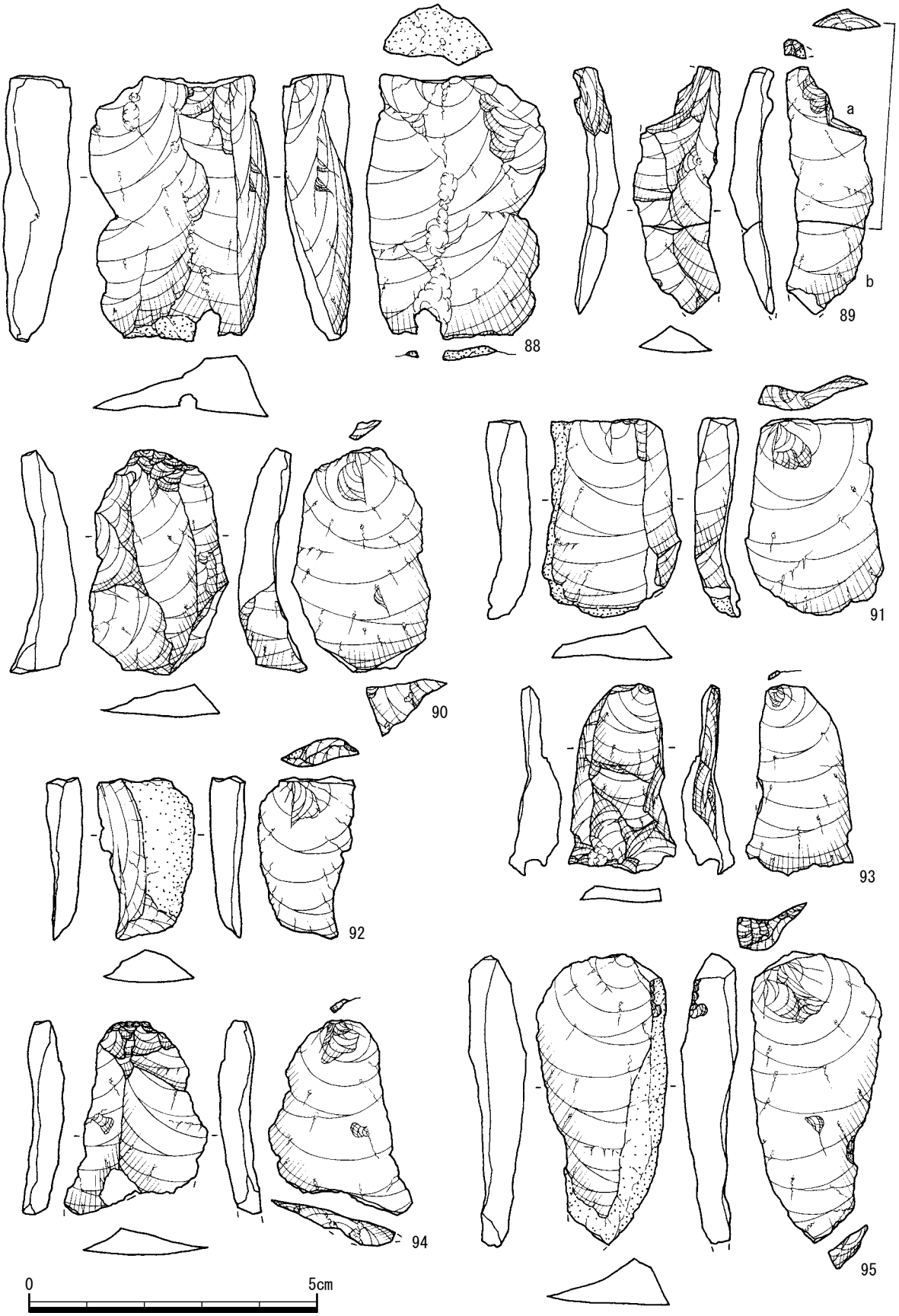

第90図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（８）



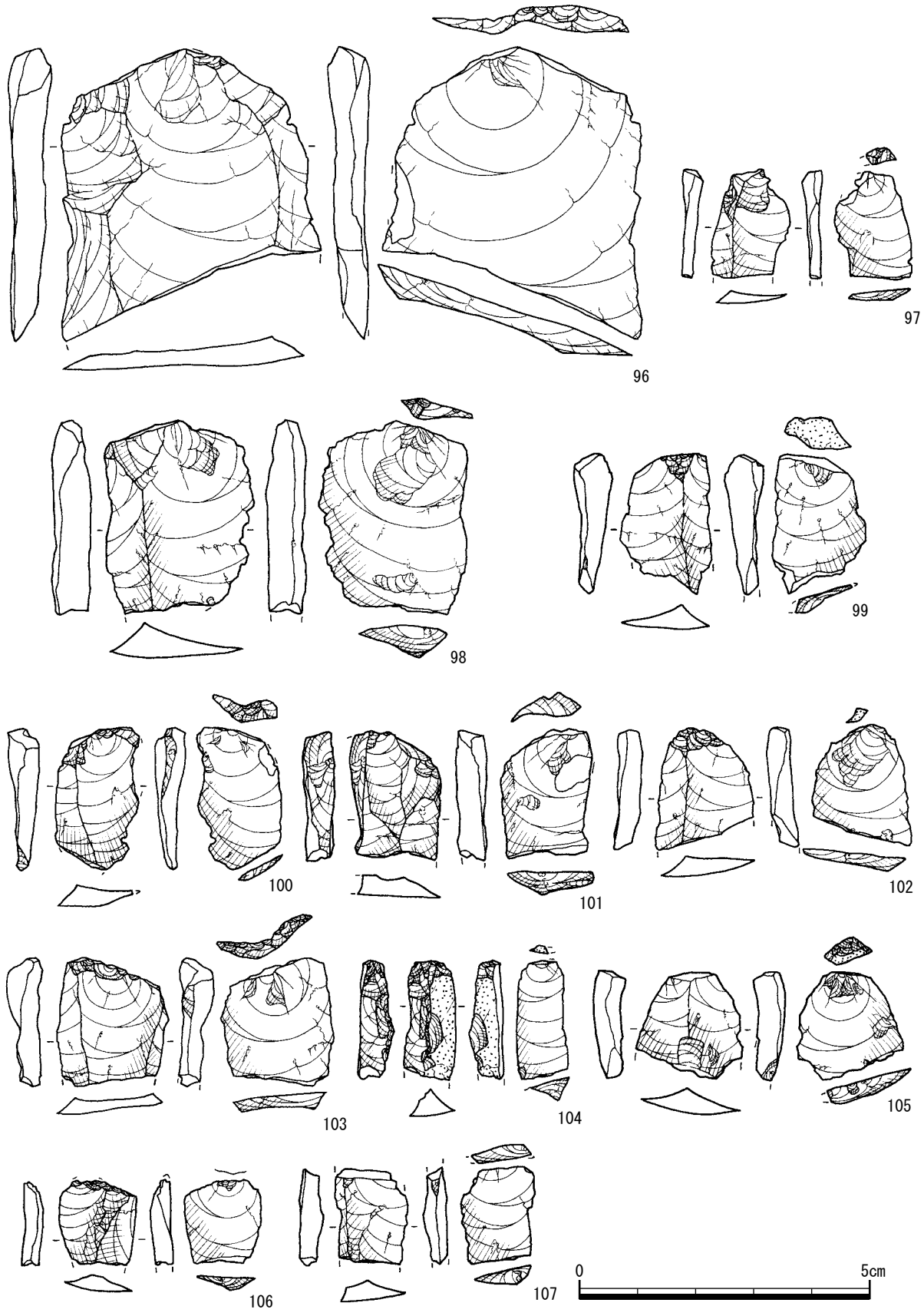

第91図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（９）



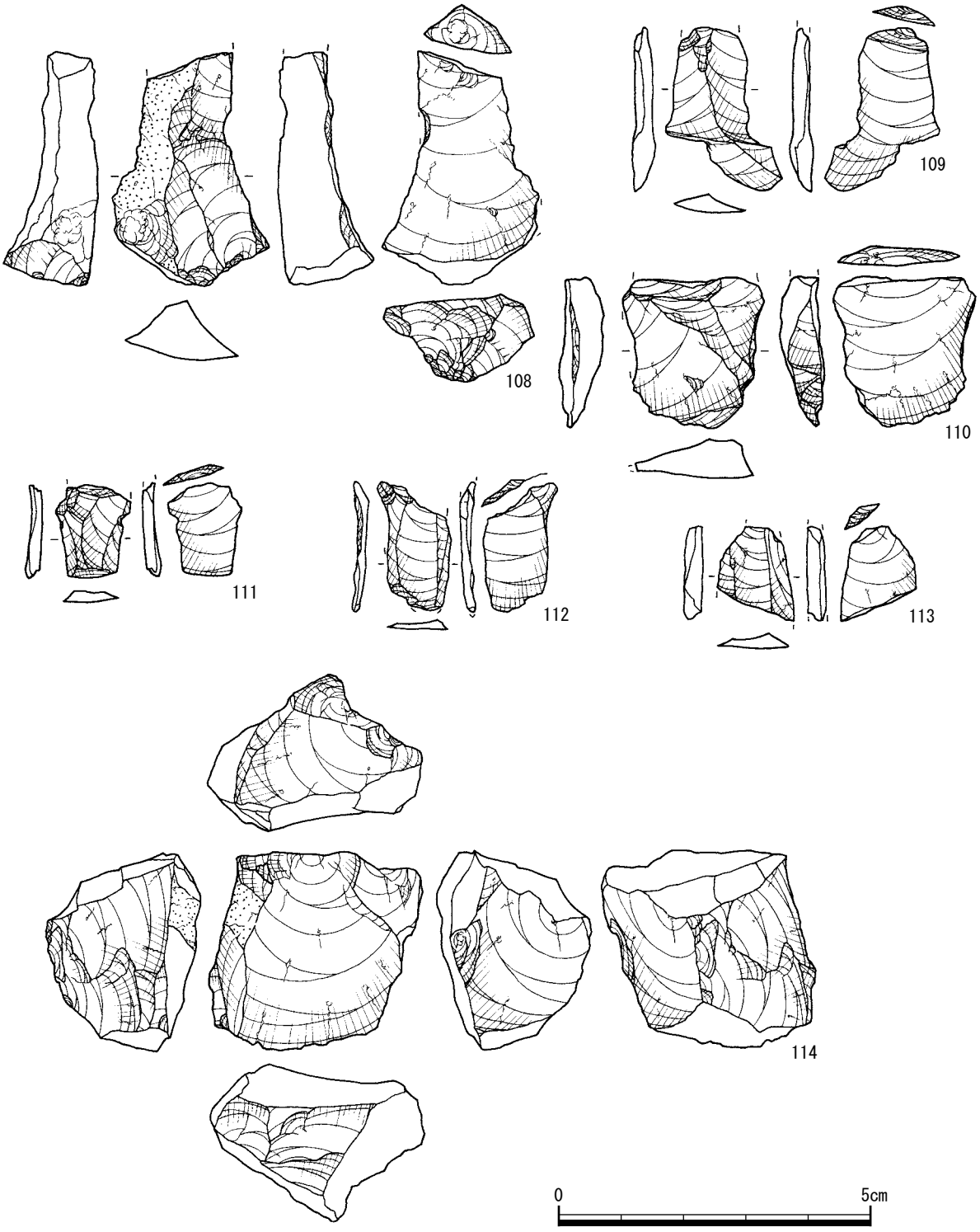

第92図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（10）




第93図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（11）



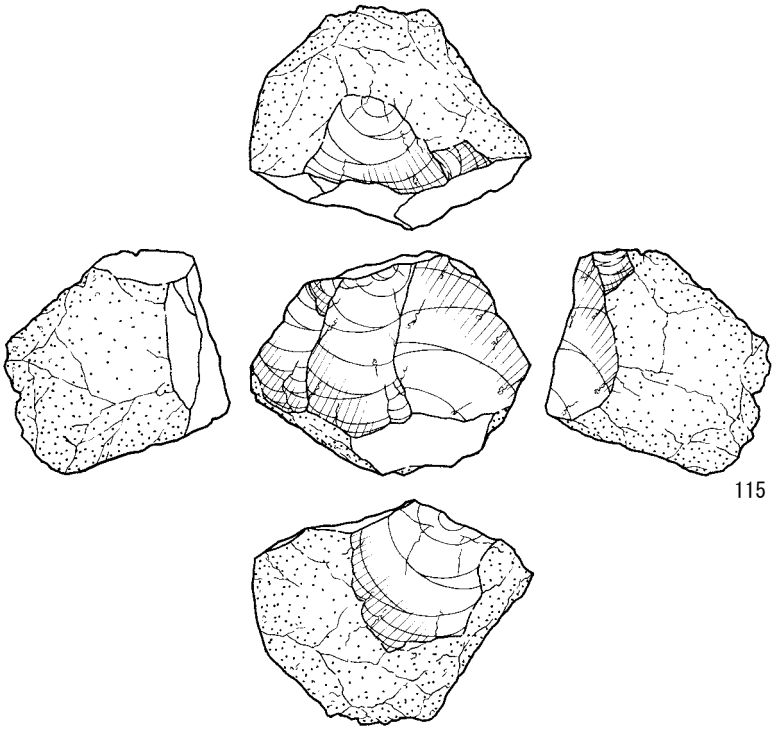

第94図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（12）

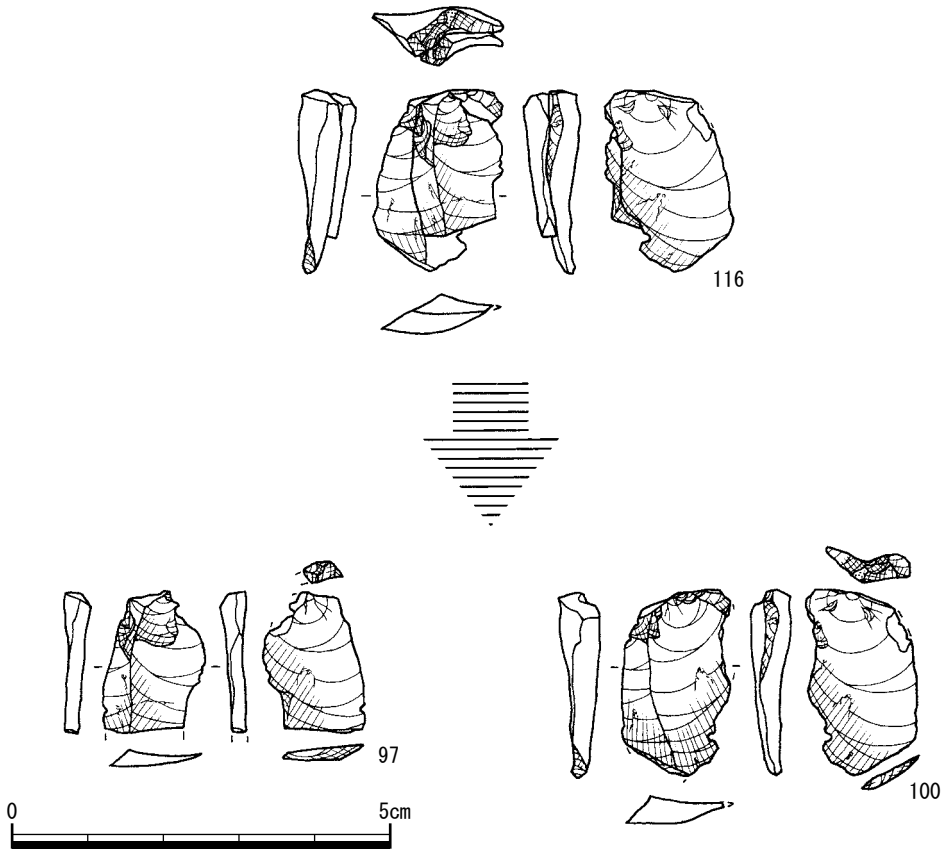



第95図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（13）

面が上設打面からの剥離によって構成されているもので、所謂単設打面石核より剥片剥離されたことが推定されるものであった。これに対して84・85・93・108の４点は、剥離面に主要剥離面の剥離方向と180度違う剥離痕の認められるもので、両端に打面を設置した両設打面石核より剥離されたことが判断されるものであり、この内の84・85・108の３点には末端に下設打面（85・108）や礫面（84）が取り込まれた状態で剥離されていた。これら以外では、上設打面からの剥離以外の90度剥離方向の違う剥離痕の認められるもの（92・96・101・104）や、上設打面からの剥離に対して斜め方向の剥離痕が存在しているもの（90・110）があり、石刃として理解したものの中には剥離方向を限定していない工程で作出されたものが存在していた。ただ、剥離方向が90度違う剥離の殆どが石核調整と思われる剥離であり、104では剥片剥離作業面に稜部を形成した稜付き石刃であることから、これらの剥離は剥片剥離とは考えられないものであった。したがって、これらの石刃の中では剥片剥離工程の中で90度の打面転位を行いながら、90度違う双方の剥片剥離方向から剥片を生産するような工程は認められなかった。ただ、２点が検出された上設打面からの剥離に対して斜めの剥離痕が認められたものは、上設打面だけではなく側面にも打面か、或いは打面に替わる礫面などが存在し、打面を移動しながら求心的な剥片剥離を行っていた可能性のあるものである。したがって、このような推定が可能であるならば、剥片剥離方向が限定されている工程の他に、打面を移動しながら剥片剥離を行う工程が存在していたことが推察されることから、本石器群では複数の剥片剥離技術が行われていた可能性があることが窺えるものであった。そして83・84・86・87等のように、剥離面に大きく礫面を残すものが認められていることから、剥片剥離工程の中には、石核調整を施して礫面を除去するような作業を行うことは少なかったことが理解される。さらに、これらに残っている打面を見てみると、平坦打面のもの（85・90・91・94・101）や、自然面である礫面のもの（83・84・88・93・99・102・104）、所謂複剥離打面のもの（86・92）、調整打面のもの（87・89・95～98・100・103・105・108の下設打面）等が認められており、打面の状態は多様な様相を示していた。ただ、調整を施した調整打面よりも、調整を行わない礫面や平坦打面から剥離された石刃の方が多く生産されているようであり、剥片剥離の都度こまめに打面調整を行うような作業は少なくなる傾向が見受けられており、剥片剥離技術の簡略化が進んでいることが窺えるものである。

以上のような石刃と折石刃の様子から、以下のような剥片剥離技術の存在を推定することが可能である。まず、手頃な大きさの自然礫では最も平坦な部分を打面として設定したり、大形の自然礫では原石を分割するなどして打面を形成し、簡単な打面調整を施すものも存在するが、多くのものは礫面や平坦面をそのまま打面として剥片剥離が行われている。そして、剥片剥離が行われる剥片剥離作業面には、簡単な石核調整や稜部の作成が行われている例も存在していたが、大部分のものは礫面をそのまま残した状態で剥片剥離が進められており、剥離された剥片（石刃）には礫面で構成された剥離面が形成されることになる。剥片剥離は上設打面からの一方向に限定されているものが多かったが、中には上設打面と180度剥離方向の違う下設打面からの剥離が認められるものがあり、石核は単設打面石核が主体的ではあるものの、両設打面石核も存在していたことが理解される。そして、このような剥片剥離方向が限定された工程の他に、同じ剥片剥離作業面に多方向から求心的な剥片剥離を行う工程の存在が推定されていることから、本文化層では複数の剥片剥離技術が行われていたことが推定されるものである。このような工程の中、剥片剥離が行われていくが、場合によっては細かな打面調整を施しながら進めることもあったが、設定された礫面や、分割面である平坦面を利用した打面をそのまま継続して使用する例も少なからず存在しており、剥片剥離の都度入念に調整を行うような組織的な剥片剥離工程ではなく､簡略化した技術が使われていることが理解されよう。したがって、これらの剥片剥離工程から、素材として良好な形状の石刃が量産されている可能性は低く、剥片剥離技術と




第96図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（14）

しては後退した技術であったことが推定されるものと思われる。以上のような剥片剥離技術の特徴とともに、前述してきたように本文化層を構成していた石器群の素材には、石刃以外の剥片も多用されていることが明らかになっており、定形的な素材の形状をそれほど必要としない石器群が形成されていることが推定される状況が認められている。そして、石器類の素材形状の多様化と、石刃の特徴から推察された簡略化された剥片剥離技術の内容は、表裏一体の関係にあるものと理解されるとともに、素材の形状に左右されない石器群が熟成されていることが想像されるものである。さらに、遺跡内で確認された石刃の出土量の少なさからも、このような推定は可能であり、石器群の技術基盤として石刃を量産する石刃技法の存在意義は著しく低下していることが判断されるとともに、存在自体も疑問視される内容であった。

**石　核**（第95図114・第96図115）

２点が確認された。ともに剥片剥離作業面や打面を限定しないで、90度の打面転位が繰り返し行われているものである。114は断面が三角形状を呈する石核で、正面と上下面、左右の両側面に剥離が施されているものである。これらの剥離の中で、石核調整等の調整剥離と思われるものは少なく、殆どの剥離は剥片剥離と考えられるものであり、正面の剥片剥離作業面は上面を打面として剥離されていた。この上面は右側面を打面として剥片剥離されているが、左側面の剥離も右側面を打面として施されており、90度の打面転位が頻繁に行われていたことが判断されるものであった。そして、下面は正面と左右両側面の剥離に切られており、これらの中では最も古い剥片剥離作業面であることが理解されるとともに、裏面では左側面を打面として正面に向けて剥片剥離が行われていた。このような打面と剥片剥離作業面を固定せず90度の打面転位を頻繁に行う工程は、その都度剥片剥離作業面の形状が変化することから、必然的に剥片剥離される剥片は定形化した形状を持たない不定形な剥片が生産されていたことが推定されよう。したがって、石刃と折石刃の項で前述した剥片剥離技術以外にも、90度の打面転位を繰り返し行う工程が存在していたことが判断されるとともに、その中には縦長の剥片を生産する必要のない剥片剥離技術が認められ、これが石器群の技術基盤の一端を担っていたことが理解されると思われる。

115は小礫の上面に打面が設置された石核で、この打面から正面に数回の剥片剥離を行っているものである。この剥片剥離を行う前には、正面を打面とした剥離が下面に施されていたが、この下面の剥離の打面になったのは正面右側の剥離であった。したがって、この正面右側の剥離は下面の剥離に切られており、上面の剥離との前後関係は不明であるが、115に施された剥離の中では最も古い剥離であることが推定される状況であった。そして、下面の状態を見れば、正面右側の剥離は下面の礫面を打面として剥片剥離された可能性が高く、施された剥離が打面の形成なのか剥片剥離なのか明確に捉えられないような工程で、剥片が生産されていることが理解されるものと思われる。なお、正面だけの剥離痕を見ると、剥片剥離の中に180度の打面転位が行われているように見えるが、前述したようにこの間には90度の打面転位が行われており、剥片剥離を目的とした180度の打面転位を行ったものではないことが明らかであったことから、90度の打面転位を頻繁に行っている石核として判断したものである。また、上面の剥離は、打撃によって剥片剥離されたものである可能性は低く、何らかの衝撃によって剥離してしまった剥離痕である可能性のあるものである。

### ２）接合資料

本文化層で確認された接合資料は僅かであったが、この中で剥片剥離に関するものの幾つかを図示し、記述していくことにした。

**個体別資料番号№８の接合**（第96図116・97・100）

小形の折石刃２点（97・100）の接合で、116はこれらの接合状態である。折石刃２点は、同一面の調整打面から連続的に剥片剥離されていたが、これらの剥離面にも両者の剥離と同一方向の２枚の剥離痕が認められており、最低でも４枚の上設打面からの剥片剥離が行われていることが判断されるものである。２点の中で古く剥離されている97は、打面の一部を調査時に欠損するため明確には捉えられなかったが、これらを剥片剥離する時には打面に細かな調整を施していないようであり、剥片剥離にそれほど不都合がない場合には積極的に打面調整を行わないで、剥片剥離されていることが窺えるものである。

**個体別資料番号№19の接合**（第97図117・118・91）

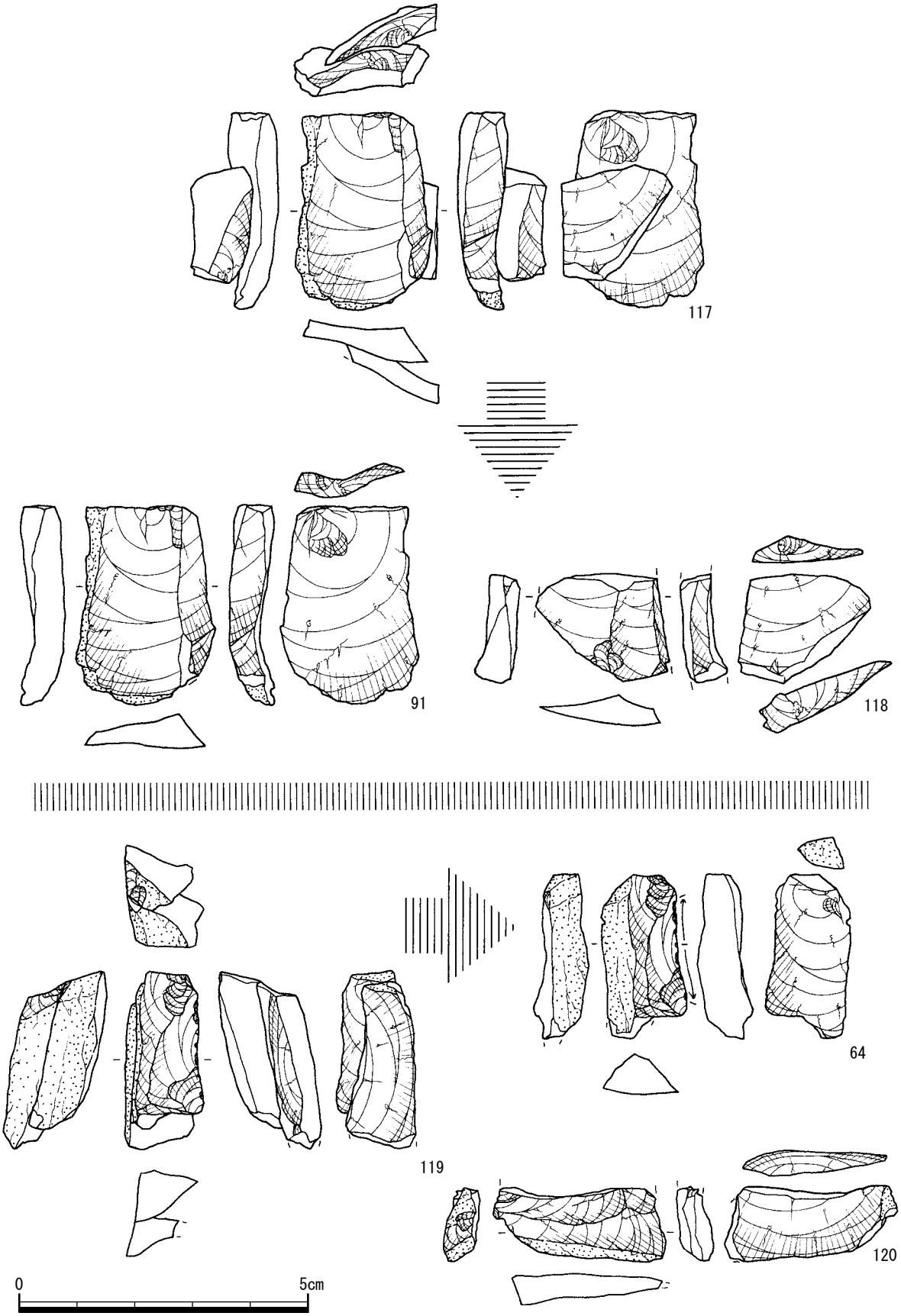
石刃（91）と折剥片（118）の接合で、117は両者の接合状態である。ただ、118は両端を欠損するため折剥片として捉えているが、石刃の欠損品である可能性のあるものである。両者は、118の打面部を欠くため同一打面より剥離されているかは明らかではないものの、91には平坦打面が形成されていることから同一打面より剥離された可能性が高いことが推定される状態である。91の剥離前と、両者の間に施された剥離の４枚が正面を剥片剥離作業面にして剥離され、91の剥離前に右側面に行われた２枚と、これに切られている118の右側面の剥離の１枚が右側面を剥片剥離作業面にして剥離されており、合計７枚の剥片剥離が上設打面から行われていたことが判断される。そして前述したように、この剥片剥離の間には剥片剥離作業面を左側面から正面に変更しており、剥片剥離作業面を移動しながら剥片剥離を進める工程が存在していたことが理解されると思われる。なお、91の末端と剥離面の左側には礫面が残っており、礫面を除くような石核調整は積極的には行わないで､剥片剥離の中で結果的に礫面が除去されるような方法が取られているようである。

**個体別資料番号№17の接合**（第97図119・120・64）

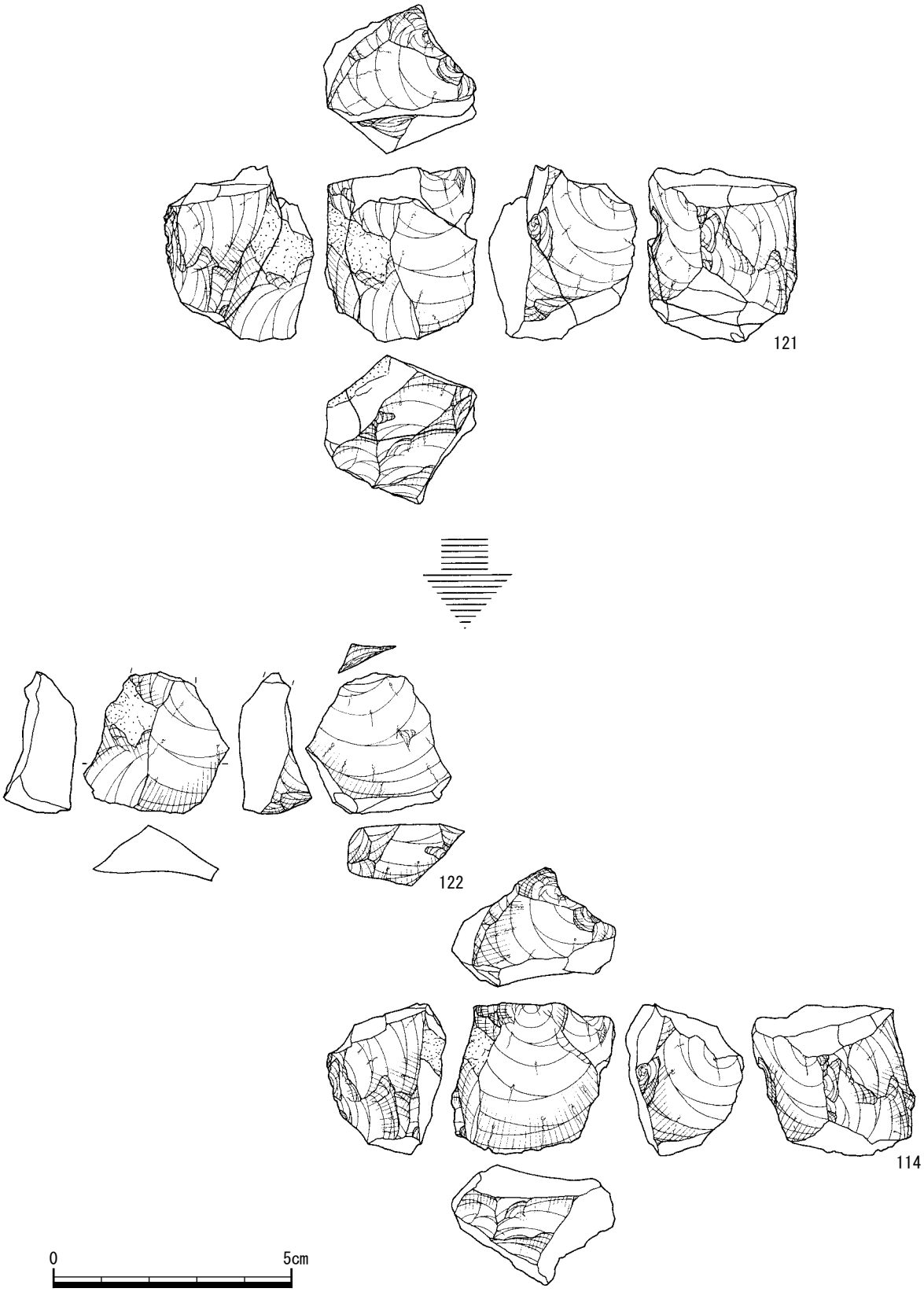
使用痕のある剥片（64）と折剥片（120）の接合で、119はこれらの接合状態である。まず、64の使用痕のある剥片が礫面の上設打面から剥離され、その後に打面部を欠損する120が右側面から剥片剥離されており、両者の剥片剥離間には90度の打面転位が行われていることが分かる。そして、64の剥離前にも複数の右側面からの剥片剥離が施され、64の剥離後には64と同じ上設打面からの２枚の剥離が観察されることから、打面転位の都度、複数の同一方向の剥片剥離が行われていることが理解されるものである。以上のことから、この２点の剥片が剥離される間には、２回の90度の打面転位を伴った剥片剥離が進められていたことと、打面転位を行った後には、その打面より複数回の剥片剥離が行われていることが推定されることから、90度の打面転位を頻繁に行いながら剥片剥離が進められていたことが理解されよう。

**個体別資料番号№16の接合**（第98図121・122・114）

114の石核と折剥片（122）の接合で、121は両者の接合状態である。114の石核は、石核の項で触れたように90度の打面転位を頻繁に行っている例で、この石核から一番最後に剥離されたのが打面部を欠く122の折剥片で、これが正面に接合したものである。剥片剥離の対象となった面は、古い順に下面、上面と左側面、正面であり、頻繁に打面転位を行いながら剥片剥離が進められていたことが推定されていたが、これに122




第97図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（15）




第98図　第19次調査第Ⅱ文化層出土石器（16）

の折剥片が接合したことにより、下面の剥離に切られた正面を打面とした剥離が、左側面に施されていたことが判明した。したがって、下面を除く正面、上面、左右側面の４面は、全て剥片剥離作業面と打面になったことがあり、面としての機能を限定する事なく90度の打面転位を繰り返し行いながら、これらの面のいずれかで剥片剥離が行われていたことが理解されるものと思われる。結果として石核はコロコロとした立方形を呈することになり、剥離される剥片は縦長剥片も生産されることはあったと思われるが、大部分のものは縦横の長さに大差のない方形に近い剥片であったことが推定されるものであった。この様な技術の存在から、石刃や縦長剥片を生産する簡略化した剥片剥離技術の他に、これとは異質な方形に近い剥片を作出する剥片剥離技術が認められることになり、そして共に剥片剥離技術として用いられていたことが理解されることから、石器群内には多様な技術基盤と目的的剥片が存在していたことが明らかであり、限定された形状の素材に依存する石器製作体系からの脱却が計られている状況として、認識できるもの思われる。

### （３）個体別資料の分布について

本遺跡で確認された旧石器時代の第Ⅱ文化層として認識されたナイフ形石器石器群は、ブロック内外合わせて725点で構成されていた。これらは個体別資料の分類によって複数の石器点数で構成されている30種類の個体と、同じ個体が確認されなかった25点の単独個体別資料に分類され、合わせて55個体の個体別資料として認識することができた。ブロック内外での内訳は、ブロック内が714点、ブロック外が２点で、これ以外に試掘調査で確認された３点と、取り上げミスで出土位置不明となった５点がある。これらの中で、ブロック外の２点と位置不明の４点はブロック内に同一個体を分布させており、これらはブロックの構成石器と関連する石器類である可能性が高いものであったが、残りの４点は単独個体別資料として分類されており、本石器群との関係を明確に捉えることのできない存在であった。しかしながら、これら単独個体別資料として確認されたナイフ形石器３点と削器＋ノッチの１点は、小形である形態的特徴からは本石器群に含まれていたとしても大過のないものであることから、これらの４点も本文化層の構成石器として理解し、記述していくこととした。ただ後述するが、ブロックを構成していた石器類の中で１点（単独個体別資料）だけ本文化層とは異質な石器が確認されており、文化層の違う石器が含まれている可能性があることを指摘しておきたい。そして、ブロック内で確認された21点（個体）の単独個体別資料もブロックを構成している石器類として認識できることから、これらの石器類はいずれかの場所（遺跡・ブロック・河原等）で剥片剥離や石器加工作業を終了させた状態（本遺跡での形状）で、単体で本遺跡に持ち込まれたものであることが推定されるものであった。したがって、出土位置不明の４点も現状の形態のまま遺跡内に持ち込まれ、いずれかのブロックを構成していた石器類であった可能性が高いものであり、器種として完成された（欠損品が多いが）状態のものであったことからも、このような推定を補強することを可能にしている。以下では、これらの単独個体別資料以外の複数（２点以上）の資料数で構成されている個体別資料を利用して、個々の個体別資料の分布状態を見ていくことにするが、個々の個体別資料の組成内容からそれぞれの個体を類型化して記述していくことにしたい。なお、類型の内容は栗原中丸遺跡第Ⅴ文化層の分析（鈴木　1984）に準拠したものである。

#### １）個体別資料の分布

個体別資料を構成している石器類や剥片等は、出土したすべての資料が同じブロックで集中的に分布していることは稀で、多くの個体別資料が複数のブロックにかけて分散して分布していることが一般的である。このような個体別資料の分布状態を利用して、ブロック間の関係や同時性の確認に始まって、剥片剥離技術

（工程）の復元やブロック間の人間行動の復元まで、多岐に渡る課題に検討を加える基礎資料として運用されており、個体別資料の分類、分析は遺跡やブロックを理解するためには不可欠な整理方法となっている。以下では本文化層で確認された複数の資料数を持つ30個体に関して、これらの分布状態を見ていくことにするが、前述したようにそれぞれの個体別資料の内容をブロック別に次のように類型化し、これを通じて各ブロックに残っていた個体別資料の内容を捉えていくことにしたい。

１．石器類Ⅰ：調整が施されている各種の石器、及び叩石、磨石等の礫石器と原石が該当する。
２．石器類Ⅱ：加工痕のある剥片や使用痕のある剥片、及び石刃等と、同一ブロック内に複数（２点以上）の同一個体別資料が確認されなかった剥片が該当する。
３．剥片類　：同じブロックに、同一の個体別資料に分類された複数の（２点以上）の剥片が認められているもの。
４．石核　　：石核が該当する。

各個体別資料の数量はそれぞれによって違いがあるが、10点以上の資料数を持つ個体別資料は15個体が確認され、これらは複数以上の資料数で構成されていた個体の50％を占めており、比較的資料数の多い個体が検出されている状況が窺えた。これらの中で最も多量の資料数が確認されたのは個体別資料番号No.11の73点で、100点を越えるような個体は認められなかったが、100点以下で50点以上の資料数を持つ個体は個体別資料番号No.11を含めて６個体が確認されており、複数以上の資料数を持つ個体の中でも頻繁に剥片剥離や石器加工作業が行われていたと思われる個体は比較的少ないもので、複数以上の資料数を持つ個体の約20％を占めているにすぎなかった。そして、これとは逆に資料数の最も少ない２点で構成されていた個体は７個体別資料あり、これらを含めた資料数が２点以上で10点以下の個体は15個体を数えるが、それほど資料数の多くないこれらの個体は、あまり剥片剥離等の対象にはなっていなかったことが推定される個体別資料である。そして、これに単独個体別資料の25個体を加えた40個体は、頻繁に剥片剥離等の作業の対象になっているとは考えられない個体であることから、遺跡内で集中的に剥片剥離等が行われた個体は比較的少ないもので、全個体別資料の中の約27.3％（15個体）を占めているにすぎなかったことが理解される。そして、各ブロックでの個体別資料の分布状態を見てみると、ブロックの中には単独個体別資料や資料数の少ない個体で構成されるブロックも存在しており（第99図参照）、本遺跡で確認されたすべてのブロックで剥片剥離や石器加工作業を行っていた訳ではなく、中にはこれらの作業を行った痕跡の認められないブロックも存在していることが推察される状況を示していた。このような個体別資料のあり方から、遺跡内やブロックでは常に石器製作や剥片剥離作業が行われているのではなく、簡単な作業しか行わなかった遺跡やブロックも存在していたことが理解されると思われる。

これらの個体別資料の中で資料数の多い個体の分布を見てみると、一箇所のブロックだけで集中的に確認される個体別資料は殆ど認められず、大部分の個体はいくつかの複数のブロックにかけて分布が確認されており、１個体の個体別資料が一箇所のブロックで収束するものではないことが理解されるとともに、資料数の多少に関わらず複数のブロックに分布が認められる個体別資料が、数多く確認される状況にある。以下では、このような個体別資料のブロックごとの分布の内容を、前述した石器類Ⅰや石器類Ⅱで構成されるものや、剥片類で構成される個体に分け、さらに石核の有無によって下記のように個体別資料を類別し、記述していくことにする。

類型Ａ：同一母岩の剥片類と石核が認められた個体別資料である。両者の存在から、その場所（ブロック）で剥片剥離や石器製作等の作業が行われていたことが推定されるとともに、石核がそのブロックにそのまま残されていることから、そのブロックでこれらの作業を終了させた個体別資

料であることが想定されるものである。

類型Ｂ：剥片類は確認されたが、石核の認められなかった個体別資料である。類型Ａと同じように、その場所（ブロック）で剥片剥離や石器製作等の作業が行われていたことが理解されるが、その場所での作業を終了させてから石核を他の場所（ブロックや遺跡）に持ち出していることが推定される個体別資料。

類型Ｃ：剥片類は殆ど認められず、個体別資料が石器類Ⅰや石器類Ⅱで構成されている個体別資料。この類型Ｃは、類型Ａ・類型Ｂとは剥片類の有無による大きな違いがあり、その場所（ブロック）では石器製作や剥片剥離作業は行われずに、他のブロックや遺跡から持ち込まれたと考えられる石器類Ⅰと石器類Ⅱが残されていたことが推察される個体別資料である。

類型Ｄ：類型Ｃに該当する石器類に石核が加わって構成される個体別資料。

以上のような類別によって、単独個体別資料を除く30個体の個体別資料のブロックにおける分布状態を見たのが第99図と第５表で、第99図では類型Ａは□印、類型Ｂは△印、類型Ｃが●印、類型Ｄは○印で図示したものである。この図からは多くの個体別資料が複数のブロックにまたがって分布していることが理解されたが、中には類型Ｂを単独のブロックに分布させている個体（個体別資料番号No.32・No.38）も存在していることが看取されたが、しかしながら、これらは４点以下の資料数で構成されているものであり、少量の資料数で構成される個体別資料の中には、単独のブロックで何等かの簡単な作業を行った個体があったことが推定できる内容を示していた。そして、前述したように、この類別は石核を保有していないことから、そのブロックに持ち込んだ石核に対して数回程度の剥片剥離を行った後に、石核を他の場所（ブロック・遺跡）に持ち去ったものなのか、或いは数点で構成される個体別資料の中には、いずれかのブロックか遺跡で剥片剥離されたものが複数で持ち込まれ、そしてそのブロックに残されたものであることが推定されるものであり、個体別資料の中には集中的に剥片剥離等の作業の対象とはなっていない個体もあり、そのあり方は多様であることが窺えるものである。ひとつのブロックに類型Ｂや類型Ｃを残していたこれらの個体別資料の以外では、全ての個体が複数のブロックに各類型を分布させており、それらは比較的資料数の少ない個体別資料にあっても同様に複数のブロックにかけて分布が認められていた。そして、このような分布は近接したブロック間に認められることが多く、ブロック間の関係が密接であったことが推定されるものであった。このような分布状態を具体的に見てみると、資料数の少ない個体別資料は必然的に類型Ｃを複数のブロックに分布させているものが多かったが、これらは他のブロックや遺跡から持ち込まれた可能性があるもので、出土したブロックで作出されたとは断定できないものであった。これに対して類型Ａや類型Ｂで構成される資料数の比較的多い個体別資料は、剥片剥離や石器加工作業等の対象になった可能性の高い個体であり、これらは類型Ａや類型Ｂを持つブロックの周辺のブロックに類型Ｃを分布させていることが多く、本文化層に於いても14個体が確認されている。したがって、個体の多くは類型Ａや類型Ｂを持つブロックで剥片剥離や石器加工作業が行われていたことが推定されるとともに、これらを行っていたブロックから行っていないブロックに、一部の石器類を持ち出していることが想定されるものである。ただ、これらの個体別資料を構成している資料数の中には、他の遺跡で製作されたものが持ち込まれている可能性もあるものの、大部分は遺跡内の類型Ａや類型Ｂが確認されたブロックで製作された可能性が高いことが推察されるものである。このように、個体別資料の中には類型Ａや類型Ｂが確認されたブロックに残されていたものと、類型Ｃが分布していたブロックに何等かの目的で持ち出され、そのブロックに残されていたものが存在していることが理解されるとともに、同じ類型を複数のブロックに分布させている個体別資料が数多く確認されていることが分かる。そして、このような分布状態が多くの個体別資料に認められることからは、個体別資料がブロック間を移動

## 第５表　第19次調査個体別資料のブロック内外別分類表

| 個体別資料No. | 原　石 | ブロック | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ピエス | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合　計 | 石器類Ⅰ | 石器類Ⅱ | 剥片類 | 石核 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 瑪　瑙 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 2 | 黒曜石 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 3 | 黒曜石 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 4 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 3 | | | | | | | | | | | | | | 8 | | 8 | | | 8 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 9 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 13 | | 13 | | 3 | 10 | | |
| 5 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 3 | | | | | | | | | | | | | | 14 | 1 | 15 | | | 14 | 1 | A |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 17 | 1 | 18 | | 3 | 14 | 1 | |
| 6 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 3 | 3 | | | | | | | | | 1 | | | 2 | 36 | | 42 | 3 | 3 | 36 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | 3 | | 4 | | 1 | 3 | | B |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 7 | | 7 | | | 7 | | B |
| | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 11 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 3 | | | | | | | | | 2 | | | 2 | 51 | | 58 | 3 | 7 | 48 | | |
| 7 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | 24 | | 25 | | 1 | 24 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | 1 | 3 | | 4 | | 1 | 3 | | B |
| | | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | 2 | | | 1 | 27 | | 31 | 1 | 3 | 27 | | |
| 8 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 3 | 3 | | | | | | | | | 1 | | | 4 | 18 | | 26 | 3 | 5 | 18 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 3 | | | | | | | | | 2 | | | 4 | 21 | | 30 | 3 | 9 | 18 | | |
| 9 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 3 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | 49 | | 52 | 2 | 1 | 49 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 56 | | 59 | 2 | 2 | 55 | | |
| 10 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 3 | | | | | | | | | | | | | | 19 | | 19 | | | 19 | | B |
| | | 5 | 2 | | | | | | | | | | | | | 3 | | 5 | 2 | | 3 | | B |
| | | 6 | 2 | | | | | | | | | | | | | 38 | | 40 | 2 | | 38 | | B |
| | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 11 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 外2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 3 | 1 | 2 | | | - |
| | | 計 | 5 | | | | | | | | | | | | | 68 | | 73 | 5 | 6 | 62 | | |
| 11 | 黒曜石 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 3 | 2 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 53 | | 57 | 2 | 2 | 53 | | B |
| | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 12 | | 12 | | | 12 | | B |
| | | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 70 | | 74 | 2 | 5 | 67 | | |
| 12 | 黒曜石 | 3 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | |

| 個体別資料No. | 原　石 | ブロック | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ピエス | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合計 | 石器類Ⅰ | 石器類Ⅱ | 剥片類 | 石核 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | 8 | | 9 | | 1 | 8 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 5 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | 2 | 34 | | 40 | 2 | 4 | 34 | | B |
| | | 6 | | | | | | | | | | 2 | | | 3 | 10 | | 15 | | 5 | 10 | | B |
| | | 11 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 外1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 計 | 3 | | | | | | | | | 5 | | | 5 | 53 | | 66 | 3 | 11 | 52 | | |
| 14 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | 2 | | | |
| 15 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 5 | | | | | | | | | | | | | 3 | 3 | | 6 | | 3 | 3 | | B |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 11 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | 3 | 7 | | 11 | 1 | 7 | 3 | | |
| 16 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 5 | | 5 | | | 5 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 5 | 3 | | | | | | | | | | | | 2 | 23 | | 28 | 3 | 2 | 23 | | B |
| | | 6 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 10 | 1 | 13 | | 2 | 10 | 1 | A |
| | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 3 | | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | 40 | 1 | 48 | 3 | 6 | 38 | 1 | |
| 17 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | | | | | | | 2 | | | | 30 | | 33 | 1 | 2 | 30 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 5 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | 2 | | | | 35 | | 38 | 1 | 4 | 33 | | |
| 18 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 5 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | 2 | | | | 1 | | 3 | | 3 | | | C |
| | | 10 | 2 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 4 | 2 | | 2 | | B |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | 1 | 5 | | 10 | 2 | 6 | 2 | | |
| 19 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 6 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 2 | | 6 | 2 | 2 | 2 | | B |
| | | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | 2 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 4 | | 8 | 2 | 4 | 2 | | |
| 20 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | | | | 2 | 29 | | 31 | | 2 | 29 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | 1 | | | | 22 | | 23 | | 1 | 22 | | B |
| | | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | C |
| | | 計 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | 2 | 52 | | 56 | 1 | 4 | 51 | | |
| 21 | 黒曜石 | 3 | 1 | | | 1 | | | | | 3 | 3 | | | 1 | 28 | | 37 | 2 | 7 | 28 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 5 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 不明 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | - |
| | | 計 | 1 | | | 1 | | | | | 3 | 3 | | | 1 | 32 | | 41 | 2 | 9 | 30 | | |
| 22 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | 2 | | | |
| 23 | 黒曜石 | 3 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | 3 | | 3 | | | |
| 24 | 黒曜石 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | 5 | | 8 | 1 | 2 | 5 | | B |
| | （和田鷹山群） | 6 | | | 1 | 1 | | | | | | 2 | | | 2 | 8 | | 14 | 2 | 4 | 8 | | B |
| | | 計 | 1 | | 1 | 1 | | | | | | 2 | | | 4 | 13 | | 22 | 3 | 6 | 13 | | |
| 25 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （推定不可） | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 26 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 6 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 4 | | 4 | | | 4 | | |
| 27 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | 1 | 2 | | |
| 28 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 6 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 11 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 7 | | 7 | | | 7 | | |

| 個体別資料No. | 原　石 | ブロック | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ピエス | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合計 | 石器類Ⅰ | 石器類Ⅱ | 剥片類 | 石核 | 類型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | |
| 30 | 黒曜石 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | |
| 31 | 黒曜石 | 5 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 32 | 安山岩 | 6 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | 4 | | 2 | 2 | | B |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | 4 | | 2 | 2 | | |
| 33 | 安山岩 | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 34 | 黒曜石 | 6 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 35 | 黒曜石 | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 36 | 黒曜石 | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 37 | 黒曜石 | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 38 | 黒曜石 | 6 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | 2 | | |
| 39 | 黒曜石 | 6 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 40 | 黒曜石 | 6 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | C |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | 2 | | | |
| 41 | 黒曜石 | 6 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | 2 | | | C |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | 2 | | | |
| 42 | 黒曜石 | 6 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | （箱根畑宿群） | 10 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 11 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | 3 | | B |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 9 | | 9 | | | 9 | | |
| 43 | 黒曜石 | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 44 | 黒曜石 | 7 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 45 | 黒曜石 | 8 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （蓼科冷山群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 46 | 黒曜石 | 9 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （和田土屋橋北群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 47 | 黒曜石 | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 48 | 黒曜石 | 10 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 49 | 黒曜石 | 10 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 50 | ホルンフェルス | 11 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 51 | 黒曜石 | 11 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 単 |
| | （箱根畑宿群） | 計 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | |
| 52 | 玉　髄 | 不明 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | | 計 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 53 | 黒曜石 | 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （和田芙蓉ライト群） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 54 | 黒曜石 | 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （未同定） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 55 | 黒曜石 | 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 単 |
| | （未同定） | 計 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 単独個体別資料合計 | | | 10 | | | | | | | | 1 | 4 | 1 | | 1 | 8 | | 25 | 11 | 14 | | | |
| 複数個体別資料合計 | | | 34 | | 1 | 2 | | | | | 5 | 26 | | | 30 | 600 | 2 | 700 | 37 | 110 | 551 | 2 | |
| 総合計 | | | 44 | | 1 | 2 | | | | | 6 | 30 | 1 | | 31 | 608 | 2 | 725 | 48 | 124 | 551 | 2 | |

＊黒曜石の産地同定は蛍光X線分析法（EDX）によるものである。
＊なお、推定不可のNo.25は焼成を受けているらしい例で、未同定のNo.55と共に長野県産に、No.54は箱根畑宿産に視覚上は推定されるものである。

しながら先々のブロックで剥片剥離等の作業を行っていたことが推定されるとともに、剥片剥離されたものの一部をそれら以外のブロックへ持ち出していることが推察されるものであった。したがって、このような広範な個体別資料の分布が認められた複数のブロックは、関連性の高いブロックであることが予測されるものと思われる。しかしながら、個々の個体別資料がどのような集団によって消費されたのかを明確に捉えることはできないが、少なくともこのような広範な個体別資料の分布を形成したのは、同一集団によるものであることを想定することは可能と思われる。そして、複数のブロックで構成されているこのような個体別資料の分布範囲は、同一集団による生活空間や居住空間等の何等かの単位（範囲）である可能性が想定できることから､このような範囲は遺跡を構成しているひとつの単位として認識することができるものと思われる。

個体別資料の中には、今まで見てきた類型Ａ・類型Ｂと類型Ｃを複数のブロックに分布させているものの他に、類型Ａ・類型Ｂが認められずに類型Ｃと類型Ｄ（本遺跡では類型Ｄは確認されていない）によって構成されている個体別資料が７個体確認されている。そして、この中でも単一のブロックだけに分布が認められていたのは４個体で、これ以外の３個体は資料数の少ない個体であっても複数のブロックに分布が確認されており、個体別資料は資料数の多寡に関係なく複数のブロックに分布するというあり方は、一定したものであったことが想定されるものと思われる。これら類型Ｃと類型Ｄによって構成されていた個体別資料の７個体と、前述した単独個体別資料の25個体の合計32個体は、遺跡内（調査範囲内）において剥片剥離や石器加工作業等の対象になった痕跡の認められない個体であり、遺跡外（調査範囲外）で製作、剥離されたものが遺跡内やブロックに持ち込まれた個体であることが判断されるものであった。

以上のように、個体別資料の中には剥片剥離や石器製作の対象になっている個体と、完成された石器や剥離された剥片の状態で遺跡やブロックに持ち込まれ、そして残された個体に二大別されることが理解されるものと思われる。その中で、前者の多少に関わらず剥片剥離の対象になった可能性のある個体は23個体で、これらは全個体別資料の約41.8％を占めているにすぎなかった。この他の約58.2％を占める32個体の個体別資料は、前述したように遺跡外から石器や剥片として完成された状態で、単体の形で遺跡内に持ち込まれたものであることが判断されたが、このような両者の個体別資料の状態を見てみると、確認された個体別資料のすべてが遺跡内で生産、製作された訳ではなく、４割強の個体別資料に対して、いくらかの剥片剥離や石器加工作業が行われていただけであり、遺跡内で何等かの作業の対象になっている個体は、それほど多くはなかったことが理解されるものと思われる。そして、ブロックの中には類型Ａや類型Ｂを分布していないものも確認されており、本遺跡で確認されたすべてのブロックで石器製作や剥片剥離等の作業が行われていなかったことが判断されるとともに、類型Ｃや類型Ｄで構成されているブロックでは石器類が充足していたのか、或いは石器製作や剥片剥離に用いるような母岩や石核を持ち込んでいなかったことが想定されるものである。そして、個体別資料の６割弱は遺跡外から持ち込まれた類型Ｃや類型Ｄで構成された個体であることから、検出された石器群の３～４割程度は遺跡外から持ち込まれた石器類であることは明らかであり、遺跡内で製作されて残された石器類は比較的少なかったことが推察されるとともに、このような状況が遺跡を構成する個体別資料のあり方としては、一般的であったことが想像されるものである。そして、ブロックには類型Ａや類型Ｂを持つものと、類型Ｃと類型Ｄだけで構成されるブロックがあることから、本遺跡で確認されたブロックの全てで剥片剥離等の作業が行われていた訳ではなく、ブロックの中には剥片剥離等の作業とは関連性が極めて薄いブロックが存在していたことは明らかであり、このようなブロックは石器製作作業を行うような空間ではなかったことが推定されるとともに、このような空間が遺跡内で担保され、機能していたことが予測されるものと思われる。

### ２）個々の個体別資料の分布

今までは、個体別資料の分布状態を類別を通じて概観してきたが、以下では複数のブロックにかけて分布していた個体別資料個々の分布を見ていくことにしたい。

#### １．類型Ｃ、類型Ｄで構成されている個体別資料

個体別資料番号No.14：第３、第10ブロックに、合計２点の石器類が分布していた個体別資料である。両ブロックは約25mの距離を隔てて分布しており、離れたブロック間で確認された個体別資料である。前述したように個体別資料は、近接するブロック間に分布が認められることが多いことからすると、特徴的な分布が示されていた個体別資料である。

個体別資料番号No.23：第３、第６ブロックに、合計３点の石器類が確認された個体別資料である。両ブロックは約９ｍの距離を隔てて分布し、その間には第４、第５ブロックが位置していたが、これらのブロックは隣接した状態で並んで分布しており、約15mの範囲に収まる状態にあった。

個体別資料番号No.40：第６、第10ブロックに、合計２点の石器類が確認された個体別資料である。第６ブロックと第10ブロックは約15mの距離を隔てて分布しているブロックで、これも個体別資料番号No.14と同様に隣接したブロック間に分布が認められたのではなく、離れたブロック間に個体別資料の分布が確認された個体別資料である。

以上のように、類型Ｃと類型Ｄで構成されている個体別資料の中で、複数のブロックに分布が確認された個体の状況を簡単に見てきたが、資料数が３個体と少ないため、確認できた状況が類型Ｃと類型Ｄで構成されている個体別資料の普遍的なあり方なのか、心許無い状態であることは否定できないものである。ただ、これらの個体別資料の分布状態にはいくつかの共通点があるようであり、それらを個体別資料の一般的なあり方として認識することが可能であり、しかも本文化層のように少ない個体数でも同様の傾向が窺えることから、これらの共通点のいくつかを指摘しておくことにしたい。まず、これらの個体の中で最も資料数の多かったのは個体別資料番号No.23の３点であったが、殆どのものは２点の最小点数で構成されており、数点以上の類型Ｃと類型Ｄで構成されるような個体別資料は認められなかった。これらの分布状態を見てみると、15mほどの範囲に分布しているブロック間に分布していたものと、15m～25mの距離を隔てて位置していたブロック間に分布していたものがあり、これらには傾向の違う二種類の分布状態が存在していたことが窺える。個体別資料の分布状態としては、前者の隣接するブロック間に分布するあり方が一般的と思われるが、それらは15m前後の広さに限られているようであり、一定した範囲の中に複数のブロックで構成されていたことが想像されるものである。そして、この範囲の中で形成されたブロック間に、個体別資料の散漫な分布が存在していたことが理解されることから、資料数の少ない類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料であっても、ブロックを超えた分布が形成されることがあったことが理解されよう。このような隣接するブロック間に個体別資料を分布していたものの他に、後者のような15m～25mの距離を隔てて位置していたブロックに、個体別資料が分布していたものが存在していた。これらはそれぞれが単数のブロックに分布しており、前者のような近接するブロック間で形成された散漫な個体別資料の分布は認められない状態であることから、確認されたそれぞれのブロック単独で個体別資料の散漫な分布が形成されているものと理解することによって、離れた位置に複数の個体別資料の散漫な分布が形成されていることが推定されるものである。そして、このような状態は個体別資料を変えて認められることから、個体別資料の分布としては通例であったことが窺えるものである。以上のように個体別資料の分布状態には、それぞれの個体別資料の資料数によって多少の違いはあるものの、共通した分布状態を有していたことが理解されると思われる。

### ２．類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成される個体別資料

個体別資料番号No.５：４ブロックに分布が確認された個体別資料で、各ブロックで認められた類別は、第３ブロックに資料数15点の類型Ａを、第２、第５、第６ブロックには資料数各１点の類型Ｃの分布が認められている。第２と第３ブロック、第５と第６ブロックは近接した状態で位置しているが、両者は約３ｍの距離を置いて分布しているものの、４ブロック全体では約17ｍの範囲の中で形成されていた。

個体別資料番号No.６：７ブロックに分布していた個体別資料で、それぞれのブロックに分布していた類別は、第２ブロック（資料数２点）、第３ブロック（資料数41点）、第５ブロック（資料数４点）、第６ブロック（資料数７点）には類型Ｂが、第４、第８、第11ブロックには資料数各１点の類型Ｃが確認されている。この中で、第２～第６ブロックは隣接した位置で確認されているブロック群で、約17ｍの範囲の中に分布が形成されていたものである。そして、これ以外の第８ブロックとは約７ｍ、第11ブロックとは約18ｍの距離を隔てて分布しており、隣接して分布していた第２～第６ブロックとは違い、単独のブロックに個体別資料を分布していた状態が複数で認められる状況にあった。したがって、個体別資料番号No.６では３箇所の個体別資料の散漫な分布が存在していたことが推定されるとともに、散漫な分布の中には単独のブロックで構成されることもあったことと、それが複数で分布することもあったことが推察されるものである。

個体別資料番号No.８：５ブロックで分布が確認された個体別資料である。各ブロックに分布していた類別は、第３ブロックに資料数26点の類型Ｂが、第２、第４、第５、第６ブロックが資料数各１点の類型Ｃが確認されている。第２～第６ブロックは隣接して位置し、約17ｍの範囲の中に分布している状態であった。そして、この約17ｍで形成された分布範囲の中で個体別資料の分布は収束し、他のブロックに分布することはなく、散漫な個体別資料の分布が１箇所だけ形成されていたものである。

個体別資料番号No.10：７ブロックとブロック外２の８箇所に、分布していた個体別資料である。それぞれのブロックで確認された類別は、第２ブロック（資料数２点）、第３ブロック（資料数19点）、第５ブロック（資料数５点）、第６ブロック（資料数40点）が類型Ｂで、第７、第10、第11ブロックとブロック外２は資料数各１点の類型Ｃに分類された。これらのブロックの分布状態は、第２と第３ブロック、第５～第７ブロックは隣接して位置し、両群は約３ｍの距離を置いて分布していたが、約19ｍの範囲の中に形成されていた。これ以外の第10、第11ブロックは隣接して位置し、ブロック外２も約４ｍの距離を置いて分布する状態であり、この３箇所の散漫な分布は約12ｍの範囲に収まる状況を示していた。両群の個体別資料の散漫な分布は、約12ｍの距離を隔てて位置しており、遺跡内で個体別資料の散漫な分布が２箇所形成されていたことが判断される例である。

個体別資料番号No.16：５ブロックで分布が確認された個体別資料である。ブロックに分布していた類別は、第６ブロックが資料数13点の類型Ａで、第３ブロック（資料数５点）と第５ブロック（資料数28点）には類型Ｂが、第４、第８ブロックには資料数各１点の類型Ｃが確認されている。第３～第６ブロックは隣接して分布し、約17ｍの範囲に形成されていたが、残る第８ブロックはこれらと約６ｍの距離を隔てて分布しており、第８ブロックを含めると約25ｍの分布範囲を示していた。今まで見てきた個体別資料の散漫な分布には20ｍを超える大きさのものは存在していなかったことから、複数のブロックで構成されたものと、単独のブロックで構成されたものの、合計２箇所の個体別資料の散漫な分布が形成されていたものと理解しておきたい。

個体別資料番号No.24：２ブロックに分布が認められた個体別資料で、各ブロックの類別は、第５ブロックに資料数８点の、第６ブロックに資料数14点の類型Ｂが確認されているもので、類型Ｃの分布は確認されておらず、類型Ｂだけで構成されていたものである。第５、第６ブロックは隣接して位置し、約11ｍの分布

範囲に収まる状況であった。

個体別資料番号No.28：３ブロックで確認された個体別資料である。それぞれのブロックに分布していた類別は、第５ブロックに資料数２点の、第６ブロックに資料数３点の、第11ブロックに資料数２点の類型Ｂが確認されており、本個体別資料も類型Ｃを持つブロックは認められなかった。第５、第６ブロックは隣接して位置し、約11ｍの範囲を形成している状態であったが、これらと第11ブロックは約19ｍの距離を隔てて分布しており、個体別資料の散漫な分布を複数のブロックで構成されているものと、単独のブロックで構成されているものの２種類（箇所）が存在していることが窺える例である。

個体別資料番号No.42：３ブロックで分布が確認された個体別資料である。ブロックそれぞれの類別は、第６ブロックが資料数３点の、第10ブロックが資料数３点の、第11ブロックが資料数３点の類型Ｂに分類されており、本個体別資料においても類型Ｃの分布は認められなかった。３ブロックの内、第10ブロックと第11ブロックは隣接して位置し、約10ｍの範囲に分布している状態であったが、両ブロックと第６ブロックは約19ｍの距離を隔てて分布しており、散漫な個体別資料の分布が離れた位置に２箇所形成されているものであった。

以上のように、類型Ａ（類型Ｂ）と類型Ｃ（類型Ｄ）で構成されている各個体別資料が、複数のブロックにかけて分布する状態を概観してきたが、これらも前述した類型Ｃと類型Ｄで構成された個体別資料と同じように、一定した分布状態を示していることが推察されたことから、これらを個体別資料の分布状態の共通点として理解することができそうであった。

これらの共通点をあげてみると、各個体別資料の資料数は個々の個体で違いはあるものの、単一のブロックに集中的に分布していたものはなく、殆どのものは複数のブロックにかけて分布が認められていた。それらのあり方は資料数の多寡に関わらず､隣接した複数のブロックに分布する状況が認められていることから、ブロックの範囲を超えた広範な個体別資料の散漫な分布が、一定した範囲（数ブロック）でまとまりを形成している状況を確認することができた。このような分布のあり方は各個体別資料で相違するのではなく、個体別資料でそれぞれ出土したブロックはまちまちであったが、中には同一範囲に分布するブロック間でまとまりを形成している個体別資料が、複数で存在（例えば個体別資料番号No.４とNo.５とNo.９、個体別資料番号No.６とNo.11等）している状況が確認できることから、このような個体別資料の分布のあり方は普遍的な状態として認識できるものと思われる。そして、このような隣接するブロック間に同一の個体別資料が分布するというあり方は、前述してきた類型Ｃと類型Ｄで構成される個体別資料も同様であり、構成している類型が違っても個体別資料は同じような分布状態を示していることが理解されるものと思われる。ただ、このような個体別資料の分布のまとまりは、類型の構成が多様であるとともに、分布するブロックの数や状況等に相違があることが多く、共通部分の確認は容易ではないのが実情であった。しかし、このような状況にあっても、類型Ａや類型Ｂを持つブロックに隣接して類型Ｃや類型Ｄを持つブロックを単数や複数で分布させているものや、前者を複数の類型Ｂを持っブロックで構成しているもの、或いは隣接した複数のブロックに類型Ｃや類型Ｄを分布しているだけで、そのまとまりの中には類型Ａや類型Ｂを持つブロックが確認されないもの、複数の類型Ｂを持つブロックだけで構成されているもの等があり、まとまりの構成の大枠は数種類に集約することができそうである。そして、個体別資料の中にはこのような個体別資料の分布のまとまりを複数で形成しているものがあり、それらにはブロックが集中している範囲に類型Ｂ（類型Ａ）や類型Ｃで構成されるまとまりのほかに、これらとは10ｍ前後以上の距離を隔てて単一のブロックに類型Ｃを分布したまとまりが形成されているものや、後者のまとまりが離れて複数確認されているもの、そして後者が複数の

類型Ｃを持つブロックで構成されているもの等の他にも、類型Ｂだけで構成されたまとまりが距離を隔てて分布しているもので、それらは複数のブロックと単一のブロックで形成される例も存在していた。このように複数のブロックに分布する個体別資料のまとまりは、前述したように構成される類型の内容は様々であったが、その分布していた広さは15～19mの一定した範囲に収まるようであり、個体別資料の集中する箇所での移動範囲は限られていたことが想定されるものである。そして、個体別資料の中にはこのような複数のブロックに分布していたまとまりの他に、７～15mの距離を隔てて複数や単一の類型Ｃを持つまとまりを分布させている個体や、単一の類型Ｂで構成されたまとまりが形成されている個体が確認されており、個体別資料には複数の分布のまとまりを持つことも一般的であったことが推察できる状況にあった。ただ、複数の分布のまとまりの一方は、殆どの場合類型Ｃを単独か複数で分布させている状態であり（数点で構成される類型Ｂが確認されている場合もあるが、総じて少量で構成されることが多い）、複数の類型Ｂや類型Ｃで構成されるもう一方のまとまりとは内容が大きく相違するものであった。したがって、このような個体別資料のまとまりが形成されている複数のブロック群は、同一個体の分布が認められていることから同一集団によって残されたブロック群ではあるものの、それぞれが異なった状況で形成された可能性が高いものであることから、これらの関係性の追及が必要になってくるものと思われる。そして、これらの個体別資料のまとまりが分布していた複数のブロック群は、遺跡内に形成された何等かの有意性のある範囲であることが推定できることから、個体別資料のまとまりが分布していたブロック群の個々の内容も、追及していく必要があるものと思われる。

では、類型Ａや類型Ｂを持つブロックを中心的存在として、その周辺に類型Ｃや類型Ｄを持っブロックを衛星的に分布している個体別資料からは、その個体別資料に対してその場所（類型Ａや類型Ｂを持つブロック）で剥片剥離や石器加工作業が行われていたことと、その場所から類型Ｃや類型Ｄを持っていたブロックに石器類を持ち出していることを推定することが可能であった。また、個体別資料の中には隣接したブロック間に類型Ａや類型Ｂを分布させているものがあることから、個体別資料がそれらのブロックを移動しながら剥片剥離され、消費されていたことが理解されるものと思われる。そして、類型Ａや類型Ｂを持たないで類型Ｃや類型Ｄで構成される７個体と、単独個体別資料25個体の合計32個体は、遺跡内で剥片剥離作業等の対象とはなっていないことが判断される個体であることから、個体別資料は類型Ａや類型Ｂの存在によって剥片剥離が行われている個体と、行っていない個体に大別することができることが分かる。さらに第99図を見ると、類型Ａや類型Ｂを多く持つブロックは何箇所かのブロックに偏る傾向があることが理解されるとともに、それらは構成数の多いブロックが相当する傾向にはあるものの、構成数の比較的少ないブロックでも類型Ｂを持つものがあり、単純にブロックを構成する石器数だけで剥片剥離等の作業の有無を、決定することはできないことが理解されると思われる。

### ３）ブロック群について

今まで、本文化層で確認された石器類725点を個体別資料に分類し、その個体別資料を通してこれらの分布状態を概観してきたが、この中で、出土した石器類３点がすべて単独個体別資料であり、他のブロックと個体別資料の共有が確認されなかった第１ブロックを除く10ブロックとブロック外の２点は、すべて個体別資料の共有が認められており、相互に関連しながら形成されたブロックであることが推定できるものであった。ただ、第１ブロックで確認された石器類は、形態的特徴や箱根畑宿産の黒曜石で製作されていること等、第２～第11ブロックを形成していた石器群と大きな違いはないものであることから、本文化層を構成する石器類の一部として記述していくことにした。このように殆どのブロックでは、共通する個体別資料に違いは

あるものの個体別資料の共有が認められており、同一集団によって残されたブロック群であることが推定できる状況にあったが、確認された11ブロックが同時に形成されたものであると言う確証は得られていないのが実情であった。それは、個体別資料の分布状態は一様ではないものの、多くのものが限定されたブロック間に個体別資料の分布のまとまりを形成している状況にあることや、そしてこのまとまりを複数で持つ個体があり、しかもこれらの複数のまとまりは距離を隔てた違うブロック間に形成されていることから、これらの個体別資料の分布のまとまりは、それぞれが限定された範囲（ブロック）の中で収束していた可能性が高いことが窺えるものであった。さらに、これら複数の個体別資料のまとまりの間には、ほとんど接合関係を認めることができないことから､これらのまとまりがブロック間を移動するような短い時間的尺度によって、形成されたものではないことが推定される状況にある。したがって、このような個体別資料の分布のまとまりが複数の個体別資料によって形成されているような一群のブロック（分布域）は、何等かの状況によって生じた範囲で、しかもブロックを超えた範囲が想定されることから、遺跡内に存在している何等かの単位として認識できるものと思われる。以下では第99図を利用して、これらのまとまりの分布状態を見ていくことにするが、図中には各ブロックに分布する個体別資料の中で、隣接する複数のブロックに各類型を分布して個体別資料の分布のまとまりを形成しているブロック間を□で囲って図示してある。一般的に多くのブロックで構成される遺跡では、このような個体別資料のまとまりの分布状態によって、出土したブロックが幾つかのブロック群に分割できることが明らかとなってきており、個々のブロック群は同一集団による回帰的な集落地のひとつであり、時間的前後関係を持って形成されたものであることが推定されている。このような理解を念頭に置いて本文化層の11ブロックを見てみると、個体別資料の分布のまとまりによって形成されている範囲には、以下のような３箇所がブロック群として把握することが可能であった。ただ、ブロックの中には調査範囲外へ分布範囲が広がっている可能性の高いものや、ブロックも調査範囲外に分布している可能性があり、調査範囲の制約からブロック群それぞれの構成内容を明確に捉えることができない状況にあったことを明らかにしておきたい。

ブロック群Ⅰ　第１ブロック単独で構成されるブロック群である｡本ブロックは調査範囲西側に位置し、ブロック範囲の一部を調査範囲外に分布している可能性の高いブロックである。そして、他のブロックとは個体別資料の共有が認められなかったブロックで、他のブロック群との直接的な関係は不明なブロック群である。また、調査範囲外に関連するブロックが分布している可能性もあるものと思われる。

ブロック群Ⅱ　第２～第８ブロックで構成されるブロック群である。類型Ａ・類型Ｂを多く持つ資料数の比較的多い第３、第５、第６ブロックが南北方向に並び、この周辺に資料数が少なく類型Ｂを多く持たない第２、第４、第７ブロックを分布させ、少し離れた南側に第８ブロックを展開させていたものである。これらの分布範囲は約26m×約14mの長楕円形を呈し、構成ブロック数は７である。

ブロック群Ⅲ　第９～第11ブロックで構成されるブロック群である。ブロック群を構成しているブロックは資料数が少ないものがほとんどで、ブロック群の中でも類型Ｂは少量で構成される４個体が確認されているにすぎなかった。これらの分布範囲は約18m×約７mであったが、第11ブロックが調査範囲外に分布が広がる可能性があることや、ブロック群を構成しているブロックが調査範囲外に展開している可能性もあることから、ブロック群の構成内容は変更される可能性の高いものである。したがって、構成ブロック数は３か、それ以上である。なお、近接して分布していたブロック外２も含まれるものである。

以上のような３ブロック群にまとめることができたが、前述したようにブロック群Ⅰの第１ブロックは他のブロックとは個体別資料の共有が認められなかったもので、ブロック群間の直接的な関係を追及することは不可能な存在であることから、以下ではブロック群Ⅱとブロック群Ⅲの関係に限って見ていくことにしたい。ブロック群のブロック構成数を見てみると、ブロック群Ⅱの７ブロックが最も多く、ブロック群Ⅲの３ブロックが少ない構成数であったが、この内のブロック群Ⅲは調査範囲外に分布範囲が広がる可能性のあるものであり、平均的なブロック構成数は明確ではないものの、10未満のブロック数で構成されていたようであった。個体別資料はこれらのブロック群の中でブロックを超えたまとまりを形成していたが、その範囲はブロック群を構成する全てのブロックに分布するような個体は認められず､殆どの個体は一部のブロック（３～６ブロック）に分布していることが通例であった。そして、ブロック群はこのような個体別資料の分布が個体と分布するブロックを替えて形成されているもので、しかも多くの個体別資料が共通した範囲（ブロック間）に石器類を分布させていることによって認識されたものであり、この範囲が一定した何等かの活動範囲を現していることが推定される状況であった。そして､これらのブロック群は､個体別資料のまとまりからはそれぞれが独立した範囲として考えることも可能であるが、多くの個体別資料がブロック群の範囲を超えて分布していることが確認されており、これらのブロック群が無関係に成立したものではないことが理解される状況を示していた。したがって、これらのブロック群は何等かの状況によって生じた現象と考えられるが、現時点ではブロック群には多くの個体別資料の共有が認められることから、これらのブロック群が同一集団によって残されたものであることが推定できるにすぎない。そして、これらのブロック群間には接合関係も認められなかったことから、ブロック群が同時期に存在していた可能性も低いことが推定されるものである。以上のような個体別資料のあり方から

| 個体別資料№ | 資料数 | Ⅰ | Ⅱ | | | | | | | Ⅲ | | | ブロック群 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | ブロック／ブロック外 |
| 4 | 13 | | ● | △ | | ● | △ | | | ● | | | |
| 5 | 18 | | ● | □ | | ● | ● | | | | | | |
| 6 | 58 | | △ | △ | ● | △ | △ | | ● | | | ● | |
| 7 | 31 | | ● | △ | | | ● | | | | | | |
| 8 | 30 | | ● | △ | ● | ● | ● | | | | | | |
| 9 | 59 | | ● | △ | | △ | △ | | | | | | |
| 10 | 73 | | △ | △ | | △ | △ | ● | | | ● | ● | ● ● |
| 11 | 74 | | ● | △ | △ | ● | △ | | | | ● | | |
| 12 | 2 | | ● | | | | | | | | | | |
| 13 | 66 | | | △ | | △ | △ | | | | | ● | ● |
| 14 | 2 | | | ● | | | | | | | ● | | |
| 15 | 7 | | | ● | | △ | ● | | | | ● | ● | |
| 16 | 48 | | | △ | ● | △ | □ | | ● | | | | |
| 17 | 38 | | | △ | ● | △ | | | ● | | | | |
| 18 | 10 | | | ● | | ● | ● | | | | △ | | |
| 19 | 8 | | | ● | | | △ | | | | ● | | |
| 20 | 56 | | | △ | | ● | △ | ● | | | | | |
| 21 | 41 | | | △ | | ● | △ | | | | | | ● |
| 22 | 2 | | | ● | | | | | | | | | |
| 23 | 3 | | | ● | | | ● | | | | | | |
| 24 | 22 | | | | | △ | △ | | | | | | |
| 26 | 4 | | | | | △ | △ | | | | | | |
| 27 | 3 | | | | | △ | ● | | | | | | |
| 28 | 7 | | | | | △ | △ | | | | | △ | |
| 30 | 2 | | | | | ● | | | | | | | |
| 32 | 4 | | | | | | △ | | | | | | |
| 38 | 2 | | | | | | △ | | | | | | |
| 40 | 2 | | | | | | ● | | | | ● | | |
| 41 | 2 | | | | | | ● | | | | | | |
| 42 | 9 | | | | | | △ | | | | △ | △ | |

第99図　第19次調査個体別資料の分布とブロック群

は、ブロック群間の関連性は明らかであることから、同一集団による回帰的な集落構造（戸沢編　1974・鈴木　1984）によって残されたもので、これらのブロック群間ではいずれかの遺跡でこれらの個体別資料の一部が消費されていたことが想定されるものである。このように本文化層においても、他の遺跡と同様に回帰的な集落が営まれていたことが推定されたが、もしこのような推定が妥当なものであるならば、ブロック群間には前後関係が認識できるはずであることから、以下ではブロック群間の関係を見ていくことにしたい。

では具体的に、回帰的な集落構造とこれらの前後関係を検討することにするが、これらを見ていくにはブロック群間にまたがって分布する各個体別資料の内容の確認が有効であることから、それらの類型の分布を見ていくことにしたい。

個体別資料番号No.６は、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂと類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲに単数の類型Ｃを分布させていた。

個体別資料番号No.10は、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂと単数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲに複数の類型Ｃを分布させていた個体別資料である。

個体別資料番号No.11は、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂと類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲに単数の類型Ｃを分布させていた個体別資料である。

個体別資料番号No.18は、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｃを持ち、ブロック群Ⅲに単数の類型Ｂが確認された個体別資料である。

個体別資料番号No.42は、ブロック群Ⅱに単数の類型Ｂが確認され、ブロック群Ⅲに複数の類型Ｂを分布していた個体別資料である。

個体別資料の大もとである母岩や石核は、剥片剥離の進行とともにその体積を減少させ、最終的には類型Ｃと残核である類型Ｄとして残されることが理解されるが、前述してきたように遺跡内には類型Ｃで構成されている個体や単独個体別資料として分類されたものも多量に確認されていることから、それらを剥離した石核を保有しなくなっても、これらの石器類の中には割合と長い期間、石器群の構成石器として保有されていたものがあったことが理解されるものである。このような個体別資料の消長の特性から、これらの個体別資料の分布状態を見てみると、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｂを分布させている個体の多くはブロック群Ⅲに類型Ｃを分布させている傾向にあり、それも殆どのものが資料数１点であった。これとは逆にブロック群Ⅲに類型Ｂを分布させ、ブロック群Ⅱに複数の類型Ｃを分布させたもの（個体別資料番号No.18）と、ブロック群Ⅱとブロック群Ⅲに類型Ｂを分布していたもの（個体別資料番号No.28・No.42）が存在していたが、これら３個体の類型Ｂはすべて２～４点の資料数であり、確実に剥片剥離を行った結果として残された類型Ｂとは断定できない数量であり、すべてが類型Ｃとしてブロックに搬入された可能性もあるものであった。したがって、ブロック群Ⅲで確認された類型Ｂは、その場所で剥片剥離された可能性は低いことが予想されることから、ブロック群Ⅲの中では剥片剥離を行っていた形跡を確認することができない状況にあることが、理解されるものであった。このような両ブロック群間での個体別資料の分布状態から、ブロック群Ⅱからブロック群Ⅲに、いずれかの遺跡を経由して回帰したものであることが推定できるものと思われる。そして、ブロック群Ⅲでは剥片剥離や石器加工などの作業を行っていた痕跡は殆ど認められなかったことから、ブロック群Ⅲでは石器類を製作する必要がないほど充足していたのか、或いは石器製作を行う母岩、石核を保有していなかったのか、さらにブロック群Ⅱに比べると極めて短期間の居住をしただけで、すぐに再び、移動した可能性もあり、個々のブロック群の成立は一様ではないことが推察される内容となっていた。

以上のように個体別資料の分布状態からブロック群を認識し、これらブロック群の関係を見てきたが、この中で、ブロック群はそれぞれの範囲の中で独立している傾向が強いものの、ブロック群Ⅰ（第１ブロック）

を除くブロック群間では個体別資料の共有関係があり、これらのブロック群が無関係に成立した訳ではないことが推察される内容を示していた。そして個体別資料の消費状態から、ブロック群には前後関係が存在していたことが推定されたことから、本文化層でも回帰的な集落が営まれていたことが想定されるものであった。このように、ブロック群Ⅰを除くブロック群が、同一集団の回帰的な集落構造によって残されたものであることが推定されたが、しかしながらこの集団がどのような構成で形成されているかは明確ではないのが現状であった。ただ、ブロック群Ⅱで認められたように、類型Ａ・類型Ｂを数多く持つブロックと、これらを殆ど持たないブロックが存在し､それらが補完するような状態で隣接して分布する状態が認められている。そして、ブロック群Ⅱではこのような組み合わせを３箇所確認することができるが、もし仮にこのような構成の小範囲が集団内の構成（家族）と関係するものであるならば、ブロック群Ⅱは３家族によって構成されていたことが想像されるものであった。ただ、個体別資料の中にはブロック群Ⅱを構成している殆どのブロックで共有されている個体もあることから、個体別資料は各家族で専有されるものではなく、集団に帰属するものであったことが推定されるものであり、評価の難しい現象を示していた。もし、ブロック群が単独の家族で構成していたならば、剥片剥離等を行う場所（類型Ａ・類型Ｂを数多く持つブロック）を移動する必要はないものと考えられることからも、ブロック群Ⅱのように剥片剥離等を行った場所が複数（３箇所）で存在することは、この小範囲がブロック群内の何等かの区画であったことが想定できるのではないかと考えている。

以上のように、本文化層で確認された11箇所のブロックの殆どは、同一集団の回帰的な集落構造によって残されたブロック群であることが理解され、それらは時間的前後関係を持ちながら本遺跡に形成されていたことを推察することができた。さらにこの中のブロック群Ⅱでは３家族の存在を推定することができたが、ブロック群の構成内容は多様なことから、このようなブロック群内のあり方が普遍的なものなのかの検討をする必要があり、ブロック群の構成内容は今後の大きな検討課題と成り得るものであった。したがって、今後とも個体別資料の分類、分析が行われるとともに、ブロック群とそのブロック群の内容に検討が加えられることに期待したい。

### （４）位置付けと問題点

19次調査の第Ⅱ文化層として認識された石器群は、ナイフ形石器を主体とし、少量の掻器、削器、掻器＋ノッチ等を組成とするものであった。本文化層が出土したのは、当地域のローム層の最上層であるところの所謂「休場層」の中位から上部にかけてであり、出土状態からは終末期のナイフ形石器石器群が検出される層位であった。このような終末期のナイフ形石器石器群では、一般的には少量の尖頭器が組成されることが通例であったが、本石器群では尖頭器は出土しておらず、特徴的な石器群が形成されていた。そして、個体別資料の分析からは頻繁に剥片剥離が行われていたことが推定されたが、それに伴って残されるはずの石核の出土量は極めて少なく、行われていたと思われる剥片剥離技術の確認は難しいのが実情であった。以下では、石器群と剥片剥離技術の特徴を見ていくことにするが、剥片剥離技術の理解には作出されていた石刃等の剥片を利用して、類推していくことにしたい。

**ナイフ形石器について：**未製品を含めて43点（欠損面で接合するものがあり、資料数では44点）が確認されており、ナイフ形石器以外の器種は数点以上出土していないことからも、最も頻繁に製作され、使用されていた器種であることが窺えるものである。これらは両側縁に加工を施す二側縁加工のものと、左右のどちらか一方の縁辺に加工を加えた一側縁加工のものに大別されたが、二側縁加工のものに比べると一側縁加工のものの出土量は概して少なく、しかも素材の形状に沿った加工が施されているようであり、形態の整って

第６表　第19次調査ブロック内外別石器組成表

| | ナイフ形石器 | 尖頭器 | 細石刃 | 細石刃核 | 角錐状石器 | 掻器 | 削器 | 彫器 | 敲石 | 磨石 | ドリル | ピエス・エスキーユ | R・F | U・F | 削器＋ノッチ | 原石 | 石刃・折石刃 | 剥片・砕片 | 石核 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １ブロック | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 3 |
| ２ブロック | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 9 | | 10 |
| ３ブロック | 15 | | | | | | 1 | | | | | | 4 | 12 | | | 10 | 327 | 1 | 370 |
| ４ブロック | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | 6 |
| ５ブロック | 9 | | | | | | | | | | | | | 5 | | | 12 | 94 | | 120 |
| ６ブロック | 7 | | | | | 1 | 1 | | | | | | 1 | 12 | | | 9 | 137 | 1 | 169 |
| ７ブロック | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 4 |
| ８ブロック | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 4 |
| ９ブロック | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 |
| 10ブロック | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 13 | | 16 |
| 11ブロック | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | | 11 |
| ブロック外１ | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ブロック外２ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 位置不明 | 4 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 3 | | 8 |
| 合　計 | 44 | | | | | 1 | 2 | | | | | | 6 | 30 | 1 | | 31 | 608 | 2 | 725 |

いるものは殆ど認められない状態で、一側縁加工のナイフ形石器としての独自性が著しく低下していることが窺える石器群であった。したがって、ナイフ形石器は二側縁加工のものが主体的で、その中でも３cm前後の大きさのものが大勢を占めており、全体的には小形化している傾向が認められている。この小形化に関連してか、ナイフ形石器の中には所謂「台形石器」や「切出形石器」に類似するもの（14～18）の出土量が増加しており、本文化層ではナイフ形石器の約11.6％（５点）を占めていた。このような「台形石器」「切出形石器」は、上縁に刃部が形成されるという形態的特徴から、素材には必然的に横長剥片が用いられることが通例であり、ナイフ形石器の小形化の中で素材の選択が多様化していることが窺えた。そして、ナイフ形石器の中には、素材の打面を残置して調整面に変えて機能させているものが存在しており（４・17）、調整技術も限定的でなく多様化していることが予測されるものであった。素材に関しては、前述したように横長剥片の利用があったり、ナイフ形石器の小形化の影響からか４～５cmの小形の剥片が使用されているものが多く存在しており、石刃を素材としていると考えられるものは13点（約30.2％）を占めるだけであった。このようなナイフ形石器の特徴を見てみると、第83図１の石刃を素材としたナイフ形石器は石器群全体の様相からは異質な存在であり、個体別資料も単独で和田土屋橋北群産の黒曜石で製作されていたものであった。これ以外にも長野県産の和田鷹山群、和田芙蓉ライト群、蓼科冷山群産の黒曜石が３個体確認されているが、いずれもナイフ形石器の素材となるような大形の石刃は生産していなかったり、剥片素材のナイフ形石器であり、１のようなナイフ形石器を製作するような技術基盤を持ち合わせていない個体別資料であった。したがって、これら長野県産黒曜石の３個体は、これ以外の殆どの個体を占める箱根畑宿産の黒曜石と技術基盤は類似しており、同じ技術体系の中から作製されたことが理解されるものであった。このように、１は本文化層の中で製作された可能性は極めて低いものであり、技術基盤として石刃技法が駆使されている石器群で生産された可能性が高いものであることが推定されることから、先行する石器群の所産として理解されるものであった。このような理解から、１は本文化層の構成石器からは除外され、単独資料で構成される第Ⅲ文化層として捉えることができる資料なのかも知れないものであることを、自戒を込めて指摘しておきたい。

**剥片剥離技術について：**前述したように本文化層では石核の出土量は少なく、剥片剥離技術を把握するには不向きな石器群が形成されていたが、いくつか確認された接合資料と石核に加えて石刃等の目的的剥片の

状態から、剥片剥離技術を概観していくことにしたい。まず石核と接合資料からは、打面の90度の転位を頻繁に行いながら剥片剥離を進めている工程の存在が把握されるとともに、剥片剥離方向を限定した縦長剥片を剥離する技術も存在していたことが分かる。ただ、後者の技術では打面調整を剥片剥離に対応して施すことは稀で、多くのものが一枚か複数の剥離面で構成される平坦打面か複剥離打面、或いは礫面を打面として剥離されていたことが、石刃に残る打面から推察することができる。そして、このような打面調整をあまり行わないという技術は、前者の90度の打面転位を施す工程も同様であり、作製される剥片の形状が相違しても剥片剥離技術としては共通する部分があることが窺えた。石刃の中には上下両端に打面を設置した両設打面石核より剥離されたものもあり、180度の打面転位を行いながら縦長の剥片を生産している技術も保有していたが、これらの両端の打面も平坦打面や礫面が打面となっており、打面の形状や剥片剥離の方法は剥片剥離方向が違っても前述したものと共通しており、剥片剥離技術全体が簡略化しているような様相を示していた。中でも剥片剥離方向を一方向に限定したり、180度の打面転位を行いながら縦長の剥片を作出する技術では、良好な縦長の剥片（石刃）を生産するには剥片剥離時の打面調整が不可欠であり、この作業が省かれていると言うことは、石器の素材として有効で画一的な形状を持つ縦長剥片（石刃）の必要性が、著しく低下していることに他ならない。

このように、剥片剥離技術の中には縦長剥片を剥離する技術と、90度の転位を行いながら縦横の長さに大差のない剥片や横長剥片を剥離する技術が存在し、いずれも打面調整を頻繁に行うことなく剥片剥離が進められる技術であった。そして、90度の打面転位を行う技術の台頭と、縦長剥片を剥離する技術の退行は表裏一体の関係にあることを窺うことができた。それは、前述したナイフ形石器の小形化とともに「台形石器」や「切出形石器」に見られるような形態の多様化に伴って、必然的に素材の小形化と多様化が計られたことによって、石刃技法のような縦長剥片剥離技術への依存度が低下し、方形に近い剥片や横長剥片を作出する90度の打面転位を行いながら剥片剥離を進める技術が、技術基盤の前面に登壇してきているようであった。前述したように、ナイフ形石器の素材でもこのような現象が追認され、石刃を素材としているものは少なく、大部分のものが小形の縦長剥片や横長剥片を利用して製作されており、技術基盤と合致した石器群が製作されていたことが明らかであった。ただ、ナイフ形石器の小形化と多様化が進んだ結果として技術基盤が変質したのか、或いは技術基盤が多様化し、退行したことにより、ナイフ形石器の小形化と多様化が進んだのかは、明確に捉えられないが、本文化層では出土しなかった尖頭器が組成に加わっていることによる素材剥片の多様化が、前段階から始まっていることを考えれば、前者のナイフ形石器の小形化と多様化が進んだ結果、技術基盤も多様化したと考える方がより妥当な理解と思われる。

**位置付けと問題点：**前述したように本文化層は、当地方のローム層の最上層である「休場層」の中層から上層にかけて分布していたナイフ形石器を主体とする石器群で、出土層位からはナイフ形石器石器群の終末段階の石器群であることが推測できるものであった。当地方の旧石器時代編年は、1995年に『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年予稿集』（静岡県考古学会　1995）としてまとめられ、石器群の整理作業が進められている。この中で尖頭器が石器群の組成として加わるのは第４期ａ段階からであり、当該期はナイフ形石器石器群の最盛期として評価されている所謂「砂川期」（田中　1979）「砂川型式期」（田中　1984）に対比される時期であった。この「砂川型式期」は多くの形態のナイフ形石器を持ち、少量の尖頭器、掻器、削器、彫器、ノッチ等を組成とし、これらの素材剥片を生産する技術基盤として石刃技法が駆使されており、多量の石刃が出土することが一般的な様相である。このような「砂川型式期」の特徴は、前述してきた本文化層の特徴とは大きく相違しており、本石器群は「砂川型式期」とは違う時期の石器群であることが判断できるものであった。そして、本石器群では尖頭器を組成していないことは前述したが、尖頭器を保有しない第４期

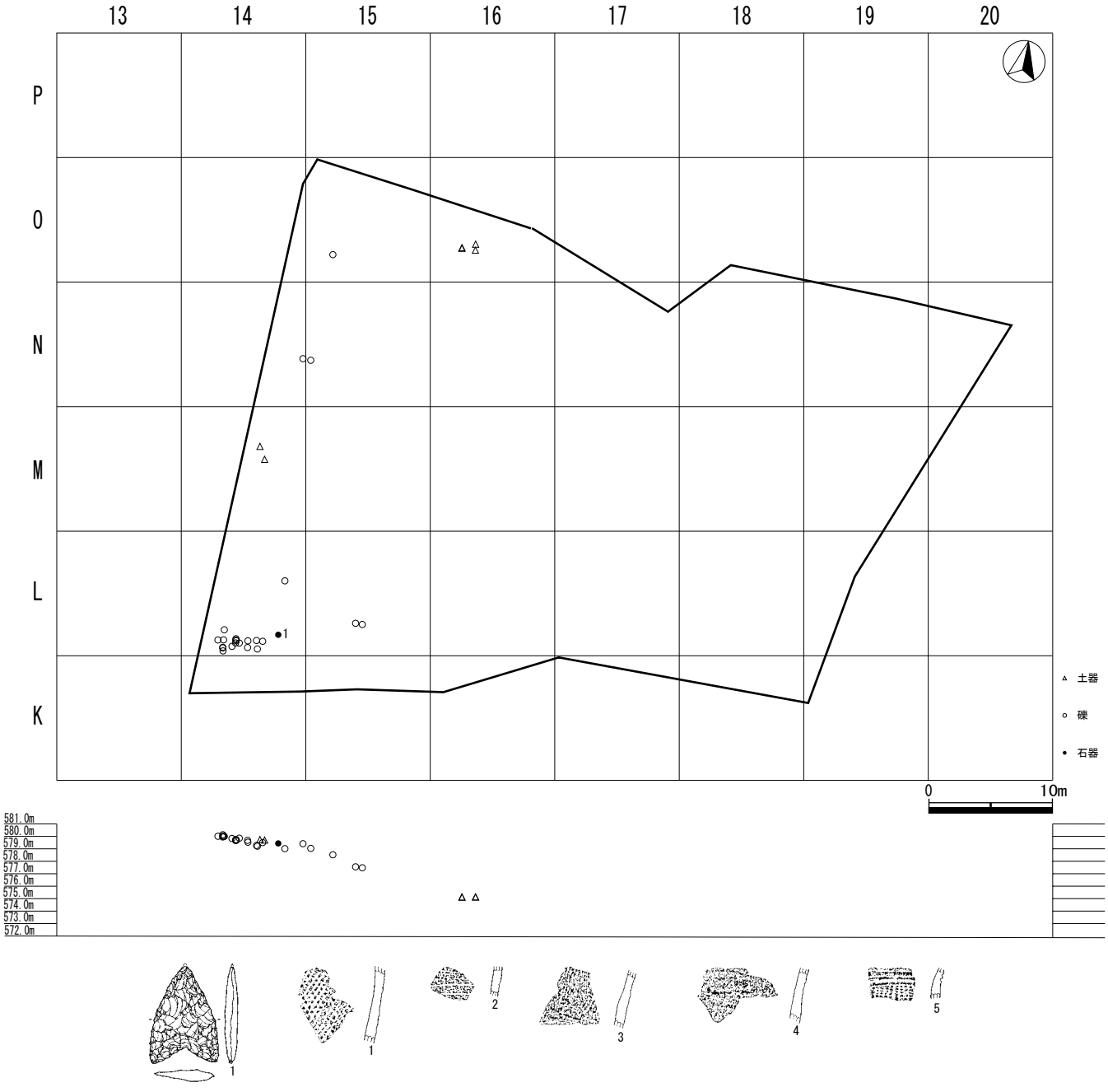
ａ段階以前の石器群とは出土層位が大きく相違していることから、第４期ａ段階以前に遡る石器群ではないことは明らかであった。尖頭器の存在を除き、当地方で本石器群に類似している石器群を探すと、三島市の塚原初音原遺跡（鈴木　2009）と北原管遺跡（鈴木・前嶋　1987)、山中城遺跡第28次調査等があり、いずれも本文化層のように石器群の殆どを箱根畑宿産の黒曜石で作製しているものであった。これらの遺跡では少量の尖頭器を伴っており、当該期では尖頭器が組成されることが一般的であったことが推測されることから､本文化層でも組成されていた可能性が高いことが推定されるものである。これらの石器群と本文化層は、いずれも「休場層」の中層から上層にかけて包含されていることと､「砂川型式期」に対比される第４期ａ段階の石器群が「休場層」の下層から上層にかけて分布している状態から､本石器群は第４期ａ段階以降で、ナイフ形石器の小形化と多様化が進み、技術基盤としての石刃技法に代表される縦長剥片剥離技術の衰退が顕著となる第４期ｃ段階に比定して大過ないものと思われる。

そして、本文化層のような特徴を持つ石器群は、前述したように箱根山の西麓では確認されており、当地方では当該期の特色のある石器群として認識される存在であった。さらに、このような石器群に類似した石器群は神奈川県の相模野台地の遺跡群でも確認されており、箱根西麓だけに分布する石器群ではなく、地域を越えた石器群であることが判断されるものであった。ただ、当地方では当該期の石器群の蓄積が進まなかったことから、いまだ両地方の石器群に認められる類似点や相違点を検討することはできなかったが、今般のバイパス関係遺跡の調査によって類例が増加したことにより、両地域に分布するこれらの石器群に検討を加えることが可能になっており、今後の課題として認識できるものと思われる。

さらに本文化層のような特徴のある石器群が、どのように生成されたのか不明の点が多く、これ以前の第４期ｂ段階との石器群の相違や継続性の有無等、検討課題となる点が極めて多く存在しており、第４期ｂ段階の石器群を含めて詳細に分析する必要があるものと思われる。このように、本文化層で確認された石器群は、類似する石器群の調査例の増加から、石器群の内容をおおまかには理解できる状況になってきたが、その中でこの石器群が箱根畑宿産の黒曜石を多用し、ナイフ形石器と剥片剥離技術が多様化するという特異性が存在することが明らかとなってきた。このような特異性は、ナイフ形石器石器群の最終末期に相当する石器群故なのか、或いは石材として箱根畑宿産の黒曜石を多用することによって生じたのか、明確には判断することはできないが、当地方ではこれらが融合することによってナイフ形石器石器群の衰退が加速したことが想像されることから、後続すると思われる尖頭器石器群との関わりと共に、ナイフ形石器石器群の崩壊過程に関係する事象の理解が進むことに期待したい。

# 第３節　縄文時代の出土遺物

本地点の調査では、縄文時代に属する遺構は確認されなかったが、遺物としては土器６片と石器１点、礫23点が出土した（第100図）。

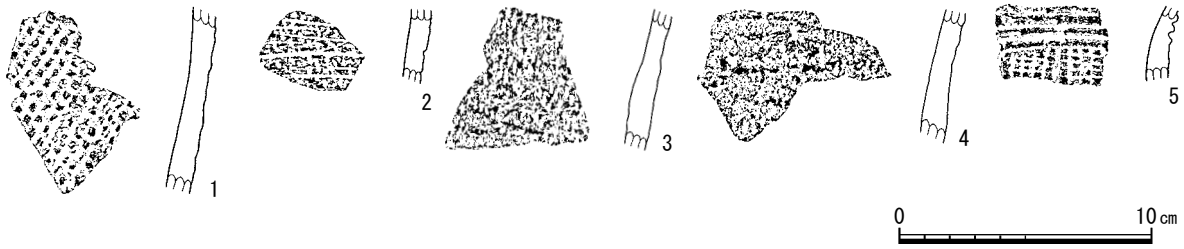



第100図　第19次調査縄文時代遺物分布図

## １．出土遺物

### （１）土　器（第101図）

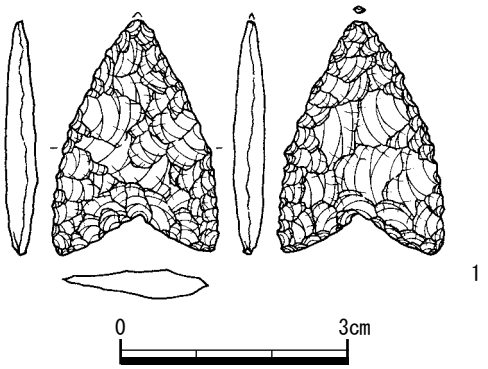
１は早期押型文土器の胴部破片である。楕円押型文が全面にわたって密接に施文され、胎土が緻密で堅緻な土器である。２は前期後半諸磯ｂ式に比定される胴部小破片で、横位の沈線文が数条施され地文に単節縄文ＲＬをもつ。３・４は縄文施文のみの胴部破片で、単節縄文ＲＬの粗い縄文が全面に施される。胎土・調整等から２～４は同一個体と推定される。５は中期初頭五領ヶ台式に属する土器で、屈曲部に相当する部位に横位沈線文が巡り、沈線による格子目文が施文される。




第101図　第19次調査縄文時代出土土器

### （２）石　器（第102図）

１は安山岩を素材とした凹基無茎鏃である。平面の形状は両側縁がやや湾曲し、脚部の抉りに角を持つものである。全体的に調整加工は丁寧に施されている。




第102図　第19次調査縄文時代出土石器

# 第４節　江戸時代以降の遺構と遺物

## １．検出された遺構

本地点の調査では、江戸時代以降に属すると考えられる遺構として、調査範囲南西部で山中城の曲輪拡張時と考えられるローム質の盛土状遺構が検出されたほか、調査区中央部やや西寄りで土坑が１基検出された。また、盛土状遺構の盛土下から第１号柱穴が検出された（第103図）。

### （１）土坑

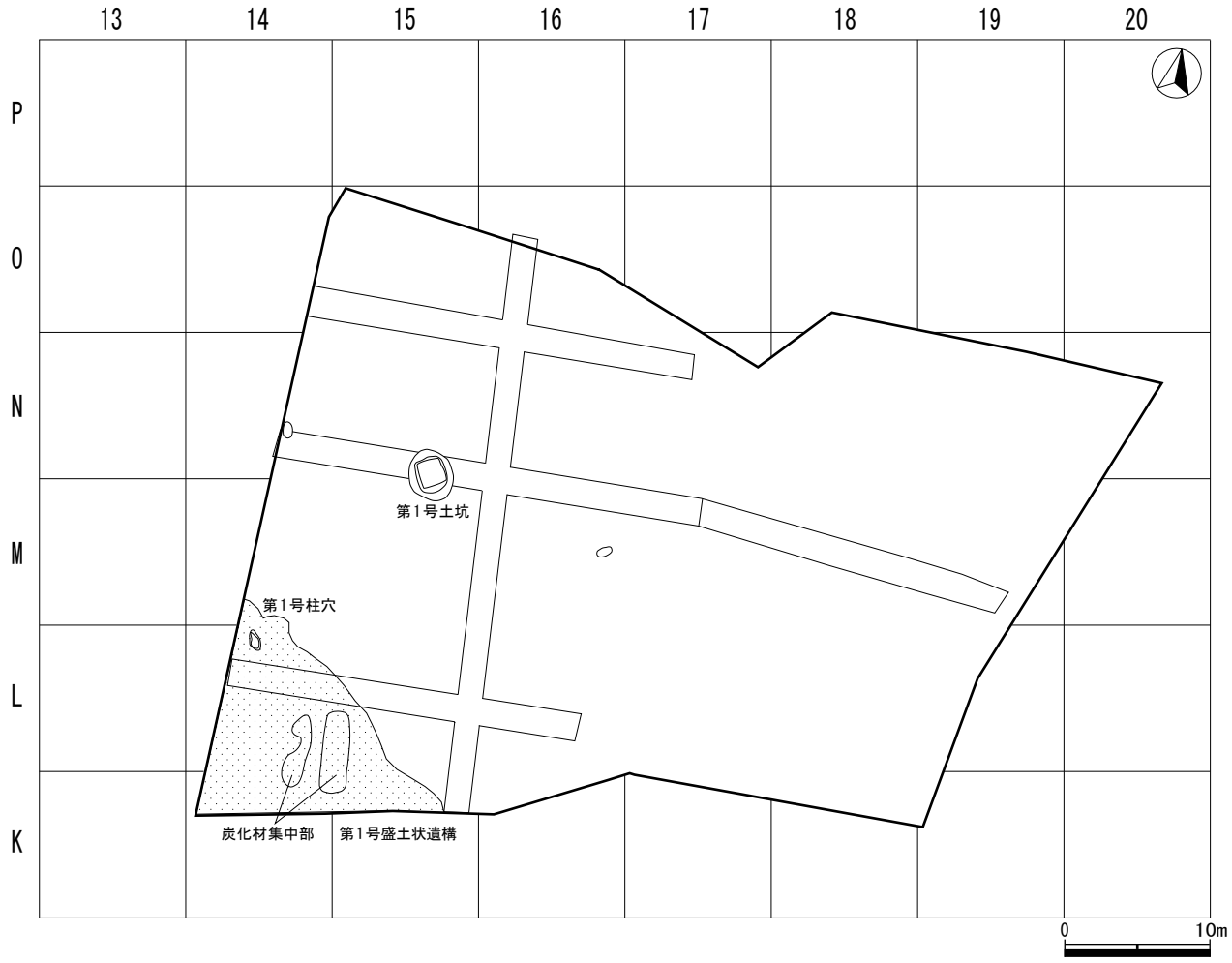
**第１号土坑**（第104図）

本土坑はＭ・Ｎ－15グリッドに位置している。土坑の確認面は標高約577.8m付近である。規模は長径358cm、短径294cm、深さ194cmを測る。平面形はやや丸い楕円形を呈している。本土坑の上面形は楕円形であるが下場形は隅丸方形を呈する。主軸方位はＮ－15°－Ｗである。覆土は締りが無く小石を多く含む。

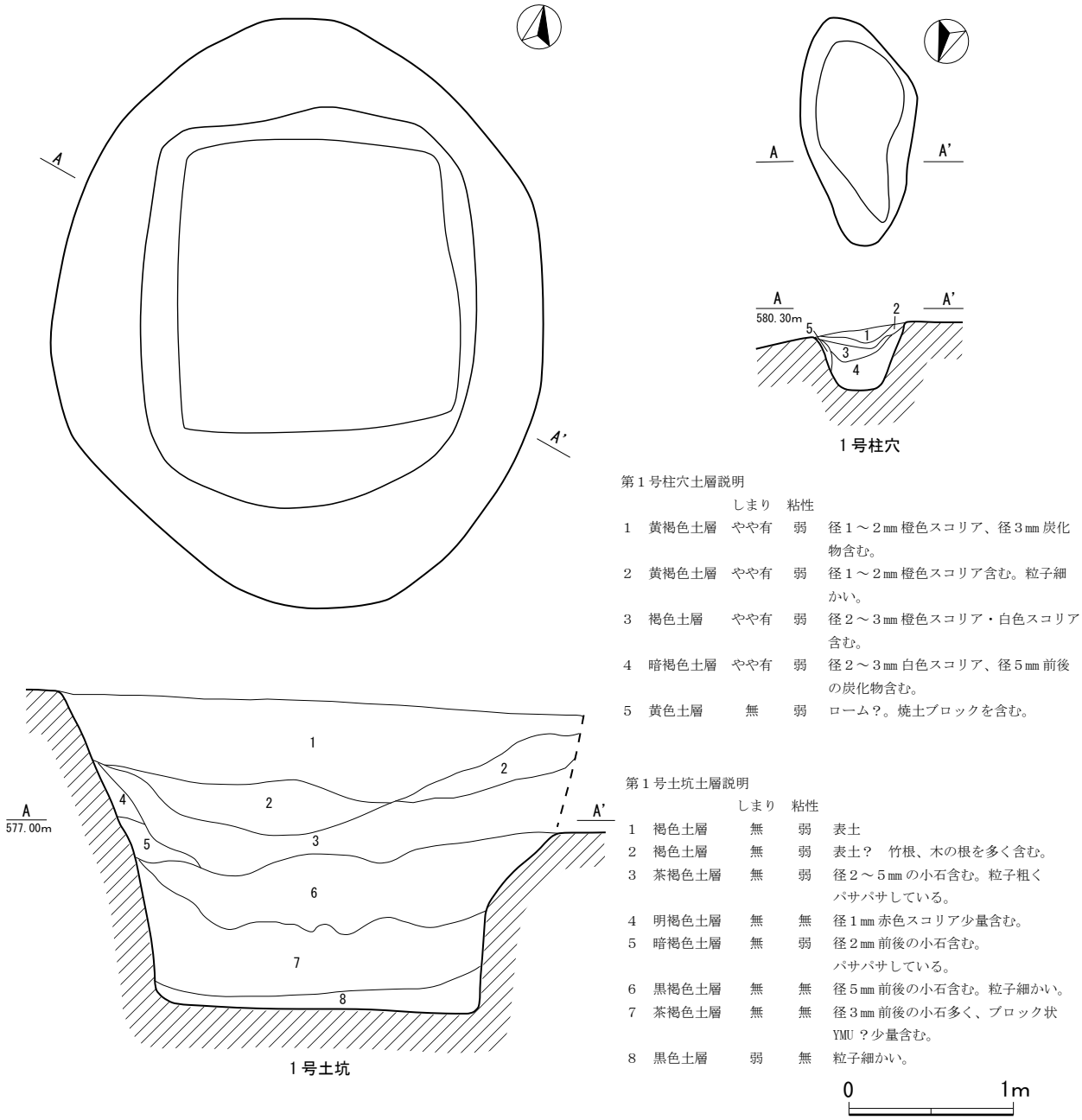
### （２）柱穴

**第１号柱穴**（第104図）

本柱穴はＬ－14グリッドに位置している。土坑の確認面は標高約580m付近である。規模は長径78cm、短




第103図　第19次調査江戸時代以降の遺構配置図及び遺物分布図




第１号柱穴土層説明

| | | しまり | 粘性 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黄褐色土層 | やや有 | 弱 | 径１～２㎜橙色スコリア、径３㎜炭化物含む。 |
| 2 | 黄褐色土層 | やや有 | 弱 | 径１～２㎜橙色スコリア含む。粒子細かい。 |
| 3 | 褐色土層 | やや有 | 弱 | 径２～３㎜橙色スコリア・白色スコリア含む。 |
| 4 | 暗褐色土層 | やや有 | 弱 | 径２～３㎜白色スコリア、径５㎜前後の炭化物含む。 |
| 5 | 黄色土層 | 無 | 弱 | ローム？。焼土ブロックを含む。 |

第１号土坑土層説明

| | | しまり | 粘性 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 褐色土層 | 無 | 弱 | 表土 |
| 2 | 褐色土層 | 無 | 弱 | 表土？　竹根、木の根を多く含む。 |
| 3 | 茶褐色土層 | 無 | 弱 | 径２～５㎜の小石含む。粒子粗くパサパサしている。 |
| 4 | 明褐色土層 | 無 | 無 | 径１㎜赤色スコリア少量含む。 |
| 5 | 暗褐色土層 | 無 | 弱 | 径２㎜前後の小石含む。パサパサしている。 |
| 6 | 黒褐色土層 | 無 | 無 | 径５㎜前後の小石含む。粒子細かい。 |
| 7 | 茶褐色土層 | 無 | 無 | 径３㎜前後の小石多く、ブロック状YMU？少量含む。 |
| 8 | 黒色土層 | 弱 | 無 | 粒子細かい。 |

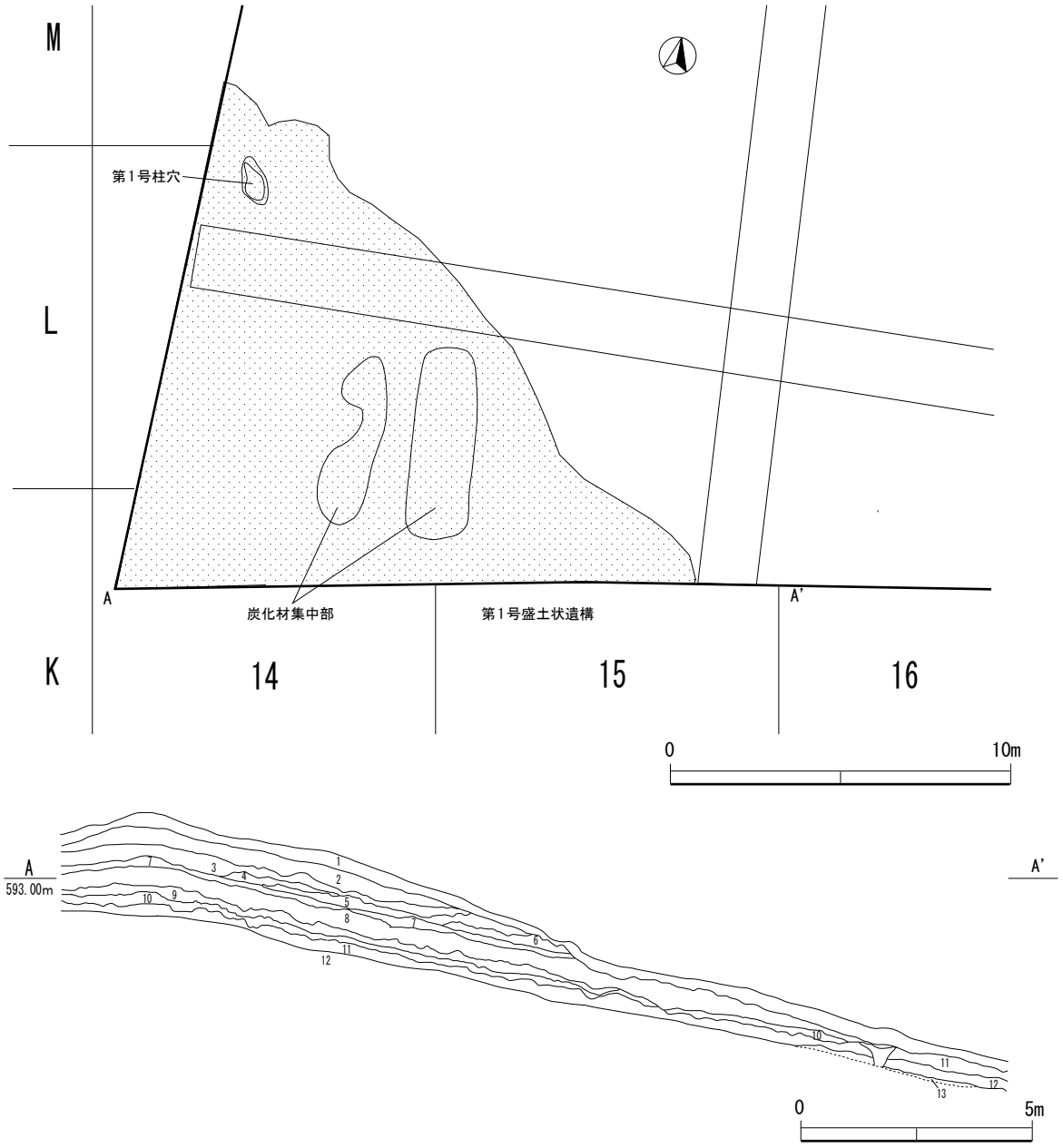
第104図　第19次調査江戸時代以降第１号土坑及び１号柱穴

径35cm、深さ20cmを測る。平面形は不整楕円形を呈する。主軸方位はＮ－30°－Ｗである。覆土には焼土と炭化物を含む。本柱穴は山中城曲輪拡張時と考えられるローム質盛土状遺構直下から検出されたが、盛土状遺構との関係は不明である。

### （３）盛土状遺構

**第１号盛土状遺構**（第105図）

本遺構はＫ～Ｍ－14・15グリッドに位置している。調査範囲の南西端部でローム質土を約２ｍ盛土して構築されている。調査範囲内で確認したのは約17ｍの範囲である。断面観察では、２回の盛土築造が観察され




第１号盛土状遺構土層説明

| | | しまり | 粘性 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒色土層 | 弱 | 弱 | 表土層 |
| 2 | 褐色土層 | 弱 | やや強 | 表土層　径１～５cm 大のロームブロック主体。スコリア・パミスを少量含む。 |
| 3 | 褐色土層 | 弱 | やや強 | 粗い堆積である。拳大から人頭大のロームブロックを主体とする。スコリア・パミスを少量含む。 |
| 4 | 暗褐色土層 | 弱 | 無 | 粗い堆積である。径１～ 10cm 大ロームブロックと細かい黒褐色土を含む。 |
| 5 | 褐色土層 | 弱 | 弱 | 粗い堆積である。径５～ 20cm 大ロームブロックと暗褐色土を含む。ロームがやや疎らである。 |
| 6 | 褐色土層 | 弱 | 弱 | 粗い堆積である。径５～ 10cm 大ロームブロックと暗褐色土を含む。 |
| 7 | 明褐色土層 | やや強 | 強 | やや硬い。細かいローム質土からなり、上層はやや硬くしまっている。下層はやや粗い堆積で拳大のロームブロックを含む。 |
| 8 | 明褐色土層 | やや弱 | 強 | やや軟らかい。径５cm 以下の比較的小型のロームブロックの層で、ローム質の盛土層の中ではしまっている。 |
| 9 | 明褐色土層 | やや弱 | 強 | やや軟らかい。径５cm 以下の比較的小型のロームブロックの層であるが、拳大から人頭大ロームブロックも多く含まれる。ローム質の盛土層の中ではしまっている。 |
| 10 | 暗灰褐色土層 | やや強 | 強 | やや軟らかい。細かいローム粒子、炭化物微量混入する。第１号柱穴の確認面である。 |
| 11 | 褐色土層 | やや強 | 強 | やや軟らかい。径２mm 大の白色・橙色スコリア少量含む。炭化物微量含む。 |
| 12 | 明褐色土層 | 強 | 強 | 径３～５mm 大の黒色スコリアを多く含む。 |

第105図　第19次調査江戸時代以降第１号盛土状遺構

る。１回目の盛土は10･11層とした旧表土層上に拳大から人頭大ロームを含む明褐色土（７～９層）である。上面は比較的硬く締まっている。２回目の盛土は３～６層で拳大から人頭大ロームブロックを含むが、全体に軟らかく粗い。この盛土は小田原攻め前の城普請によるものであろうか。

## ２．出土遺物

### （１）磁　器（第106図）

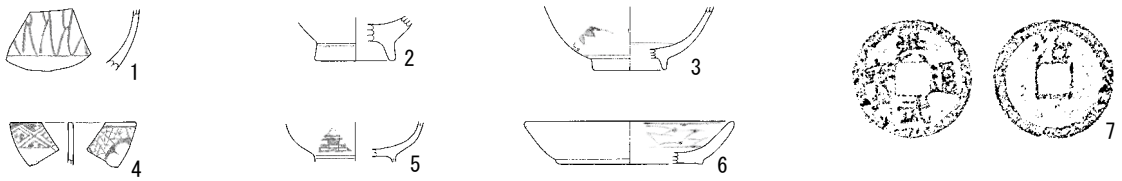
１～５は肥前系磁器である。１・２は1640～1650年代に生産された初期伊万里丸碗で、１の体部外面には網手文が染付されている。２の高台部脇には一重圏線が染付されている。３は1690年代～18世紀代に生産された丸碗で、体部外面には草花文、見込みには二重圏線が染付されている。４は1740～1810年代に生産された、腰張碗・ハの字高台碗で、４の外面には氷裂文と菊文、口縁部内面には四方襷文が染付されている。５は1740～1810年代に生産された、腰張碗で、外面には市松文、高台脇には二重圏線が染付されている。

### （２）陶　器（第106図）

６は瀬戸美濃産陶器で、志野織部皿である。内外面に長石釉を施釉し、鉄釉により口縁部と見込みに一重圏線を描いている。

### （３）銭　貨（第104図）

７は渡来銭貨（中国）である。銭名は洪武通寶で、初鋳年代は明代1368年である。混入の可能性がある。




第106図　第19次調査江戸時代以降出土遺物（１～６－S=1/3、７－S=2/3）

# 第５章　調査の成果と課題

山中城遺跡の旧石器時代石器群から見た尖頭器の組成状態とその内容

## Ⅰ

今回、報告した山中城遺跡第28次調査（笹原山中バイパス第11地点）と山中城遺跡第19次調査（笹原山中バイパス第13地点）の二遺跡で確認された旧石器時代の石器群は、第19次調査の第Ⅰ文化層とした少量の細石刃石器群を除くと、殆どの石器類はナイフ形石器石器群の終末期に比定することが可能な石器群であり、石器群の内容や特徴からこれらは同時期の所産であることが推定される状況であった。さらに、隣接する願合寺Ａ遺跡（伊藤・麻生　2014）や、尾根上に位置する山中城跡三ノ丸第１地点や山中城跡三ノ丸第２地点でも、当該期やそれに前後する時期の遺跡（文化層）が確認されており、本地域が同時期の遺跡の密集した地域であることが予測される内容を示していた。このように、両遺跡では終末期に比定されるナイフ形石器石器群が確認され、諸形態のナイフ形石器の他に、尖頭器、掻器、削器、削器＋ノッチ、彫器等の各器種が少量ずつではあるが組成されていた。だだ、ナイフ形石器石器群の終末期では尖頭器の組成が増える傾向にあることが通例であるが、今回報告した28次調査では半両面加工の欠損品と、未製品の可能性のある両面調整石器（報告では石核とした）の僅か２点で、19次調査にいたっては尖頭器の出土は確認されなかった。しかしながら、今回のバイパス建設に伴って調査された山中城Ｅ遺跡第Ⅱ文化層（未報告）では、同じように終末期のナイフ形石器石器群が検出されているが、ナイフ形石器と同程度の数量の尖頭器が出土しており、遺跡の規模や居住期間等によって、石器類の保有状態に相違が生じることは、必ずしも起こり得ない事ではないと思われるが、尖頭器の保有のあり方には安定しない何等かの事象が存在することが想像されるものであった。しかしながら、そのような事象を推察することは難しいと思われることから、ここでは当地方での尖頭器のあり方を整理し、まとめとしたい。

なお、急斜な調整剥離によって製作された尖頭石器である所謂「角錐状石器」は、機能的には尖頭器と同質の器種と思われるが、ここでは面的な調整が施された尖頭器を対象とするため別器種として除外して、記述していくことにしたい。

## Ⅱ

### ［相模野編年第Ⅳ期前半比定石器群］

所謂「砂川型式期」に該当する石器群であるが、当地方では技術基盤である石刃技法を駆使し、多くの石器類が石刃を素材として製作されている典型的な「砂川型式期」の石器群と、これに比べると石器類全体が寸づまりで小形な傾向を示す石器群で、石刃素材の石器類は多くが認められるものの、石刃の数量は比較的少なく、しかも石核には90度の打面転位を繰り返しながら剥片剥離を行うため打面が固定されていない工程や、剥片剥離作業面を固定し、打面は固定しないで周辺から求心的な剥片剥離を行っている工程等が確認されており、技術基盤が石刃技法だけに限定されていない石器群が存在している。このような石器群の内容から、当地方では後者の石器群を典型的な「砂川型式期」の石器群とは区別し、段階差として理解していることから、両石器群の内容を個別に確認していきたい。

### １．愛鷹・箱根山麓の旧石器編年　第４期ａ段階

相模野編年第Ⅳ期前半に該当する時期で、尖頭器が確実に石器群の組成に加わる所謂「砂川型式期」に

相当する時代である。基本的な石器群はナイフ形石器石器群で、尖頭器はこれに伴って数点が出土する状況が一般的であるが、中には組成しない石器群（大奴田場Ａ遺跡第Ⅱ文化層や山中城跡三ノ丸第２地点）も認められており、当該期も組成にばらつきが存在することが理解される。主体的な器種であるナイフ形石器は、組織的な工程によって生産された縦長剥片である石刃を素材とすることが一般的で、石刃以外の素材を利用しているものは僅かに認められる程度である。したがって、ナイフ形石器の製作に適した定形剥片剥離技術（石刃技法）が駆使され、組織的なナイフ形石器製作技術体系が構築されている状態であることから、その中で組成されている尖頭器は素材のあり方や調整方法の相違から、構造外（稲田　1969）の器種として評価されており、ナイフ形石器製作技術体系とは異質な加工技術体系が石器群の中で利用されていることが推察される状態にある。そして、石器群には多量の石刃が残されていることが通例で、当地方の当該期に比定される南山Ｄ遺跡第１地点第Ⅱ文化層（以後は南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱと略記、他遺跡も同様）ではナイフ形石器の約1.6倍、函南町の上原遺跡Ⅱでは約0.8倍の出土量があり、ナイフ形石器や使用痕のある剥片等の素材に利用されているものを加えると、器種類の数倍の石刃が生産されていたことが読み取れる。当該期に比定された、これら二遺跡と上黒岩遺跡から確認された尖頭器の形状は多彩で、通常、認められる両面加工、半両面加工、片面加工のものが組成した当初から存在している状態であった。ただ、これらの遺跡でも数点ずつ、少量が確認されただけで、しかも欠損品として出土しているものが多いことから、大きさ等は不明な点が多いのが現状である。この中で94.0mmと、最も大形の両面加工の尖頭器が確認されたのは南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱで、上原遺跡Ⅱでは基部を欠損する59.5mmの片面加工のもの、上黒岩遺跡では先端部を欠損する56.2mmの半両面加工の例があり、60～100mm程度の比較的大形の尖頭器が作製されていたことが判る。さらに、上黒岩遺跡と南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱで出土している基部片を見ても、50mm以上の大きさに復元されるものが大部分を占めており、当該期では比較的大形の尖頭器が求められていたことが窺える。ただ、南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱと上原遺跡Ⅱでは、22mm以上30mm以下の尖頭器未製品と思われるものが確認されており、大形の尖頭器だけが作製された訳ではないことが理解できよう。

南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱでは未製品が黒曜石の他はガラス質黒色安山岩製で、上原遺跡Ⅱと上黒岩遺跡では全て黒曜石を原材としており、ナイフ形石器とともに黒曜石を原材に利用している傾向が高いようである。

### ２．愛鷹・箱根山麓の旧石器編年　第４期ｂ段階

相模野編年第Ⅳ期前半に比定される時期ではあるが、愛鷹・箱根山麓の旧石器編年第４期ａ段階が典型的な所謂「砂川型式期」に対比されているのに対し、砂川型式期に比べるとナイフ形石器と尖頭器ともに小形化している傾向の認められる石器群で、柳沢Ｃ遺跡Ⅲ、初音ケ原Ｂ遺跡第１地点、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲ、初音ケ原Ａ遺跡第２地点Ⅰ、初音ケ原Ｂ遺跡第３地点Ⅰ等が挙げられる。小形化以外の特徴は、前述したように石刃技法以外の剥片剥離技術を保持していることから、必然的に横長剥片や縦横の長さに差のない方形に近い剥片等を素材とした石器類が増加しており、石刃素材の石器類は減少傾向にある。各遺跡での石刃の出土量を見てみると、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲではナイフ形石器の約0.58倍、柳沢Ｃ遺跡Ⅲは約0.97倍、初音ケ原Ａ遺跡第２地点Ⅰが約0.91倍、初音ケ原Ｂ遺跡第３地点Ⅰは0.66倍を示しており、第４期ａ段階の石器群のようにナイフ形石器の数量を凌駕する石刃を保有する石器群は認められなかった。この様な事象は、石器素材としての石刃の需要が低下し、遺跡内で積極的に石刃の生産や保有が計られなくなってきたことが推測されることから、必要に応じて最小限度の剥片剥離によって素材剥片が作出されていた可能性もあるものと思われる。勿論、石器素材となる石材の入手状況からも剥片剥離の多寡は左右されるものであり、当該期では長野県産の黒曜石を主体として、チャート、ガラス質黒色安山岩、凝灰岩、玉髄、ホルン

フェルス、赤玉石（鉄石英）等が原材となっており、限定された安定的な石材供給地がなかったことが一因である可能性もあるものの、同じような石材を利用している第４期ａ段階では、より在地系石材に近いガラス質黒色安山岩（南山Ｄ遺跡第１地点Ⅱ）やホルンフェルス（山中城跡Ｅ遺跡Ⅲ－未報告－）の石刃を多量に生産している遺跡もあることから、この様な石刃の多寡は時代差による剥片剥離技術と石刃素材への需要の変化に対応したものであることと理解しておきたい。

これらの遺跡から出土している尖頭器は１点以上８点以下で、ナイフ形石器石器群の中で客体的な存在であったことが明らかであり、このような状況は第４期ａ段階と類似していることが判る。各遺跡のナイフ形石器の数量と比べてみると、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲでは約22.2％（未製品を含めて８点）、柳沢Ｃ遺跡Ⅲでは約6.67％（２点）、初音ケ原Ａ遺跡第２地点Ⅰが約2.27％（１点）、初音ケ原Ｂ遺跡第３地点Ⅰでは７％（未製品を含めて７点）で、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲが比較的保有量が多いものの、他の３遺跡では数％から７％を示しており、多くの遺跡では尖頭器はナイフ形石器に比べると１割以下の数量で構成されるのが一般的な様であった。そして、これらの遺跡で確認された尖頭器の形態は多様で、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲでは両面加工が３点、半両面加工が４点、片面加工が１点、柳沢Ｃ遺跡Ⅲでは半両面加工が２点、初音ケ原Ａ遺跡第２地点Ⅰでは周縁加工のものが１点、初音ケ原Ｂ遺跡第３地点Ⅰは両面加工が２点、半両面加工が３点、片面加工のものが２点であった。このような内容を見てみると、当該期の尖頭器は両面加工のものは５点（約27.8％）と割合と少なく、多くのものが半両面加工や片面、周縁加工の例で、素材の剥離面や主要剥離面を残して加工されている例であった。そして、初音ケ原Ｂ遺跡第３地点Ⅰの２点の片面加工のものには、調整にブランティングと思われる急斜な加工が施されており、ナイフ形石器の製作技術を尖頭器の加工に運用していることが推定されることから､両器種の調整技術には混乱が生じていることが推察できる。そして、完形と思われるものの大きさは、最大が山中城跡三ノ丸第１地点Ⅲの40.1mmで、最小も同遺跡の24.9mmで、平均すると約31.5mmであり、３cm前後の大きさに集中している状態であった。欠損品を見ても大形の尖頭が想定できるような資料はなく、３cm前後から、大きくても５cm程度のものに集約されそうであり、前段階の第４期ａ段階に比べると小形化が進んでいることが指摘できるものと思われる。このような小形化の進行は、半両面加工や片面加工、周縁加工のものが増加していることと関連し、ナイフ形石器と素材剥片の共用が計られていた可能性が高いものと思われ、尖頭器の製作をナイフ形石器製作技術体系の中に組み入れようとしていることが窺えるものである。

石材は長野県産の黒曜石で占められているが、ガラス質黒色安山岩、玉髄、粘板岩製のものが各１点出土しており、石材のあり方はナイフ形石器の状態に類似している。

### ［相模野編年第Ⅳ期後半比定石器群］

愛鷹・箱根山麓の旧石器編年の第４期ｃ段階に相当する時期で、今回調査された第28次調査と、第19次調査Ⅱ、願合寺Ａ遺跡Ⅱ、山中城跡Ｅ遺跡Ⅱ（未報告）、塚原初音原遺跡（山内　1975・鈴木　2009）、長泉町八分平Ｂ遺跡（平川・袴田　1981）等が該当する。これらの石器群もナイフ形石器を主体とする石器群であるが、前述した第19次調査Ⅱのように尖頭器を組成していないものがあったり、前段階のように数点の尖頭器を持っているもの（塚原初音原遺跡、願合寺Ａ遺跡Ⅱ）や、ナイフ形石器と同じ位の数量の尖頭器を保有しているもの（山中城跡Ｅ遺跡Ⅱ、長泉町八分平Ｂ遺跡）があり、尖頭器の組成状態に大きな相違のある時期である。そして､愛鷹山麓に所在する長泉町八分平Ｂ遺跡以外の箱根山麓で調査されたこれらの遺跡群は、多くの石器類を箱根の畑宿産の黒曜石を原材とした石器群が形成されており、極めて特徴的な内容を示していた。石器群の詳細は前述しているので繰り返さないが、特徴の幾つかを述べておくことにしたい。

当該期も基本的にはナイフ形石器石器群として捉えられているが、ナイフ形石器に対応する定形剥片の存在が稀薄となり、石刃技法のような組織的な剥片剥離工程が殆ど認められず、打面再生や調整を殆ど施さないで剥片剥離を進めている縦長剥片剥離技術や、打面や主要剥離面を固定せず90度の打面転位を繰り返しながら、縦横の長さに差のない方形に近い剥片を剥離する剥離技術、剥片剥離作業面を固定し、これの周辺から求心的な剥片剥離を行う技術等があり、これらの剥片剥離技術に対応した多様なナイフ形石器が製作されている。本遺跡第28次調査や塚原初音原遺跡では、断片的な尖頭器しか確認されていないため他の遺跡を見てみると、願合寺Ａ遺跡Ⅱでは８点が出土し、両面加工のものが５点（未製品１点を含む）、周縁加工のもの１点、片面加工のものが２点で、これらの大きさは最大のものが52.8mm、最小のものが25.7mmであり、他の欠損している４点は小形のもので、復元しても50mm以下のものであった。したがって、願合寺Ａ遺跡Ⅱでも最大でも50mm前後以下の大きさであり、大きさは第４期ｂ段階の尖頭器の様相に類似する状況が認められていることと、両面加工の例が増加していることが願合寺Ａ遺跡Ⅱの特徴として挙げられよう。これら第４期ｂ段階の組成に類似した石器群以外には、ナイフ形石器と同程度の尖頭器を保有している長泉町八分平Ｂ遺跡と山中城跡Ｅ遺跡Ⅱ（未報告）があり、その内の八分平Ｂ遺跡では尖頭器の殆どが50mm以下で、形態的には両面加工と半両面加工、片面加工のものが認められるが、後二者が主体的な形態であり、多くのものがナイフ形石器の製作技術体系の中で作製されていることが窺えるものである。山中城跡Ｅ遺跡Ⅱではナイフ形石器と尖頭器をほぼ同数（未製品を含む）で持ち、尖頭器には両面加工と半両面加工、片面加工等の諸形態のものが認められている。尖頭器の半数以上は両面加工（未製品を含む22点）で、これらの中で最大のものは両端を欠損する55.4mmの例があり、他のもので50mmを越えていたのは２点で、大部分のものは30～40mm前後のもので占められていたが、21.0mmの極めて小形のものも存在している。山中城跡Ｅ遺跡Ⅱの尖頭器の特徴は、出土量と両面加工品が増加することと、少ない量ではあるが50mmを大きく越えるものが製作されていることである。このような50mmを大きく越えるような尖頭器は、ナイフ形石器の製作技術体系の中で素材を生産することは難しい存在であることや、両面加工の尖頭器の増加からは薄手幅広な素材を多量に必要とすることから、ナイフ形石器製作技術体系以外の剥片剥離技術が運用されていることが推定されるとともに、石器群の中で普遍化していく過程として理解できるものと思われる。

これら尖頭器の石材は黒曜石が多いが、長野産の黒曜石の他に天城柏峠産や箱根畑宿産のものが加わり、他の石材としてはガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス、トロトロ石、チャート等が確認されており、第４期ｂ段階に比べると、より在地系の石材が利用されているようである。

### ［相模野編年第Ⅴ期比定石器群］

相模野台地の第Ⅴ期は、前半が尖頭器石器群、後半が細石刃石器群で構成されている。当地方の愛鷹・箱根山麓の旧石器編年の第５期は細石刃石器群が比定されており、相模野編年第Ⅴ期前半に位置付けられている尖頭器石器群は存在が疑問視されているのが現状である。しかしながら、最近の調査によって断片的ではあるが尖頭器石器群が確認されており、これらが相模野台地の第Ⅴ期前半に対応する石器群であるかは明らかではないものの、同時期に尖頭器石器群が形成されている可能性があることが想定できる状態であった。したがって、ここでは確認された尖頭器石器群を見ていくことにしたい。

#### １．尖頭器石器群

箱根西麓では山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱと東山遺跡Ⅱから、愛鷹山南東麓では富士石遺跡第２地区（広瀬1989）で確認されている。山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱからは、少量の形骸化したナイフ形石器（尖頭器の約

33.9%）と、掻器、削器、ピエス・エスキーユ等が出土し、東山遺跡Ⅱでも掻器、ピエス・エスキーユが確認されている。ただ、富士石遺跡第２地区は断片的な資料で、尖頭器以外の器種の出土は明確ではない。このように当地方で確認されている尖頭器石器群は､山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱのナイフ形石器を別にすると、掻器、削器、ピエス・エスキーユ等が認められているだけで、比較的単純な石器組成が形成されているようである。したがって、当地方の尖頭器石器群にはナイフ形石器を保有する石器群と、保有しない石器群があり、ナイフ形石器以外の器種は共通していることが窺える。東山遺跡Ⅱで出土した尖頭器の形態は、１点が周縁加工の例であったが、その他は全て両面加工のものであり、尖頭器の調整形態が両面加工に集中していることが理解される。山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱでも状況は類似し、製品と考えられる尖頭器の中で数点の半両面加工のものと周縁加工の例が存在するだけで、殆どのものは両面加工のものであった。尖頭器の大きさは、東山遺跡Ⅱで最大のものは先端部を欠損する86.0mmで、最小のものはこれも先端部を欠損している51.0mmの例であった。山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱでは最大のものが100.6mm、最小のものは未製品の中の46.1mmであり、両遺跡とも50mm以上の大きさのものが大勢を占めていることが判るとともに、当該期以前の時期に比べると各段に大形化していることが推察できる。

これらの尖頭器の石材となっているのは、東山遺跡Ⅱではガラス質黒色安山岩が大部分を占め、山中城跡三ノ丸第１地点Ⅱでは箱根畑宿産の黒曜石が主体的であるが、相当量のガラス質黒色安山岩と少量のホルンフェルスが利用されていた。したがって、比較的近距離で人手できる在地系と言えるような石材によって製作されていることと、これらの石材以外では両面加工の尖頭器に対応する素材となる大形薄手の剥片を作製することは、難しい状況であったことが推察できる。

### ２．細石刃石器群

本地域では、愛鷹山麓で確認された休場遺跡（杉原・小野　1965）調査以降、大規模な開発に伴って多くの細石刃石器群が確認されている。これらの細石刃石器群の多くは、所謂「野岳・休場型」、或いは「非削片系」と呼称される細石刃石核が確認され、細石刃の他は掻器、削器、ピエス・エスキーユ、石核等を組成するものであった。これらの石器群の殆どが黒曜石を原材とし、僅かに安山岩、ガラス質黒色安山岩、硬砂岩等が認められる程度で、しかも黒曜石の中では神津島産の黒曜石を原材とする遺跡や文化層が目に付く状況にあった。そして、これらの多くの「野岳・休場型」の細石刃石核が確認されている遺跡では、前段階で隆盛を誇った尖頭器が組成に含まれておらず、尖頭器石器群は細石刃石器群によって駆逐されてしまった観がある。ただ、細石刃石器群の中では後続すると考えられている削片系細石刃石核を伴う相模野台地の石器群では、大形の尖頭器が組成されており、ナイフ形石器石器群の中で熟成されてきた尖頭器とは別系統の、細石刃石器群に共存する尖頭器群の存在が確認されており､「野岳・休場型」の細石刃石核の時期だけは尖頭器が欠落していることが推測される状態である。しかしながら本地域では、いまだ削片系細石刃石器群は検出されていないため不明な点が多いが、この後は所謂「長者久保・神子柴文化」（佐藤　1971）や縄文時代草創期に伴う尖頭器や、有舌尖頭器に移行していくことが理解されており、尖頭器製作の伝統は今少し続くことになる。

### Ⅲ

いままで本地域における尖頭器の組成状態を簡単に見てきたが、この中でいくつか状況や問題点が明らかになってきた。以下ではこれらに触れることによって、まとめとしたい。

尖頭器は、現状では愛鷹・箱根山麓の旧石器編年の第４期ａ段階で発生し、ナイフ形石器石器群の構成器

種として組成されていき、第５期前半の尖頭器石器群までは存続していることが理解された。それらの保有量を見てみると、第４期ａ～ｂ段階にかけては保有量は少数ながら組成状態は安定しており、数点～10点未満が出土するのが一般的であった。これに対して第４期ｃ段階は保有量は安定せず、中には第19次調査Ⅱのように組成していない石器群や、ナイフ形石器に比肩する数量を持つ石器群があったりと、尖頭器の保有状態は極めて多様で流動的である。そして、発生期の第４期ａ段階では構造外と評価（稲田　1969）されたように、完成された状態でナイフ形石器石器群の組成に加わっており、ナイフ形石器製作技術体系以外の技術で作製されていることが理解されている。しかし、第４期ｂ～ｃ段階になると尖頭器は小形化し、ナイフ形石器製作技術体系の中で製作されるようになっており、ナイフ形石器の製作技術体系に同化させようとしていることが推察される状況にあった。ただ、ナイフ形石器と尖頭器では素材剥片に求める条件が相違していることは明らかであり、矛盾点を内包したまま折衷が試みられたことで、小形の半両面加工や片面加工の尖頭器が製作されることが多かったことが予想できるものと思われる。このような現象は、ナイフ形石器の製作に特化した剥片剥離技術である石刃技法の衰退を加速させ、剥片剥離技術の存在意義を著しく低下させることになり、ナイフ形石器製作技術体系の変質を招いてしまった可能性が高い。このような中で、第４期ｂ段階では小形の半両面加工や片面加工の尖頭器が製作されていくが、第４期ｃ段階になると両面加工の尖頭器の製作が増加しており、再度、第４期ａ段階のようにナイフ形石器製作技術体系から独立した尖頭器の製作技術体系の確立が計られていることが想像できそうである。そして、このような過程の中でナイフ形石器製作技術体系の崩壊が進むことによって、ナイフ形石器製作の減少と尖頭器の量産が進行していったことが想定されるようである。この結果、第５期前半の尖頭器石器群が登場することになったものと推定されるが、まだ調査例が少ないため、このような推定が妥当なものかは断定できないのが現状である。ただ、第４期ａ段階から第５期前半までの尖頭器の大きさの変化は示唆的で、第４期ａ段階が50mm以上、100mm前後の大きさのものが大部分を占め、第４期ｂ～ｃ段階では30～40mmのものが殆どで、比較的大きなものでも50mm強であり、平均化した大きさのものが製作されている時期である。そして第５期前半の尖頭器石器群では、50mm弱から100mm強の大きさのものが主体的であり、第４期ａ段階と同様の大きさに再構築されていることが判ることから、第４期ｂ～ｃ段階で認められた小形化は、尖頭器に求められている機能的大きさに則した現象ではなく、ナイフ形石器と尖頭器の石器製作体系を折衷させる中で生じたもので、言わば「構造」内に取り込む過程であった可能性が高いものと思われる。しかし、現実的には第５期前半になると尖頭器は大形化し、ナイフ形石器も形骸化した形態のものが殆どを占めるようになり、ナイフ形石器製作技術体系に関わる石刃や石核は皆無となり、尖頭器の石器製作技術体系だけが存続する状態になっており、ナイフ形石器製作技術体系は消滅することになる。ただ、存続し、確立された尖頭器石器群も、短期間の内に後続する細石刃石器群に駆逐されてしまったようで、本地域では細石刃石器群に比べると遺跡数が少ない状態が続いている。そして、本地域でも「野岳・休場型」の細石刃石核が形成されている時期では、尖頭器が組成されない可能性が高いことが判断された。このような現象は隣接する相模野台地の遺跡群でも指摘されており（拙稿　1988）、共通する現象が二地域で認められることが明らかなことから、細石刃石器群の波及は“燎原の火”の如く、急速に拡散したことが想像されるものである。

以上のように、本遺跡群で確認された終末期に比定されるナイフ形石器石器群の尖頭器の組成状態から、派生する尖頭器の状態を取り止めなく記述してきた。調整が全面を覆うという器種的な特徴から、研究対象としては難しい器種であるが、今後の研究課題のいくつかが提示されたとすれば望外の喜びである。

# 第６章　自然科学調査

## 第１節　自然科学分析

山中城遺跡第19次調査で出土した木材を対象に平成６年度に樹種同定と放射性炭素年代測定を実施した。以下に、分析目的について述べる。

炭化材集中部ならびに第１号柱穴は、山中城築城以前の旧表土層で確認された遺構で、炭化材が多数検出されている。これらの時代性は、山中城が築城された16世紀半ばから後半、もしくはそれ以前であるとされる。これらの遺構から検出された炭化材の同定を行い、当時の植物利用状況や周辺植生に関する情報を得ることを目的とする。一方、ローム層中に木材が埋没している状態が確認された。その時代・用途などは不明であるため、樹種同定を行い、ローム層中の木材に関する情報を得る。

さらに、樹種同定と同一試料で放射性炭素年代測定を実施し、遺構・遺物の時代観に関する情報を得る。

### １．試　料

樹種同定試料は、第１号柱穴出土の小型材片（１～４）４点、炭化材集中部出土の薄い板状の木材（５～８）４点、炭化材集中部出土の直径５cm以上の太い木材（９～12）４点、炭化材集中部出土の直径３cm程度の枝材（13～16）４点、ローム層中出土の埋没木材（17）（写真１）１点の計17点である。ローム層中の木材は炭化していないが、他のものはいずれも炭化している。

放射性炭素年代測定には、炭化材集中部出土の炭化材（試料番号１）、第１号柱穴出土の炭化材（試料番号２）、ローム層中に埋没していた木材（試料番号３）の３点を用いる。

### ２．方　法

**（１）放射性炭素年代測定**

測定は学習院大学木越研究室に依頼し、LIBBYの半減期5,570年を使用した。

**（２）樹種同定**

非炭化の木材は、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。一方炭化材は、３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

### ３．結　果

**（１）放射性炭素年代測定**

結果を第７表に示す。試料番号１と３は近い年代値が得られているが、試料番号２はこれらに比べて古い年代値を示している。

写真１　第19次調査出土の埋没木材

第７表　放射性炭素年代測定結果

| 番号 | 試料名 | 性状 | 年代値（1,950よりの年数） | | Code No. |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 炭化材集中部 | 炭化材 | 710±80 | A.D.1,240 | Gak-18772 |
| 2 | 第１号柱穴 | 炭化材 | 2,550±90 | 600B.C. | Gak-18773 |
| 3 | ローム層埋没木材 | 木材 | 820±80 | A.D.1,130 | Gak-18774 |

### （２）樹種同定

樹種同定結果を、表８に示す。試料番号７は樹皮であった。その他の試料は、針葉樹２種類と広葉樹１種類に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を、以下に記す。

・スギ（Cryptomeria japonica（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞は、ほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はスギ型で２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

・ヒノキ属（Chamaecyparis）　ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型～スギ型で１～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

以上の特徴から、ヒノキ属の中でもサワラの可能性が高いが、保存状態が悪いために充分な観察ができず、ヒノキ属とした。

・コナラ属アカガシ亜属（Quercus subgen. Cyclobalanopsis）　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は短接線状および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は不明瞭。

第８表　樹種同定結果

| 番号 | 出土遺構 | 形状 | 同定結果 | 番号 | 出土遺構 | 形状 | 同定結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 第１号柱穴 | 小型材破片 | ヒノキ属 | 10 | 炭化材集中部 | 径５cm以上の木材 | コナラ属アカガシ亜属 |
| 2 | 第１号柱穴 | 小型材破片 | ヒノキ属 | 11 | 炭化材集中部 | 径５cm以上の木材 | コナラ属アカガシ亜属 |
| 3 | 第１号柱穴 | 小型材破片 | ヒノキ属 | 12 | 炭化材集中部 | 径５cm以上の木材 | コナラ属アカガシ亜属 |
| 4 | 第１号柱穴 | 小型材破片 | ヒノキ属 | 13 | 炭化材集中部 | 径３cm程度の枝材 | コナラ属アカガシ亜属 |
| 5 | 炭化材集中部 | 薄い板状 | ヒノキ属 | 14 | 炭化材集中部 | 径３cm程度の枝材 | コナラ属アカガシ亜属 |
| 6 | 炭化材集中部 | 薄い板状 | コナラ属アカガシ亜属 | 15 | 炭化材集中部 | 径３cm程度の枝材 | コナラ属アカガシ亜属 |
| 7 | 炭化材集中部 | 薄い板状 | 樹皮 | 16 | 炭化材集中部 | 径３cm程度の枝材 | コナラ属アカガシ亜属 |
| 8 | 炭化材集中部 | 薄い板状 | ヒノキ属 | 17 | 埋没木材 | 径22cm程度の木材 | スギ |
| 9 | 炭化材集中部 | 径５cm以上の木材 | コナラ属アカガシ亜属 | | | | |

## ４．考　察

放射性炭素年代測定の結果から、ローム層中の埋没木材と炭化材集中部は、平安時代末期～中世初頭の年代値を示すが、これらと比べて第１号柱穴が極端に古い。一方で、樹種構成からいえば、炭化材集中部、第１号柱穴ともヒノキ属が含まれており、同時期のものと考えても矛盾しない。このように、遺構出土の２点は当初考えられていたよりも古い値が得られているが、古い炭素の汚染による影響なども考えられる。したがって、時代観に関しては、今後考古学的所見なども加味しながら検討していく必要がある。

炭化材集中部から出土した炭化材は、出土状況から、試料番号５～８は薄い板状、９～12は径５cm以上

の木材、13～16は３cm程度の枝材と考えられている。樹種同定結果と合わせると、薄い板状の炭化材には、ヒノキ属２点、アカガシ亜属１点、樹皮１点が認められた。一方、他の炭化材は全てアカガシ亜属であった。この結果から、薄い板状とその他では、用材が異なっていた可能性がある。発掘調査時にこれらの炭化材は、曲輪の拡張時に不要な木材を焼却処分した残渣と考えられている。そのため、各形状の用途などは不明であるが、樹種や形状を考慮すれば、薄い板は屋根等に利用された可能性もある。また、その他の形状は、屋根以外の構築部材などの可能性もある。今後、当該期の建築様式等とも比較しながら検討したい。

第１号柱穴から出土した炭化材は、全てヒノキ属であった。これらの炭化材は、いずれも小型の破片であり、元の形状は不明である。そのため、用途などの詳細は不明である。

ローム層中から出土した木材は、スギであった。木材は、先端部を下にした状態で埋没しており、長さは約４mある。鋭利な刃物で枝を切断した痕跡が認められることから、鉄製品が普及した時期の木材と考えられている。スギは、古くから様々な用途に用いられており（島地・伊東　1988)、中・近世では建築・土木に最もよく利用された木材の一つでもある（能城・高橋　1996)。今回の結果も、そのようなスギ材利用の一例といえる。

木材で確認された各種類は、本遺跡周辺に生育していた可能性があるが、形状や用途によって種類構成が異なることを考慮すれば、各用途に適した木材を搬入したとも考えられる。また、スギについては、古代にはすでに植林が始まっており（渡邊　1996)、本地域でも植林が行われていた可能性がある。今後さらに資料を蓄積して明らかにしたい。

## 第２節　黒曜石の原産地推定

１．分 析 法　　エネルギー分散蛍光Ｘ線分析法（ＥＤＸ）

２．分析装置　　セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光Ｘ線分析計　SEA－2110L

３．分析条件　　管電圧　　50kV　　管電流　　自動設定

測定時間　240sec　　雰囲気　　真空

照射径　　10mm

検出器　　Si（Li）半導体検出器

４．測定元素　　AL（アルミニウム)、Si（ケイ素)、K（カリウム)、Ca（カルシウム)、Ti（チタン)、Mn（マンガン)、Fe（鉄)、Rb（ルビジウム)、Sr（ストロンチウム)、Y（イットリウム)、Zr（ジルコニウム）

５．推定結果

第９表に調査地点別の原産地組成表を示し、第10表に分析結果表を示した。

第９表　地点別黒曜石産地組成表

| 調査 | 文化層 | 和田芙蓉ライト WDHY | 和田鷹山 WDTY | 和田土屋橋北 WDTK | 諏訪星ヶ台 SWHD | 立科冷山 TSTY | 天城柏峠 AGKT | 箱根畑宿 HNHJ | 箱根黒岩橋 HNKI | 神津恩馳島 KZOB | 推定不可等 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28次 | 縄文 | | | | 10 | | 21 | 5 | | 1 | 3 | 40 |
| | 旧石器 | | 1 | | 2 | 31 | | 1,030 | 2 | | 99 | 1,165 |
| 30次 | 縄文 | | | | | | | | | 4 | 1 | 5 |
| 19次 | Ⅰ | | 1 | | | | | | | 8 | | 9 |
| | Ⅱ | 1 | 22 | 1 | | 1 | | 648 | | | 43 | 716 |
| 合計 | | 1 | 24 | 1 | 12 | 32 | 21 | 1,683 | 2 | 13 | 146 | 1,935 |

## 第10表　黒曜石産地分析結果表

第28次調査

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-1 | 7 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 14.23 | 1 | HNKT | 94.09 | 0 |
| SHY11_4-2 | 10 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 10.63 | 1 | HNKT | 84.69 | 0 |
| SHY11_4-3 | 17 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 4.75 | 1 | HNKT | 135.63 | 0 |
| SHY11_4-4 | 33 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.6 | 1 | HNKI | 87.57 | 0 |
| SHY11_4-5 | 34 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.58 | 1 | HNKI | 128.09 | 0 |
| SHY11_4-6 | 35 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.6 | 1 | HNKI | 87.57 | 0 |
| SHY11_4-7 | 36 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 29.12 | 1 | THAY | 142.55 | 0 |
| SHY11_4-8 | 37 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 13.63 | 1 | HNKT | 88.34 | 0 |
| SHY11_4-9 | 38 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 3.8 | 1 | HNKT | 115.05 | 0 |
| SHY11_4-10 | 39 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-11 | 46 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 5.95 | 1 | HNKT | 118.8 | 0 |
| SHY11_4-12 | 47 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 12.15 | 1 | SBIY | 86.37 | 0 |
| SHY11_4-13 | 48 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 6.9 | 1 | HNKT | 85.04 | 0 |
| SHY11_4-14 | 50 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 27.94 | 1 | HNKI | 47.55 | 0 |
| SHY11_4-15 | 51 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 3.86 | 1 | SBIY | 117.05 | 0 |
| SHY11_4-16 | 64 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 0.58 | 1 | HNKT | 125.3 | 0 |
| SHY11_4-17 | 78 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-18 | 79 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 13.7 | 1 | THAY | 102.88 | 0 |
| SHY11_4-19 | 87 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 4.83 | 1 | SBIY | 119.5 | 0 |
| SHY11_4-20 | 89 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 2.74 | 1 | SBIY | 68.47 | 0 |
| SHY11_4-21 | 102 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 4.47 | 1 | TSHG | 23.79 | 0 |
| SHY11_4-22 | 104 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.89 | 1 | HNKI | 80.58 | 0 |
| SHY11_4-23 | 105 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.8 | 1 | HNKI | 117.15 | 0 |
| SHY11_4-24 | 106 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.06 | 1 | HNKI | 83.43 | 0 |
| SHY11_4-25 | 107 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 3.8 | 1 | SBIY | 87.1 | 0 |
| SHY11_4-26 | 193 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.5 | 1 | HNKI | 155.09 | 0 |
| SHY11_4-27 | 194 | 非黒曜石 | 非黒曜石 | 非黒曜石 | | | 非黒曜石 | | |
| SHY11_4-28 | 198 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.87 | 1 | HNKI | 118.68 | 0 |
| SHY11_4-29 | 199 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 3.32 | 1 | HNKT | 103.88 | 0 |
| SHY11_4-30 | 200 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.7 | 1 | HNKI | 161.68 | 0 |
| SHY11_4-31 | 201 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.91 | 1 | HNKI | 119.06 | 0 |
| SHY11_4-32 | 202 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.63 | 1 | HNKI | 63.77 | 0 |
| SHY11_4-33 | 206 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.75 | 1 | HNKI | 166.14 | 0 |
| SHY11_4-34 | 207 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 1.98 | 1 | SBIY | 89.14 | 0 |
| SHY11_4-35 | 208 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-36 | 211 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 4.48 | 1 | HNKT | 132.57 | 0 |
| SHY11_4-37 | 213 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 12.48 | 1 | HNKT | 111.07 | 0 |
| SHY11_4-38 | 214 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 27.43 | 1 | THAY | 80.42 | 0 |
| SHY11_4-39 | 215 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 17.91 | 1 | THAY | 91.63 | 0 |
| SHY11_4-40 | 216 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 19.84 | 1 | HNKT | 168.7 | 0 |
| SHY11_4-41 | 217 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 6.62 | 1 | HNKT | 161.93 | 0 |
| SHY11_4-42 | 218 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 20.44 | 1 | SBIY | 87.37 | 0 |
| SHY11_4-43 | 394 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 2.04 | 1 | SBIY | 87.35 | 0 |
| SHY11_4-44 | 427 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 5.02 | 1 | THAY | 150.71 | 0 |
| SHY11_4-45 | 428 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 1.81 | 1 | HNKT | 109.08 | 0 |
| SHY11_4-46 | 429 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.8 | 1 | HNKI | 127.65 | 0 |
| SHY11_4-47 | 430 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.16 | 1 | HNKI | 80.18 | 0 |
| SHY11_4-48 | 431 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.51 | 1 | HNKI | 101.56 | 0 |
| SHY11_4-49 | 432 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.52 | 1 | HNKI | 179.05 | 0 |
| SHY11_4-50 | 433 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.84 | 1 | HNKI | 81.41 | 0 |
| SHY11_4-51 | 434 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.71 | 1 | HNKI | 202.79 | 0 |
| SHY11_4-52 | 435 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-53 | 436 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-54 | 437 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.97 | 1 | HNKI | 113.11 | 0 |
| SHY11_4-55 | 438 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.66 | 1 | HNKI | 209.77 | 0 |
| SHY11_4-56 | 439 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.12 | 1 | HNKI | 181.92 | 0 |
| SHY11_4-57 | 440 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 2.86 | 1 | KZSN | 51.06 | 0 |
| SHY11_4-58 | 442 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.37 | 1 | HNKI | 93.48 | 0 |
| SHY11_4-59 | 443 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-60 | 444 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.87 | 1 | HNKI | 184.5 | 0 |
| SHY11_4-61 | 445 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.68 | 1 | HNKI | 145.96 | 0 |
| SHY11_4-62 | 446 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.57 | 1 | HNKI | 132.17 | 0 |
| SHY11_4-63 | 447 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.36 | 1 | HNKI | 129.51 | 0 |
| SHY11_4-64 | 448 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.41 | 1 | HNKI | 122.91 | 0 |
| SHY11_4-65 | 449 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.62 | 1 | HNKI | 83.55 | 0 |
| SHY11_4-66 | 450 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.43 | 1 | HNKI | 117.73 | 0 |
| SHY11_4-67 | 454 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 5.42 | 1 | SBIY | 79.3 | 0 |
| SHY11_4-68 | 456 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.37 | 1 | HNKI | 82.05 | 0 |
| SHY11_4-69 | 457 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 8.47 | 1 | SBIY | 57.1 | 0 |
| SHY11_4-70 | 458 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 3.08 | 1 | HNKT | 133.36 | 0 |
| SHY11_4-71 | 465 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-72 | 466 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.12 | 1 | HNKI | 159.57 | 0 |
| SHY11_4-73 | 467 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.94 | 1 | HNKI | 175.07 | 0 |
| SHY11_4-74 | 468 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.26 | 1 | HNKI | 102.84 | 0 |
| SHY11_4-75 | 504 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.24 | 1 | HNKI | 68.34 | 0 |
| SHY11_4-76 | 505 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.34 | 1 | HNKI | 75.88 | 0 |
| SHY11_4-77 | 506 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.31 | 1 | HNKI | 87.98 | 0 |
| SHY11_4-78 | 507 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.49 | 1 | HNKI | 73.5 | 0 |
| SHY11_4-79 | 510 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.46 | 1 | HNKI | 143.69 | 0 |
| SHY11_4-80 | 515 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.84 | 1 | HNKI | 172.92 | 0 |
| SHY11_4-81 | 516 | 天城柏峠群 | AGKT | AGKT | 7.24 | 1 | HNKT | 105.77 | 0 |
| SHY11_4-82 | 517 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.35 | 1 | HNKI | 162.82 | 0 |
| SHY11_4-83 | 518 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.61 | 1 | HNKI | 140.99 | 0 |
| SHY11_4-84 | 519 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.88 | 1 | HNKI | 216.26 | 0 |
| SHY11_4-85 | 520 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.32 | 1 | HNKI | 222.96 | 0 |
| SHY11_4-86 | 521 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.39 | 1 | HNKI | 95.28 | 0 |
| SHY11_4-87 | 522 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.23 | 1 | HNKI | 180.79 | 0 |
| SHY11_4-88 | 523 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.38 | 1 | HNKI | 115.33 | 0 |
| SHY11_4-89 | 524 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.69 | 1 | HNKI | 90.1 | 0 |
| SHY11_4-90 | 525 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.02 | 1 | HNKI | 75.16 | 0 |
| SHY11_4-91 | 526 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.02 | 1 | TUTI | 25.06 | 0 |
| SHY11_4-92 | 527 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.2 | 1 | HNKI | 106.52 | 0 |
| SHY11_4-93 | 528 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.29 | 1 | HNKI | 124.18 | 0 |
| SHY11_4-94 | 529 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 3 | 1 | TSHG | 25.6 | 0 |
| SHY11_4-95 | 530 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.41 | 1 | HNKI | 158.27 | 0 |
| SHY11_4-96 | 531 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.8 | 1 | HNKI | 193.6 | 0 |
| SHY11_4-97 | 532 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.33 | 1 | HNKI | 229 | 0 |
| SHY11_4-98 | 533 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.09 | 1 | HNKI | 100.9 | 0 |
| SHY11_4-99 | 534 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.51 | 1 | HNKI | 102.81 | 0 |
| SHY11_4-100 | 535 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.41 | 1 | HNKI | 102.74 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-101 | 536 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.99 | 1 | HNKI | 155.66 | 0 |
| SHY11_4-102 | 537 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-103 | 538 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.37 | 1 | HNKI | 115.93 | 0 |
| SHY11_4-104 | 539 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 4.92 | 1 | TSHG | 28.2 | 0 |
| SHY11_4-105 | 540 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-106 | 541 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.33 | 1 | HNKI | 182.63 | 0 |
| SHY11_4-107 | 542 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.74 | 1 | HNKI | 205.09 | 0 |
| SHY11_4-108 | 543 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.38 | 1 | HNKI | 175.2 | 0 |
| SHY11_4-109 | 544 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.8 | 1 | HNKI | 114.54 | 0 |
| SHY11_4-110 | 545 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.95 | 1 | HNKI | 178.79 | 0 |
| SHY11_4-111 | 547 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.66 | 1 | HNKI | 115.32 | 0 |
| SHY11_4-112 | 548 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-113 | 549 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.72 | 1 | HNKI | 211.68 | 0 |
| SHY11_4-114 | 550 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.12 | 1 | HNKI | 163.61 | 0 |
| SHY11_4-115 | 551 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.9 | 1 | HNKI | 103.05 | 0 |
| SHY11_4-116 | 552 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.04 | 1 | HNKI | 122.31 | 0 |
| SHY11_4-117 | 553 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.6 | 1 | HNKI | 143.28 | 0 |
| SHY11_4-118 | 554 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.09 | 1 | HNKI | 228.68 | 0 |
| SHY11_4-119 | 555 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-120 | 556 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.93 | 1 | HNKI | 145.11 | 0 |
| SHY11_4-121 | 557 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.46 | 1 | HNKI | 228.19 | 0 |
| SHY11_4-122 | 558 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.05 | 1 | HNKI | 207.24 | 0 |
| SHY11_4-123 | 559 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.72 | 1 | HNKI | 183.53 | 0 |
| SHY11_4-124 | 560 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.91 | 1 | HNKI | 129.67 | 0 |
| SHY11_4-125 | 561 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-126 | 562 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.73 | 1 | HNKI | 235.01 | 0 |
| SHY11_4-127 | 563 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.44 | 1 | HNKI | 108.09 | 0 |
| SHY11_4-128 | 564 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.7 | 1 | HNKI | 173 | 0 |
| SHY11_4-129 | 565 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.06 | 1 | HNKI | 213.44 | 0 |
| SHY11_4-130 | 566 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.6 | 1 | HNKI | 170.18 | 0 |
| SHY11_4-131 | 567 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.31 | 1 | HNKI | 144.51 | 0 |
| SHY11_4-132 | 568 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.62 | 1 | HNKI | 135.05 | 0 |
| SHY11_4-133 | 569 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.89 | 1 | HNKI | 144.99 | 0 |
| SHY11_4-134 | 570 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.89 | 1 | HNKI | 144.99 | 0 |
| SHY11_4-135 | 571 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.78 | 1 | HNKI | 108.56 | 0 |
| SHY11_4-136 | 573 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.66 | 1 | HNKI | 126.19 | 0 |
| SHY11_4-137 | 574 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.86 | 1 | HNKI | 137.41 | 0 |
| SHY11_4-138 | 575 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.64 | 1 | HNKI | 180.73 | 0 |
| SHY11_4-139 | 576 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.77 | 1 | HNKI | 226.26 | 0 |
| SHY11_4-140 | 577 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.01 | 1 | HNKI | 173.25 | 0 |
| SHY11_4-141 | 578 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.57 | 1 | HNKI | 198.57 | 0 |
| SHY11_4-142 | 579 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.18 | 1 | HNKI | 111.82 | 0 |
| SHY11_4-143 | 580 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.88 | 1 | HNKI | 155.26 | 0 |
| SHY11_4-144 | 581 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.86 | 1 | HNKI | 214.05 | 0 |
| SHY11_4-145 | 582 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.03 | 1 | HNKI | 152.35 | 0 |
| SHY11_4-146 | 583 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.72 | 1 | HNKI | 106.13 | 0 |
| SHY11_4-147 | 584 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.91 | 1 | HNKI | 120.68 | 0 |
| SHY11_4-148 | 585 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.56 | 1 | HNKI | 125.51 | 0 |
| SHY11_4-149 | 586 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-150 | 587 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.88 | 1 | HNKI | 185.85 | 0 |
| SHY11_4-151 | 588 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.4 | 1 | HNKI | 141.44 | 0 |
| SHY11_4-152 | 589 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.46 | 1 | HNKI | 213.85 | 0 |
| SHY11_4-153 | 590 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-154 | 591 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.86 | 1 | HNKI | 146.72 | 0 |
| SHY11_4-155 | 592 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.71 | 1 | HNKI | 91.57 | 0 |
| SHY11_4-156 | 593 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.35 | 1 | HNKI | 135.18 | 0 |
| SHY11_4-157 | 594 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.96 | 1 | HNKI | 156.07 | 0 |
| SHY11_4-158 | 596 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.88 | 1 | HNKI | 137.39 | 0 |
| SHY11_4-159 | 597 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.62 | 1 | HNKI | 175.02 | 0 |
| SHY11_4-160 | 598 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.11 | 1 | HNKI | 121.03 | 0 |
| SHY11_4-161 | 599 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.67 | 1 | HNKI | 136.56 | 0 |
| SHY11_4-162 | 600 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.32 | 1 | HNKI | 202.22 | 0 |
| SHY11_4-163 | 601 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.95 | 1 | HNKI | 139.38 | 0 |
| SHY11_4-164 | 602 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.62 | 1 | HNKI | 98.13 | 0 |
| SHY11_4-165 | 603 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.7 | 1 | HNKI | 123.07 | 0 |
| SHY11_4-166 | 604 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.39 | 1 | HNKI | 217.42 | 0 |
| SHY11_4-167 | 605 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.6 | 1 | HNKI | 85.46 | 0 |
| SHY11_4-168 | 606 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.06 | 1 | HNKI | 126.06 | 0 |
| SHY11_4-169 | 607 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.53 | 1 | HNKI | 159.72 | 0 |
| SHY11_4-170 | 608 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.91 | 1 | HNKI | 99.99 | 0 |
| SHY11_4-171 | 609 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.17 | 1 | HNKI | 86.89 | 0 |
| SHY11_4-172 | 611 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.22 | 1 | HNKI | 183.42 | 0 |
| SHY11_4-173 | 612 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.76 | 1 | HNKI | 89.21 | 0 |
| SHY11_4-174 | 613 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.09 | 1 | HNKI | 97.05 | 0 |
| SHY11_4-175 | 614 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.1 | 1 | HNKI | 115.44 | 0 |
| SHY11_4-176 | 616 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 3.12 | 0.9999 | WDHY | 18.53 | 0.0001 |
| SHY11_4-177 | 617 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.59 | 1 | HNKI | 195.29 | 0 |
| SHY11_4-178 | 619 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.68 | 1 | HNKI | 80.47 | 0 |
| SHY11_4-179 | 620 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.47 | 1 | HNKI | 205.6 | 0 |
| SHY11_4-180 | 621 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.94 | 1 | HNKI | 117.15 | 0 |
| SHY11_4-181 | 622 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.08 | 1 | HNKI | 206.74 | 0 |
| SHY11_4-182 | 623 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.34 | 1 | HNKI | 132.51 | 0 |
| SHY11_4-183 | 624 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.36 | 1 | HNKI | 93.51 | 0 |
| SHY11_4-184 | 626 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.1 | 1 | HNKI | 140.64 | 0 |
| SHY11_4-185 | 627 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.95 | 1 | HNKI | 100.32 | 0 |
| SHY11_4-186 | 628 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.41 | 1 | HNKI | 90.12 | 0 |
| SHY11_4-187 | 629 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.89 | 1 | HNKI | 86.94 | 0 |
| SHY11_4-188 | 630 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.3 | 1 | HNKI | 93.41 | 0 |
| SHY11_4-189 | 632 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.21 | 1 | HNKI | 80.04 | 0 |
| SHY11_4-190 | 633 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-191 | 634 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.61 | 1 | HNKI | 240.28 | 0 |
| SHY11_4-192 | 635 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.86 | 1 | HNKI | 142.26 | 0 |
| SHY11_4-193 | 636 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.57 | 1 | HNKI | 89.01 | 0 |
| SHY11_4-194 | 637 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.28 | 1 | HNKI | 113.08 | 0 |
| SHY11_4-195 | 638 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.4 | 1 | HNKI | 132.74 | 0 |
| SHY11_4-196 | 639 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.58 | 1 | HNKI | 118.06 | 0 |
| SHY11_4-197 | 640 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.51 | 1 | HNKI | 223.64 | 0 |
| SHY11_4-198 | 641 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.82 | 1 | HNKI | 87.98 | 0 |
| SHY11_4-199 | 642 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.35 | 1 | HNKI | 144.96 | 0 |
| SHY11_4-200 | 643 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.51 | 1 | HNKI | 90.42 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-201 | 644 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.26 | 1 | HNKI | 102.16 | 0 |
| SHY11_4-202 | 646 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-203 | 647 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.27 | 1 | HNKI | 168.9 | 0 |
| SHY11_4-204 | 648 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.32 | 1 | HNKI | 117.18 | 0 |
| SHY11_4-205 | 649 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 2.15 | 1 | TSHG | 24.29 | 0 |
| SHY11_4-206 | 651 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-207 | 653 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.79 | 1 | HNKI | 207.74 | 0 |
| SHY11_4-208 | 654 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.12 | 1 | HNKI | 108.14 | 0 |
| SHY11_4-209 | 655 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.05 | 1 | HNKI | 131.13 | 0 |
| SHY11_4-210 | 656 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.33 | 1 | HNKI | 181.34 | 0 |
| SHY11_4-211 | 657 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.71 | 1 | HNKI | 123.83 | 0 |
| SHY11_4-212 | 658 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.48 | 1 | HNKI | 224.91 | 0 |
| SHY11_4-213 | 659 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.03 | 1 | HNKI | 225.22 | 0 |
| SHY11_4-214 | 660 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.93 | 1 | HNKI | 136.71 | 0 |
| SHY11_4-215 | 661 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.2 | 1 | HNKI | 61.47 | 0 |
| SHY11_4-216 | 663 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.44 | 1 | HNKI | 203.87 | 0 |
| SHY11_4-217 | 664 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.85 | 1 | HNKI | 125.19 | 0 |
| SHY11_4-218 | 665 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.99 | 1 | HNKI | 137.16 | 0 |
| SHY11_4-219 | 666 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.61 | 1 | HNKI | 184 | 0 |
| SHY11_4-220 | 667 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.02 | 1 | HNKI | 105.78 | 0 |
| SHY11_4-221 | 668 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.87 | 1 | HNKI | 151.55 | 0 |
| SHY11_4-222 | 669 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.46 | 1 | HNKI | 100.3 | 0 |
| SHY11_4-223 | 670 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.18 | 1 | HNKI | 238.32 | 0 |
| SHY11_4-224 | 671 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.52 | 1 | HNKI | 211.48 | 0 |
| SHY11_4-225 | 672 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.33 | 1 | HNKI | 117.24 | 0 |
| SHY11_4-226 | 673 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-227 | 674 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.78 | 1 | HNKI | 78.68 | 0 |
| SHY11_4-228 | 676 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.26 | 1 | HNKI | 122.82 | 0 |
| SHY11_4-229 | 678 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.84 | 1 | HNKI | 105.05 | 0 |
| SHY11_4-230 | 679 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.38 | 1 | HNKI | 143.25 | 0 |
| SHY11_4-231 | 680 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.62 | 1 | HNKI | 136.82 | 0 |
| SHY11_4-232 | 682 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.09 | 1 | HNKI | 134.31 | 0 |
| SHY11_4-233 | 683 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.6 | 1 | HNKI | 112.74 | 0 |
| SHY11_4-234 | 684 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-235 | 685 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.55 | 1 | HNKI | 93.3 | 0 |
| SHY11_4-236 | 686 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.39 | 1 | HNKI | 124.62 | 0 |
| SHY11_4-237 | 687 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.73 | 1 | HNKI | 108.59 | 0 |
| SHY11_4-238 | 688 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.17 | 1 | HNKI | 60.13 | 0 |
| SHY11_4-239 | 689 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.49 | 1 | HNKI | 180.62 | 0 |
| SHY11_4-240 | 690 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.54 | 1 | HNKI | 69.01 | 0 |
| SHY11_4-241 | 691 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.72 | 1 | HNKI | 181.47 | 0 |
| SHY11_4-242 | 692 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.56 | 1 | HNKI | 212.15 | 0 |
| SHY11_4-243 | 693 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.8 | 1 | HNKI | 76.75 | 0 |
| SHY11_4-244 | 694 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.78 | 1 | HNKI | 119.35 | 0 |
| SHY11_4-245 | 695 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.38 | 1 | HNKI | 101.99 | 0 |
| SHY11_4-246 | 696 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.22 | 1 | HNKI | 156.57 | 0 |
| SHY11_4-247 | 697 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.03 | 1 | HNKI | 110.08 | 0 |
| SHY11_4-248 | 698 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.3 | 1 | HNKI | 120.55 | 0 |
| SHY11_4-249 | 699 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.3 | 1 | HNKI | 113.12 | 0 |
| SHY11_4-250 | 700 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.19 | 1 | HNKI | 90.09 | 0 |
| SHY11_4-251 | 701 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.64 | 1 | HNKI | 202.37 | 0 |
| SHY11_4-252 | 702 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.58 | 1 | HNKI | 179.32 | 0 |
| SHY11_4-253 | 703 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.85 | 1 | HNKI | 149.03 | 0 |
| SHY11_4-254 | 704 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.2 | 1 | HNKI | 210.7 | 0 |
| SHY11_4-255 | 705 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.04 | 1 | HNKI | 115.03 | 0 |
| SHY11_4-256 | 707 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.66 | 1 | HNKI | 127.58 | 0 |
| SHY11_4-257 | 708 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.55 | 0.9992 | TSHG | 15.85 | 0.0008 |
| SHY11_4-258 | 710 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.28 | 1 | HNKI | 75.8 | 0 |
| SHY11_4-259 | 711 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-260 | 712 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-261 | 716 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.99 | 1 | HNKI | 189.74 | 0 |
| SHY11_4-262 | 717 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.15 | 1 | HNKI | 127.56 | 0 |
| SHY11_4-263 | 718 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.6 | 1 | HNKI | 122.71 | 0 |
| SHY11_4-264 | 719 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-265 | 720 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.59 | 1 | HNKI | 84.8 | 0 |
| SHY11_4-266 | 721 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.92 | 1 | HNKI | 136.67 | 0 |
| SHY11_4-267 | 722 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.07 | 1 | HNKI | 160.71 | 0 |
| SHY11_4-268 | 723 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8 | 1 | HNKI | 168.38 | 0 |
| SHY11_4-269 | 724 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.93 | 1 | HNKI | 115.26 | 0 |
| SHY11_4-270 | 725 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-271 | 726 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.26 | 1 | HNKI | 123.3 | 0 |
| SHY11_4-272 | 727 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-273 | 728 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.01 | 1 | HNKI | 154.44 | 0 |
| SHY11_4-274 | 729 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.71 | 1 | HNKI | 82.2 | 0 |
| SHY11_4-275 | 732 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.82 | 1 | HNKI | 124.56 | 0 |
| SHY11_4-276 | 733 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-277 | 734 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.15 | 1 | HNKI | 167.43 | 0 |
| SHY11_4-278 | 736 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.88 | 1 | HNKI | 62.01 | 0 |
| SHY11_4-279 | 738 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.07 | 1 | HNKI | 178.3 | 0 |
| SHY11_4-280 | 739 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.62 | 1 | HNKI | 195.51 | 0 |
| SHY11_4-281 | 741 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.92 | 1 | HNKI | 137.83 | 0 |
| SHY11_4-282 | 742 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.7 | 1 | HNKI | 108.17 | 0 |
| SHY11_4-283 | 743 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.76 | 1 | HNKI | 97.27 | 0 |
| SHY11_4-284 | 744 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.3 | 1 | HNKI | 165.16 | 0 |
| SHY11_4-285 | 745 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.92 | 1 | HNKI | 193.35 | 0 |
| SHY11_4-286 | 746 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.74 | 1 | HNKI | 160.01 | 0 |
| SHY11_4-287 | 747 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.76 | 1 | HNKI | 113.06 | 0 |
| SHY11_4-288 | 753 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.57 | 1 | HNKI | 188.56 | 0 |
| SHY11_4-289 | 754 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.83 | 1 | HNKI | 236.62 | 0 |
| SHY11_4-290 | 755 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.94 | 1 | HNKI | 237.04 | 0 |
| SHY11_4-291 | 757 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.51 | 1 | HNKI | 140.44 | 0 |
| SHY11_4-292 | 758 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.7 | 1 | HNKI | 195.58 | 0 |
| SHY11_4-293 | 760 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.44 | 1 | HNKI | 148.34 | 0 |
| SHY11_4-294 | 761 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.42 | 1 | HNKI | 133.67 | 0 |
| SHY11_4-295 | 764 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.58 | 1 | HNKI | 100.05 | 0 |
| SHY11_4-296 | 765 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.97 | 1 | HNKI | 107.27 | 0 |
| SHY11_4-297 | 769 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.54 | 1 | HNKI | 150.62 | 0 |
| SHY11_4-298 | 770 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.57 | 1 | HNKI | 125.55 | 0 |
| SHY11_4-299 | 771 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.41 | 1 | HNKI | 173.25 | 0 |
| SHY11_4-300 | 772 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.14 | 1 | HNKI | 122.44 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-301 | 773 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 3.52 | 1 | TSHG | 34.12 | 0 |
| SHY11_4-302 | 774 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.27 | 1 | HNKI | 158.08 | 0 |
| SHY11_4-303 | 775 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.33 | 1 | HNKI | 142.83 | 0 |
| SHY11_4-304 | 776 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.51 | 1 | HNKI | 85.64 | 0 |
| SHY11_4-305 | 777 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.93 | 1 | HNKI | 128.61 | 0 |
| SHY11_4-306 | 779 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.79 | 1 | HNKI | 218.81 | 0 |
| SHY11_4-307 | 780 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.53 | 1 | HNKI | 182.6 | 0 |
| SHY11_4-308 | 781 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.65 | 1 | HNKI | 138.92 | 0 |
| SHY11_4-309 | 782 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.7 | 1 | HNKI | 137 | 0 |
| SHY11_4-310 | 784 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.22 | 1 | HNKI | 98.32 | 0 |
| SHY11_4-311 | 785 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.28 | 1 | HNKI | 192.03 | 0 |
| SHY11_4-312 | 786 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.96 | 1 | HNKI | 136.8 | 0 |
| SHY11_4-313 | 787 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.67 | 1 | HNKI | 106.32 | 0 |
| SHY11_4-314 | 788 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.76 | 1 | HNKI | 178.79 | 0 |
| SHY11_4-315 | 789 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-316 | 790 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.92 | 1 | HNKI | 157.32 | 0 |
| SHY11_4-317 | 791 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 29.76 | 1 | HNKI | 256.22 | 0 |
| SHY11_4-318 | 792 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.29 | 1 | HNKI | 131.07 | 0 |
| SHY11_4-319 | 793 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.24 | 1 | HNKI | 105.29 | 0 |
| SHY11_4-320 | 794 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.91 | 1 | HNKI | 138.73 | 0 |
| SHY11_4-321 | 795 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.84 | 1 | HNKI | 99.33 | 0 |
| SHY11_4-322 | 796 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-323 | 797 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-324 | 798 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.74 | 1 | HNKI | 128.14 | 0 |
| SHY11_4-325 | 799 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.21 | 1 | HNKI | 201.7 | 0 |
| SHY11_4-326 | 800 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.35 | 1 | HNKI | 113.8 | 0 |
| SHY11_4-327 | 801 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.34 | 1 | HNKI | 159.49 | 0 |
| SHY11_4-328 | 802 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.33 | 1 | HNKI | 180.16 | 0 |
| SHY11_4-329 | 803 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.33 | 1 | HNKI | 85.49 | 0 |
| SHY11_4-330 | 804 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.76 | 1 | HNKI | 68.98 | 0 |
| SHY11_4-331 | 805 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.8 | 1 | HNKI | 83.37 | 0 |
| SHY11_4-332 | 806 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.3 | 1 | HNKI | 162.43 | 0 |
| SHY11_4-333 | 807 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.54 | 1 | HNKI | 118.52 | 0 |
| SHY11_4-334 | 808 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.06 | 1 | HNKI | 86.51 | 0 |
| SHY11_4-335 | 809 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.51 | 1 | HNKI | 93.73 | 0 |
| SHY11_4-336 | 810 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.83 | 1 | HNKI | 185.02 | 0 |
| SHY11_4-337 | 811 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.76 | 1 | HNKI | 186.14 | 0 |
| SHY11_4-338 | 812 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.29 | 0.9993 | TSHG | 15.78 | 0.0007 |
| SHY11_4-339 | 813 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.53 | 1 | HNKI | 173.85 | 0 |
| SHY11_4-340 | 814 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.15 | 1 | HNKI | 116.08 | 0 |
| SHY11_4-341 | 816 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.2 | 1 | HNKI | 227.15 | 0 |
| SHY11_4-342 | 817 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.74 | 1 | HNKI | 117.5 | 0 |
| SHY11_4-343 | 818 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.12 | 1 | HNKI | 188.02 | 0 |
| SHY11_4-344 | 819 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.42 | 1 | HNKI | 144.76 | 0 |
| SHY11_4-345 | 820 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.72 | 1 | HNKI | 169.73 | 0 |
| SHY11_4-346 | 821 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.78 | 1 | HNKI | 145.44 | 0 |
| SHY11_4-347 | 822 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.32 | 1 | HNKI | 88.8 | 0 |
| SHY11_4-348 | 823 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.79 | 1 | HNKI | 143.74 | 0 |
| SHY11_4-349 | 824 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.45 | 1 | HNKI | 112.44 | 0 |
| SHY11_4-350 | 825 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.21 | 1 | HNKI | 140.68 | 0 |
| SHY11_4-351 | 826 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.11 | 1 | HNKI | 97.86 | 0 |
| SHY11_4-352 | 827 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.79 | 1 | HNKI | 130.47 | 0 |
| SHY11_4-353 | 828 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.47 | 1 | HNKI | 134.91 | 0 |
| SHY11_4-354 | 830 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.26 | 1 | HNKI | 150.64 | 0 |
| SHY11_4-355 | 831 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.04 | 1 | HNKI | 115.03 | 0 |
| SHY11_4-356 | 832 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.66 | 1 | HNKI | 127.58 | 0 |
| SHY11_4-357 | 833 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.55 | 0.9992 | TSHG | 15.85 | 0.0008 |
| SHY11_4-358 | 834 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.28 | 1 | HNKI | 75.8 | 0 |
| SHY11_4-359 | 835 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.64 | 1 | HNKI | 138 | 0 |
| SHY11_4-360 | 837 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.84 | 1 | HNKI | 234.05 | 0 |
| SHY11_4-361 | 838 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.99 | 1 | HNKI | 189.74 | 0 |
| SHY11_4-362 | 839 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.15 | 1 | HNKI | 127.56 | 0 |
| SHY11_4-363 | 840 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.6 | 1 | HNKI | 122.71 | 0 |
| SHY11_4-364 | 841 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.34 | 1 | HNKI | 42.06 | 0 |
| SHY11_4-365 | 842 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.27 | 1 | HNKI | 189.85 | 0 |
| SHY11_4-366 | 843 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.92 | 1 | HNKI | 136.67 | 0 |
| SHY11_4-367 | 844 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.07 | 1 | HNKI | 160.71 | 0 |
| SHY11_4-368 | 845 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8 | 1 | HNKI | 168.38 | 0 |
| SHY11_4-369 | 846 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.88 | 1 | HNKI | 111.75 | 0 |
| SHY11_4-370 | 848 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.59 | 1 | HNKI | 87.87 | 0 |
| SHY11_4-371 | 849 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.26 | 1 | HNKI | 123.3 | 0 |
| SHY11_4-372 | 851 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.8 | 1 | HNKI | 89.61 | 0 |
| SHY11_4-373 | 852 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.54 | 1 | HNKI | 102.13 | 0 |
| SHY11_4-374 | 854 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.92 | 1 | HNKI | 75.65 | 0 |
| SHY11_4-375 | 856 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.85 | 1 | HNKI | 148.16 | 0 |
| SHY11_4-376 | 858 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.62 | 1 | HNKI | 123.43 | 0 |
| SHY11_4-377 | 859 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.17 | 1 | HNKI | 140.94 | 0 |
| SHY11_4-378 | 860 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.82 | 1 | HNKI | 240.12 | 0 |
| SHY11_4-379 | 861 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.8 | 1 | HNKI | 215.64 | 0 |
| SHY11_4-380 | 863 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.04 | 1 | HNKI | 103.72 | 0 |
| SHY11_4-381 | 864 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.92 | 1 | HNKI | 208.87 | 0 |
| SHY11_4-382 | 866 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-383 | 867 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.72 | 1 | HNKI | 83.66 | 0 |
| SHY11_4-384 | 868 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.88 | 1 | HNKI | 182.63 | 0 |
| SHY11_4-385 | 869 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.71 | 1 | HNKI | 110.67 | 0 |
| SHY11_4-386 | 872 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.17 | 1 | HNKI | 199.5 | 0 |
| SHY11_4-387 | 873 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.26 | 1 | HNKI | 151.91 | 0 |
| SHY11_4-388 | 874 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.95 | 1 | HNKI | 134.1 | 0 |
| SHY11_4-389 | 875 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.31 | 1 | HNKI | 108.7 | 0 |
| SHY11_4-390 | 876 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.77 | 1 | HNKI | 64.6 | 0 |
| SHY11_4-391 | 877 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.54 | 1 | HNKI | 104.24 | 0 |
| SHY11_4-392 | 878 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.57 | 1 | HNKI | 219.06 | 0 |
| SHY11_4-393 | 883 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.12 | 1 | HNKI | 97.9 | 0 |
| SHY11_4-394 | 884 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-395 | 885 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-396 | 886 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.18 | 1 | HNKI | 108.45 | 0 |
| SHY11_4-397 | 887 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-398 | 888 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.28 | 1 | HNKI | 142.13 | 0 |
| SHY11_4-399 | 889 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.71 | 1 | HNKI | 136.04 | 0 |
| SHY11_4-400 | 890 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.26 | 1 | HNKI | 176.02 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-401 | 891 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-402 | 892 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.72 | 1 | HNKI | 156.01 | 0 |
| SHY11_4-403 | 893 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-404 | 894 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.45 | 1 | HNKI | 75.7 | 0 |
| SHY11_4-405 | 895 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.52 | 1 | HNKI | 171.4 | 0 |
| SHY11_4-406 | 897 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.79 | 1 | HNKI | 122.82 | 0 |
| SHY11_4-407 | 898 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.73 | 1 | HNKI | 132.38 | 0 |
| SHY11_4-408 | 899 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.92 | 1 | HNKI | 145.92 | 0 |
| SHY11_4-409 | 900 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.49 | 1 | HNKI | 138.42 | 0 |
| SHY11_4-410 | 903 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.34 | 1 | HNKI | 146.14 | 0 |
| SHY11_4-411 | 904 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-412 | 905 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.58 | 1 | HNKI | 198.88 | 0 |
| SHY11_4-413 | 906 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.65 | 1 | HNKI | 83.47 | 0 |
| SHY11_4-414 | 908 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-415 | 909 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.32 | 1 | HNKI | 109.63 | 0 |
| SHY11_4-416 | 912 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.31 | 1 | HNKI | 140.93 | 0 |
| SHY11_4-417 | 913 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.78 | 1 | HNKI | 74.06 | 0 |
| SHY11_4-418 | 914 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.79 | 1 | HNKI | 87.83 | 0 |
| SHY11_4-419 | 917 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.08 | 1 | HNKI | 120.72 | 0 |
| SHY11_4-420 | 918 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 27.19 | 1 | HNKI | 236.45 | 0 |
| SHY11_4-421 | 920 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.15 | 1 | HNKI | 168.36 | 0 |
| SHY11_4-422 | 922 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.46 | 1 | HNKI | 173.99 | 0 |
| SHY11_4-423 | 923 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.99 | 1 | HNKI | 118.44 | 0 |
| SHY11_4-424 | 927 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.58 | 1 | HNKI | 169.72 | 0 |
| SHY11_4-425 | 928 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.83 | 1 | HNKI | 104.81 | 0 |
| SHY11_4-426 | 929 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-427 | 930 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.04 | 1 | TSHG | 22.03 | 0 |
| SHY11_4-428 | 931 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.26 | 1 | HNKI | 165.72 | 0 |
| SHY11_4-429 | 933 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.21 | 1 | HNKI | 152.46 | 0 |
| SHY11_4-430 | 934 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.69 | 1 | HNKI | 173.46 | 0 |
| SHY11_4-431 | 935 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.85 | 1 | HNKI | 111.79 | 0 |
| SHY11_4-432 | 936 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.86 | 1 | HNKI | 96.29 | 0 |
| SHY11_4-433 | 939 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.02 | 1 | HNKI | 110.26 | 0 |
| SHY11_4-434 | 942 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-435 | 947 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.73 | 1 | HNKI | 152.33 | 0 |
| SHY11_4-436 | 948 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.49 | 1 | HNKI | 113.75 | 0 |
| SHY11_4-437 | 950 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.62 | 1 | HNKI | 126.08 | 0 |
| SHY11_4-438 | 951 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-439 | 952 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.93 | 1 | HNKI | 107.77 | 0 |
| SHY11_4-440 | 953 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.14 | 1 | HNKI | 130.28 | 0 |
| SHY11_4-441 | 954 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.26 | 1 | HNKI | 154.81 | 0 |
| SHY11_4-442 | 955 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.02 | 1 | HNKI | 123.18 | 0 |
| SHY11_4-443 | 956 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.56 | 1 | HNKI | 119.71 | 0 |
| SHY11_4-444 | 957 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.61 | 1 | HNKI | 153.18 | 0 |
| SHY11_4-445 | 959 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.06 | 1 | HNKI | 146.26 | 0 |
| SHY11_4-446 | 960 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.46 | 1 | HNKI | 134.5 | 0 |
| SHY11_4-447 | 962 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.93 | 1 | HNKI | 144.26 | 0 |
| SHY11_4-448 | 964 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.1 | 1 | HNKI | 193.91 | 0 |
| SHY11_4-449 | 966 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.67 | 1 | HNKI | 141.4 | 0 |
| SHY11_4-450 | 967 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.07 | 1 | HNKI | 209.67 | 0 |
| SHY11_4-451 | 969 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.35 | 1 | HNKI | 196.16 | 0 |
| SHY11_4-452 | 970 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.15 | 1 | HNKI | 90.63 | 0 |
| SHY11_4-453 | 971 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.19 | 1 | HNKI | 175.55 | 0 |
| SHY11_4-454 | 972 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.16 | 1 | HNKI | 145.52 | 0 |
| SHY11_4-455 | 973 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.48 | 1 | HNKI | 112.02 | 0 |
| SHY11_4-456 | 974 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.14 | 1 | HNKI | 137.69 | 0 |
| SHY11_4-457 | 975 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-458 | 976 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.2 | 1 | HNKI | 109.7 | 0 |
| SHY11_4-459 | 977 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.86 | 1 | HNKI | 245.49 | 0 |
| SHY11_4-460 | 978 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.91 | 1 | HNKI | 113.72 | 0 |
| SHY11_4-461 | 979 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.45 | 1 | HNKI | 110.9 | 0 |
| SHY11_4-462 | 980 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.6 | 1 | HNKI | 166.49 | 0 |
| SHY11_4-463 | 981 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.63 | 1 | HNKI | 160.45 | 0 |
| SHY11_4-464 | 982 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.28 | 1 | HNKI | 97.61 | 0 |
| SHY11_4-465 | 983 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.49 | 1 | HNKI | 148.08 | 0 |
| SHY11_4-466 | 984 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.04 | 1 | HNKI | 101.06 | 0 |
| SHY11_4-467 | 985 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.42 | 1 | HNKI | 224.1 | 0 |
| SHY11_4-468 | 986 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.04 | 1 | HNKI | 147.26 | 0 |
| SHY11_4-469 | 987 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.5 | 1 | HNKI | 189.94 | 0 |
| SHY11_4-470 | 988 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.52 | 1 | HNKI | 174.24 | 0 |
| SHY11_4-471 | 991 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.34 | 1 | HNKI | 117.62 | 0 |
| SHY11_4-472 | 992 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.44 | 1 | HNKI | 97.36 | 0 |
| SHY11_4-473 | 993 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.54 | 1 | HNKI | 184.78 | 0 |
| SHY11_4-474 | 996 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.27 | 1 | HNKI | 112.71 | 0 |
| SHY11_4-475 | 997 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.72 | 1 | HNKI | 105.05 | 0 |
| SHY11_4-476 | 999 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.5 | 0.9999 | HNKI | 40.82 | 0.0001 |
| SHY11_4-477 | 1000 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.65 | 1 | HNKI | 199.57 | 0 |
| SHY11_4-478 | 1001 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.6 | 1 | HNKI | 209.14 | 0 |
| SHY11_4-479 | 1002 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8 | 1 | HNKI | 171.28 | 0 |
| SHY11_4-480 | 1003 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.27 | 1 | HNKI | 138.46 | 0 |
| SHY11_4-481 | 1004 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.14 | 1 | HNKI | 234.27 | 0 |
| SHY11_4-482 | 1005 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-483 | 1006 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.24 | 1 | HNKI | 47.77 | 0 |
| SHY11_4-484 | 1007 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.52 | 1 | HNKI | 229.8 | 0 |
| SHY11_4-485 | 1008 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-486 | 1009 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.82 | 1 | HNKI | 110.27 | 0 |
| SHY11_4-487 | 1010 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.89 | 1 | HNKI | 43.75 | 0 |
| SHY11_4-488 | 1011 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.63 | 1 | HNKI | 61.6 | 0 |
| SHY11_4-489 | 1013 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-490 | 1014 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 29.13 | 1 | HNKI | 61.51 | 0 |
| SHY11_4-491 | 1015 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-492 | 1016 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.64 | 1 | HNKI | 140.27 | 0 |
| SHY11_4-493 | 1017 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.26 | 1 | HNKI | 122.19 | 0 |
| SHY11_4-494 | 1018 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.79 | 1 | HNKI | 95.39 | 0 |
| SHY11_4-495 | 1019 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.77 | 1 | HNKI | 56.49 | 0 |
| SHY11_4-496 | 1020 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.05 | 1 | HNKI | 109.91 | 0 |
| SHY11_4-497 | 1021 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.62 | 1 | HNKI | 158.79 | 0 |
| SHY11_4-498 | 1022 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.6 | 1 | HNKI | 157.45 | 0 |
| SHY11_4-499 | 1023 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.12 | 1 | HNKI | 94.3 | 0 |
| SHY11_4-500 | 1024 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.05 | 1 | HNKI | 117.54 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-501 | 1025 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.03 | 1 | HNKI | 204.05 | 0 |
| SHY11_4-502 | 1026 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.17 | 1 | HNKI | 44.39 | 0 |
| SHY11_4-503 | 1027 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.04 | 1 | HNKI | 117.97 | 0 |
| SHY11_4-504 | 1029 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.48 | 1 | HNKI | 73.47 | 0 |
| SHY11_4-505 | 1032 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-506 | 1033 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.68 | 1 | HNKI | 158.7 | 0 |
| SHY11_4-507 | 1034 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.6 | 1 | HNKI | 147.26 | 0 |
| SHY11_4-508 | 1035 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.46 | 1 | HNKI | 169.8 | 0 |
| SHY11_4-509 | 1036 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-510 | 1037 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.55 | 1 | HNKI | 202.79 | 0 |
| SHY11_4-511 | 1038 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.46 | 1 | HNKI | 92.64 | 0 |
| SHY11_4-512 | 1039 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.68 | 1 | HNKI | 121.24 | 0 |
| SHY11_4-513 | 1040 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.4 | 1 | HNKI | 67.98 | 0 |
| SHY11_4-514 | 1041 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.8 | 1 | HNKI | 191.59 | 0 |
| SHY11_4-515 | 1042 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.63 | 1 | HNKI | 122.23 | 0 |
| SHY11_4-516 | 1043 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.56 | 1 | HNKI | 151.87 | 0 |
| SHY11_4-517 | 1044 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.51 | 1 | HNKI | 141.83 | 0 |
| SHY11_4-518 | 1045 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.91 | 1 | HNKI | 224.21 | 0 |
| SHY11_4-519 | 1046 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.2 | 1 | HNKI | 162.28 | 0 |
| SHY11_4-520 | 1047 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12 | 1 | HNKI | 68.87 | 0 |
| SHY11_4-521 | 1048 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-522 | 1049 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.18 | 1 | HNKI | 174.92 | 0 |
| SHY11_4-523 | 1050 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.34 | 1 | HNKI | 95.78 | 0 |
| SHY11_4-524 | 1051 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.19 | 1 | HNKI | 127.18 | 0 |
| SHY11_4-525 | 1052 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.25 | 1 | HNKI | 116.97 | 0 |
| SHY11_4-526 | 1053 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.16 | 1 | HNKI | 128.79 | 0 |
| SHY11_4-527 | 1054 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.59 | 1 | HNKI | 89.39 | 0 |
| SHY11_4-528 | 1055 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-529 | 1056 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.79 | 1 | HNKI | 89.91 | 0 |
| SHY11_4-530 | 1057 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.01 | 1 | HNKI | 88.57 | 0 |
| SHY11_4-531 | 1058 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.72 | 1 | HNKI | 111.77 | 0 |
| SHY11_4-532 | 1059 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.31 | 1 | HNKI | 163.31 | 0 |
| SHY11_4-533 | 1060 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.32 | 1 | HNKI | 163.69 | 0 |
| SHY11_4-534 | 1061 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-535 | 1062 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.44 | 1 | HNKI | 206.92 | 0 |
| SHY11_4-536 | 1063 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.95 | 1 | HNKI | 182.9 | 0 |
| SHY11_4-537 | 1064 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.32 | 1 | HNKI | 144.6 | 0 |
| SHY11_4-538 | 1065 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.53 | 1 | HNKI | 199.05 | 0 |
| SHY11_4-539 | 1066 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.76 | 1 | HNKI | 103.1 | 0 |
| SHY11_4-540 | 1067 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.96 | 1 | HNKI | 147.82 | 0 |
| SHY11_4-541 | 1068 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.65 | 1 | HNKI | 157.99 | 0 |
| SHY11_4-542 | 1069 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.27 | 1 | HNKI | 98.52 | 0 |
| SHY11_4-543 | 1070 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.46 | 1 | HNKI | 85.01 | 0 |
| SHY11_4-544 | 1071 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.07 | 1 | HNKI | 163.64 | 0 |
| SHY11_4-545 | 1072 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.98 | 1 | HNKI | 148.84 | 0 |
| SHY11_4-546 | 1073 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.2 | 1 | HNKI | 115.78 | 0 |
| SHY11_4-547 | 1074 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.45 | 1 | HNKI | 219.25 | 0 |
| SHY11_4-548 | 1076 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.39 | 1 | HNKI | 208.37 | 0 |
| SHY11_4-549 | 1077 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.78 | 1 | HNKI | 82.25 | 0 |
| SHY11_4-550 | 1078 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.72 | 1 | HNKI | 147.97 | 0 |
| SHY11_4-551 | 1079 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.88 | 1 | HNKI | 173.47 | 0 |
| SHY11_4-552 | 1080 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.25 | 1 | HNKI | 132.42 | 0 |
| SHY11_4-553 | 1081 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.96 | 1 | HNKI | 126.38 | 0 |
| SHY11_4-554 | 1082 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.55 | 1 | HNKI | 152.05 | 0 |
| SHY11_4-555 | 1083 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.16 | 1 | HNKI | 208.19 | 0 |
| SHY11_4-556 | 1084 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.67 | 1 | HNKI | 168.01 | 0 |
| SHY11_4-557 | 1085 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.22 | 1 | HNKI | 94.39 | 0 |
| SHY11_4-558 | 1086 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.6 | 1 | HNKI | 188.57 | 0 |
| SHY11_4-559 | 1087 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.2 | 1 | HNKI | 135.9 | 0 |
| SHY11_4-560 | 1088 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.71 | 1 | HNKI | 164.18 | 0 |
| SHY11_4-561 | 1089 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.66 | 1 | HNKI | 102.81 | 0 |
| SHY11_4-562 | 1090 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.72 | 1 | HNKI | 218.84 | 0 |
| SHY11_4-563 | 1091 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.44 | 1 | HNKI | 124.73 | 0 |
| SHY11_4-564 | 1092 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.77 | 1 | HNKI | 209.3 | 0 |
| SHY11_4-565 | 1093 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.4 | 1 | HNKI | 206.25 | 0 |
| SHY11_4-566 | 1094 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.66 | 1 | HNKI | 185.36 | 0 |
| SHY11_4-567 | 1095 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.79 | 1 | HNKI | 141.02 | 0 |
| SHY11_4-568 | 1096 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.41 | 1 | HNKI | 135.42 | 0 |
| SHY11_4-569 | 1097 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.81 | 1 | HNKI | 129.19 | 0 |
| SHY11_4-570 | 1098 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.03 | 1 | HNKI | 150.91 | 0 |
| SHY11_4-571 | 1099 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.89 | 1 | HNKI | 76.84 | 0 |
| SHY11_4-572 | 1100 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.3 | 1 | HNKI | 148.05 | 0 |
| SHY11_4-573 | 1101 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-574 | 1102 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.93 | 1 | HNKI | 104.47 | 0 |
| SHY11_4-575 | 1103 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.98 | 1 | HNKI | 117.59 | 0 |
| SHY11_4-576 | 1104 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.79 | 1 | HNKI | 179.66 | 0 |
| SHY11_4-577 | 1105 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.32 | 1 | HNKI | 204.59 | 0 |
| SHY11_4-578 | 1106 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.09 | 1 | HNKI | 131.89 | 0 |
| SHY11_4-579 | 1107 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.56 | 1 | HNKI | 83.01 | 0 |
| SHY11_4-580 | 1108 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.48 | 1 | HNKI | 98.78 | 0 |
| SHY11_4-581 | 1109 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-582 | 1110 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.28 | 1 | HNKI | 125.19 | 0 |
| SHY11_4-583 | 1111 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.55 | 1 | HNKI | 154.46 | 0 |
| SHY11_4-584 | 1112 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.62 | 1 | HNKI | 213.32 | 0 |
| SHY11_4-585 | 1113 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.53 | 1 | HNKI | 173.37 | 0 |
| SHY11_4-586 | 1114 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.39 | 1 | HNKI | 108.43 | 0 |
| SHY11_4-587 | 1115 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.95 | 1 | HNKI | 161.76 | 0 |
| SHY11_4-588 | 1116 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.29 | 1 | HNKI | 163 | 0 |
| SHY11_4-589 | 1117 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.38 | 1 | HNKI | 163.92 | 0 |
| SHY11_4-590 | 1118 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.83 | 1 | HNKI | 140.79 | 0 |
| SHY11_4-591 | 1120 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.73 | 1 | HNKI | 102.69 | 0 |
| SHY11_4-592 | 1121 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.54 | 1 | HNKI | 229.68 | 0 |
| SHY11_4-593 | 1122 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.84 | 1 | HNKI | 130.45 | 0 |
| SHY11_4-594 | 1123 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.12 | 1 | HNKI | 90.88 | 0 |
| SHY11_4-595 | 1124 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.97 | 1 | HNKI | 247.57 | 0 |
| SHY11_4-596 | 1125 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.64 | 1 | HNKI | 139.17 | 0 |
| SHY11_4-597 | 1127 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 0.36 | 1 | TSHG | 23.3 | 0 |
| SHY11_4-598 | 1128 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 1.7 | 1 | TSHG | 29.97 | 0 |
| SHY11_4-599 | 1129 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.12 | 0.9987 | TSHG | 14.45 | 0.0013 |
| SHY11_4-600 | 1130 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.59 | 1 | HNKI | 132.99 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-601 | 1131 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.67 | 1 | HNKI | 78.98 | 0 |
| SHY11_4-602 | 1132 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.06 | 1 | HNKI | 134.08 | 0 |
| SHY11_4-603 | 1133 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.74 | 1 | HNKI | 183.01 | 0 |
| SHY11_4-604 | 1134 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.27 | 1 | HNKI | 153.99 | 0 |
| SHY11_4-605 | 1135 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.27 | 1 | HNKI | 86.99 | 0 |
| SHY11_4-606 | 1136 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.3 | 1 | HNKI | 196.95 | 0 |
| SHY11_4-607 | 1137 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 7.71 | 1 | SBIY | 50.57 | 0 |
| SHY11_4-608 | 1138 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.91 | 1 | HNKI | 160.55 | 0 |
| SHY11_4-609 | 1139 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-610 | 1140 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.16 | 1 | HNKI | 199.2 | 0 |
| SHY11_4-611 | 1141 | 箱根畑宿群 | *H | HNHJ | 19.88 | 1 | HNKI | 214.11 | 0 |
| SHY11_4-612 | 1142 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.18 | 1 | HNKI | 77.58 | 0 |
| SHY11_4-613 | 1143 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.18 | 1 | HNKI | 116.47 | 0 |
| SHY11_4-614 | 1145 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.32 | 1 | HNKI | 152.34 | 0 |
| SHY11_4-615 | 1147 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.5 | 1 | HNKI | 138.68 | 0 |
| SHY11_4-616 | 1148 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.86 | 1 | HNKI | 153.78 | 0 |
| SHY11_4-617 | 1149 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.12 | 1 | HNKI | 104.14 | 0 |
| SHY11_4-618 | 1150 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.82 | 1 | HNKI | 62.41 | 0 |
| SHY11_4-619 | 1151 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-620 | 1152 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.22 | 1 | HNKI | 216.73 | 0 |
| SHY11_4-621 | 1153 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.08 | 1 | HNKI | 131.76 | 0 |
| SHY11_4-622 | 1154 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.11 | 1 | HNKI | 176.7 | 0 |
| SHY11_4-623 | 1156 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.76 | 1 | HNKI | 146.63 | 0 |
| SHY11_4-624 | 1157 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.05 | 1 | HNKI | 174.51 | 0 |
| SHY11_4-625 | 1158 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.27 | 1 | HNKI | 75 | 0 |
| SHY11_4-626 | 1159 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.74 | 1 | HNKI | 116.44 | 0 |
| SHY11_4-627 | 1161 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.48 | 1 | HNKI | 142.04 | 0 |
| SHY11_4-628 | 1162 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.19 | 1 | HNKI | 211.95 | 0 |
| SHY11_4-629 | 1163 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.82 | 1 | HNKI | 184.91 | 0 |
| SHY11_4-630 | 1164 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.75 | 1 | HNKI | 149.16 | 0 |
| SHY11_4-631 | 1166 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.81 | 1 | HNKI | 147.44 | 0 |
| SHY11_4-632 | 1167 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.61 | 1 | HNKI | 117.19 | 0 |
| SHY11_4-633 | 1168 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.89 | 1 | HNKI | 152.41 | 0 |
| SHY11_4-634 | 1169 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.01 | 1 | HNKI | 124.78 | 0 |
| SHY11_4-635 | 1170 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.02 | 1 | HNKI | 113.5 | 0 |
| SHY11_4-636 | 1171 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 3.78 | 0.9994 | TSHG | 14.73 | 0.0006 |
| SHY11_4-637 | 1172 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.17 | 1 | HNKI | 116.23 | 0 |
| SHY11_4-638 | 1173 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.21 | 1 | HNKI | 111.09 | 0 |
| SHY11_4-639 | 1174 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 2.07 | 1 | TSHG | 24.65 | 0 |
| SHY11_4-640 | 1175 | 箱根黒岩橋群 | HNKI | HNKI | 9.52 | 0.9727 | HNKJ | 19.08 | 0.0273 |
| SHY11_4-641 | 1176 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.44 | 1 | HNKI | 169.38 | 0 |
| SHY11_4-642 | 1178 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.92 | 1 | HNKI | 97.27 | 0 |
| SHY11_4-643 | 1180 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.66 | 1 | HNKI | 206.64 | 0 |
| SHY11_4-644 | 1181 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.78 | 1 | HNKI | 94.8 | 0 |
| SHY11_4-645 | 1182 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.64 | 1 | HNKI | 105.86 | 0 |
| SHY11_4-646 | 1183 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.84 | 1 | HNKI | 168.52 | 0 |
| SHY11_4-647 | 1184 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.27 | 1 | HNKI | 87.55 | 0 |
| SHY11_4-648 | 1185 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.84 | 1 | HNKI | 199.14 | 0 |
| SHY11_4-649 | 1186 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.06 | 1 | HNKI | 164.95 | 0 |
| SHY11_4-650 | 1187 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.02 | 1 | HNKI | 210.35 | 0 |
| SHY11_4-651 | 1188 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.18 | 1 | HNKI | 187.25 | 0 |
| SHY11_4-652 | 1189 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-653 | 1191 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.21 | 1 | HNKI | 95.13 | 0 |
| SHY11_4-654 | 1194 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.77 | 1 | HNKI | 163.43 | 0 |
| SHY11_4-655 | 1195 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.25 | 1 | HNKI | 100.85 | 0 |
| SHY11_4-656 | 1196 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.6 | 1 | HNKI | 117.61 | 0 |
| SHY11_4-657 | 1199 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.61 | 1 | HNKI | 110.65 | 0 |
| SHY11_4-658 | 1202 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.21 | 1 | HNKI | 114.49 | 0 |
| SHY11_4-659 | 1203 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.26 | 1 | HNKI | 82.93 | 0 |
| SHY11_4-660 | 1204 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.18 | 1 | HNKI | 151.5 | 0 |
| SHY11_4-661 | 1206 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.95 | 1 | HNKI | 110.66 | 0 |
| SHY11_4-662 | 1208 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.69 | 1 | HNKI | 215.66 | 0 |
| SHY11_4-663 | 1210 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.46 | 1 | HNKI | 144.61 | 0 |
| SHY11_4-664 | 1212 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.18 | 1 | HNKI | 99.18 | 0 |
| SHY11_4-665 | 1213 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.37 | 1 | HNKI | 231.73 | 0 |
| SHY11_4-666 | 1215 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.16 | 1 | HNKI | 100.77 | 0 |
| SHY11_4-667 | 1217 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.94 | 1 | HNKI | 152.76 | 0 |
| SHY11_4-668 | 1218 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.76 | 1 | HNKI | 211.21 | 0 |
| SHY11_4-669 | 1219 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.68 | 1 | HNKI | 134.23 | 0 |
| SHY11_4-670 | 1220 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.08 | 1 | HNKI | 217.15 | 0 |
| SHY11_4-671 | 1222 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.39 | 1 | HNKI | 213.75 | 0 |
| SHY11_4-672 | 1223 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.54 | 1 | HNKI | 81.89 | 0 |
| SHY11_4-673 | 1225 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.19 | 1 | HNKI | 94.5 | 0 |
| SHY11_4-674 | 1226 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 1.8 | 1 | TSHG | 20.82 | 0 |
| SHY11_4-675 | 1228 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-676 | 1229 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.55 | 1 | HNKI | 195.65 | 0 |
| SHY11_4-677 | 1230 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.95 | 1 | HNKI | 129.77 | 0 |
| SHY11_4-678 | 1233 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.08 | 1 | HNKI | 108.88 | 0 |
| SHY11_4-679 | 1235 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.94 | 1 | HNKI | 70.98 | 0 |
| SHY11_4-680 | 1236 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.89 | 1 | HNKI | 92.16 | 0 |
| SHY11_4-681 | 1237 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.11 | 1 | HNKI | 133.41 | 0 |
| SHY11_4-682 | 1239 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.43 | 1 | HNKI | 123.69 | 0 |
| SHY11_4-683 | 1240 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.99 | 1 | HNKI | 76.12 | 0 |
| SHY11_4-684 | 1241 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.73 | 1 | HNKI | 120.97 | 0 |
| SHY11_4-685 | 1242 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.25 | 1 | HNKI | 123.23 | 0 |
| SHY11_4-686 | 1243 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.29 | 1 | HNKI | 194.46 | 0 |
| SHY11_4-687 | 1244 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.37 | 1 | HNKI | 143.27 | 0 |
| SHY11_4-688 | 1245 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.44 | 1 | HNKI | 93.6 | 0 |
| SHY11_4-689 | 1248 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.59 | 1 | HNKI | 81.7 | 0 |
| SHY11_4-690 | 1249 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.14 | 1 | HNKI | 129.97 | 0 |
| SHY11_4-691 | 1251 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.09 | 1 | HNKI | 137.07 | 0 |
| SHY11_4-692 | 1252 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.22 | 1 | HNKI | 160.24 | 0 |
| SHY11_4-693 | 1254 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.73 | 1 | HNKI | 207.67 | 0 |
| SHY11_4-694 | 1255 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.84 | 1 | HNKI | 105.85 | 0 |
| SHY11_4-695 | 1256 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.54 | 1 | HNKI | 131.32 | 0 |
| SHY11_4-696 | 1257 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.99 | 1 | HNKI | 129.57 | 0 |
| SHY11_4-697 | 1258 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.09 | 1 | HNKI | 120.58 | 0 |
| SHY11_4-698 | 1259 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.67 | 1 | HNKI | 125.21 | 0 |
| SHY11_4-699 | 1261 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.99 | 1 | HNKI | 235.02 | 0 |
| SHY11_4-700 | 1262 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.99 | 1 | HNKI | 182.89 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-701 | 1263 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.7 | 1 | HNKI | 125.68 | 0 |
| SHY11_4-702 | 1265 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.61 | 1 | HNKI | 216.53 | 0 |
| SHY11_4-703 | 1266 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.73 | 1 | HNKI | 99.59 | 0 |
| SHY11_4-704 | 1267 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.1 | 1 | HNKI | 83.32 | 0 |
| SHY11_4-705 | 1269 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 1.61 | 0.9986 | TSHG | 10.87 | 0.0014 |
| SHY11_4-706 | 1270 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.03 | 1 | HNKI | 141.66 | 0 |
| SHY11_4-707 | 1273 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 1.43 | 0.9999 | TSHG | 16.28 | 0.0001 |
| SHY11_4-708 | 1275 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-709 | 1276 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.51 | 1 | HNKI | 168 | 0 |
| SHY11_4-710 | 1277 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.88 | 1 | HNKI | 121.85 | 0 |
| SHY11_4-711 | 1278 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.84 | 1 | HNKI | 121.38 | 0 |
| SHY11_4-712 | 1279 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.68 | 1 | HNKI | 202.34 | 0 |
| SHY11_4-713 | 1283 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.87 | 1 | HNKI | 139.5 | 0 |
| SHY11_4-714 | 1285 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-715 | 1286 | 箱根黒岩橋群 | HNKI | HNKI | 13.97 | 0.9998 | HNKJ | 33.88 | 0.0002 |
| SHY11_4-716 | 1287 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.12 | 1 | HNKI | 118.75 | 0 |
| SHY11_4-717 | 1289 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.9 | 1 | HNKI | 111.36 | 0 |
| SHY11_4-718 | 1291 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.97 | 1 | HNKI | 145.34 | 0 |
| SHY11_4-719 | 1292 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.24 | 1 | HNKI | 120.48 | 0 |
| SHY11_4-720 | 1293 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.67 | 1 | HNKI | 168.68 | 0 |
| SHY11_4-721 | 1294 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.93 | 1 | HNKI | 156.99 | 0 |
| SHY11_4-722 | 1295 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.81 | 1 | HNKI | 104.84 | 0 |
| SHY11_4-723 | 1298 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.8 | 1 | HNKI | 129.58 | 0 |
| SHY11_4-724 | 1299 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.62 | 1 | HNKI | 84.92 | 0 |
| SHY11_4-725 | 1301 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.18 | 1 | HNKI | 173.81 | 0 |
| SHY11_4-726 | 1302 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 27.07 | 1 | HNKI | 242.53 | 0 |
| SHY11_4-727 | 1303 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.85 | 1 | HNKI | 146.95 | 0 |
| SHY11_4-728 | 1304 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.04 | 1 | HNKI | 58.41 | 0 |
| SHY11_4-729 | 1306 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.72 | 1 | HNKI | 168.86 | 0 |
| SHY11_4-730 | 1307 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.05 | 1 | HNKI | 152.98 | 0 |
| SHY11_4-731 | 1308 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10 | 1 | HNKI | 167.29 | 0 |
| SHY11_4-732 | 1309 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.97 | 1 | HNKI | 114.85 | 0 |
| SHY11_4-733 | 1310 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-734 | 1313 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.49 | 1 | HNKI | 48.99 | 0 |
| SHY11_4-735 | 1314 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.34 | 1 | HNKI | 98.99 | 0 |
| SHY11_4-736 | 1315 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 4.44 | 1 | TSHG | 23.46 | 0 |
| SHY11_4-737 | 1316 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.76 | 1 | HNKI | 179.16 | 0 |
| SHY11_4-738 | 1317 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.09 | 1 | HNKI | 144.31 | 0 |
| SHY11_4-739 | 1319 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.62 | 1 | HNKI | 74.96 | 0 |
| SHY11_4-740 | 1320 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.3 | 1 | HNKI | 186.41 | 0 |
| SHY11_4-741 | 1321 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.07 | 1 | HNKI | 87.93 | 0 |
| SHY11_4-742 | 1322 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.78 | 1 | HNKI | 123.26 | 0 |
| SHY11_4-743 | 1323 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.15 | 1 | HNKI | 165.07 | 0 |
| SHY11_4-744 | 1324 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.4 | 1 | HNKI | 111.12 | 0 |
| SHY11_4-745 | 1326 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.07 | 1 | HNKI | 208.68 | 0 |
| SHY11_4-746 | 1327 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.3 | 1 | HNKI | 92.97 | 0 |
| SHY11_4-747 | 1329 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.29 | 1 | HNKI | 183.43 | 0 |
| SHY11_4-748 | 1330 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.29 | 1 | HNKI | 62.83 | 0 |
| SHY11_4-749 | 1331 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-750 | 1333 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.47 | 1 | HNKI | 79.77 | 0 |
| SHY11_4-751 | 1334 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.56 | 1 | HNKI | 90.65 | 0 |
| SHY11_4-752 | 1335 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.42 | 1 | HNKI | 140.05 | 0 |
| SHY11_4-753 | 1336 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.1 | 1 | HNKI | 110.69 | 0 |
| SHY11_4-754 | 1338 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.68 | 1 | HNKI | 128.39 | 0 |
| SHY11_4-755 | 1341 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-756 | 1342 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.64 | 1 | HNKI | 166.64 | 0 |
| SHY11_4-757 | 1343 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-758 | 1345 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.37 | 1 | HNKI | 139.82 | 0 |
| SHY11_4-759 | 1348 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.81 | 1 | HNKI | 216.03 | 0 |
| SHY11_4-760 | 1350 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.99 | 1 | HNKI | 105.19 | 0 |
| SHY11_4-761 | 1355 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.2 | 1 | HNKI | 124.77 | 0 |
| SHY11_4-762 | 1357 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.23 | 1 | HNKI | 212.25 | 0 |
| SHY11_4-763 | 1359 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.46 | 1 | HNKI | 183.67 | 0 |
| SHY11_4-764 | 1360 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.03 | 1 | HNKI | 163.11 | 0 |
| SHY11_4-765 | 1361 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.66 | 1 | HNKI | 136.17 | 0 |
| SHY11_4-766 | 1362 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-767 | 1363 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.91 | 1 | HNKI | 221.47 | 0 |
| SHY11_4-768 | 1364 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.1 | 1 | HNKI | 111.77 | 0 |
| SHY11_4-769 | 1365 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.64 | 1 | HNKI | 218.75 | 0 |
| SHY11_4-770 | 1366 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.4 | 1 | HNKI | 124.29 | 0 |
| SHY11_4-771 | 1367 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.89 | 1 | HNKI | 100.99 | 0 |
| SHY11_4-772 | 1368 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-773 | 1369 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.03 | 1 | HNKI | 105.78 | 0 |
| SHY11_4-774 | 1370 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.37 | 1 | HNKI | 99.67 | 0 |
| SHY11_4-775 | 1371 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-776 | 1375 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.37 | 1 | HNKI | 163.37 | 0 |
| SHY11_4-777 | 1376 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.2 | 1 | HNKI | 236.75 | 0 |
| SHY11_4-778 | 1392 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.66 | 1 | HNKI | 192.46 | 0 |
| SHY11_4-779 | 1393 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-780 | 1397 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-781 | 1399 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.34 | 1 | HNKI | 100.56 | 0 |
| SHY11_4-782 | 1401 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.96 | 1 | HNKI | 93.24 | 0 |
| SHY11_4-783 | 1402 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-784 | 1404 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.59 | 1 | HNKI | 102.53 | 0 |
| SHY11_4-785 | 1405 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-786 | 1406 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-787 | 1410 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.42 | 1 | HNKI | 162.73 | 0 |
| SHY11_4-788 | 1411 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.02 | 1 | HNKI | 103.67 | 0 |
| SHY11_4-789 | 1413 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-790 | 1415 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.72 | 1 | HNKI | 192.72 | 0 |
| SHY11_4-791 | 1418 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.08 | 1 | HNKI | 208.97 | 0 |
| SHY11_4-792 | 1419 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.08 | 1 | HNKI | 97.64 | 0 |
| SHY11_4-793 | 1421 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.41 | 1 | HNKI | 108.24 | 0 |
| SHY11_4-794 | 1423 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.19 | 1 | HNKI | 126.35 | 0 |
| SHY11_4-795 | 1427 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-796 | 1428 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.71 | 1 | HNKI | 140.8 | 0 |
| SHY11_4-797 | 1429 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.85 | 1 | HNKI | 138.43 | 0 |
| SHY11_4-798 | 1430 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.76 | 1 | HNKI | 118.01 | 0 |
| SHY11_4-799 | 1432 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.57 | 1 | HNKI | 127.88 | 0 |
| SHY11_4-800 | 1433 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.44 | 1 | HNKI | 92.66 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-801 | 1435 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.62 | 1 | HNKI | 72.35 | 0 |
| SHY11_4-802 | 1437 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.34 | 1 | HNKI | 110.67 | 0 |
| SHY11_4-803 | 1438 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.54 | 1 | HNKI | 183.32 | 0 |
| SHY11_4-804 | 1439 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.63 | 1 | HNKI | 141.78 | 0 |
| SHY11_4-805 | 1440 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-806 | 1442 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.15 | 1 | HNKI | 149.95 | 0 |
| SHY11_4-807 | 1443 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.51 | 1 | HNKI | 166.02 | 0 |
| SHY11_4-808 | 1444 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.71 | 1 | HNKI | 164.13 | 0 |
| SHY11_4-809 | 1446 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.53 | 1 | HNKI | 138.08 | 0 |
| SHY11_4-810 | 1447 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.65 | 1 | HNKI | 152.71 | 0 |
| SHY11_4-811 | 1450 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.08 | 1 | HNKI | 143.21 | 0 |
| SHY11_4-812 | 1451 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.35 | 1 | HNKI | 127.1 | 0 |
| SHY11_4-813 | 1452 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-814 | 1453 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.58 | 1 | HNKI | 238.12 | 0 |
| SHY11_4-815 | 1454 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.06 | 1 | HNKI | 155.4 | 0 |
| SHY11_4-816 | 1456 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.62 | 1 | HNKI | 123.46 | 0 |
| SHY11_4-817 | 1457 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.06 | 1 | HNKI | 83.78 | 0 |
| SHY11_4-818 | 1458 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-819 | 1460 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 2.67 | 1 | TSHG | 18.57 | 0 |
| SHY11_4-820 | 1462 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.39 | 1 | HNKI | 122.23 | 0 |
| SHY11_4-821 | 1463 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.81 | 1 | HNKI | 158.08 | 0 |
| SHY11_4-822 | 1464 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.27 | 1 | HNKI | 126.03 | 0 |
| SHY11_4-823 | 1465 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.82 | 1 | HNKI | 97.18 | 0 |
| SHY11_4-824 | 1466 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.32 | 1 | HNKI | 90.21 | 0 |
| SHY11_4-825 | 1467 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.39 | 1 | HNKI | 105.98 | 0 |
| SHY11_4-826 | 1468 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.24 | 1 | HNKI | 207.06 | 0 |
| SHY11_4-827 | 1469 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.81 | 1 | HNKI | 62.43 | 0 |
| SHY11_4-828 | 1470 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.67 | 1 | HNKI | 112.13 | 0 |
| SHY11_4-829 | 1471 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.17 | 1 | HNKI | 111.1 | 0 |
| SHY11_4-830 | 1474 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.81 | 1 | HNKI | 122.82 | 0 |
| SHY11_4-831 | 1475 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-832 | 1476 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 11.45 | 0.9998 | TSHG | 24.41 | 0.0002 |
| SHY11_4-833 | 1477 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.17 | 1 | HNKI | 157.42 | 0 |
| SHY11_4-834 | 1478 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 2.24 | 0.999 | TSHG | 12.11 | 0.001 |
| SHY11_4-835 | 1479 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.1 | 0.9999 | TSHG | 20.13 | 0.0001 |
| SHY11_4-836 | 1480 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.23 | 1 | HNKI | 135.58 | 0 |
| SHY11_4-837 | 1481 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 12.5 | 0.9996 | TSHG | 24.39 | 0.0004 |
| SHY11_4-838 | 1482 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.64 | 1 | HNKI | 147.5 | 0 |
| SHY11_4-839 | 1483 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.95 | 1 | HNKI | 124.09 | 0 |
| SHY11_4-840 | 1484 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.11 | 1 | HNKI | 69.01 | 0 |
| SHY11_4-841 | 1486 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.74 | 1 | HNKI | 149.63 | 0 |
| SHY11_4-842 | 1487 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.82 | 1 | HNKI | 92.41 | 0 |
| SHY11_4-843 | 1489 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 4.12 | 1 | TSHG | 20.59 | 0 |
| SHY11_4-844 | 1491 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.47 | 1 | HNKI | 200.5 | 0 |
| SHY11_4-845 | 1492 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.64 | 1 | HNKI | 124.94 | 0 |
| SHY11_4-846 | 1493 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.04 | 1 | HNKI | 98.39 | 0 |
| SHY11_4-847 | 1494 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.85 | 1 | HNKI | 145.27 | 0 |
| SHY11_4-848 | 1495 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.55 | 1 | HNKI | 186.37 | 0 |
| SHY11_4-849 | 1496 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.66 | 1 | HNKI | 193.11 | 0 |
| SHY11_4-850 | 1497 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.18 | 1 | HNKI | 140.26 | 0 |
| SHY11_4-851 | 1498 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.99 | 1 | HNKI | 157.72 | 0 |
| SHY11_4-852 | 1500 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.19 | 1 | HNKI | 188.23 | 0 |
| SHY11_4-853 | 1501 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.12 | 1 | HNKI | 134.47 | 0 |
| SHY11_4-854 | 1502 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-855 | 1503 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 6.35 | 1 | TSHG | 28.31 | 0 |
| SHY11_4-856 | 1505 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.67 | 1 | HNKI | 172.41 | 0 |
| SHY11_4-857 | 1506 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.56 | 1 | HNKI | 161.97 | 0 |
| SHY11_4-858 | 1507 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-859 | 1508 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.13 | 1 | HNKI | 202.18 | 0 |
| SHY11_4-860 | 1509 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 6.57 | 0.9946 | TSHG | 13.09 | 0.0054 |
| SHY11_4-861 | 1510 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 1.76 | 1 | TSHG | 22.19 | 0 |
| SHY11_4-862 | 1511 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.53 | 1 | HNKI | 92.38 | 0 |
| SHY11_4-863 | 1512 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.35 | 1 | HNKI | 163.59 | 0 |
| SHY11_4-864 | 1514 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.32 | 1 | HNKI | 113.98 | 0 |
| SHY11_4-865 | 1515 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.38 | 1 | HNKI | 102.35 | 0 |
| SHY11_4-866 | 1518 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.63 | 1 | HNKI | 118.09 | 0 |
| SHY11_4-867 | 1519 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.05 | 1 | HNKI | 177.37 | 0 |
| SHY11_4-868 | 1520 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-869 | 1521 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.2 | 1 | HNKI | 168.35 | 0 |
| SHY11_4-870 | 1522 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-871 | 1523 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.25 | 1 | HNKI | 156.11 | 0 |
| SHY11_4-872 | 1524 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.78 | 1 | HNKI | 72.74 | 0 |
| SHY11_4-873 | 1525 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.46 | 1 | HNKI | 222.7 | 0 |
| SHY11_4-874 | 1526 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.45 | 1 | HNKI | 69.98 | 0 |
| SHY11_4-875 | 1527 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.54 | 1 | HNKI | 164.87 | 0 |
| SHY11_4-876 | 1528 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.13 | 1 | HNKI | 207.9 | 0 |
| SHY11_4-877 | 1529 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-878 | 1530 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.85 | 1 | HNKI | 94.88 | 0 |
| SHY11_4-879 | 1531 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.39 | 1 | HNKI | 111.5 | 0 |
| SHY11_4-880 | 1532 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.72 | 1 | HNKI | 206.94 | 0 |
| SHY11_4-881 | 1534 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.58 | 1 | HNKI | 123.83 | 0 |
| SHY11_4-882 | 1535 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.12 | 1 | HNKI | 102.83 | 0 |
| SHY11_4-883 | 1536 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.04 | 1 | HNKI | 74.62 | 0 |
| SHY11_4-884 | 1537 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.18 | 1 | HNKI | 126.32 | 0 |
| SHY11_4-885 | 1538 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-886 | 1539 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.73 | 1 | HNKI | 151 | 0 |
| SHY11_4-887 | 1540 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 27.36 | 1 | HNKI | 239.42 | 0 |
| SHY11_4-888 | 1541 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.31 | 1 | HNKI | 109.78 | 0 |
| SHY11_4-889 | 1542 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.24 | 1 | HNKI | 127.28 | 0 |
| SHY11_4-890 | 1543 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.45 | 1 | HNKI | 119.73 | 0 |
| SHY11_4-891 | 1544 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.82 | 1 | HNKI | 116.58 | 0 |
| SHY11_4-892 | 1545 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.29 | 1 | HNKI | 102.52 | 0 |
| SHY11_4-893 | 1546 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.22 | 1 | HNKI | 84.99 | 0 |
| SHY11_4-894 | 1547 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.93 | 1 | HNKI | 94.62 | 0 |
| SHY11_4-895 | 1548 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.26 | 1 | HNKI | 124.6 | 0 |
| SHY11_4-896 | 1550 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.25 | 1 | HNKI | 104.29 | 0 |
| SHY11_4-897 | 1551 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.78 | 1 | HNKI | 170.71 | 0 |
| SHY11_4-898 | 1552 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.08 | 1 | HNKI | 98.67 | 0 |
| SHY11_4-899 | 1553 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.56 | 1 | HNKI | 164.48 | 0 |
| SHY11_4-900 | 1554 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.87 | 1 | HNKI | 140.4 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-901 | 1555 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.19 | 1 | HNKI | 133.54 | 0 |
| SHY11_4-902 | 1556 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.34 | 1 | HNKI | 122.75 | 0 |
| SHY11_4-903 | 1559 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.78 | 1 | HNKI | 122.26 | 0 |
| SHY11_4-904 | 1560 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-905 | 1561 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.33 | 1 | HNKI | 167.35 | 0 |
| SHY11_4-906 | 1562 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.82 | 1 | HNKI | 239.55 | 0 |
| SHY11_4-907 | 1564 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.24 | 1 | HNKI | 204 | 0 |
| SHY11_4-908 | 1565 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.09 | 1 | HNKI | 208.4 | 0 |
| SHY11_4-909 | 1566 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.48 | 1 | HNKI | 204.46 | 0 |
| SHY11_4-910 | 1568 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.06 | 1 | HNKI | 182.47 | 0 |
| SHY11_4-911 | 1569 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-912 | 1570 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.45 | 1 | HNKI | 110.5 | 0 |
| SHY11_4-913 | 1571 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.81 | 1 | HNKI | 204.8 | 0 |
| SHY11_4-914 | 1572 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.24 | 1 | HNKI | 148.42 | 0 |
| SHY11_4-915 | 1573 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.36 | 1 | HNKI | 92.22 | 0 |
| SHY11_4-916 | 1574 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.18 | 1 | HNKI | 80.87 | 0 |
| SHY11_4-917 | 1575 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.73 | 1 | HNKI | 243.58 | 0 |
| SHY11_4-918 | 1576 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.4 | 1 | HNKI | 176.57 | 0 |
| SHY11_4-919 | 1577 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.55 | 1 | HNKI | 185.67 | 0 |
| SHY11_4-920 | 1578 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.65 | 1 | HNKI | 183.66 | 0 |
| SHY11_4-921 | 1579 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.29 | 1 | HNKI | 119.78 | 0 |
| SHY11_4-922 | 1580 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.04 | 1 | HNKI | 48.87 | 0 |
| SHY11_4-923 | 1581 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.61 | 1 | HNKI | 115.27 | 0 |
| SHY11_4-924 | 1582 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.57 | 1 | HNKI | 139.11 | 0 |
| SHY11_4-925 | 1583 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.47 | 1 | HNKI | 115.91 | 0 |
| SHY11_4-926 | 1584 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-927 | 1585 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.85 | 1 | HNKI | 223.75 | 0 |
| SHY11_4-928 | 1586 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.26 | 1 | HNKI | 108.06 | 0 |
| SHY11_4-929 | 1587 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.64 | 1 | HNKI | 159.49 | 0 |
| SHY11_4-930 | 1589 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-931 | 1590 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.75 | 1 | HNKI | 168.26 | 0 |
| SHY11_4-932 | 1592 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.08 | 1 | HNKI | 162.95 | 0 |
| SHY11_4-933 | 1593 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 1.95 | 1 | TSHG | 24.28 | 0 |
| SHY11_4-934 | 1594 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.98 | 1 | HNKI | 132.24 | 0 |
| SHY11_4-935 | 1595 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.47 | 1 | HNKI | 92.08 | 0 |
| SHY11_4-936 | 1596 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.16 | 1 | HNKI | 206.7 | 0 |
| SHY11_4-937 | 1597 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.94 | 1 | HNKI | 94.05 | 0 |
| SHY11_4-938 | 1598 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.24 | 1 | HNKI | 121.91 | 0 |
| SHY11_4-939 | 1600 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.36 | 1 | HNKI | 96.24 | 0 |
| SHY11_4-940 | 1601 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.53 | 1 | HNKI | 148.52 | 0 |
| SHY11_4-941 | 1602 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.45 | 1 | HNKI | 126.67 | 0 |
| SHY11_4-942 | 1603 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.16 | 1 | HNKI | 114.3 | 0 |
| SHY11_4-943 | 1604 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.21 | 1 | HNKI | 127.39 | 0 |
| SHY11_4-944 | 1605 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.54 | 1 | HNKI | 95.65 | 0 |
| SHY11_4-945 | 1606 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.85 | 1 | HNKI | 110.67 | 0 |
| SHY11_4-946 | 1607 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.78 | 1 | HNKI | 151.54 | 0 |
| SHY11_4-947 | 1608 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.4 | 1 | HNKI | 233.27 | 0 |
| SHY11_4-948 | 1609 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.93 | 1 | HNKI | 58.46 | 0 |
| SHY11_4-949 | 1611 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.18 | 1 | HNKI | 170.37 | 0 |
| SHY11_4-950 | 1612 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.87 | 1 | HNKI | 119.36 | 0 |
| SHY11_4-951 | 1617 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.05 | 1 | HNKI | 182.47 | 0 |
| SHY11_4-952 | 1618 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.27 | 1 | HNKI | 126.87 | 0 |
| SHY11_4-953 | 1619 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 27.71 | 1 | HNKI | 237.04 | 0 |
| SHY11_4-954 | 1620 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.68 | 1 | HNKI | 99.47 | 0 |
| SHY11_4-955 | 1622 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.75 | 1 | HNKI | 174.97 | 0 |
| SHY11_4-956 | 1623 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.73 | 1 | HNKI | 141.38 | 0 |
| SHY11_4-957 | 1624 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.65 | 1 | HNKI | 131.91 | 0 |
| SHY11_4-958 | 1625 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.46 | 1 | HNKI | 136.47 | 0 |
| SHY11_4-959 | 1626 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.67 | 1 | HNKI | 159.67 | 0 |
| SHY11_4-960 | 1627 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.14 | 1 | HNKI | 221.18 | 0 |
| SHY11_4-961 | 1628 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.59 | 1 | HNKI | 151.36 | 0 |
| SHY11_4-962 | 1630 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.82 | 1 | HNKI | 168.32 | 0 |
| SHY11_4-963 | 1631 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.14 | 1 | HNKI | 176.03 | 0 |
| SHY11_4-964 | 1632 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.02 | 1 | HNKI | 162.85 | 0 |
| SHY11_4-965 | 1633 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-966 | 1634 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.33 | 1 | HNKI | 118.45 | 0 |
| SHY11_4-967 | 1635 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.72 | 1 | HNKI | 117.62 | 0 |
| SHY11_4-968 | 1636 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.88 | 1 | HNKI | 161.71 | 0 |
| SHY11_4-969 | 1637 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.52 | 1 | HNKI | 117.66 | 0 |
| SHY11_4-970 | 1640 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.63 | 1 | HNKI | 253.45 | 0 |
| SHY11_4-971 | 1641 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.37 | 1 | HNKI | 166.07 | 0 |
| SHY11_4-972 | 1642 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.35 | 1 | HNKI | 155.38 | 0 |
| SHY11_4-973 | 1644 | 諏訪星ヶ台群 | SWHD | SWHD | 5.44 | 1 | SBIY | 104.14 | 0 |
| SHY11_4-974 | 1645 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.18 | 1 | HNKI | 95.77 | 0 |
| SHY11_4-975 | 1646 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.75 | 1 | HNKI | 112.26 | 0 |
| SHY11_4-976 | 1647 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.99 | 1 | HNKI | 105.11 | 0 |
| SHY11_4-977 | 1648 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.42 | 1 | HNKI | 113.12 | 0 |
| SHY11_4-978 | 1649 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.13 | 1 | HNKI | 108.61 | 0 |
| SHY11_4-979 | 1650 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.05 | 1 | HNKI | 111.7 | 0 |
| SHY11_4-980 | 1652 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.23 | 1 | HNKI | 92.63 | 0 |
| SHY11_4-981 | 1653 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-982 | 1654 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-983 | 1655 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-984 | 1658 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-985 | 1659 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.94 | 1 | HNKI | 97.84 | 0 |
| SHY11_4-986 | 1660 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.36 | 1 | HNKI | 146.66 | 0 |
| SHY11_4-987 | 1662 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.21 | 1 | HNKI | 83.61 | 0 |
| SHY11_4-988 | 1663 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-989 | 1664 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.37 | 1 | HNKI | 62.74 | 0 |
| SHY11_4-990 | 1665 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-991 | 1666 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.25 | 1 | HNKI | 119.27 | 0 |
| SHY11_4-992 | 1667 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.78 | 1 | HNKI | 136.8 | 0 |
| SHY11_4-993 | 1668 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.01 | 1 | HNKI | 87.65 | 0 |
| SHY11_4-994 | 1669 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.19 | 0.9997 | HNKI | 38.04 | 0.0003 |
| SHY11_4-995 | 1670 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.64 | 1 | HNKI | 66.52 | 0 |
| SHY11_4-996 | 1672 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.75 | 1 | HNKI | 59.22 | 0 |
| SHY11_4-997 | 1673 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.07 | 1 | HNKI | 225.78 | 0 |
| SHY11_4-998 | 1677 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.04 | 1 | HNKI | 116.45 | 0 |
| SHY11_4-999 | 1678 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.48 | 1 | HNKI | 130.51 | 0 |
| SHY11_4-1000 | 1679 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.03 | 1 | HNKI | 141.01 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-1001 | 1680 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1002 | 1692 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.39 | 1 | HNKI | 175.45 | 0 |
| SHY11_4-1003 | 1693 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.92 | 1 | HNKI | 115.51 | 0 |
| SHY11_4-1004 | 1694 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.98 | 1 | HNKI | 150.55 | 0 |
| SHY11_4-1005 | 1695 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.82 | 1 | HNKI | 74.03 | 0 |
| SHY11_4-1006 | 1696 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.08 | 1 | HNKI | 119.78 | 0 |
| SHY11_4-1007 | 1697 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.76 | 1 | HNKI | 153.22 | 0 |
| SHY11_4-1008 | 1699 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.59 | 1 | HNKI | 166.03 | 0 |
| SHY11_4-1009 | 1700 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.84 | 1 | HNKI | 214.98 | 0 |
| SHY11_4-1010 | 1702 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.59 | 1 | HNKI | 218.8 | 0 |
| SHY11_4-1011 | 1703 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.78 | 1 | HNKI | 98.24 | 0 |
| SHY11_4-1012 | 1704 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.56 | 1 | HNKI | 186.85 | 0 |
| SHY11_4-1013 | 1706 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.73 | 1 | HNKI | 114.87 | 0 |
| SHY11_4-1014 | 1707 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.58 | 1 | HNKI | 156.3 | 0 |
| SHY11_4-1015 | 1708 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.53 | 1 | HNKI | 112.17 | 0 |
| SHY11_4-1016 | 1710 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.02 | 1 | HNKI | 148.32 | 0 |
| SHY11_4-1017 | 1711 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.61 | 1 | HNKI | 179.41 | 0 |
| SHY11_4-1018 | 1712 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.93 | 1 | HNKI | 130.12 | 0 |
| SHY11_4-1019 | 1713 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.28 | 1 | HNKI | 107.96 | 0 |
| SHY11_4-1020 | 1714 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.69 | 1 | HNKI | 147.86 | 0 |
| SHY11_4-1021 | 1715 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.23 | 1 | HNKI | 119.52 | 0 |
| SHY11_4-1022 | 1716 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.54 | 1 | HNKI | 97.75 | 0 |
| SHY11_4-1023 | 1718 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.66 | 1 | HNKI | 155.98 | 0 |
| SHY11_4-1024 | 1719 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.52 | 1 | HNKI | 41.98 | 0 |
| SHY11_4-1025 | 1721 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.43 | 1 | HNKI | 233.09 | 0 |
| SHY11_4-1026 | 1724 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.91 | 1 | HNKI | 173.11 | 0 |
| SHY11_4-1027 | 1725 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1028 | 1726 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.44 | 1 | HNKI | 141.77 | 0 |
| SHY11_4-1029 | 1727 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.08 | 1 | HNKI | 150.82 | 0 |
| SHY11_4-1030 | 1728 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.71 | 1 | HNKI | 140.29 | 0 |
| SHY11_4-1031 | 1729 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.58 | 1 | HNKI | 141.46 | 0 |
| SHY11_4-1032 | 1731 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.85 | 1 | HNKI | 124.44 | 0 |
| SHY11_4-1033 | 1734 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.4 | 1 | HNKI | 152.56 | 0 |
| SHY11_4-1034 | 1736 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.62 | 1 | HNKI | 195.7 | 0 |
| SHY11_4-1035 | 1737 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.08 | 1 | HNKI | 181.98 | 0 |
| SHY11_4-1036 | 1738 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.85 | 1 | HNKI | 60.54 | 0 |
| SHY11_4-1037 | 1739 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.38 | 1 | HNKI | 163.37 | 0 |
| SHY11_4-1038 | 1740 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.54 | 1 | HNKI | 79.81 | 0 |
| SHY11_4-1039 | 1741 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.73 | 1 | HNKI | 135.1 | 0 |
| SHY11_4-1040 | 1742 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.28 | 1 | HNKI | 175.65 | 0 |
| SHY11_4-1041 | 1743 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.88 | 1 | HNKI | 198.92 | 0 |
| SHY11_4-1042 | 1744 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.66 | 1 | HNKI | 191.61 | 0 |
| SHY11_4-1043 | 1745 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.59 | 1 | HNKI | 161.93 | 0 |
| SHY11_4-1044 | 1748 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.68 | 1 | HNKI | 202.04 | 0 |
| SHY11_4-1045 | 1749 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.85 | 1 | HNKI | 224.67 | 0 |
| SHY11_4-1046 | 1750 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.88 | 1 | HNKI | 139.12 | 0 |
| SHY11_4-1047 | 1751 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.7 | 1 | HNKI | 137.46 | 0 |
| SHY11_4-1048 | 1752 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.44 | 1 | HNKI | 215.94 | 0 |
| SHY11_4-1049 | 1753 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.49 | 1 | HNKI | 126.33 | 0 |
| SHY11_4-1050 | 1754 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.57 | 1 | HNKI | 167.13 | 0 |
| SHY11_4-1051 | 1755 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.2 | 1 | HNKI | 206.28 | 0 |
| SHY11_4-1052 | 1756 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.94 | 1 | HNKI | 129.61 | 0 |
| SHY11_4-1053 | 1757 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.98 | 1 | HNKI | 217.04 | 0 |
| SHY11_4-1054 | 1758 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.91 | 1 | HNKI | 173.67 | 0 |
| SHY11_4-1055 | 1759 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.01 | 1 | HNKI | 221.66 | 0 |
| SHY11_4-1056 | 1760 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.52 | 1 | HNKI | 188.49 | 0 |
| SHY11_4-1057 | 1761 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.64 | 1 | HNKI | 186.86 | 0 |
| SHY11_4-1058 | 1763 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.75 | 1 | HNKI | 180.2 | 0 |
| SHY11_4-1059 | 1764 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.26 | 1 | HNKI | 158.87 | 0 |
| SHY11_4-1060 | 1765 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3 | 1 | HNKI | 94.79 | 0 |
| SHY11_4-1061 | 1766 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.1 | 1 | HNKI | 113 | 0 |
| SHY11_4-1062 | 1767 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1063 | 1769 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.9 | 1 | HNKI | 199.66 | 0 |
| SHY11_4-1064 | 1772 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.04 | 1 | HNKI | 213.54 | 0 |
| SHY11_4-1065 | 1774 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 6.14 | 1 | TSHG | 25.81 | 0 |
| SHY11_4-1066 | 1775 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.02 | 1 | HNKI | 138.66 | 0 |
| SHY11_4-1067 | 1778 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.01 | 1 | HNKI | 133.9 | 0 |
| SHY11_4-1068 | 1791 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.03 | 1 | HNKI | 155.8 | 0 |
| SHY11_4-1069 | 1796 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.04 | 1 | HNKI | 192.94 | 0 |
| SHY11_4-1070 | 1797 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.19 | 1 | HNKI | 126.95 | 0 |
| SHY11_4-1071 | 1801 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1072 | 1802 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 27.12 | 1 | HNKI | 239.4 | 0 |
| SHY11_4-1073 | 1803 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.86 | 1 | HNKI | 160.64 | 0 |
| SHY11_4-1074 | 1804 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.94 | 1 | HNKI | 141.39 | 0 |
| SHY11_4-1075 | 1805 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.81 | 1 | HNKI | 148.92 | 0 |
| SHY11_4-1076 | 1806 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.23 | 1 | HNKI | 241.27 | 0 |
| SHY11_4-1077 | 1808 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.77 | 1 | HNKI | 124.78 | 0 |
| SHY11_4-1078 | 1809 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.5 | 1 | HNKI | 155.15 | 0 |
| SHY11_4-1079 | 1810 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.74 | 1 | HNKI | 112.57 | 0 |
| SHY11_4-1080 | 1811 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.28 | 1 | HNKI | 97.61 | 0 |
| SHY11_4-1081 | 1812 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.49 | 1 | HNKI | 108.88 | 0 |
| SHY11_4-1082 | 1813 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.94 | 1 | HNKI | 233.12 | 0 |
| SHY11_4-1083 | 1817 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.03 | 1 | HNKI | 195.57 | 0 |
| SHY11_4-1084 | 1819 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.48 | 1 | HNKI | 123.63 | 0 |
| SHY11_4-1085 | 1821 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.28 | 1 | HNKI | 116.64 | 0 |
| SHY11_4-1086 | 1825 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.28 | 1 | HNKI | 105.19 | 0 |
| SHY11_4-1087 | 1826 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.23 | 1 | HNKI | 87.1 | 0 |
| SHY11_4-1088 | 1827 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.59 | 1 | HNKI | 206.89 | 0 |
| SHY11_4-1089 | 1828 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.27 | 1 | HNKI | 92.02 | 0 |
| SHY11_4-1090 | 1831 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.52 | 1 | HNKI | 89.6 | 0 |
| SHY11_4-1091 | 1833 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.97 | 1 | HNKI | 131.16 | 0 |
| SHY11_4-1092 | 1834 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.84 | 1 | HNKI | 183.62 | 0 |
| SHY11_4-1093 | 1837 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.76 | 1 | HNKI | 153.11 | 0 |
| SHY11_4-1094 | 1838 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.08 | 1 | HNKI | 122.76 | 0 |
| SHY11_4-1095 | 1839 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1096 | 1842 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.99 | 1 | HNKI | 115.76 | 0 |
| SHY11_4-1097 | 1843 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.13 | 1 | HNKI | 175.9 | 0 |
| SHY11_4-1098 | 1844 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.98 | 1 | HNKI | 97.88 | 0 |
| SHY11_4-1099 | 1846 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.64 | 1 | HNKI | 80.26 | 0 |
| SHY11_4-1100 | 1847 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.44 | 1 | HNKI | 173.11 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-1101 | 1848 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.66 | 1 | HNKI | 67.38 | 0 |
| SHY11_4-1102 | 1853 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.92 | 1 | HNKI | 121.75 | 0 |
| SHY11_4-1103 | 1855 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.96 | 1 | HNKI | 163.7 | 0 |
| SHY11_4-1104 | 1856 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1105 | 1857 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.2 | 1 | HNKI | 143.14 | 0 |
| SHY11_4-1106 | 1858 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.76 | 1 | HNKI | 140.61 | 0 |
| SHY11_4-1107 | 1867 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1108 | 1869 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.4 | 1 | HNKI | 142.88 | 0 |
| SHY11_4-1109 | 1870 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.05 | 1 | HNKI | 121.31 | 0 |
| SHY11_4-1110 | 1871 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.89 | 1 | HNKI | 170.53 | 0 |
| SHY11_4-1111 | 1872 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3 | 1 | HNKI | 91.36 | 0 |
| SHY11_4-1112 | 1874 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.11 | 1 | HNKI | 57.02 | 0 |
| SHY11_4-1113 | 1875 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.81 | 1 | HNKI | 182.44 | 0 |
| SHY11_4-1114 | 1876 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.68 | 1 | HNKI | 196.47 | 0 |
| SHY11_4-1115 | 1878 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.7 | 1 | HNKI | 109.69 | 0 |
| SHY11_4-1116 | 1879 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.92 | 1 | HNKI | 174.64 | 0 |
| SHY11_4-1117 | 1880 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.01 | 1 | HNKI | 135.77 | 0 |
| SHY11_4-1118 | 1881 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.58 | 1 | HNKI | 152.52 | 0 |
| SHY11_4-1119 | 1882 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1120 | 1884 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.72 | 1 | HNKI | 239.2 | 0 |
| SHY11_4-1121 | 1886 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.98 | 1 | HNKI | 185.99 | 0 |
| SHY11_4-1122 | 1888 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.87 | 1 | HNKI | 173.06 | 0 |
| SHY11_4-1123 | 1889 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1124 | 1890 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.41 | 1 | HNKI | 120.45 | 0 |
| SHY11_4-1125 | 1891 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.24 | 1 | HNKI | 135.14 | 0 |
| SHY11_4-1126 | 1892 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.57 | 1 | HNKI | 212.25 | 0 |
| SHY11_4-1127 | 1893 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.17 | 1 | HNKI | 215.1 | 0 |
| SHY11_4-1128 | 1895 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.3 | 1 | HNKI | 207.03 | 0 |
| SHY11_4-1129 | 1897 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.65 | 1 | HNKI | 139.73 | 0 |
| SHY11_4-1130 | 1898 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.42 | 1 | HNKI | 223.34 | 0 |
| SHY11_4-1131 | 1899 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 3.89 | 1 | TSHG | 22.11 | 0 |
| SHY11_4-1132 | 1900 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1133 | 1901 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.02 | 1 | HNKI | 119.92 | 0 |
| SHY11_4-1134 | 1903 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.32 | 1 | HNKI | 49.4 | 0 |
| SHY11_4-1135 | 1905 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1136 | 1906 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.12 | 1 | HNKI | 71.79 | 0 |
| SHY11_4-1137 | 1907 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.86 | 1 | HNKI | 102.27 | 0 |
| SHY11_4-1138 | 1908 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.89 | 1 | HNKI | 201.95 | 0 |
| SHY11_4-1139 | 1909 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.01 | 1 | HNKI | 225.43 | 0 |
| SHY11_4-1140 | 1910 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.2 | 1 | HNKI | 129.5 | 0 |
| SHY11_4-1141 | 1911 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.38 | 1 | HNKI | 138.5 | 0 |
| SHY11_4-1142 | 1912 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.4 | 1 | HNKI | 139.75 | 0 |
| SHY11_4-1143 | 1913 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.02 | 1 | HNKI | 82.42 | 0 |
| SHY11_4-1144 | 1914 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.74 | 1 | HNKI | 104.11 | 0 |
| SHY11_4-1145 | 1915 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.3 | 1 | HNKI | 115.83 | 0 |
| SHY11_4-1146 | 1916 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.99 | 1 | HNKI | 202.6 | 0 |
| SHY11_4-1147 | 1917 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.41 | 1 | HNKI | 194.27 | 0 |
| SHY11_4-1148 | 1918 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.07 | 1 | HNKI | 79.44 | 0 |
| SHY11_4-1149 | 1920 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.56 | 1 | HNKI | 130 | 0 |
| SHY11_4-1150 | 1924 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.03 | 1 | HNKI | 219.07 | 0 |
| SHY11_4-1151 | 1928 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.7 | 1 | HNKI | 140.92 | 0 |
| SHY11_4-1152 | 1929 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.71 | 1 | HNKI | 139.06 | 0 |
| SHY11_4-1153 | 1931 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.28 | 1 | HNKI | 190.94 | 0 |
| SHY11_4-1154 | 1932 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.88 | 1 | HNKI | 188.61 | 0 |
| SHY11_4-1155 | 1933 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.57 | 1 | HNKI | 71.31 | 0 |
| SHY11_4-1156 | 1934 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.27 | 1 | HNKI | 188.08 | 0 |
| SHY11_4-1157 | 1935 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.58 | 1 | HNKI | 213.75 | 0 |
| SHY11_4-1158 | 1936 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.81 | 1 | HNKI | 60.83 | 0 |
| SHY11_4-1159 | 1937 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.15 | 1 | HNKI | 149.59 | 0 |
| SHY11_4-1160 | 1938 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHY11_4-1161 | 1939 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.52 | 1 | HNKI | 72.61 | 0 |
| SHY11_4-1162 | 1940 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.78 | 1 | HNKI | 132.54 | 0 |
| SHY11_4-1163 | 1942 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.57 | 1 | HNKI | 166.68 | 0 |
| SHY11_4-1164 | 1943 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.11 | 1 | HNKI | 185.67 | 0 |
| SHY11_4-1165 | 1944 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.82 | 1 | HNKI | 103.53 | 0 |
| SHY11_4-1166 | 1945 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.65 | 1 | HNKI | 87.69 | 0 |
| SHY11_4-1167 | 1948 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.41 | 1 | HNKI | 135.32 | 0 |
| SHY11_4-1168 | 1947 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.32 | 1 | HNKI | 201.26 | 0 |
| SHY11_4-1169 | 1950 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.79 | 1 | HNKI | 170.99 | 0 |
| SHY11_4-1170 | 1951 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.34 | 1 | HNKI | 145.5 | 0 |
| SHY11_4-1171 | 1952 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.03 | 1 | HNKI | 77.88 | 0 |
| SHY11_4-1172 | 1953 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.31 | 1 | HNKI | 84.37 | 0 |
| SHY11_4-1173 | 1954 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.67 | 1 | HNKI | 135.52 | 0 |
| SHY11_4-1174 | 1955 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.99 | 1 | HNKI | 60.71 | 0 |
| SHY11_4-1175 | 1956 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.9 | 1 | HNKI | 80.28 | 0 |
| SHY11_4-1176 | 1957 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.77 | 1 | HNKI | 94.22 | 0 |
| SHY11_4-1177 | 1958 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.06 | 1 | HNKI | 138.6 | 0 |
| SHY11_4-1178 | 1959 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.64 | 1 | HNKI | 63.78 | 0 |
| SHY11_4-1179 | 1960 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.49 | 1 | HNKI | 141.91 | 0 |
| SHY11_4-1180 | 1961 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.93 | 1 | HNKI | 107.39 | 0 |
| SHY11_4-1181 | 1962 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.87 | 1 | HNKI | 82.87 | 0 |
| SHY11_4-1182 | 1963 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.94 | 1 | HNKI | 128.96 | 0 |
| SHY11_4-1183 | 1964 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.98 | 1 | HNKI | 215.66 | 0 |
| SHY11_4-1184 | 1965 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.68 | 1 | HNKI | 73.78 | 0 |
| SHY11_4-1185 | 1966 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.23 | 1 | HNKI | 228.37 | 0 |
| SHY11_4-1186 | 1967 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.77 | 1 | HNKI | 219.25 | 0 |
| SHY11_4-1187 | 1968 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.7 | 1 | HNKI | 79.22 | 0 |
| SHY11_4-1188 | 1969 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.1 | 1 | HNKI | 55.68 | 0 |
| SHY11_4-1189 | 1970 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.12 | 1 | HNKI | 139.71 | 0 |
| SHY11_4-1190 | 1975 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.97 | 1 | HNKI | 170.86 | 0 |
| SHY11_4-1191 | 1976 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.96 | 1 | HNKI | 219.88 | 0 |
| SHY11_4-1192 | 1977 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.98 | 1 | HNKI | 170.27 | 0 |
| SHY11_4-1193 | 1978 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.7 | 1 | HNKI | 214.52 | 0 |
| SHY11_4-1194 | 1979 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.49 | 1 | HNKI | 167.67 | 0 |
| SHY11_4-1195 | 1980 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.56 | 1 | HNKI | 111.87 | 0 |
| SHY11_4-1196 | 1982 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.5 | 1 | HNKI | 209.3 | 0 |
| SHY11_4-1197 | 1983 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.85 | 1 | HNKI | 135.93 | 0 |
| SHY11_4-1198 | 1984 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.1 | 1 | HNKI | 87.89 | 0 |
| SHY11_4-1199 | 1986 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.15 | 1 | HNKI | 137.92 | 0 |
| SHY11_4-1200 | 1987 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.6 | 1 | HNKI | 64.1 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHY11_4-1201 | 1990 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.64 | 1 | HNKI | 109.49 | 0 |
| SHY11_4-1202 | 1991 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.36 | 1 | HNKI | 164.69 | 0 |
| SHY11_4-1203 | 1993 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.69 | 1 | HNKI | 116.06 | 0 |
| SHY11_4-1204 | 1995 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.45 | 1 | HNKI | 223.03 | 0 |
| SHY11_4-1205 | 1998 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.38 | 1 | HNKI | 131.08 | 0 |
| SHY11_4-1206 | 2000 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.68 | 1 | HNKI | 161.93 | 0 |
| SHY11_4-1207 | 2001 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.71 | 1 | HNKI | 101.63 | 0 |
| SHY11_4-1208 | 2002 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.58 | 1 | HNKI | 136 | 0 |

第30次調査

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| SHYN-1 | 401 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 3.37 | 1 | KZSN | 40.48 | 0 |
| SHYN-2 | 579 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 10.19 | 1 | KZSN | 65 | 0 |
| SHYN-3 | 592 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 11.69 | 1 | KZSN | 103.99 | 0 |
| SHYN-4 | 621 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| SHYN-5 | | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 6.37 | 1 | KZSN | 56.61 | 0 |

第19次調査

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| YNB13-1 | 7 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.96 | 1 | HNKI | 145.03 | 0 |
| YNB13-2 | 8 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.21 | 1 | HNKI | 102.43 | 0 |
| YNB13-3 | 9 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.86 | 1 | HNKI | 151.96 | 0 |
| YNB13-4 | 10 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.16 | 1 | HNKI | 88.27 | 0 |
| YNB13-5 | 11 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.69 | 1 | HNKI | 118.79 | 0 |
| YNB13-6 | 12 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.01 | 1 | HNKI | 129.82 | 0 |
| YNB13-7 | 13 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.46 | 1 | HNKI | 176.81 | 0 |
| YNB13-8 | 14 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.43 | 1 | HNKI | 158.83 | 0 |
| YNB13-9 | 15 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.11 | 1 | HNKI | 110.71 | 0 |
| YNB13-10 | 16 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.44 | 1 | HNKI | 167.98 | 0 |
| YNB13-11 | 17 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.52 | 1 | HNKI | 215.02 | 0 |
| YNB13-12 | 18 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.28 | 1 | HNKI | 118.87 | 0 |
| YNB13-13 | 19 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.69 | 1 | HNKI | 164.56 | 0 |
| YNB13-14 | 20 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.22 | 1 | HNKI | 102.82 | 0 |
| YNB13-15 | 21 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.34 | 1 | HNKI | 140.81 | 0 |
| YNB13-16 | 22 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.53 | 1 | HNKI | 105.97 | 0 |
| YNB13-17 | 23 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 7.7 | 1 | WDHY | 30.16 | 0 |
| YNB13-18 | 24 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.01 | 1 | HNKI | 82.92 | 0 |
| YNB13-19 | 25 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.4 | 1 | HNKI | 116.41 | 0 |
| YNB13-20 | 26 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.23 | 1 | HNKI | 180.77 | 0 |
| YNB13-21 | 27 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.94 | 1 | HNKI | 163.05 | 0 |
| YNB13-22 | 28 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.81 | 1 | HNKI | 71.07 | 0 |
| YNB13-23 | 29 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-24 | 30 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.94 | 1 | HNKI | 149.78 | 0 |
| YNB13-25 | 31 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.15 | 1 | HNKI | 102.89 | 0 |
| YNB13-26 | 32 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.1 | 1 | HNKI | 59.08 | 0 |
| YNB13-27 | 33 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.06 | 1 | HNKI | 130.74 | 0 |
| YNB13-28 | 34 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.1 | 1 | HNKI | 89.62 | 0 |
| YNB13-29 | 35 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.67 | 1 | HNKI | 137.09 | 0 |
| YNB13-30 | 36 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.67 | 1 | HNKI | 159.42 | 0 |
| YNB13-31 | 37 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.55 | 1 | HNKI | 99.72 | 0 |
| YNB13-32 | 39 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 11.01 | 1 | KZSN | 83.68 | 0 |
| YNB13-33 | 40 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.8 | 1 | HNKI | 127.26 | 0 |
| YNB13-34 | 42 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.92 | 1 | HNKI | 144.17 | 0 |
| YNB13-35 | 43 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.3 | 1 | HNKI | 65.03 | 0 |
| YNB13-36 | 44 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.23 | 1 | HNKI | 96.98 | 0 |
| YNB13-37 | 45 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.49 | 1 | HNKI | 113.81 | 0 |
| YNB13-38 | 46 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.34 | 1 | HNKI | 64.36 | 0 |
| YNB13-39 | 47 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.87 | 1 | HNKI | 144.03 | 0 |
| YNB13-40 | 48 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.13 | 1 | HNKI | 92.74 | 0 |
| YNB13-41 | 49 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.88 | 1 | HNKI | 111.46 | 0 |
| YNB13-42 | 50 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.59 | 1 | HNKI | 141.87 | 0 |
| YNB13-43 | 51 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.01 | 1 | HNKI | 104.42 | 0 |
| YNB13-44 | 52 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1 | 1 | HNKI | 103.47 | 0 |
| YNB13-45 | 53 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.92 | 1 | HNKI | 87.4 | 0 |
| YNB13-46 | 54 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.89 | 1 | HNKI | 90.45 | 0 |
| YNB13-47 | 55 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.63 | 1 | HNKI | 79.11 | 0 |
| YNB13-48 | 56 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.34 | 1 | HNKI | 137.76 | 0 |
| YNB13-49 | 57 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.61 | 1 | HNKI | 125.74 | 0 |
| YNB13-50 | 58 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.16 | 1 | HNKI | 107.17 | 0 |
| YNB13-51 | 59 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-52 | 60 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.23 | 1 | HNKI | 130.58 | 0 |
| YNB13-53 | 61 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.07 | 1 | HNKI | 99.31 | 0 |
| YNB13-54 | 62 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.81 | 1 | HNKI | 188.52 | 0 |
| YNB13-55 | 63 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.52 | 1 | HNKI | 86.28 | 0 |
| YNB13-56 | 64 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 27.07 | 1 | KZSN | 75.49 | 0 |
| YNB13-57 | 65 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.3 | 1 | HNKI | 173.93 | 0 |
| YNB13-58 | 66 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.1 | 1 | HNKI | 84.72 | 0 |
| YNB13-59 | 67 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.86 | 1 | HNKI | 117.04 | 0 |
| YNB13-60 | 69 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 7 | 1 | WDKB | 27.99 | 0 |
| YNB13-61 | 70 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.79 | 1 | HNKI | 214.54 | 0 |
| YNB13-62 | 72 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.71 | 1 | HNKI | 128.62 | 0 |
| YNB13-63 | 73 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.56 | 1 | HNKI | 137.29 | 0 |
| YNB13-64 | 76 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.37 | 1 | HNKI | 160.98 | 0 |
| YNB13-65 | 78 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.19 | 1 | HNKI | 173.5 | 0 |
| YNB13-66 | 79 | 蓼科冷山群 | TSTY | TSTY | 5.64 | 1 | TSHG | 21.8 | 0 |
| YNB13-67 | 80 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.01 | 1 | HNKI | 140.99 | 0 |
| YNB13-68 | 81 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.23 | 1 | HNKI | 124.52 | 0 |
| YNB13-69 | 82 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.45 | 1 | HNKI | 166.51 | 0 |
| YNB13-70 | 83 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.58 | 1 | HNKI | 134.81 | 0 |
| YNB13-71 | 84 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.85 | 1 | HNKI | 187.29 | 0 |
| YNB13-72 | 85 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.04 | 1 | HNKI | 109.86 | 0 |
| YNB13-73 | 86 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-74 | 87 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-75 | 88 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 3.39 | 0.9969 | WDHY | 12.48 | 0.0031 |
| YNB13-76 | 89 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.63 | 1 | HNKI | 98.55 | 0 |
| YNB13-77 | 90 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.21 | 1 | HNKI | 142.45 | 0 |
| YNB13-78 | 91 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.36 | 1 | HNKI | 141.24 | 0 |
| YNB13-79 | 92 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-80 | 93 | 非黒曜石 | 非黒曜石 | 非黒曜石 | | | 非黒曜石 | | |
| YNB13-81 | 94 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-82 | 95 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.82 | 1 | HNKI | 150.1 | 0 |
| YNB13-83 | 96 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.81 | 1 | HNKI | 166.68 | 0 |
| YNB13-84 | 97 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-85 | 98 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.23 | 1 | HNKI | 66.92 | 0 |
| YNB13-86 | 99 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.59 | 1 | HNKI | 89.82 | 0 |
| YNB13-87 | 100 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.05 | 1 | HNKI | 103.09 | 0 |
| YNB13-88 | 103 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.04 | 1 | HNKI | 58.27 | 0 |
| YNB13-89 | 104 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.08 | 1 | HNKI | 190.58 | 0 |
| YNB13-90 | 105 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.47 | 1 | HNKI | 109.5 | 0 |
| YNB13-91 | 106 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.86 | 1 | HNKI | 133.43 | 0 |
| YNB13-92 | 107 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.73 | 1 | HNKI | 147.44 | 0 |
| YNB13-93 | 108 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 6.73 | 1 | WDHY | 29.66 | 0 |
| YNB13-94 | 109 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.72 | 1 | HNKI | 113.84 | 0 |
| YNB13-95 | 110 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.78 | 1 | HNKI | 74.02 | 0 |
| YNB13-96 | 111 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.49 | 1 | HNKI | 181.15 | 0 |
| YNB13-97 | 112 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.46 | 1 | HNKI | 94.61 | 0 |
| YNB13-98 | 113 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 9.58 | 0.9999 | WDHY | 26.58 | 0.0001 |
| YNB13-99 | 114 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-100 | 115 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.36 | 1 | HNKI | 138.8 | 0 |
| YNB13-101 | 116 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 5.21 | 0.8965 | WDHY | 7.1 | 0.1035 |
| YNB13-102 | 117 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.88 | 1 | HNKI | 163.79 | 0 |
| YNB13-103 | 118 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.96 | 1 | HNKI | 116.36 | 0 |
| YNB13-104 | 119 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.07 | 1 | HNKI | 153.13 | 0 |
| YNB13-105 | 120 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.34 | 1 | HNKI | 153.1 | 0 |
| YNB13-106 | 122 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.96 | 1 | HNKI | 218.14 | 0 |
| YNB13-107 | 123 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-108 | 124 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-109 | 125 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.92 | 1 | HNKI | 95.72 | 0 |
| YNB13-110 | 126 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.36 | 1 | HNKI | 161.49 | 0 |
| YNB13-111 | 127 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 7.65 | 0.9999 | WDKB | 26.59 | 0.0001 |
| YNB13-112 | 128 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.72 | 1 | HNKI | 156.86 | 0 |
| YNB13-113 | 129 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 11.7 | 0.9983 | WDHY | 22.04 | 0.0017 |
| YNB13-114 | 131 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.14 | 1 | HNKI | 113.27 | 0 |
| YNB13-115 | 132 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.72 | 1 | HNKI | 183.93 | 0 |
| YNB13-116 | 133 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 12.94 | 0.9053 | WDHY | 15.02 | 0.0947 |
| YNB13-117 | 134 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.5 | 1 | HNKI | 117.69 | 0 |
| YNB13-118 | 135 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.06 | 1 | HNKI | 149.77 | 0 |
| YNB13-119 | 136 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.52 | 1 | HNKI | 130.89 | 0 |
| YNB13-120 | 137 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.04 | 1 | HNKI | 162.23 | 0 |
| YNB13-121 | 138 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.43 | 1 | HNKI | 107.87 | 0 |
| YNB13-122 | 139 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.28 | 1 | HNKI | 132.5 | 0 |
| YNB13-123 | 140 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.17 | 1 | HNKI | 165.44 | 0 |
| YNB13-124 | 141 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-125 | 142 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.99 | 1 | HNKI | 188.18 | 0 |
| YNB13-126 | 143 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.64 | 1 | HNKI | 178.5 | 0 |
| YNB13-127 | 144 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 3.23 | 1 | WDHY | 21.97 | 0 |
| YNB13-128 | 145 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.98 | 1 | HNKI | 121.37 | 0 |
| YNB13-129 | 146 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.23 | 1 | HNKI | 128.89 | 0 |
| YNB13-130 | 147 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.07 | 1 | HNKI | 97.09 | 0 |
| YNB13-131 | 148 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-132 | 150 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-133 | 151 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.78 | 1 | HNKI | 141.07 | 0 |
| YNB13-134 | 152 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.62 | 1 | HNKI | 97.58 | 0 |
| YNB13-135 | 153 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.82 | 1 | HNKI | 163.55 | 0 |
| YNB13-136 | 154 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.45 | 1 | HNKI | 140.04 | 0 |
| YNB13-137 | 155 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.7 | 1 | HNKI | 151.35 | 0 |
| YNB13-138 | 156 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.39 | 1 | HNKI | 92.71 | 0 |
| YNB13-139 | 157 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.24 | 1 | HNKI | 224.1 | 0 |
| YNB13-140 | 158 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-141 | 159 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.47 | 1 | HNKI | 79.33 | 0 |
| YNB13-142 | 160 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-143 | 161 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4 | 1 | HNKI | 139.46 | 0 |
| YNB13-144 | 162 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.12 | 1 | HNKI | 143.03 | 0 |
| YNB13-145 | 163 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.45 | 1 | HNKI | 148.89 | 0 |
| YNB13-146 | 164 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 4.58 | 0.9838 | WDHY | 10.36 | 0.0162 |
| YNB13-147 | 165 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.9 | 1 | HNKI | 92 | 0 |
| YNB13-148 | 166 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.65 | 1 | HNKI | 126.8 | 0 |
| YNB13-149 | 167 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.49 | 1 | HNKI | 144.54 | 0 |
| YNB13-150 | 168 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.19 | 1 | HNKI | 209.78 | 0 |
| YNB13-151 | 169 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.49 | 1 | HNKI | 74.96 | 0 |
| YNB13-152 | 170 | 測定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-153 | 171 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.82 | 1 | HNKI | 188.07 | 0 |
| YNB13-154 | 172 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.11 | 1 | HNKI | 133.56 | 0 |
| YNB13-155 | 173 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.7 | 1 | HNKI | 105.49 | 0 |
| YNB13-156 | 174 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.53 | 1 | HNKI | 118.55 | 0 |
| YNB13-157 | 175 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.84 | 1 | HNKI | 132.15 | 0 |
| YNB13-158 | 176 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.35 | 1 | HNKI | 73.1 | 0 |
| YNB13-159 | 177 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.46 | 1 | HNKI | 139.97 | 0 |
| YNB13-160 | 178 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.36 | 1 | HNKI | 125.31 | 0 |
| YNB13-161 | 179 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.61 | 1 | HNKI | 105.38 | 0 |
| YNB13-162 | 180 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-163 | 181 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.98 | 1 | HNKI | 83.31 | 0 |
| YNB13-164 | 182 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.1 | 1 | HNKI | 96.61 | 0 |
| YNB13-165 | 183 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.33 | 1 | HNKI | 102.13 | 0 |
| YNB13-166 | 184 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.78 | 1 | HNKI | 78.03 | 0 |
| YNB13-167 | 185 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.47 | 1 | HNKI | 241.31 | 0 |
| YNB13-168 | 186 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.83 | 1 | HNKI | 151.57 | 0 |
| YNB13-169 | 187 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.63 | 1 | HNKI | 201.66 | 0 |
| YNB13-170 | 188 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.06 | 1 | HNKI | 199.57 | 0 |
| YNB13-171 | 189 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.5 | 1 | HNKI | 130.29 | 0 |
| YNB13-172 | 190 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.36 | 1 | HNKI | 96.55 | 0 |
| YNB13-173 | 191 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.33 | 1 | HNKI | 63.43 | 0 |
| YNB13-174 | 192 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.66 | 1 | HNKI | 175.03 | 0 |
| YNB13-175 | 193 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.17 | 1 | HNKI | 132.51 | 0 |
| YNB13-176 | 194 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.92 | 1 | HNKI | 141.58 | 0 |
| YNB13-177 | 195 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.27 | 1 | HNKI | 96.67 | 0 |
| YNB13-178 | 196 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.65 | 1 | HNKI | 95.38 | 0 |
| YNB13-179 | 197 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.02 | 1 | HNKI | 105.15 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| YNB13-180 | 198 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.85 | 1 | HNKI | 118.91 | 0 |
| YNB13-181 | 199 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.46 | 1 | HNKI | 108.67 | 0 |
| YNB13-182 | 200 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.52 | 1 | HNKI | 123.72 | 0 |
| YNB13-183 | 201 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.2 | 1 | HNKI | 94.17 | 0 |
| YNB13-184 | 202 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.04 | 1 | HNKI | 130.56 | 0 |
| YNB13-185 | 203 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.63 | 1 | HNKI | 126.23 | 0 |
| YNB13-186 | 204 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.79 | 1 | HNKI | 135.8 | 0 |
| YNB13-187 | 205 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.17 | 1 | HNKI | 75.32 | 0 |
| YNB13-188 | 206 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.67 | 1 | HNKI | 178.7 | 0 |
| YNB13-189 | 207 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.02 | 1 | HNKI | 144.51 | 0 |
| YNB13-190 | 208 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.69 | 1 | HNKI | 82.88 | 0 |
| YNB13-191 | 209 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.48 | 1 | HNKI | 174.86 | 0 |
| YNB13-192 | 210 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.07 | 1 | HNKI | 116.18 | 0 |
| YNB13-193 | 211 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.52 | 1 | HNKI | 152.54 | 0 |
| YNB13-194 | 212 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.39 | 1 | HNKI | 199.94 | 0 |
| YNB13-195 | 213 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.52 | 1 | HNKI | 88.7 | 0 |
| YNB13-196 | 214 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.88 | 1 | HNKI | 164.97 | 0 |
| YNB13-197 | 215 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.14 | 1 | HNKI | 150.81 | 0 |
| YNB13-198 | 216 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.66 | 1 | HNKI | 127.46 | 0 |
| YNB13-199 | 217 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.94 | 1 | HNKI | 101.59 | 0 |
| YNB13-200 | 218 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.83 | 1 | HNKI | 130.45 | 0 |
| YNB13-201 | 219 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.34 | 1 | HNKI | 105.62 | 0 |
| YNB13-202 | 220 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.51 | 1 | HNKI | 204.57 | 0 |
| YNB13-203 | 221 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.25 | 1 | HNKI | 74.89 | 0 |
| YNB13-204 | 222 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.22 | 1 | HNKI | 231.9 | 0 |
| YNB13-205 | 223 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.49 | 1 | HNKI | 113.04 | 0 |
| YNB13-206 | 224 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.11 | 1 | HNKI | 123.21 | 0 |
| YNB13-207 | 225 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.87 | 1 | HNKI | 135.12 | 0 |
| YNB13-208 | 226 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.24 | 1 | HNKI | 86.58 | 0 |
| YNB13-209 | 227 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.26 | 1 | HNKI | 72.2 | 0 |
| YNB13-210 | 228 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.58 | 1 | HNKI | 219.2 | 0 |
| YNB13-211 | 229 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.46 | 1 | HNKI | 124.45 | 0 |
| YNB13-212 | 230 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.42 | 1 | HNKI | 164.88 | 0 |
| YNB13-213 | 231 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.47 | 1 | HNKI | 166.98 | 0 |
| YNB13-214 | 232 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.74 | 1 | HNKI | 86.61 | 0 |
| YNB13-215 | 233 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.15 | 1 | HNKI | 124.5 | 0 |
| YNB13-216 | 234 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.18 | 1 | HNKI | 130.22 | 0 |
| YNB13-217 | 235 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.47 | 1 | HNKI | 159.14 | 0 |
| YNB13-218 | 236 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.85 | 1 | HNKI | 86.2 | 0 |
| YNB13-219 | 237 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.57 | 1 | HNKI | 63.4 | 0 |
| YNB13-220 | 238 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.21 | 1 | HNKI | 52.02 | 0 |
| YNB13-221 | 239 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.08 | 1 | HNKI | 134.64 | 0 |
| YNB13-222 | 240 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-223 | 241 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.28 | 1 | HNKI | 161.43 | 0 |
| YNB13-224 | 242 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.86 | 1 | HNKI | 91.93 | 0 |
| YNB13-225 | 243 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.83 | 1 | HNKI | 170.01 | 0 |
| YNB13-226 | 244 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.2 | 1 | HNKI | 134.03 | 0 |
| YNB13-227 | 245 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.64 | 1 | HNKI | 106.37 | 0 |
| YNB13-228 | 246 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.7 | 1 | HNKI | 109.18 | 0 |
| YNB13-229 | 247 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.16 | 1 | HNKI | 90.45 | 0 |
| YNB13-230 | 248 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.41 | 1 | HNKI | 164.92 | 0 |
| YNB13-231 | 249 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.7 | 1 | HNKI | 128.07 | 0 |
| YNB13-232 | 250 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.44 | 1 | HNKI | 132.36 | 0 |
| YNB13-233 | 251 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.84 | 1 | HNKI | 92.56 | 0 |
| YNB13-234 | 252 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.58 | 1 | HNKI | 138.37 | 0 |
| YNB13-235 | 253 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.15 | 1 | HNKI | 103.14 | 0 |
| YNB13-236 | 254 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-237 | 255 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.03 | 1 | HNKI | 97.74 | 0 |
| YNB13-238 | 256 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.89 | 1 | HNKI | 175.32 | 0 |
| YNB13-239 | 257 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.11 | 1 | HNKI | 114.92 | 0 |
| YNB13-240 | 258 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.25 | 1 | HNKI | 95.88 | 0 |
| YNB13-241 | 259 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.34 | 1 | HNKI | 90.44 | 0 |
| YNB13-242 | 260 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.26 | 1 | HNKI | 152.79 | 0 |
| YNB13-243 | 261 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.29 | 1 | HNKI | 143.85 | 0 |
| YNB13-244 | 262 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.55 | 1 | HNKI | 107.66 | 0 |
| YNB13-245 | 263 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.32 | 1 | HNKI | 113.13 | 0 |
| YNB13-246 | 264 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.88 | 1 | HNKI | 115.96 | 0 |
| YNB13-247 | 265 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.81 | 1 | HNKI | 194.59 | 0 |
| YNB13-248 | 266 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.03 | 1 | HNKI | 73.25 | 0 |
| YNB13-249 | 267 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.55 | 1 | HNKI | 160.04 | 0 |
| YNB13-250 | 268 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.41 | 1 | HNKI | 142.48 | 0 |
| YNB13-251 | 269 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.3 | 1 | HNKI | 217.75 | 0 |
| YNB13-252 | 270 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-253 | 271 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-254 | 272 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.55 | 1 | HNKI | 90.49 | 0 |
| YNB13-255 | 273 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.92 | 1 | HNKI | 146.79 | 0 |
| YNB13-256 | 274 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.99 | 1 | HNKI | 113.74 | 0 |
| YNB13-257 | 275 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.82 | 1 | HNKI | 174.09 | 0 |
| YNB13-258 | 276 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.04 | 1 | HNKI | 139.78 | 0 |
| YNB13-259 | 277 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.05 | 1 | HNKI | 117.25 | 0 |
| YNB13-260 | 278 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.66 | 1 | HNKI | 143.96 | 0 |
| YNB13-261 | 279 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 6.87 | 0.9999 | WDHY | 22.2 | 0.0001 |
| YNB13-262 | 280 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.65 | 1 | HNKI | 177.28 | 0 |
| YNB13-263 | 281 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-264 | 282 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.29 | 1 | HNKI | 105.49 | 0 |
| YNB13-265 | 283 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.75 | 1 | HNKI | 89.67 | 0 |
| YNB13-266 | 284 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.96 | 1 | HNKI | 89.67 | 0 |
| YNB13-267 | 285 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.88 | 1 | HNKI | 109.16 | 0 |
| YNB13-268 | 286 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.33 | 1 | HNKI | 97.39 | 0 |
| YNB13-269 | 287 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-270 | 288 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.96 | 1 | HNKI | 118.68 | 0 |
| YNB13-271 | 289 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.66 | 1 | HNKI | 189.1 | 0 |
| YNB13-272 | 290 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.95 | 1 | HNKI | 130.16 | 0 |
| YNB13-273 | 291 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.6 | 1 | HNKI | 105.05 | 0 |
| YNB13-274 | 292 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.91 | 1 | HNKI | 141.87 | 0 |
| YNB13-275 | 293 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.5 | 1 | HNKI | 139.18 | 0 |
| YNB13-276 | 294 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.03 | 1 | HNKI | 92.32 | 0 |
| YNB13-277 | 295 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.1 | 1 | HNKI | 120.07 | 0 |
| YNB13-278 | 296 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.17 | 1 | HNKI | 145.81 | 0 |
| YNB13-279 | 297 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.92 | 1 | HNKI | 142.81 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| YNB13-280 | 298 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.11 | 1 | HNKI | 120.02 | 0 |
| YNB13-281 | 299 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.9 | 1 | HNKI | 164.36 | 0 |
| YNB13-282 | 300 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.61 | 1 | HNKI | 205.23 | 0 |
| YNB13-283 | 301 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.63 | 1 | HNKI | 105.84 | 0 |
| YNB13-284 | 302 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.31 | 1 | HNKI | 145.61 | 0 |
| YNB13-285 | 303 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.22 | 1 | HNKI | 136.59 | 0 |
| YNB13-286 | 304 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.87 | 1 | HNKI | 109.08 | 0 |
| YNB13-287 | 305 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-288 | 306 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.27 | 1 | HNKI | 99.33 | 0 |
| YNB13-289 | 307 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.16 | 1 | HNKI | 127.36 | 0 |
| YNB13-290 | 308 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.63 | 1 | HNKI | 97.29 | 0 |
| YNB13-291 | 309 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.79 | 1 | HNKI | 193.55 | 0 |
| YNB13-292 | 310 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.91 | 1 | HNKI | 111.77 | 0 |
| YNB13-293 | 311 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.36 | 1 | HNKI | 95.67 | 0 |
| YNB13-294 | 312 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.73 | 1 | HNKI | 106.85 | 0 |
| YNB13-295 | 313 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.96 | 1 | HNKI | 192.48 | 0 |
| YNB13-296 | 314 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 7.75 | 0.9967 | WDHY | 16.74 | 0.0033 |
| YNB13-297 | 315 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 1.81 | 1 | WDHY | 24.15 | 0 |
| YNB13-298 | 316 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.07 | 1 | HNKI | 135.1 | 0 |
| YNB13-299 | 317 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-300 | 318 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-301 | 319 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.99 | 1 | HNKI | 149.54 | 0 |
| YNB13-302 | 320 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.9 | 1 | HNKI | 101.23 | 0 |
| YNB13-303 | 321 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.26 | 1 | HNKI | 148.67 | 0 |
| YNB13-304 | 322 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.32 | 1 | HNKI | 153.72 | 0 |
| YNB13-305 | 323 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.75 | 1 | HNKI | 90.92 | 0 |
| YNB13-306 | 324 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.71 | 1 | HNKI | 72.59 | 0 |
| YNB13-307 | 325 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.59 | 1 | HNKI | 103 | 0 |
| YNB13-308 | 326 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 11.3 | 0.9428 | WDHY | 14.47 | 0.0572 |
| YNB13-309 | 327 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.76 | 1 | HNKI | 74.22 | 0 |
| YNB13-310 | 328 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.82 | 1 | HNKI | 148.65 | 0 |
| YNB13-311 | 329 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 5.75 | 0.9846 | WDHY | 11.64 | 0.0154 |
| YNB13-312 | 330 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.26 | 1 | HNKI | 148.16 | 0 |
| YNB13-313 | 331 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.52 | 1 | HNKI | 88.45 | 0 |
| YNB13-314 | 332 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.31 | 1 | HNKI | 71.18 | 0 |
| YNB13-315 | 333 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.7 | 1 | HNKI | 169.48 | 0 |
| YNB13-316 | 335 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.39 | 1 | HNKI | 142.06 | 0 |
| YNB13-317 | 336 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 3.04 | 1 | WDHY | 21.91 | 0 |
| YNB13-318 | 337 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.37 | 1 | HNKI | 117.88 | 0 |
| YNB13-319 | 338 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-320 | 339 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.07 | 1 | HNKI | 171.65 | 0 |
| YNB13-321 | 340 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 11.05 | 1 | WDHY | 29.71 | 0 |
| YNB13-322 | 341 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.08 | 1 | HNKI | 97.98 | 0 |
| YNB13-323 | 342 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.5 | 1 | HNKI | 109.31 | 0 |
| YNB13-324 | 343 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 27.47 | 0.9997 | HNKI | 39.79 | 0.0003 |
| YNB13-325 | 344 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.98 | 1 | HNKI | 85.42 | 0 |
| YNB13-326 | 345 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.88 | 1 | HNKI | 64.02 | 0 |
| YNB13-327 | 346 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.92 | 1 | HNKI | 72.99 | 0 |
| YNB13-328 | 347 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.94 | 1 | HNKI | 171.78 | 0 |
| YNB13-329 | 348 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.49 | 1 | HNKI | 111.04 | 0 |
| YNB13-330 | 349 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.73 | 1 | HNKI | 99.69 | 0 |
| YNB13-331 | 350 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 7.62 | 0.9721 | WDHY | 12.29 | 0.0279 |
| YNB13-332 | 351 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 8.17 | 0.9817 | WDHY | 13.7 | 0.0183 |
| YNB13-333 | 352 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.38 | 1 | HNKI | 152.58 | 0 |
| YNB13-334 | 353 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.03 | 1 | HNKI | 97.23 | 0 |
| YNB13-335 | 354 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.13 | 1 | HNKI | 205.65 | 0 |
| YNB13-336 | 355 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.6 | 1 | HNKI | 169.35 | 0 |
| YNB13-337 | 356 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.02 | 1 | HNKI | 167.68 | 0 |
| YNB13-338 | 357 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.64 | 1 | HNKI | 193.85 | 0 |
| YNB13-339 | 358 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.68 | 1 | HNKI | 132.87 | 0 |
| YNB13-340 | 359 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.86 | 1 | HNKI | 126.4 | 0 |
| YNB13-341 | 360 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.32 | 1 | HNKI | 99.23 | 0 |
| YNB13-342 | 361 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.39 | 1 | HNKI | 102.87 | 0 |
| YNB13-343 | 362 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.26 | 1 | HNKI | 104.38 | 0 |
| YNB13-344 | 363 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.31 | 1 | HNKI | 126.88 | 0 |
| YNB13-345 | 364 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.76 | 1 | HNKI | 78.11 | 0 |
| YNB13-346 | 365 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.94 | 1 | HNKI | 137.92 | 0 |
| YNB13-347 | 366 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.35 | 1 | HNKI | 113.2 | 0 |
| YNB13-348 | 367 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.15 | 1 | HNKI | 119.72 | 0 |
| YNB13-349 | 368 | 箱根畑宿群 | WDTY | WDTY | 5.46 | 1 | WDKB | 31.28 | 0 |
| YNB13-350 | 369 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.53 | 1 | HNKI | 189.95 | 0 |
| YNB13-351 | 370 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.35 | 1 | HNKI | 102.5 | 0 |
| YNB13-352 | 371 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.73 | 1 | HNKI | 179.89 | 0 |
| YNB13-353 | 372 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.53 | 1 | HNKI | 114.32 | 0 |
| YNB13-354 | 373 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.98 | 1 | HNKI | 114.44 | 0 |
| YNB13-355 | 374 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.5 | 1 | HNKI | 120.47 | 0 |
| YNB13-356 | 375 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.15 | 1 | HNKI | 164.52 | 0 |
| YNB13-357 | 376 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-358 | 377 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.04 | 1 | HNKI | 104.94 | 0 |
| YNB13-359 | 378 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.04 | 1 | HNKI | 97.2 | 0 |
| YNB13-360 | 379 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.29 | 1 | HNKI | 104.09 | 0 |
| YNB13-361 | 380 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.45 | 1 | HNKI | 110.19 | 0 |
| YNB13-362 | 381 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.17 | 1 | HNKI | 65.54 | 0 |
| YNB13-363 | 382 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.99 | 1 | HNKI | 159.22 | 0 |
| YNB13-364 | 383 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.08 | 1 | HNKI | 122.05 | 0 |
| YNB13-365 | 384 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.78 | 1 | HNKI | 149.04 | 0 |
| YNB13-366 | 385 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.74 | 1 | HNKI | 88.26 | 0 |
| YNB13-367 | 386 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.17 | 1 | HNKI | 154.06 | 0 |
| YNB13-368 | 387 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.52 | 1 | HNKI | 131.32 | 0 |
| YNB13-369 | 388 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.46 | 1 | HNKI | 108.11 | 0 |
| YNB13-370 | 389 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.6 | 1 | HNKI | 80.81 | 0 |
| YNB13-371 | 390 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.02 | 1 | HNKI | 99.66 | 0 |
| YNB13-372 | 391 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.56 | 1 | HNKI | 122.19 | 0 |
| YNB13-373 | 392 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.41 | 1 | HNKI | 59.47 | 0 |
| YNB13-374 | 393 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.22 | 1 | HNKI | 101.19 | 0 |
| YNB13-375 | 394 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.38 | 1 | HNKI | 104.94 | 0 |
| YNB13-376 | 395 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.53 | 1 | HNKI | 120.79 | 0 |
| YNB13-377 | 396 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.28 | 1 | HNKI | 123.21 | 0 |
| YNB13-378 | 397 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.17 | 1 | HNKI | 106.01 | 0 |
| YNB13-379 | 398 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.76 | 1 | HNKI | 117.59 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| YNB13-380 | 399 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.49 | 1 | HNKI | 138.25 | 0 |
| YNB13-381 | 400 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.2 | 1 | HNKI | 103.01 | 0 |
| YNB13-382 | 401 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.18 | 1 | HNKI | 133.46 | 0 |
| YNB13-383 | 402 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.96 | 1 | HNKI | 90.78 | 0 |
| YNB13-384 | 403 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-385 | 404 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.28 | 1 | HNKI | 142.99 | 0 |
| YNB13-386 | 405 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.09 | 1 | HNKI | 138.56 | 0 |
| YNB13-387 | 406 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.74 | 1 | HNKI | 191.28 | 0 |
| YNB13-388 | 407 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-389 | 408 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.75 | 1 | HNKI | 107.84 | 0 |
| YNB13-390 | 409 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.89 | 1 | HNKI | 203.59 | 0 |
| YNB13-391 | 410 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.72 | 1 | HNKI | 78.02 | 0 |
| YNB13-392 | 411 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.04 | 1 | HNKI | 71.21 | 0 |
| YNB13-393 | 412 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.12 | 1 | HNKI | 79.4 | 0 |
| YNB13-394 | 413 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.78 | 1 | HNKI | 116.53 | 0 |
| YNB13-395 | 414 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.75 | 1 | HNKI | 180.91 | 0 |
| YNB13-396 | 415 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.96 | 1 | HNKI | 61.24 | 0 |
| YNB13-397 | 416 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.44 | 1 | HNKI | 140.26 | 0 |
| YNB13-398 | 417 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.1 | 1 | HNKI | 147.49 | 0 |
| YNB13-399 | 418 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-400 | 419 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.53 | 1 | HNKI | 89.55 | 0 |
| YNB13-401 | 420 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.28 | 1 | HNKI | 80.93 | 0 |
| YNB13-402 | 421 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.09 | 1 | HNKI | 106.27 | 0 |
| YNB13-403 | 422 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.09 | 1 | HNKI | 109.36 | 0 |
| YNB13-404 | 423 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.67 | 1 | HNKI | 131.76 | 0 |
| YNB13-405 | 424 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.82 | 1 | HNKI | 104.72 | 0 |
| YNB13-406 | 425 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.27 | 1 | HNKI | 108.09 | 0 |
| YNB13-407 | 426 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-408 | 427 | 推定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-409 | 428 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.62 | 1 | HNKI | 123.53 | 0 |
| YNB13-410 | 429 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.53 | 1 | HNKI | 136.98 | 0 |
| YNB13-411 | 430 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.51 | 1 | HNKI | 87.99 | 0 |
| YNB13-412 | 431 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.16 | 1 | HNKI | 134.86 | 0 |
| YNB13-413 | 432 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.05 | 1 | HNKI | 89.9 | 0 |
| YNB13-414 | 433 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.02 | 1 | HNKI | 73.49 | 0 |
| YNB13-415 | 434 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.31 | 1 | HNKI | 186.24 | 0 |
| YNB13-416 | 435 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.69 | 1 | HNKI | 119.52 | 0 |
| YNB13-417 | 436 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.46 | 1 | HNKI | 137.84 | 0 |
| YNB13-418 | 437 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.68 | 1 | HNKI | 103.64 | 0 |
| YNB13-419 | 438 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.47 | 1 | HNKI | 98.73 | 0 |
| YNB13-420 | 439 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.01 | 1 | HNKI | 145.16 | 0 |
| YNB13-421 | 440 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.09 | 1 | HNKI | 138.44 | 0 |
| YNB13-422 | 441 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.82 | 1 | HNKI | 177.16 | 0 |
| YNB13-423 | 442 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.65 | 1 | HNKI | 51.87 | 0 |
| YNB13-424 | 443 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 10.84 | 0.9997 | WDHY | 24.65 | 0.0003 |
| YNB13-425 | 444 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.16 | 1 | HNKI | 75.89 | 0 |
| YNB13-426 | 445 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.65 | 1 | HNKI | 93.66 | 0 |
| YNB13-427 | 446 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.13 | 1 | HNKI | 124.09 | 0 |
| YNB13-428 | 447 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.3 | 1 | HNKI | 112.84 | 0 |
| YNB13-429 | 448 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.31 | 1 | HNKI | 150.47 | 0 |
| YNB13-430 | 449 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.98 | 1 | HNKI | 54.31 | 0 |
| YNB13-431 | 450 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 3.53 | 1 | KZSN | 55.27 | 0 |
| YNB13-432 | 451 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 20.1 | 1 | KZSN | 64 | 0 |
| YNB13-433 | 452 | 和田芙蓉ライト | WDHY | WDHY | 3.09 | 0.958 | WDTY | 11.77 | 0.042 |
| YNB13-434 | 456 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.96 | 1 | HNKI | 152.27 | 0 |
| YNB13-435 | 459 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.01 | 1 | HNKI | 37.46 | 0 |
| YNB13-436 | 460 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 5.72 | 1 | KZSN | 57.44 | 0 |
| YNB13-437 | 461 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.47 | 1 | HNKI | 85.15 | 0 |
| YNB13-438 | 462 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.24 | 1 | HNKI | 149.86 | 0 |
| YNB13-439 | 463 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.59 | 1 | HNKI | 83.25 | 0 |
| YNB13-440 | 464 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.18 | 1 | HNKI | 164.43 | 0 |
| YNB13-441 | 465 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.48 | 1 | HNKI | 68.69 | 0 |
| YNB13-442 | 466 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.58 | 1 | HNKI | 111.81 | 0 |
| YNB13-443 | 467 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.43 | 1 | HNKI | 188.93 | 0 |
| YNB13-444 | 468 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.23 | 1 | HNKI | 117.63 | 0 |
| YNB13-445 | 469 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.36 | 1 | HNKI | 59.37 | 0 |
| YNB13-446 | 470 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.8 | 1 | HNKI | 155.57 | 0 |
| YNB13-447 | 471 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 26.59 | 1 | HNKI | 229.19 | 0 |
| YNB13-448 | 472 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.99 | 1 | HNKI | 164.78 | 0 |
| YNB13-449 | 473 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.68 | 1 | HNKI | 96.29 | 0 |
| YNB13-450 | 474 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.64 | 1 | HNKI | 128.3 | 0 |
| YNB13-451 | 475 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.61 | 1 | HNKI | 115.98 | 0 |
| YNB13-452 | 476 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.46 | 1 | HNKI | 120.21 | 0 |
| YNB13-453 | 477 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.99 | 1 | HNKI | 85.92 | 0 |
| YNB13-454 | 478 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.37 | 1 | HNKI | 182.18 | 0 |
| YNB13-455 | 479 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.18 | 1 | HNKI | 88.39 | 0 |
| YNB13-456 | 480 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.01 | 1 | HNKI | 100.31 | 0 |
| YNB13-457 | 481 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.31 | 1 | HNKI | 172.74 | 0 |
| YNB13-458 | 482 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.95 | 1 | HNKI | 184.68 | 0 |
| YNB13-459 | 483 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.69 | 1 | HNKI | 84.37 | 0 |
| YNB13-460 | 484 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.13 | 1 | HNKI | 130.19 | 0 |
| YNB13-461 | 485 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.59 | 1 | HNKI | 110.54 | 0 |
| YNB13-462 | 486 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.6 | 1 | HNKI | 106.74 | 0 |
| YNB13-463 | 487 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.58 | 1 | HNKI | 90.2 | 0 |
| YNB13-464 | 488 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.88 | 1 | HNKI | 139.96 | 0 |
| YNB13-465 | 489 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.32 | 1 | HNKI | 61.53 | 0 |
| YNB13-466 | 490 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 25.76 | 1 | HNKI | 199.78 | 0 |
| YNB13-467 | 491 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.59 | 1 | HNKI | 88.28 | 0 |
| YNB13-468 | 492 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.71 | 1 | HNKI | 53.13 | 0 |
| YNB13-469 | 493 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 28.99 | 1 | HNKI | 226.2 | 0 |
| YNB13-470 | 494 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.26 | 1 | HNKI | 75.33 | 0 |
| YNB13-471 | 495 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.82 | 1 | HNKI | 170.17 | 0 |
| YNB13-472 | 496 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.16 | 1 | HNKI | 113.48 | 0 |
| YNB13-473 | 497 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.46 | 1 | HNKI | 104.96 | 0 |
| YNB13-474 | 498 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.83 | 1 | HNKI | 141.04 | 0 |
| YNB13-475 | 499 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.99 | 1 | HNKI | 149.43 | 0 |
| YNB13-476 | 500 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1 | 1 | HNKI | 99.57 | 0 |
| YNB13-477 | 501 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.67 | 1 | HNKI | 102.63 | 0 |
| YNB13-478 | 502 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.91 | 1 | HNKI | 96.6 | 0 |
| YNB13-479 | 503 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.52 | 1 | HNKI | 112.94 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| YNB13-480 | 504 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.91 | 1 | HNKI | 93.27 | 0 |
| YNB13-481 | 505 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.24 | 1 | HNKI | 132.66 | 0 |
| YNB13-482 | 506 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.97 | 1 | HNKI | 196.13 | 0 |
| YNB13-483 | 507 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.75 | 1 | HNKI | 66.14 | 0 |
| YNB13-484 | 508 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.68 | 1 | HNKI | 182.89 | 0 |
| YNB13-485 | 509 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.76 | 1 | HNKI | 169.85 | 0 |
| YNB13-486 | 510 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.41 | 1 | HNKI | 125.04 | 0 |
| YNB13-487 | 511 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.14 | 1 | HNKI | 52.4 | 0 |
| YNB13-488 | 512 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.66 | 1 | HNKI | 107.06 | 0 |
| YNB13-489 | 513 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.59 | 1 | HNKI | 132.08 | 0 |
| YNB13-490 | 514 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.57 | 1 | HNKI | 67.89 | 0 |
| YNB13-491 | 515 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.66 | 1 | HNKI | 212.38 | 0 |
| YNB13-492 | 516 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.06 | 1 | HNKI | 88.58 | 0 |
| YNB13-493 | 517 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.43 | 1 | HNKI | 139.22 | 0 |
| YNB13-494 | 518 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.38 | 1 | HNKI | 107.48 | 0 |
| YNB13-495 | 519 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.19 | 1 | HNKI | 167.63 | 0 |
| YNB13-496 | 520 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.11 | 1 | HNKI | 79.09 | 0 |
| YNB13-497 | 521 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.57 | 1 | HNKI | 163.93 | 0 |
| YNB13-498 | 522 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.45 | 1 | HNKI | 92.36 | 0 |
| YNB13-499 | 523 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-500 | 524 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.93 | 1 | HNKI | 164.8 | 0 |
| YNB13-501 | 525 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.63 | 1 | HNKI | 77.75 | 0 |
| YNB13-502 | 526 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.9 | 1 | HNKI | 92.47 | 0 |
| YNB13-503 | 527 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.94 | 1 | HNKI | 101.97 | 0 |
| YNB13-504 | 528 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.01 | 1 | HNKI | 141.39 | 0 |
| YNB13-505 | 529 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.65 | 1 | HNKI | 186.56 | 0 |
| YNB13-506 | 530 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.45 | 1 | HNKI | 175 | 0 |
| YNB13-507 | 531 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 23.66 | 1 | KZSN | 101.53 | 0 |
| YNB13-508 | 532 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.07 | 1 | HNKI | 94.27 | 0 |
| YNB13-509 | 533 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.04 | 1 | HNKI | 79.87 | 0 |
| YNB13-510 | 534 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.44 | 1 | HNKI | 93.1 | 0 |
| YNB13-511 | 535 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.5 | 1 | HNKI | 56.42 | 0 |
| YNB13-512 | 536 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.67 | 1 | HNKI | 89.49 | 0 |
| YNB13-513 | 537 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.06 | 1 | HNKI | 86.34 | 0 |
| YNB13-514 | 538 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.68 | 1 | HNKI | 83.66 | 0 |
| YNB13-515 | 539 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.6 | 1 | HNKI | 137.49 | 0 |
| YNB13-516 | 540 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.63 | 1 | HNKI | 99.64 | 0 |
| YNB13-517 | 541 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.43 | 1 | HNKI | 160.49 | 0 |
| YNB13-518 | 542 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.81 | 1 | HNKI | 117.14 | 0 |
| YNB13-519 | 543 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.72 | 1 | HNKI | 127.87 | 0 |
| YNB13-520 | 544 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.02 | 1 | HNKI | 70.47 | 0 |
| YNB13-521 | 545 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.76 | 1 | HNKI | 167.38 | 0 |
| YNB13-522 | 546 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.99 | 1 | HNKI | 173.98 | 0 |
| YNB13-523 | 547 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.31 | 1 | HNKI | 175.18 | 0 |
| YNB13-524 | 548 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.52 | 1 | HNKI | 116.63 | 0 |
| YNB13-525 | 549 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.61 | 1 | HNKI | 119.71 | 0 |
| YNB13-526 | 550 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.37 | 1 | HNKI | 195.85 | 0 |
| YNB13-527 | 551 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.93 | 1 | HNKI | 107.84 | 0 |
| YNB13-528 | 552 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.7 | 1 | HNKI | 188.28 | 0 |
| YNB13-529 | 553 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.13 | 1 | HNKI | 105.56 | 0 |
| YNB13-530 | 554 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.12 | 1 | HNKI | 91.62 | 0 |
| YNB13-531 | 555 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.28 | 1 | HNKI | 65.88 | 0 |
| YNB13-532 | 556 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.51 | 1 | HNKI | 141.6 | 0 |
| YNB13-533 | 561 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.17 | 1 | HNKI | 106.08 | 0 |
| YNB13-534 | 571 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.43 | 1 | HNKI | 117.14 | 0 |
| YNB13-535 | 572 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2 | 1 | HNKI | 91.09 | 0 |
| YNB13-536 | 575 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.74 | 1 | HNKI | 88.94 | 0 |
| YNB13-537 | 576 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.34 | 1 | HNKI | 117.02 | 0 |
| YNB13-538 | 577 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.13 | 1 | HNKI | 94.34 | 0 |
| YNB13-539 | 578 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.31 | 1 | HNKI | 216.31 | 0 |
| YNB13-540 | 579 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.16 | 1 | HNKI | 191.99 | 0 |
| YNB13-541 | 580 | 推定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-542 | 581 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.03 | 1 | HNKI | 181.94 | 0 |
| YNB13-543 | 582 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.51 | 1 | HNKI | 178.42 | 0 |
| YNB13-544 | 583 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 20.28 | 1 | HNKI | 194.79 | 0 |
| YNB13-545 | 584 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.02 | 1 | HNKI | 83.64 | 0 |
| YNB13-546 | 585 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.01 | 1 | HNKI | 121.48 | 0 |
| YNB13-547 | 586 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.16 | 1 | HNKI | 74.14 | 0 |
| YNB13-548 | 587 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.04 | 1 | HNKI | 87.24 | 0 |
| YNB13-549 | 588 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.29 | 1 | HNKI | 153.2 | 0 |
| YNB13-550 | 589 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.47 | 1 | HNKI | 195.73 | 0 |
| YNB13-551 | 590 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.09 | 1 | HNKI | 148.31 | 0 |
| YNB13-552 | 591 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.34 | 1 | HNKI | 94.28 | 0 |
| YNB13-553 | 592 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.76 | 1 | HNKI | 102.96 | 0 |
| YNB13-554 | 593 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.55 | 1 | HNKI | 79.76 | 0 |
| YNB13-555 | 594 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.81 | 1 | HNKI | 94.48 | 0 |
| YNB13-556 | 595 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.77 | 1 | HNKI | 96.32 | 0 |
| YNB13-557 | 596 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.64 | 1 | HNKI | 83.61 | 0 |
| YNB13-558 | 597 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-559 | 598 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.01 | 1 | HNKI | 133.54 | 0 |
| YNB13-560 | 599 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.83 | 1 | HNKI | 95.28 | 0 |
| YNB13-561 | 600 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.73 | 1 | HNKI | 138.51 | 0 |
| YNB13-562 | 601 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.84 | 1 | HNKI | 145.05 | 0 |
| YNB13-563 | 602 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.24 | 1 | HNKI | 52.9 | 0 |
| YNB13-564 | 603 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.1 | 1 | HNKI | 196.58 | 0 |
| YNB13-565 | 604 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.57 | 1 | HNKI | 86.74 | 0 |
| YNB13-566 | 605 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.28 | 1 | HNKI | 116.49 | 0 |
| YNB13-567 | 606 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.77 | 1 | HNKI | 88.44 | 0 |
| YNB13-568 | 607 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.66 | 1 | HNKI | 115.2 | 0 |
| YNB13-569 | 608 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.7 | 1 | HNKI | 121.15 | 0 |
| YNB13-570 | 609 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.57 | 1 | HNKI | 126.63 | 0 |
| YNB13-571 | 610 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.39 | 1 | HNKI | 145.37 | 0 |
| YNB13-572 | 611 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.17 | 1 | HNKI | 117 | 0 |
| YNB13-573 | 612 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-574 | 613 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.79 | 1 | HNKI | 110.53 | 0 |
| YNB13-575 | 614 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.58 | 1 | HNKI | 133.2 | 0 |
| YNB13-576 | 615 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.52 | 1 | HNKI | 92.22 | 0 |
| YNB13-577 | 616 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.4 | 1 | HNKI | 193.5 | 0 |
| YNB13-578 | 617 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.34 | 1 | HNKI | 110.1 | 0 |
| YNB13-579 | 618 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.54 | 1 | HNKI | 181.6 | 0 |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| YNB13-580 | 619 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.94 | 1 | HNKI | 159.23 | 0 |
| YNB13-581 | 620 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.32 | 1 | HNKI | 92.11 | 0 |
| YNB13-582 | 621 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.81 | 1 | HNKI | 106.8 | 0 |
| YNB13-583 | 622 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-584 | 623 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.89 | 1 | HNKI | 67.01 | 0 |
| YNB13-585 | 624 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.76 | 1 | HNKI | 93.54 | 0 |
| YNB13-586 | 625 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.85 | 1 | HNKI | 105.34 | 0 |
| YNB13-587 | 626 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.72 | 1 | HNKI | 135.53 | 0 |
| YNB13-588 | 627 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.51 | 1 | HNKI | 100.22 | 0 |
| YNB13-589 | 628 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.37 | 1 | HNKI | 105.82 | 0 |
| YNB13-590 | 629 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.48 | 1 | HNKI | 72.89 | 0 |
| YNB13-591 | 630 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 23.26 | 1 | HNKI | 226.8 | 0 |
| YNB13-592 | 631 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.29 | 1 | HNKI | 105.04 | 0 |
| YNB13-593 | 632 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.46 | 1 | HNKI | 82.03 | 0 |
| YNB13-594 | 633 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.44 | 1 | HNKI | 99.94 | 0 |
| YNB13-595 | 634 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.89 | 1 | HNKI | 151.71 | 0 |
| YNB13-596 | 635 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.2 | 1 | HNKI | 105.57 | 0 |
| YNB13-597 | 636 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.77 | 1 | HNKI | 152.32 | 0 |
| YNB13-598 | 637 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.61 | 1 | HNKI | 184.8 | 0 |
| YNB13-599 | 638 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.42 | 1 | HNKI | 64.54 | 0 |
| YNB13-600 | 639 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.4 | 1 | HNKI | 111.65 | 0 |
| YNB13-601 | 640 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.56 | 1 | HNKI | 104.08 | 0 |
| YNB13-602 | 641 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.17 | 1 | HNKI | 212.21 | 0 |
| YNB13-603 | 642 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.32 | 1 | HNKI | 80.62 | 0 |
| YNB13-604 | 643 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.71 | 1 | HNKI | 48.73 | 0 |
| YNB13-605 | 644 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.4 | 1 | HNKI | 191.67 | 0 |
| YNB13-606 | 645 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.51 | 1 | HNKI | 77.34 | 0 |
| YNB13-607 | 646 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.08 | 1 | HNKI | 106.17 | 0 |
| YNB13-608 | 647 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.84 | 1 | HNKI | 179.08 | 0 |
| YNB13-609 | 648 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5 | 1 | HNKI | 140.66 | 0 |
| YNB13-610 | 649 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.31 | 1 | HNKI | 83.97 | 0 |
| YNB13-611 | 650 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.07 | 1 | HNKI | 192.56 | 0 |
| YNB13-612 | 651 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.33 | 1 | HNKI | 76.32 | 0 |
| YNB13-613 | 652 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.15 | 1 | HNKI | 145.78 | 0 |
| YNB13-614 | 653 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.24 | 1 | HNKI | 168.22 | 0 |
| YNB13-615 | 654 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.19 | 1 | HNKI | 81.71 | 0 |
| YNB13-616 | 655 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.6 | 1 | HNKI | 98.83 | 0 |
| YNB13-617 | 656 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.53 | 1 | HNKI | 130.31 | 0 |
| YNB13-618 | 657 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.59 | 1 | HNKI | 107.32 | 0 |
| YNB13-619 | 658 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.27 | 1 | HNKI | 69.78 | 0 |
| YNB13-620 | 659 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.26 | 1 | HNKI | 89.7 | 0 |
| YNB13-621 | 660 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.26 | 1 | HNKI | 120.37 | 0 |
| YNB13-622 | 661 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.81 | 1 | HNKI | 100.92 | 0 |
| YNB13-623 | 662 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.55 | 1 | HNKI | 49.23 | 0 |
| YNB13-624 | 663 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.84 | 1 | HNKI | 151.75 | 0 |
| YNB13-625 | 664 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.06 | 1 | HNKI | 190.49 | 0 |
| YNB13-626 | 665 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.05 | 1 | HNKI | 89.89 | 0 |
| YNB13-627 | 666 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.98 | 1 | HNKI | 111.84 | 0 |
| YNB13-628 | 667 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.37 | 1 | HNKI | 134.4 | 0 |
| YNB13-629 | 668 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 13.71 | 1 | HNKI | 56.71 | 0 |
| YNB13-630 | 669 | 和田土屋橋北群 | WDTK | WDTK | 6.1 | 0.9696 | WDTN | 13.24 | 0.0304 |
| YNB13-631 | 670 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.72 | 1 | HNKI | 100.13 | 0 |
| YNB13-632 | 671 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.36 | 1 | HNKI | 91.1 | 0 |
| YNB13-633 | 673 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 0.33 | 1 | HNKI | 97.39 | 0 |
| YNB13-634 | 674 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.43 | 1 | HNKI | 87.84 | 0 |
| YNB13-635 | 675 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.07 | 1 | HNKI | 73.01 | 0 |
| YNB13-636 | 676 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-637 | 677 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.67 | 1 | HNKI | 161.55 | 0 |
| YNB13-638 | 678 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.14 | 1 | HNKI | 99.92 | 0 |
| YNB13-639 | 679 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.97 | 1 | HNKI | 89.78 | 0 |
| YNB13-640 | 680 | 測定不可 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-641 | 681 | 箱根畑宿群 | 測定不可 | 測定不可 | | | 測定不可 | | |
| YNB13-642 | 682 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.09 | 1 | HNKI | 142.63 | 0 |
| YNB13-643 | 683 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.33 | 1 | HNKI | 65.32 | 0 |
| YNB13-644 | 684 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |
| YNB13-645 | 685 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.42 | 1 | HNKI | 129.34 | 0 |
| YNB13-646 | 686 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.96 | 1 | HNKI | 119.84 | 0 |
| YNB13-647 | 687 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.92 | 1 | HNKI | 81.92 | 0 |
| YNB13-648 | 688 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.12 | 1 | HNKI | 208.21 | 0 |
| YNB13-649 | 689 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.23 | 1 | HNKI | 200.81 | 0 |
| YNB13-650 | 690 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.97 | 1 | HNKI | 206.29 | 0 |
| YNB13-651 | 691 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.34 | 1 | HNKI | 92.9 | 0 |
| YNB13-652 | 692 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.53 | 1 | HNKI | 168.05 | 0 |
| YNB13-653 | 693 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.17 | 1 | HNKI | 80.9 | 0 |
| YNB13-654 | 694 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.19 | 1 | HNKI | 116.93 | 0 |
| YNB13-655 | 695 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.12 | 1 | HNKI | 102.11 | 0 |
| YNB13-656 | 696 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.73 | 1 | HNKI | 129.18 | 0 |
| YNB13-657 | 697 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.43 | 1 | HNKI | 176.31 | 0 |
| YNB13-658 | 698 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.69 | 1 | HNKI | 79.99 | 0 |
| YNB13-659 | 699 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.54 | 1 | HNKI | 164.72 | 0 |
| YNB13-660 | 700 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 22.63 | 1 | HNKI | 196.8 | 0 |
| YNB13-661 | 701 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24.64 | 1 | HNKI | 216.83 | 0 |
| YNB13-662 | 702 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 14.12 | 1 | HNKI | 91.56 | 0 |
| YNB13-663 | 703 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 21.28 | 1 | HNKI | 219.03 | 0 |
| YNB13-664 | 704 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.34 | 1 | HNKI | 89.62 | 0 |
| YNB13-665 | 705 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.05 | 1 | HNKI | 120.91 | 0 |
| YNB13-666 | 706 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.16 | 1 | HNKI | 135.68 | 0 |
| YNB13-667 | 707 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.72 | 1 | HNKI | 75.52 | 0 |
| YNB13-668 | 708 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.81 | 1 | HNKI | 130.73 | 0 |
| YNB13-669 | 709 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.45 | 1 | HNKI | 135.5 | 0 |
| YNB13-670 | 710 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.42 | 1 | HNKI | 127.88 | 0 |
| YNB13-671 | 711 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.39 | 1 | HNKI | 90.18 | 0 |
| YNB13-672 | 712 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.35 | 1 | HNKI | 57.97 | 0 |
| YNB13-673 | 713 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.81 | 1 | HNKI | 88.56 | 0 |
| YNB13-674 | 714 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.93 | 1 | HNKI | 84.54 | 0 |
| YNB13-675 | 715 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.98 | 1 | HNKI | 105.42 | 0 |
| YNB13-676 | 716 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.82 | 1 | HNKI | 97.11 | 0 |
| YNB13-677 | 717 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.36 | 1 | HNKI | 91.05 | 0 |
| YNB13-678 | 718 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.88 | 1 | HNKI | 119.78 | 0 |
| YNB13-679 | 719 | 推定不可 | 推定不可 | 推定不可 | | | 推定不可 | | |

| 分析番号 | 遺物番号 | 推定産地 | 判別図判別群 | 判別分析 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第１候補産地 | | | 第２候補産地 | | |
| | | | | 判別群 | 距離 | 確率 | 判別群 | 距離 | 確率 |
| YNB13-680 | 720 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.74 | 1 | HNKI | 154.11 | 0 |
| YNB13-681 | 721 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 17.11 | 1 | HNKI | 200.93 | 0 |
| YNB13-682 | 722 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.82 | 1 | HNKI | 90.89 | 0 |
| YNB13-683 | 723 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.19 | 1 | HNKI | 146.58 | 0 |
| YNB13-684 | 724 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.73 | 1 | HNKI | 101.97 | 0 |
| YNB13-685 | 725 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.96 | 1 | HNKI | 69.69 | 0 |
| YNB13-686 | 726 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 12.23 | 1 | HNKI | 74.39 | 0 |
| YNB13-687 | 727 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 16.82 | 1 | HNKI | 204.01 | 0 |
| YNB13-688 | 728 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.76 | 1 | HNKI | 111.21 | 0 |
| YNB13-689 | 729 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 18.74 | 1 | HNKI | 52.42 | 0 |
| YNB13-690 | 730 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 10.42 | 1 | HNKI | 136 | 0 |
| YNB13-691 | 731 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.5 | 1 | HNKI | 174.82 | 0 |
| YNB13-692 | 734 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 4.58 | 1 | KZSN | 54.58 | 0 |
| YNB13-693 | 735 | 神津島恩馳島群 | KZOB | KZOB | 5.3 | 1 | KZSN | 50.65 | 0 |
| YNB13-694 | 736 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.24 | 1 | HNKI | 116.86 | 0 |
| YNB13-695 | 737 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.45 | 1 | HNKI | 107.52 | 0 |
| YNB13-696 | 739 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.89 | 1 | HNKI | 129.29 | 0 |
| YNB13-697 | 740 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 11.33 | 1 | HNKI | 82.42 | 0 |
| YNB13-698 | 741 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.46 | 1 | HNKI | 138.27 | 0 |
| YNB13-699 | 742 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.74 | 1 | HNKI | 130.43 | 0 |
| YNB13-700 | 743 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.92 | 1 | HNKI | 137.97 | 0 |
| YNB13-701 | 744 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.79 | 1 | HNKI | 134.33 | 0 |
| YNB13-702 | 745 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.63 | 1 | HNKI | 90.48 | 0 |
| YNB13-703 | 746 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.24 | 1 | HNKI | 64.41 | 0 |
| YNB13-704 | 747 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.4 | 1 | HNKI | 69.7 | 0 |
| YNB13-705 | 749 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.34 | 1 | HNKI | 124.95 | 0 |
| YNB13-706 | 750 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.56 | 1 | HNKI | 137.94 | 0 |
| YNB13-707 | 751 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.49 | 1 | HNKI | 121.73 | 0 |
| YNB13-708 | 752 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 6.64 | 1 | HNKI | 150.68 | 0 |
| YNB13-709 | 753 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.04 | 1 | HNKI | 142.8 | 0 |
| YNB13-710 | 754 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.36 | 1 | HNKI | 129.87 | 0 |
| YNB13-711 | 755 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 19.16 | 1 | HNKI | 122.39 | 0 |
| YNB13-712 | 756 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 15.41 | 1 | HNKI | 133.22 | 0 |
| YNB13-713 | 757 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.35 | 1 | HNKI | 137.65 | 0 |
| YNB13-714 | 758 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 8.3 | 1 | HNKI | 162.6 | 0 |
| YNB13-715 | 759 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 1.1 | 1 | HNKI | 102.44 | 0 |
| YNB13-716 | 760 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 2.5 | 0.999 | WDHY | 13.94 | 0.001 |
| YNB13-717 | 761 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 9.02 | 1 | HNKI | 99.02 | 0 |
| YNB13-718 | 762 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 2.19 | 1 | HNKI | 129.6 | 0 |
| YNB13-719 | 763 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.09 | 1 | HNKI | 123.59 | 0 |
| YNB13-720 | 764 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 7.43 | 1 | HNKI | 79.99 | 0 |
| YNB13-721 | 765 | 和田鷹山群 | WDTY | WDTY | 5.74 | 0.9984 | WDHY | 16.16 | 0.0016 |
| YNB13-722 | 766 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 24 | 1 | HNKI | 49.28 | 0 |
| YNB13-723 | 767 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 4.2 | 1 | HNKI | 124.57 | 0 |
| YNB13-724 | 768 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 5.95 | 1 | HNKI | 106.85 | 0 |
| YNB13-725 | 769 | 箱根畑宿群 | HNHJ | HNHJ | 3.73 | 1 | HNKI | 104.49 | 0 |

※なお、分析依頼時に遺物ラベル（袋）と遺物が入れ替わっていたものが数点あり、推定産地に混乱が生じているのをお断わりしておきたい。

# 主要参考文献

相田　薫編（1986）『月見野遺跡群上野遺跡第１地点』大和市文化財調査報告書第21集　大和市教育委員会

秋山真澄（1968）『伊豆の後期旧石器文化図録』私家版

秋山真澄他（1972）『駿河小塚　＝静岡県における先土器文化の研究＝』　芝川町教育委員会

安蒜政雄（1974）「砂川遺跡についての一考察　－個体別資料による石器群の検討－」『史館』第２号所収　史館同人会

安蒜政雄（1975）「砂川遺跡」『日本の旧石器文化　２　遺跡と遺物（上)』所収　雄山閣出版

安蒜政雄（1977）「遺跡の中の遺物」『季刊　どるめん』　第15号所収　ジック出版

安蒜政雄（1977）「砂川遺跡についての一考察　－個体別資料による石器群の検討（２）－」『史館』第９号所収　史館同人会

安蒜政雄（1979）「日本の細石核」『駿台史学』　第47号所収　駿台史学会

安蒜政雄（1979）「縦長ナイフ形石器の製作」『季刊　考古学』　第４号所収　　雄山閣出版

安蒜政雄（1979）「石器の形態と機能」『日本考古学を学ぶ（２)』所収　　有斐閣選書　　有斐閣

市原寿文（1963）「静岡県の無土器文化」『静岡県の古代文化』　静岡県教育委員会

伊藤恒彦編（1987）『中村遺跡　－都市計画道路町田南大野線埋蔵文化財発掘調査報告書－』中村遺跡発掘調査団

伊藤恒彦（1988）「相模野台地の２種類の尖頭器石器群」『大和のあけぼのⅡ　－上和田城山遺跡・上野遺跡出土品の神奈川県指定重要文化財指定記念集－』　大和市教育委員会

伊藤恒彦・保坂康夫（1989）『函南スプリングスゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書（１)』函南町教育委員会

伊藤恒彦・鈴木敏中（1995）『山中城跡三ノ丸第１地点』　三島市教育委員会

伊藤恒彦・鈴木敏中・前嶋秀張（1999）『初音ケ原遺跡』　三島市教育委員会

伊藤恒彦・長野康敏（2001）『静岡県函南町　上原遺跡　東京電力（株）桑原開閉所新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　東京電力株式会社　函南町教育委員会

伊藤恒彦・寺田光一郎（2004）『南山Ｄ遺跡　東山遺跡　香音Ⅱ－Ｄ遺跡　奥山遺跡　笹原大竹線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　三島市教育委員会

伊藤恒彦・麻生順司他（2014）『願合寺Ａ遺跡』三島市教育委員会

稲田孝司（1969）「尖頭器文化の出現と旧石器的石器製作の解体」『考古学研究』　第15巻第３号　所収　考古学研究会

押野一貴（1997）「静岡県芝川町駿河小塚遺跡出土細石刃核について」『人間・遺跡・遺物３　－麻生優先生退官記念論文集－』　発掘者談話会

加藤晋平・鶴丸俊明（1980）『図録　石器の基礎知識Ⅰ・Ⅱ　先土器（上)・(下)』　柏書房

樫田　誠他（1983）『深見諏訪山遺跡　神奈川県大和市深見所在の草創期・先土器時代遺跡調査の記録』大和市文化財調査報告書第14集　　大和市教育委員会

小池　聡（1997）『神明若宮地区内遺跡』　神明若宮地区内遺跡発掘調査団

小池　聡（1999）『大和市No.210遺跡』　大和市文化財調査報告書第71集　大和市教育委員会

佐藤達夫（1971）「考古学講座②　無土器文化の石器」『日本歴史』第276号　所収　吉川弘文館

坂詰秀一（1962）「小説“箱根山”からの発掘　芦ノ湯の旧石器遺跡」『科学朝日』　第22巻第２号　所収　朝日新聞社

坂詰秀一（1967）「芦ノ湯の旧石器時代遺跡」『箱根町誌　１巻』　箱根町誌編纂委員会　箱根町

笹原千賀子（2003）『鉄平遺跡　平成14年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第137集　　財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所

主要参考文献

笹原芳郎（2006）『西山遺跡　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第170集　　財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所　　中日本高速道路株式会社横浜支社

静岡県考古学会・シンポジウム実行委員会（1995）『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』

静岡県考古学会・シンポジウム実行委員会（1996）『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　収録集』

柴田亮平（2010）『細尾遺跡　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　長泉町－６』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第222集　中日本高速道路株式会社東京支所　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

白石浩之（1995）「関東地方におけるナイフ形石器文化終末期の様相－月見野期を中心として－」『古代文化』第47巻第１号所収　古代学協会

杉原荘介・小野真一（1965）「静岡県休場遺跡における細石器文化」『考古学集刊』 第３巻第２号　所収　東京考古学会

鈴木次郎・大上周三（1984）『栗原中丸遺跡　県立栗原高等学校建設にともなう調査』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告３　神奈川県立埋蔵文化財センター

鈴木次郎（1984）「第Ⅴ章　第６節　第Ⅴ文化層」『栗原中丸遺跡　県立栗原高等学校建設にともなう調査』所収　前掲書

鈴木次郎・矢島國雄（1988）「先土器時代の石器群とその編年」『日本考古学を学ぶ（１）（新版）」所収　有斐閣選書有斐閣

鈴木敏中・芦川忠利・前嶋秀張（1987）『静岡県三島市北原菅遺跡　箱根の里建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』　三島市教育委員会

鈴木敏中（1994）「山中城跡三ノ丸第２地点」『三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』 三島市教育委員会

鈴木敏中（2009）「第３章　第１節　三島市教育委員会所蔵考古資料　－塚原初音原遺跡・山神社遺跡出土遺物－」『三島市埋蔵文化財発掘調査報告XIV』 三島市教育委員会

鈴木忠司（1971）「野岳遺跡の細石核と西南日本における細石刃文化」『古代文化』第23巻第８号所収　古代学協会

鈴木忠司（1979）「東海地方の細石刃文化について」『日本古代学論集』所収　古代学協会

鈴木忠司（1979）「中部地方南部の細石器文化」『駿台史学』 第47号　所収　駿台史学会

鈴木忠司・竹内直文（1996）『静岡県磐田市　匂坂中遺跡発掘調査報告書Ⅱ　磐田北部工業団地造成事業に伴う発掘調査』　静岡県企業局　磐田市教育委員会

砂田佳弘（1996）「愛鷹・箱根山麓の細石器　～相模野からみた編年の覚え書き～」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年収録集』所収　　静岡県考古学会

高尾好之（1981）「駿河小塚遺跡の舟底形細石核」『静岡県考古学研究』 10所収　静岡県考古学会

髙橋　豊（1976）「地形・地質・土質」『箱根山西麓調査報告書』箱根山西麓調査委員会

舘野　孝（1982）『北茨城市史別巻　細原遺跡』北茨城市史編さん委員会

田中英司（1984）「砂川型式期石器群の研究」『考古学雑誌』第69巻第４号所収　日本考古学会

橘　正信（1973）「九州における細石器文化」『考古学論叢』　１　所収　別府大学考古学研究会

堤　隆　（1984）「第Ⅳ章　上草柳第１地点遺跡　第３節　第Ⅰ文化層」『一般国道246号（大和・厚木バイパス）地域内遺跡発掘調査報告Ⅱ』大和市文化財調査報告書第15集　大和市教育委員会

堤　隆　（1984）「第Ⅴ章　遺構と遺物　第１節　第１文化層（ａ）」『一般国道246号（大和・厚木バイパス）地域内遺跡発掘調査報告Ⅲ』大和市文化財調査報告書第17集　大和市教育委員会

堤　隆　（1986）「第６章　第３節　第Ⅲ文化層」『月見野遺跡群上野遺跡第１地点』所収　前掲書

堤　隆　（1987）「相模野台地の細石刃石核」『大和市史研究』 第13号所収　大和市役所管理部庶務課編

鶴丸俊明（1979）「北海道地方の細石刃文化」『駿台史学』第47号所収　駿台史学会

戸沢充則（1968）「埼玉県砂川遺跡の石器文化」『考古学集刊』 第４巻第１号　東京考古学会

戸沢充則・安蒜政雄・鈴木次郎・矢島国雄（1974）『砂川先土器時代遺跡』 所沢市教育委員会

中村雄紀（2009）『桜畑上遺跡　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　長泉町－５』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第208集　　中日本高速道路株式会社東京支所　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

前嶋秀張（1995）「第４期・第５期の石器群」『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年　予稿集』所収　前掲書

壬生亮輔（2009）『イタドリＡ遺跡・イタドリＢ遺跡・イタドリＣ遺跡　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　沼津市－３』 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第211集　中日本高速道路株式会社東京支所　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平川昭夫・袴田　稔（1981）『八分平・富士石遺跡』 長泉町教育委員会

広瀬高文（1989）『富士石遺跡群』 長泉町教育委員会

八ケ岳旧石器研究グループ（2003）『シンポジウム日本の細石刃文化Ⅰ　－日本列島における細石刃文化－』

八ケ岳旧石器研究グループ（2003・2004）『シンポジウム日本の細石刃文化Ⅱ・Ⅲ　－細石刃文化研究の諸問題－』

山内昭二（1975）『初音原・寺屋敷遺跡発掘調査概報－昭和49年度箱根塚原バイパス埋蔵文化財発掘調査－』中部地方建設局　静岡県教育委員会　三島市教育委員会

<自然化学分析>

能城修一・高橋　敦（1996）中・近世における木材利用．第11回植生史学会大会シンポジウム　「中世・近世の植生史」発表要旨．p.７－11.

島地　謙・伊東隆夫編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．296p.，雄山閣.

渡邊定元（1996）スギの林業史．植物の世界，127，p.210－211，朝日新聞社.

# 報告書執筆分担一覧

| | |
|---|---|
| ・辻　真人（三島市教育委員会） | 第１章第１・３節 |
| ・伊藤恒彦（日本考古学協会会員） | 第１章第２節、第２章第２節、第４章第２節、第５章 |
| ・小池　聡（株式会社盤古堂） | 第１章第４節、第２章第３節１、第３章第２節１、第４章第４節１ |
| ・麻生順司（株式会社玉川文化財研究所） | 第２章第１節・第３節２－（２）、第３章第１節・第２節２－（２）、第４章第１節・第３節２－（２） |
| ・坪田弘子（株式会社玉川文化財研究所） | 第２章第３節２－（１）、第３章第２節２－（１）、第４章第３節２－（１） |
| ・小山浩之（株式会社玉川文化財研究所） | 第３章第３節１、第４章第４節２ |
| ・辻本崇夫（パリノサーヴェイ株式会社） | 第６章第１節 |
| ・望月明彦（沼津工業高等専門学校助教授） | 第６章第２節 |

# 付　　表

## ●後期旧石器時代出土遺物一覧表

### 第１表　第 28 次調査（笹原山中バイパス第11地点）石器計測表

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | ブロック | 個体 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 産地 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 830 | ナイフ形石器 | 3 | 29 | 4.45 | 2.67 | 0.95 | 10.71 | Ob | HNHJ | 両端古欠 |
| 2 | 1040 | ナイフ形石器 | 3 | 15 | 4.32 | 2.13 | 1.02 | 6.84 | Ob | HNHJ | 先端新欠 |
| 3 | 895 | ナイフ形石器 | 4 | 8 | 4.28 | 2.40 | 1.06 | 8.52 | Ob | HNHJ | |
| 4 | 533 | ナイフ形石器 | 3 | 32 | 4.08 | 2.22 | 1.05 | 7.56 | Ob | HNHJ | |
| 5 | 1106 | ナイフ形石器 | 5 | 15 | 3.68 | 2.58 | 1.04 | 6.92 | Ob | HNHJ | 先端部古欠 |
| 6 | 1315 | ナイフ形石器 | 2 | 20 | 4.05 | 2.12 | 1.30 | 7.10 | Ob | TSTY | |
| 7 | 93 | ナイフ形石器 | 7 | 54 | 3.83 | 2.05 | 0.87 | 5.02 | Ob | 未同定 | |
| 8 | 1637 | ナイフ形石器 | 5 | 45 | 3.78 | 2.02 | 0.81 | 4.57 | Ob | HNHJ | |
| 9 | 1979 | ナイフ形石器 | 7 | 30 | 3.63 | 2.34 | 0.75 | 5.30 | Ob | HNHJ | 先端部古欠 |
| 10 | 803 | ナイフ形石器 | 2 | 22 | 3.32 | 1.68 | 0.65 | 3.01 | Ob | HNHJ | 先端部古欠 |
| 11a | 1878 | ナイフ形石器 | 4 | 15 | 3.42 | 2.31 | 0.80 | 4.90 | Ob | HNHJ | |
| 11b | 972 | | | | | | | | | HNHJ | |
| 12 | 654 | ナイフ形石器 | 8 | 11 | 3.38 | 1.78 | 1.00 | 4.97 | Ob | HNHJ | |
| 13 | 1104 | ナイフ形石器 | 5 | 15 | 3.32 | 1.54 | 1.10 | 4.67 | Ob | HNHJ | |
| 14 | 1508 | ナイフ形石器 | 3 | 24 | 3.33 | 1.74 | 0.71 | 2.84 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 15 | 1515 | ナイフ形石器 | 3 | 12 | 3.28 | 1.66 | 0.78 | 2.93 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 16 | 1105 | ナイフ形石器 | 5 | 18 | 3.20 | 1.53 | 1.03 | 3.70 | Ob | HNHJ | |
| 17 | 467 | ナイフ形石器 | 1 | 15 | 3.12 | 1.80 | 0.98 | 3.67 | Ob | HNHJ | |
| 18 | 643 | ナイフ形石器 | 7 | 12 | 3.04 | 1.99 | 0.83 | 4.66 | Ob | HNHJ | 先端新欠 |
| 19 | 1262 | ナイフ形石器 | 4 | 39 | 3.02 | 1.78 | 0.82 | 4.03 | Ob | HNHJ | 先端新欠 |
| 20 | 1696 | ナイフ形石器 | 4 | 40 | 2.25 | 2.00 | 0.71 | 2.59 | Ob | HNHJ | 先端部古欠 |
| 21 | 1137 | ナイフ形石器 | 7 | 53 | 2.18 | 1.09 | 0.48 | 0.95 | Ob | SWHD | 両端古欠･先端新欠 |
| 22 | 739 | ナイフ形石器 | 3 | 31 | 2.92 | 1.35 | 0.46 | 1.53 | Ob | HNHJ | |
| 23 | 445 | ナイフ形石器 | 4 | 15 | 2.56 | 1.72 | 0.53 | 1.84 | Ob | HNHJ | |
| 24 | 1575 | ナイフ形石器 | 1 | 13 | 2.56 | 2.00 | 0.88 | 3.38 | Ob | HNHJ | 基部古欠 |
| 25 | 1894 | ナイフ形石器 | 4 | 15 | 1.47 | 1.67 | 1.07 | 1.69 | Ob | HNHJ | 両端古欠 |
| 26 | 1647 | ナイフ形石器 | 7 | 19 | 1.90 | 1.89 | 0.54 | 1.76 | Ob | HNHJ | |
| 27 | 523 | ナイフ形石器 | 3 | 30 | 4.52 | 2.63 | 1.24 | 9.24 | Ob | HNHJ | |
| 28 | 1273 | ナイフ形石器 | 4 | 35 | 3.95 | 2.08 | 1.01 | 5.33 | Ob | TSTY | 刃部新欠 |
| 29 | 844 | ナイフ形石器 | 4 | 23 | 3.74 | 1.38 | 0.67 | 2.32 | Ob | HNHJ | |
| 30 | 1174 | ナイフ形石器 | 3 | 26 | 3.75 | 2.46 | 1.00 | 7.07 | Ob | TSTY | 先端古欠 |
| 31 | 973 | ナイフ形石器 | 4 | 36 | 3.73 | 1.91 | 1.00 | 5.16 | Ob | HNHJ | |
| 32a | 1713 | ナイフ形石器 | 4 | 7 | 3.76 | 2.33 | 0.88 | 4.88 | Ob | HNHJ | |
| 32b | 917 | | | | | | | | | | |
| 33 | 639 | ナイフ形石器 | 3 | 3 | 3.62 | 2.00 | 1.16 | 4.34 | Ob | HNHJ | |
| 34 | 432 | ナイフ形石器 | 3 | 12 | 3.58 | 2.30 | 1.21 | 6.76 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 35 | 666 | ナイフ形石器 | 6 | 52 | 3.48 | 2.23 | 0.80 | 5.21 | Ob | HNHJ | 先端新欠 |
| 36 | 1108 | ナイフ形石器 | 5 | 15 | 2.68 | 2.12 | 0.94 | 4.68 | Ob | HNHJ | 先端部新・古欠 |
| 37 | 806 | ナイフ形石器 | 2 | 7 | 3.08 | 2.02 | 0.98 | 5.23 | Ob | HNHJ | |
| 38 | 671 | ナイフ形石器 | 3 | 18 | 2.03 | 1.96 | 0.60 | 2.07 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 39 | 810 | ナイフ形石器 | 3 | 12 | 2.98 | 1.67 | 1.08 | 4.67 | Ob | HNHJ | |
| 40 | 1659 | ナイフ形石器 | 4 | 19 | 2.93 | 2.15 | 0.98 | 4.14 | Ob | HNHJ | |
| 41 | 1118 | ナイフ形石器 | 5 | 32 | 2.76 | 1.66 | 0.44 | 2.10 | Ob | HNHJ | |
| 42 | 1644 | ナイフ形石器 | 5 | 44 | 2.43 | 1.58 | 0.79 | 2.45 | Ob | SWHD | |
| 43 | 885 | ナイフ形石器 | 4 | 15 | 2.38 | 1.44 | 0.60 | 1.89 | Ob | 推定不可 | |
| 44 | 1726 | ナイフ形石器 | 4 | 19 | 2.33 | 0.97 | 0.48 | 0.83 | Ob | HNHJ | |
| 45 | 604 | ナイフ形石器 | 4 | 19 | 1.91 | 0.90 | 0.38 | 0.65 | Ob | HNHJ | |
| 46 | 1554 | ナイフ形石器 | 1 | 3 | 18.90 | 13.80 | 0.65 | 1.34 | Ob | HNHJ | |
| 47 | 661 | ナイフ形石器 | 6 | 23 | 3.91 | 2.58 | 1.12 | 8.19 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 48 | 1047 | ナイフ形石器 | 2 | 11 | 2.98 | 2.13 | 0.65 | 3.32 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 49 | 1255 | ナイフ形石器 | 3 | 23 | 2.66 | 1.94 | 0.92 | 4.12 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 50 | 504 | ナイフ形石器 | 7 | 19 | 3.44 | 2.13 | 0.76 | 4.76 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 51 | 606 | ナイフ形石器 | 4 | 15 | 2.49 | 1.27 | 0.83 | 1.47 | Ob | HNHJ | |
| 52 | 976 | ナイフ形石器 | 2 | 18 | 4.12 | 3.61 | 1.24 | 10.65 | Ob | HNHJ | |
| 53 | 649 | ナイフ形石器 | 2 | 21 | 3.41 | 1.77 | 0.68 | 3.49 | Ob | TSTY | |
| 54 | 848 | ナイフ形石器 | 4 | 15 | 2.41 | 1.82 | 0.56 | 1.86 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 55 | 1642 | ナイフ形石器 | 4 | 19 | 3.18 | 2.68 | 1.07 | 6.02 | Ob | HNHJ | |
| 56 | 838 | ナイフ形石器 | 3 | 12 | 2.58 | 2.05 | 0.50 | 2.06 | Ob | HNHJ | |
| 57 | 198 | ナイフ形石器 | 5 | 15 | 2.98 | 2.18 | 0.94 | 4.63 | Ob | HNHJ | |
| 58 | 1466 | ナイフ形石器 | 3 | 12 | 1.40 | 1.45 | 0.76 | 0.66 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 59 | 554 | ナイフ形石器 | 2 | 18 | 1.08 | 1.26 | 0.42 | 0.35 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 60 | 812 | ナイフ形石器 | 3 | 27 | 1.13 | 1.31 | 0.51 | 0.61 | Ob | TSTY | 先端部片 |
| 61 | 1510 | ナイフ形石器 | 3 | 20 | 0.91 | 1.46 | 0.45 | 0.56 | Ob | TSTY | 基部片 |
| 62a | 981 | ナイフ形石器 | 2 | 16 | 5.86 | 2.68 | 1.38 | 14.97 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 62b | 983 | | | | | | | | | | |
| 63a | 1370 | ナイフ形石器 | 4 | 19 | 4.45 | 2.22 | 1.08 | 7.99 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 63b | 1886 | | | | | | | | | | |
| 64a | 985 | ナイフ形石器 | 2 | 16 | 4.70 | 2.28 | 1.23 | 8.49 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 64b | 1184 | | | | | | | | | | |
| 65a | 992 | ナイフ形石器 | 2 | 23 | 4.27 | 2.86 | 1.30 | 8.40 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 65b | 1023 | | | | | | | | | | |
| 66 | 1518 | ナイフ形石器 | 2 | 6 | 3.22 | 2.80 | 0.98 | 6.40 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 67 | 1632 | ナイフ形石器 | 1 | 7 | 3.57 | 2.06 | 0.83 | 4.13 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 68 | 1125 | ナイフ形石器 | 5 | 15 | 3.88 | 3.03 | 1.43 | 14.13 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 69 | 104 | ナイフ形石器 | 7 | 18 | 2.96 | 2.10 | 0.63 | 3.98 | Ob | HNHJ | 未製品 |
| 70 | 515 | 尖頭器 | 外4 | 57 | 2.56 | 1.78 | 0.78 | 3.39 | Ob | HNHJ | 両端古欠 |
| 71 | 896 | 掻器 | 4 | 42 | 6.53 | 4.61 | 1.40 | 33.47 | Ho | | |
| 72 | 1342 | 掻器 | 4 | 15 | 3.42 | 2.68 | 1.07 | 5.26 | Ob | HNHJ | |
| 73 | 1662 | 掻器 | 4 | 15 | 2.68 | 1.97 | 1.70 | 6.09 | Ob | HNHJ | |
| 74 | 1576 | 掻器 | 1 | 9 | 3.31 | 2.50 | 0.83 | 5.84 | Ob | HNHJ | 刃部一部欠 |
| 75 | 1577 | 掻器 | 1 | 7 | 4.74 | 3.84 | 2.43 | 28.86 | Ob | HNHJ | |
| 76 | 1135 | 削器 | 7 | 55 | 5.52 | 4.50 | 2.10 | 39.52 | Ob | HNHJ | |
| 77 | 1266 | 削器 | 4 | 15 | 3.52 | 4.30 | 1.14 | 13.83 | Ob | HNHJ | 下半部古欠 |
| 78 | 636 | 削器 | 4 | 18 | 4.01 | 2.49 | 1.28 | 10.27 | Ob | HNHJ | 下半部古欠 |
| 79 | 655 | 彫器 | 6 | 25 | 3.17 | 1.86 | 0.74 | 3.65 | Ob | HNHJ | |
| 80a | 1881 | R・F | 4 | 15 | 4.06 | 2.57 | 1.40 | 8.93 | Ob | HNHJ | |
| 80b | 839 | | | | | | | | | HNHJ | |
| 81 | 1603 | R・F | 3 | 23 | 2.46 | 1.67 | 0.63 | 2.13 | Ob | HNHJ | 下端部古欠 |
| 82 | 886 | R・F | 4 | 19 | 2.80 | 1.06 | 0.62 | 1.60 | Ob | HNHJ | 断片 |
| 83 | 1983 | R・F | 4 | 15 | 3.45 | 1.49 | 2.35 | 6.10 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 84 | 1073 | R・F | 2 | 6 | 2.21 | 2.13 | 0.75 | 3.00 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 85 | 656 | R・F | 6 | 12 | 2.81 | 3.00 | 1.07 | 7.40 | Ob | HNHJ | |
| 86 | 1336 | R・F | 3 | 10 | 1.50 | 1.66 | 0.41 | 0.80 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 87 | 1076 | R・F | 1 | 10 | 1.70 | 2.23 | 0.75 | 2.60 | Ob | HNHJ | 末端部古欠 |
| 88 | 1235 | R・F | 3 | 12 | 1.79 | 2.56 | 0.77 | 2.50 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 89 | 1598 | R・F | 5 | 46 | 2.98 | 3.53 | 1.12 | 8.50 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 90 | 1551 | R・F | 1 | 4 | 2.17 | 2.95 | 0.92 | 3.90 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 91 | 1203 | R・F | 4 | 15 | 2.62 | 2.48 | 0.89 | 4.50 | Ob | HNHJ | 両端古欠 |
| 92 | 1527 | R・F | 2 | 18 | 1.02 | 1.03 | 0.42 | 0.30 | Ob | HNHJ | 断片 |
| 93 | 2014 | R・F | 4 | 19 | 1.92 | 2.35 | 0.57 | 1.70 | Ob | | 打面部古欠 |
| 94 | 948 | R・F | 4 | 15 | 1.78 | 1.23 | 0.52 | 0.70 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 95 | 1837 | R・F | 4 | 19 | 1.48 | 1.08 | 0.44 | 0.40 | Ob | HNHJ | 断片 |
| 96 | 1901 | R・F | 1 | 7 | 0.83 | 1.46 | 0.22 | 0.20 | Ob | HNHJ | ハジケか？ |
| 97 | 611 | R・F | 4 | 19 | 0.92 | 0.90 | 0.25 | 0.20 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 98 | 1932 | U・F | 1 | 6 | 3.99 | 1.49 | 0.71 | 2.50 | Ob | HNHJ | |
| 99 | 1915 | U・F | 1 | 4 | 4.17 | 2.77 | 0.95 | 6.10 | Ob | HNHJ | |
| 100 | 1952 | U・F | 2 | 16 | 3.99 | 2.56 | 0.62 | 5.60 | Ob | HNHJ | |
| 101 | 1639 | U・F | 5 | 51 | 4.61 | 3.97 | 1.06 | 12.30 | Ry | | |
| 102 | 1212 | U・F | 8 | 56 | 4.41 | 4.07 | 1.19 | 1.92 | Ob | HNHJ | |
| 103 | 597 | U・F | 5 | 4 | 3.77 | 2.13 | 1.08 | 6.80 | Ob | HNHJ | |
| 104 | 835 | U・F | 3 | 8 | 2.61 | 2.52 | 0.69 | 3.40 | Ob | HNHJ | |
| 105 | 1541 | U・F | 1 | 17 | 2.59 | 1.95 | 0.41 | 2.20 | Ob | HNHJ | |
| 106 | 1267 | U・F | 4 | 19 | 2.68 | 1.57 | 0.68 | 1.80 | Ob | HNHJ | |
| 107 | 102 | U・F | 10 | 20 | 3.27 | 22.90 | 0.90 | 4.70 | Ob | TSTY | |
| 108 | 773 | U・F | 3 | 28 | 2.29 | 1.04 | 0.52 | 1.00 | Ob | TSTY | |
| 109 | 755 | U・F | 3 | 7 | 2.17 | 0.45 | 1.55 | 1.30 | Ob | HNHJ | |
| 110 | 612 | U・F | 4 | 15 | 1.76 | 1.21 | 0.49 | 0.90 | Ob | HNHJ | |
| 111 | 580 | U・F | 1 | 4 | 2.41 | 1.74 | 0.59 | 2.50 | Ob | HNHJ | |
| 112 | 741 | U・F | 3 | 23 | 2.34 | 1.26 | 0.28 | 0.70 | Ob | HNHJ | |
| 113 | 1435 | U・F | 3 | 12 | 1.97 | 0.79 | 0.29 | 0.50 | Ob | HNHJ | |
| 114 | 993 | U・F | 2 | 18 | 2.26 | 1.77 | 0.59 | 2.00 | Ob | HNHJ | |
| 115 | 616 | U・F | 4 | 34 | 3.94 | 0.97 | 1.84 | 0.53 | Ob | WDTY | |
| 116 | 670 | U・F | 3 | 16 | 5.51 | 4.83 | 1.72 | 34.00 | Ob | HNHJ | |
| 117 | 651 | U・F | 4 | 15 | 2.17 | 2.80 | 0.59 | 2.70 | Ob | 推定不可 | |
| 118 | 695 | U・F | 3 | 8 | 2.23 | 2.49 | 0.74 | 3.10 | Ob | HNHJ | |
| 119 | 843 | U・F | 4 | 19 | 2.37 | 2.05 | 0.35 | 1.70 | Ob | HNHJ | |
| 120 | 1097 | U・F | 1 | 11 | 2.83 | 2.81 | 0.88 | 5.70 | Ob | HNHJ | |
| 121 | 545 | U・F | 2 | 23 | 2.51 | 2.11 | 0.56 | 2.00 | Ob | HNHJ | |
| 122 | 837 | U・F | 3 | 8 | 2.02 | 1.61 | 0.78 | 2.10 | Ob | HNHJ | |
| 123 | 794 | U・F | 3 | 12 | 2.43 | 1.74 | 1.74 | 2.00 | Ob | HNHJ | |
| 124 | 1519 | U・F | 2 | 10 | 2.11 | 1.34 | 0.48 | 1.20 | Ob | HNHJ | |
| 125 | 1241 | U・F | 3 | 15 | 1.60 | 1.34 | 0.62 | 0.76 | Ob | HNHJ | |
| 126 | 1736 | U・F | 3 | 19 | 1.75 | 1.35 | 0.43 | 0.80 | Ob | HNHJ | |
| 127 | 659 | U・F | 6 | 10 | 1.17 | 1.45 | 0.41 | 0.40 | Ob | HNHJ | |
| 128 | 1143 | U・F | 3 | 8 | 2.12 | 3.46 | 0.73 | 5.00 | Ob | HNHJ | |
| 129 | 603 | U・F | 4 | 19 | 0.94 | 1.43 | 0.51 | 0.60 | Ob | HNHJ | |
| 130 | 1116 | U・F | 4 | 19 | 1.32 | 2.18 | 0.52 | 0.50 | Ob | HNHJ | |
| 131 | 1007 | U・F | 2 | 16 | 1.36 | 2.23 | 0.41 | 0.80 | Ob | HNHJ | |
| 132 | 519 | U・F | 6 | 11 | 4.62 | 3.12 | 1.51 | 17.60 | Ob | HNHJ | |
| 133 | 585 | U・F | 1 | 12 | 2.54 | 2.85 | 0.53 | 3.20 | Ob | HNHJ | |
| 134 | 601 | U・F | 5 | 19 | 2.83 | 2.58 | 0.86 | 4.80 | Ob | HNHJ | |
| 135 | 599 | U・F | 5 | 19 | 1.90 | 1.76 | 0.49 | 1.60 | Ob | HNHJ | |
| 136 | 573 | U・F | 2 | 25 | 1.32 | 1.31 | 0.31 | 0.50 | Ob | HNHJ | |
| 137 | 1636 | U・F | 5 | 24 | 3.52 | 2.44 | 1.10 | 6.10 | Ob | HNHJ | |
| 138 | 553 | U・F | 2 | 11 | 3.03 | 2.02 | 0.81 | 4.10 | Ob | HNHJ | |
| 139 | 1044 | U・F | 2 | 11 | 3.23 | 1.91 | 0.58 | 2.99 | Ob | HNHJ | |
| 140 | 719 | U・F | 3 | 12 | 2.23 | 1.18 | 0.75 | 1.30 | Ob | 推定不可 | |
| 141 | 641 | U・F | 7 | 8 | 2.28 | 3.40 | 1.15 | 5.30 | Ob | HNHJ | |
| 142 | 200 | U・F | 1 | 15 | 2.01 | 3.48 | 1.25 | 4.30 | Ob | HNHJ | |
| 143 | 1217 | U・F | 3 | 23 | 1.18 | 1.35 | 0.19 | 0.33 | Ob | HNHJ | |
| 144 | 834 | U・F | 3 | 16 | 2.90 | 2.51 | 0.84 | 3.70 | Ob | HNHJ | |
| 145 | 823 | U・F | 3 | 10 | 0.73 | 0.91 | 0.57 | 0.37 | Ob | HNHJ | |
| 146 | 724 | U・F | 3 | 12 | 1.59 | 2.18 | 0.81 | 1.80 | Ob | HNHJ | |
| 147 | 930 | U・F | 4 | 35 | 1.41 | 1.07 | 0.45 | 0.44 | Ob | TSTY | 断片 |
| 148 | 1304 | 石刃 | 1 | 10 | 4.37 | 2.34 | 1.48 | 11.40 | Ob | HNHJ | |
| 149 | 978 | 石刃 | 2 | 19 | 2.04 | 1.44 | 0.45 | 1.30 | Ob | HNHJ | |
| 150 | 1046 | 折石刃 | 2 | 10 | 3.66 | 1.50 | 0.76 | 3.20 | Ob | HNHJ | |
| 151 | 1369 | 折石刃 | 3 | 12 | 2.55 | 1.69 | 0.58 | 1.80 | Ob | HNHJ | |
| 152 | 1660 | 折石刃 | 4 | 19 | 2.32 | 1.43 | 0.39 | 0.90 | Ob | HNHJ | |
| 153 | 1032 | 折石刃 | 2 | 16 | 2.06 | 1.47 | 0.66 | 1.70 | Ob | 推定不可 | |
| 154 | 1069 | 折石刃 | 2 | 17 | 1.84 | 1.32 | 0.70 | 1.60 | Ob | HNHJ | |
| 155 | 1761 | 折石刃 | 3 | 12 | 1.60 | 1.20 | 0.37 | 0.60 | Ob | HNHJ | |
| 156 | 1115 | 折石刃 | 4 | 19 | 1.65 | 0.74 | 0.45 | 0.40 | Ob | HNHJ | |
| 157 | 679 | 折石刃 | 3 | 11 | 4.93 | 3.37 | 1.44 | 16.90 | Ob | HNHJ | |
| 158 | 769 | 折石刃 | 3 | 11 | 2.47 | 1.42 | 0.65 | 1.70 | Ob | HNHJ | |
| 159 | 1050 | 折石刃 | 2 | 6 | 3.02 | 2.39 | 0.83 | 3.90 | Ob | HNHJ | |
| 160 | 1947 | 折石刃 | 2 | 16 | 3.00 | 1.49 | 0.62 | 3.10 | Ob | HNHJ | |
| 161 | 1333 | 折石刃 | 3 | 8 | 2.18 | 1.25 | 0.43 | 0.90 | Ob | HNHJ | |
| 162 | 1068 | 折石刃 | 2 | 7 | 1.15 | 1.07 | 0.34 | 0.40 | Ob | HNHJ | |
| 163 | 1109 | 原石 | 5 | 47 | 1.24 | 0.86 | 0.81 | 1.00 | Ob | 推定不可 | |
| 164 | 849 | 石核 | 4 | 15 | 2.51 | 3.03 | 1.54 | 8.30 | Ob | HNHJ | 剥片素材 |
| 165 | 1889 | 石核 | 5 | 48 | 2.65 | 1.99 | 0.91 | 5.10 | Sh | | 剥片素材 |
| 166 | 1578 | 石核 | 1 | 5 | 2.52 | 2.74 | 1.10 | 5.90 | Ob | HNHJ | 剥片素材 |
| 167 | 1117 | 石核 | 4 | 15 | 1.88 | 3.40 | 2.28 | 11.80 | Ob | HNHJ | 剥片素材 |
| 168 | 1122 | 石核 | 5 | 15 | 4.33 | 4.38 | 1.66 | 10.40 | Ob | HNHJ | 剥片素材 |
| 169 | 1532 | 石核 | 1 | 8 | 1.64 | 6.47 | 2.02 | 37.00 | Ob | HNHJ | 礫素材 |
| 170 | 1133 | 石核 | 7 | 10 | 5.24 | 3.24 | 3.23 | 45.90 | Ob | HNHJ | 礫素材 |
| 171 | 1670 | 石核 | 1 | 4 | 3.82 | 4.50 | 2.83 | 42.00 | Ob | HNHJ | 礫素材 |
| 172 | 1414 | 石核 | 4 | 43 | 5.32 | 9.15 | 2.21 | 140.90 | Ho | | 剥片素材 |
| 173 | | 接合状態 | | 10 | | | | | Ob | | |
| 174 | 1134 | F | 7 | 10 | 2.13 | 4.14 | 1.23 | 45.90 | Ob | HNHJ | |
| 175 | 642 | F | 7 | 10 | 3.32 | 3.55 | 0.91 | 7.70 | Ob | HNHJ | |
| 176 a | 105 | 折F | 7 | 10 | 2.07 | 1.39 | 0.58 | 5.29 | Ob | HNHJ | |
| 176 b | 663 | | | | | | | | | HNHJ | |
| 177 | | 接合状態 | | 4 | | | | | Ob | | |
| 178 | 1308 | F | 2 | 4 | 2.51 | 2.70 | 1.09 | 5.00 | Ob | HNHJ | |
| 179 | | 接合状態 | | 43 | | | | | Ho | | |
| 180 | 853 | F | 4 | 43 | 3.65 | 0.55 | 0.82 | 11.40 | Ho | | |
| 181 | | 接合状態 | | 15 | 3.18 | 2.72 | 1.51 | | Ob | | |
| 182 | 1858 | F | 4 | 15 | 1.50 | 0.39 | 1.61 | 0.50 | Ob | HNHJ | |

# 第２表　第19次調査（笹原山中バイパス第13地点）石器計測表

第Ⅰ文化層

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | ブロック | 個体 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 産地 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 39 | 細石刃 | 外2 | 1 | 1.70 | 0.80 | 0.20 | 0.30 | Ob | KZOB | |
| 2 | 460 | 細石刃 | － | 1 | 1.90 | 1.00 | 0.20 | 0.30 | Ob | KZOB | |
| 3 | 531 | U・F | 外1 | 1 | 4.90 | 2.40 | 1.37 | 11.90 | Ob | KZOB | |
| 4 | 735 | U・F | 2 | 2 | 4.00 | 2.00 | 1.20 | 5.55 | Ob | KZOB | |
| 5 | 734 | U・F | 2 | 2 | 2.20 | 1.30 | 0.63 | 2.10 | Ob | KZOB | |
| 6 | 450 | F | － | 1 | 3.40 | 1.10 | 0.67 | 2.80 | Ob | KZOB | |

第Ⅱ文化層

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | ブロック | 個体 | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | 石材 | 産地 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 669 | ナイフ形石器 | 9 | 46 | 4.01 | 1.62 | 0.46 | 2.15 | Ob | WDTK | 先端古欠 |
| 2a | 258 | ナイフ形石器 | 3 | 12 | 2.60 | 1.60 | 0.57 | 2.10 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 2b | 430 | ナイフ形石器 | 3 | 12 | | | | | Ob | HNHJ | |
| 3 | 204 | ナイフ形石器 | 3 | 8 | 3.32 | 13.10 | 0.73 | 2.80 | Ob | HNHJ | |
| 4 | 347 | ナイフ形石器 | 5 | 16 | 3.12 | 1.98 | 0.72 | 3.50 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 5 | 67 | ナイフ形石器 | 6 | 36 | 3.02 | 1.90 | 0.74 | 2.90 | Ob | HNHJ | |
| 6 | 572 | ナイフ形石器 | 1 | 2 | 2.82 | 1.37 | 0.58 | 1.85 | Ob | HNHJ | 両端古欠 |
| 7 | 79 | ナイフ形石器 | 8 | 45 | 2.92 | 1.54 | 0.68 | 2.25 | Ob | TSTY | 先端古欠 |
| 8 | 250 | ナイフ形石器 | 6 | 10 | 3.00 | 1.36 | 0.65 | 1.70 | Ob | HNHJ | 基部古欠 |
| 9 | 769 | ナイフ形石器 | 1 | 3 | 2.73 | 1.33 | 0.68 | 1.45 | Ob | HNHJ | |
| 10 | 115 | ナイフ形石器 | 6 | 35 | 2.36 | 1.20 | 0.65 | 1.40 | Ob | HNHJ | 基部古欠 |
| 11 | 746 | ナイフ形石器 | 10 | 18 | 2.32 | 1.46 | 0.58 | 1.25 | Ob | HNHJ | |
| 12 | 88 | ナイフ形石器 | 5 | 24 | 2.31 | 1.32 | 0.32 | 0.60 | Ob | WDTY | |
| 13 | 132 | ナイフ形石器 | 6 | 19 | 2.18 | 1.49 | 0.69 | 1.35 | Ob | HNHJ | |
| 14 | 775 | ナイフ形石器 | 不明 | 10 | 2.27 | 1.30 | 0.63 | 2.83 | Ob | | 基部古欠 |
| 15 | 397 | ナイフ形石器 | 5 | 16 | 2.92 | 1.58 | 0.69 | 1.90 | Ob | HNHJ | 刃部古欠 |
| 16 | 492 | ナイフ形石器 | 3 | 6 | 2.30 | 1.14 | 0.45 | 1.15 | Ob | HNHJ | |
| 17 | 327 | ナイフ形石器 | 6 | 7 | 2.27 | 1.75 | 0.60 | 1.75 | Ob | HNHJ | 左側縁新欠 |
| 18 | 776 | ナイフ形石器 | 不明 | 55 | 1.91 | 1.08 | 0.36 | 1.68 | Ob | | |
| 19 | 276 | ナイフ形石器 | 7 | 43 | 2.77 | 1.25 | 0.73 | 1.70 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 20 | 200 | ナイフ形石器 | 3 | 17 | 1.93 | 1.35 | 0.89 | 1.50 | Ob | HNHJ | 先端部片·先端新欠 |
| 21 | 16 | ナイフ形石器 | 3 | 21 | 1.50 | 1.42 | 0.56 | 0.65 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 22 | 253 | ナイフ形石器 | 5 | 10 | 1.28 | 1.17 | 0.40 | 0.35 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 23 | 774 | ナイフ形石器 | 不明 | 54 | 2.11 | 1.80 | 0.70 | 0.63 | Ob | | 先端古欠 |
| 24 | 652 | ナイフ形石器 | 5 | 30 | 3.30 | 2.11 | 0.93 | 5.00 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 25 | 649 | ナイフ形石器 | 3 | 11 | 2.28 | 1.10 | 0.69 | 1.50 | Ob | HNHJ | 先端部古欠 |
| 26 | 277 | ナイフ形石器 | 7 | 20 | 1.71 | 1.37 | 0.42 | 0.60 | Ob | HNHJ | 基部片 |
| 27 | 762 | ナイフ形石器 | 外1 | 13 | 1.96 | 1.47 | 0.51 | 1.20 | Ob | HNHJ | 基部片 |
| 28 | 195 | ナイフ形石器 | 3 | 6 | 1.78 | 1.71 | 0.76 | 1.65 | Ob | HNHJ | 基部片 |
| 29 | 218 | ナイフ形石器 | 3 | 16 | 3.08 | 2.01 | 0.59 | 2.15 | Ob | HNHJ | 先端新欠 |
| 30 | 607 | ナイフ形石器 | 3 | 8 | 3.07 | 1.88 | 0.90 | 4.00 | Ob | HNHJ | 先端部古欠 |
| 31 | 18 | ナイフ形石器 | 3 | 9 | 2.28 | 1.28 | 0.61 | 1.80 | Ob | HNHJ | 基部片 |
| 32 | 739 | ナイフ形石器 | 10 | 18 | 2.51 | 1.50 | 0.49 | 1.30 | Ob | HNHJ | |
| 33 | 395 | ナイフ形石器 | 5 | 10 | 2.20 | 1.79 | 0.70 | 1.80 | Ob | HNHJ | 刃部新欠 |
| 34 | 593 | ナイフ形石器 | 3 | 9 | 1.71 | 1.50 | 0.47 | 0.90 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 35 | 225 | ナイフ形石器 | 3 | 15 | 2.22 | 1.20 | 0.41 | 0.75 | Ob | HNHJ | |
| 36 | 405 | ナイフ形石器 | 3 | 8 | 1.96 | 1.32 | 0.48 | 1.00 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 37 | 372 | ナイフ形石器 | 6 | 19 | 1.96 | 1.04 | 0.40 | 2.25 | Ob | HNHJ | 先端古欠 |
| 38 | 363 | ナイフ形石器 | 6 | 10 | 1.70 | 1.11 | 0.31 | 0.45 | Ob | HNHJ | 基部新欠 |
| 39 | 414 | ナイフ形石器 | 3 | 11 | 1.90 | 1.12 | 0.50 | 0.60 | Ob | HNHJ | |
| 40 | 96 | ナイフ形石器 | 5 | 13 | 2.16 | 1.20 | 0.57 | 1.00 | Ob | HNHJ | 刃部古欠 |
| 41 | 452 | ナイフ形石器 | 不明 | 53 | 1.84 | 1.31 | 0.92 | 1.60 | Ob | WDHY | |
| 42 | 256 | ナイフ形石器 | 5 | 13 | 1.87 | 1.98 | 0.50 | 1.10 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 43 | 543 | ナイフ形石器 | 3 | 6 | 1.21 | 1.42 | 0.45 | 0.35 | Ob | HNHJ | 先端部片 |
| 44 | 326 | 掻器 | 6 | 24 | 4.40 | 3.50 | 0.94 | 11.20 | Ob | WDTY | |
| 45 | 69 | 削器 | 6 | 24 | 2.03 | 1.99 | 0.48 | 1.95 | Ob | WDTY | 上半欠損 |
| 46 | 686 | 削器 | 3 | 21 | 3.01 | 2.80 | 0.84 | 5.50 | Ob | HNHJ | 下半欠損 |
| 47 | 455 | 削器+ノッチ | 不明 | 52 | 3.21 | 2.52 | 0.80 | 6.65 | Ja | | |
| 48 | 210 | R・F | 3 | 21 | 3.22 | 3.08 | 1.21 | 10.40 | Ob | HNHJ | |
| 49 | 50 | R・F | 3 | 11 | 2.91 | 3.19 | 1.44 | 11.00 | Ob | HNHJ | |
| 50 | 207 | R・F | 3 | 21 | 2.38 | 2.69 | 0.92 | 2.55 | Ob | HNHJ | |
| 51 | 474 | R・F | 3 | 21 | 1.08 | 1.35 | 0.57 | 0.50 | Ob | HNHJ | |
| 52 | 154 | R・F | 6 | 16 | 4.51 | 3.72 | 1.55 | 0.65 | Ob | HNHJ | |
| 53 | 751 | R・F | 10 | 48 | 2.21 | 2.53 | 1.17 | 4.35 | Ob | HNHJ | |
| 54a | 301 | U・F | 6 | 18 | 6.38 | 3.86 | 1.90 | 33.40 | Ob | HNHJ | |
| 54b | 221 | | | | | | | | | HNHJ | |
| 55a | 202 | U・F | 3 | 17 | 6.31 | 4.28 | 1.98 | 25.25 | Ob | HNHJ | |
| 55b | 8 | | | | | | | | | HNHJ | |
| 56 | 49 | U・F | 3 | 7 | 5.40 | 4.03 | 1.78 | 30.20 | Ob | HNHJ | |
| 57 | 109 | U・F | 6 | 16 | 5.26 | 4.30 | 1.38 | 19.05 | Ob | HNHJ | 末端新欠 |
| 58 | 408 | U・F | 3 | 21 | 4.22 | 1.86 | 1.12 | 4.80 | Ob | HNHJ | |
| 59 | 391 | U・F | 5 | 31 | 3.41 | 2.40 | 0.95 | 5.55 | Ob | HNHJ | |
| 60 | 336 | U・F | 6 | 24 | 3.24 | 1.19 | 0.71 | 1.45 | Ob | WDTY | |
| 61 | 224 | U・F | 3 | 9 | 2.82 | 1.58 | 0.76 | 1.75 | Ob | HNHJ | |
| 62 | 51 | U・F | 3 | 22 | 2.90 | 1.74 | 0.62 | 2.75 | Ob | HNHJ | |
| 63 | 160 | U・F | 6 | 8 | 2.91 | 2.38 | 1.06 | 0.95 | Ob | 測定不可 | |
| 64 | 263 | U・F | 3 | 17 | 2.86 | 1.50 | 0.92 | 2.90 | Ob | HNHJ | 末端新欠 |
| 65 | 352 | U・F | 5 | 6 | 2.00 | 1.81 | 0.51 | 1.70 | Ob | HNHJ | |
| 66 | 134 | U・F | 6 | 39 | 3.62 | 2.92 | 1.03 | 7.55 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 67 | 148 | U・F | 6 | 13 | 3.22 | 2.77 | 0.81 | 6.20 | Ob | 測定不可 | 末端古欠 |
| 68 | 385 | U・F | 5 | 13 | 3.53 | 2.18 | 1.04 | 5.15 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 69 | 379 | U・F | 5 | 13 | 2.82 | 2.21 | 0.73 | 3.35 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 70 | 419 | U・F | 2 | 7 | 2.76 | 2.95 | 0.81 | 6.05 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 71 | 236 | U・F | 6 | 13 | 2.30 | 2.36 | 0.57 | 2.75 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 72 | 161 | U・F | 6 | 20 | 2.50 | 2.86 | 0.62 | 3.45 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 73 | 29 | U・F | 5 | 25 | 2.11 | 1.58 | 0.69 | 1.40 | Ob | 推定不可 | 末端古欠 |
| 74 | 269 | U・F | 3 | 8 | 2.67 | 1.13 | 0.66 | 1.25 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 75 | 116 | U・F | 6 | 24 | 1.18 | 1.50 | 0.21 | 0.30 | Ob | WDTY | 末端古欠 |
| 76 | 589 | U・F | 3 | 21 | 1.58 | 1.90 | 0.41 | 0.85 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 77 | 199 | U・F | 3 | 6 | 1.92 | 2.70 | 1.01 | 4.55 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 78 | 368 | U・F | 6 | 34 | 4.21 | 3.03 | 1.51 | 7.20 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 79 | 245 | U・F | 6 | 19 | 1.63 | 1.70 | 0.51 | 1.25 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 80 | 43 | U・F | 3 | 21 | 2.94 | 3.12 | 1.01 | 6.20 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 81 | 695 | U・F | 3 | 11 | 2.45 | 2.94 | 0.87 | 5.20 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 82 | 517 | U・F | 3 | 13 | 1.58 | 1.62 | 0.53 | 0.80 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 83 | 34 | 石刃 | 6 | 41 | 7.58 | 3.90 | 2.23 | 46.00 | Ob | HNHJ | 末端新欠 |
| 84 | 678 | 石刃 | 3 | 20 | 4.98 | 3.06 | 2.38 | 28.35 | Ob | HNHJ | |
| 85 | 98 | 石刃 | 5 | 15 | 4.80 | 3.34 | 1.41 | 14.20 | Ob | HNHJ | |
| 86 | 7 | 石刃 | 3 | 23 | 4.76 | 2.82 | 0.97 | 9.55 | Ob | HNHJ | |
| 87 | 623 | 石刃 | 5 | 18 | 4.63 | 2.24 | 1.32 | 9.10 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 88 | 188 | 石刃 | 3 | 20 | 4.67 | 3.12 | 1.21 | 13.75 | Ob | HNHJ | |
| 89a | 764 | 折石刃 | 3 | 6 | 4.30 | 1.51 | 0.80 | 2.65 | Ob | HNHJ | 末端新欠 |
| 89b | 606 | | | | | | | | | HNHJ | |
| 90 | 370 | 石刃 | 6 | 13 | 3.92 | 2.41 | 1.21 | 3.70 | Ob | HNHJ | |
| 91 | 239 | 石刃 | 6 | 19 | 3.51 | 2.42 | 0.78 | 5.55 | Ob | HNHJ | |
| 92 | 149 | 石刃 | 6 | 32 | 2.81 | 1.70 | 0.61 | 2.54 | An | | |
| 93 | 763 | 石刃 | 5 | 29 | 3.32 | 1.88 | 0.91 | 2.95 | Ob | HNHJ | |
| 94 | 52 | 折石刃 | 3 | 6 | 3.36 | 2.50 | 0.75 | 3.00 | Ob | HNHJ | |
| 95 | 388 | 折石刃 | 5 | 16 | 5.06 | 2.24 | 0.98 | 7.50 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 96 | 130 | 折石刃 | 6 | 32 | 5.06 | 4.50 | 0.73 | 11.85 | An | | 末端古欠 |
| 97 | 45 | 折石刃 | 3 | 8 | 1.88 | 1.36 | 0.35 | 0.55 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 98 | 28 | 折石刃 | 5 | 16 | 3.32 | 2.56 | 0.70 | 4.95 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 99 | 32 | 折石刃 | 5 | 13 | 2.43 | 1.58 | 0.67 | 1.55 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 100 | 723 | 折石刃 | 3 | 8 | 2.42 | 1.42 | 0.53 | 1.35 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 101 | 60 | 折石刃 | 5 | 13 | 2.28 | 1.58 | 0.55 | 1.80 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 102 | 44 | 折石刃 | 3 | 21 | 2.10 | 1.75 | 0.55 | 1.15 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 103 | 209 | 折石刃 | 3 | 8 | 2.21 | 1.91 | 0.60 | 1.60 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 104 | 315 | 稜付折石刃 | 6 | 24 | 2.06 | 0.90 | 0.59 | 0.80 | Ob | WDTY | 末端古欠 |
| 105 | 398 | 折石刃 | 5 | 15 | 1.84 | 1.83 | 0.43 | 0.57 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 106 | 349 | 折石刃 | 5 | 7 | 1.48 | 1.32 | 0.41 | 0.60 | Ob | HNHJ | 末端古欠 |
| 107 | 106 | 折石刃 | 6 | 13 | 1.72 | 1.26 | 0.42 | 0.75 | Ob | HNHJ | 両端古欠 |
| 108 | 392 | 折石刃 | 5 | 15 | 3.77 | 2.52 | 1.51 | 7.65 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 109 | 23 | 折石刃 | 5 | 24 | 2.64 | 1.86 | 0.36 | 0.70 | Ob | WDTY | 打面部古欠 |
| 110 | 374 | 折石刃 | 6 | 13 | 2.44 | 2.28 | 0.71 | 3.00 | Ob | HNHJ | 打面部古欠 |
| 111 | 108 | 折石刃 | 6 | 24 | 1.53 | 1.22 | 0.29 | 0.35 | Ob | WDTY | 打面部古欠 |
| 112 | 164 | 折石刃 | 5 | 24 | 2.05 | 1.18 | 0.24 | 0.40 | Ob | WDTY | 打面部古欠 |
| 113 | 189 | 折石刃 | 3 | 8 | 1.54 | 1.23 | 0.30 | 0.40 | Ob | HNHJ | 両端古欠 |
| 114 | 65 | 石核 | 6 | 16 | 3.71 | 3.45 | 2.48 | 21.35 | Ob | HNHJ | |
| 115 | 192 | 石核 | 3 | 5 | 2.92 | 3.70 | 2.95 | 26.30 | Ob | HNHJ | |
| 116 | | 接後状態 | | 8 | 2.44 | 1.69 | 7.50 | | Ob | | |
| 117 | | 接後状態 | | 19 | | | | | Ob | | |
| 118 | 220 | 折F | 6 | 19 | 1.90 | 2.32 | 0.82 | 2.35 | Ob | HNHJ | |
| 119 | | 接後状態 | | 17 | 3.11 | 1.36 | 1.79 | | Ob | | |
| 120 | 261 | 折F | 3 | 17 | 1.23 | 2.96 | 0.63 | 1.20 | Ob | HNHJ | |
| 121 | | 接合状態 | | 16 | 3.67 | 3.25 | 3.10 | | Ob | | |
| 122 | 366 | F | 6 | 16 | 2.98 | 3.08 | 1.52 | 8.75 | Ob | HNHJ | |

## 第３表　第28次調査（笹原山中バイパス第11地点）礫群計測表

第１号礫群

| 整理No. | X座標 | Y座標 | Z座標 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 遺存 | 赤化 | 煤 | 接合 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1379 | −93379.339 | 44779.030 | 554.902 | 8.60 | 2.10 | 8.10 | 210.00 | An | D | ● | | | |
| 1380 | −93376.076 | 44776.863 | 554.556 | 9.55 | 5.65 | 7.30 | 425.00 | An | A | | | | |
| 1381 | −93379.917 | 44776.106 | 554.879 | 6.90 | 5.20 | 6.10 | 205.00 | An | A | | | | |

第２号礫群

| 整理No. | X座標 | Y座標 | Z座標 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 遺存 | 赤化 | 煤 | 接合 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1386 | −93380.445 | 44770.131 | 554.546 | 17.50 | 12.70 | 12.90 | 3250.00 | An | A | ● | | | |
| 1387 | −93379.189 | 44770.079 | 554.423 | 8.40 | 4.60 | 5.20 | 230.00 | An | A | | | | |
| 1388 | −93378.972 | 44770.230 | 554.467 | 16.20 | 11.85 | 14.40 | 3500.00 | An | A | | | | |
| 1389 | −93378.884 | 44769.349 | 554.373 | 4.20 | 2.20 | 4.10 | 20.00 | An | A | ● | ● | | |
| 1390 | −93378.415 | 44768.421 | 554.386 | 5.30 | 1.70 | 3.05 | 30.00 | An | A | | | | |
| 1391 | −93377.021 | 44769.215 | 554.171 | 4.85 | 2.10 | 3.50 | 35.00 | An | A | ● | | | |
| 1681 | −93379.496 | 44767.641 | 554.187 | 6.15 | 4.25 | 4.15 | 140.00 | An | A | ● | | | |
| 1682 | −93378.941 | 44769.598 | 554.355 | 5.35 | 4.70 | 5.05 | 205.00 | An | A | ● | | | |
| 1683 | −93379.061 | 44769.759 | 554.383 | 6.10 | 4.10 | 5.90 | 155.00 | An | B | ● | ● | | |
| 1684 | −93379.411 | 44770.151 | 554.415 | 7.05 | 3.30 | 5.35 | 165.00 | An | C | ● | | | |
| 1686 | −93377.227 | 44769.240 | 554.158 | 5.40 | 3.60 | 4.85 | 80.00 | An | E | ● | | | |
| 1687 | −93377.394 | 44769.398 | 554.180 | 5.60 | 3.90 | 5.25 | 125.00 | An | C | ● | | | |
| 1688 | −93377.707 | 44770.137 | 554.272 | 7.65 | 4.00 | 7.35 | 340.00 | An | E | ● | | | |
| 1689 | −93377.423 | 44769.416 | 554.170 | 6.10 | 3.50 | 3.70 | 50.00 | An | F | ● | | | |
| 1690 | −93377.632 | 44770.403 | 554.259 | 8.90 | 3.95 | 5.70 | 225.00 | An | E | ● | | | |
| 1691 | −93378.028 | 44770.542 | 554.333 | 9.50 | 5.55 | 6.90 | 310.00 | An | A | ● | | | |
| 1971 | −93379.028 | 44769.773 | 554.295 | 7.00 | 3.50 | 4.20 | 160.00 | An | A | ● | | | |
| 1972 | −93377.180 | 44769.216 | 554.077 | 5.60 | 3.55 | 4.15 | 70.00 | An | E | ● | | | |
| 2016 | −93376.707 | 44771.731 | 553.691 | 4.90 | 2.80 | 3.40 | 25.00 | An | A | | | | |

第３号礫群

| 整理No. | X座標 | Y座標 | Z座標 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 遺存 | 赤化 | 煤 | 接合 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 370 | −93385.456 | 44763.638 | 555.113 | 4.60 | 2.60 | 4.20 | 45.00 | An | E | ● | | | |
| 391 | −93384.353 | 44762.699 | 554.756 | 14.10 | 2.60 | 11.90 | 635.00 | Ho | C | ● | | | |
| 490 | −93384.922 | 44763.827 | 554.886 | 3.70 | 0.80 | 2.60 | 8.00 | Ho | F | ● | | | |
| 498 | −93383.729 | 44764.265 | 554.725 | 18.40 | 4.25 | 9.80 | 745.00 | An | C | ● | | | |

第４号礫群

| 整理No. | X座標 | Y座標 | Z座標 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 遺存 | 赤化 | 煤 | 接合 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1384 | −93381.111 | 44771.861 | 554.704 | 7.15 | 4.15 | 6.45 | 270.00 | Ho | A | | | | |
| 1385 | −93381.206 | 44771.705 | 554.694 | 5.90 | 3.65 | 6.50 | 135.00 | An | A | ● | | | |

第５号礫群

| 整理No. | X座標 | Y座標 | Z座標 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 遺存 | 赤化 | 煤 | 接合 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1382 | −93383.080 | 44776.140 | 555.185 | 10.55 | 6.10 | 5.20 | 540.00 | An | A | | | | |
| 1383 | −93384.046 | 44775.698 | 555.336 | 8.60 | 3.95 | 6.50 | 265.00 | An | A | | | | |

第６号礫群

| 整理No. | X座標 | Y座標 | Z座標 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 遺存 | 赤化 | 煤 | 接合 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 95 | −93402.968 | 44764.504 | 554.411 | 4.90 | 0.95 | 3.60 | 15.00 | An | F | | | | |
| 96 | −93402.595 | 44764.450 | 554.657 | 3.75 | 1.00 | 3.80 | 15.00 | An | F | | | | |

## ●縄文時代出土遺物一覧表

## 第４表　第28次調査（笹原山中バイパス第11地点）縄文時代土器観察表

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | 部　位 | 文　様 | 型式 | 胎　土 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 121 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による蕨手状渦巻き文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 外面煤付着 |
| 1 | 412 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による蕨手状渦巻き文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 121と同一個体、外面煤付着 |
| 1 | 418 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による蕨手状渦巻き文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 121と同一個体、外面煤付着 |
| 1 | 419 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による蕨手状渦巻き文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 121と同一個体、外面煤付着 |
| 1 | 497 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による蕨手状渦巻き文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 121と同一個体、外面煤付着 |
| 1 | 508 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による蕨手状渦巻き文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 121と同一個体、外面煤付着 |
| 2 | 127 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による弧線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 内外面煤付着 |
| 2 | 129 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による弧線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 127と同一個体 |
| 2 | 421 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による弧線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 127と同一個体 |
| 2 | 422 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線による弧線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 127と同一個体 |
| 3 | 72 | 深鉢 | 口縁部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | |
| 3 | 112 | 深鉢 | 口縁部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 3 | 191 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 4 | 13 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| 5 | 41？ | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | |
| 6 | 148 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 黄褐色 | |
| 7 | 464 | 深鉢 | 口縁部付近 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 黒褐色 | |
| 8 | 143 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 8 | 186 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 8 | 189 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 8 | 190 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 8 | 441 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 9 | 157 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| 10 | 113 | 深鉢 | 胴部 | 沈線による矢羽根状文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 褐色 | 補修孔あり |
| 11 | 100 | 深鉢 | 胴部 | 沈線による鋸歯状文、地文縄文Ｌ R | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | ３と同一個体 |
| 11 | 171 | 深鉢 | 胴部 | 沈線による鋸歯状文、地文縄文Ｌ R | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | ３と同一個体 |
| 11 | 183 | 深鉢 | 胴部 | 沈線による鋸歯状文、地文縄文Ｌ R | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | ３と同一個体 |
| 12 | 144 | 深鉢 | 胴部 | 沈線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| 12 | 147 | 深鉢 | 胴部 | 沈線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| 13 | 120 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | 119と同一個体 |
| 14 | 119 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | |
| 15 | 136 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | 119と同一個体 |
| 16 | 410 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 灰褐色 | |
| 17 | 31 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 明褐色 | |
| 18 | 40 | 深鉢 | 胴部 | 沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | |
| 19 | 219 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| 20 | 137 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | |
| 21 | 110 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 雲母含む | 黄褐色 | |
| 21 | 133 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 雲母含む | 黄褐色 | 110と同一個体 |
| 21 | 453 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 雲母含む | 黄褐色 | 110と同一個体 |
| 22 | 181 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | 30と同一個体 |
| 23 | 146 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文ＲＬ | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| 23 | 182 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文ＲＬ | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | 146と同一個体 |
| 24 | 84 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 97 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 98 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 114 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 185 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 188 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 495 | 深鉢 | 口縁部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 509 | 深鉢 | 口縁部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 24 | 512 | 深鉢 | 口縁部付近 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 25 | 168 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 25 | 169 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 25 | 173 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 26 | 115 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 26 | 117 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 26 | 451 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 27 | 57 | 深鉢 | 底部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 27 | 452 | 深鉢 | 底部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| 28 | 111 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | 99と同一個体 |
| 29 | 423 | 深鉢 | 胴部 | 縄文（摩耗） | 諸磯 | 砂粒、雲母含む | 明褐色 | |
| 30 | 150 | | 口縁部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒、角閃石含む | オリーブ褐色 | 151と同一個体 |
| 30 | 156 | | 口縁部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒、角閃石含む | オリーブ褐色 | 151と同一個体 |

# 付　表

| 挿図No | 整理No | 器種 | 部　位 | 文　様 | 型式 | 胎　土 | 色　調 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 155 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| 31 | 159 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| 31 | 160 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| 31 | 388 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| 32 | 135 | 深鉢 | 底部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒含む | 黄褐色 | |
| | 3 | | 胴部 | 沈線による鋸歯状文、地文縄文ＬＲ | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | |
| | 11 | | 胴部 | 沈線による鋸歯状文、地文縄文ＬＲ | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | ３と同一個体 |
| | 12 | | 胴部 | 沈線による鋸歯状文、地文縄文ＬＲ | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | ３と同一個体 |
| | 13 | | 胴部 | 横位沈線、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 褐色 | |
| | 14 | | 胴部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 褐色 | |
| | 30 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| | 32 | 深鉢 | 胴部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒、雲母含む | 明褐色 | |
| | 49 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | |
| | 62 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 65 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 67 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 81 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 82 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 83 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 83 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 86 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 88 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 90 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 99 | | 胴部 | 浮線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | |
| | 108 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 109 | | 胴部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | |
| | 116 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 118 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 雲母含む | 黄褐色 | 110と同一個体 |
| | 122 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | 119と同一個体 |
| | 123 | 深鉢 | 頸部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | |
| | 124 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | 119と同一個体 |
| | 125 | | 口縁部 | 横位沈線、口唇部にキザミ | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黒褐色 | |
| | 126 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 128 | | 胴部 | 横位沈線、刺突？ | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 褐色 | |
| | 130 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 131 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 132 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 134 | | 胴部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| | 137 | | 胴部 | 無文 | | 砂粒・雲母含む | 明褐色 | |
| | 138 | | 胴部 | 横位沈線 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| | 139 | | 胴部 | 無文 | | 砂粒含む | 黄褐色 | |
| | 140 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| | 141 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| | 142 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | 30と同一個体 |
| | 149 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | 30と同一個体 |
| | 151 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | |
| | 152 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | 30と同一個体 |
| | 153 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| | 154 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| | 158 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| | 161 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| | 162 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| | 163 | | 胴部 | 浮線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | 99と同一個体 |
| | 164 | | 胴部 | 浮線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | 99と同一個体 |
| | 165 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 166 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 167 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 170 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 172 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 174 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 175 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯 | 雲母含む | 褐色 | |
| | 176 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯 | 雲母含む | 褐色 | 175と同一個体 |
| | 177 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 178 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| | 179 | | 胴部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | 30と同一個体 |
| | 180 | 深鉢 | 胴部 | 矢羽根状沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 72と同一個体 |
| | 184 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 187 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 192 | | 胴部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | |
| | 220 | 深鉢 | 胴部 | 縄文？（摩耗） | 諸磯 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | |
| | 387 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| | 389 | | 胴部 | 無文赤彩 | 諸磯 | 砂粒含む | 褐色 | 151と同一個体 |
| | 390 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 409 | | 胴部 | 浮線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | 99と同一個体 |
| | 411 | | 胴部 | 無文 | | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | |
| | 413 | | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | にぶい黄褐色 | |
| | 414 | | 胴部 | | | 砂粒・雲母含む | 黄褐色 | 小片のため詳細不明瞭 |
| | 415 | | 胴部 | 沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 褐色 | |
| | 416 | | 胴部 | 浮線文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 暗褐色 | 99と同一個体 |
| | 417 | 深鉢 | 頸部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | 123と同一個体 |
| | 420 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 褐色 | |
| | 425 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 426 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 459 | | 胴部 | 無文 | | 砂粒含む | 黄褐色 | |
| | 462 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 463 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯 | 雲母含む | 褐色 | 175と同一個体 |
| | 469 | 深鉢 | 胴部 | 浮線文による蕨手状渦巻文、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒、雲母含む | 暗褐色 | 49と同一個体 |
| | 502 | | 胴部 | 横位沈線、地文縄文LR | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 褐色 | |
| | 503 | | 胴部 | | | 砂粒・雲母含む | 褐色 | 小片のため詳細不明瞭 |
| | 511 | | 口縁部 | 横位沈線 | 諸磯ｂ式 | 砂粒・雲母含む | 褐色 | |
| | 50？ | | 口縁部付近 | 沈線文による弧状文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | |

## 第５表　第30次調査（笹原山中バイパス第12地点）縄文時代土器観察表

| 挿図No. | 整理No. | 器 種 | 部 位 | 文 様 | 型 式 | 胎 土 | 色 調 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1・2 | 2 | 深鉢 | 口縁部付近～胴部 | 沈線による幾何学状文、円形刺突、地文条線、内面条線 | 綱ヶ島台 | 白色針状物質、繊維含む | 黄褐色～褐色 | 破片２点 |
| 3 | 149 | 深鉢 | 口縁部 | 横位沈線文 | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 黄褐色 | |
| 4 | 335 | 深鉢 | 口縁部 | 上面に刻みをもつ浮線文、円形貼付文、地文縄文（RL？） | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | |
| 5 | 329 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| 5 | 548 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| 6 | 199 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| 6 | 202 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| 6 | 209 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| 6 | 276 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| 7 | 126 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 132 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 133 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 134 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 282 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 283 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 406 | 深鉢 | 口縁部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 410 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 411 | 深鉢 | 口縁部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 412 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 413 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 425 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 426 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 433 | 深鉢 | 口縁部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 434 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 466 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 584 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 585 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 586 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 588 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 590 | 深鉢 | 口縁部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| 7 | 614 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 49 | 深鉢 | 口縁部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 53 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 189 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| | 203 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| | 274 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| | 275 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| | 335 | | 胴部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-2 |
| | 341 | | 胴部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-2 |
| | 344 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| | 409 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 430 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 431 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 432 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 547 | | 胴部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-2 |
| | 551 | 深鉢 | 胴部 | 縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-3 |
| | 583 | | 胴部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-2 |
| | 587 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 589 | 深鉢 | 胴部 | 円形貼付文、横位沈線文、地文縄文L | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-1 |
| | 615 | | 胴部 | 無文 | 諸磯 | 砂粒含む | 明褐色 | 個体12-2 |

## 第６表　第19次調査（笹原山中バイパス第13地点）縄文時代土器観察表

| 挿図No. | 整理No. | 器 種 | 部 位 | 文 様 | 型 式 | 胎 土 | 色 調 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 38 | 深鉢 | 胴部 | 楕円押型文 | 押型文 | 砂粒・繊維質含む | 褐色 | |
| 2・3 | 199 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | 3と同一個体、194か？ |
| 4 | 一括 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | 3と同一個体,排土一括 |
| 5 | 77 | 深鉢 | 胴部 | 横位・格子目状沈線文 | 五領ヶ台式 | 砂粒・雲母含む | 明褐色 | |
| | 3 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | |
| | 4 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | 3と同一個体 |
| | 5 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | 3と同一個体 |
| | 6 | 深鉢 | 胴部 | 横位沈線文、地文縄文RL | 諸磯ｂ式 | 砂粒含む | 褐色 | 3と同一個体 |

## 第７表　第28次調査（笹原山中バイパス第11地点）縄文時代石器計測表

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 産地 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 217 | 石鏃 | 2.73 | 0.46 | 1.92 | 1.50 | Ob | AGKT | |
| 2 | 199 | 石鏃 | 2.20 | 0.41 | 1.55 | 0.90 | Ob | AGKT | |
| 3 | 440 | 石鏃 | 1.63 | 1.36 | 0.36 | 0.60 | Ob | KZOB | |
| 4 | 107 | 石鏃 | 1.98 | 0.47 | 1.64 | 1.11 | Ob | SWHD | |
| 5 | 7 | 石鏃 | 1.79 | 0.41 | 1.07 | 0.60 | Ob | AGKT | |
| 6 | 394 | 石鏃 | 1.57 | 0.43 | 1.80 | 1.00 | Ob | SWHD | |
| 7 | 427 | 石鏃 | 1.69 | 0.38 | 1.71 | 0.90 | Ob | AGKT | |
| 8 | 52 | 石匙 | 3.96 | 1.52 | 5.21 | 22.00 | An | | |
| 9 | 212 | 石匙 | 3.66 | 1.18 | 4.00 | 16.40 | An | | |
| 10 | 221 | 石匙 | 4.16 | 0.92 | 6.34 | 18.00 | Tu | | |
| 11 | 203 | 石匙 | 4.33 | 0.76 | 7.06 | 16.40 | Ho | | |
| 12 | 196 | スクレイパー | 7.33 | 1.20 | 2.82 | 20.80 | An | | |
| 13 | 197 | スクレイパー | 5.86 | 1.81 | 3.27 | 34.60 | Tu | | |
| 14 | 64 | R・F | 1.64 | 0.89 | 1.60 | 2.10 | Ob | AGKT | |

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 産地 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 516 | R・F | 2.77 | 0.78 | 2.04 | 5.00 | Ob | AGKT | |
| 16 | 10 | 石核 | 3.72 | 2.34 | 3.05 | 30.60 | Ob | AGKT | |
| 17 | 50 | 石核 | 4.29 | 1.61 | 3.74 | 25.20 | Ob | HNHJ | |
| 18 | 38 | 石核 | 3.18 | 1.47 | 2.61 | 10.40 | Ob | AGKT | |
| 19 | 194 | 石核 | 4.03 | 1.25 | 4.90 | 21.60 | An | | |
| 20 | 47 | 原石 | 4.03 | 1.61 | 2.82 | 28.60 | Ob | SWHD | |
| 21 | 454 | 原石 | 3.48 | 1.81 | 3.34 | 15.90 | Ob | SWHD | |
| 22 | 87 | 原石 | 3.43 | 1.64 | 2.50 | 10.30 | Ob | SWHD | |
| 23 | 382 | 磨石 | 7.50 | 4.90 | 7.65 | 353.00 | An | | |
| 24 | 326 | 磨石 | 8.00 | 5.50 | 9.40 | 587.00 | An | | |
| 25 | 351 | 磨石 | 1.22 | 5.20 | 8.10 | 549.00 | An | | |
| 26 | 472 | 磨石 | 4.80 | 5.50 | 6.70 | 205.00 | An | | |
| 27 | 487 | 石皿 | 35.30 | 9.80 | 2.98 | 12800.00 | An | | |

## 第８表　第30次調査（笹原山中バイパス第12地点）縄文時代石器計測表

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 32 | U・F | 2.80 | 1.23 | 3.65 | 13.00 | An | |
| 2 | 184 | 磨石 | 10.20 | 4.30 | 8.80 | 440.00 | An | |

## 第９表　第19次調査（笹原山中バイパス第13地点）縄文時代石器計測表

| 挿図No. | 整理No. | 器種 | 最大長 | 最大厚 | 最大幅 | 重量 | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 748 | 石鏃 | 3.07 | 2.22 | 0.42 | 2.47 | An | |

## ●江戸時代以降出土遺物一覧表

### 第10表　第30次調査（笹原山中バイパス第12地点）江戸時代以降遺物観察表

銭　貨　　法量単位＝cm

| 挿図No. | 銭　名 | 種　別 | 直径 | 孔径 | 厚さ | 重さ | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 開元通宝 | | 2.3 | 0.7 | 0.1 | 2.1 | 中国銭、初鋳年代621年 |

### 第11表　第19次調査（笹原山中バイパス第13地点）江戸時代以降遺物観察表

磁　器　　法量単位＝cm、（ ）＝推定値

| 挿図No. | 種　別 | 器　種 | 口　径 | 器　高 | 高台径 | 高台高 | 底　径 | 産　地 | 時　期 | 文　様 | 見込み | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 磁器 | 丸碗 | － | 現3.6 | － | － | － | 肥前 | 1640～1650年代 | 網手文 | － | 初期伊万里碗 |
| 2 | 磁器 | 丸碗 | － | 現2.6 | (4.8) | 1.1 | － | 肥前 | 1640～1650年代 | － | － | 初期伊万里碗、高台脇－一重圏線 |
| 3 | 磁器 | 丸碗 | － | 現3.8 | (4.2) | 0.7 | － | 肥前 | 1690～1730年代 | 草花文 | 二重圏線 | |
| 4 | 磁器 | 腰張碗・ハの字高台碗 | － | 現2.7 | － | － | － | 肥前 | 1740～1810年代 | 氷裂文・菊文 | － | 内面口縁部－四方襷文 |
| 5 | 磁器 | 腰張碗 | － | 現2.2 | (4.2) | 0.3以上 | － | 肥前 | 1740～1810年代 | 市松文 | － | 高台脇－二重圏線、高台内－一重圏線 |

陶　器

| 挿図No. | 種　別 | 器　種 | 口　径 | 器　高 | 高台径 | 高台高 | 底　径 | 産　地 | 時　期 | 胎　土 | 釉 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 陶器 | 皿 | (12.4) | 2.5 | 8.6 | 0.2 | | 瀬戸・美濃 | 1600～1670年代 | 浅黄色 | 褐色（鉄釉） | 志野織部皿、口唇部と見込みに鉄釉による一重圏線と網手文か |

銭　貨

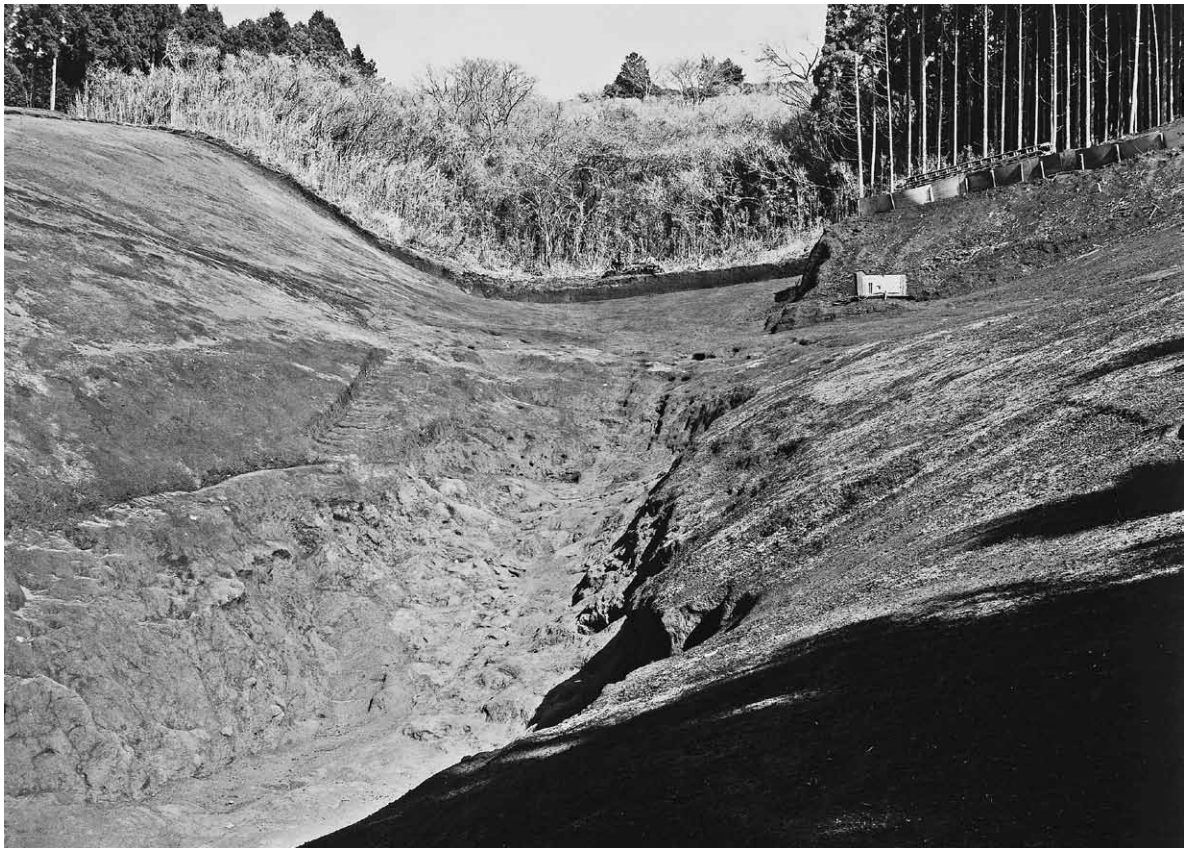
| 挿図No. | 銭　名 | 種　別 | 直径 | 孔径 | 厚さ | 重さ | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 洪武通寶 | 背浙？ | 2.4 | 0.7 | 0.2 | 2.9 | 中国銭、初鋳年代－明代1368年 |

# 写 真 図 版

1．第22次調査遠景

2．第22次調査全景

1．第22次調査調査前全景



2．第22次調査完掘全景

1．第22次調査調査区入り口部
東側全景

2．第22次調査中央部３トレンチ
（東から）

3．第22次調査西側１トレンチ

1．第22次調査調査区全景
（東から）

2．第22次調査中央部から

3．第22次調査作業風景

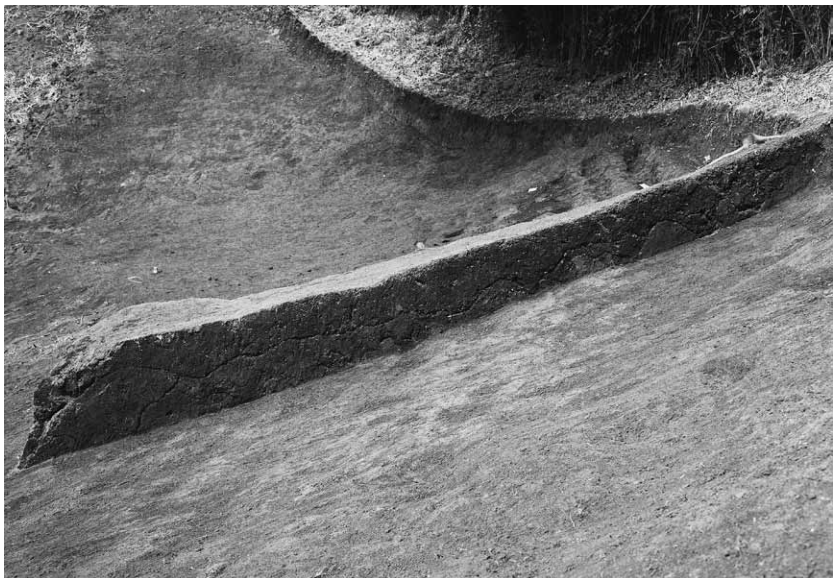
1．第25次調査遠景

2．第25次調査調査状況（北から）

1．第25次調査調査区全景（南から）

2．第25次調査調査区全景（北から）

１．第25次調査試掘
４・５トレンチ



２．第25次調査土層断面（南から）

３．1第25次調査No.３グリッド
北壁土層断面

1．第26次調査遠景

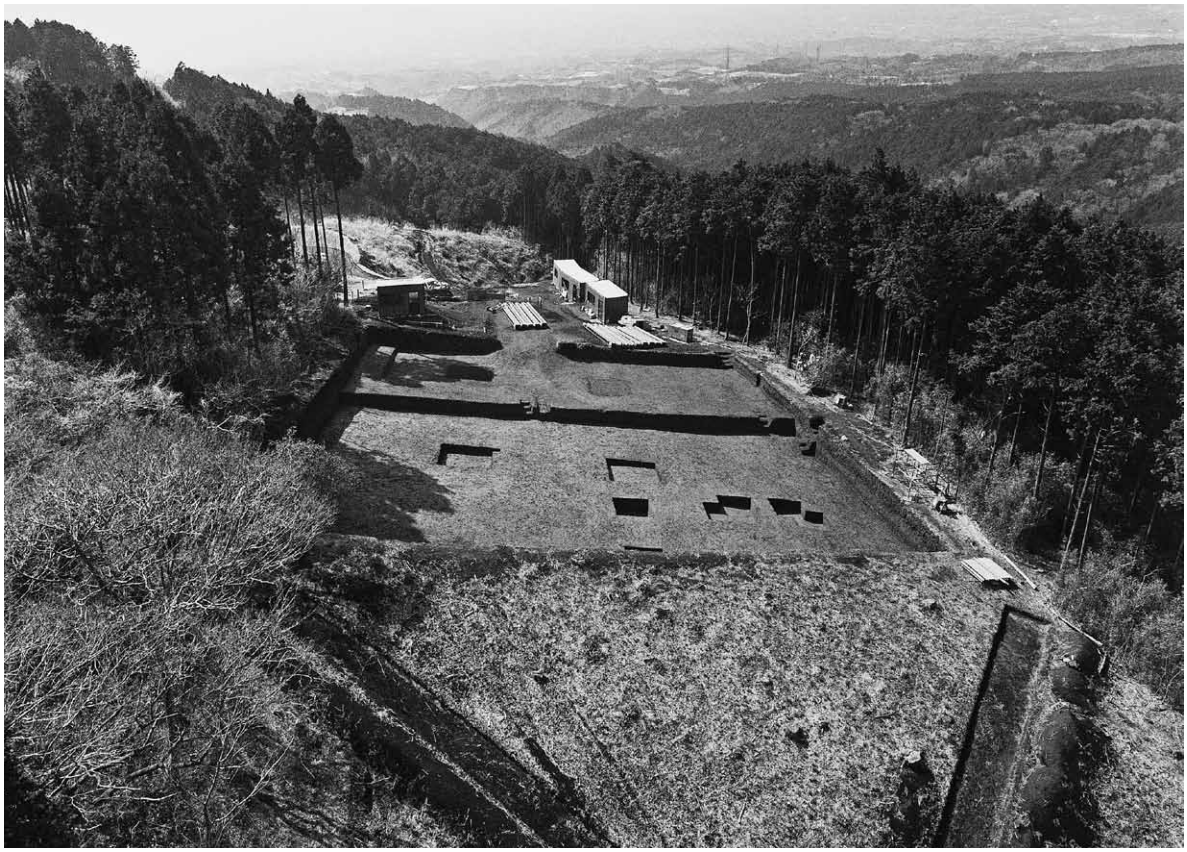
2．第26次調査調査前全景（西から）

１．第26次調査中央トレンチ全景（西から）

２．第26次調査１－Ｎトレンチ全景（南から）

３．第26次調査トレンチ西側全景（北から）

1．第27・28次調査遠景



2．第28次調査本格調査区全景

1．第28次調査本格調査区全景

2．第28次調査本格調査区完掘全景（西から）

1．第27次調査１・２トレンチ
（西から）

2．第27次調査３トレンチ
遺物出土状態（東から）

3．第27次調査No.２グリッド
遺物出土状態（南から）

1．第27次調査Ｎ－１グリッド
東壁土層断面

2．第28次調査本格調査区
南壁土層断面

3．第28次調査本格調査区
東壁土層断面

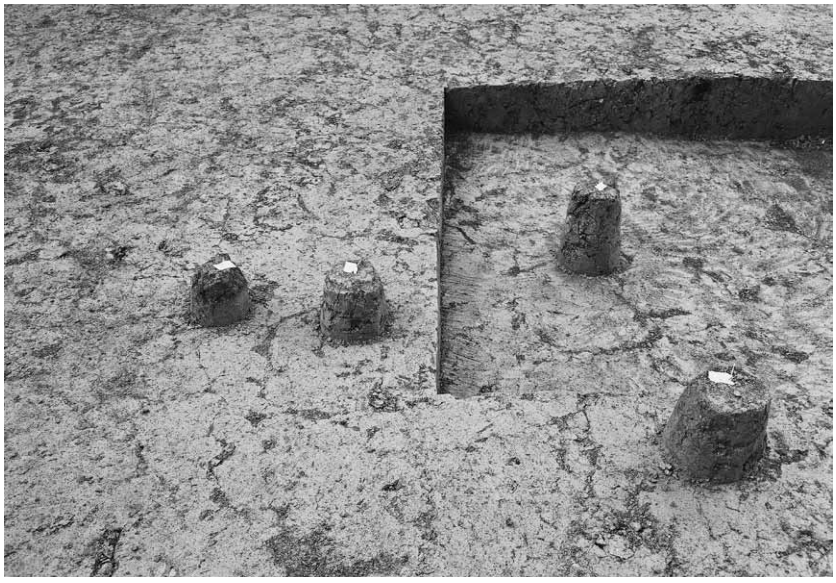
1．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（1）（北から）

2．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（2）（北から）

3．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（3）（北から）

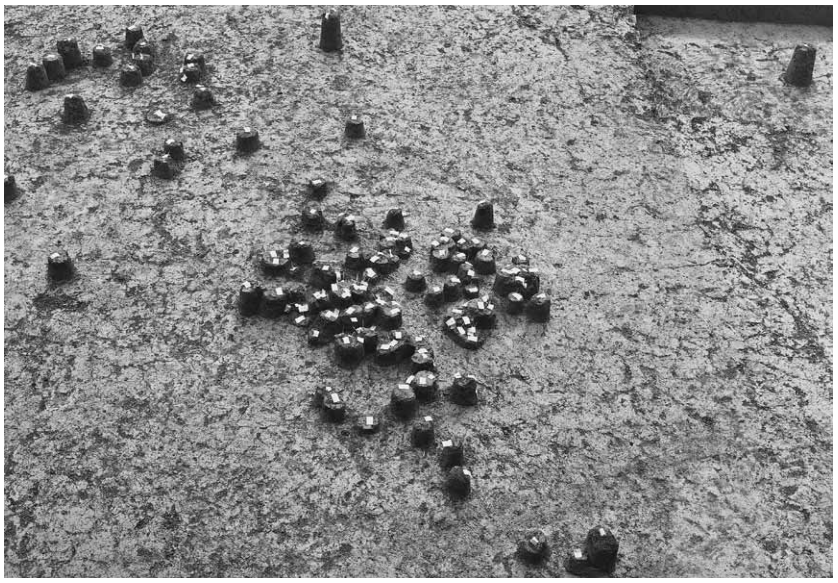
1．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（4）（北から）

2．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（5）（北から）

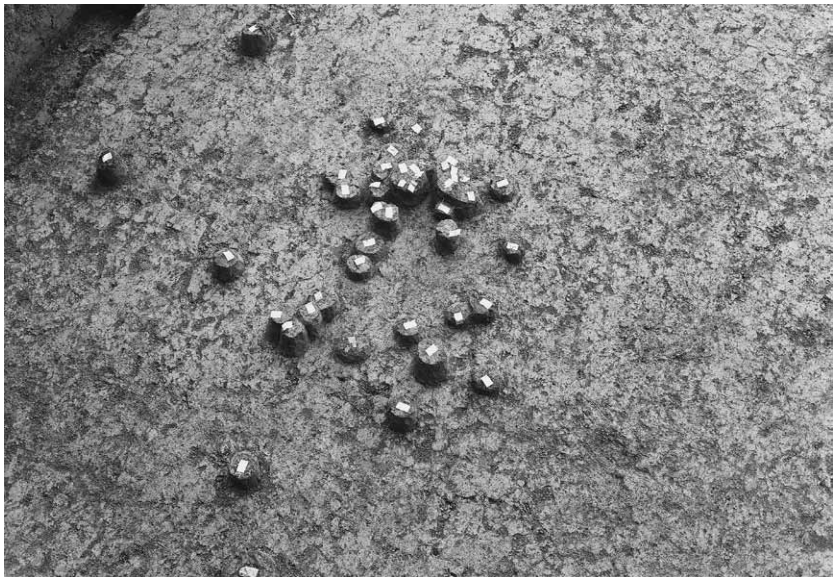


3．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（6）（北から）

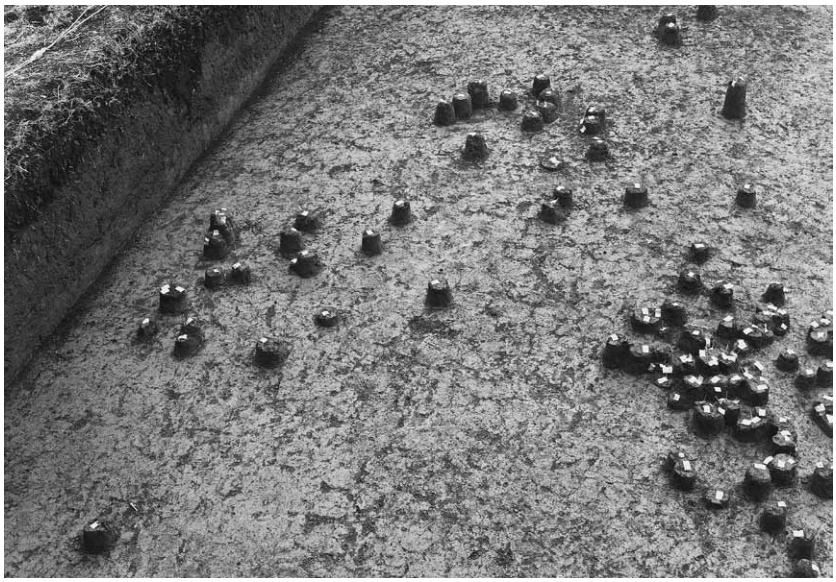
1．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（7）（北から）



2．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（8）（北から）

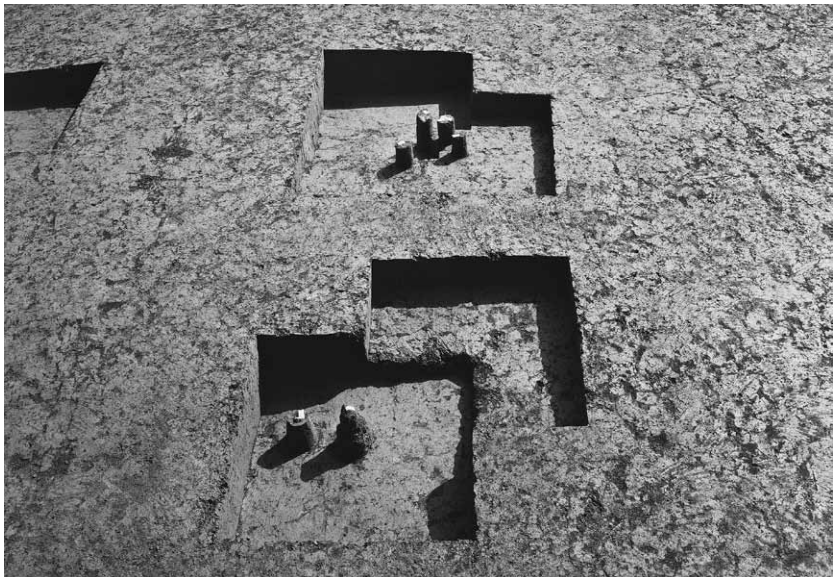


3．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（9）（北から）



1．第28次調査旧石器時代
遺物出土状態（10）（北から）

2．第28次調査旧石器時代
礫群出土状態（１）（北から）



3．第28次調査旧石器時代
礫群出土状態（２）（北から）

1．第29～31次調査遠景

2．第30次調査本格調査区遺物出土状態（西から）

1．第29次調査２トレンチ
（南から）

2．第29次調査３トレンチ
遺物出土状態（西から）

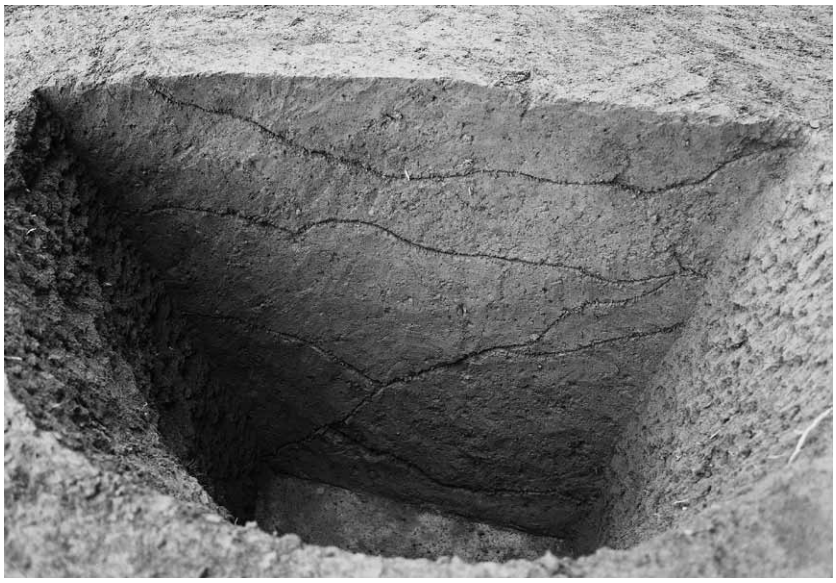
3．第30次調査本格調査区
東壁土層断面

1．第30次調査遺物出土状態（１）
（南から）

2．第30次調査遺物出土状態（２）
（西から）

3．第30次調査第１号集石
（北から）

1．第30次調査第１号土坑
（西から）



2．第30次調査第１号土坑
土層断面（西から）

3．第30次調査本格調査区
完掘全景（西から）

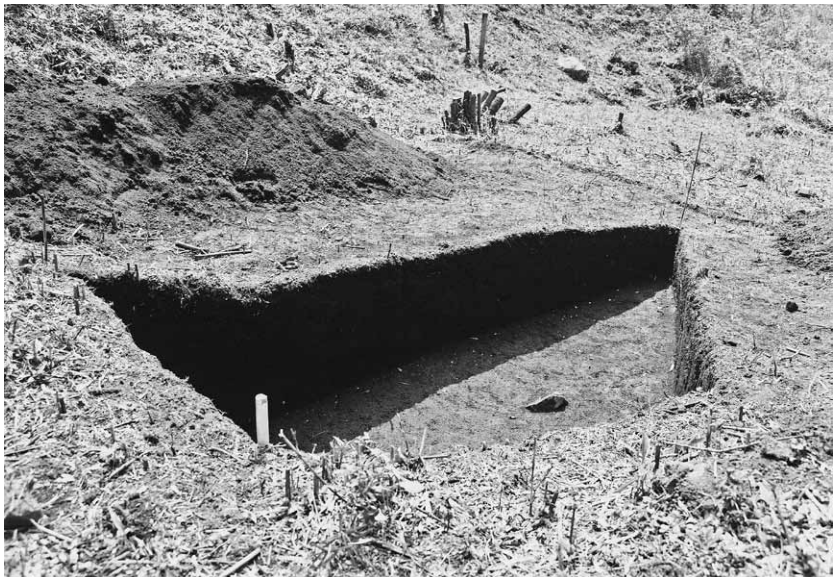
1．第31次調査全景（西から）

2．第31次調査１トレンチ
（東から）

3．第31次調査２トレンチ
（東から）

1．第34次調査トレンチ全景
（南東から）

2．第34次調査トレンチ
北壁土層断面（南から）



3．第36次調査トレンチ全景
（南東から）

1．第19次調査調査前全景（東から）

2．第19次調査完掘全景

1．第19次調査試掘トレンチ全景（西から）

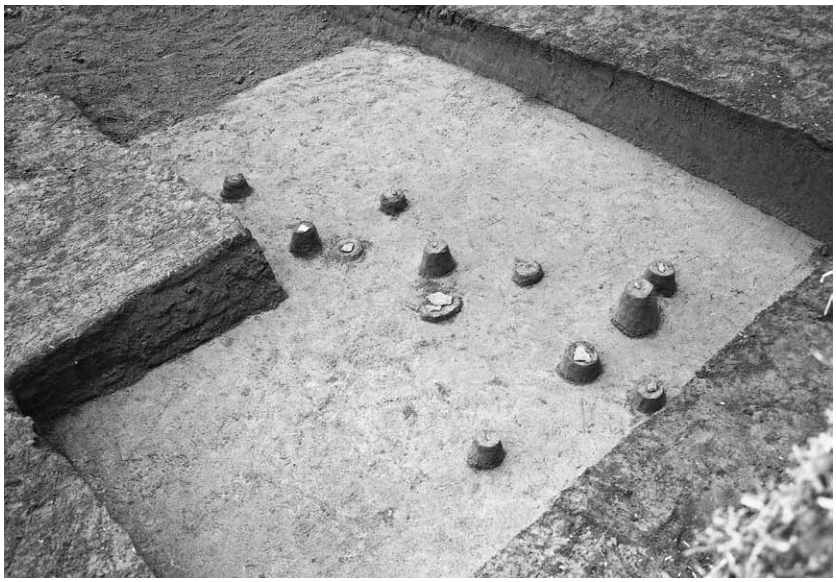
2．第19次調査試掘トレンチ（１）（南から）

3．第19次調査試掘トレンチ（２）（西から）

1．第19次調査北壁土層断面

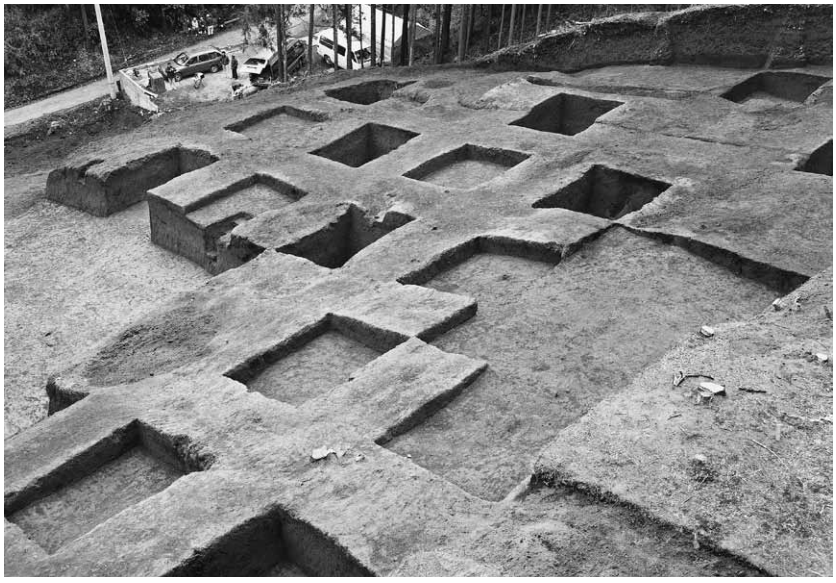
2．第19次調査旧石器時代
遺物出土状態（1）

3．第19次調査旧石器時代
遺物出土状態（2）

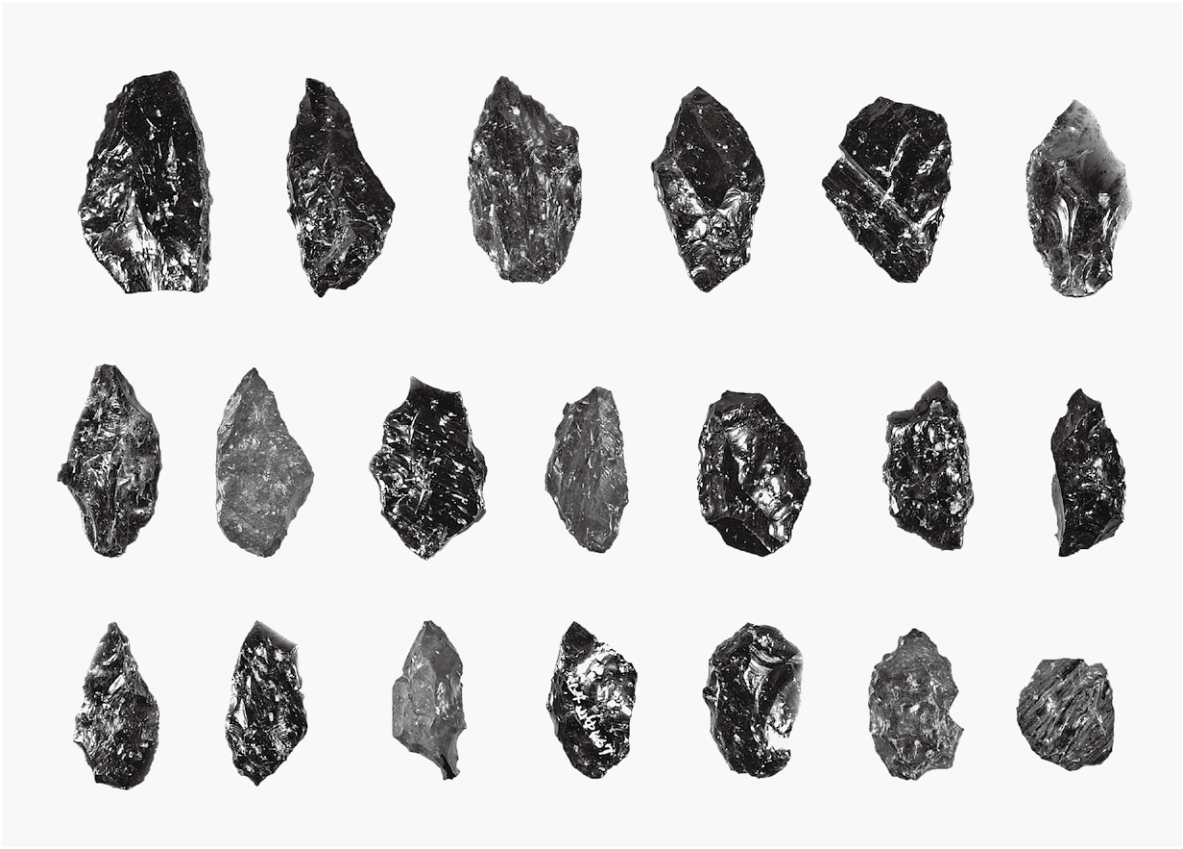


1．第19次調査旧石器時代
遺物出土状態（３）

2．第19次調査旧石器時代
遺物出土状態（４）

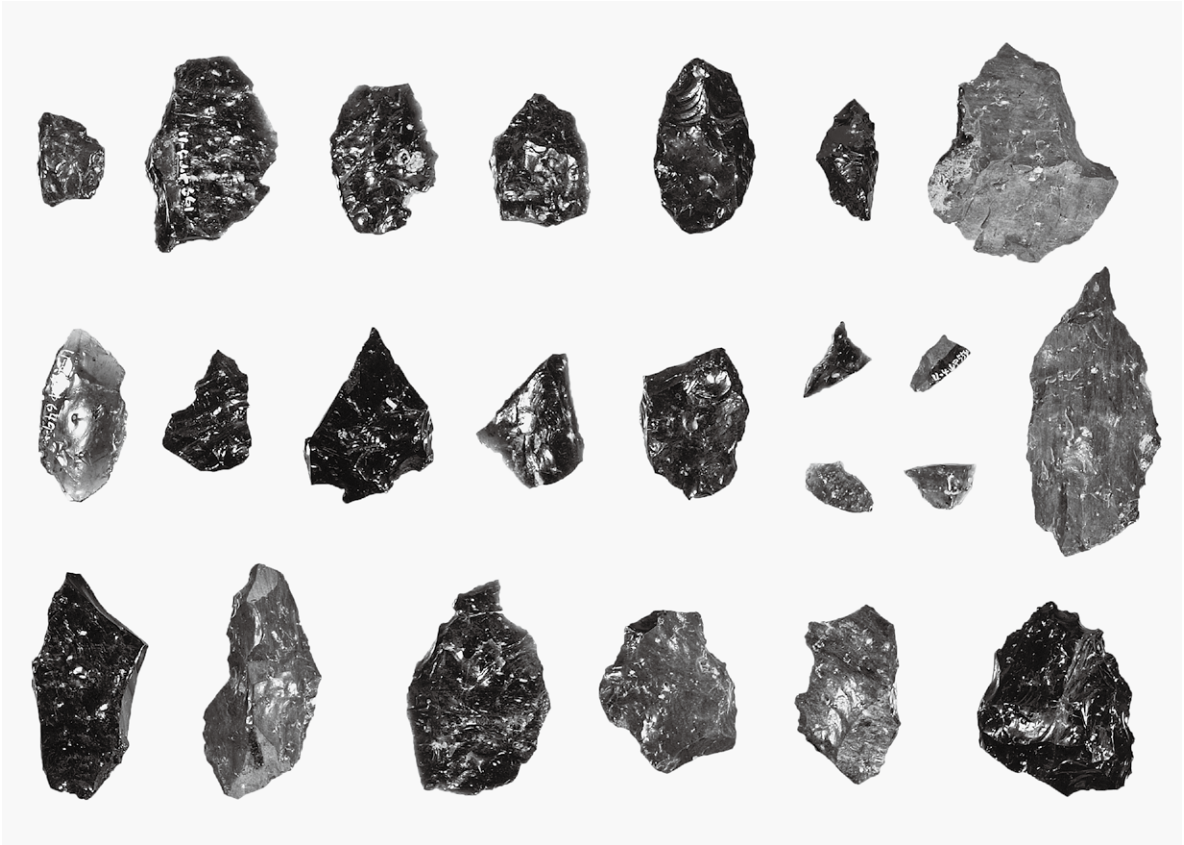


3．第19次調査完掘全景(北から)



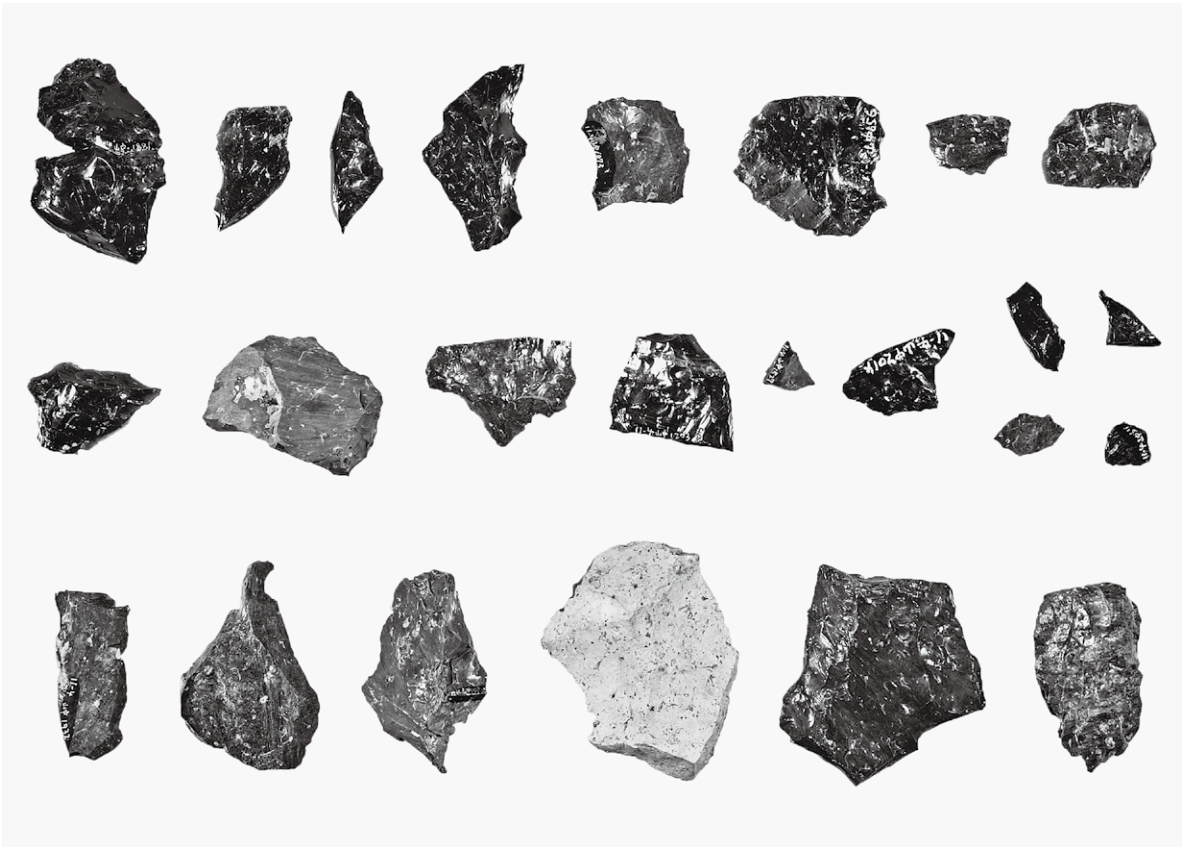
1．No.1～20（ナイフ形石器）

2．No.21～45（ナイフ形石器）



1．No.46～68（ナイフ形石器・未製品）

2．No.69～79（尖頭器・掻器・削器・彫器ほか）

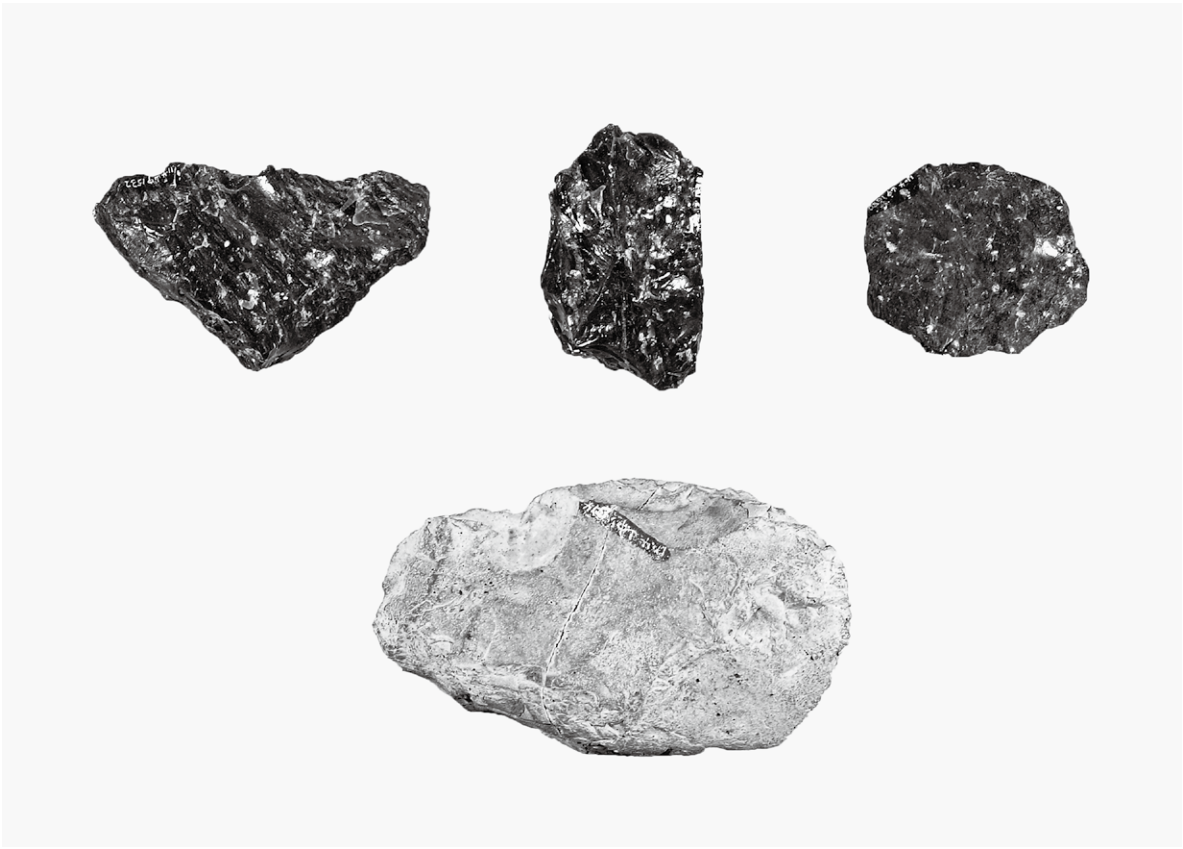


1．No.80～103（加工痕・使用痕のある剥片）

2．No.104～124（使用痕のある剥片）

1．No.125～147（使用痕のある剥片）

2．No.148～168（石刃・折石刃・石核ほか）

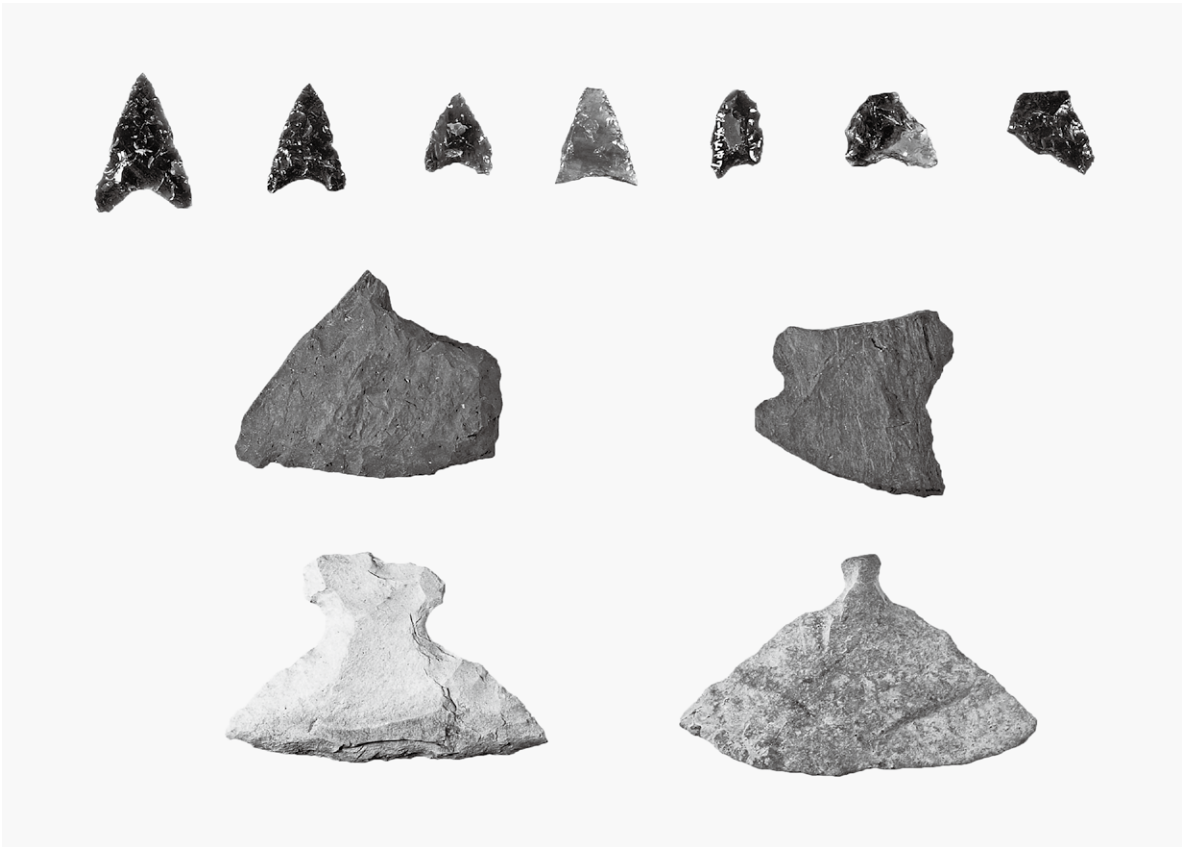


1．No.169～172（石核）

2．No.173～183（接合資料）

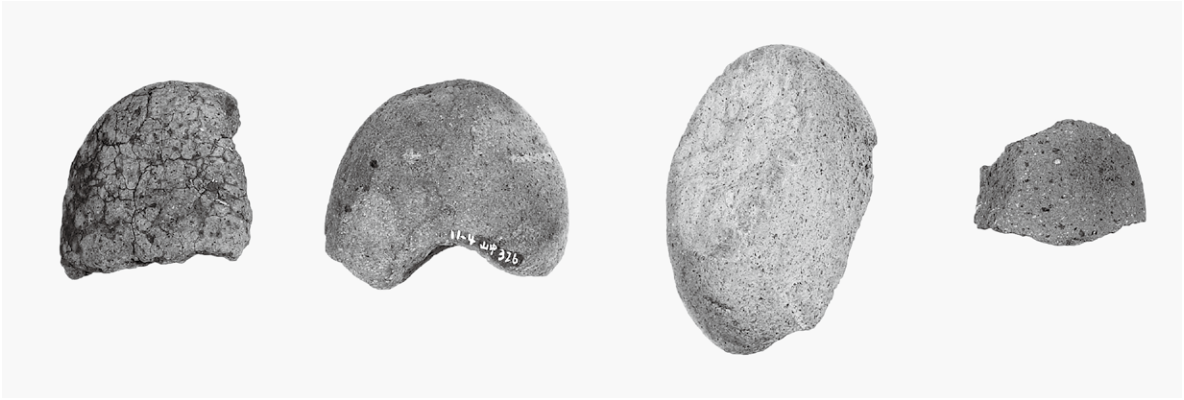
1．縄文土器No.1～23

2．縄文土器No.24～32



1．縄文石器No.1～11（石鏃・石匙）

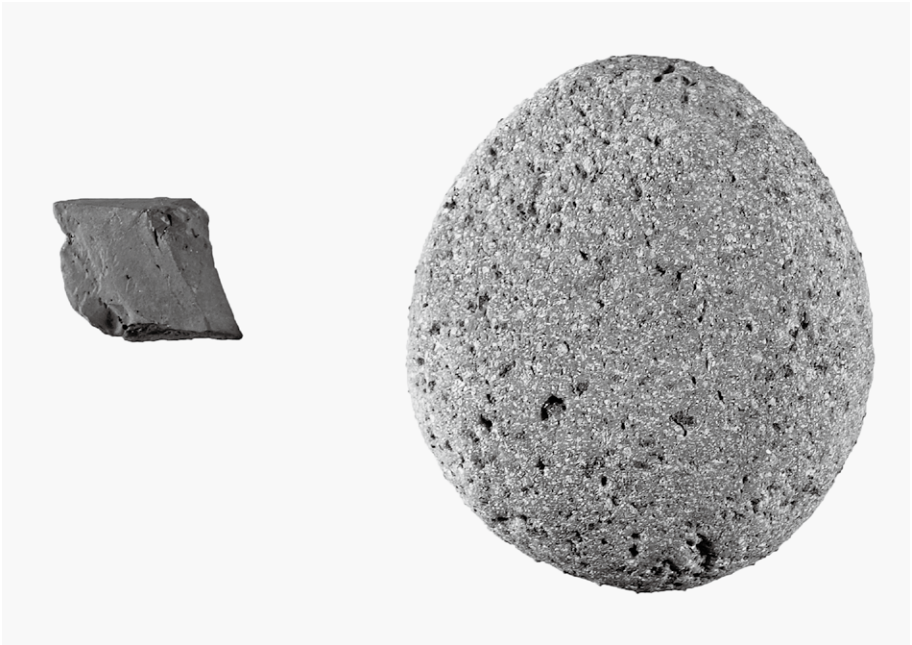
2．縄文石器No.12～22（スクレイパー・加工痕のある剥片・石核ほか）



1．縄文石器No.23～26（磨石）

2．縄文石器No.27（石皿）

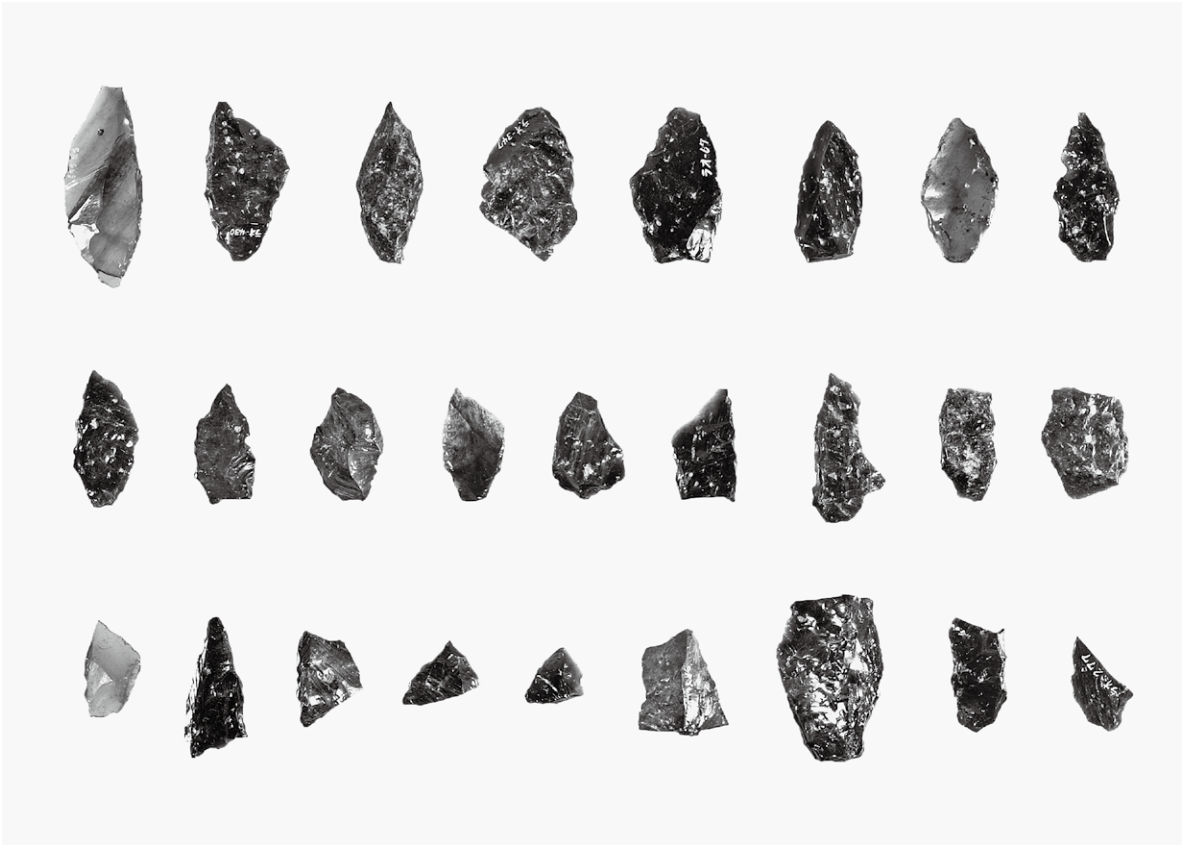
1．縄文土器No.1～7



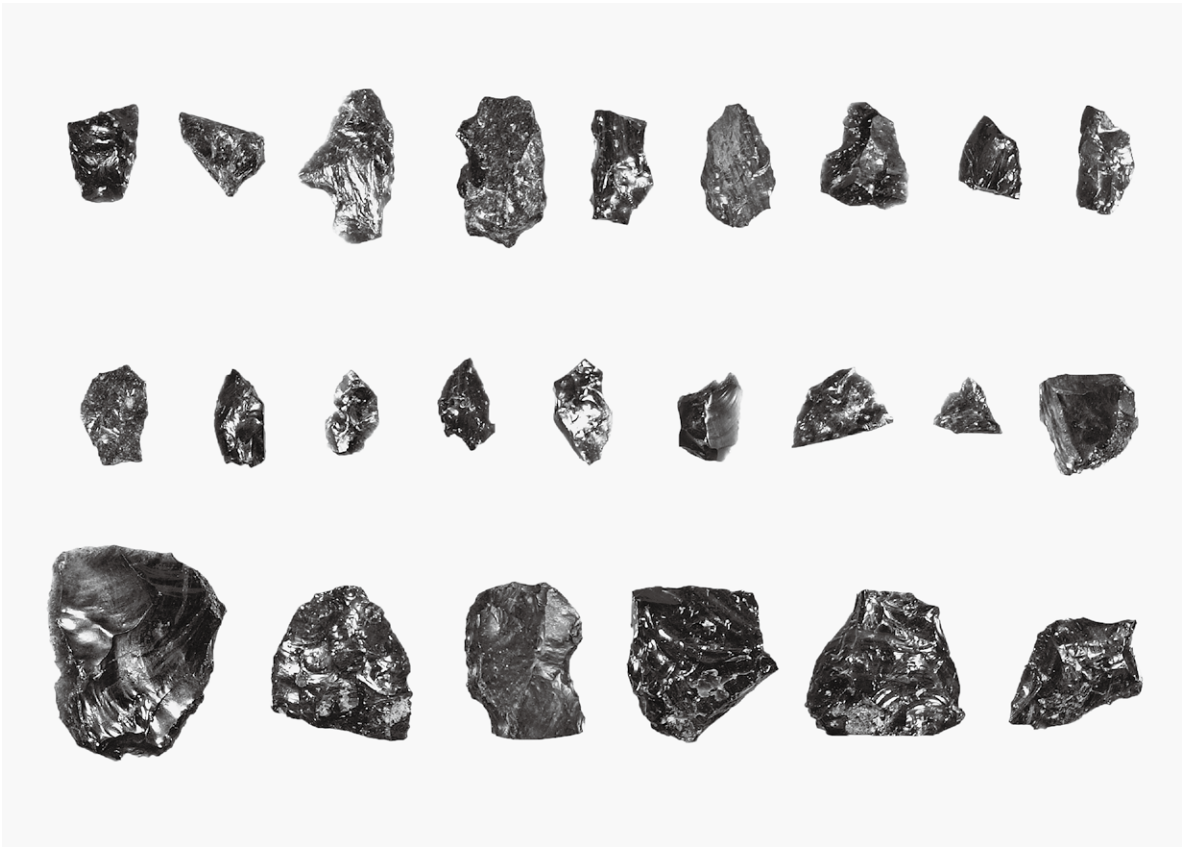
2．縄文石器No.1・2（使用痕のある剥片・磨石）

2．江戸時代以降No.1（銭貨）

1．第Ⅰ文化層No.1～6（細石刃・使用痕のある剥片・剥片）



2．第Ⅱ文化層No.1～26（ナイフ形石器）

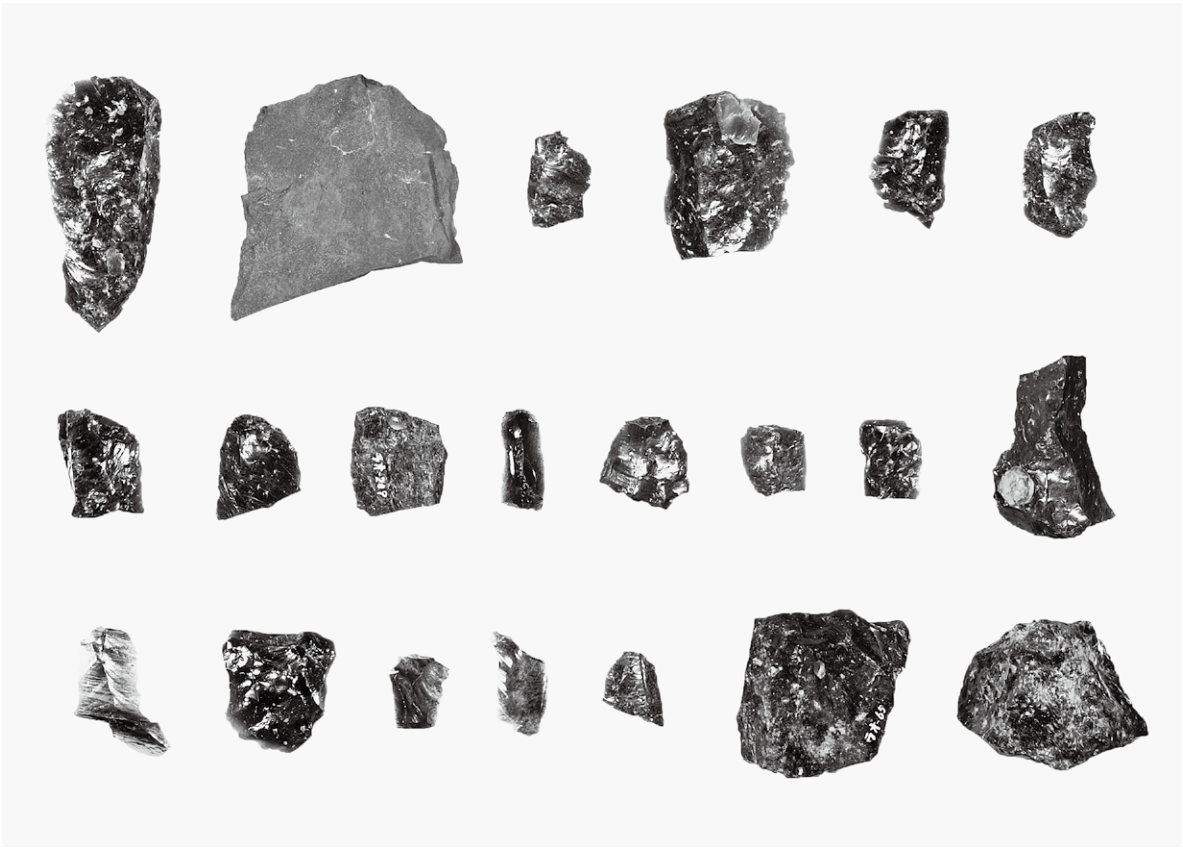


1．第Ⅱ文化層No.27～50（ナイフ形石器・掻器・削器・加工痕のある剥片ほか）

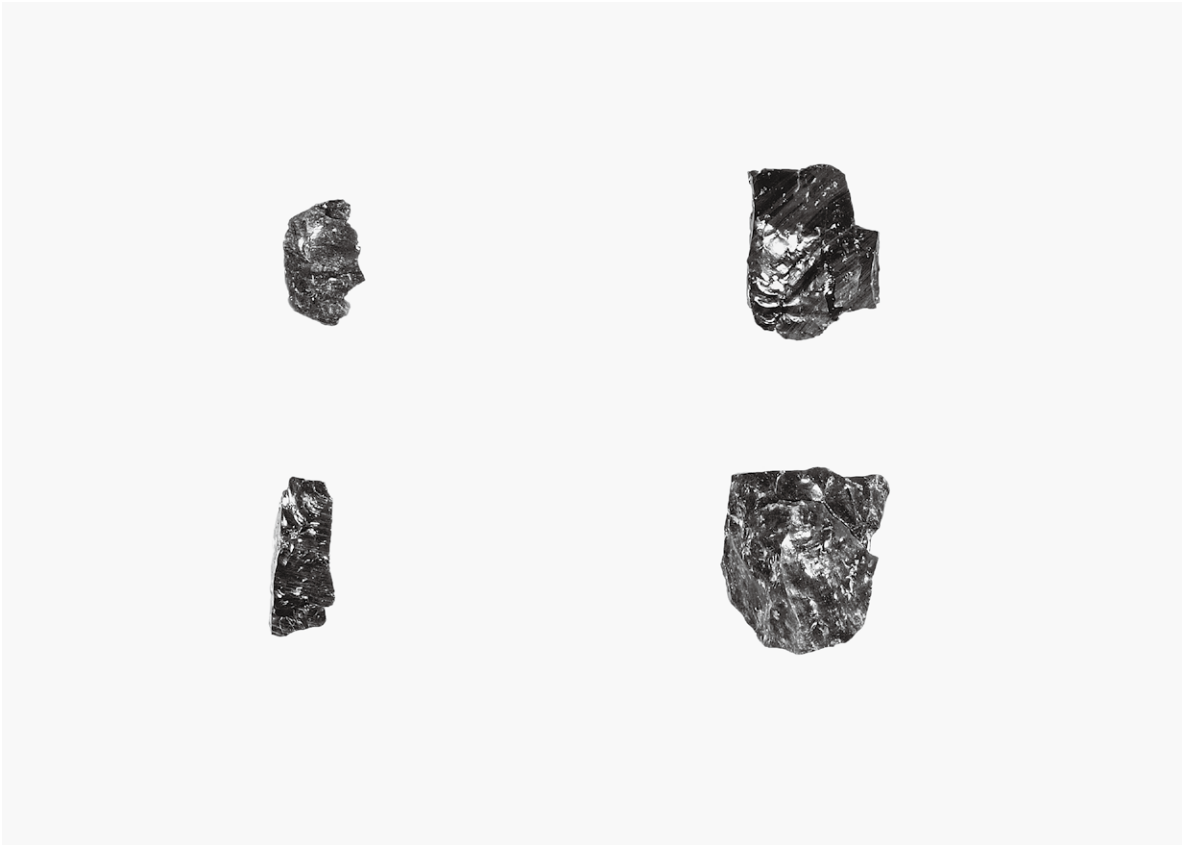
2．第Ⅱ文化層No.51～61（加工痕・使用痕のある剥片）

1．第Ⅱ文化層No.62～82（使用痕のある剥片）

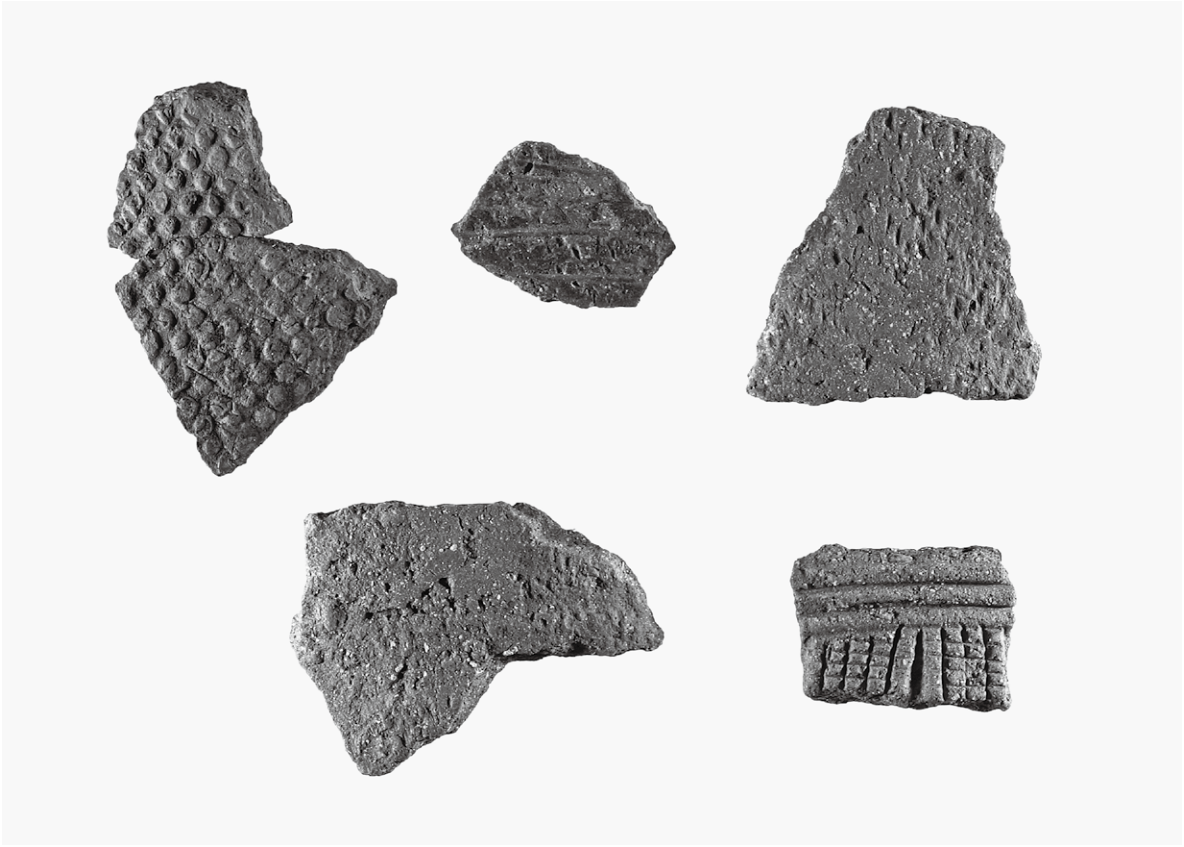
2．第Ⅱ文化層No.83～94（石刃）



1．第Ⅱ文化層No.95～115（折石刃・石核）

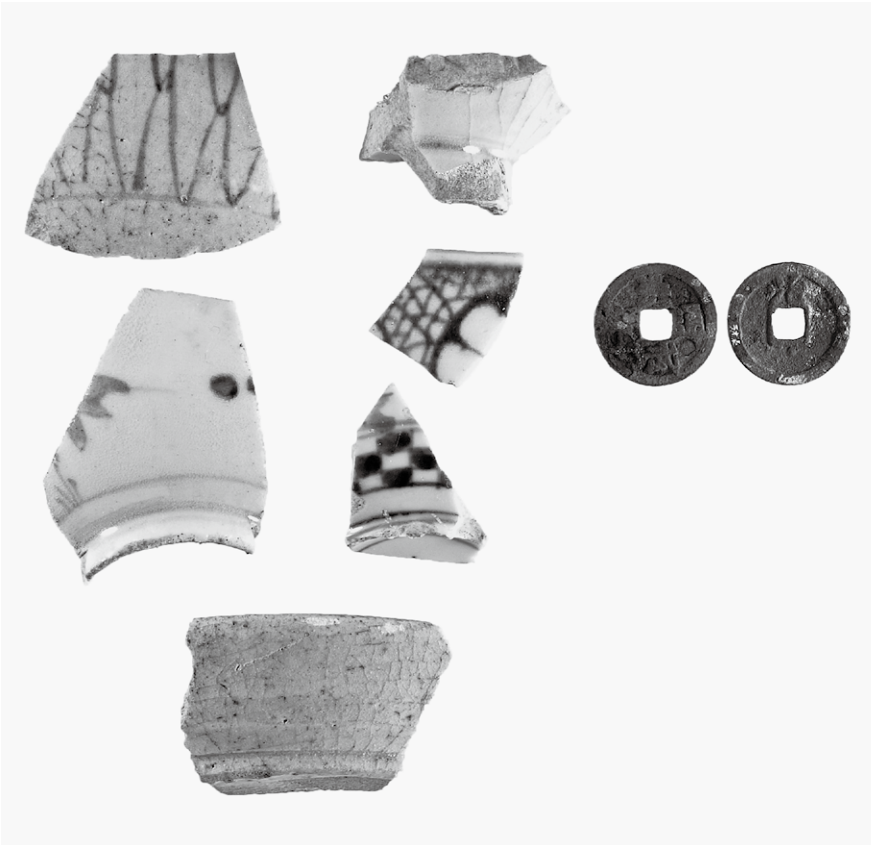


2．第Ⅱ文化層No.116～121（接合資料）



1．縄文土器No.1 ～ 5

2．縄文石器No.1（石鏃）



2．江戸時代以降No.1 ～ 7

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | やまなかじょういせき |
| 書名 | 山中城遺跡 |
| 副書名 | 笹原山中バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（その２） |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 辻　真人、伊藤恒彦、麻生順司、小池　聡 |
| 編集機関 | 三島市教育委員会 |
| 所在地 | 〒441-0035　静岡県三島市大宮町1-8-38　　TEL　055-983-2672 |
| 発行年月日 | 西　暦　2014年３月25日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| やまなかじょういせき<br>山中城遺跡<br>だいじちょうさ<br>第28次調査 | しずおかけんみしまし<br>静岡県三島市<br>やまなかしんでんあざほうじょう<br>山中新田字北条<br>やまほか<br>山他 | 222-062 | 243 | 35°<br>15′<br>70″ | 138°<br>99′<br>14″ | 20041116<br>～<br>20050307 | 960<br>(2,610) | 一般国道１号笹原山中バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査 |
| やまなかじょういせき<br>山中城遺跡<br>だいじちょうさ<br>第30次調査 | しずおかけんみしまし<br>静岡県三島市<br>やまなかしんでんちさき<br>山中新田地先 | 222-062 | 243 | 35°<br>15′<br>75″ | 138°<br>99′<br>27″ | 20051028<br>～<br>20051122 | 225<br>(3,330) | |
| やまなかじょういせき<br>山中城遺跡<br>だいじちょうさ<br>第19次調査 | しずおかけんみしまし<br>静岡県三島市<br>やまなかしんでんちさき<br>山中新田地先 | 222-062 | 243 | 35°<br>15′<br>82″ | 138°<br>99′<br>44″ | 19931012<br>～<br>19940325<br>19941206<br>～<br>19950208 | 1,885 | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 山中城遺跡<br>第28次調査 | 集落 | 旧石器時代 | 文化層　1　枚<br>ブロック　10ヵ所<br>礫群　6　基 | 石器　1,484点<br>礫　39点 | |
| | 集落 | 縄文時代 | 集石　3　基 | 縄文時代前期土器<br>石器・礫 | |
| 山中城遺跡<br>第30次調査 | 集落 | 縄文時代 | 集石　1　基<br>陥穴状土抗　1　基 | 縄文時代早期～前期土器<br>石器・礫 | |
| 山中城遺跡<br>第19次調査 | 集落 | 旧石器時代 | 文化層　2　枚<br>ブロック　13ヵ所 | 石器　725点<br>礫　7点 | |
| | 散布地 | 縄文時代 | | 土器・石器・礫 | |
| | 城館跡 | 中世～近世 | 盛土遺構　1ヵ所<br>土坑　1　基 | 陶磁器・銭貨 | |


要約

第28次調査－箱根畑宿産黒曜石を多用するナイフ形石器石器群の終末期に位置づけられ、尖頭器を組成するが安定的でなく、剥片剥離技術が簡単な縦長剥片剥離技術と横長剥片や寸づまりの剥片を剥離する技術的特徴を持つナイフ形石器石器群。愛鷹･箱根山麓旧石器時代編年第４期ｃ段階に相当する。

第30次調査－縄文時代早期陥し穴状土坑１基と集石１基、縄文時代早期～前期土器少量出土。

第19次調査第Ⅰ文化層－細石刃石核を持たない少量の細石刃石器群。愛鷹･箱根山麓旧石器時代編年第５期。

第Ⅱ文化層－箱根畑宿産黒曜石を多用するナイフ形石器石器群の終末期に位置づけられるが、尖頭器を組成せず、剥片剥離技術が簡単な縦長剥片剥離技術と横長剥片や寸づまりの剥片を剥離する技術的特徴を持つナイフ形石器石器群。愛鷹･箱根山麓旧石器時代編年第４期ｃ段階に相当する。



静岡県三島市

# 山 中 城 遺 跡

笹原山中バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（その２）

発行日　2014年３月25日
編　著　三島市教育委員会
発　行　三島市教育委員会
印　刷　文光堂印刷株式会社